



Tokushima University

ラーニングライフ

第5回学生の学修に関する実態調査報告書



令和2年3月
徳島大学

ま え が き

ラーニングライフ第5回学生の学修に関する実態調査報告書一をお届けします。本学では長い間、「学生生活に関する実態調査」をほぼ2年毎に行い、キャンパスライフとして学生の生活全般にわたる状況を報告してきました。これに加えて、「学生の学習に関する実態調査」（平成28年度実施分からは「学生の学修に関する実態調査」と名称変更）が12年前から開始され、今年度5回目を実施し、その結果がまとまりましたので報告します。なお、今回の実施から、実施形態を見直し、大学IRコンソーシアムの学生調査と合同する形で、1年生と3年生を対象とし、今後は毎年実施することとしました。

本報告書には、学生自身のこと・全般的な学修状況・英語の学修状況・大学生活に対する考えや満足度・入学前について(1年生)・将来について(3年生)、全部で142の質問により調査されたアンケート結果をまとめています。次にその結果の分析から得られた各学部の現状と課題並びに提言を報告しています。学部のみならず、学科やコース等のオリエンテーション時にこのデータをご活用いただけると幸いです。

社会から求められる人材が高度化・多様化する中、大学は教育の質を向上させるための改革に取り組む必要があります。本学では、平成30年度に、3つの方針（特にDPとCP）に基づく教学マネジメントを確立するため、「徳島大学における教育の内部質保証に関する方針」を策定し、学位プログラムの評価・改善を行っている所です。今後、入学前から就職に至るまで一貫した教育・学生支援の充実・強化を図るため、学修成果の可視化を検証し、教育の質保証、学生支援等にPDCAを循環させ、学修成果の更なる向上に結びつける必要があります。そのために、学生からの声を聴く、本調査は重要であり、今後、組織としての教育機能強化を進める上で、今回の実態調査に示されている学生の声を十分に点検・評価し、教育改革等を進め、その成果を学生に届けたいと考えております。今後とも、教職員の皆様のご協力をお願いします。

最後になりましたが、「学生の学修に関する実態調査（ラーニングライフ）」を実施するにあたり、教育の質に関する専門委員会の先生方、高等教育研究センター教育改革推進部門の先生方および学務部職員の方々には、この調査に関してアンケート項目の設定から、調査の実施、集計、結果の分析まで、ご多忙の中すべての事項について精力的に遂行していただき、早期に報告書を作成していただきました。佐藤裕教育の質に関する専門委員会委員長をはじめとする皆さんに心から敬意を表すとともに深く感謝いたします。また、調査にご協力いただいた学生の皆さんにもこの場を借りて感謝いたします。

令和2年3月

徳島大学理事（教育担当）
大学教育委員会委員長

高 石 喜 久

目 次

まえがき	1
序 章 学生の学修に関する実態調査の概要	
1 調査の目的	3
2 調査の組織	3
3 調査の対象及び方法	3
4 調査の時期	3
5 調査の内容	3
6 調査票の回収状況	4
7 図中の%表示	4
第1章 設問・調査結果	
1 1年生調査 設問	6
2 1年生調査 結果	19
3 3年生調査 設問	105
4 3年生調査 結果	118
第2章 学部等の現状と課題	
1 総合科学部	205
2 医学部医学科	206
3 医学部医科栄養学科	207
4 医学部保健学科	208
5 歯学部	210
6 薬学部	214
7 理工学部	217
8 生物資源産業学部	217
9 教養教育	218
10 F D (Faculty Development) の観点から	219
11 e ラーニング	221
12 附属図書館	223
第3章 まとめと提言	224

序章 学生の学修に関する実態調査の概要

1. 調査の目的

学生の学修意識や学修に関する実態を把握し、今後の教育改革並びに修学指導に資する基礎資料を得ることを目的とする。

2. 調査の組織

教育の質に関する専門委員会委員の次の委員及び高等教育研究センター教育改革推進部門が中心となり調査を実施し、分析作業を行った。また、「第2章 学部等の現状と課題」の執筆については、附属図書館依岡隆児館長及び高等教育研究センター学修支援部門 EdTech 推進班金西計英班長に協力を得た。

区 分	氏 名	部 局	職 名
委員長	佐 藤 裕	総合科学部	教 授
委 員	西 村 明 儒	医学部	教 授
委 員	馬 場 麻 人	歯学部	教 授
委 員	藤 野 裕 道	薬学部	教 授
委 員	岡 村 英 一	理工学部・工学部	教 授
委 員	浜 野 龍 夫	生物資源産業学部	教 授
委 員	齊 藤 隆 仁	教養教育院	教 授
委 員	川 野 卓 二	高等教育研究センター	教 授
委 員	上 田 哲 史	情報センター	教 授
委 員	濱 田 康 弘	医学部	教 授
委 員	吉 永 哲 哉	医学部	教 授
	吉 田 博	高等教育研究センター	講 師

3. 調査の対象及び方法

この調査は、本学に在学する1年生（1,360人）及び3年生（1,401人）（令和元年10月1日に在籍するもの）を調査対象とした。

調査方法は、各学部の学務（教務）係及び教育の質に関する専門委員会委員の協力を得て調査票を配布し、教務システム上（Web）で実施した。

4. 調査の時期

この調査は、令和元年10月1日から11月30日まで実施し、10月1日現在の実状について回答を依頼した。

5. 調査の内容

調査項目は、学生の学修意識や学修に関する実態を把握する目的に基づき、IRコンソーシアムの学生調査項目及び「教育の質に関する専門委員会」委員・高等教育研究センター教育改革推進部門が作成した、全142項目とした。

6. 調査票の回収状況

調査票の回収状況は、調査対象者1年生1,360人及び3年生1,401人のうち回答数は、1年生909人及び3年生968人で、回収率は1年生66.8%及び3年生69.1%であった。学部・学科別の回収状況は次表のとおりである。

7. 図中の%表示

複数回答可の設問については、グラフ中に回答者数における回答数の割合を表示した。択一の設問については、端数処理の関係で合計が100%にならない場合がある。

令和元年度 学生の学修に関する実態調査回収率

1年生

学部・学科・コース・専攻	回答数	学生数	回収率
総合科学部	113	185	61.1%
医学部医学科	95	124	76.6%
医学部医科栄養学科	47	51	92.2%
医学部保健学科（看護）	61	76	80.3%
医学部保健学科（放射）	37	38	97.4%
医学部保健学科（検査）	15	16	93.8%
歯学部歯学科	13	43	30.2%
歯学部口腔保健学科	15	15	100.0%
薬学部薬学科	36	43	83.7%
薬学部創製薬科学科	31	45	68.9%
工学部理工学科（社会基盤）	44	97	45.4%
工学部理工学科（機械科学）	112	120	93.3%
工学部理工学科（応用化学）	47	77	61.0%
工学部理工学科（電気電子）	60	110	54.5%
工学部理工学科（情報光）	120	148	81.1%
工学部理工学科（応用理数）	21	67	31.3%
生物資源産業学部	42	105	40.0%
合計	909	1360	66.8%

3年生

学部・学科・コース・専攻	回答数	学生数	回収率
総合科学部	112	191	58.6%
医学部医学科	101	122	82.8%
医学部医科栄養学科	39	51	76.5%
医学部保健学科（看護）	59	66	89.4%
医学部保健学科（放射）	37	37	100.0%
医学部保健学科（検査）	18	18	100.0%
歯学部歯学科	38	38	100.0%
歯学部口腔保健学科	15	15	100.0%
薬学部薬学科	40	41	97.6%
薬学部創製薬科学科	40	41	97.6%
工学部理工学科（社会基盤）	65	112	58.0%
工学部理工学科（機械科学）	109	138	79.0%
工学部理工学科（応用化学）	60	93	64.5%
工学部理工学科（電気電子）	84	116	72.4%
工学部理工学科（情報光）	91	160	56.9%
工学部理工学科（応用理数）	19	59	32.2%
生物資源産業学部	41	103	39.8%
合計	968	1401	69.1%

※理工学部の学生数には、夜間主及び工学部の学生数も含まれています。

1年生調査 設問

I. 最初にあなたご自身のことについておうかがいします。

〔1〕徳島大学学習に関する実態調査（大学 IR コンソーシアム調査）の主旨を確認し、データ利用について同意してください。

1. 同意する

※徳島大学学習に関する実態調査の主旨

「徳島大学学習に関する実態調査」は、学生の学習の実態を把握し、教育活動の効果を検証し、今後の改善に活かすために実施します。調査データは統計的に処理され、成績等のデータとともに分析を行うことがあります。個人を特定したり、成績に影響させることはありません。ただし、回答率が低い場合は、回答を促す連絡を個人にする場合があります。

また、複数の大学の状況と比較するために、調査データを本学が加盟している大学 IR コンソーシアムの学生調査にも使用し、他の加盟校（約 50 校）と集計結果を共有しますが、その場合も個人を特定したり、成績に影響させることはありません。

〔2〕あなたの片道の通学時間はどれくらいですか。

- | | |
|-------------------|-------------------|
| 1. 30分未満 | 2. 30分以上－1時間未満 |
| 3. 1時間以上－1時間30分未満 | 4. 1時間30分以上－2時間未満 |
| 5. 2時間以上 | |

〔3〕あなたの現在の居住形態は次のうちどれですか。

- | | |
|-------------------|------------------------|
| 1. 家族または親戚と暮らしている | 2. アパート・学生マンションでひとり暮らし |
| 3. 大学寮や合宿所 | 4. その他 |

II. 大学に入学してからのあなたの学習状況についておうかがいします。

あなたが受講した大学の授業で、次のようなことを経験する機会はどのくらいありましたか。

	ひんぱんにあった	ときどきあった	あまりなかった	まったくなかった
〔4〕 実験、実習、フィールドワークなどを実施し、学生が体験的に学ぶ	4	3	2	1
〔5〕 仕事に役立つ知識やスキルを学ぶ	4	3	2	1
〔6〕 授業内容と社会や日常生活のかかわりについて、教員が説明する	4	3	2	1
〔7〕 授業の一環でボランティア活動をする	4	3	2	1
〔8〕 学生自身が文献や資料を調べる	4	3	2	1
〔9〕 定期的に小テストやレポートが課される	4	3	2	1

1年生調査

[10]	教員が提出物に添削やコメントをつけて返却する	4	3	2	1
[11]	学生が自分の考えや研究を発表する	4	3	2	1
[12]	授業中に学生同士が議論をする	4	3	2	1
[13]	授業で検討するテーマを学生が設定する	4	3	2	1
[14]	授業の進め方に学生の意見が取り入れられる	4	3	2	1
[15]	取りたい授業を履修登録できなかった	4	3	2	1
[16]	出席することが重視される	4	3	2	1
[17]	TA や SA などの授業補助者から補助を受ける	4	3	2	1

[18] 授業内容を理解できる科目の割合はどれくらいですか。

1. 80%以上 2. 70%以上 3. 60%以上 4. 60%未満

[19] あなたにとってどの方法が授業内容の理解の促進につながりましたか。(複数回答可)

1. 課題演習 2. 質疑応答 3. 振り返り※1 4. グループワーク
5. ディスカッション 6. 反転授業※2 7. ラーニング・ポートフォリオ※3

※1 学んだことについてまとめ、その内容を学生同士あるいは教員が確認しフィードバックを行う方法

※2 授業を受講する前に講義や説明の部分を事前に配付資料や動画で学修し、その内容に関する確認課題(簡単な復習テスト等)を行い、対面の授業時間内では講義以外の授業方法を取り入れて、学生の能動的な学修を促進する方法

※3 授業のある単元が終了した後で、学生が学修(実験、実習、演習等)に関する振り返りを行い、その内容を記述し、他者と共有できる形で蓄積し、フィードバックを受けることができるシステムまたは教材等を取り入れた方法

大学の授業や授業以外の学習に関して、あなたは次のようなことをどのくらい経験しましたか。

	ひんばんにした	ときどきした	あまりしなかった	まったくしなかった	
[20]	授業課題のために図書館の資料を利用した	4	3	2	1
[21]	授業課題のために Web 上の情報を利用した	4	3	2	1
[22]	インターネットを使って授業課題を受けたり、提出したりした	4	3	2	1
[23]	提出期限までに授業課題を完成できなかった	4	3	2	1
[24]	授業時間外に、他の学生と一緒に勉強したり、授業内容を話したりした	4	3	2	1
[25]	授業中、教員の考え方や意見に異議を唱えた	4	3	2	1
[26]	授業を欠席した	4	3	2	1
[27]	授業に遅刻した	4	3	2	1

1年生調査

[28]	授業をつまらなく感じた	4	3	2	1
[29]	授業中に居眠りをした	4	3	2	1
[30]	教職員に学習に関する相談をしたり、学内の学習支援室を利用したりした	4	3	2	1
[31]	単位とは関係のない教員あるいは学生による自主的な勉強会に参加した	4	3	2	1
[32]	大学の教職員に将来のキャリアの相談をした（卒業後の進路や職業選択など）	4	3	2	1
[33]	教員に親近感を感じた	4	3	2	1

入学以来、あなたは次の活動に1週間あたりどのくらいの時間を費やしましたか。

	全然ない	1時間未満	1～2時間	3～5時間	6～10時間	11～15時間	16～20時間	20時間以上	
[34]	授業や実験に出る	1	2	3	4	5	6	7	8
[35]	授業時間外に、授業課題や準備学習、復習をする	1	2	3	4	5	6	7	8
[36]	授業時間外に、授業に関連しない勉強をする	1	2	3	4	5	6	7	8
[37]	オフィスアワーなど、授業時間外に教員と面談する	1	2	3	4	5	6	7	8
[38]	部活動や同好会に参加する	1	2	3	4	5	6	7	8
[39]	大学外でアルバイトや仕事をする	1	2	3	4	5	6	7	8
[40]	読書をする（マンガ・雑誌を除く）	1	2	3	4	5	6	7	8
[41]	個人的な趣味活動をする（テレビやゲーム、映画鑑賞など）	1	2	3	4	5	6	7	8

入学した時点と比べて、あなたの能力や知識はどのように変化しましたか。

	大きく増えた	増えた	変化なし	減った	大きく減った	
[42]	一般的な教養	5	4	3	2	1
[43]	分析力や問題解決能力	5	4	3	2	1
[44]	専門分野や学科の知識	5	4	3	2	1
[45]	批判的に考える能力	5	4	3	2	1
[46]	異文化の人々に関する知識	5	4	3	2	1
[47]	リーダーシップの能力	5	4	3	2	1
[48]	人間関係を構築する能力	5	4	3	2	1
[49]	他の人と協力して物事を遂行する能力	5	4	3	2	1
[50]	異文化の人々と協力する能力	5	4	3	2	1

[51]	地域社会が直面する問題を理解する能力	5	4	3	2	1
[52]	国民が直面する問題を理解する能力	5	4	3	2	1
[53]	文章表現の能力	5	4	3	2	1
[54]	外国語の運用能力	5	4	3	2	1
[55]	コミュニケーションの能力	5	4	3	2	1
[56]	プレゼンテーションの能力	5	4	3	2	1
[57]	数理的な能力	5	4	3	2	1
[58]	コンピュータの操作能力	5	4	3	2	1
[59]	時間を効果的に利用する能力	5	4	3	2	1
[60]	グローバルな問題の理解	5	4	3	2	1
[61]	卒業後に就職するための準備の度合い	5	4	3	2	1

[62] 大学における教育に対して、何を期待しますか。(複数回答可)

1. 社会に出た時に役に立つ知識・技術・技能
2. 人生を支える幅広い教養
3. 資格取得に必要な知識あるいはその受験に必要な単位
4. 特に期待するものはない

[63] 大学の教育によって獲得が期待できる知識・能力を3つ選んでください。

1. 一般知識・教養
2. 専門的知識
3. 課題発見・解決力
4. チームで目標を達成するマネジメント能力
5. コミュニケーション能力
6. 討論する能力
7. 語学力
8. 情報機器を活用する力
9. 論理的な文章を書く能力

[64] 徳島大学では「GPA（自分が履修したすべての授業科目の成績評価の平均値）」を成績表に記載しています。自身の「GPA」について確認していますか。

1. 確認している
2. 確認していない

[65] レポートや宿題で、調べものをするときの情報源は何ですか。(複数回答可)

1. 教科書・参考書・授業での配付資料
2. インターネット
3. 教員
4. 友人・先輩
5. 図書館の書籍・文献(電子版含む)
6. 講義ノート

[66] 教科書を購入していない場合の理由は何ですか。(複数回答可)

1. 必要な教科書は全て購入している
2. 教科書がなくても授業内容が理解できる
3. 教科書が高価である
4. 先輩、友人の本を使う
5. 図書館などの本を利用する
6. 購入しても、読まない。内容が理解できない
7. 講義資料・試験対策プリントで学修する

[67] 大学の授業以外に、自分自身のための学修として、実行や計画していることはありますか。(複数回答可)

1. 大学の授業以外で、実行や計画していることはない
2. 教養や社会問題の理解に役立つ読書
3. 語学など自分の将来を考えたスキルの修得
4. 数学や理科のような基礎的能力を強化するための学修
5. 自分の興味あるテーマの探究
6. 資格取得や受験に備えた学修
7. 卒業研究につながる実験・調査・研究レビュー等

[68] 高校で履修していない数学、物理、化学、生物について、大学入学後どのように勉強しましたか。(複数回答可)

1. 高校の教科書、参考書を使い、勉強した
2. 教養教育で開講されている高大接続科目や自然科学入門又はその他の科目を受講した
3. HP上の徳島大学LMS(リメディアル教材)を利用して勉強した
4. 勉強の必要性を感じたが、LMS(リメディアル教材)の存在を知らず何もしていない
5. 支障を感じないので何もしていない

III. 続けて、英語の学習状況についておうかがいします。

あなたの英語能力を聞く力、読む力、会話力、表現力、書く力の5つの観点から自己評価した場合に、「①入学時」と「②現在」それぞれについて、到達していると思うレベルを、1つ答えてください。

[69] 聞く力

		①入学時	②現在
レベル 低  高	A1	はつきりと、ゆっくり話してもらえれば、聞き慣れた語やごく基本的な表現を聞き取れる。	1
	A2	最も頻繁に使われる語彙や表現を理解することができる。	2
	B1	身近な話題について、明瞭で標準的な話し方の会話なら要点を理解することができる。	3
	B2	テレビのニュースや時事問題、標準語の映画ならほとんど理解できる。	4
	C1	特別な努力なしにテレビ番組や映画を理解できる。	5
	C2	母語話者の速いスピードで話されても、どんな種類の話し言葉も難無く理解できる。	6

[70] 読む力

		①入学時	②現在
レベル 低  高	A1	掲示やポスター、カタログなどの中によく知っている名前、単語、単純な文を理解できる。	1
	A2	ごく短い簡単な文章や、簡単で短い個人的な手紙は理解できる。	2
	B1	日常語や、自分の知っている分野の文章なら理解できる。簡単で個人的な手紙を理解できる。	3
	B2	現代の問題についての記事や報告が読める。現代文学の散文は読める。	4
	C1	複雑な文章を理解できる。自分の関連外の分野の専門的記事も理解できる。	5
	C2	抽象的で複雑な文章など、あらゆる形式で書かれた言葉を容易に読むことができる。	6

〔71〕 会話力



		①入学時	②現在
		↓	↓
A1.1	決まった言い回しを使って自己紹介をしたり、相手の趣味を尋ねたりできる。	1	1
A1.2	家族や身の回りのことについて、簡単な質問なら聞いたり答えたりできる。	2	2
A2.1	短い社交的なやり取りができる。ひとりで会話を続けにくい、相手の助け舟で、身近な話題について話し続けられる。	3	3
A2.2	準備をすれば、日常的でなじみのある話題について、簡単な言葉を使ってまとまりのある会話ができる。	4	4
B1	日常生活に直接関係のあることや個人的な関心について、準備なしで会話ができる。	5	5
B2	身近な話題の議論に積極的に参加し、自分の意見を説明できる。	6	6
C1	社会上、目的・場面に合った言葉遣いができ、自分の考えや意見を正確に表現できる。	7	7
C2	いかなる会話や議論でも努力しないで加わることができる。	8	8

〔72〕 表現力



		①入学時	②現在
		↓	↓
A1	住んでいるところ、また、知っている人たちについて、簡単な語句や文を使って表現できる。	1	1
A2	家族、周囲の人々、居住条件を簡単な言葉で説明できる。	2	2
B1	簡単な方法で語句をつないで、自分の経験や出来事、夢や希望、目標を語るができる。	3	3
B2	興味関心のある話題について、明瞭で詳細な説明ができる。	4	4
C1	複雑な話題を、一定の観点を展開しながら、適切な結論でまとめ上げることができる。	5	5
C2	論理的な会話で聞き手に重要点を把握させ、記憶にとめさせることができる。	6	6

〔73〕 書く力



		①入学時	②現在
		↓	↓
A1	お祝いのメッセージなど、短い簡単な葉書を書くことができる。	1	1
A2	簡単に短いメモやメッセージ、短い個人的な手紙なら書くことができる。	2	2
B1	身近で個人的に関心のある話題を書くことができる。個人的な手紙で経験や印象を書くことができる。	3	3
B2	興味関心のある話題について、明瞭で詳細な説明文を書くことができる。	4	4
C1	手紙やエッセイ、レポートで複雑な主題を扱うことができる。	5	5
C2	論理的に事情を説明し、複雑な内容の手紙、レポート、記事を書くことができる。	6	6

〔74〕 どのように、英語の勉強を行っていますか。(複数回答可)

1. 毎日または定期的にテレビ、ラジオの英語教育番組を利用して勉強している
2. 英会話スクールに行ったことがある。または現在通っている
3. 図書館または大学の英語教材、施設を利用して定期的に英語を勉強している
4. TOEIC, TOEFLや英検などの参考書、問題集を購入して定期的に勉強している
5. TOEIC, TOEFLや英検などの英語能力試験を定期的に受験している
6. 授業で使用している教科書、英語論文をよく勉強している
7. 留学生と交流している

1年生調査

[75] アメリカ、カナダ、イギリス、オーストラリア、ニュージーランドやこれらの国以外（インド、シンガポール等）などへの渡航経験（期間）についておうかがいします。英語でコミュニケーションをすることを旨とした渡航経験があれば、その期間（複数回の経験がある場合は最長のもの）について1つ選んで回答してください。

1. 渡航したことはない
2. 10日未満
3. 10日以上1ヶ月未満
4. 1ヶ月以上6ヶ月未満
5. 6ヶ月以上

[76] 徳島大学における英語教育についてどう思いますか。（複数回答可）

1. 教養教育，専門教育で行われる英語教育で十分である
2. もっと授業数を増やしてほしい
3. もっと授業数を減らしてほしい
4. もっと少人数のクラスにしてほしい
5. ネイティブスピーカーの教員による授業を増やしてほしい
6. 専門英語の時間を増やしてほしい
7. 専門英語のライティング，会話に重点を置いた授業を増やしてほしい

IV. 次に、大学生活に対するあなたの考えや満足度についておうかがいします。

本学に入学してから、あなたにとって次のことがらはどれくらいうまくいきましたか。

	とても うまく いった	い くら か う ま く い っ た	あ ま り う ま く い か な か っ た	ま っ た く う ま く い か な か っ た
[77] 大学の学生向けサービスを上手に利用する	4	3	2	1
[78] 大学教員の学問的な期待を理解する	4	3	2	1
[79] 効果的に学習する技能を修得する	4	3	2	1
[80] 大学が求める水準に応じて学習する	4	3	2	1
[81] 時間を効果的に使う	4	3	2	1
[82] 大学教員と顔見知りになる	4	3	2	1
[83] 他の学生との友情を深める	4	3	2	1

本学に入学してから、あなたにとって次のことがらはどれくらいあてはまりますか。

	非常に 思う	そう 思う	どちら でもない	あまり 思わ ない	全く 思わ ない
[84] 自分の専門分野について興味関心を持ち、意欲的に取り組んでいる	5	4	3	2	1
[85] 日常的に自身の学修内容等を振り返り、改善点を見出し向上を図っている	5	4	3	2	1
[86] 現在の自分の学修時間や学修態度に満足している	5	4	3	2	1

[87] あなたの学生生活は充実していますか。

4. 充実している 3. まあまあ充実している
2. あまり充実していない 1. 充実していない

あなたは、本学の教育内容・環境にどれくらい満足していますか。

	とても 満足	満足	どちら でもない	不満	とても 不満
[88] 共通教育あるいは教養教育の授業	5	4	3	2	1
[89] 初年次生を対象とした教育プログラム内容（フレッシュマンセミナー、基礎ゼミなど）	5	4	3	2	1
[90] 授業の全体的な質	5	4	3	2	1
[91] 日常生活と授業内容との関連	5	4	3	2	1
[92] 将来の仕事と授業内容の結びつき	5	4	3	2	1
[93] 教員と話をする機会	5	4	3	2	1
[94] 学習支援や個別の学習指導	5	4	3	2	1
[95] 他の学生と話をする機会	5	4	3	2	1
[96] 大学のなかでの学生同士の一体感	5	4	3	2	1
[97] 多様な考え方を認め合う雰囲気	5	4	3	2	1
[98] 大学での経験全般について	5	4	3	2	1
[99] 1つの授業を履修する学生数	5	4	3	2	1

[100] 教養教育科目の選択はどういう基準で行いましたか。（複数回答可）

1. 広い教養を身に付けるため 2. 専門の基礎を築くため
3. 好きな科目や面白そうな科目を選択した 4. 単位をとりやすい授業を選択した
5. 授業科目を選択する余地がなかった 6. 特に基準はない

〔101〕 教養教育科目の選択にあたって重視した情報源はなんですか。(複数回答可)

1. 「履修の手引き」やシラバスに記載された情報
2. 教員からの助言や情報
3. 事務職員からの助言や情報
4. 先輩からの助言や情報
5. 友人からの助言や情報

〔102〕 「SIH 道場」で学んだ内容のうち、役に立っている項目をすべて選択してください。(複数回答可)

1. 専門分野の体験学習
2. 文章（レポート）の書き方
3. プレゼンテーションの仕方
4. 他者と協働して学修や活動に取り組むこと
5. 学修の振り返りを行い次の学修に活かすこと
6. 大学における学修の仕方・取り組み方
7. 主体的な学修習慣を身につけること

〔103〕 専門教育科目の授業を受けて何を学ぶことができると感じますか。(複数回答可)

1. 専門の知識を身に付けるのに役立った
2. 自分の進路について考えることができるようになった
3. 学問・研究に興味を湧いた
4. 社会で役立つ能力を身に付けるのに役立った
5. 特に得るものはなかった

〔104〕 授業内容の難易度についてどう感じますか。

1. 授業内容の水準をもっと高度にすべきである
2. 授業内容の水準は適切である
3. 授業内容の水準をもっと易しくすべきである

あなたは、本学の設備や学生支援制度にどの程度満足していますか。

	とても満足	満足	どちらでもない	不満	とても不満
〔105〕 図書館の設備（蔵書やレファレンスサービス）	5	4	3	2	1
〔106〕 実験室の設備や器具	5	4	3	2	1
〔107〕 コンピュータの施設や設備	5	4	3	2	1
〔108〕 コンピュータの訓練や援助	5	4	3	2	1
〔109〕 インターネットの使いやすさ	5	4	3	2	1
〔110〕 奨学金など学費援助の制度	5	4	3	2	1
〔111〕 健康・保健サービス（心身の健康に関わる問題についての診療や相談）	5	4	3	2	1
〔112〕 レクリエーション施設（ジムの設備など）	5	4	3	2	1
〔113〕 キャリアカウンセリング（就職や進学に関する相談）	5	4	3	2	1
〔114〕 クラス担任制度	5	4	3	2	1

[115] 図書館のどんな学修支援サービスを利用していますか。(複数回答可)

1. 教員・学修支援アドバイザーによる学修相談 (SSS)
2. 授業サポートナビ (各講義の参考図書, 関連情報提供サービス)
3. 学修に関するイベント (講習会等)
4. 文献複写サービス
5. 本の購入リクエスト
6. グループ学修スペースの利用
7. 調べもの相談
8. 利用していない

[116] あなたは、読書についてどのように考えていますか。

1. 読書は習慣として身に付いている
2. もっと読書したいが、現在読みたい書籍はない
3. もっと読書したいが、時間がない
4. 読書の必要性を感じない

[117] 徳島大学では、履修者が11名以上の授業では、自分の成績や成績の分布が確認できるようになっていることを知っていますか。また、役立っていますか。

1. 知っており、確認したことがある。また、この情報は学修意欲の向上や学修計画の見直しに役立っている。
2. 知っており、確認したことがある。ただ、この情報は学修意欲の向上や学修計画の見直しに役立っていない。
3. 知っており、確認したことがある。ただ、この情報は学修意欲の向上や学修計画の見直しに役立っているかどうかわからない。
4. 知っているが確認したことがない
5. 知らない

[118] 徳島大学では、卒業に必要な履修科目やそれらの科目を学修していく順序等を一覧できる「カリキュラムマップ」を公開していることを知っていますか。

1. 知っており、見たことがある
2. 知っているが見たことはない
3. 知らない

[119] 徳島大学では、学部の授業科目のレベルに基づく学修の段階や順序を整理し適切な番号を付与した「科目ナンバリング」を公開していることを知っていますか。

1. 知っており、見たことがある
2. 知っているが見たことはない
3. 知らない

[120] シラバスはどのように利用していますか。

1. 毎週確認し、授業の予習・復習に役立っている
2. 気になった時に時々確認している
3. 初回の授業を受ける前に確認したが、その後はほとんど見ていない
4. 授業の選択を考える時に確認したが、その後はほとんど見ていない
5. 全く見ていない

1年生調査

[121] 徳島大学のeラーニングサービスを利用したことはありますか？利用したことがある人は以下の項目から利用したことがあるサービスを選んでください（複数選択可）。

1. Moodle（全学）
2. Manaba（全学）
3. Mahara（全学）
4. スーパー英語（全学）
5. 各学部やコース内で提供されているeラーニングサービス
6. 利用したことはない

本学では、学生のみなさんに対して、上記のようなeラーニングサービスを提供しています。Eラーニングサービスに関して書かれている次の項目の内容は、あなたにどの程度当てはまりますか。

	非常に 思う	そう 思う	どちら でもない	あまり そう 思わな い	全く そう 思わな い
[122] 本学のeラーニングサービスは、学修に役立つ	5	4	3	2	1
[123] 本学が提供しているようなオンライン学修科目を、今後も増やした方が良く思うか	5	4	3	2	1

本学では、学生のみなさんに対して、授業の中間期および最後に「授業評価アンケート」をおこなっています。この「授業評価アンケート」に関して書かれている次の項目の内容は、あなたにどの程度当てはまりますか。

	非常に 思う	そう 思う	どちら でもない	あまり そう 思わな い	全く そう 思わな い
[124] 「授業評価アンケート」の設問は、授業改善に必要な内容である	5	4	3	2	1

[125] 大学教育全体の満足度は100点満点で何点ぐらいですか。

1. 100-91
2. 90-81
3. 80-71
4. 70-61
5. 60-51
6. 50-0

[126] あなたは学部卒業後、どのような進路を考えていますか。

1. 就職する
2. 大学院に進学する
3. 留学する
4. 他大学に（編）入学する
5. 専門学校に入学する
6. まだわからない
7. その他

〔127〕 将来の見通しに関する以下の2つの文章を読んで、あなたのいまの状態にもっとも近い番号を選んでください。

- ・あなたは、将来の見通し（将来こういう風でありたいという考え）を持っていますか。
- ・その見通しのなかでもっとも重要なものを1つ思い浮かべてください。あなたは、その見通しの実現に向かって、自分が何をすべきなのかわかっていますか。また、それを実行していますか。

1. 将来の見通しを持っている+何をすべきかをわかっているし、実行もしている
2. 将来の見通しを持っている+何をすべきかをわかっているが、実行はできていない
3. 将来の見通しを持っている+何をすべきかわからない
4. 将来の見通しを持っていない

V. 最後に、大学に入学する前や高校時代のことについておうかがいします。

〔128〕 あなたは現役で本学に入学しましたか、それとも浪人しましたか。

1. 現役
2. 浪人
3. その他（留学生、社会人など）

〔129〕 あなたの志望大学の中で、本学は第1志望でしたか。

1. 第1志望だった
2. 第1志望ではなかった

〔130〕 あなたの高校での成績はどのあたりでしたか。

1. 上位の方
2. 中の上くらい
3. 中くらい
4. 中の下くらい
5. 下位の方
6. その他（わからない、覚えていない、など）

あなたが高校3年生だった時、次のことがらをどの程度しましたか。

	ひんばん にした	ときどき した	あまり しなかった	まったく しなかった
〔131〕 授業中に質問した	4	3	2	1
〔132〕 自分の意見を論理的に主張した	4	3	2	1
〔133〕 問題の解決方法を探し、それを他の人に説明した	4	3	2	1
〔134〕 科学的研究の記事や論文を読んだ	4	3	2	1
〔135〕 自発的に作文の練習をした	4	3	2	1
〔136〕 インターネット上の情報が事実かどうか確認した	4	3	2	1
〔137〕 授業の予習や復習、宿題をし	4	3	2	1

1年生調査

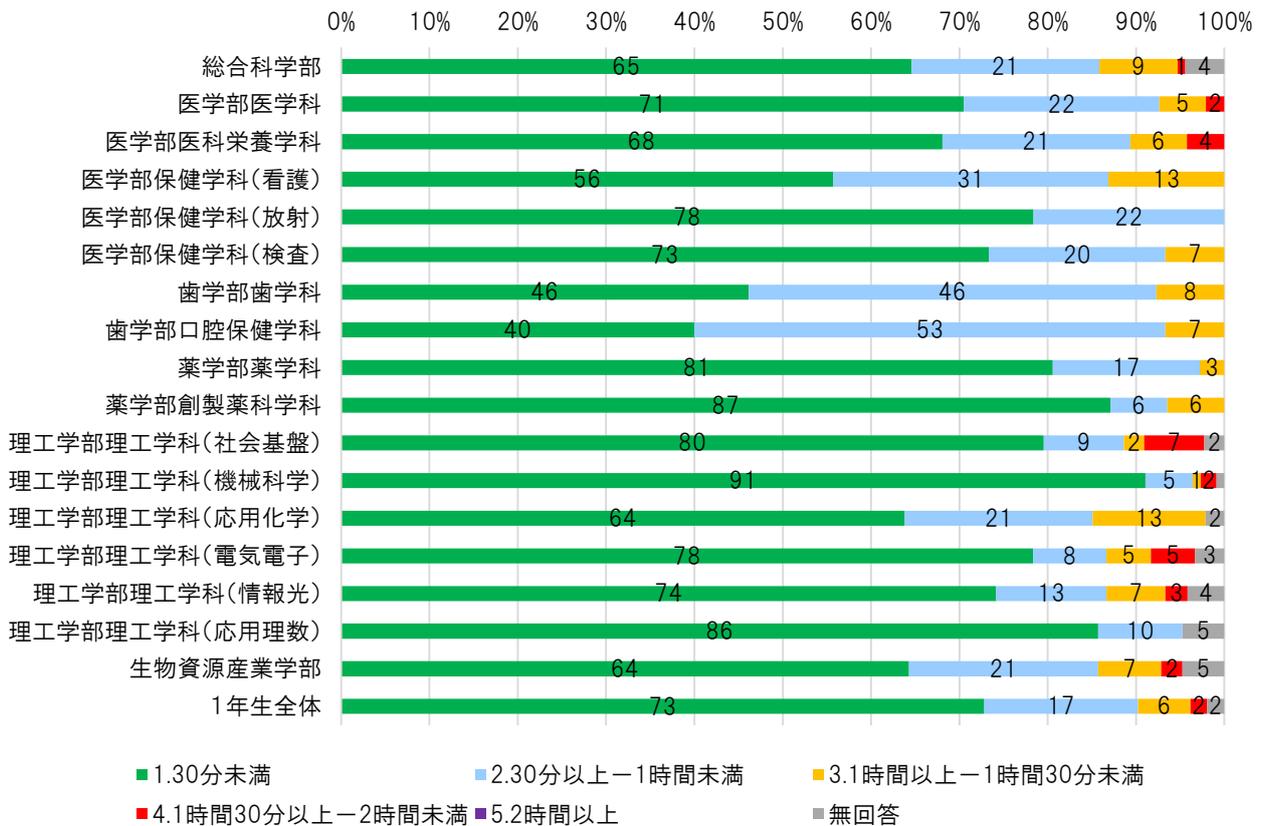
た					
[138]	授業以外に興味のあることを自分で勉強した	4	3	2	1
[139]	自分の失敗から学んだ	4	3	2	1
[140]	困難なことにあえて挑戦した	4	3	2	1
[141]	自分が取り組んだ課題について教師に意見を求めた	4	3	2	1
[142]	読書をした（マンガ・雑誌を除く）	4	3	2	1

質問は以上です。ご協力どうもありがとうございました。

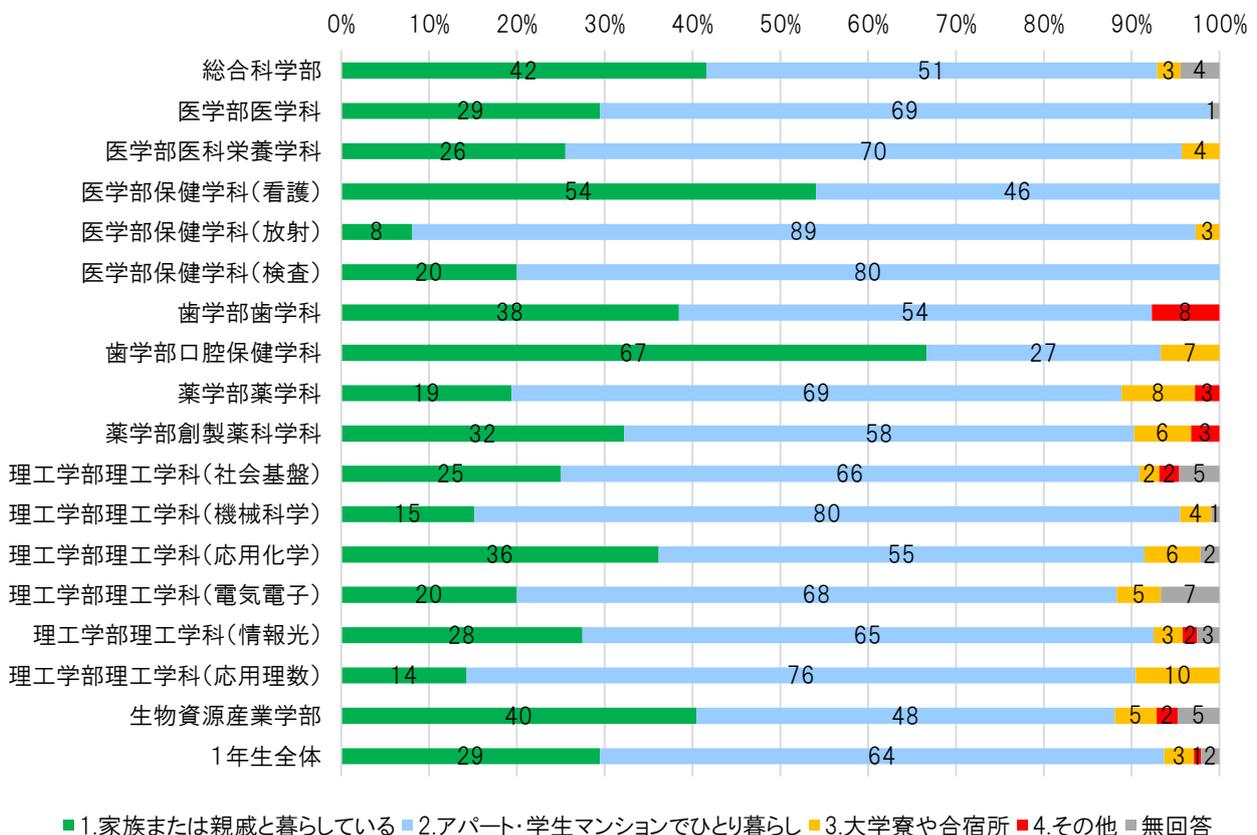
1年生調査結果

1. 最初にあなたご自身のことについておうかがいします。

〔2〕あなたの片道の通学時間はどれくらいですか。



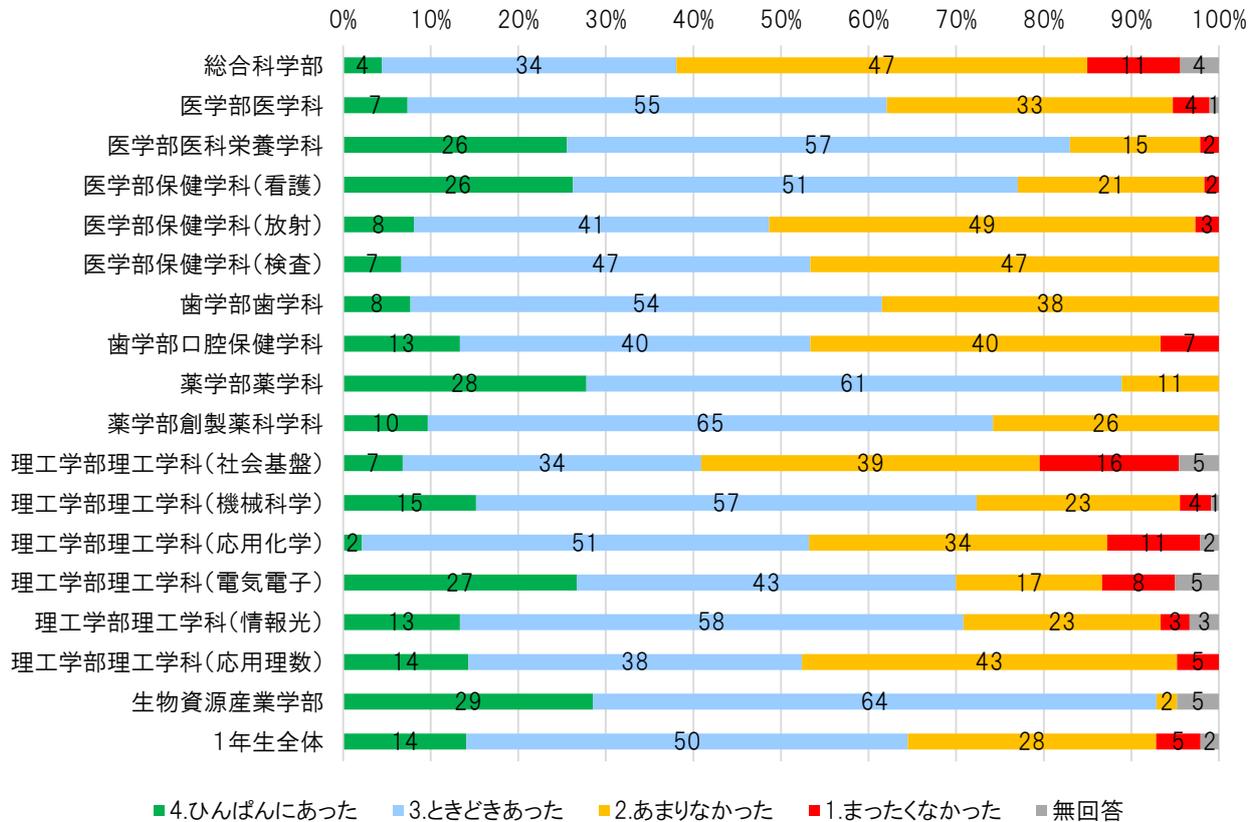
〔3〕あなたの現在の居住形態は次のうちどれですか。



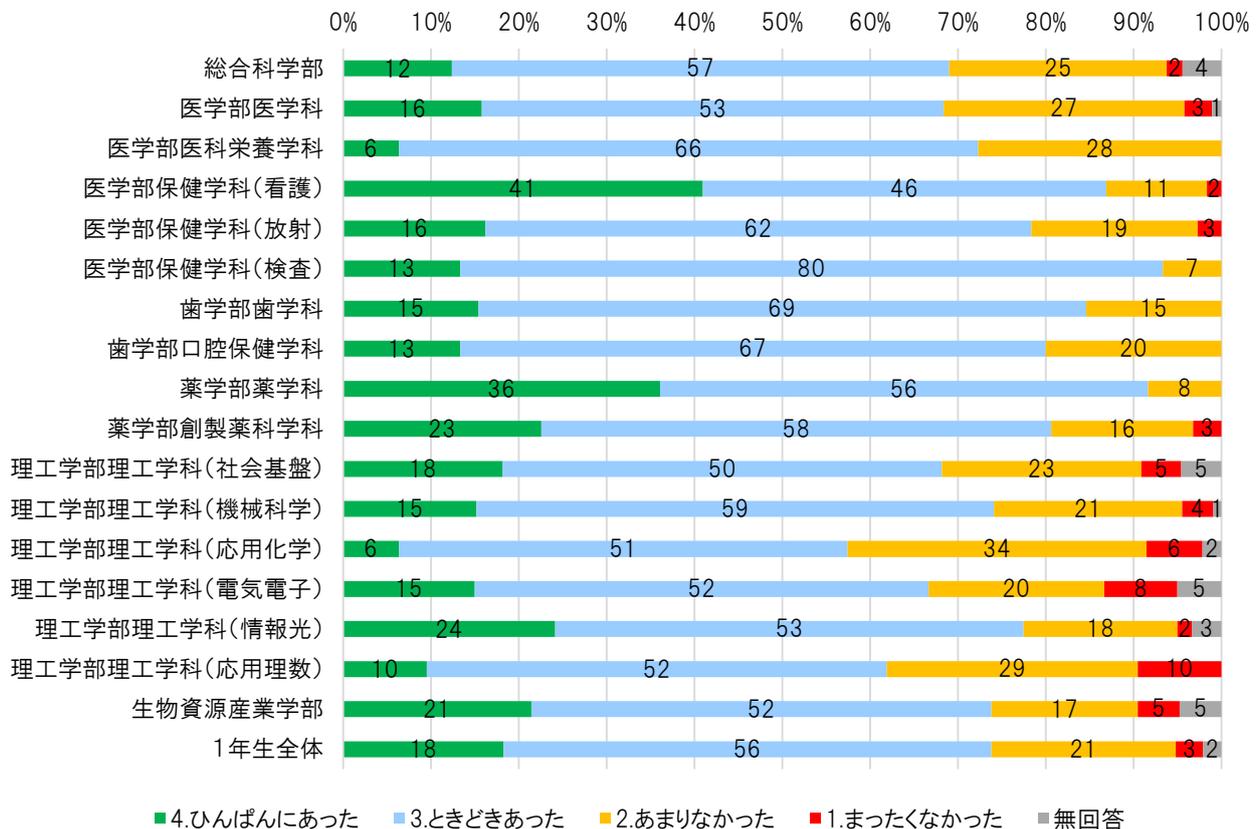
II. 大学に入学してからのあなたの学習状況についておうかがいします。

あなたが受講した大学の授業で、次のようなことを経験する機会はどのくらいありましたか。

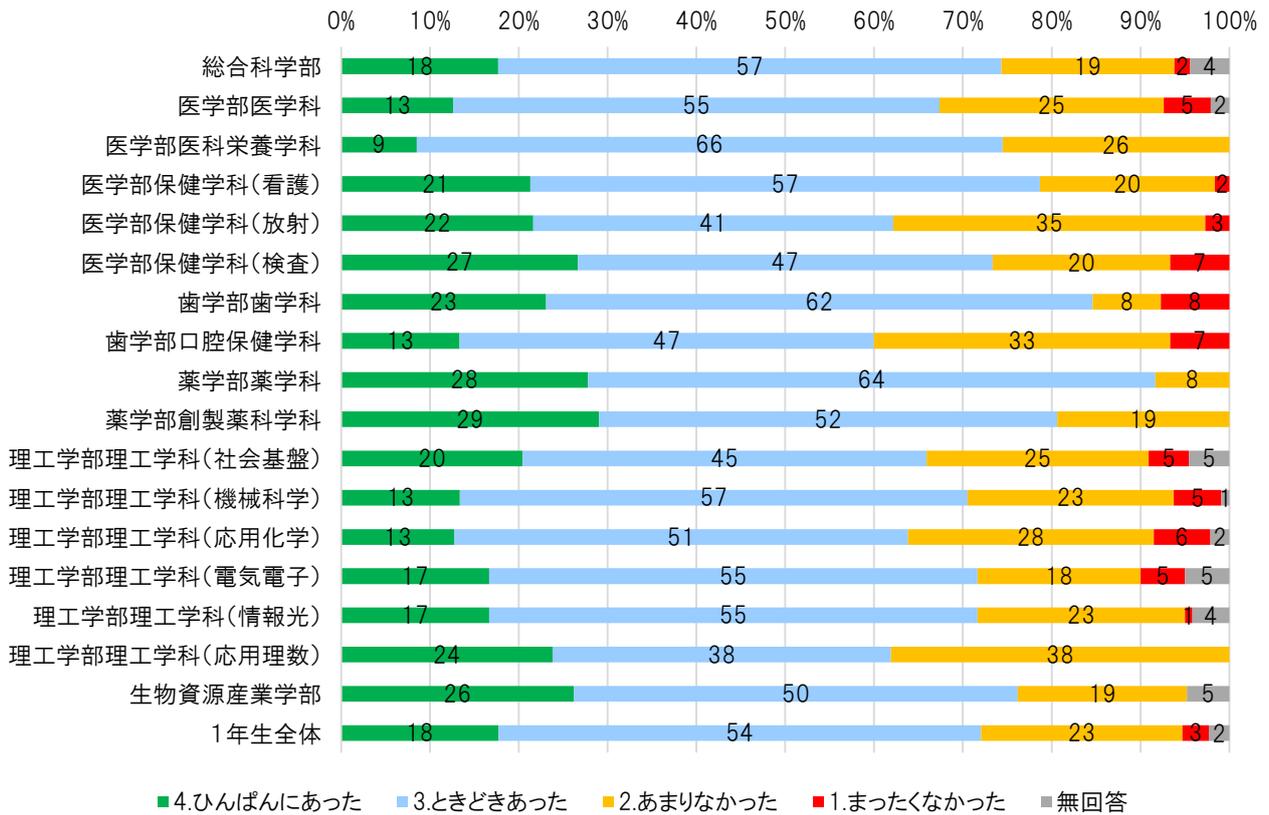
〔4〕実験、実習、フィールドワークなどを実施し、学生が体験的に学ぶ



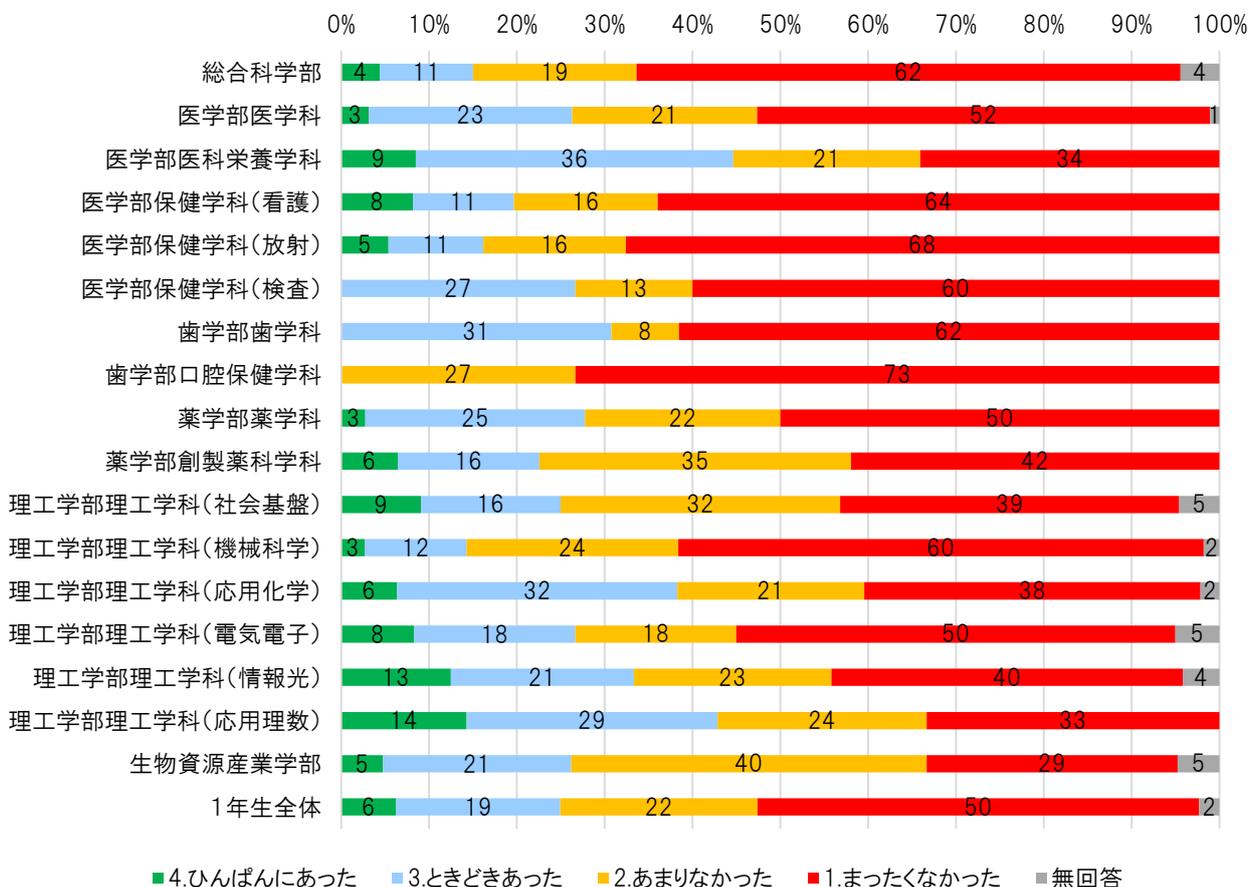
〔5〕仕事に役立つ知識やスキルを学ぶ



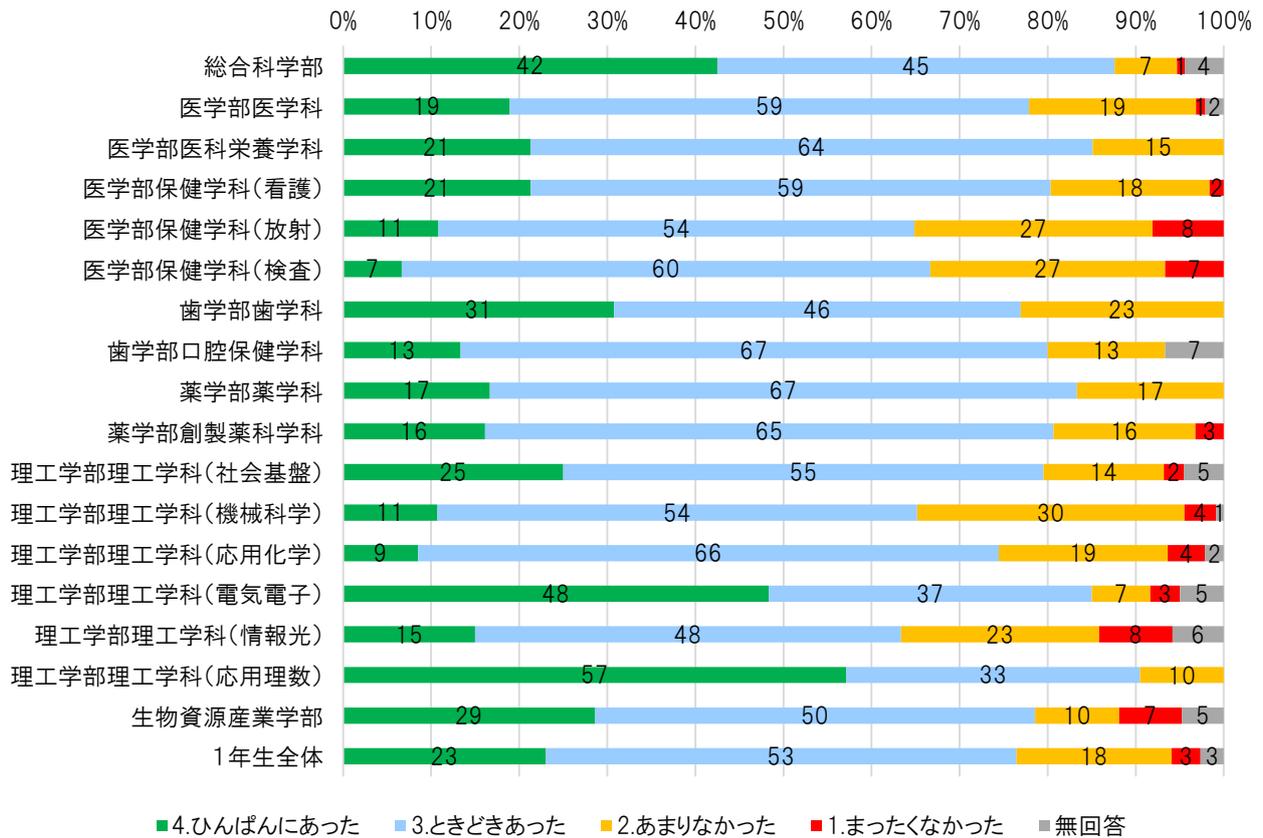
〔6〕授業内容と社会や日常生活のかかわりについて、教員が説明する



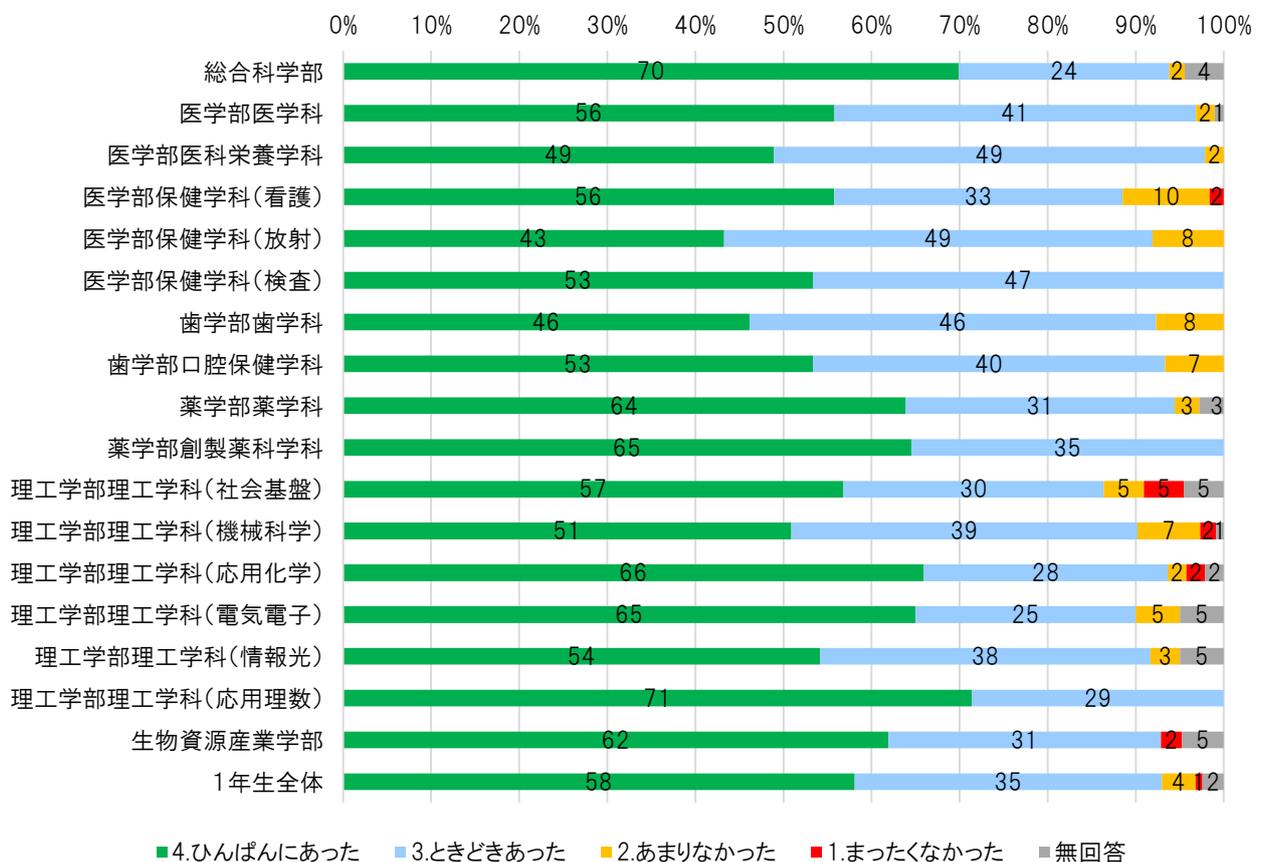
〔7〕授業の一環でボランティア活動をする



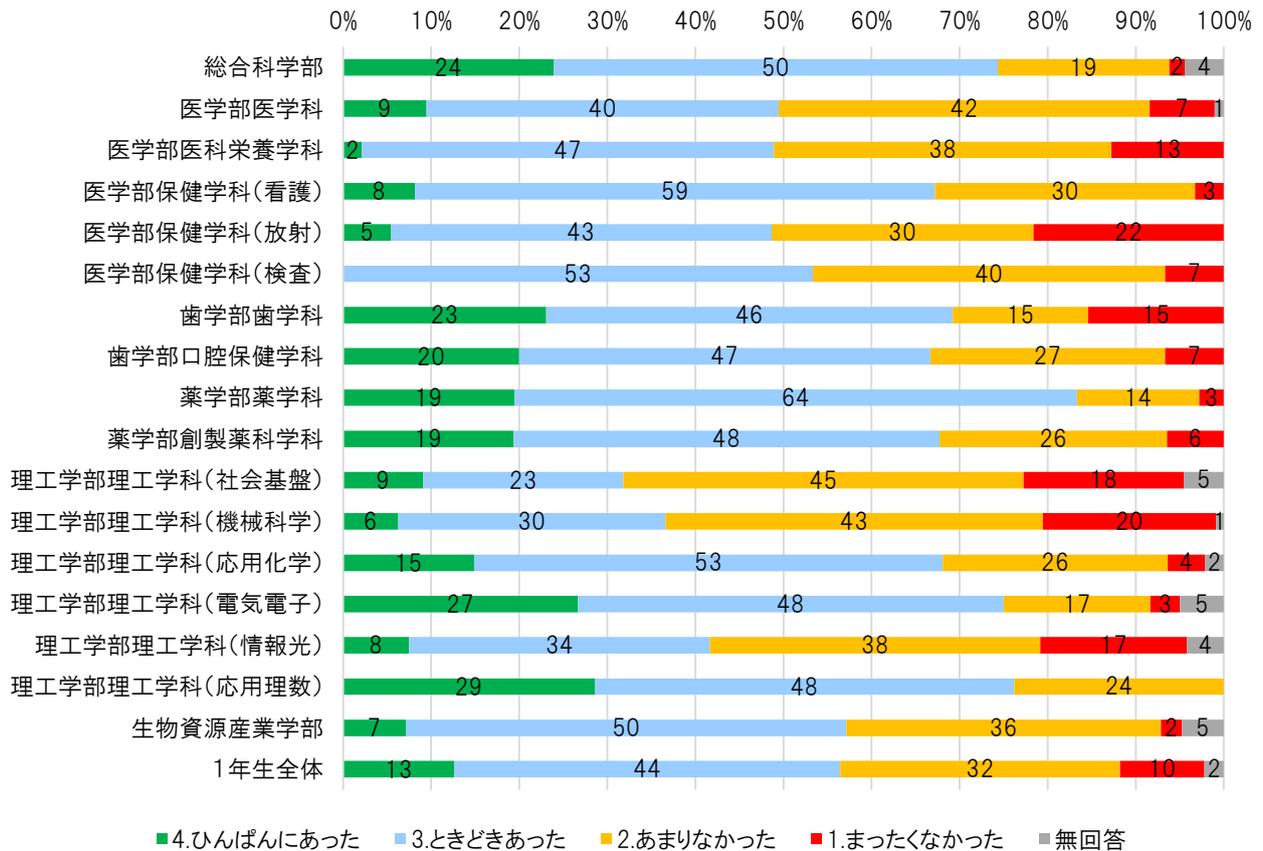
〔8〕学生自身が文献や資料を調べる



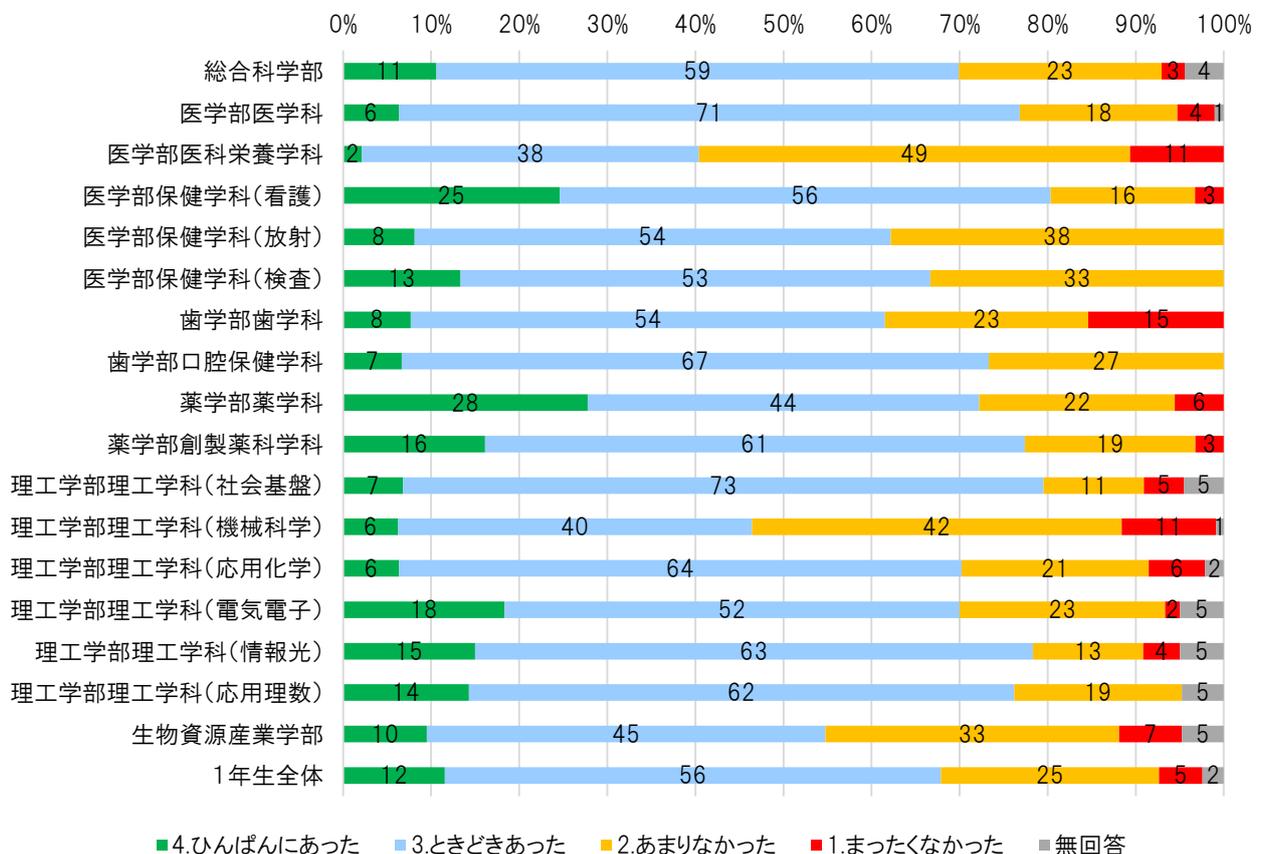
〔9〕定期的に小テストやレポートが課される



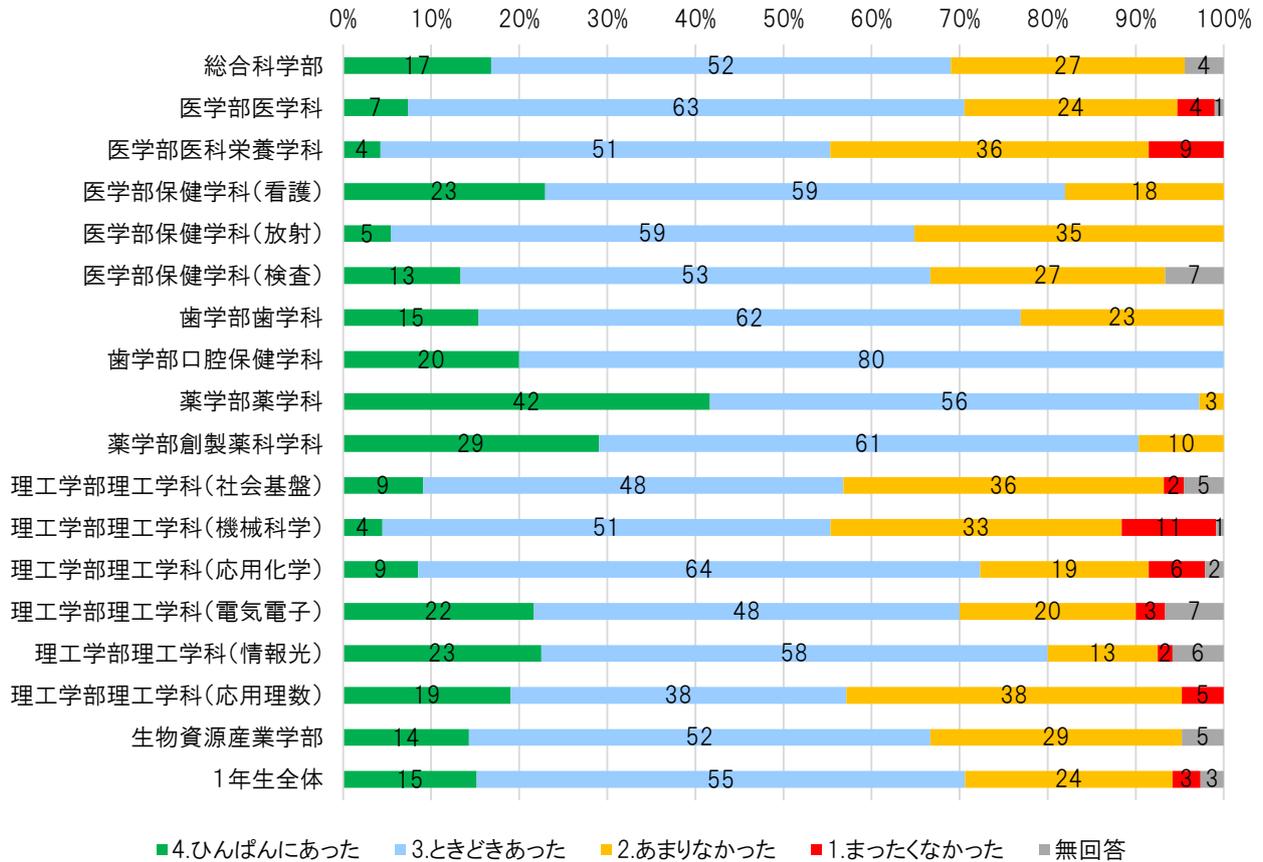
[10] 教員が提出物に添削やコメントをつけて返却する



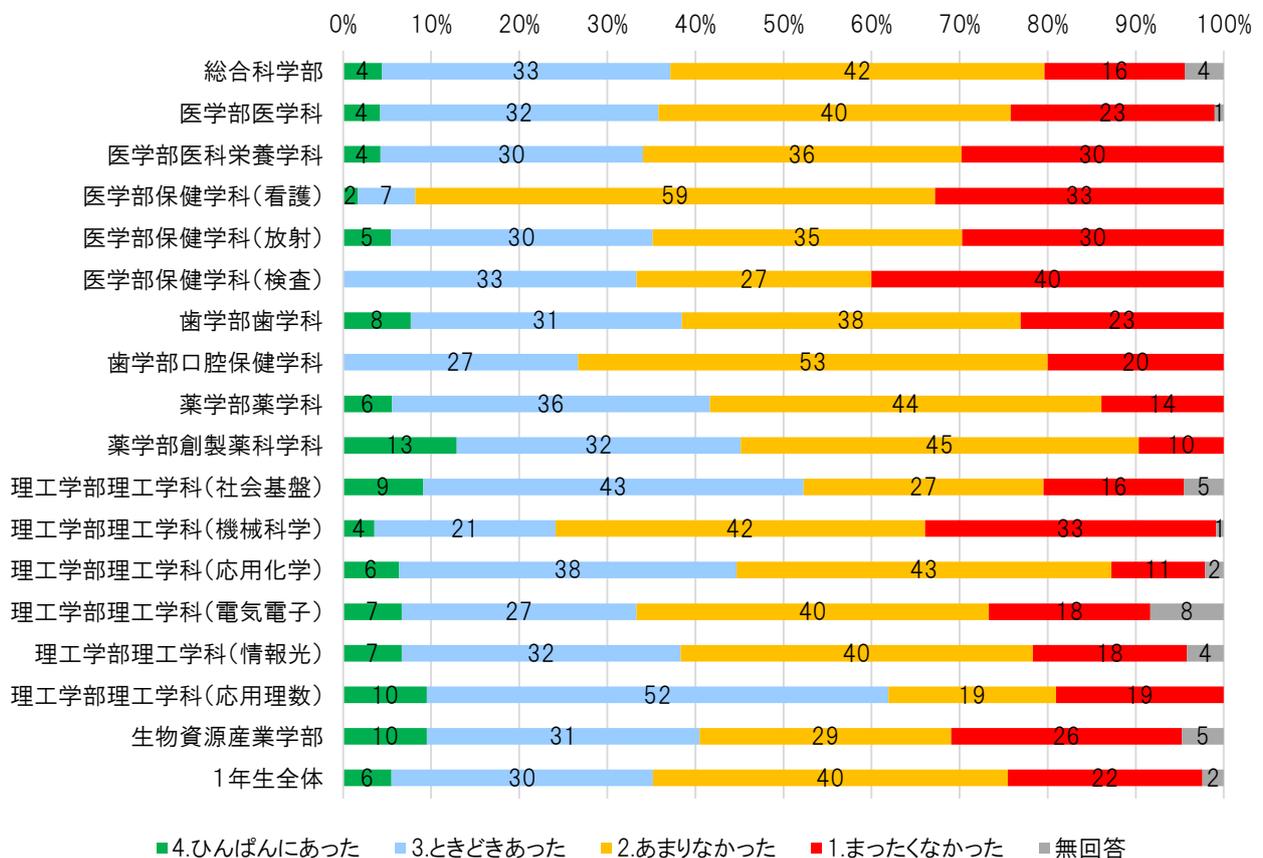
[11] 学生が自分の考えや研究を発表する



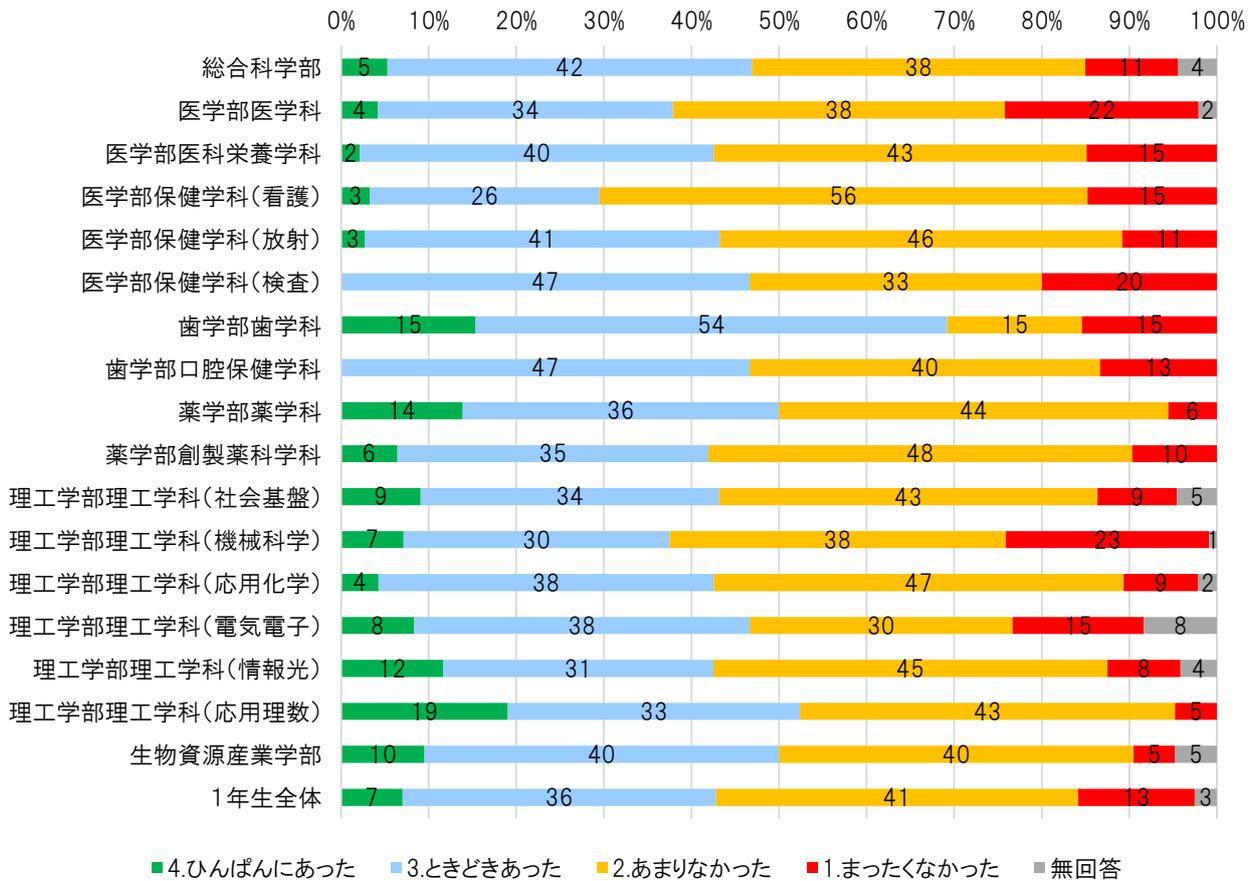
[12]授業中に学生同士が議論をする



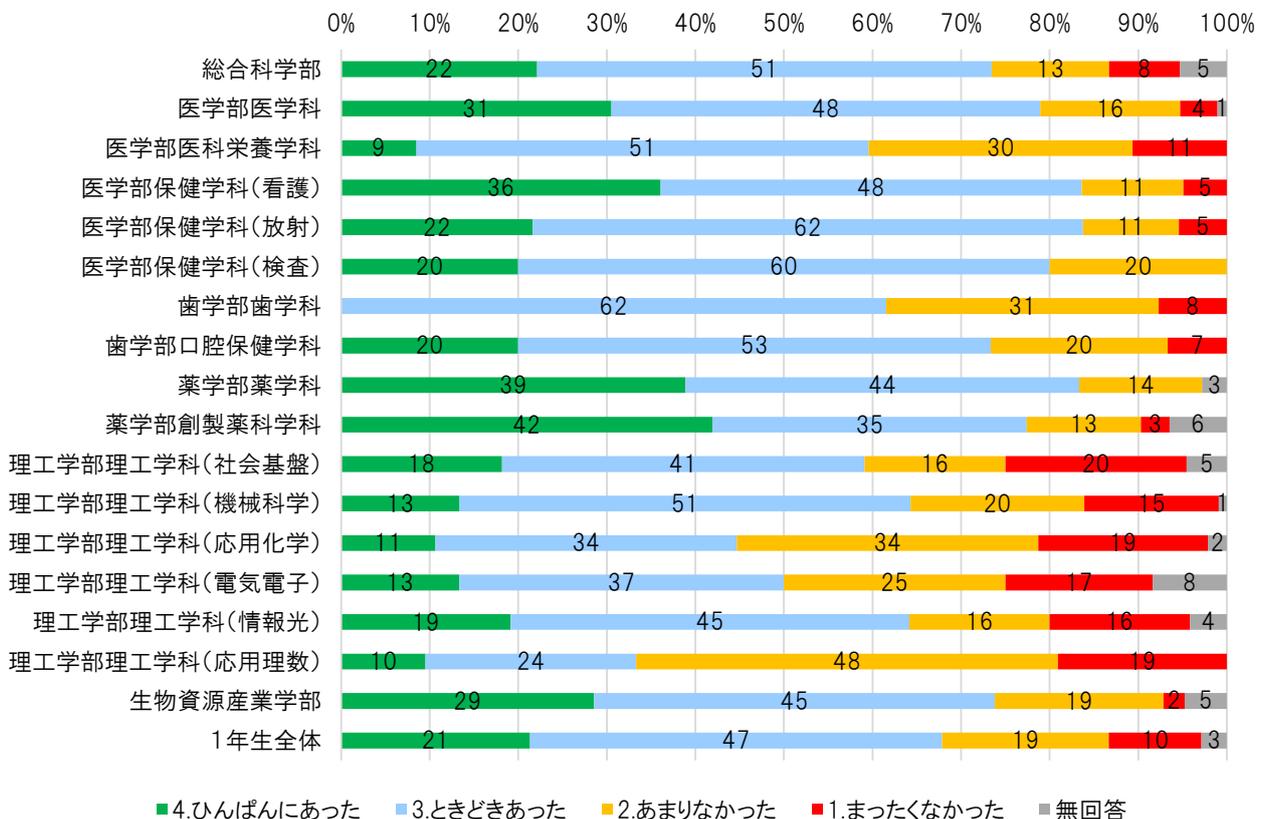
[13]授業で検討するテーマを学生が設定する



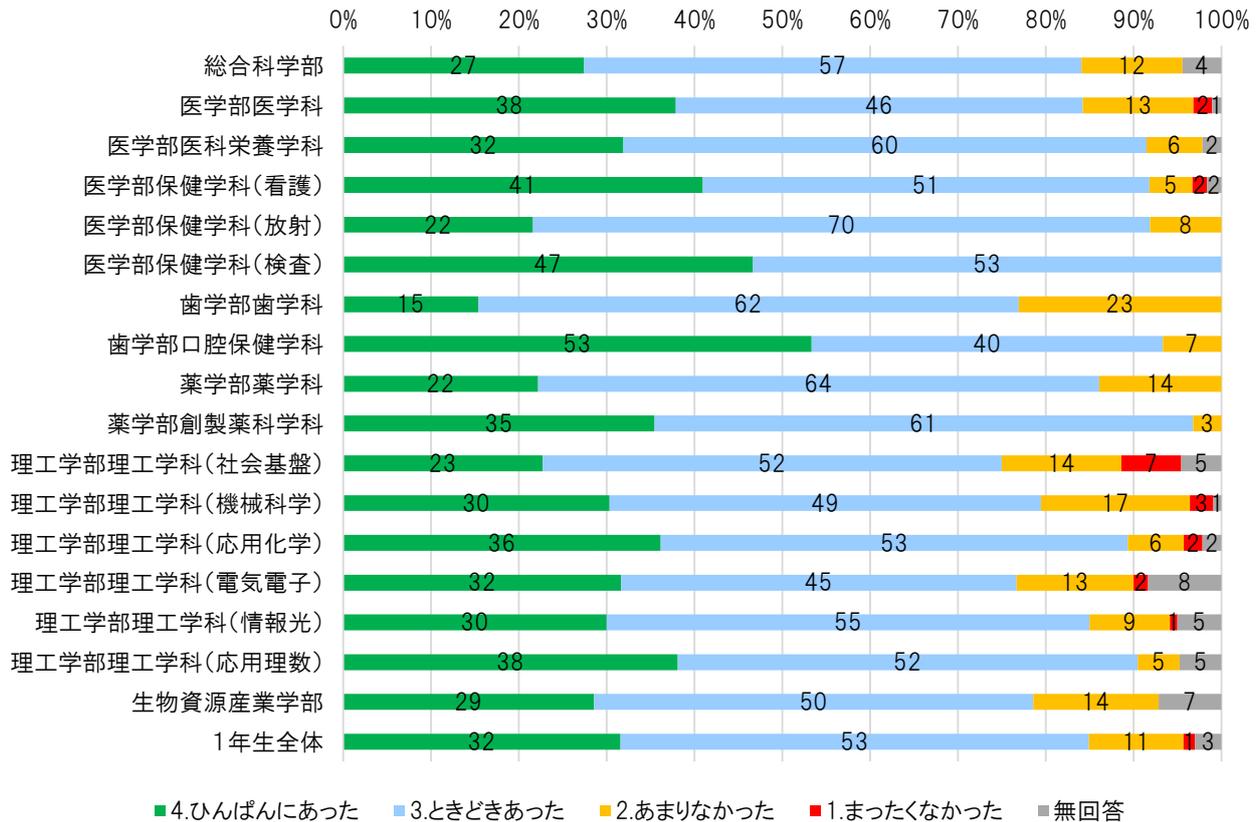
[14]授業の進め方に学生の意見が取り入れられる



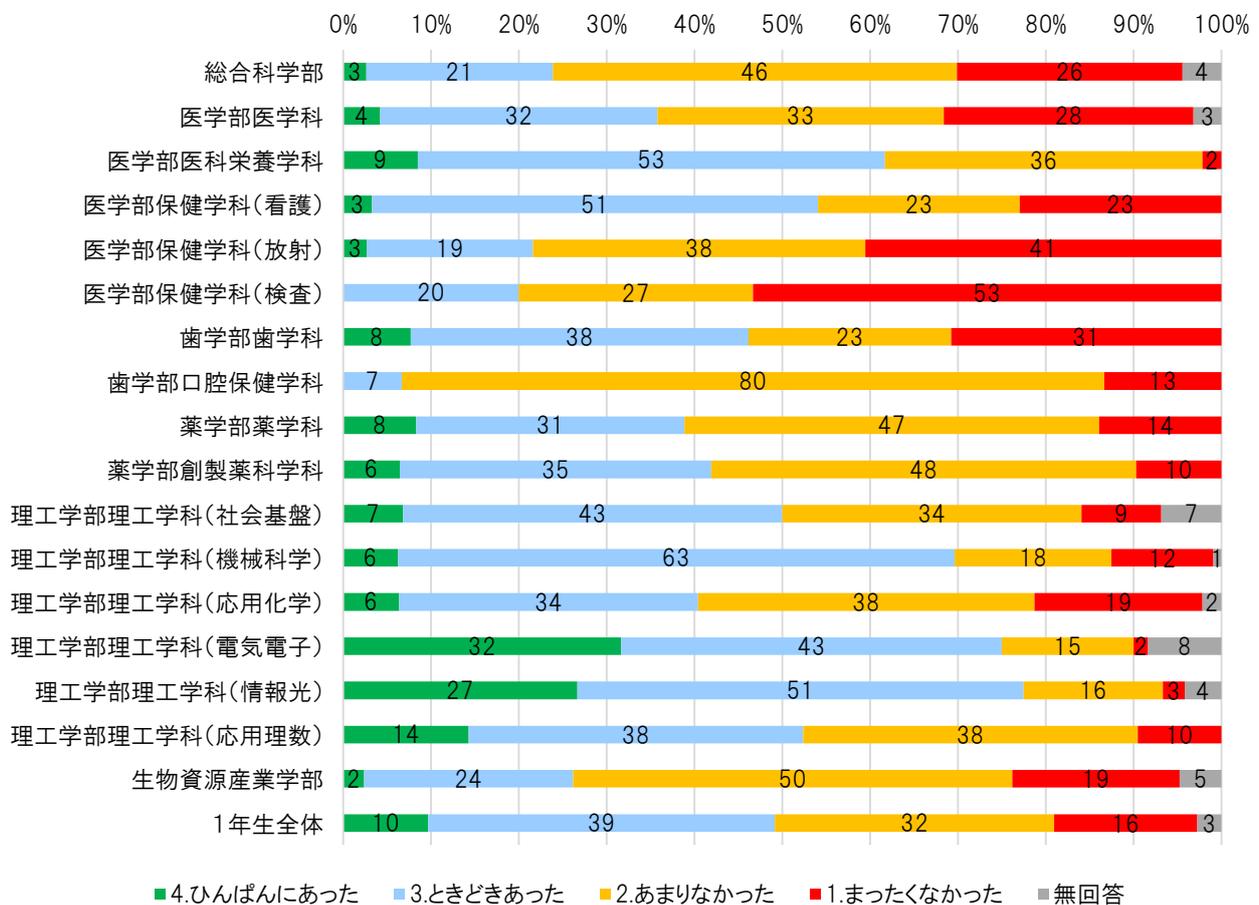
[15]取りたい授業を履修登録できなかった



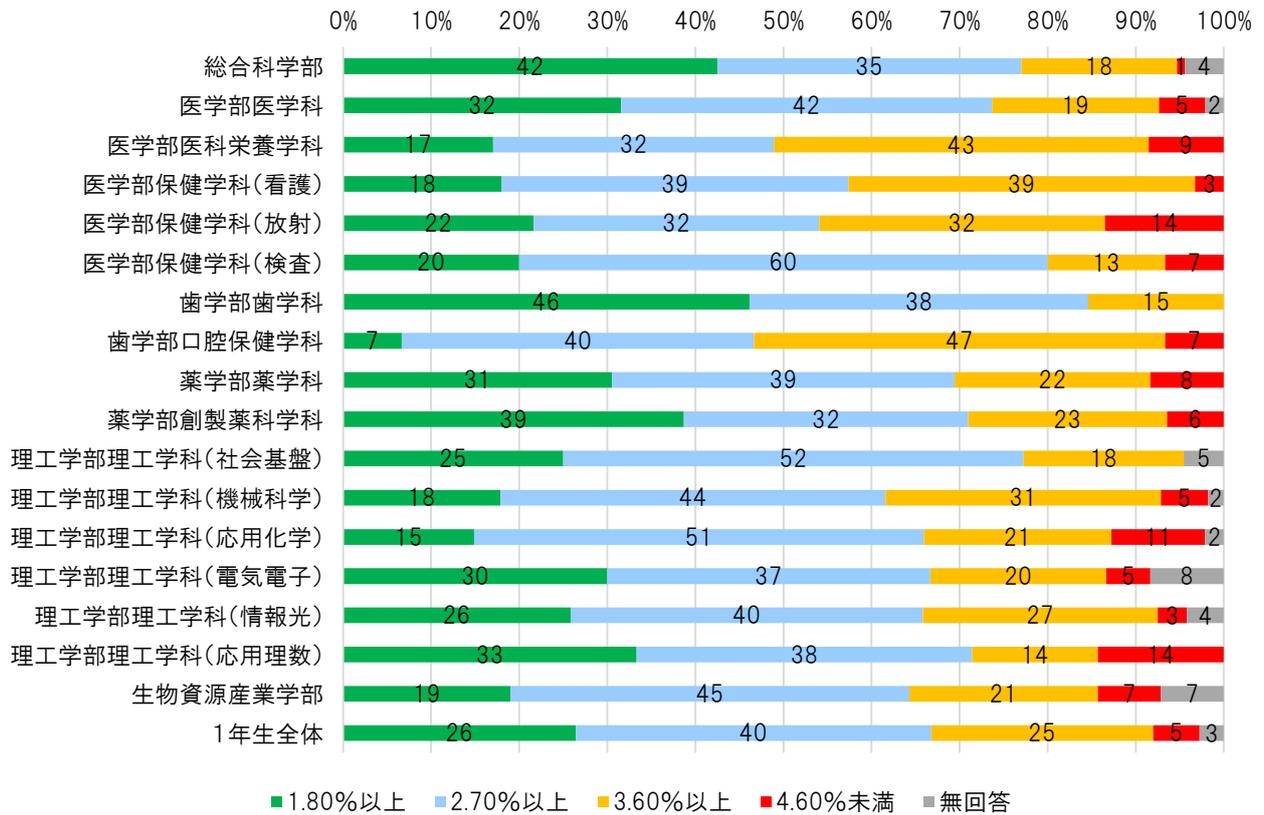
[16]出席することが重視される



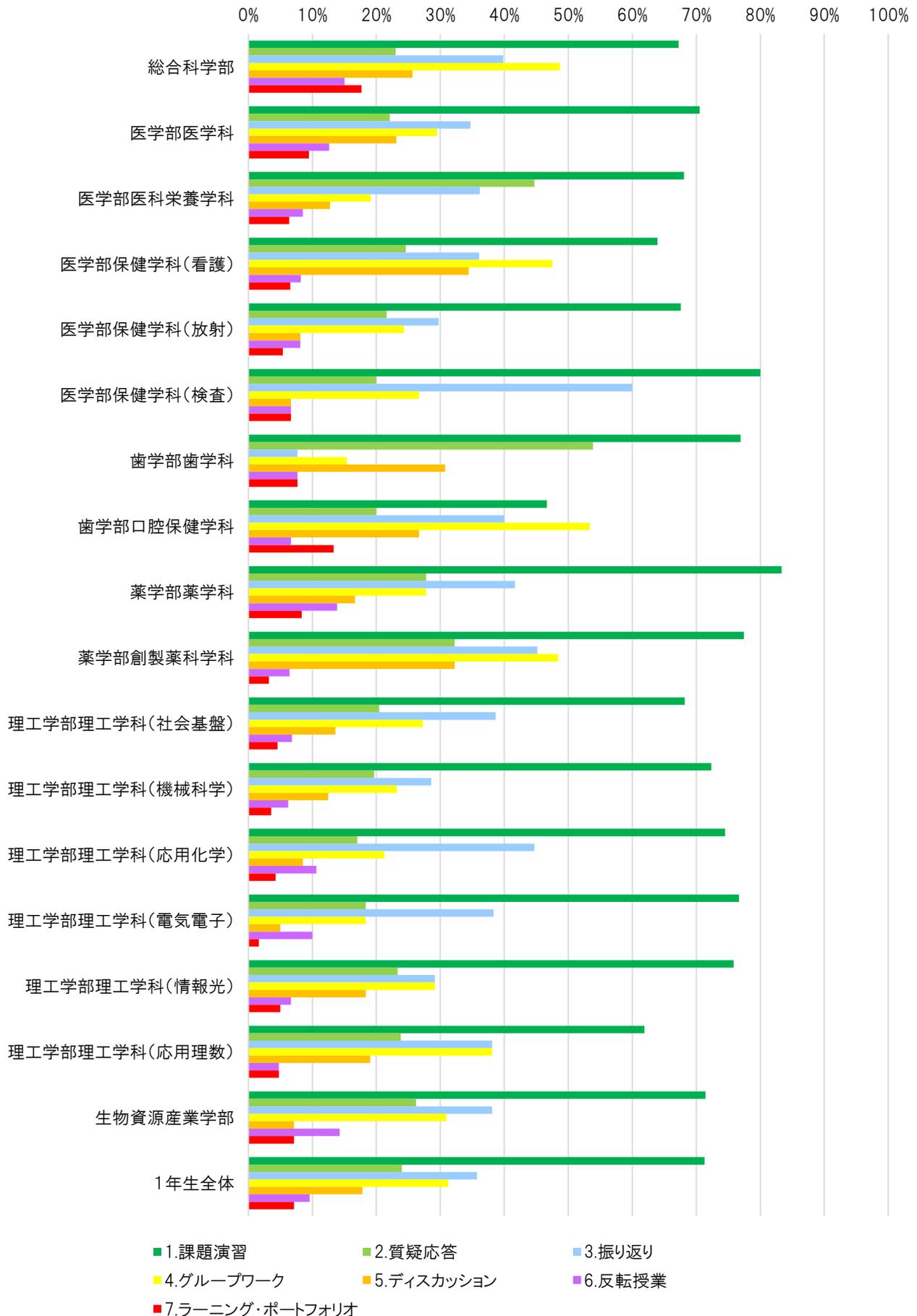
[17]TA や SA などの授業補助者から補助を受ける



[18]授業内容を理解できる科目の割合はどれくらいですか。

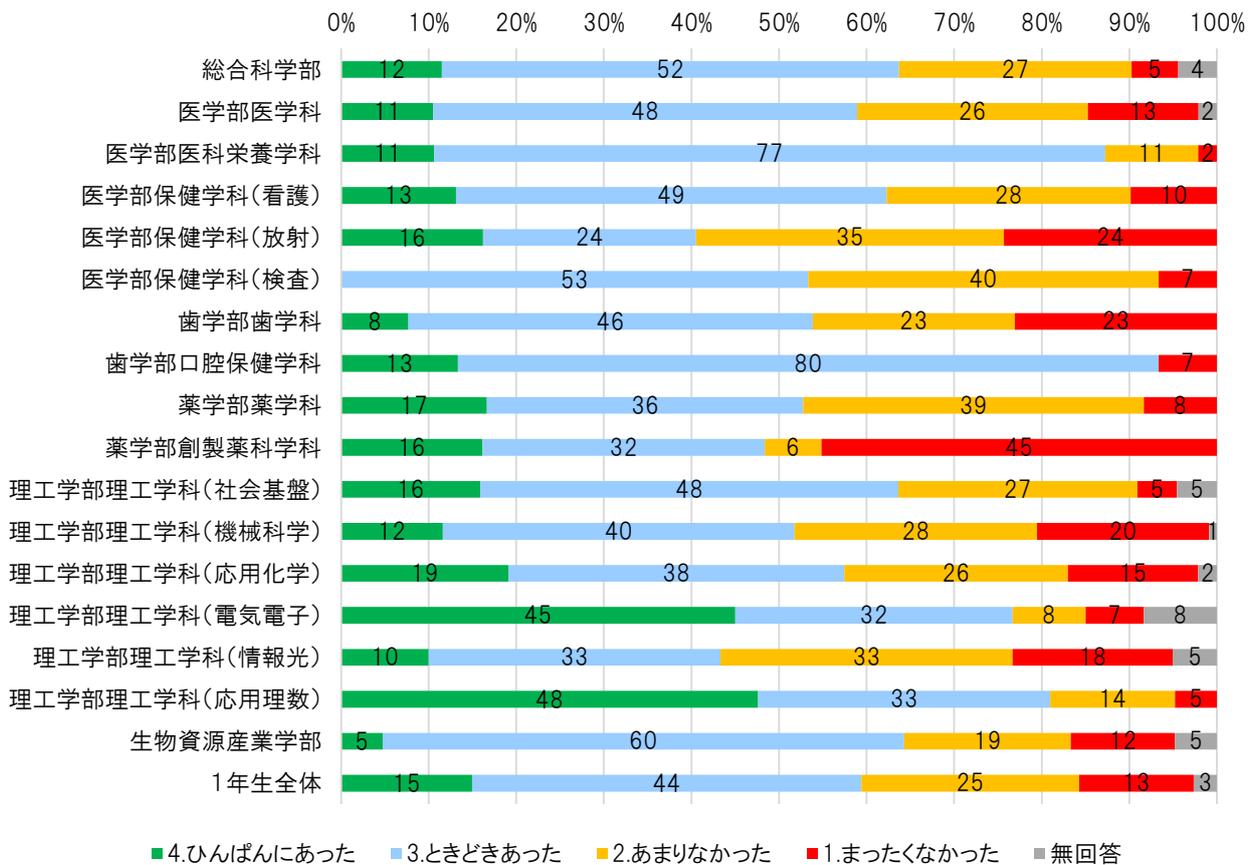


[19]あなたにとってどの方法が授業内容の理解の促進につながりましたか。(複数回答可)

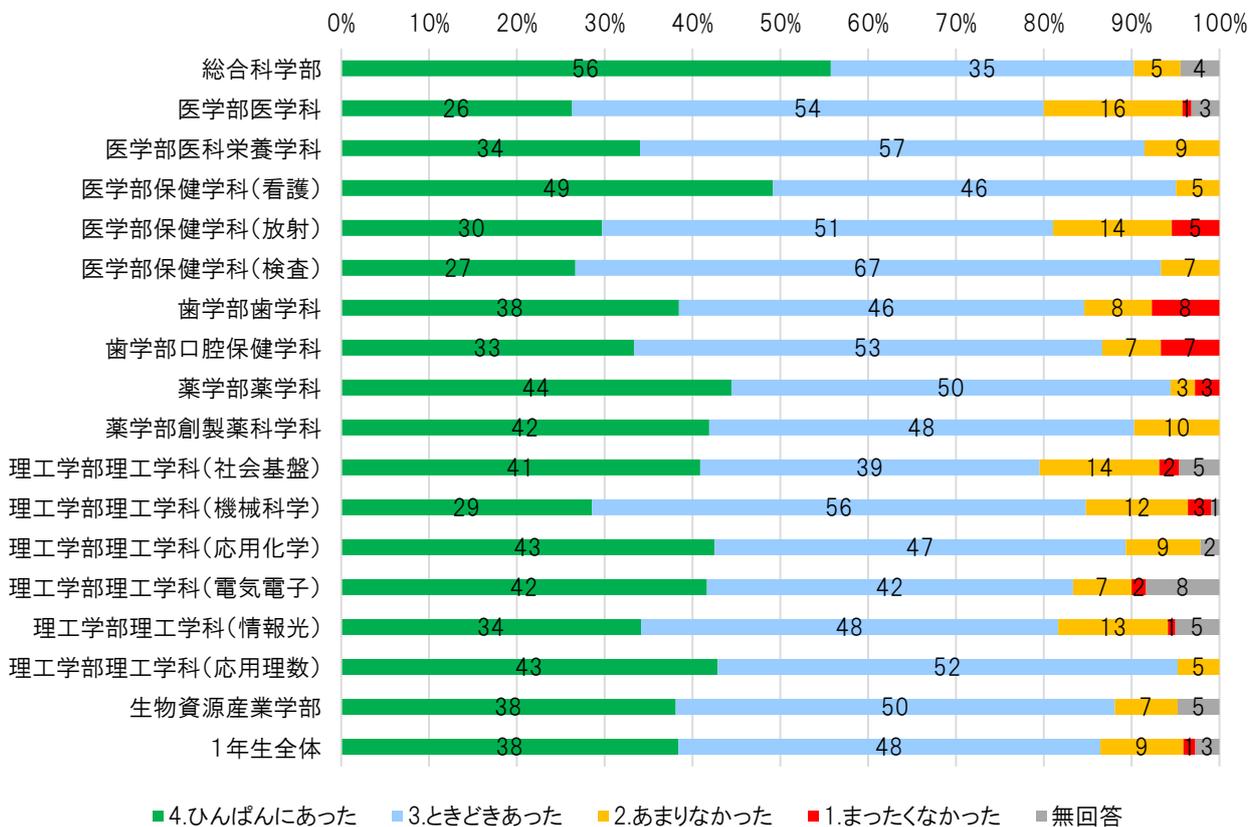


大学の授業や授業以外の学習に関して、あなたは次のようなことをどのくらい経験しましたか。

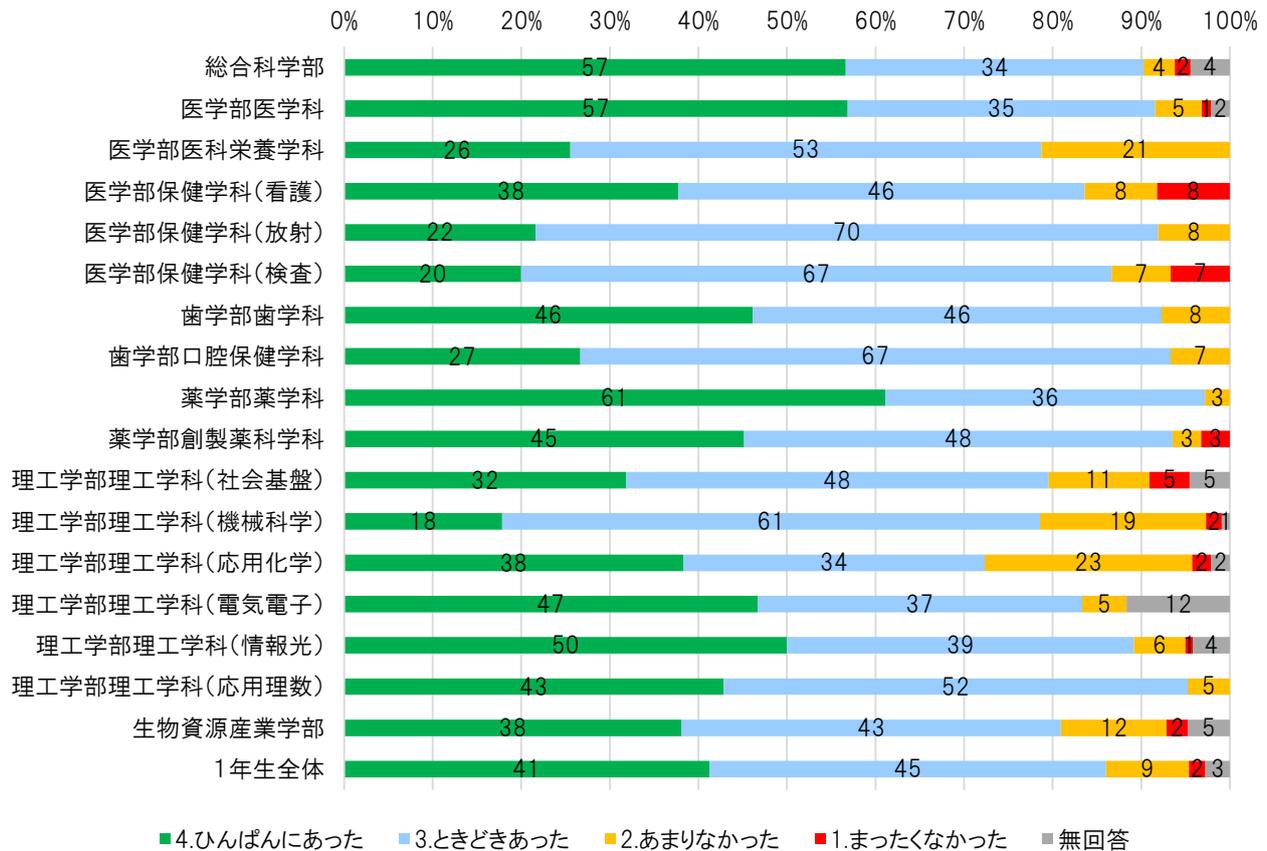
〔20〕授業課題のために図書館の資料を利用した



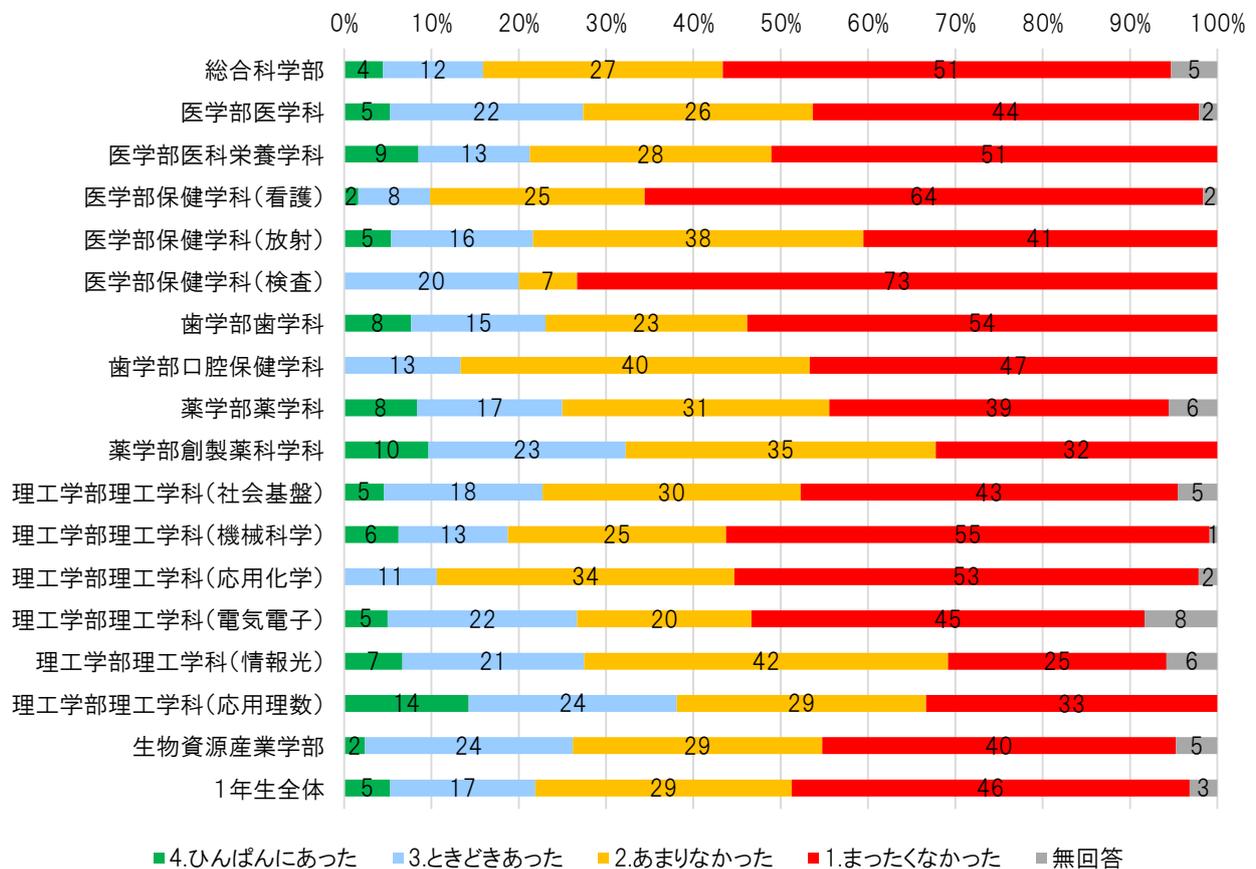
〔21〕授業課題のためにWeb上の情報を利用した



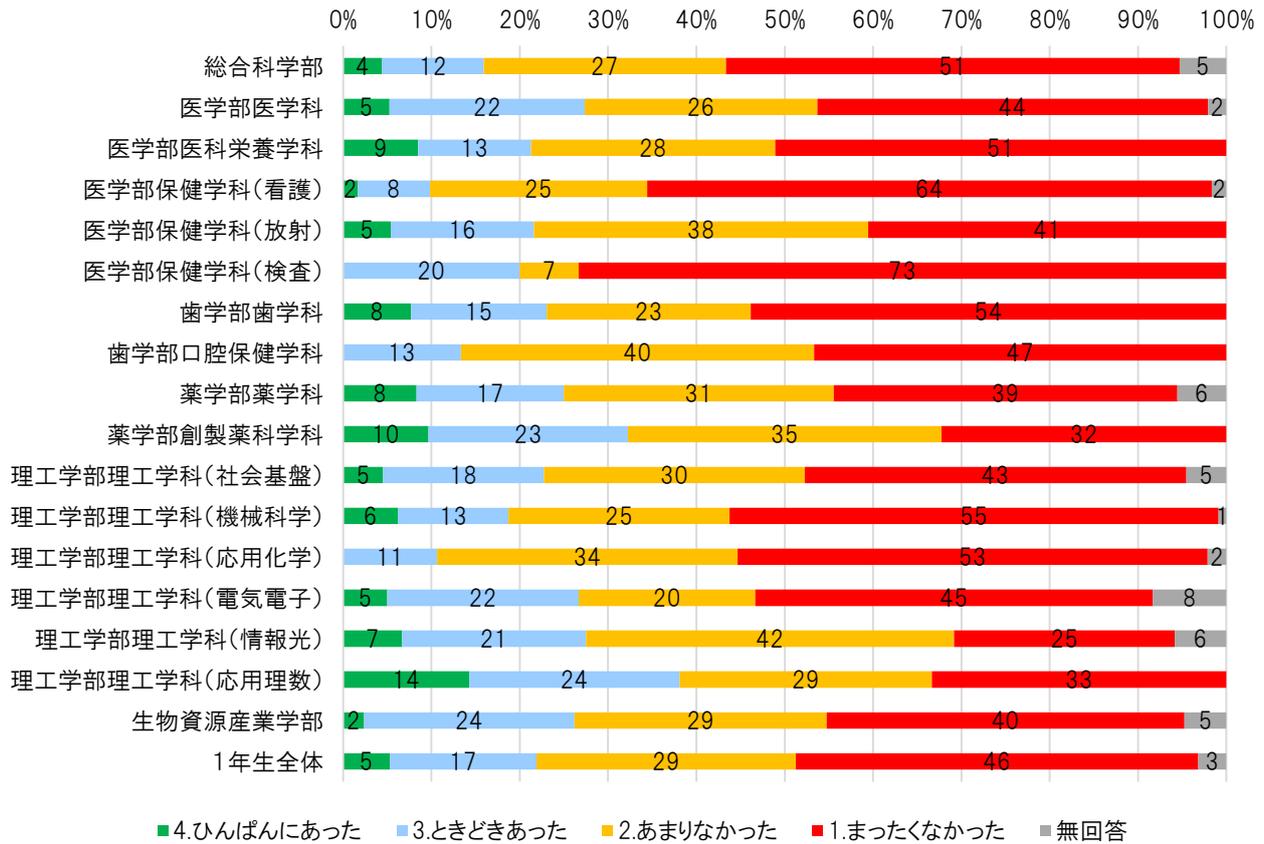
[22]インターネットを使って授業課題を受けたり、提出したりした



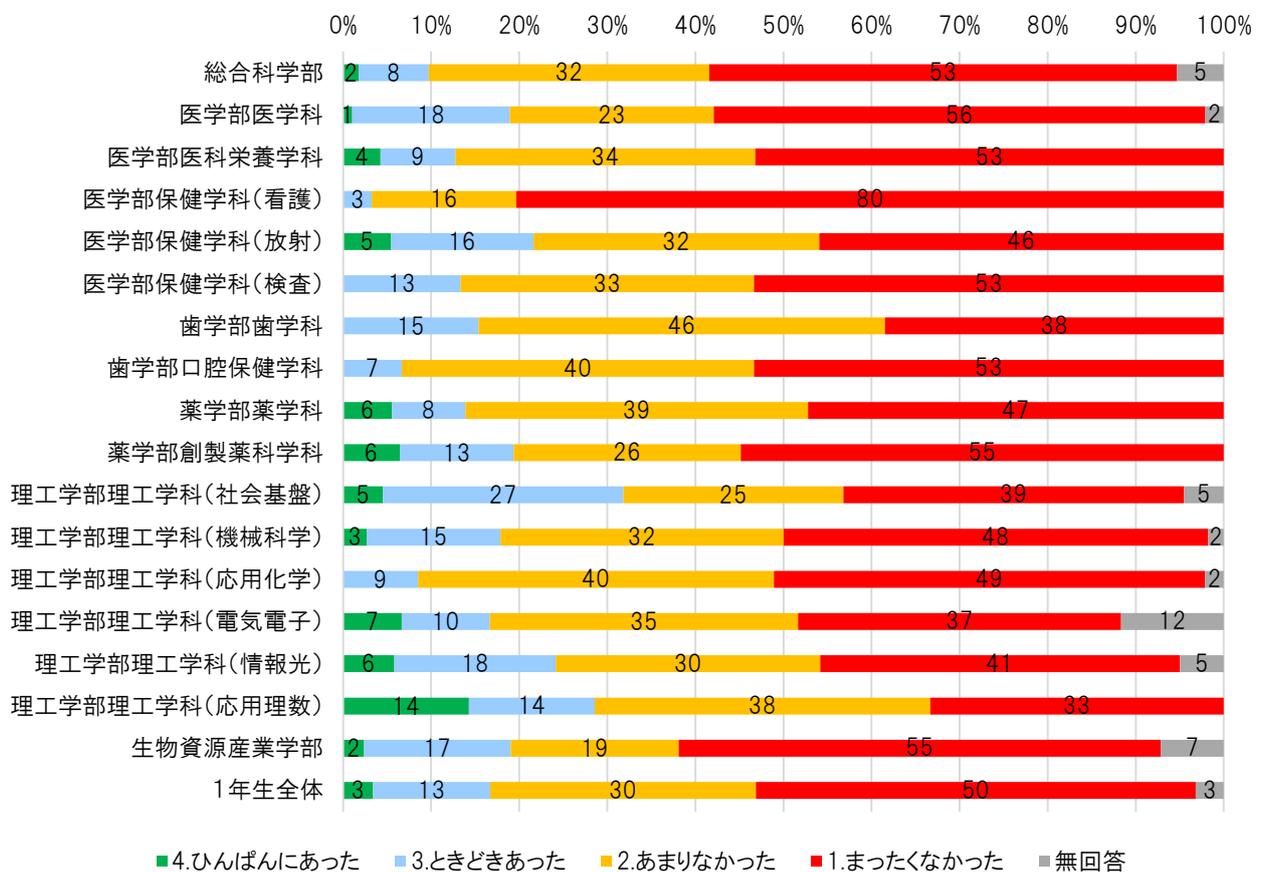
[23]提出期限までに授業課題を完成できなかった



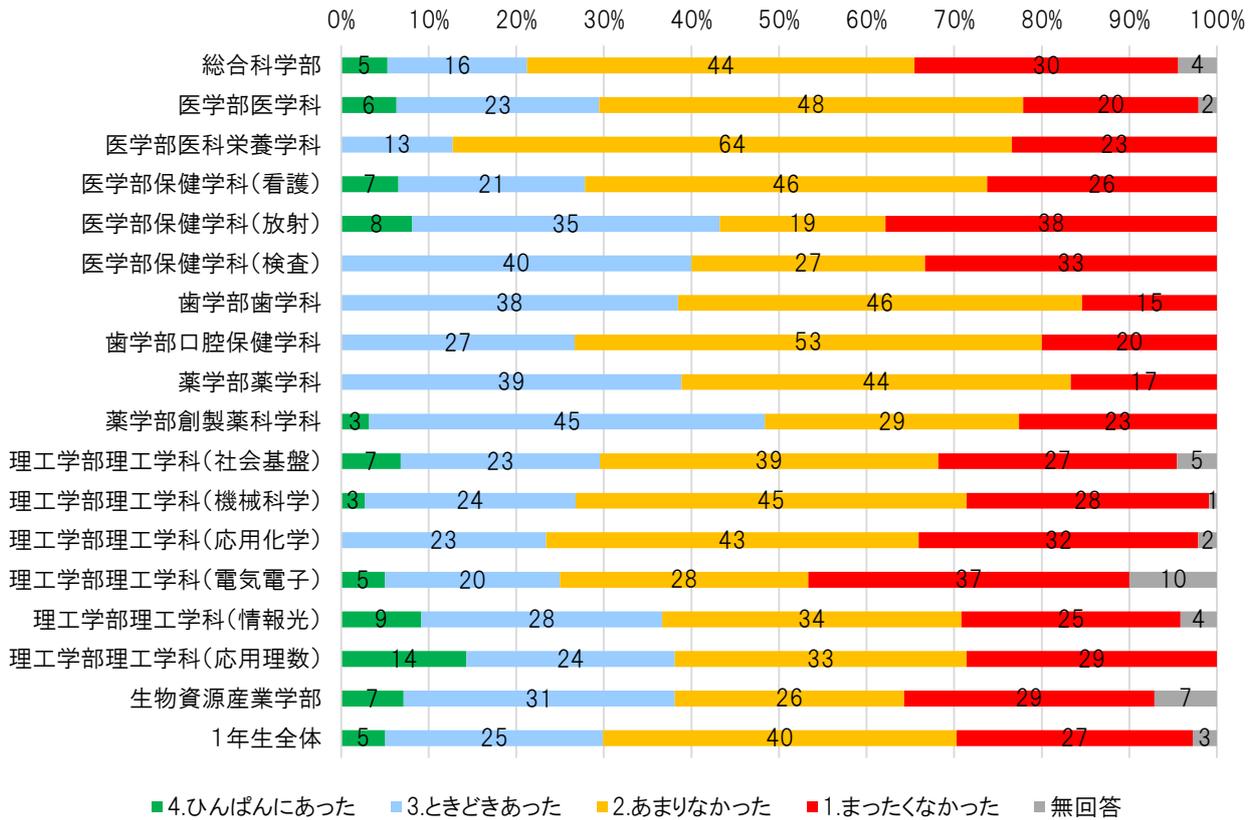
[24]授業時間外に、他の学生と一緒に勉強したり、授業内容を話したりした



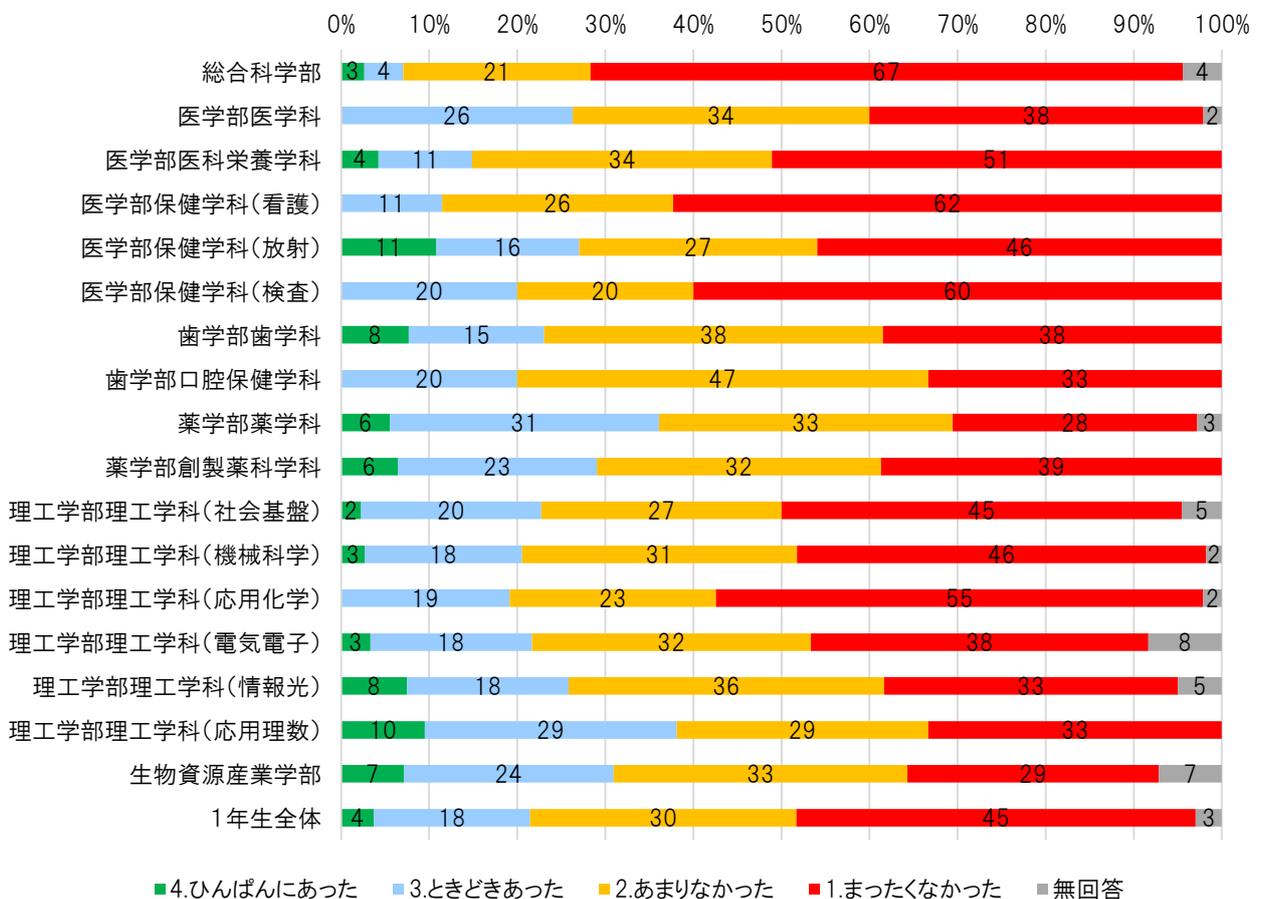
[25]授業中、教員の考え方や意見に異議を唱えた



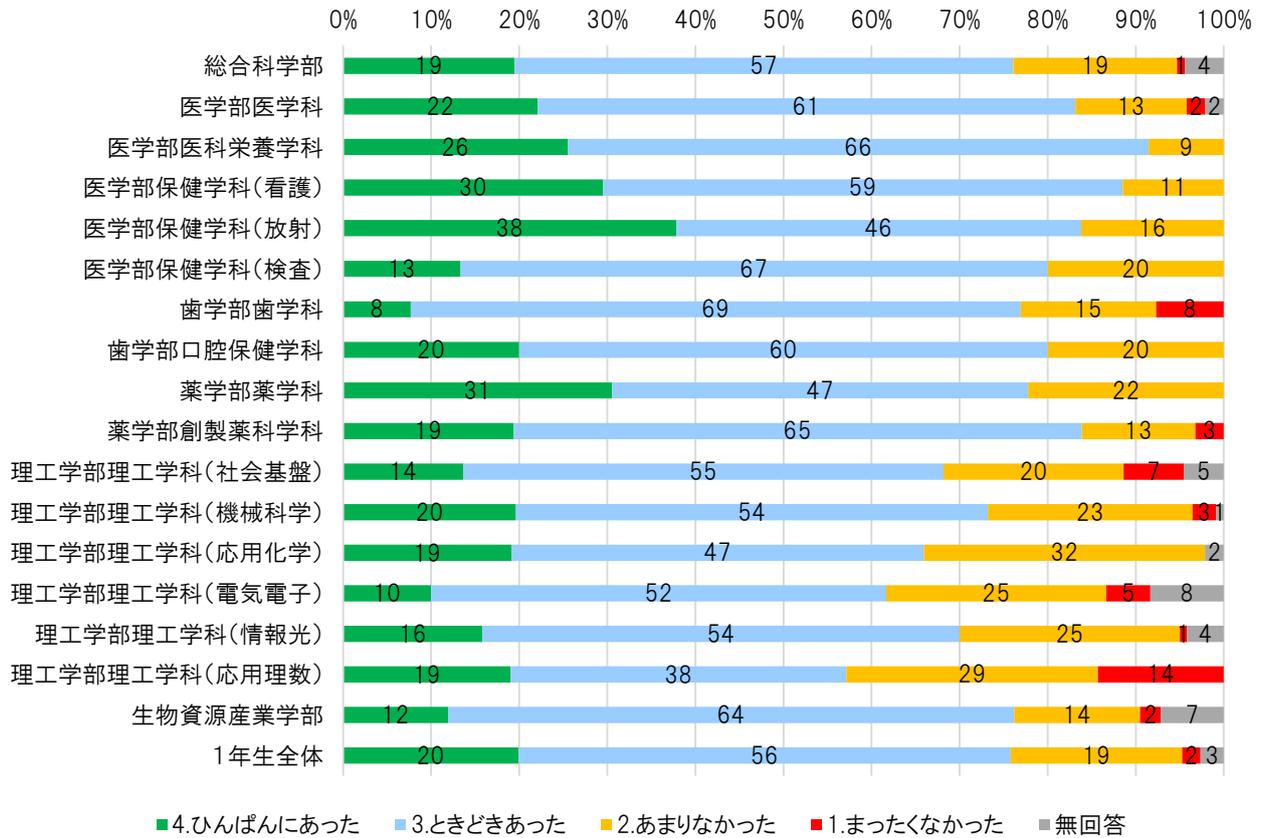
[26]授業を欠席した



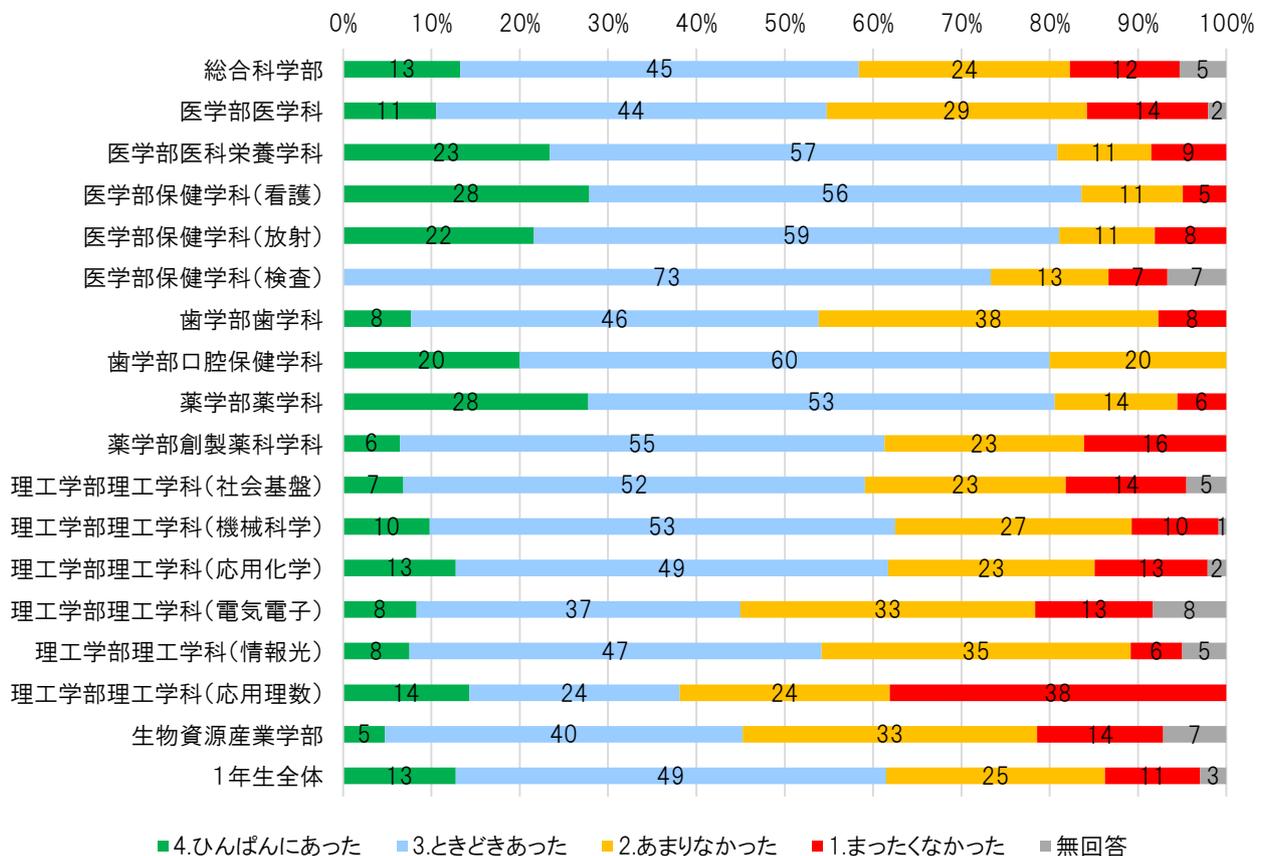
[27]授業に遅刻した



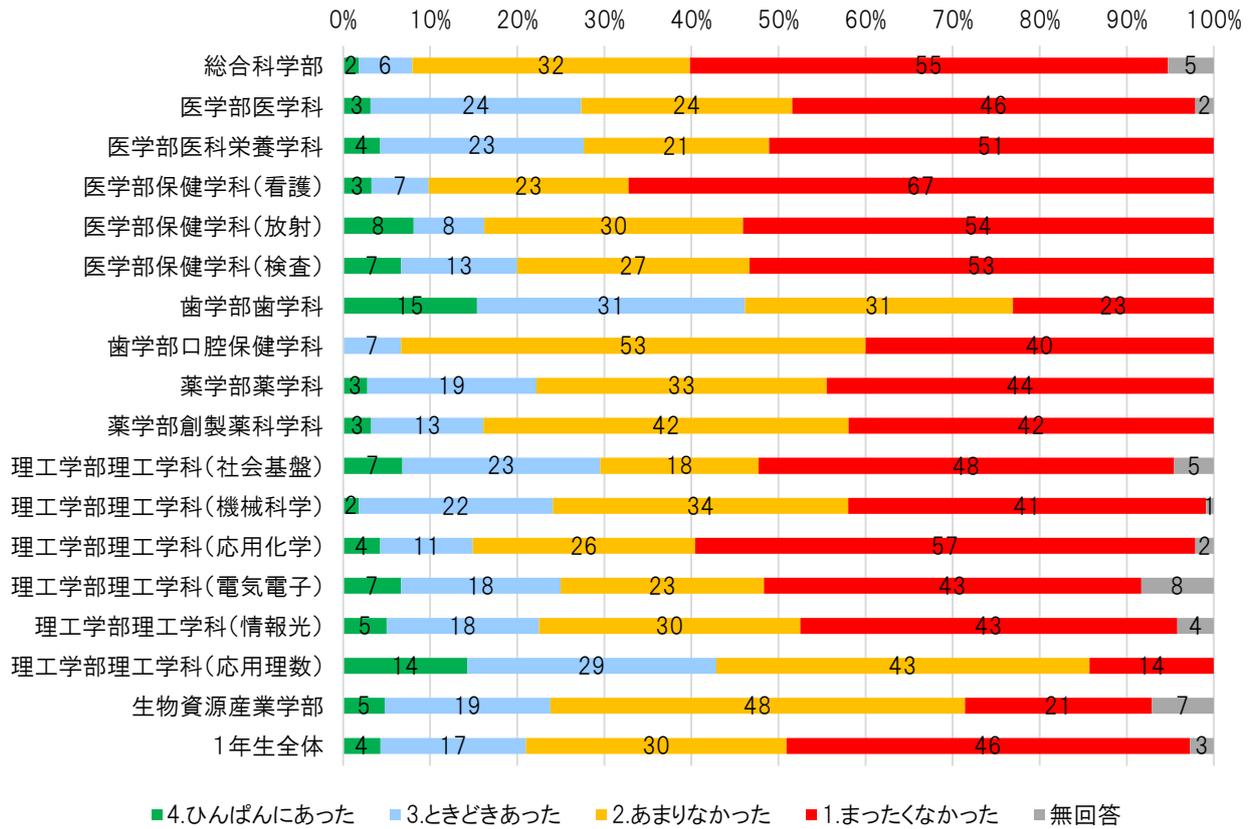
〔28〕授業をつまらなく感じた



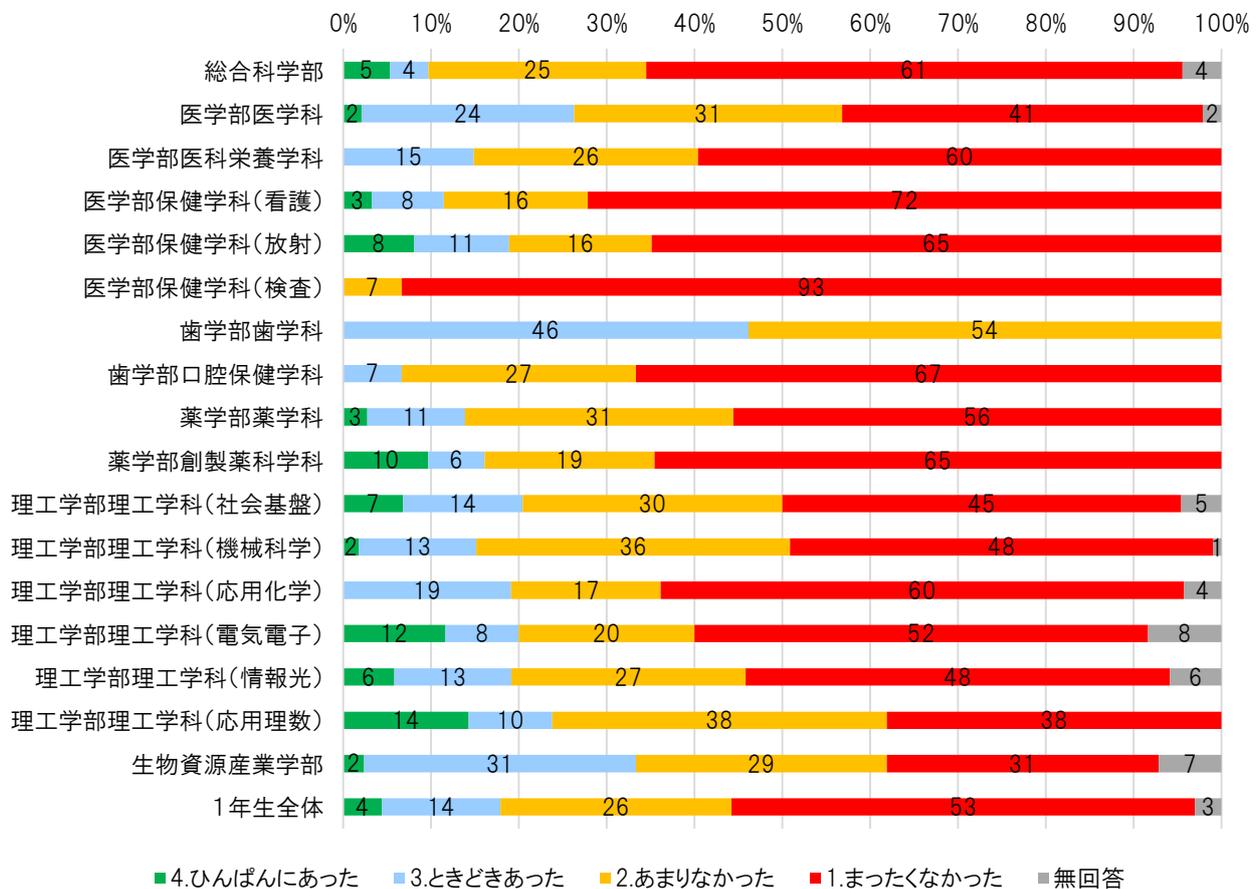
〔29〕授業中に居眠りをした



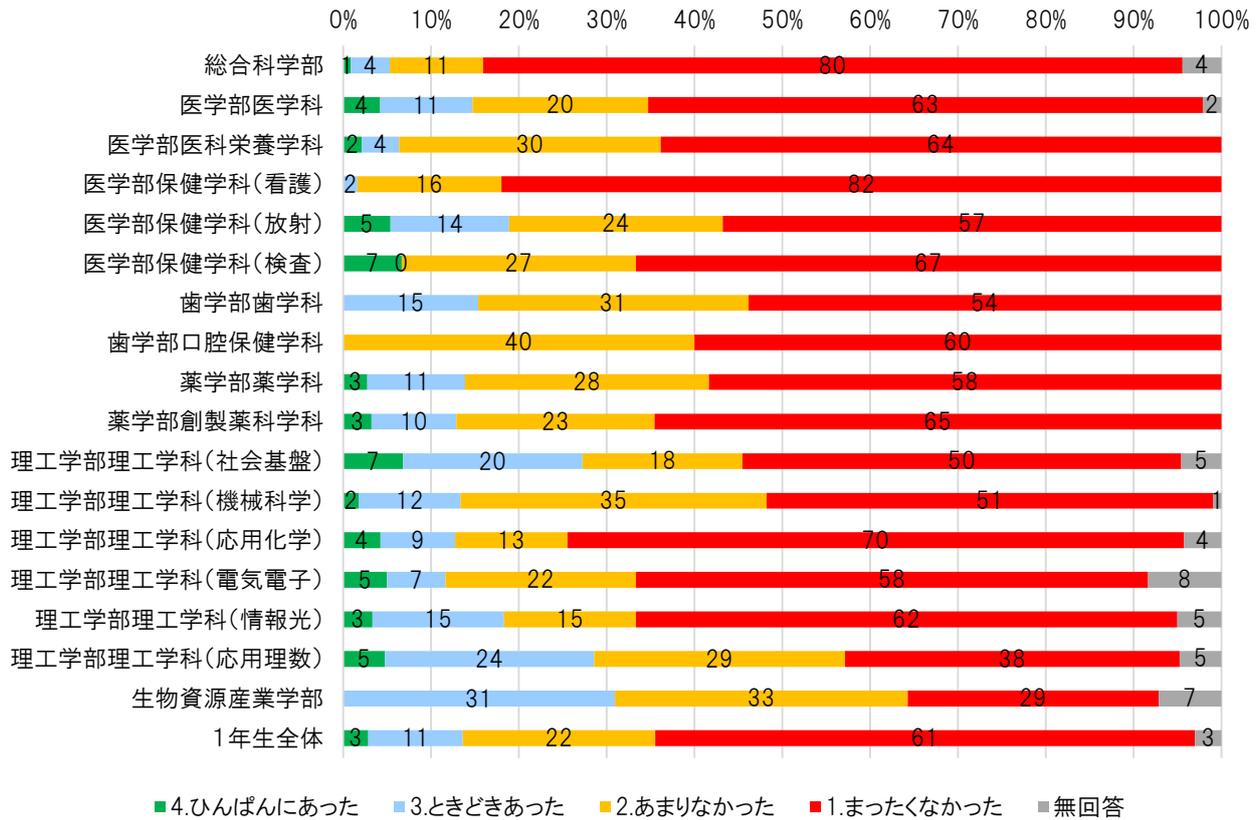
[30]教職員に学習に関する相談をしたり、学内の学習支援室を利用したりした



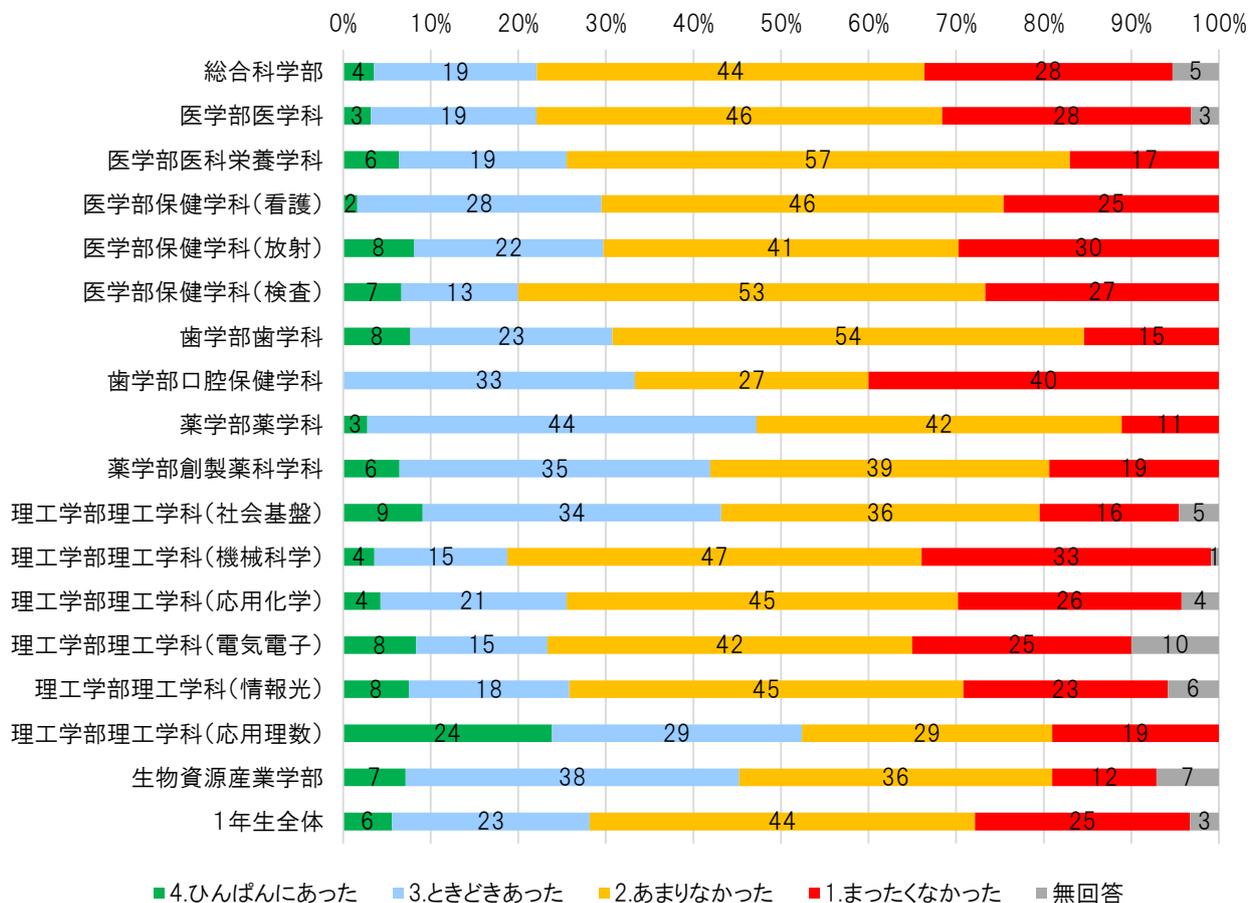
[31]単位とは関係のない教員あるいは学生による自主的な勉強会に参加した



[32]大学の教職員に将来のキャリアの相談をした(卒業後の進路や職業選択など)

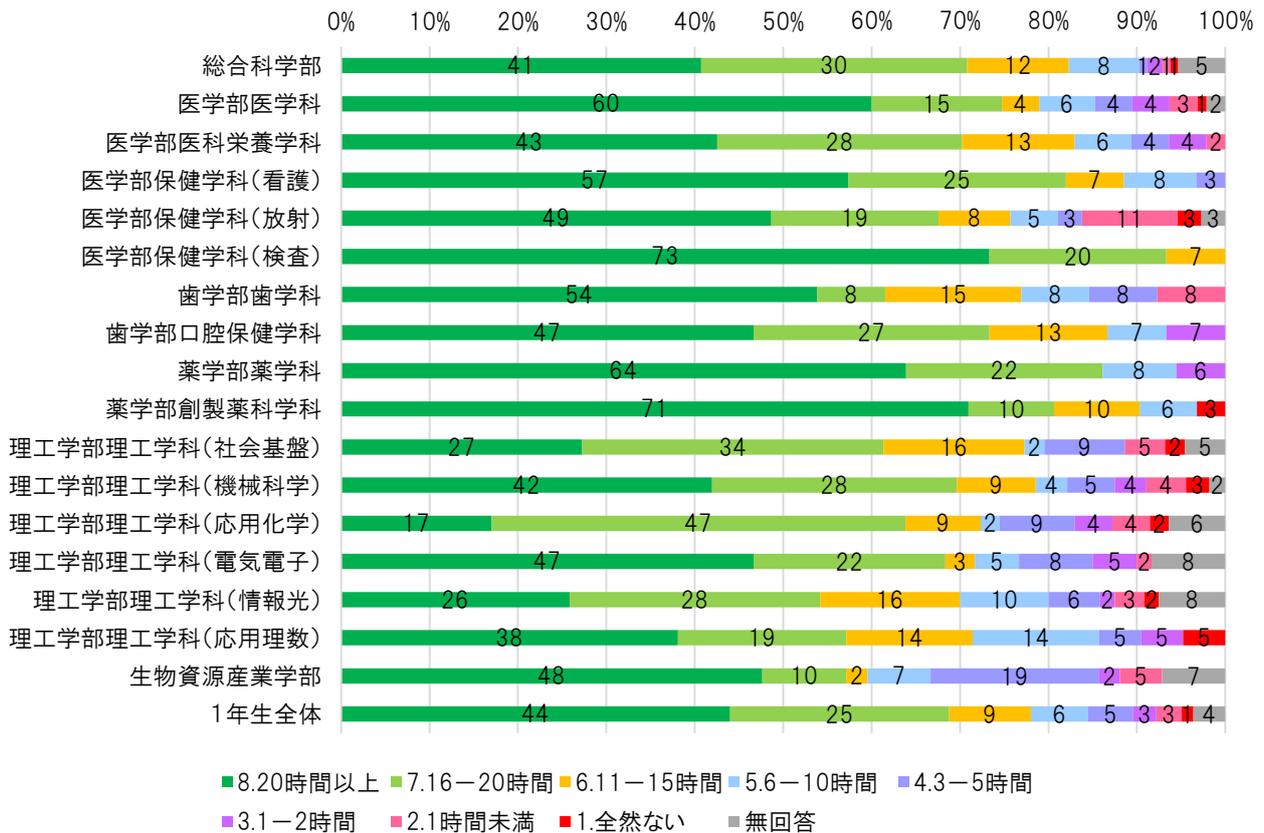


[33]教員に親近感を感じた

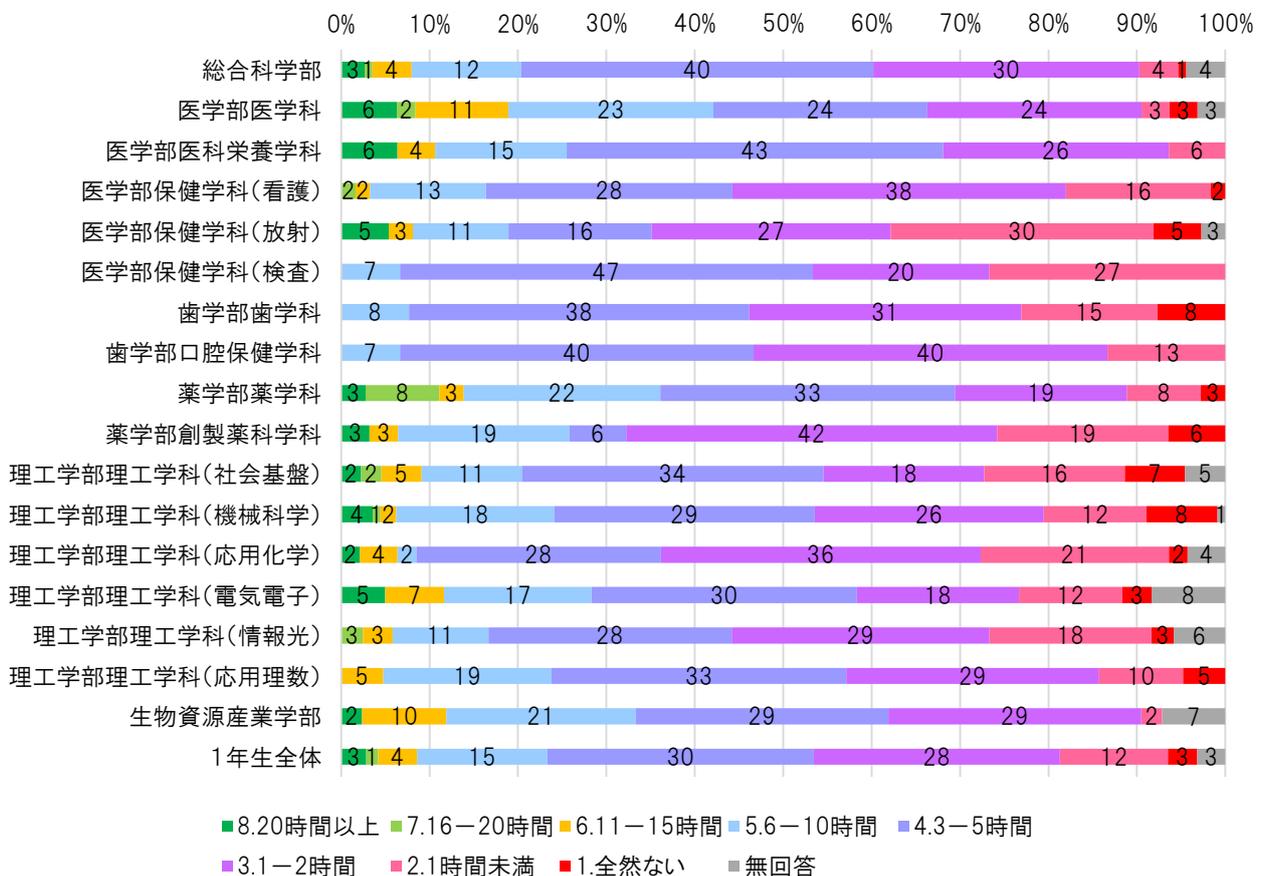


入学以来、あなたは次の活動に 1週間あたり どのくらいの時間を費やしましたか。

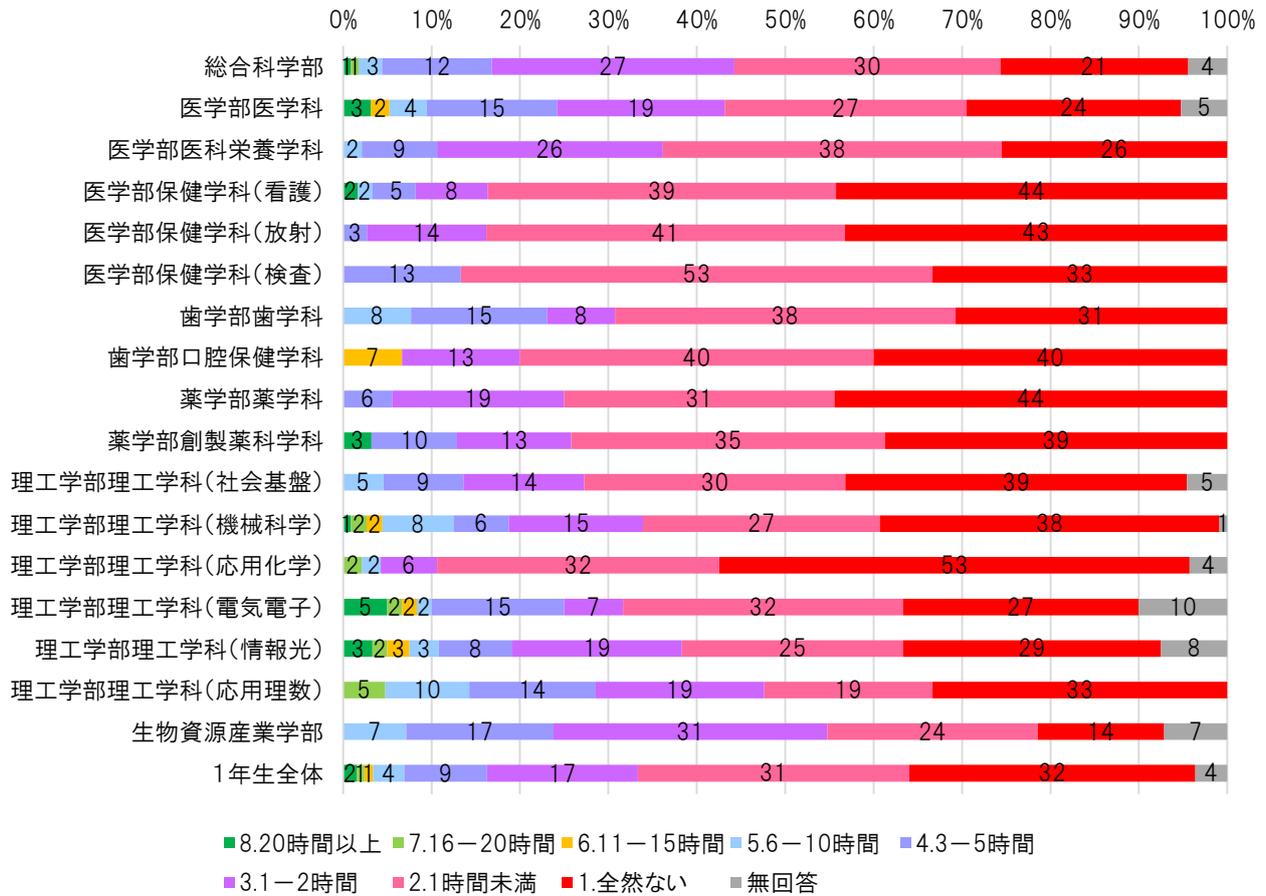
[34] 授業や実験に出る



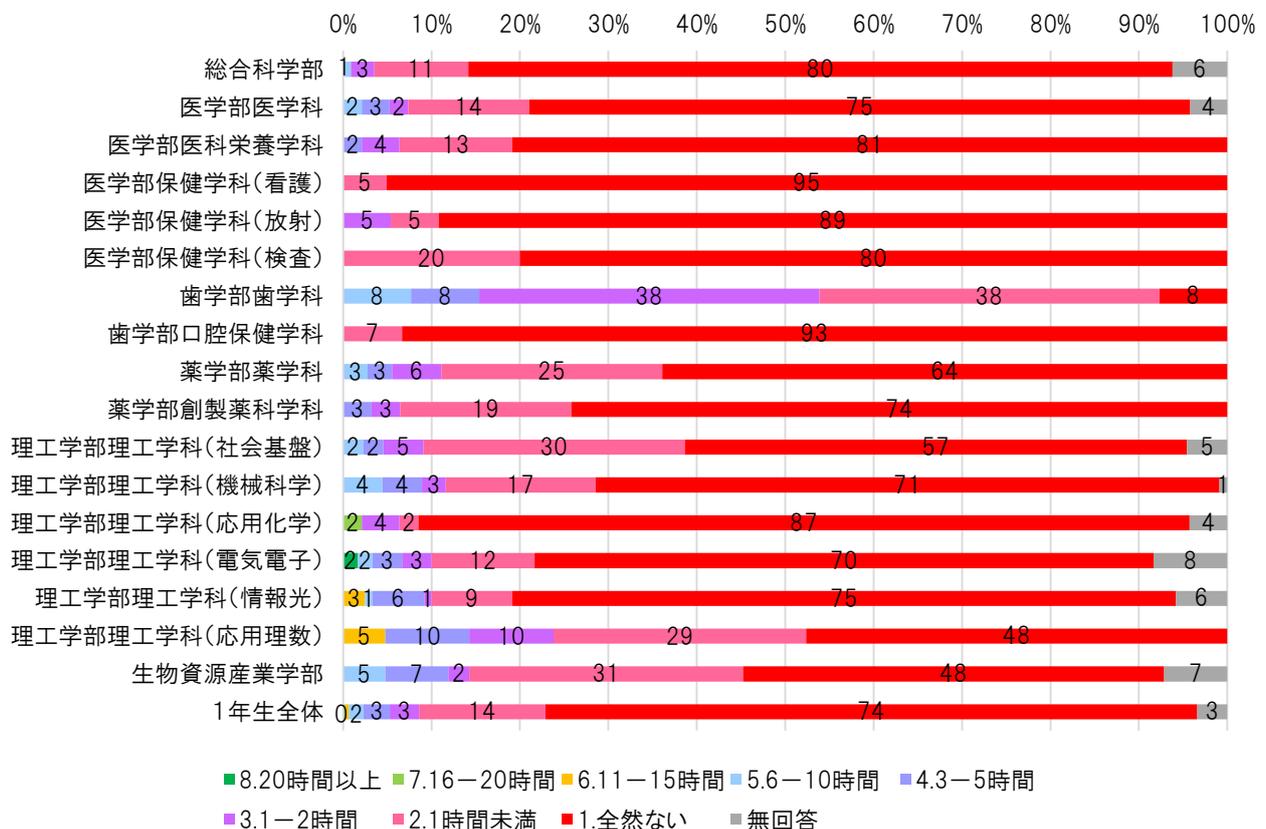
[35] 授業時間外に、授業課題や準備学習、復習をする



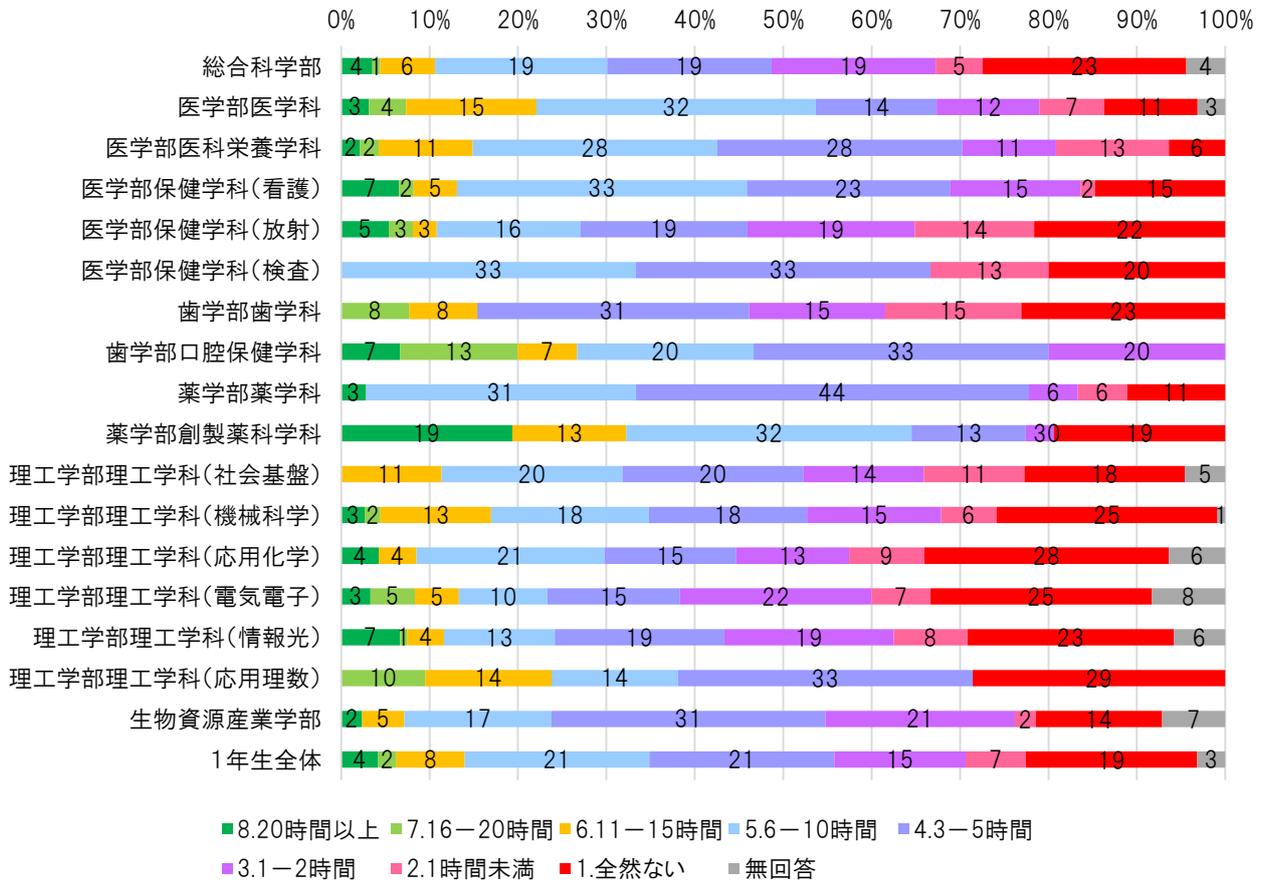
[36]授業時間外に、授業に関連しない勉強をする



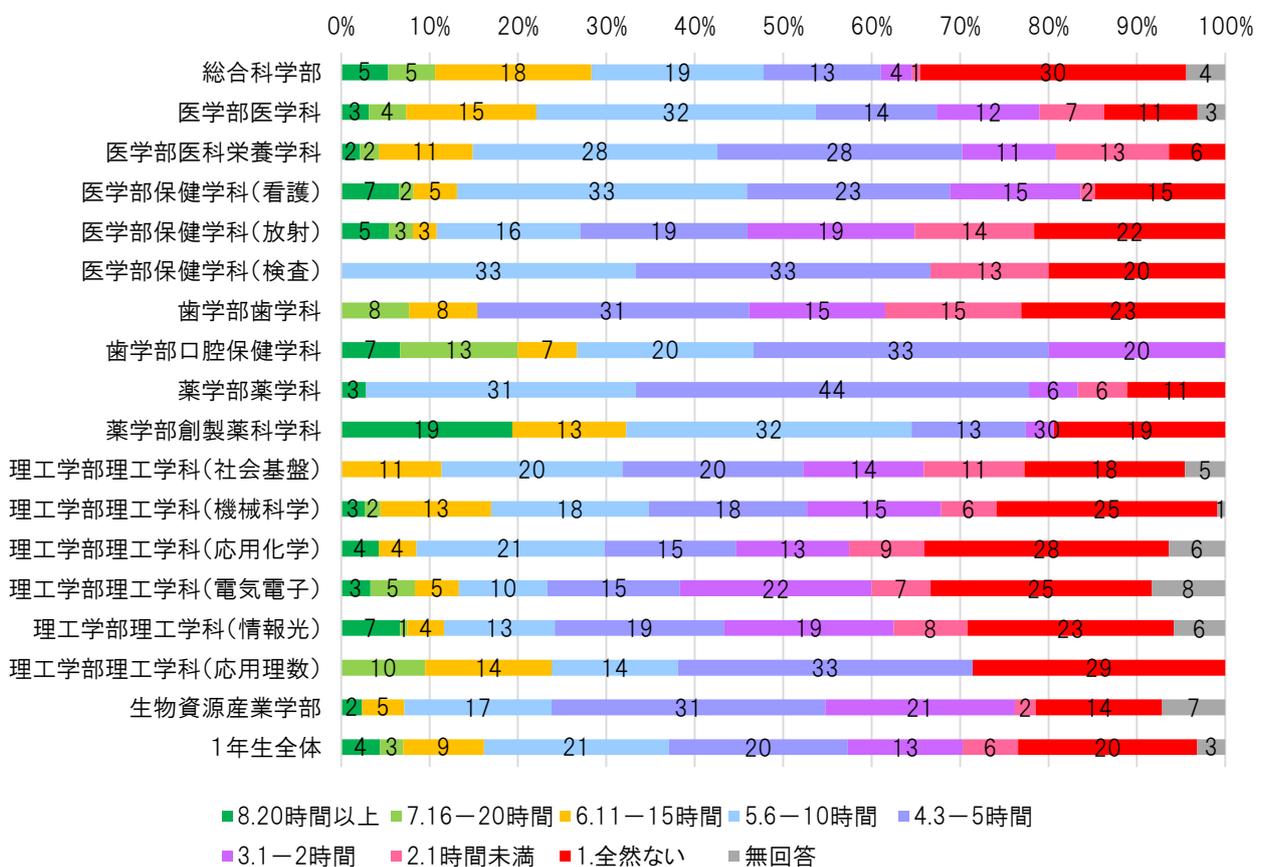
[37]オフィスアワーなど、授業時間外に教員と面談する



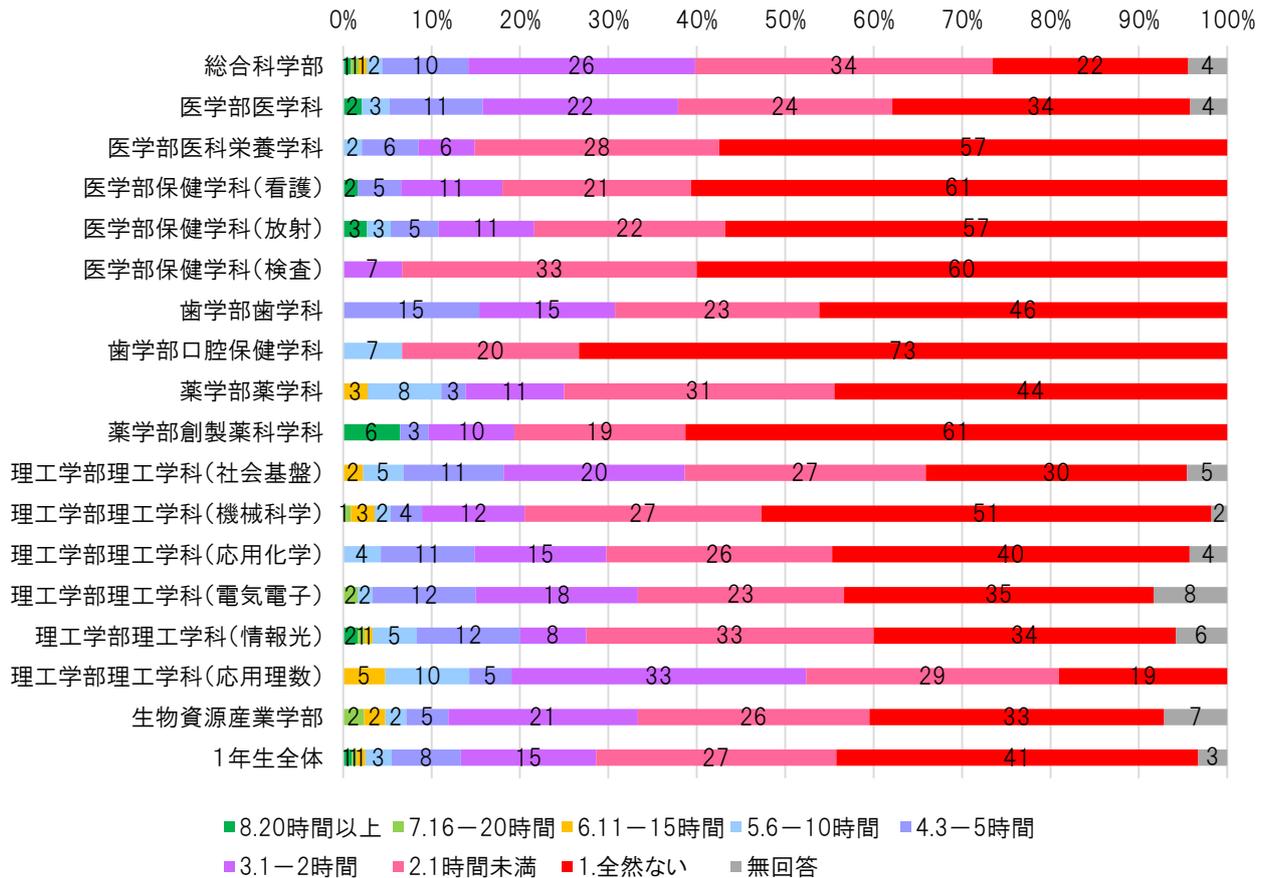
[38]部活動や同好会に参加する



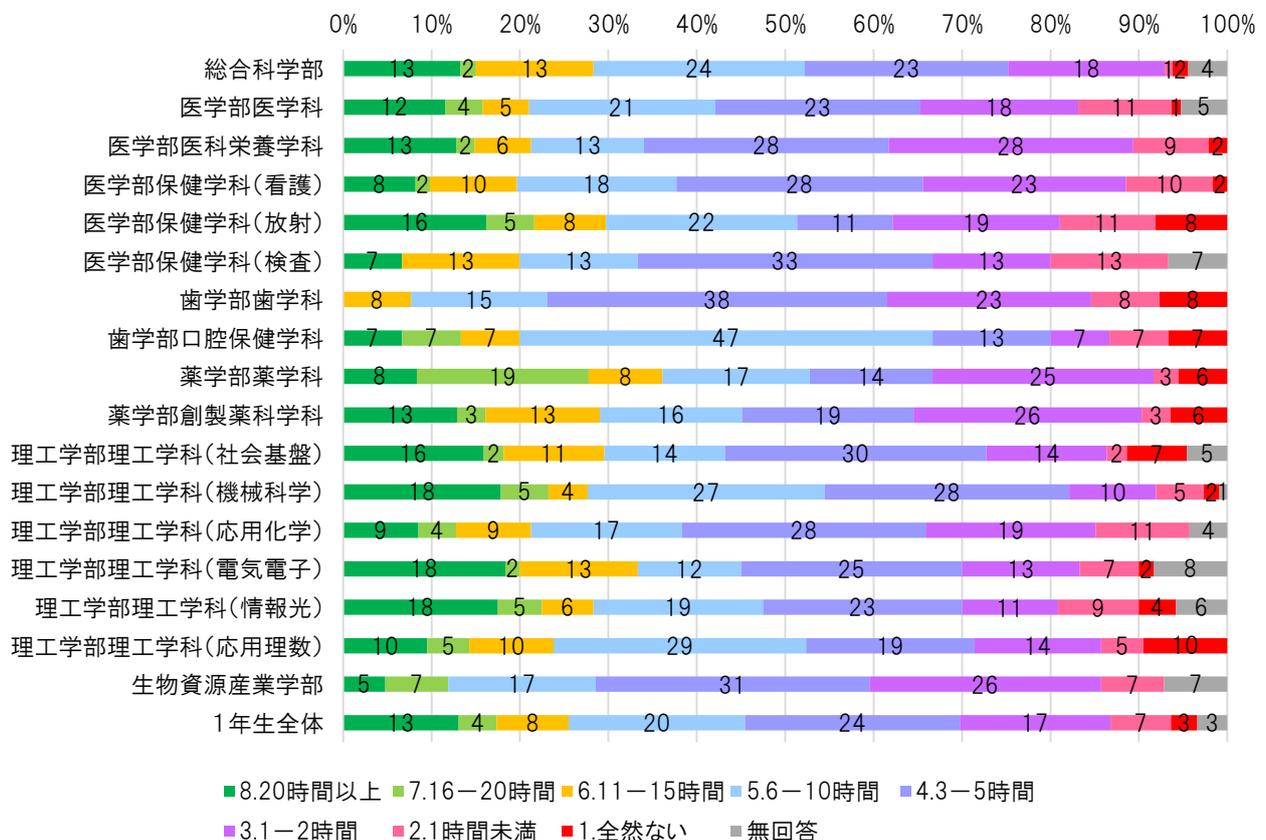
[39]大学外でアルバイトや仕事をする



[40]読書をする(マンガ・雑誌を除く)

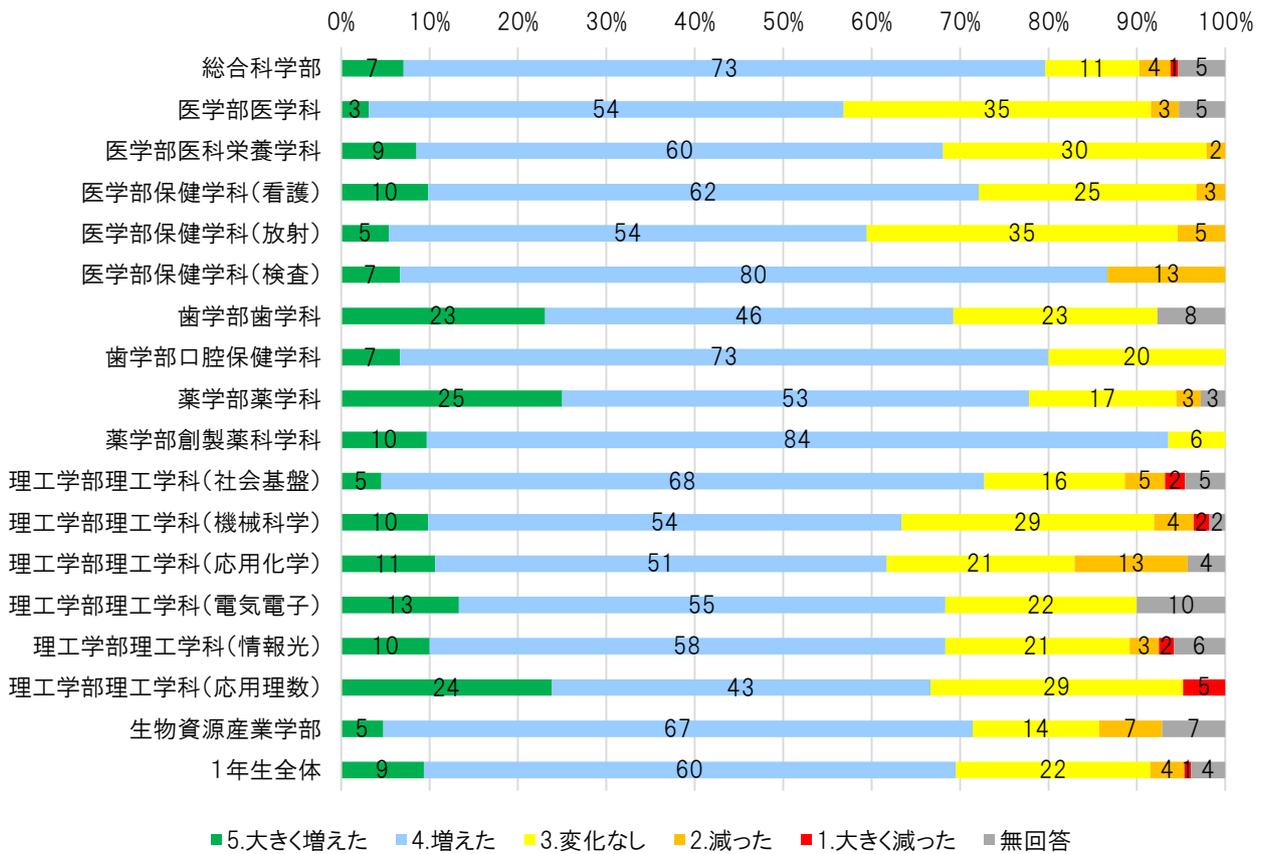


[41]個人的な趣味活動をする(テレビやゲーム、映画鑑賞など)

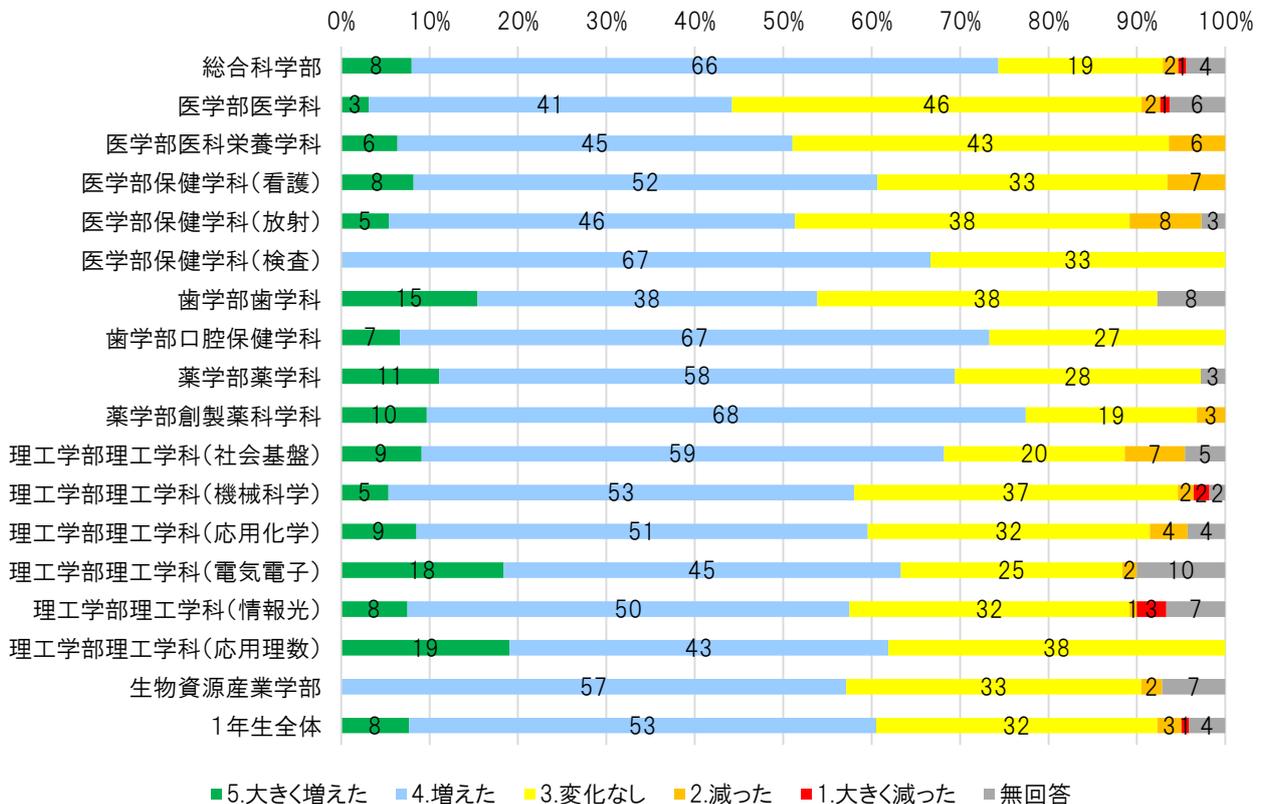


入学した時点と比べて、あなたの能力や知識はどのように変化しましたか。

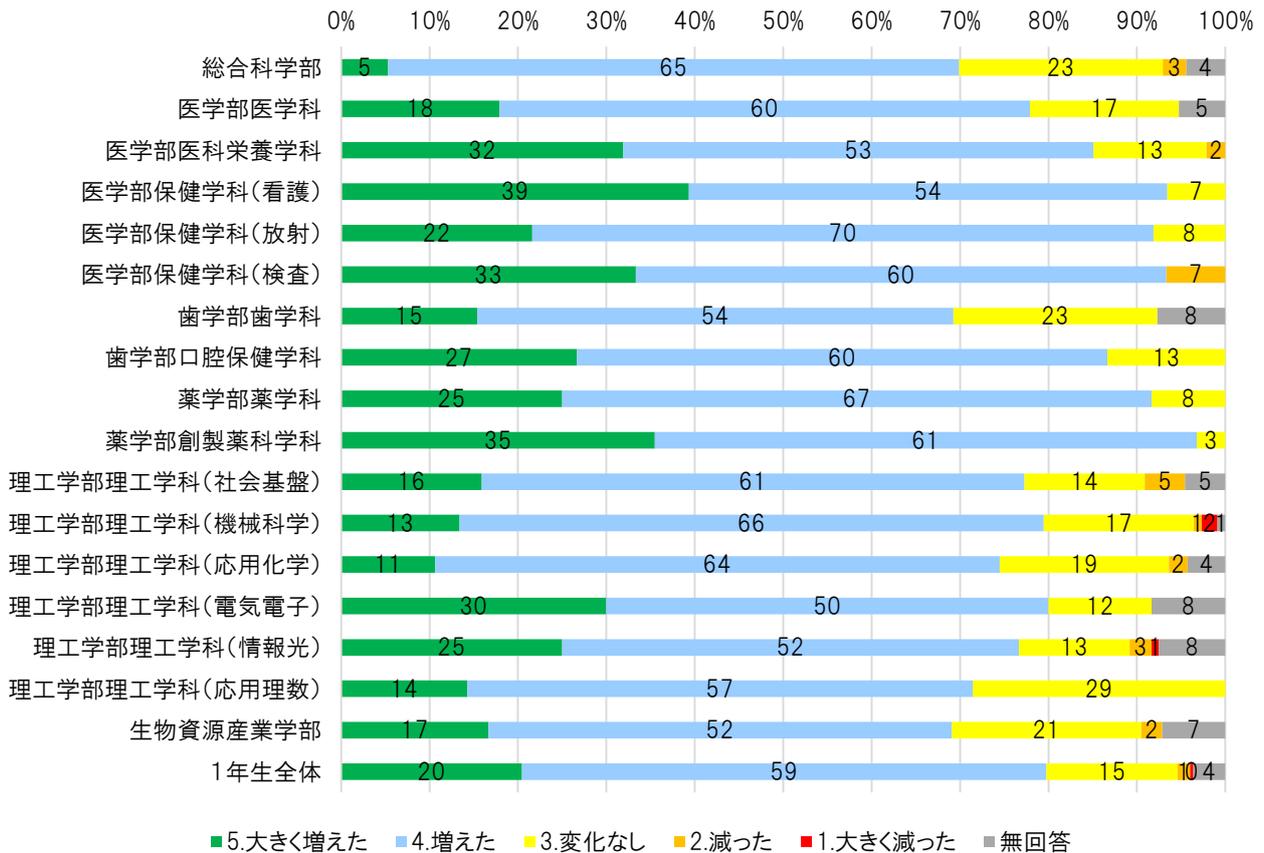
[42]一般的な教養



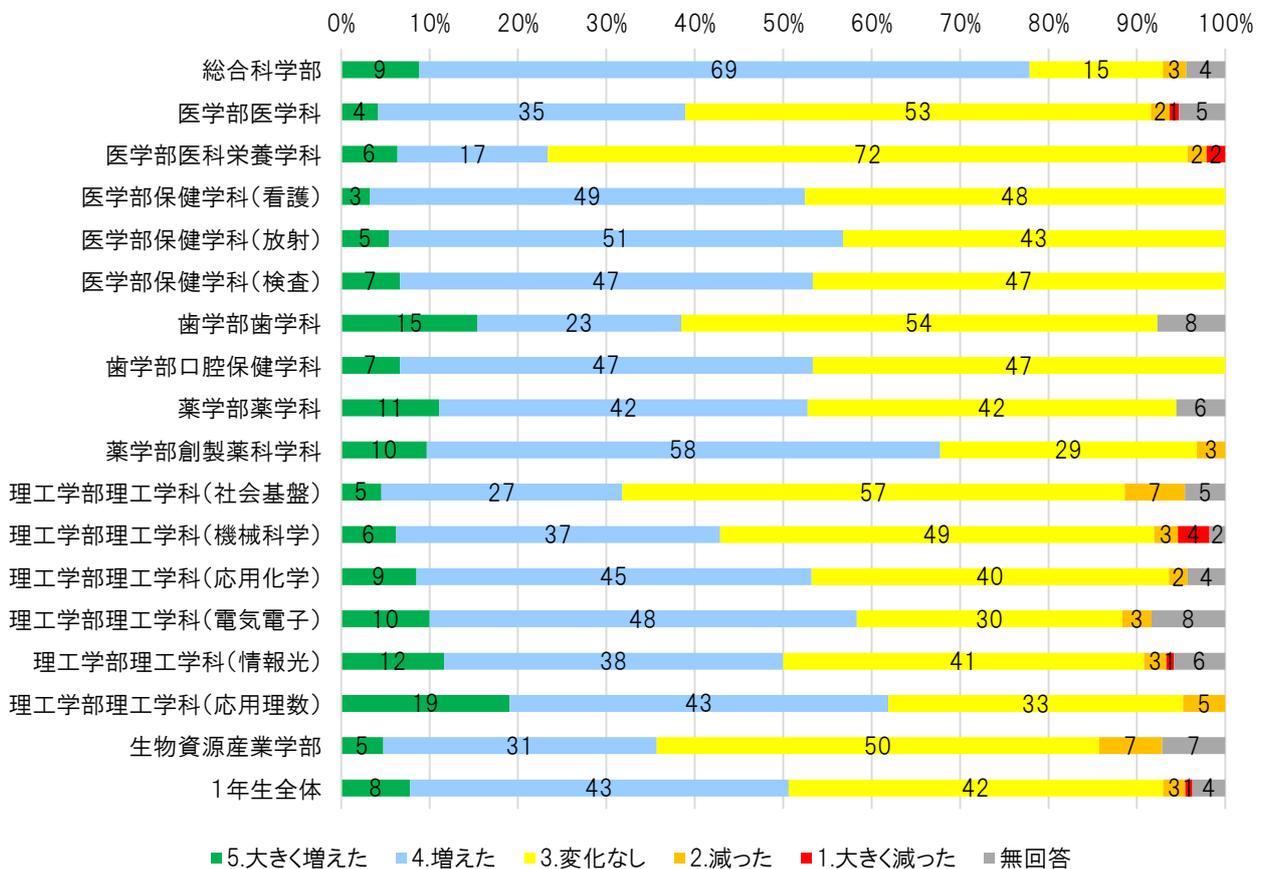
[43]分析力や問題解決能力



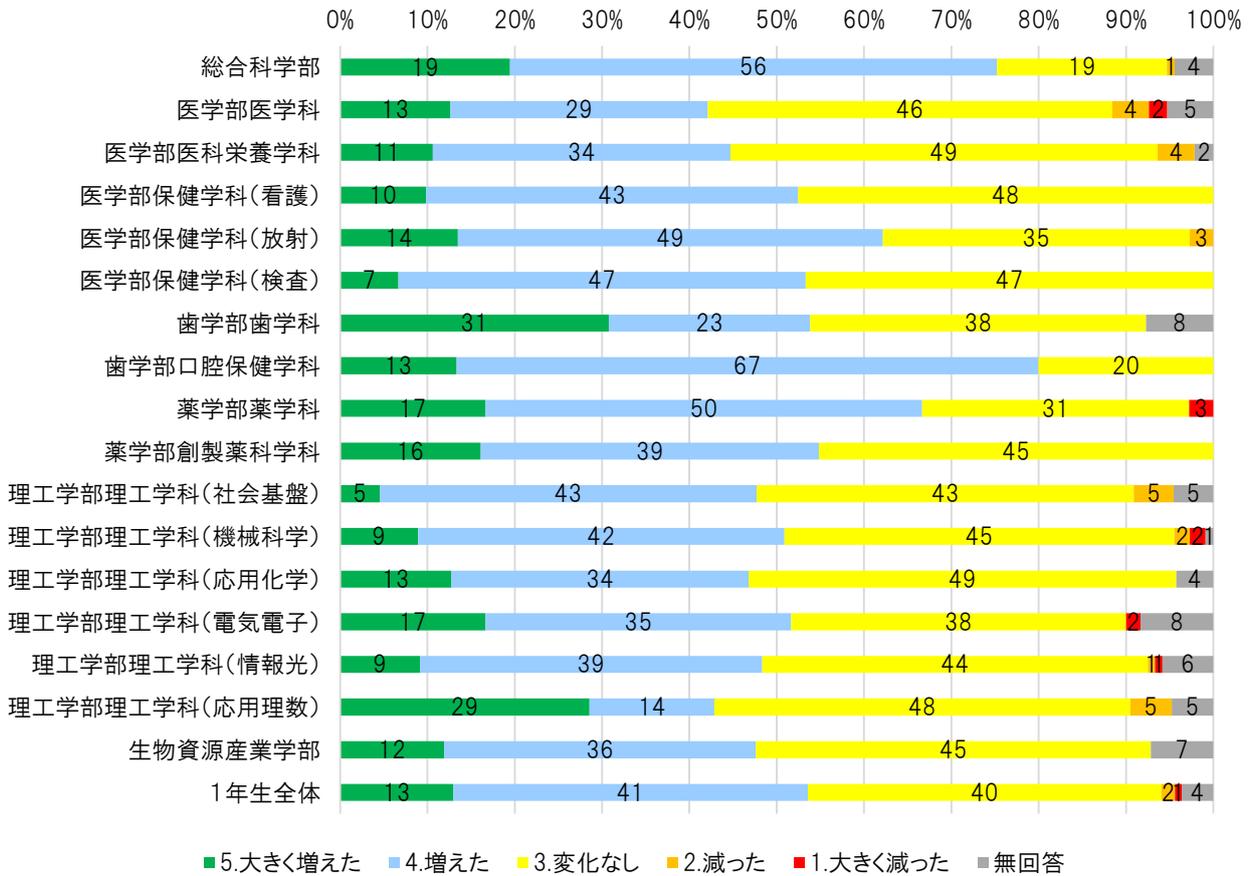
[44] 専門分野や学科の知識



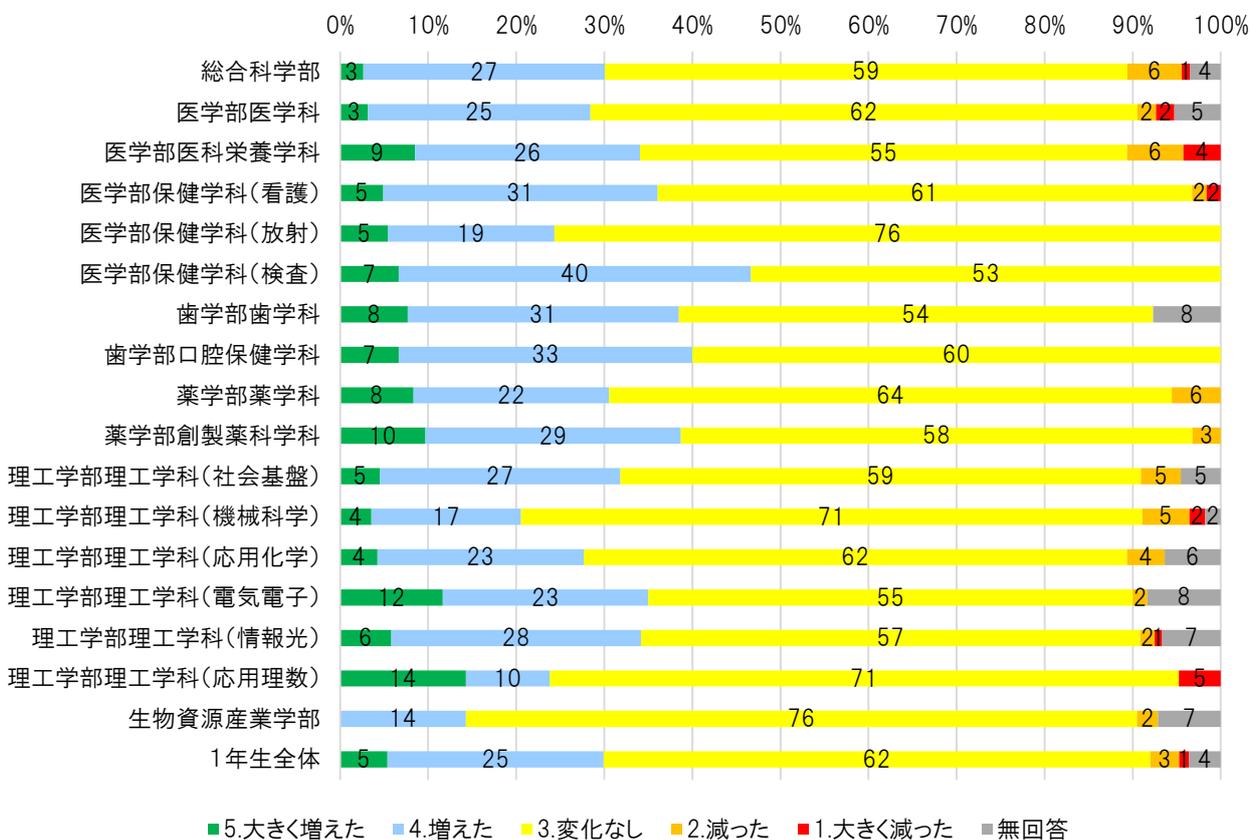
[45] 批判的に考える能力



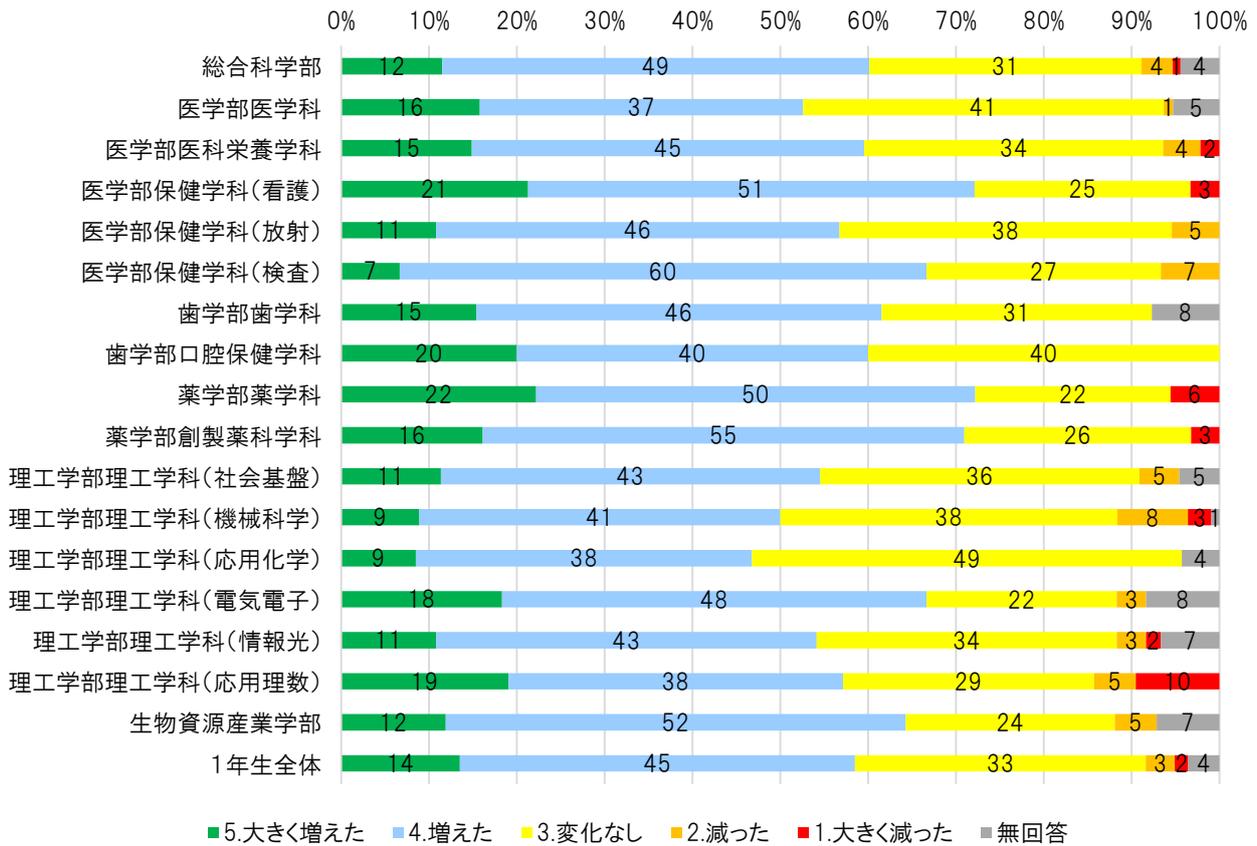
[46]異文化の人々に関する知識



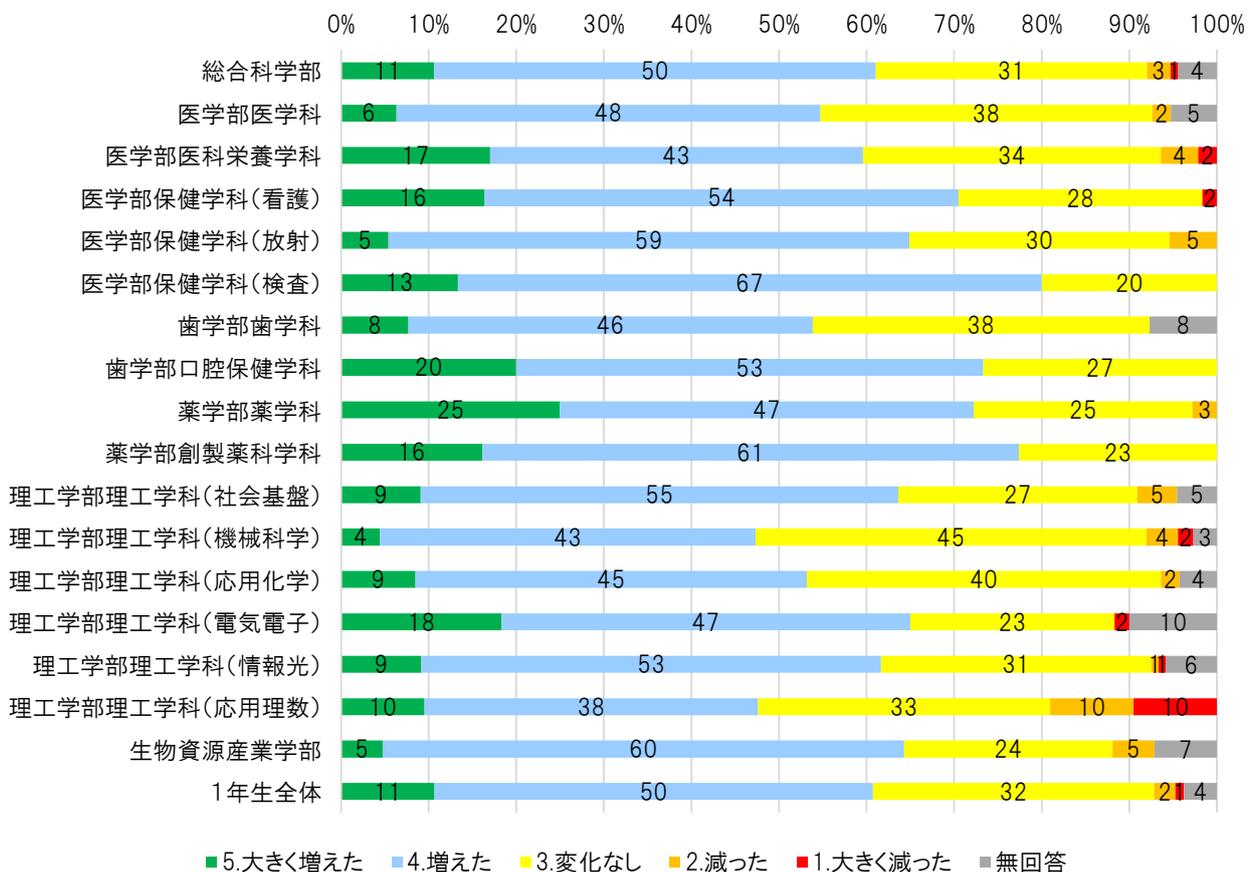
[47]リーダーシップの能力



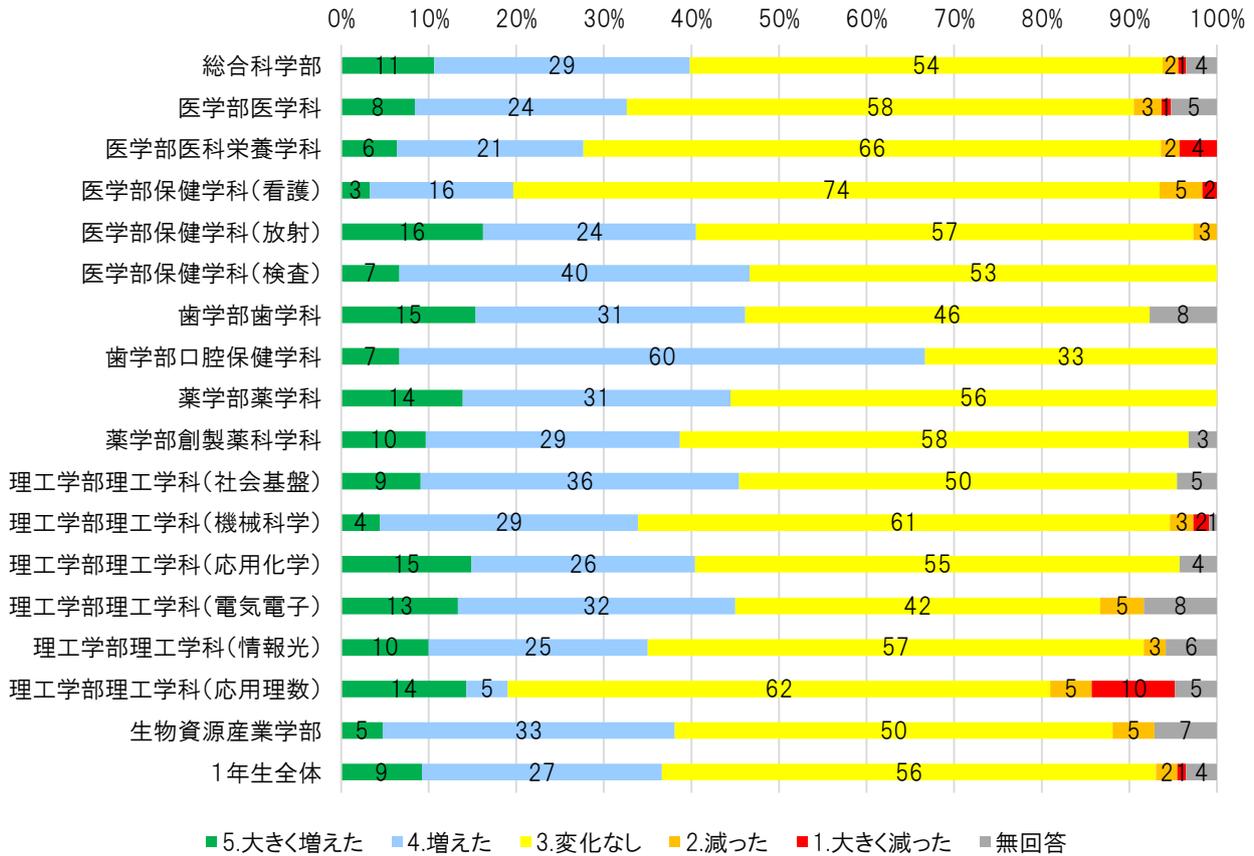
[48]人間関係を構築する能力



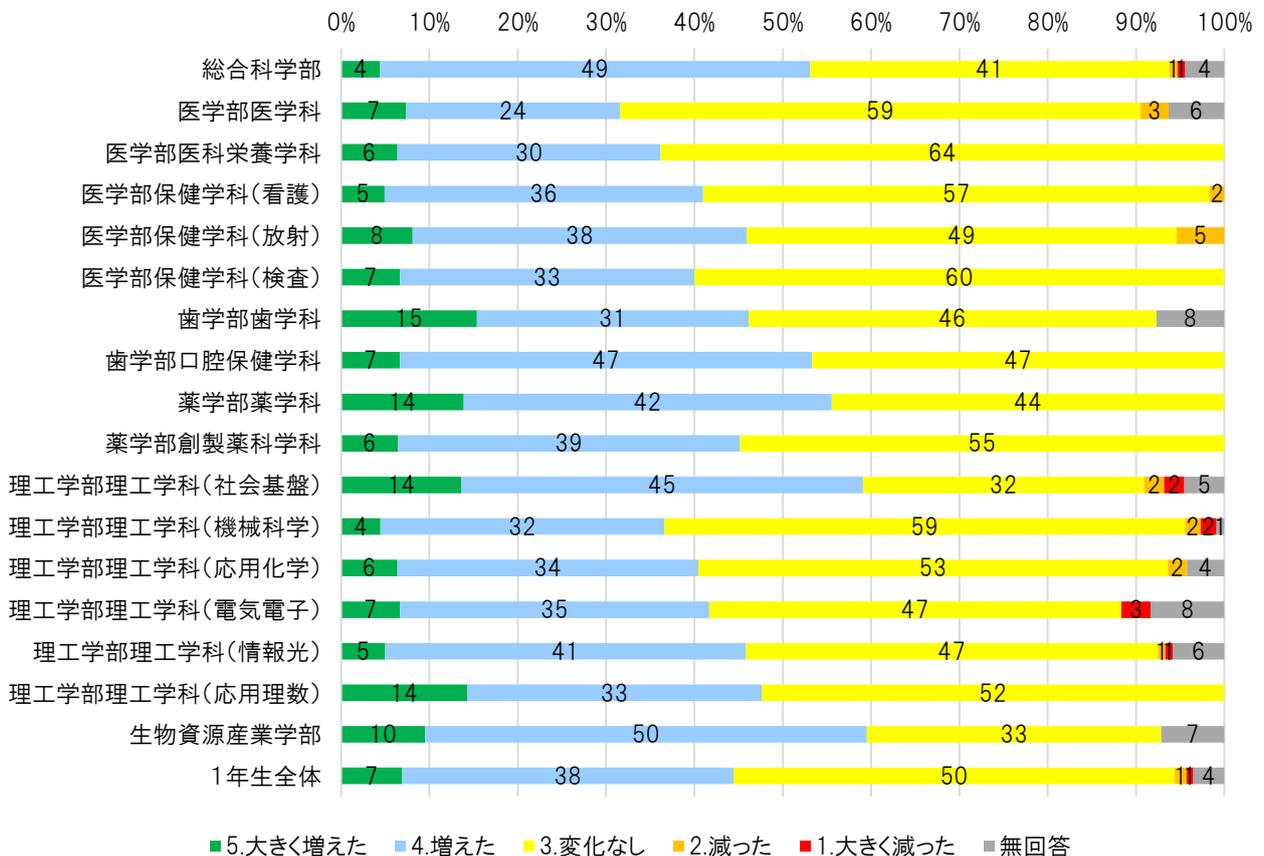
[49]他の人と協力して物事を遂行する能力



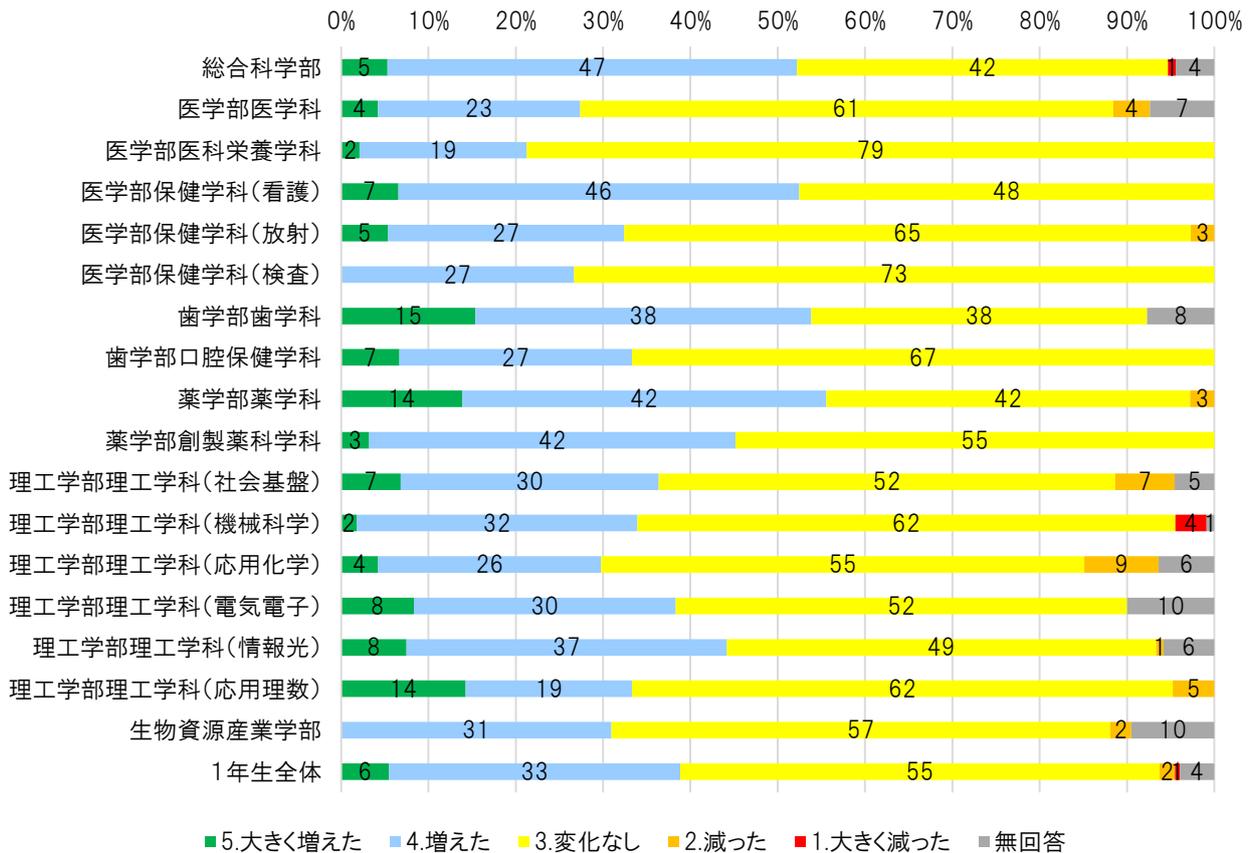
[50]異文化の人々と協力する能力



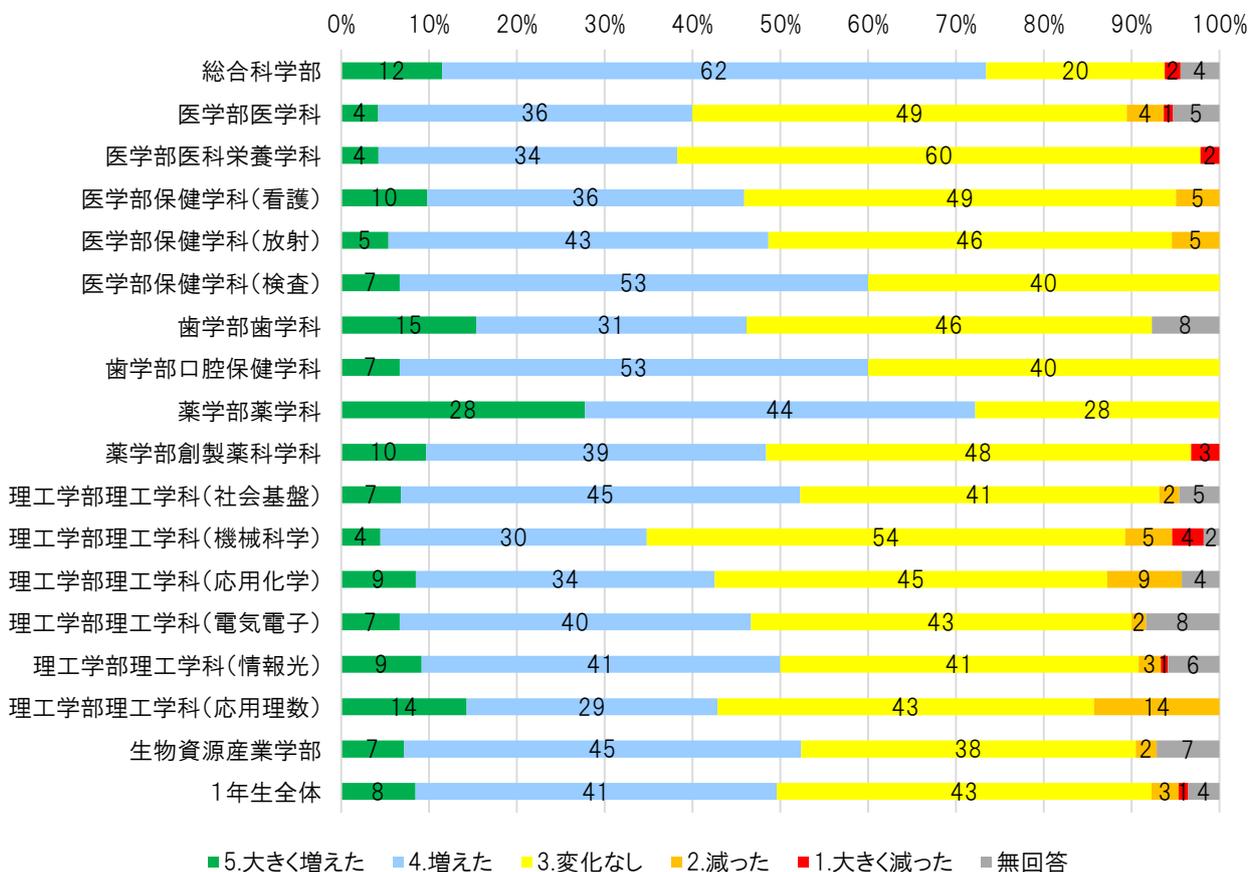
[51]地域社会が直面する問題を理解する能力



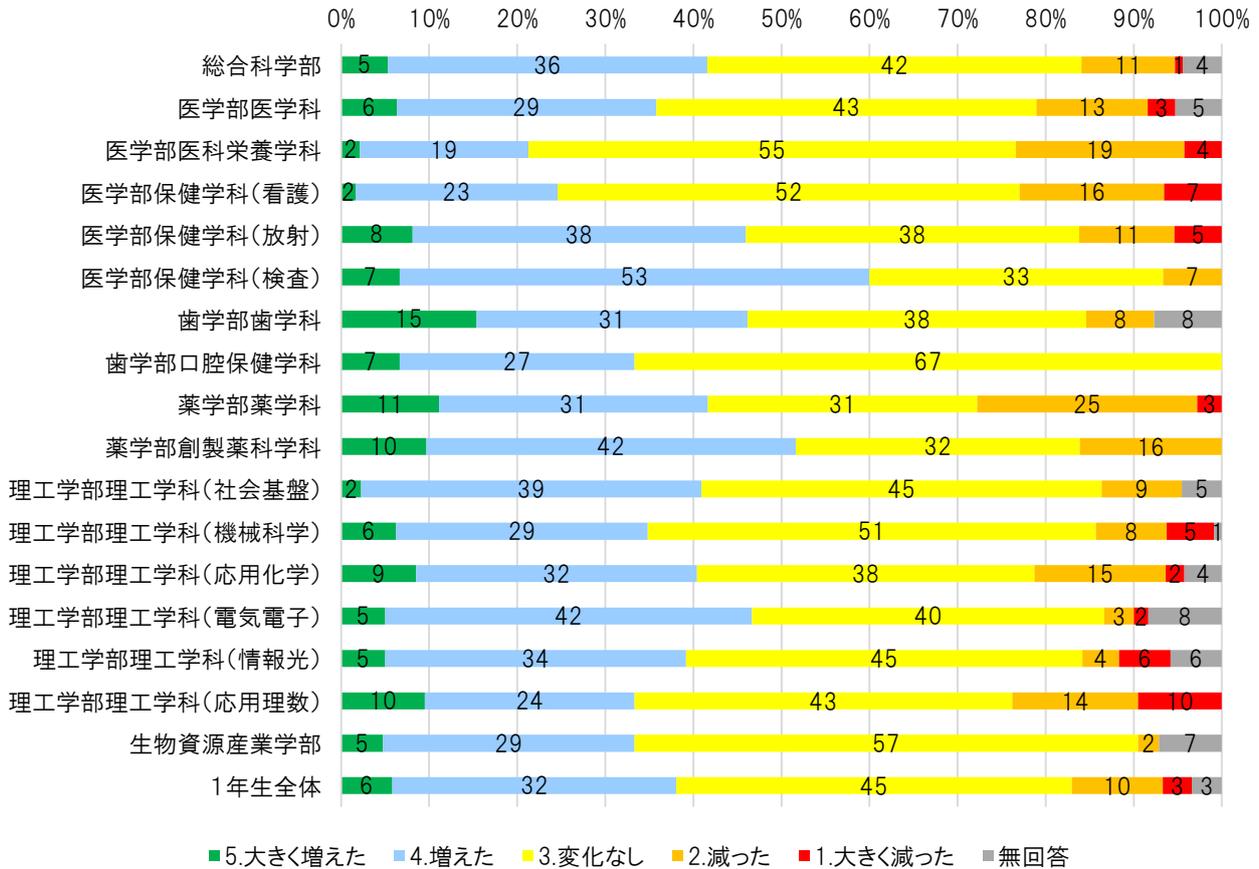
[52]国民が直面する問題を理解する能力



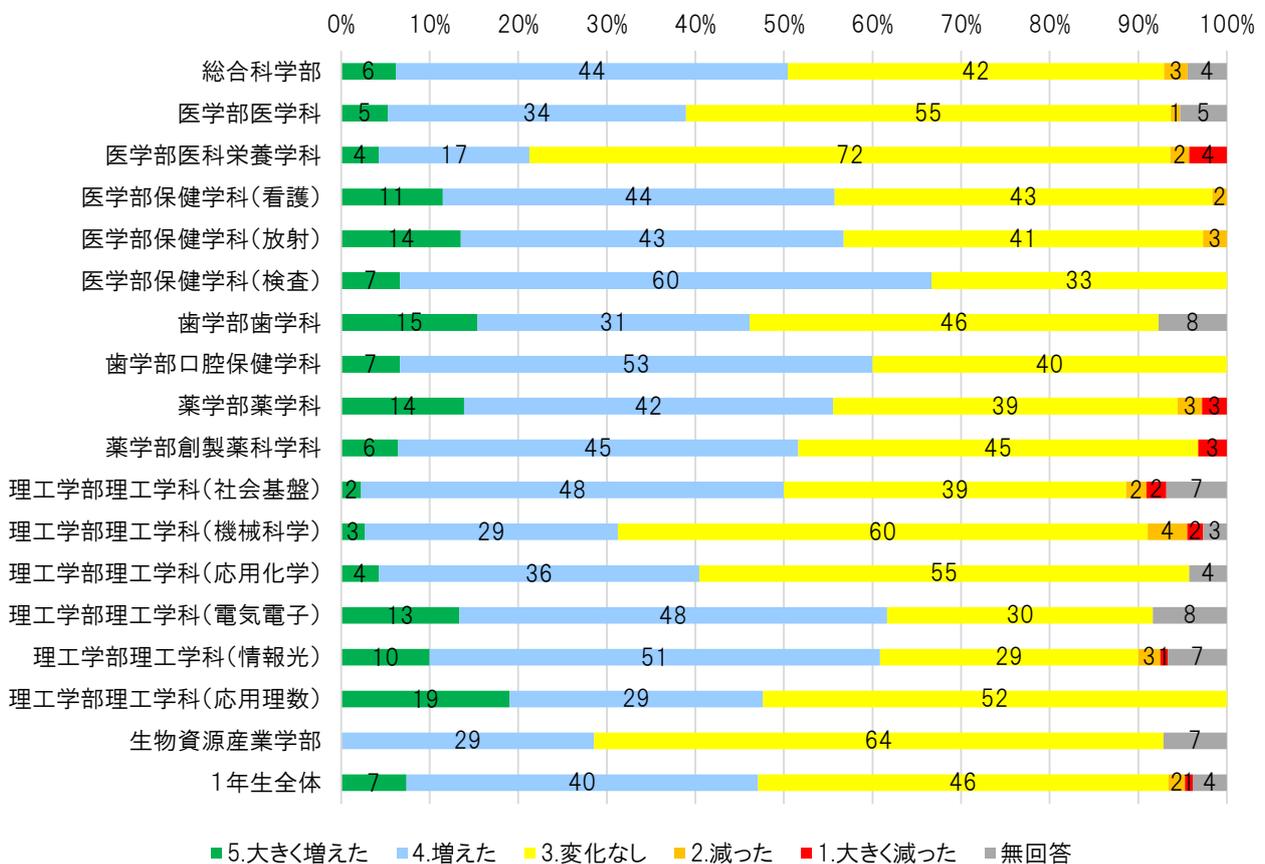
[53]文章表現の能力



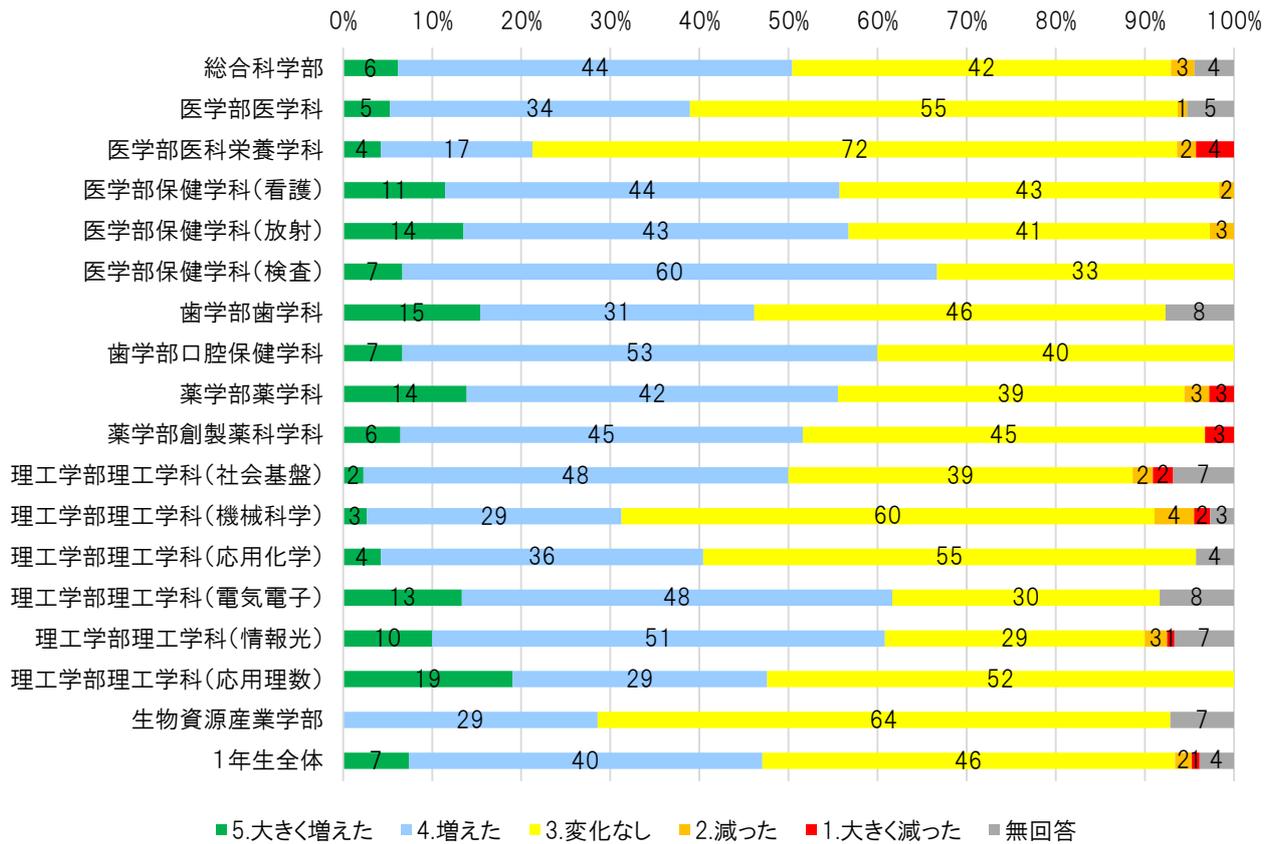
[54]外国語の運用能力



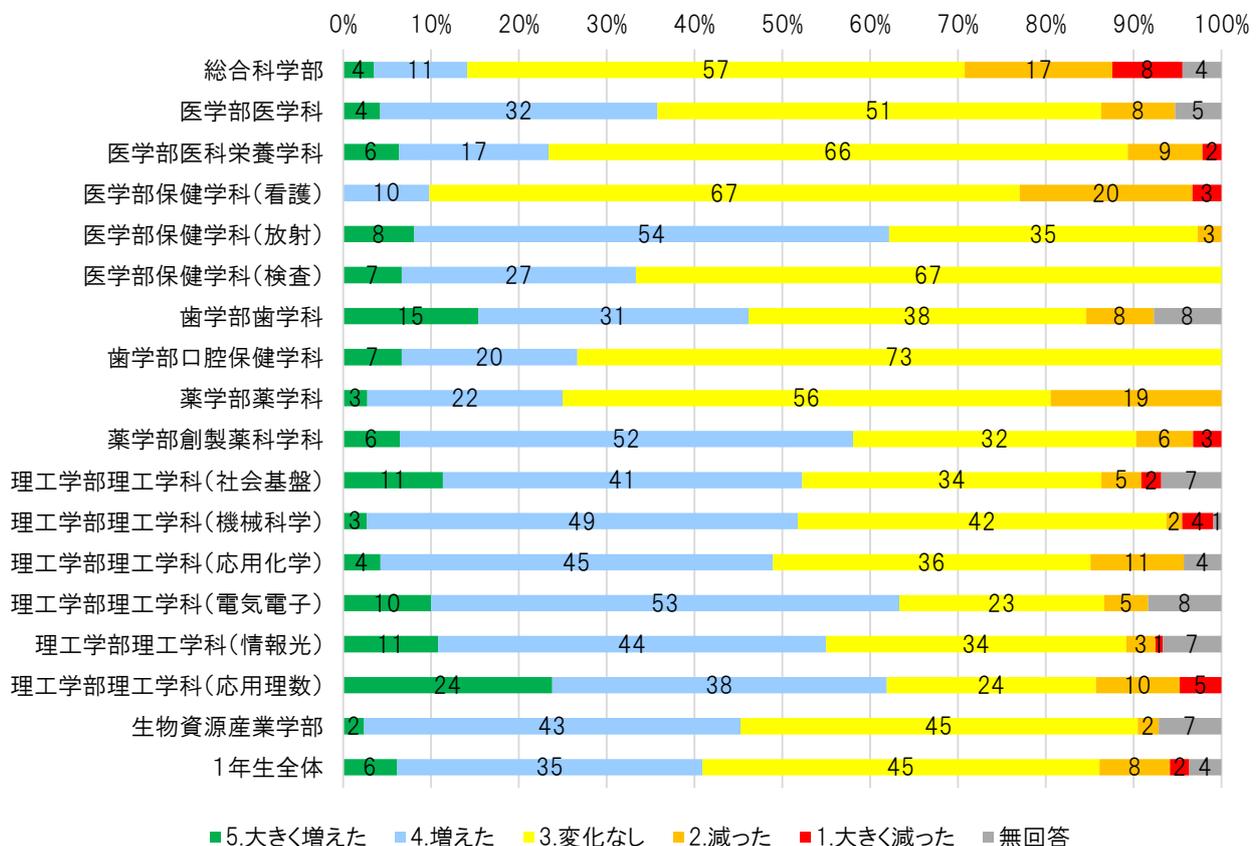
[55]コミュニケーションの能力



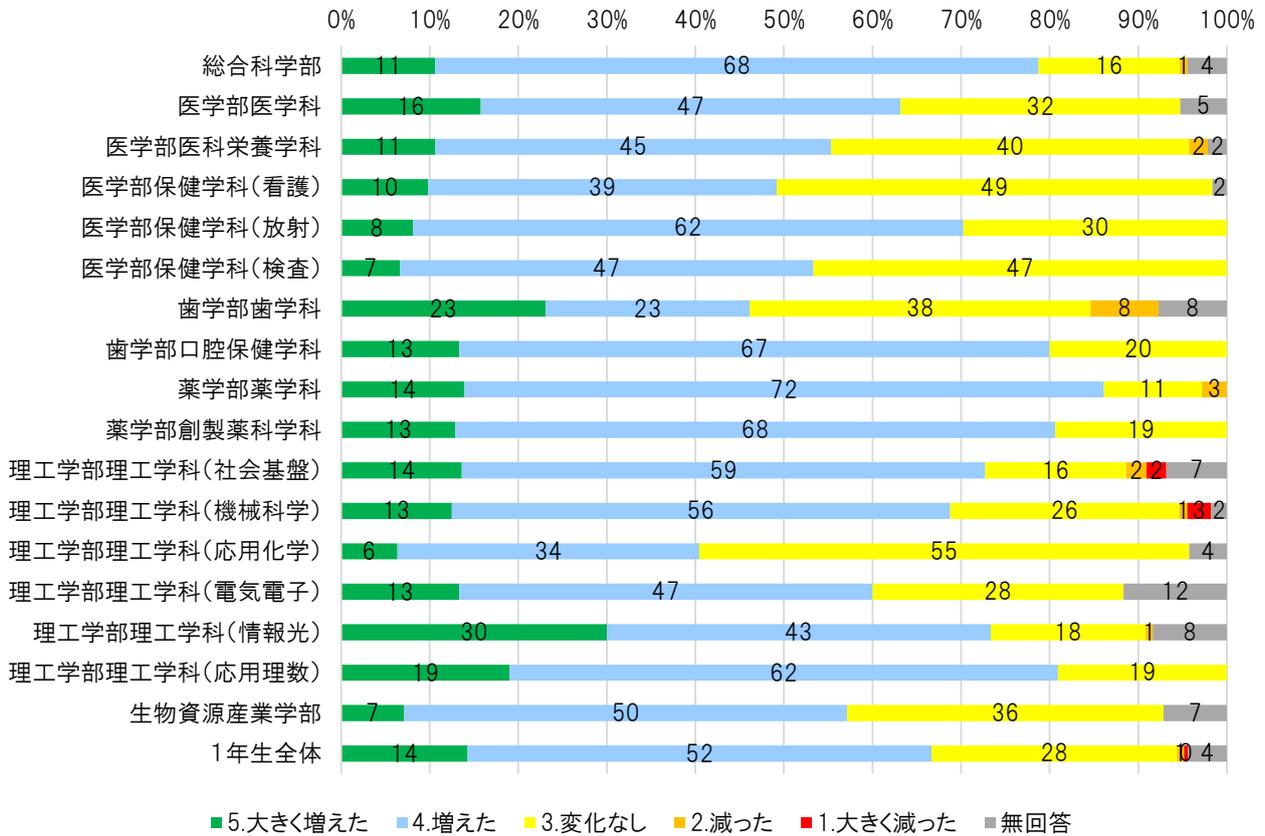
[56]プレゼンテーションの能力



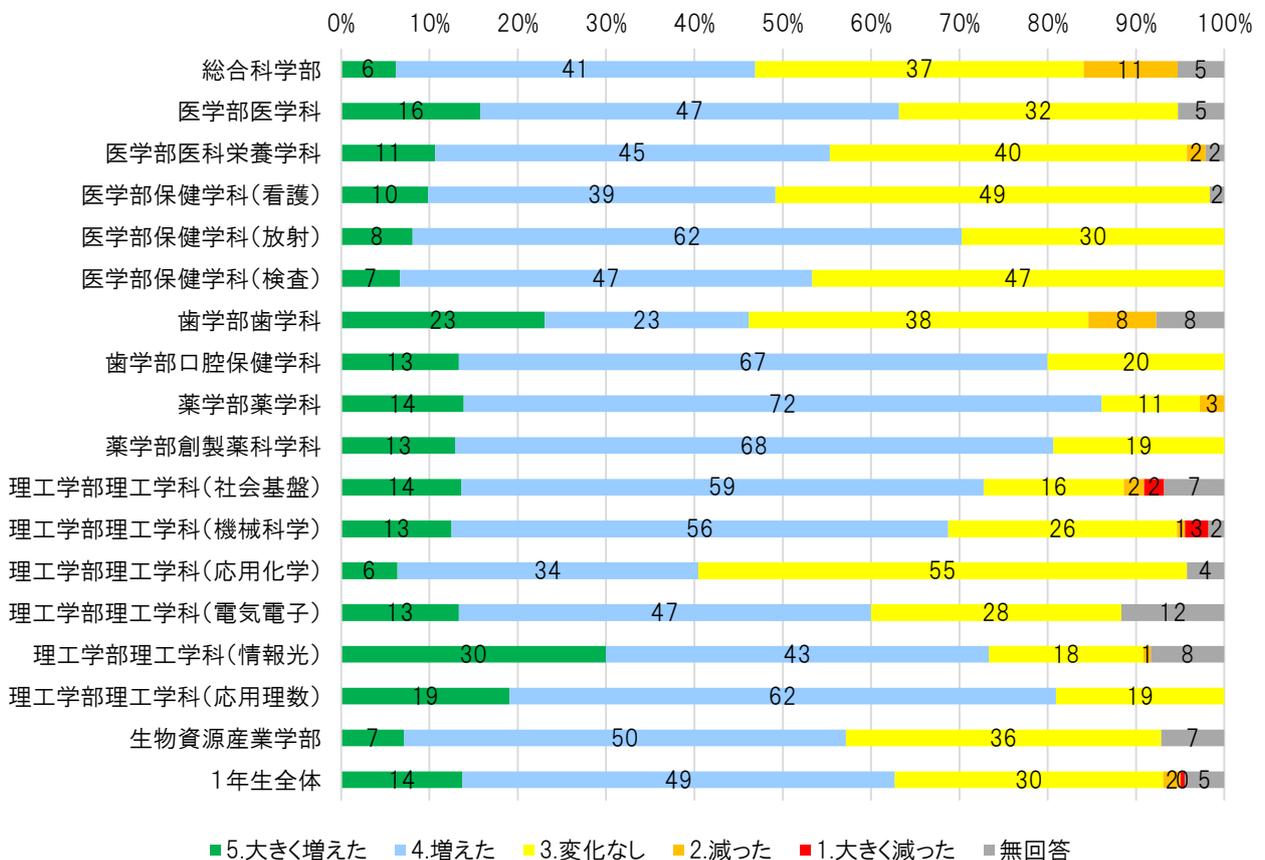
[57]数理的な能力



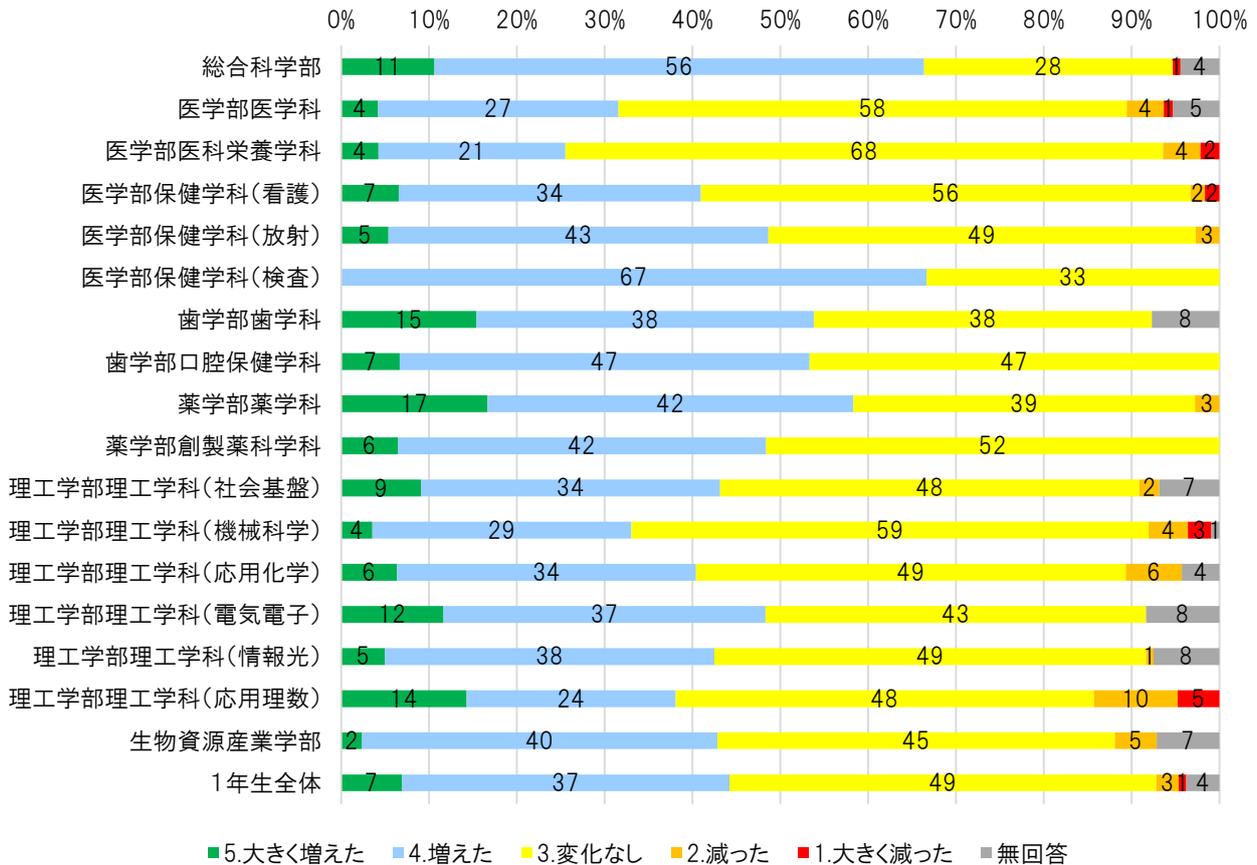
[58] コンピュータの操作能力



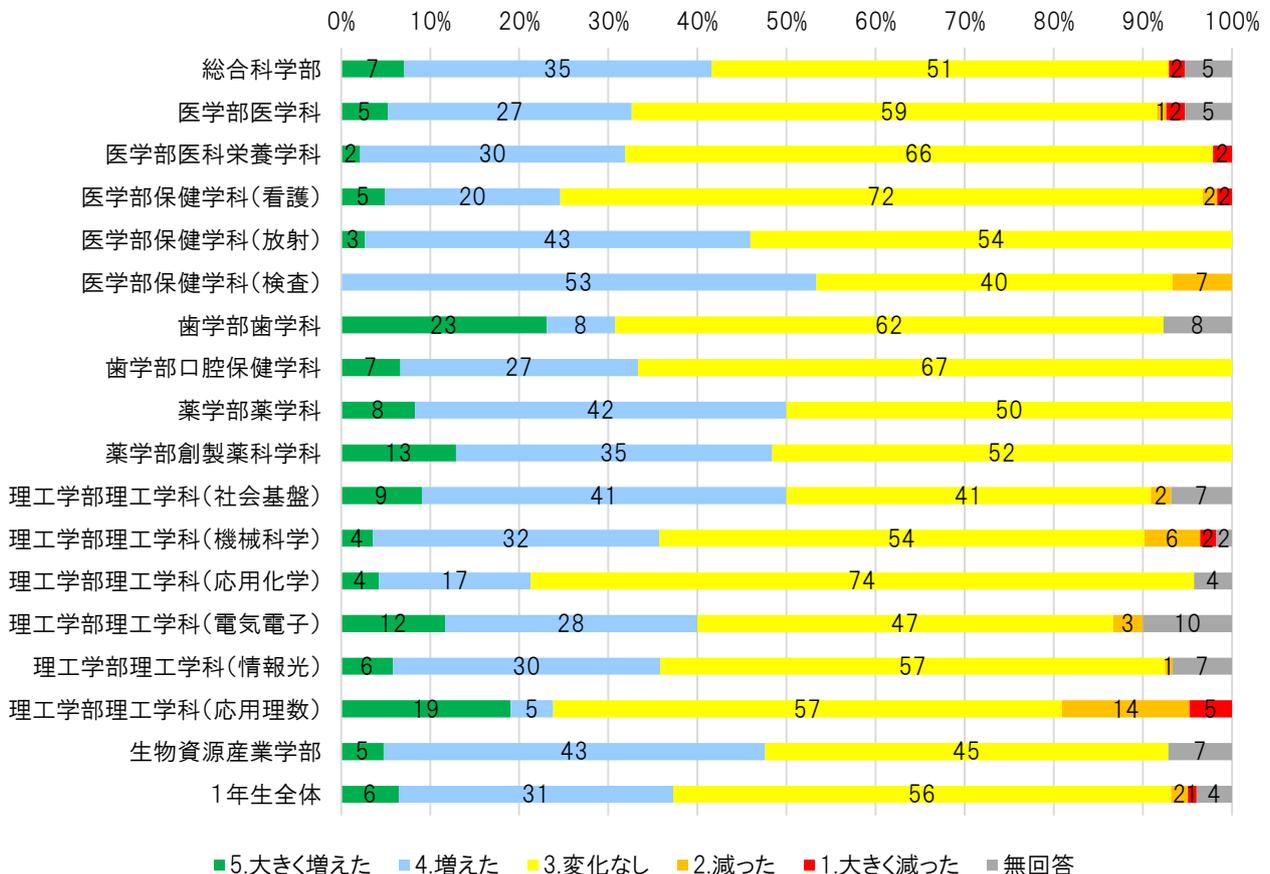
[59] 時間を効果的に利用する能力



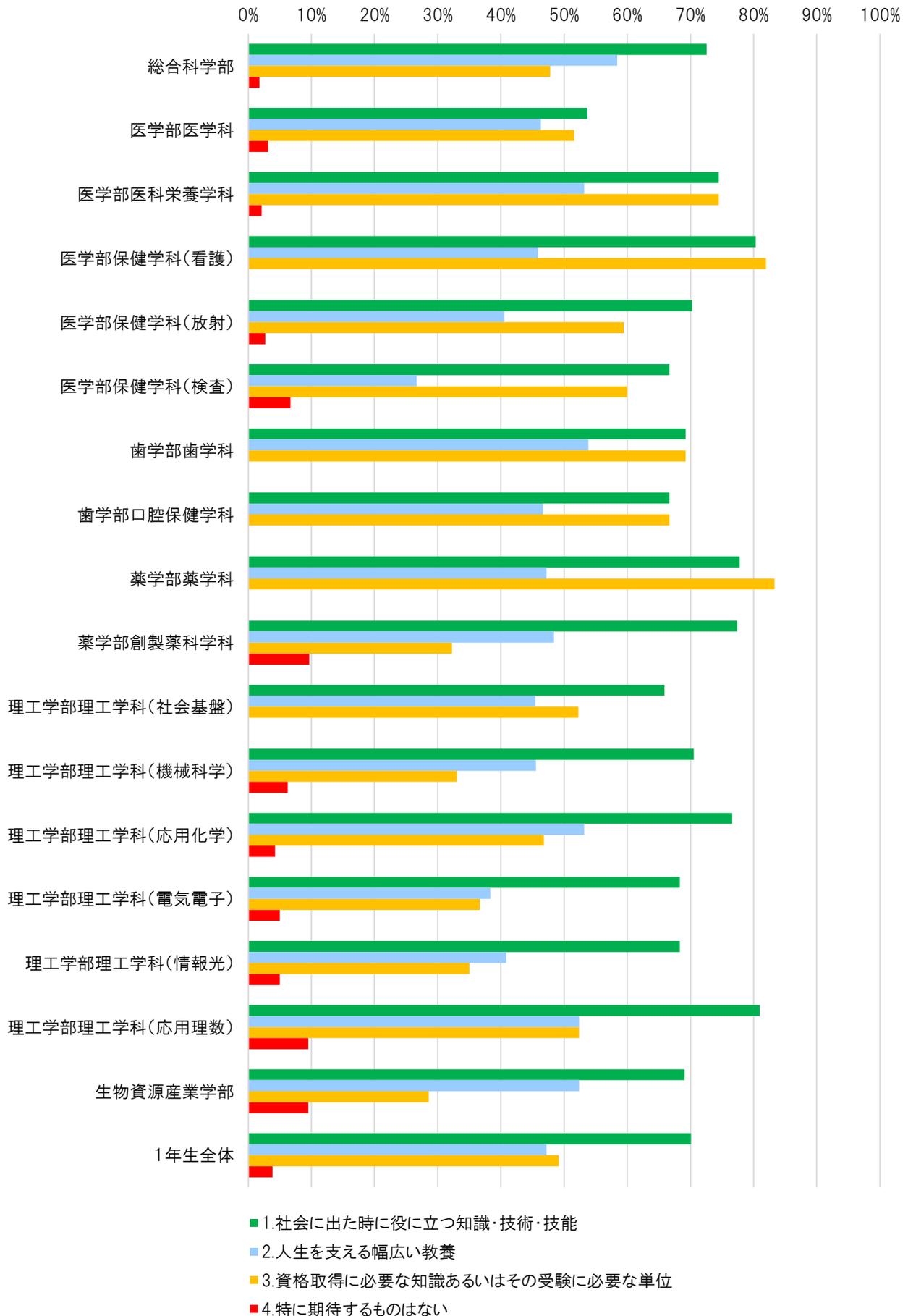
[60] グローバルな問題の理解



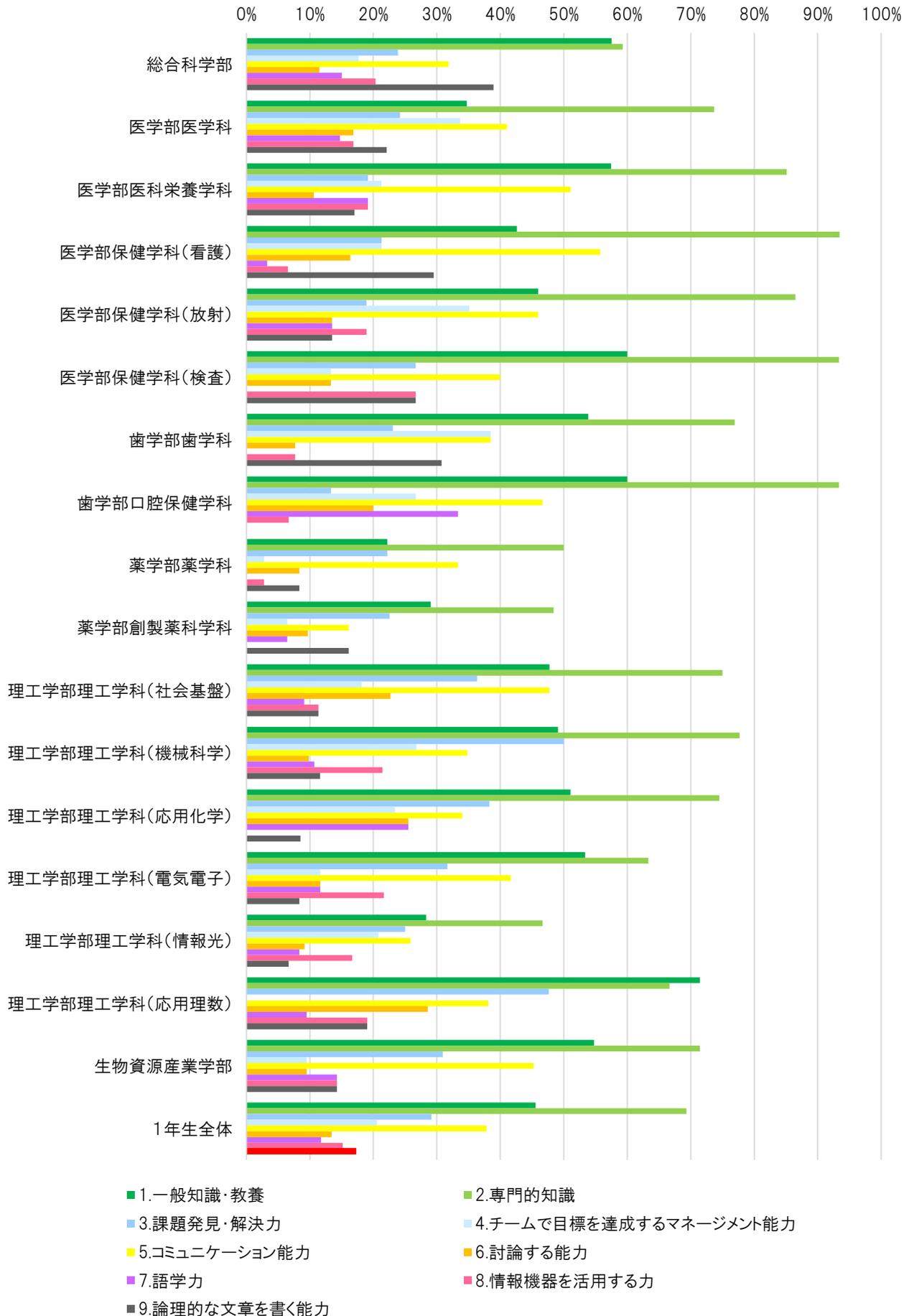
[61] 卒業後に就職するための準備の度合い



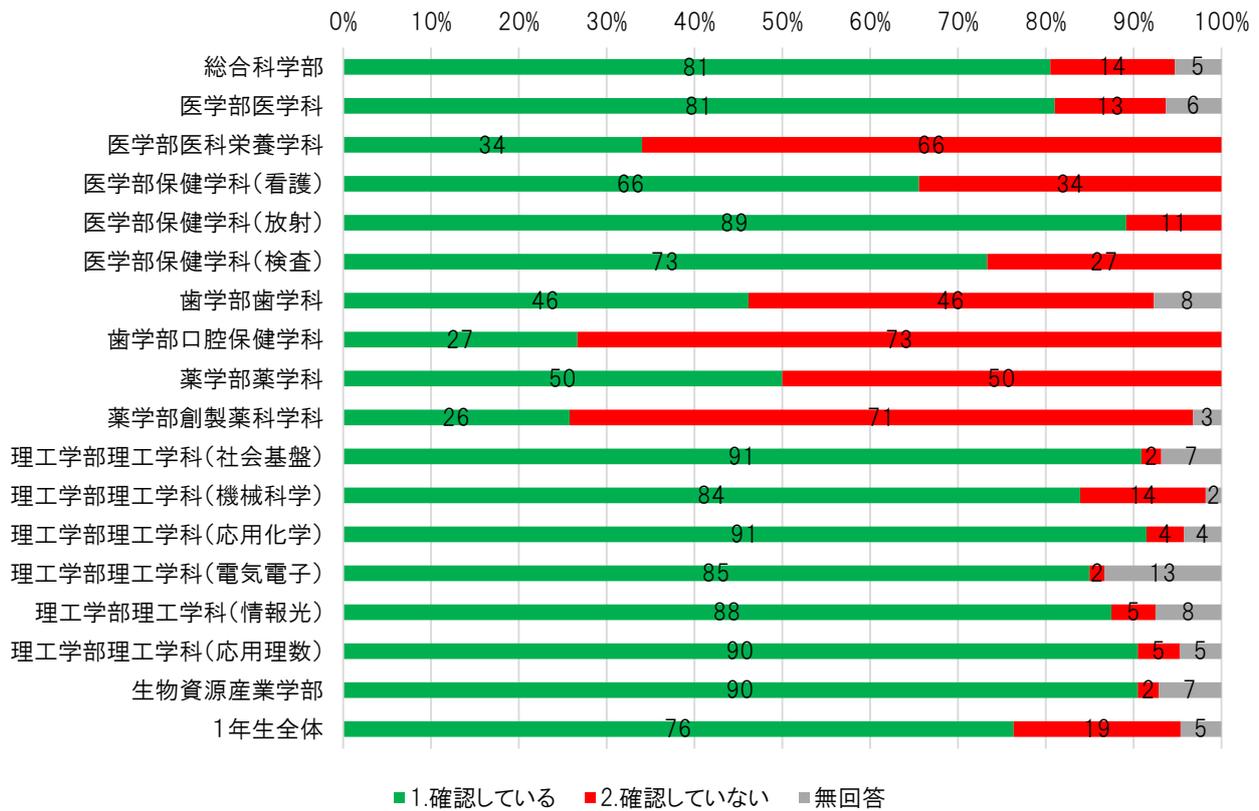
[62]大学における教育に対して、何を期待しますか。(複数回答)



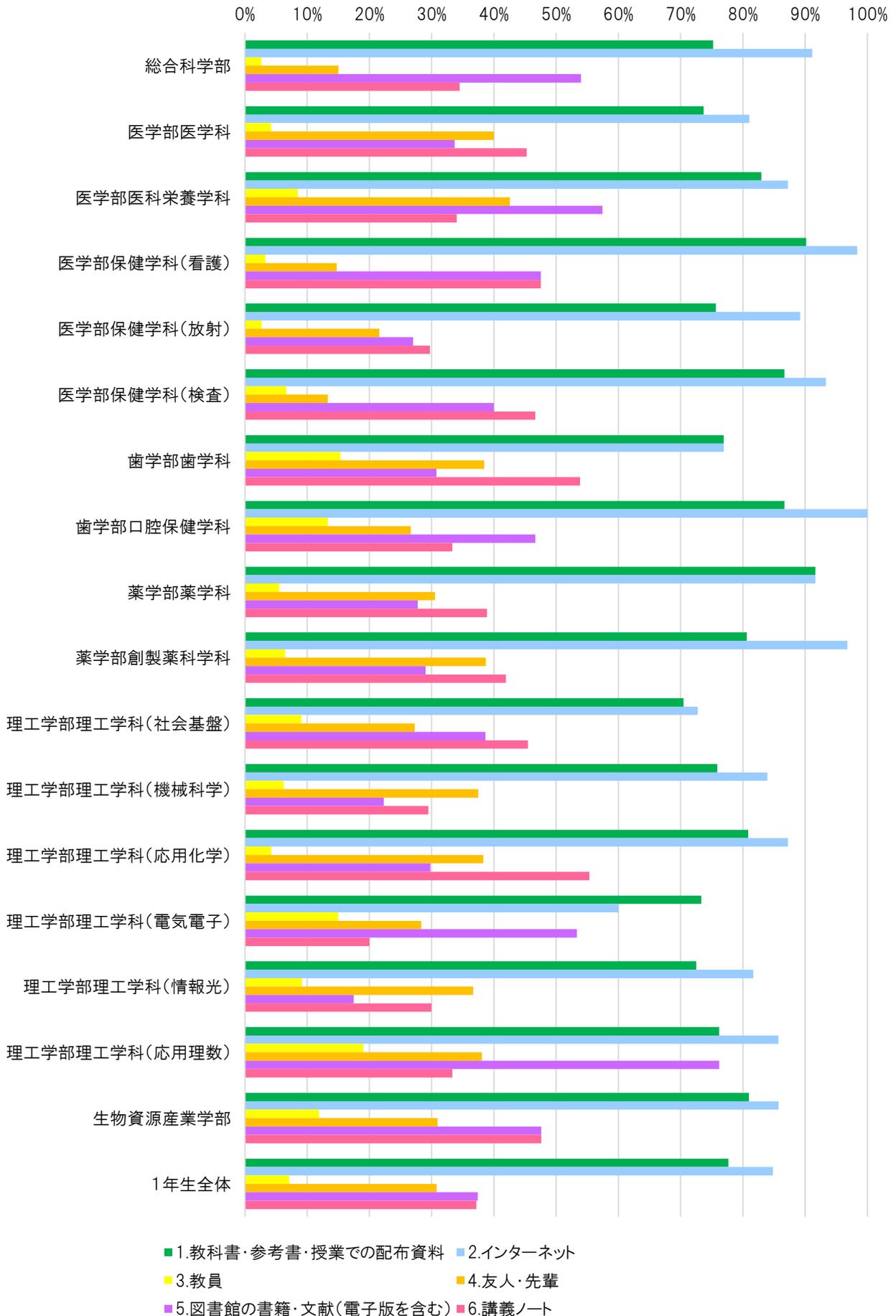
[63]大学の教育によって獲得が期待できる知識・能力を3つ選んでください。(複数回答)



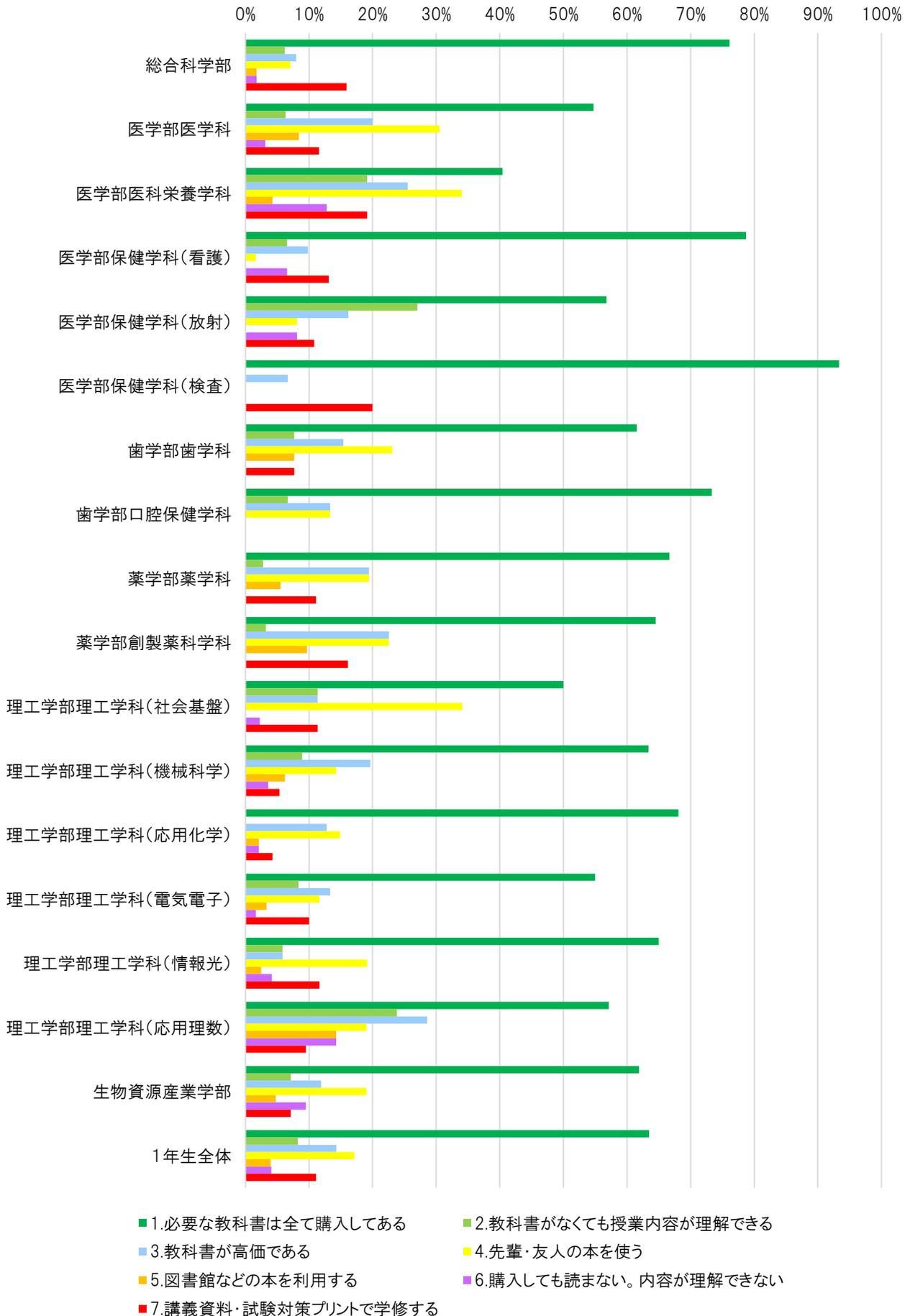
[64]徳島大学では「GPA(自分が履修したすべての授業科目の成績評価の平均値)」を成績表に記載していません。自身の「GPA」について確認していますか。



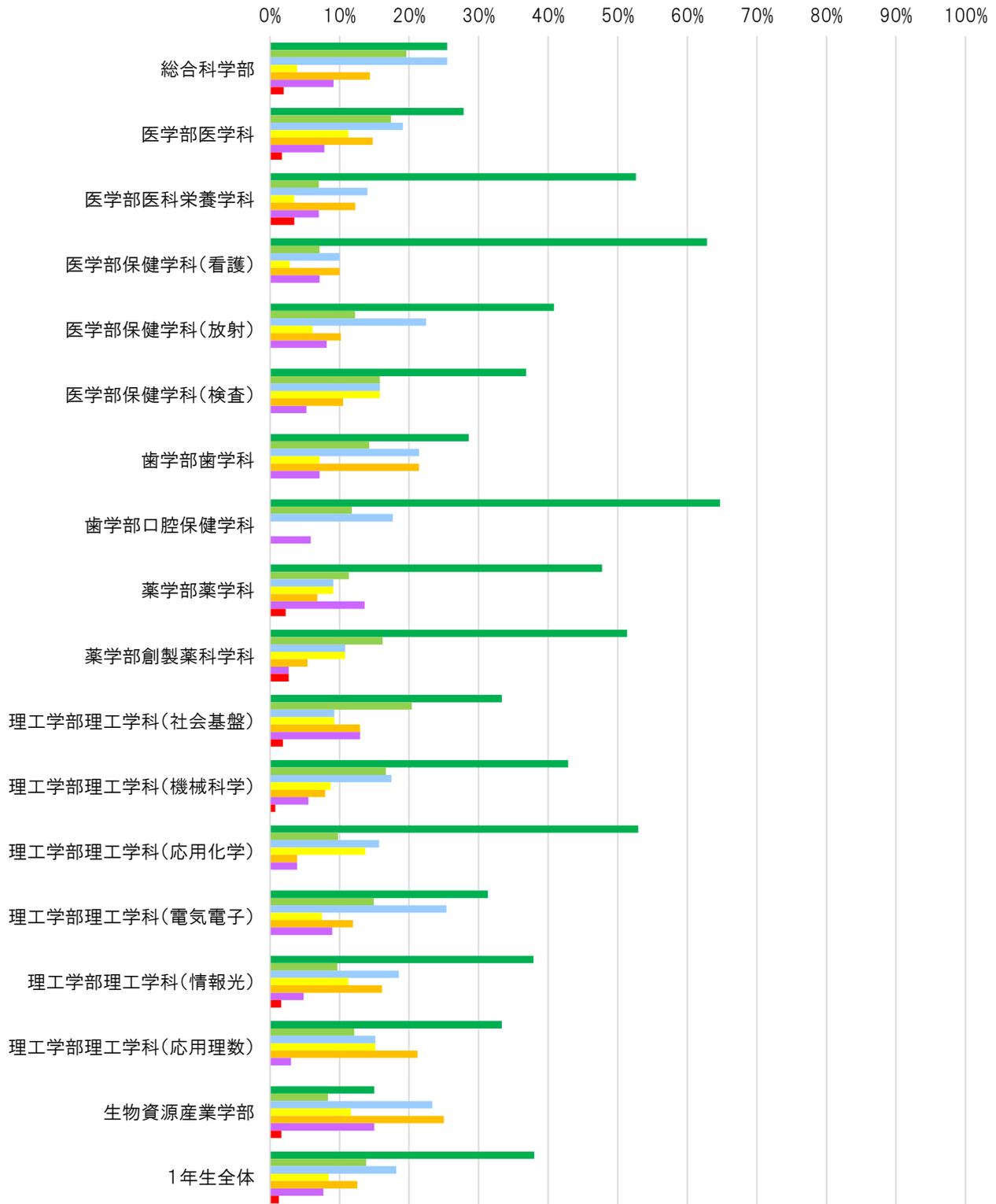
[65]レポートや宿題で、調べものをするときの情報源は何ですか。(複数回答可)



[66]教科書を購入していない場合の理由はなんですか。(複数回答可)

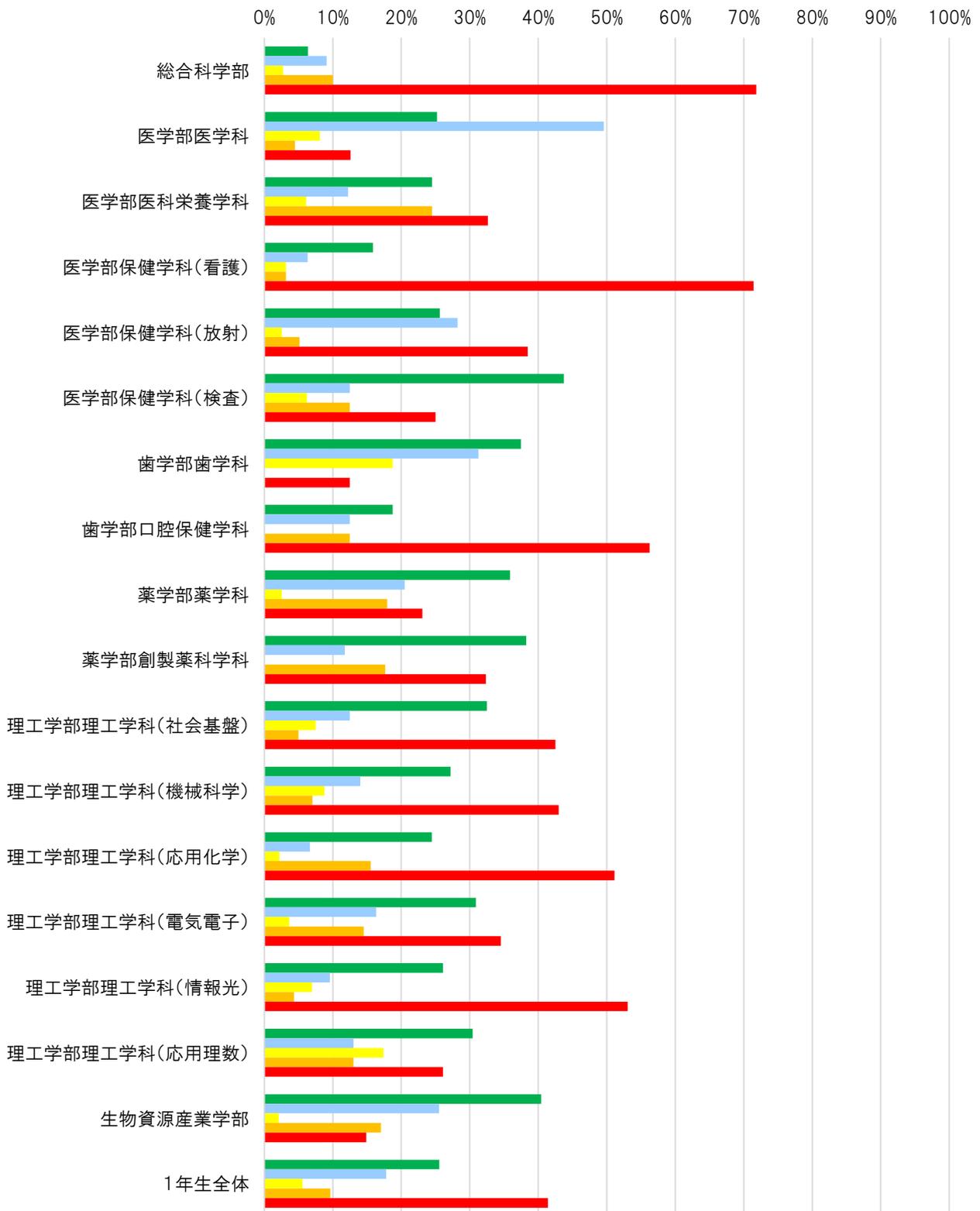


[67]大学の授業以外に、自分自身のための学修として、実行や計画していることはありますか。(複数回答可)



- 1.大学の授業以外で、実行や計画していることはない
- 2.教養や社会問題の理解に役立つ読書
- 3.語学など自分の将来を考えたスキルの修得
- 4.数学や理科のような基礎的能力を強化するための学修
- 5.自分の興味のあるテーマの研究
- 6.資格習得や受験に備えた学修
- 7.卒業研究につながる実験・調査・研究レビュー等

[68]高校で履修していない数学, 物理, 化学, 生物について, 大学入学後どのように勉強しましたか。(複数回答可)



- 1.高校の教科書、参考書を使い、勉強した
- 2.教養教育で開講されている高大接続科目や自然科学入門又はその他の科目を受講した
- 3.HP上の徳島大学LMS(リメディアル教材)を利用して勉強した
- 4.勉強の必要性を感じたが、LMS(リメディアル教材)の存在を知らず何もしていない
- 5.支障を感じないので何もしていない

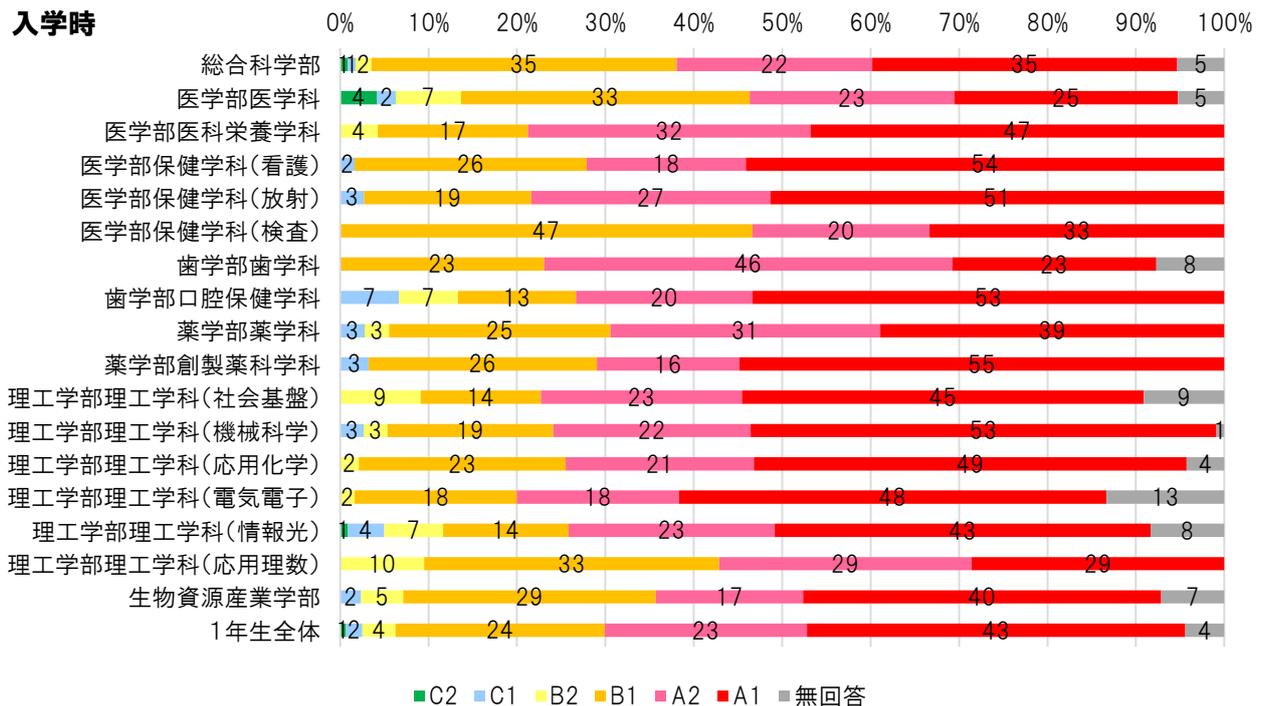
Ⅲ. 続けて、英語の学習状況についておうかがいします。

あなたの英語能力を聞く力、読む力、会話力、表現力、書く力の5つの観点から自己評価した場合に、「①入学時」と「②現在」それぞれについて、到達していると思うレベルを、1つ答えてください。

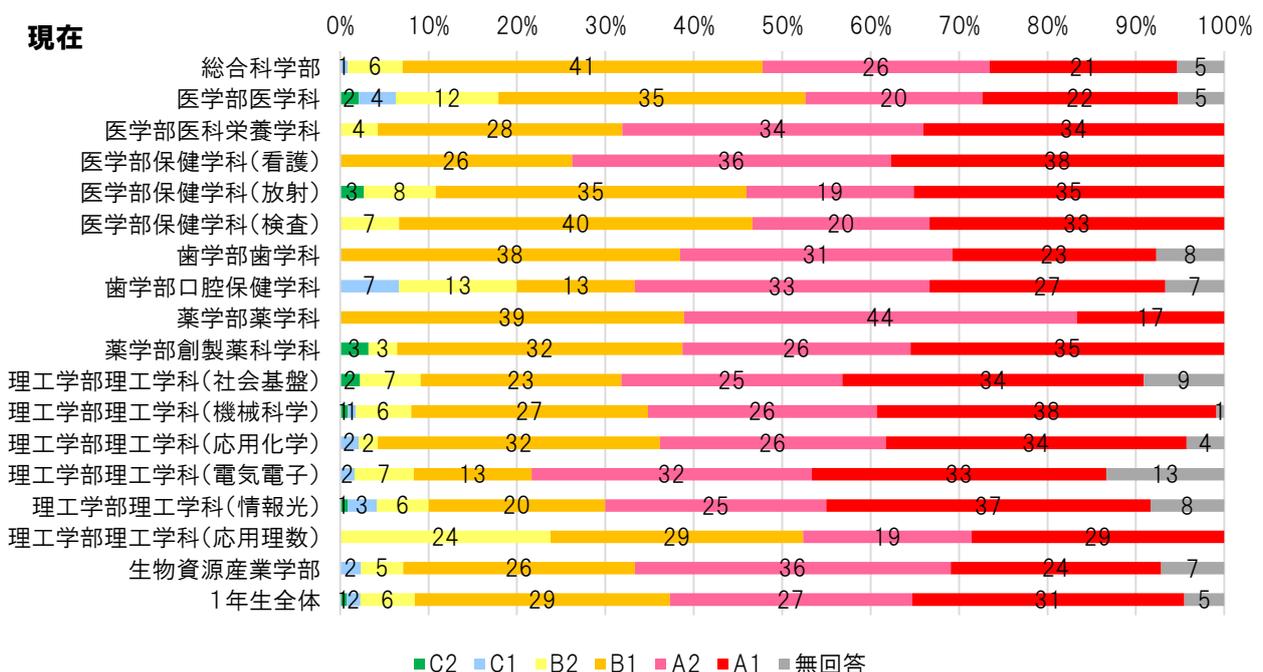
[69]聞く力

- A1 はっきりと、ゆっくり話してもらえれば、聞き慣れた語やごく基本的な表現を聞き取れる。
- A2 最も頻繁に使われる語彙や表現を理解することができる。
- B1 身近な話題について、明瞭で標準的な話し方の会話なら要点を理解することができる。
- B2 テレビのニュースや時事問題、標準語の映画ならほとんど理解できる。
- C1 特別な努力なしにテレビ番組や映画を理解できる。
- C2 母語話者の速いスピードで話されても、どんな種類の話し言葉も難無く理解できる。

入学時



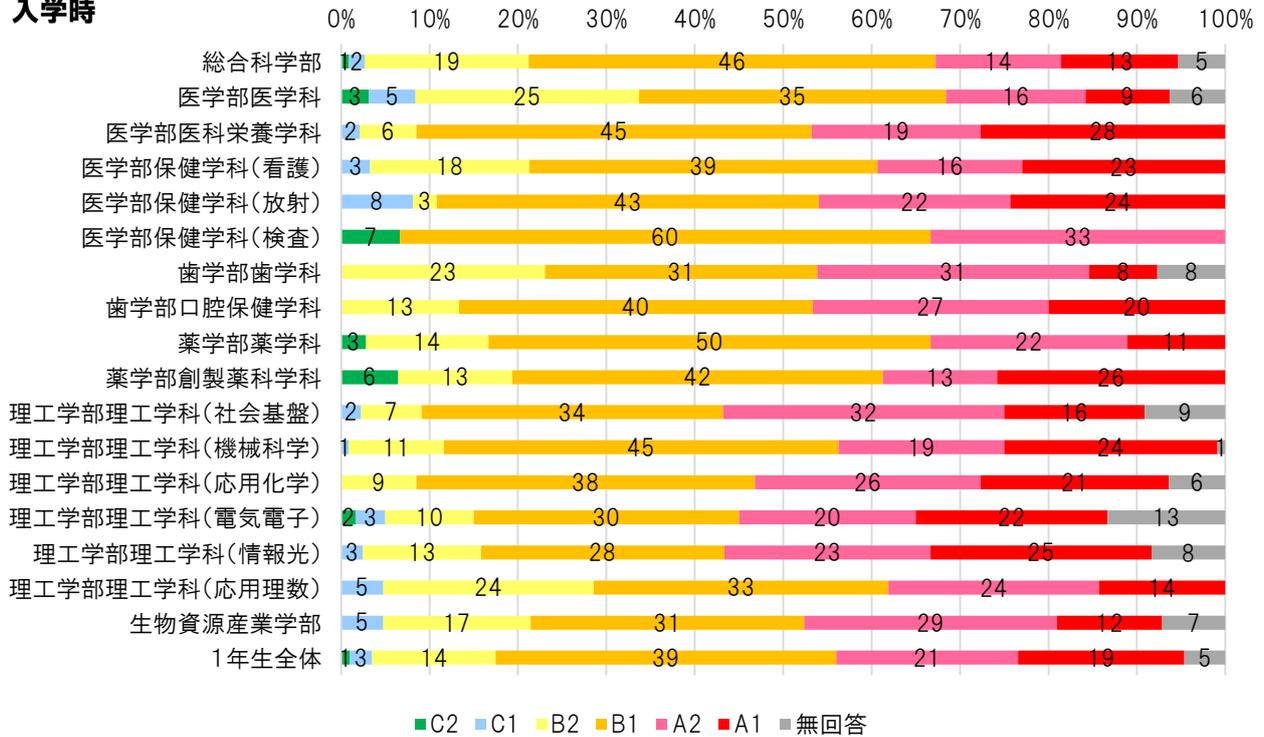
現在



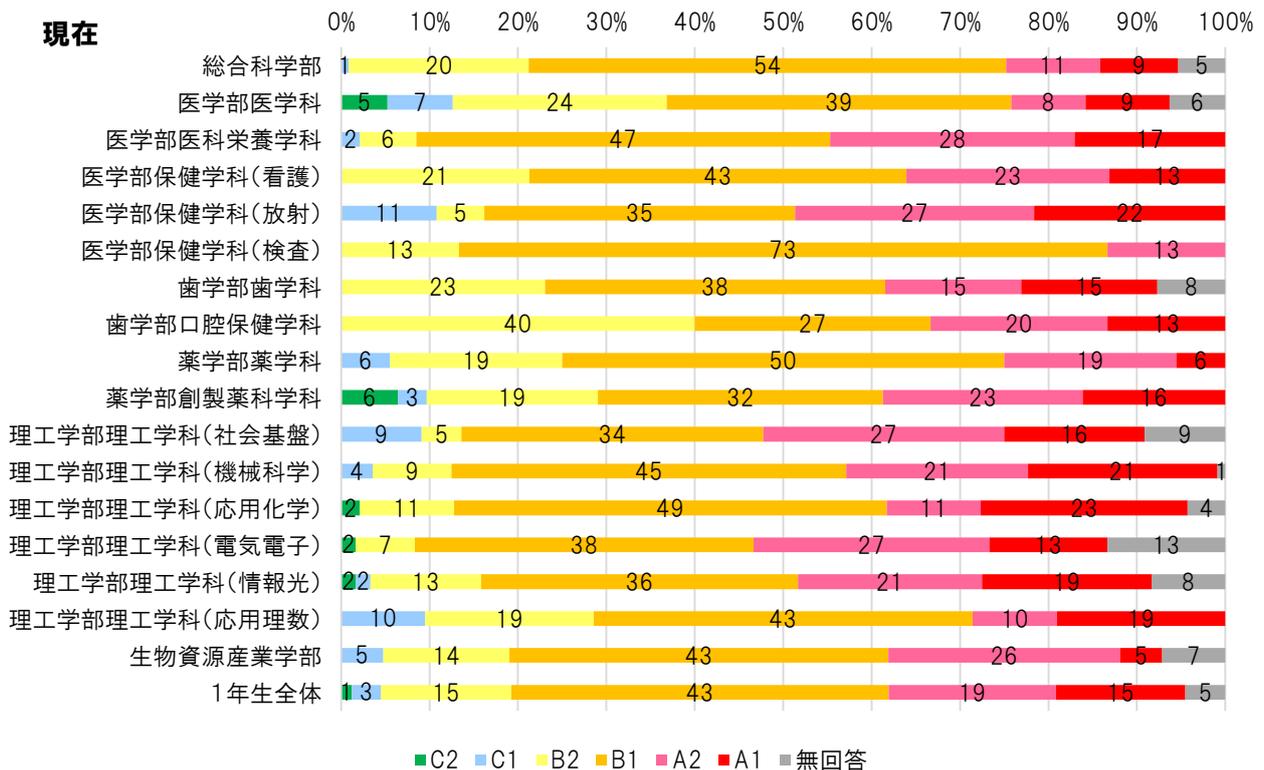
[70]読む力

- A1 掲示やポスター、カタログなどの中をよく知っている名前、単語、単純な文を理解できる。
- A2 ごく短い簡単な文章や、簡単で短い個人的な手紙は理解できる。
- B1 日常語や、自分の知っている分野の文章なら理解できる。簡単で個人的な手紙を理解できる。
- B2 現代の問題についての記事や報告が読める。現代文学の散文は読める。
- C1 複雑な文章を理解できる。自分の関連外の分野の専門的文章も理解できる。
- C2 抽象的で複雑な文章など、あらゆる形式で書かれた言葉を容易に読むことができる。

入学時



現在

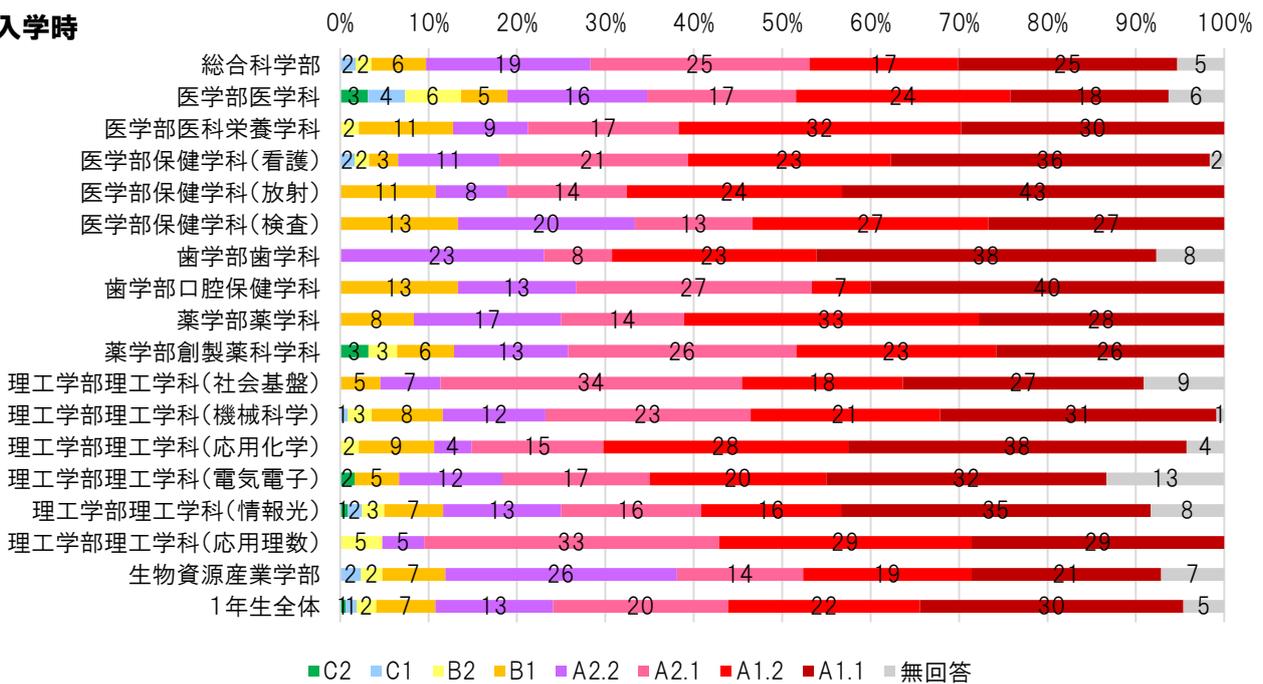


1年生調査

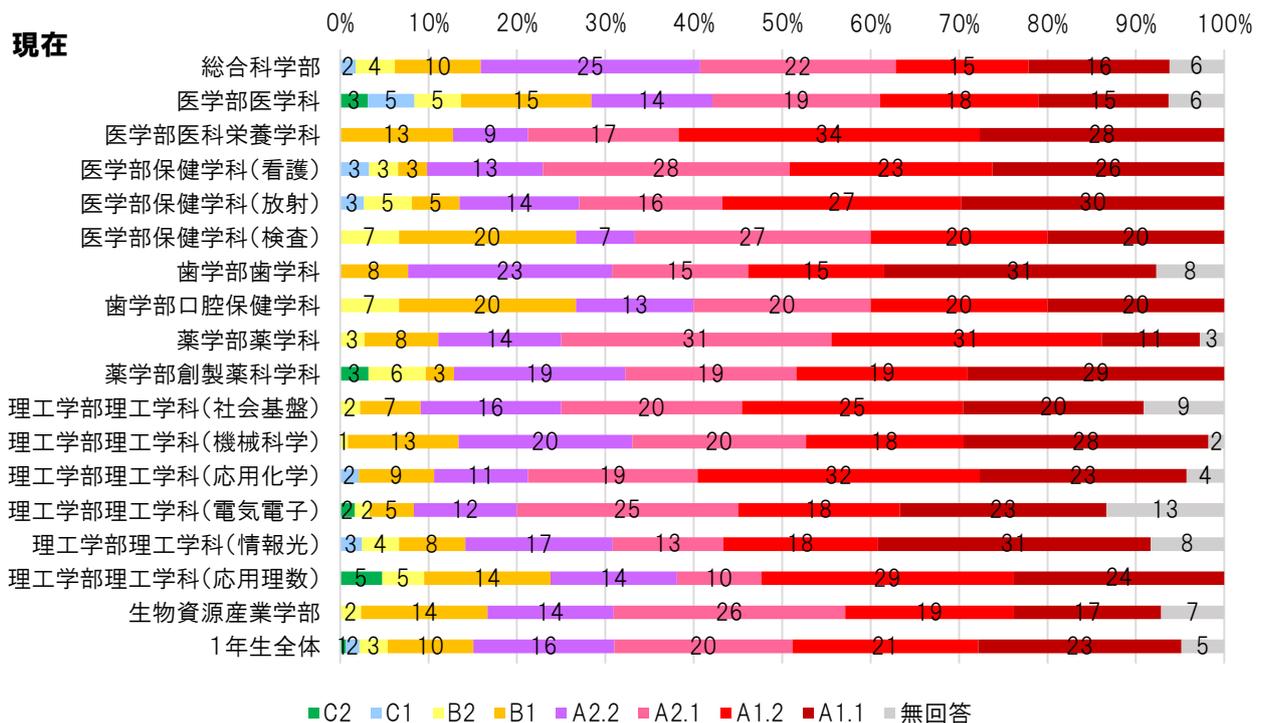
[71]会話力

- A1.1 決まった言い回しを使って自己紹介をしたり、相手の趣味を尋ねたりできる。
- A1.2 家族や身の回りのことについて、簡単な質問なら聞いたり答えたりできる。
- A2.1 短い社交的なやり取りができる。ひとりで会話を続けにくい、相手の助け舟で、身近な話題について話し続けられる。
- A2.2 準備をすれば、日常的でなじみのある話題について、簡単な言葉を使ってまとまりのある会話ができる。
- B1 日常生活に直接関係のあることや個人的な関心について、準備なしで会話ができる。
- B2 身近な話題の議論に積極的に参加し、自分の意見を説明できる。
- C1 社会上、目的・場面に合った言葉遣いができ、自分の考えや意見を正確に表現できる。
- C2 いかなる会話や議論でも努力しないで加わることができる。

入学時



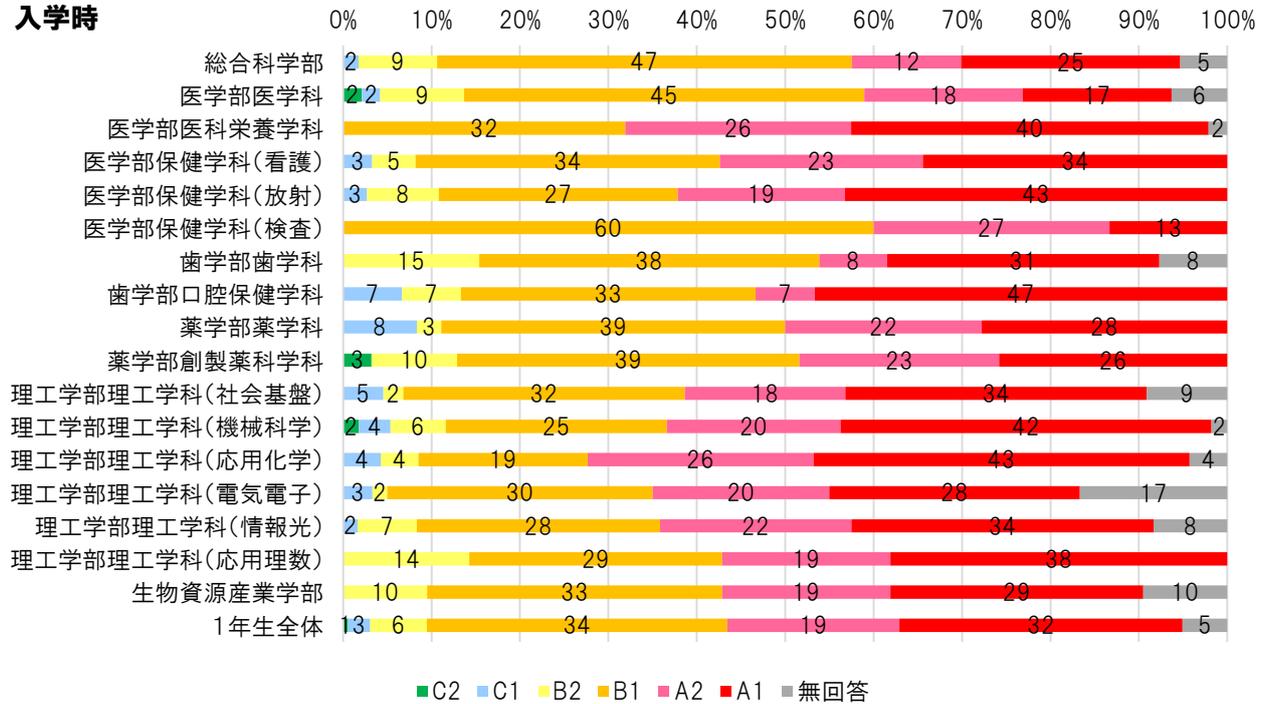
現在



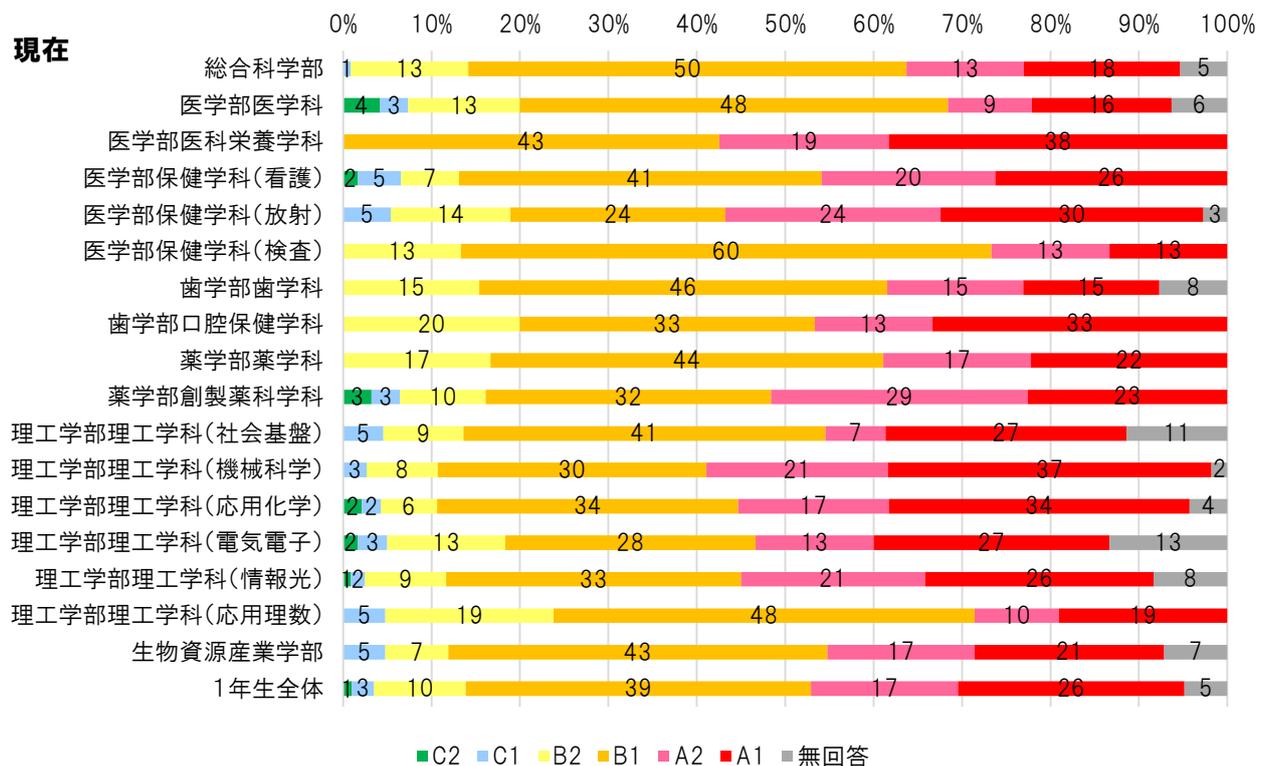
[72] 表現力

- A1 住んでいるところ、また、知っている人たちについて、簡単な語句や文を使って表現できる。
- A2 家族、周囲の人々、居住条件を簡単な言葉で説明できる。
- B1 簡単な方法で語句をつないで、自分の経験や出来事、夢や希望、目標を語るができる。
- B2 興味関心のある話題について、明瞭で詳細な説明ができる。
- C1 複雑な話題を、一定の観点を展開しながら、適切な結論でまとめ上げることができる。
- C2 論理的な会話で聞き手に重要点を把握させ、記憶にとどめさせることができる。

入学時



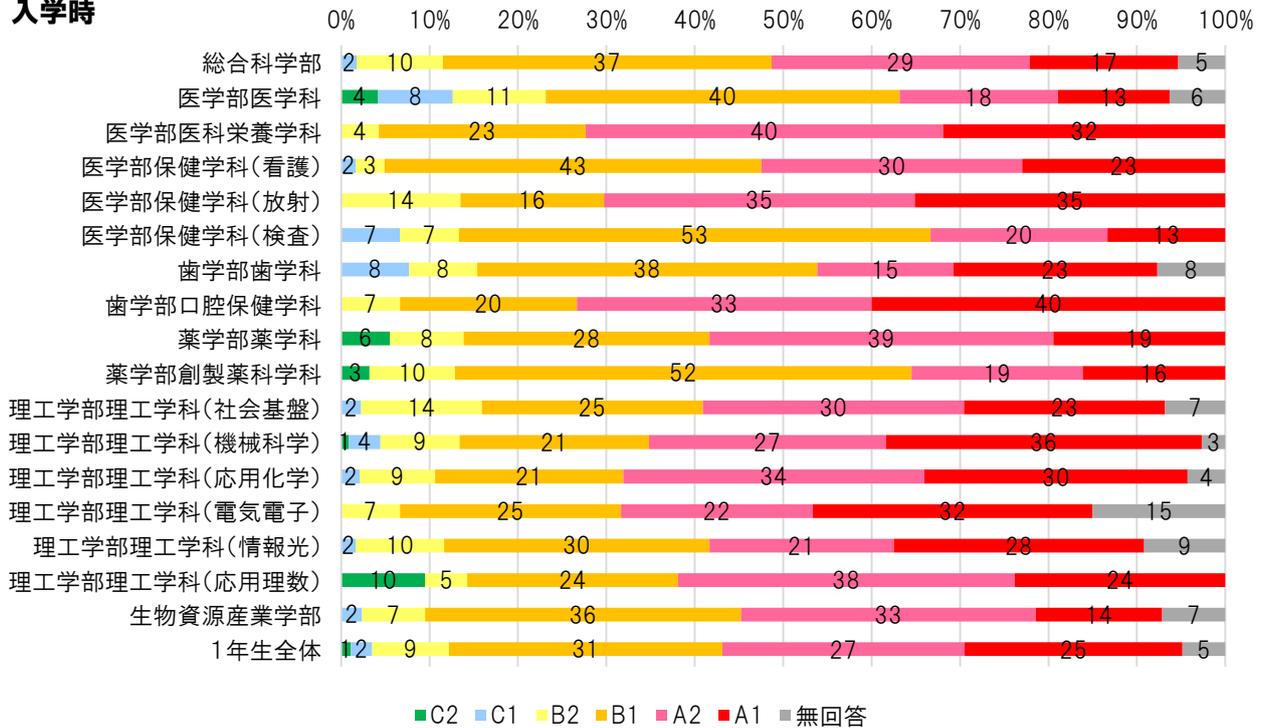
現在



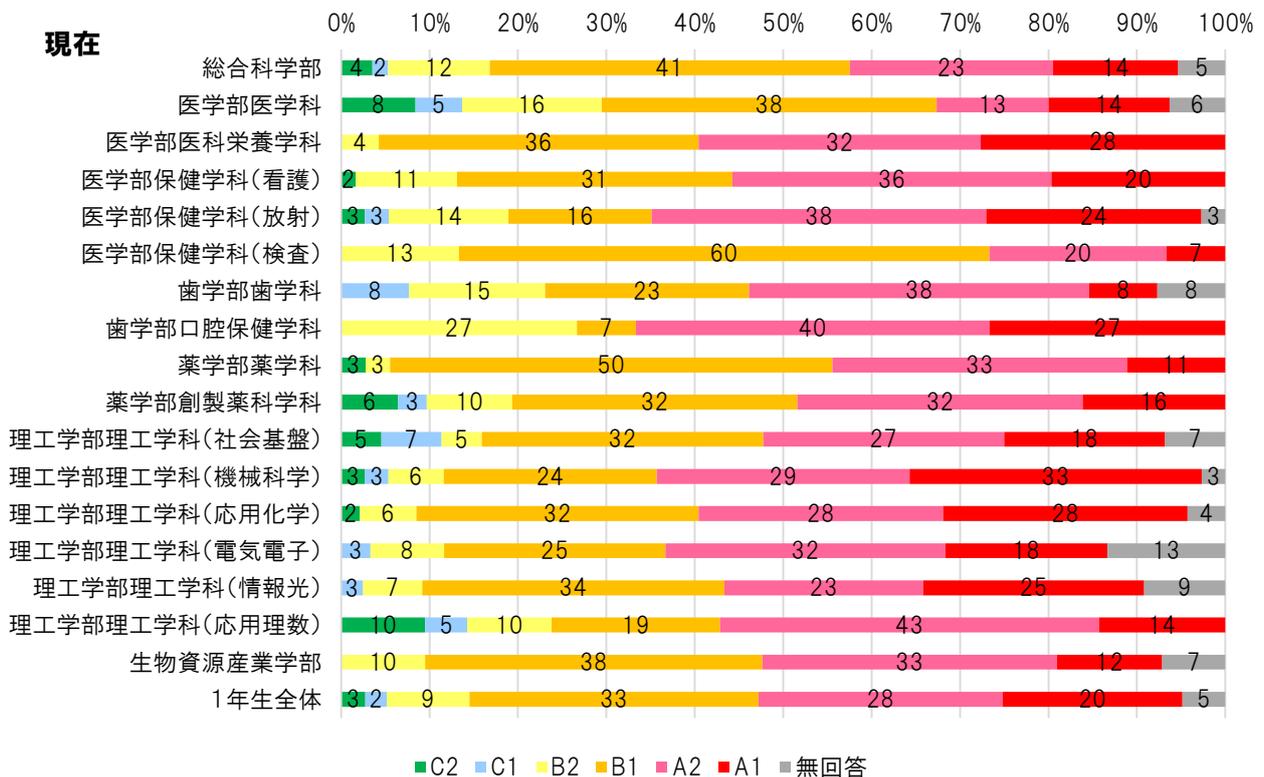
[73]書く力

- A1 お祝いのメッセージなど、短い簡単な葉書を書くことができる。
- A2 簡単に短いメモやメッセージ、短い個人的な手紙なら書くことができる。
- B1 身近で個人的に関心のある話題を書くことができる。個人的な手紙で経験や印象を書くことができる。
- B2 興味関心のある話題について、明瞭で詳細な説明文を書くことができる。
- C1 手紙やエッセイ、レポートで複雑な主題を扱うことができる。
- C2 論理的に事情を説明し、複雑な内容の手紙、レポート、記事を書くことができる。

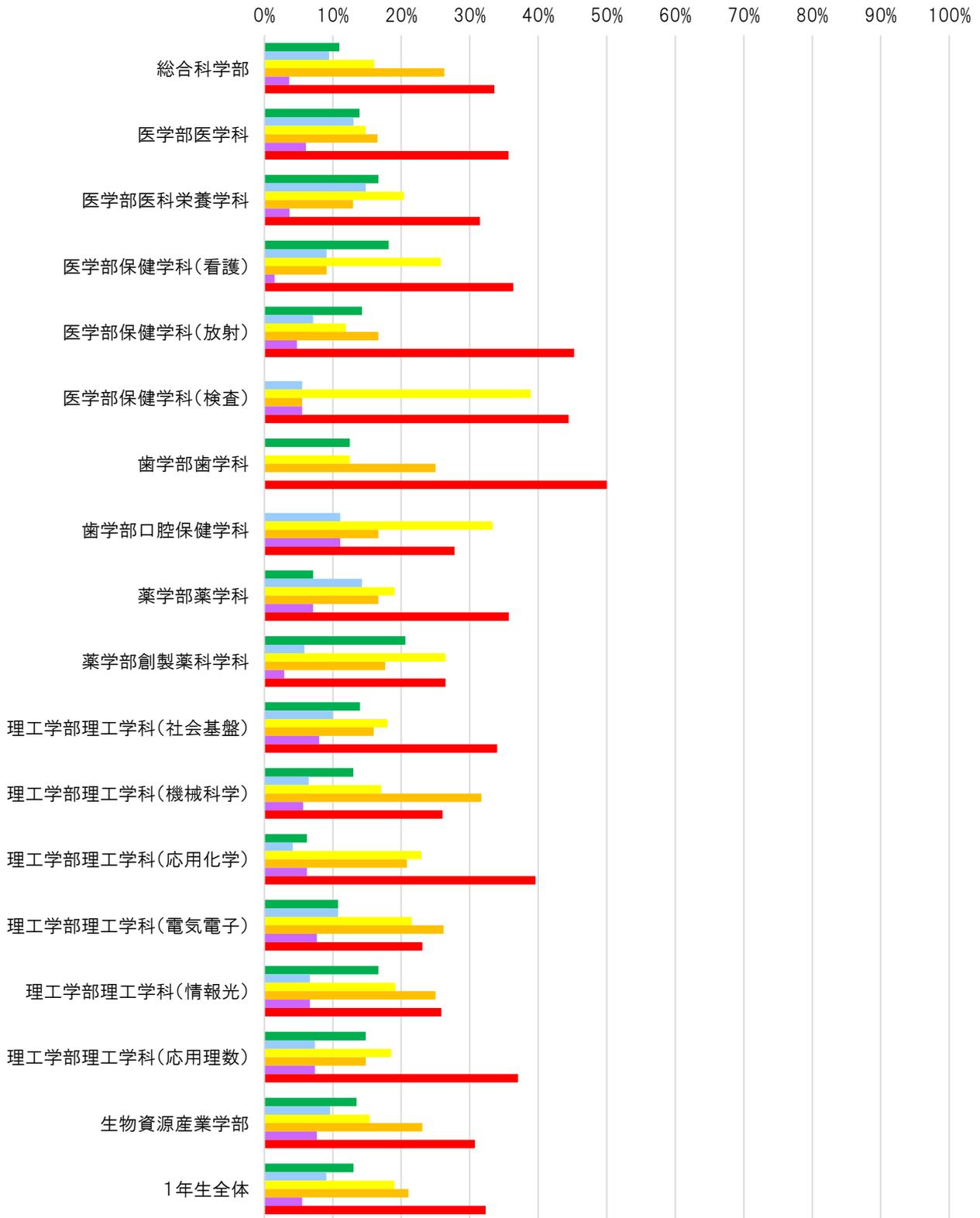
入学時



現在



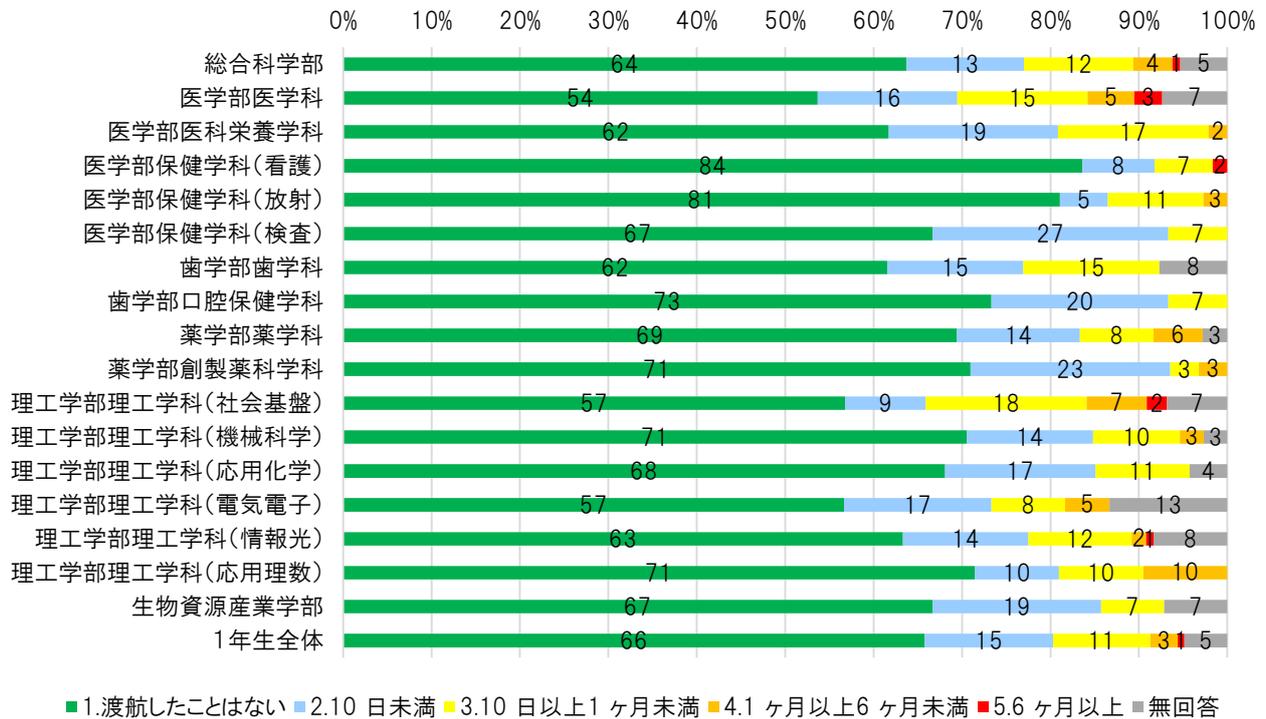
[74]どのように、英語の勉強を行っていますか。(複数回答可)



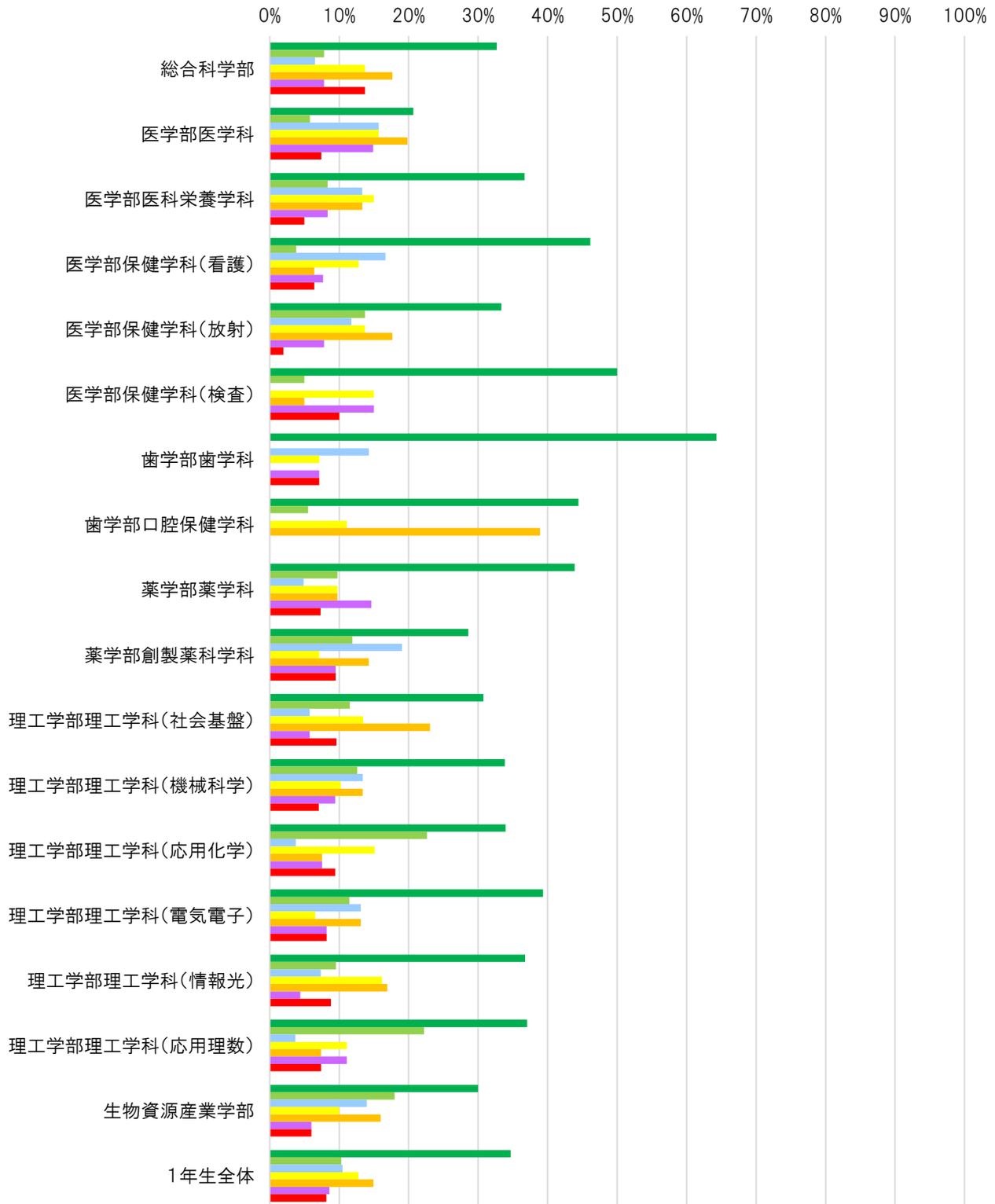
- 1.毎日または定期的にテレビ、ラジオの英語教育番組を利用して勉強している
- 2.英会話スクールに行ったことがある。または現在通っている
- 3.図書館または大学の英語教材、施設を利用して定期的に英語を勉強している
- 4.TOEICなどの参考書、問題集を購入して定期的に勉強している
- 5.TOEIC,TOEFLや英検などの英語能力試験を定期的に受験している
- 6.授業で使用している教科書、英語論文をよく勉強している

1年生調査

[75]アメリカ、カナダ、イギリス、オーストラリア、ニュージーランドやこれらの国以外(インド、シンガポール等)などへの渡航経験(期間)についておうかがいします。英語でコミュニケーションをすることを旨とした渡航経験があれば、その期間(複数回の経験がある場合は最長のもの)について1つ選んで回答してください。



[76]徳島大学における英語教育についてどう思いますか。(複数回答可)

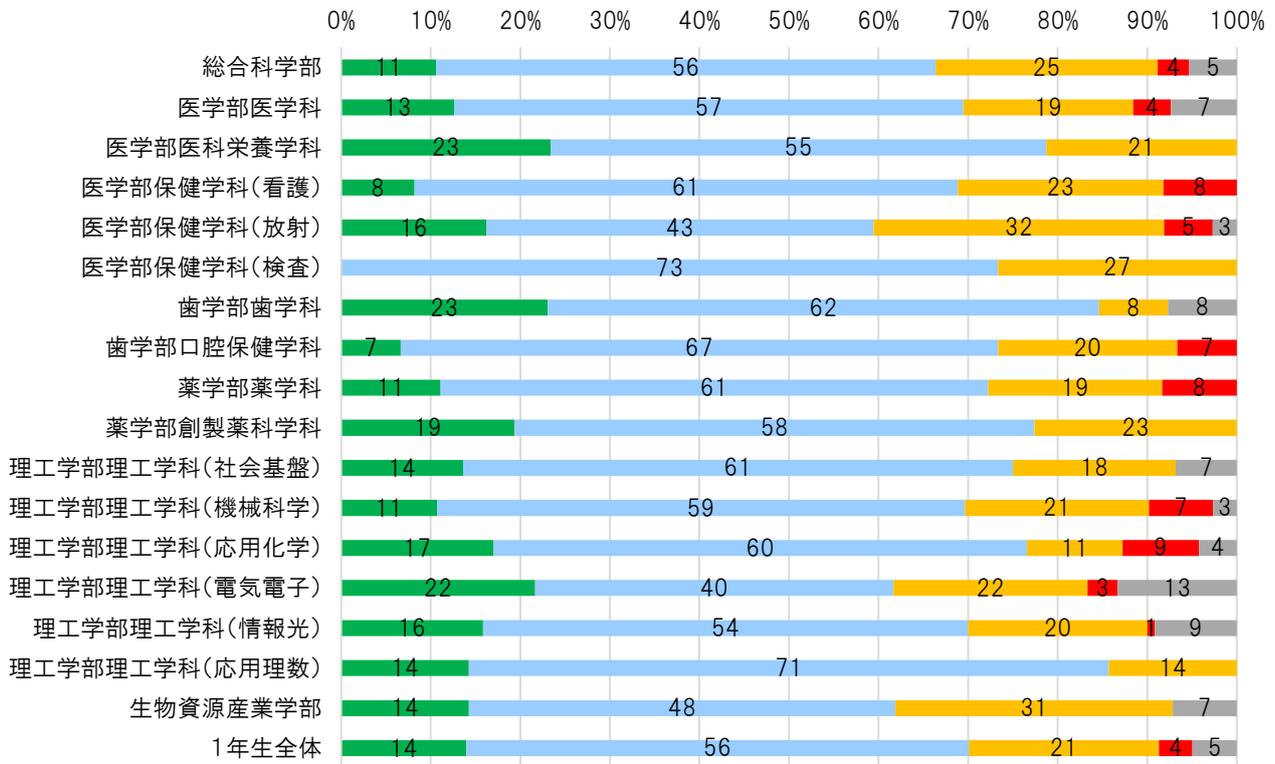


- 1. 教養教育、専門教育で行われる英語教育で十分である
- 2. もっと授業数を増やしてほしい
- 3. もっと授業数を減らしてほしい
- 4. もっと少人数のクラスにしてほしい
- 5. ネイティブスピーカーの教員による授業を増やしてほしい
- 6. 専門英語の時間を増やしてほしい
- 7. 専門英語のライティング、会話に重点を置いた授業を増やしてほしい

IV. 次に、大学生活に対するあなたの考えや満足度についておうかがいします。

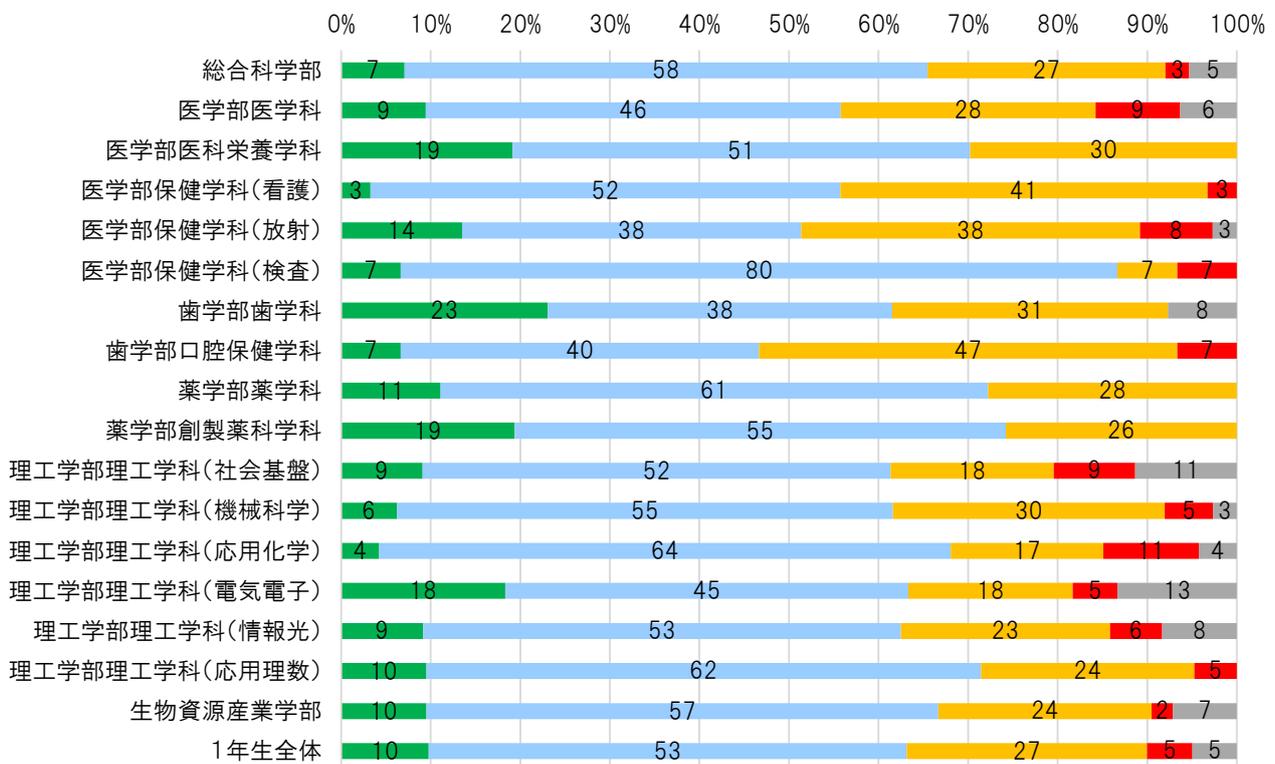
本学に入学してから、あなたにとって次のことがらはどれくらいまよくなりましたか。

[77]大学の学生向けサービスを上手に利用する



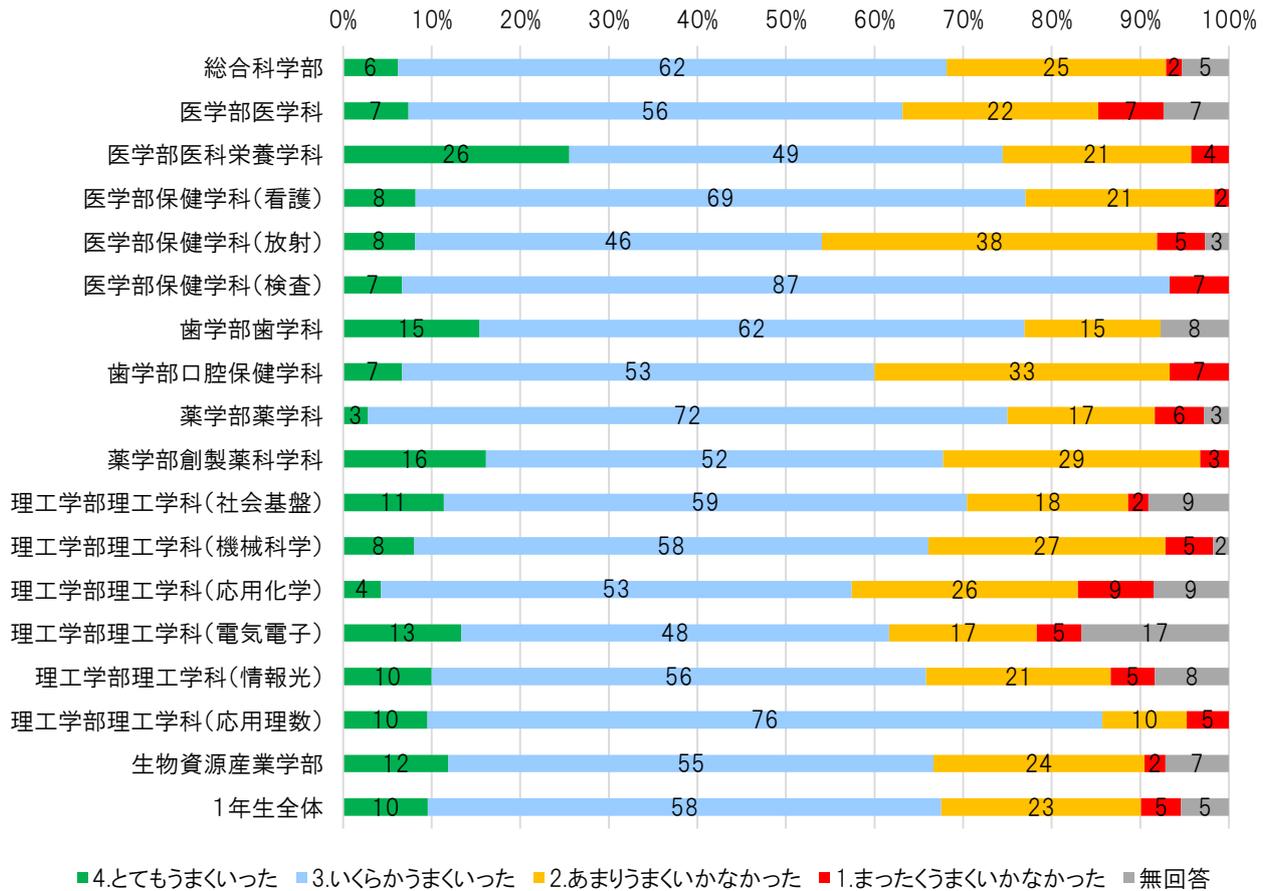
■ 4.とてもまよりました ■ 3.いづらかまよりました ■ 2.あまりまよりませんでした ■ 1.まったくまよりませんでした ■ 無回答

[78]大学教員の学問的な期待を理解する

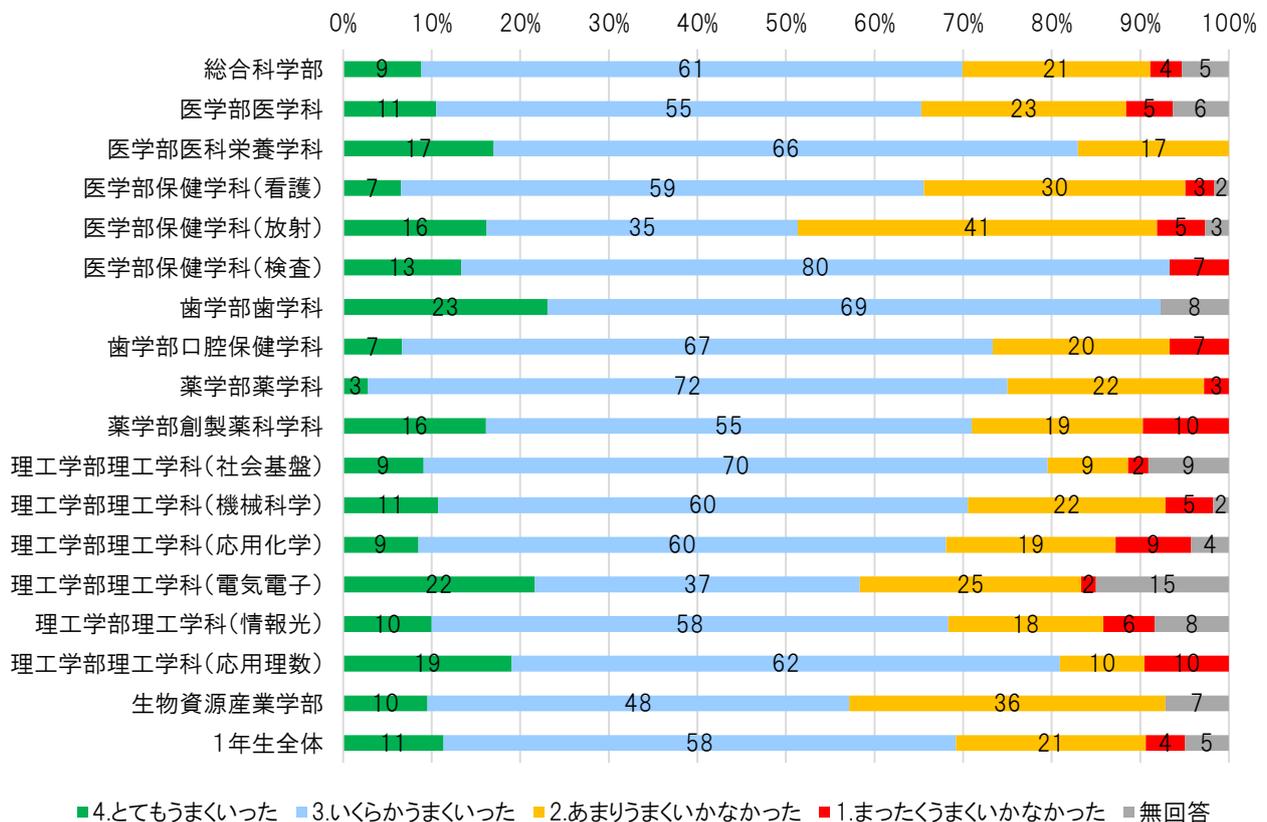


■ 4.とてもまよりました ■ 3.いづらかまよりました ■ 2.あまりまよりませんでした ■ 1.まったくまよりませんでした ■ 無回答

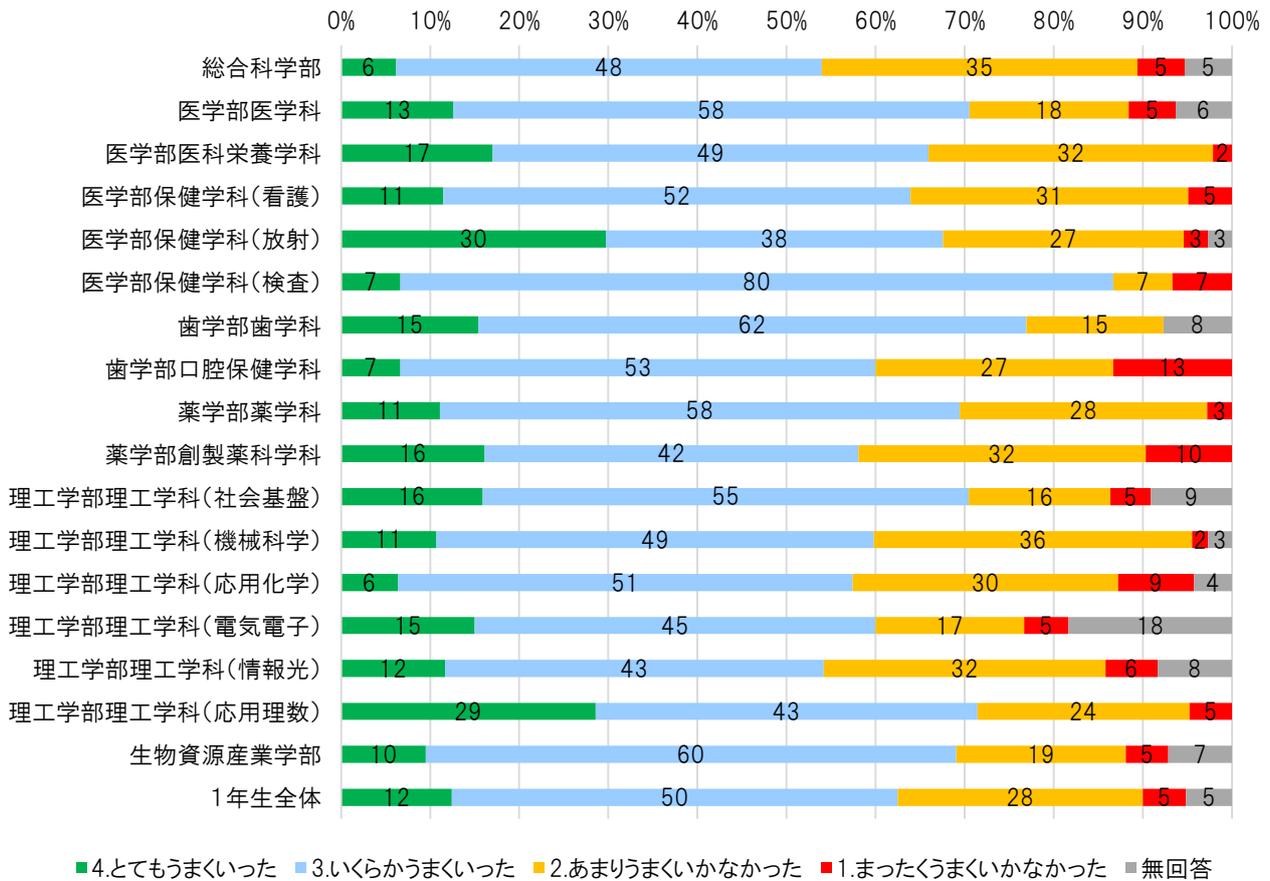
[79]効果的に学習する技能を修得する



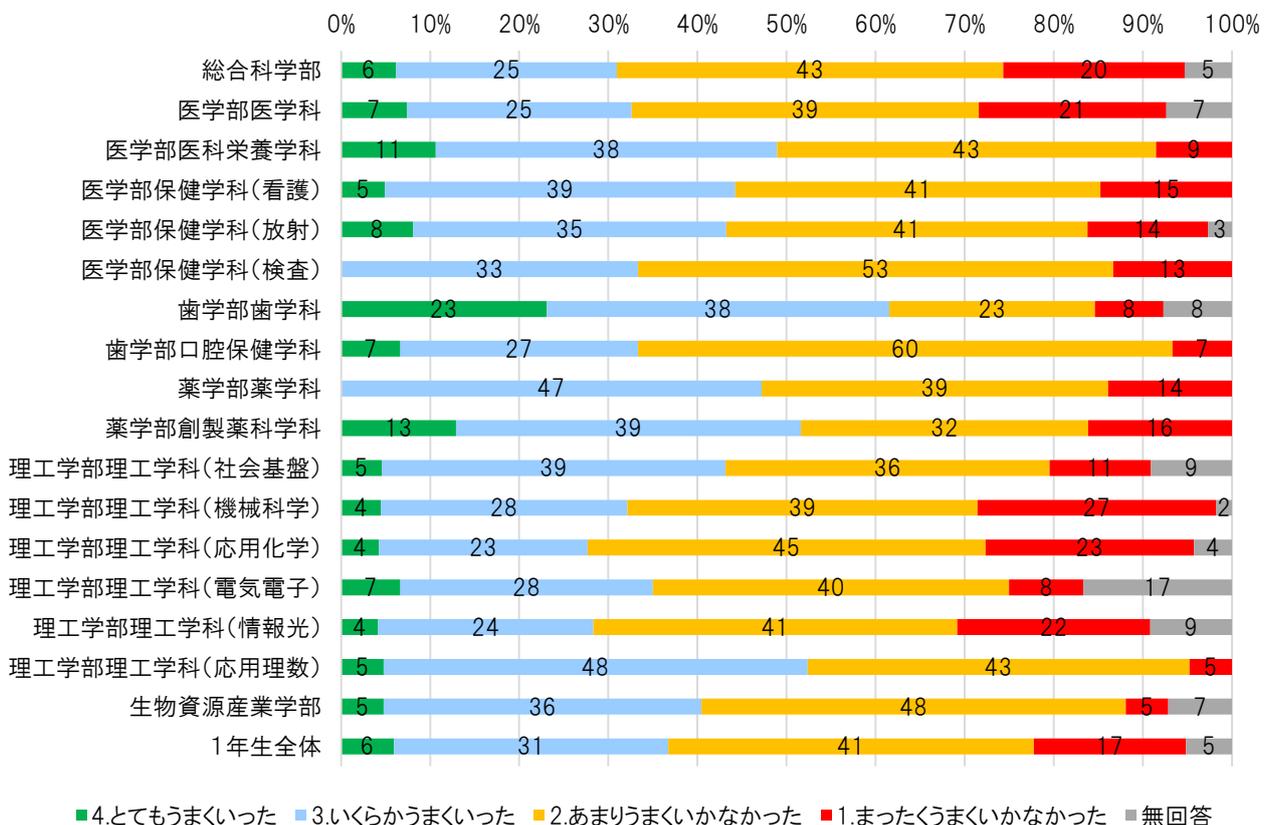
[80]大学が求める水準に応じて学習する



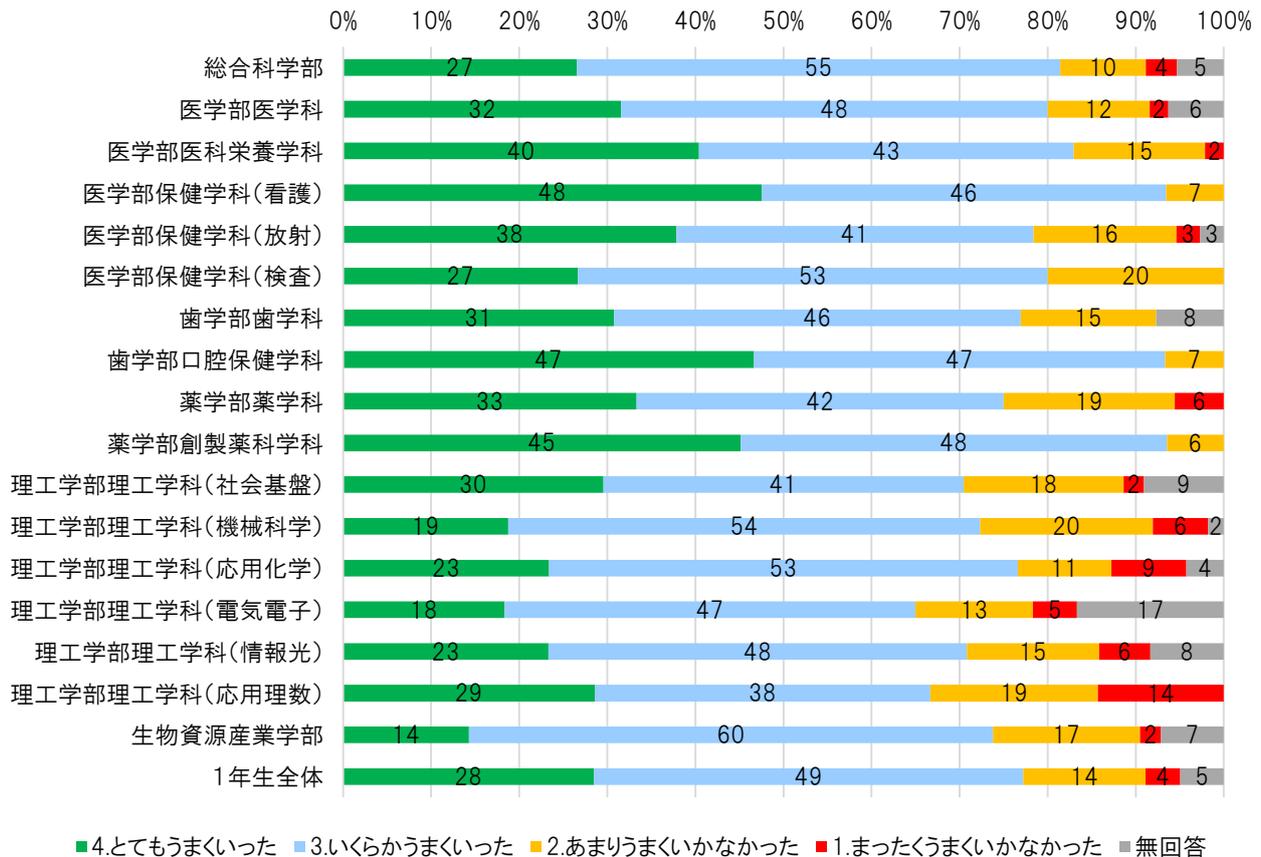
[81]時間を効果的に使う



[82]大学教員と顔見知りになる

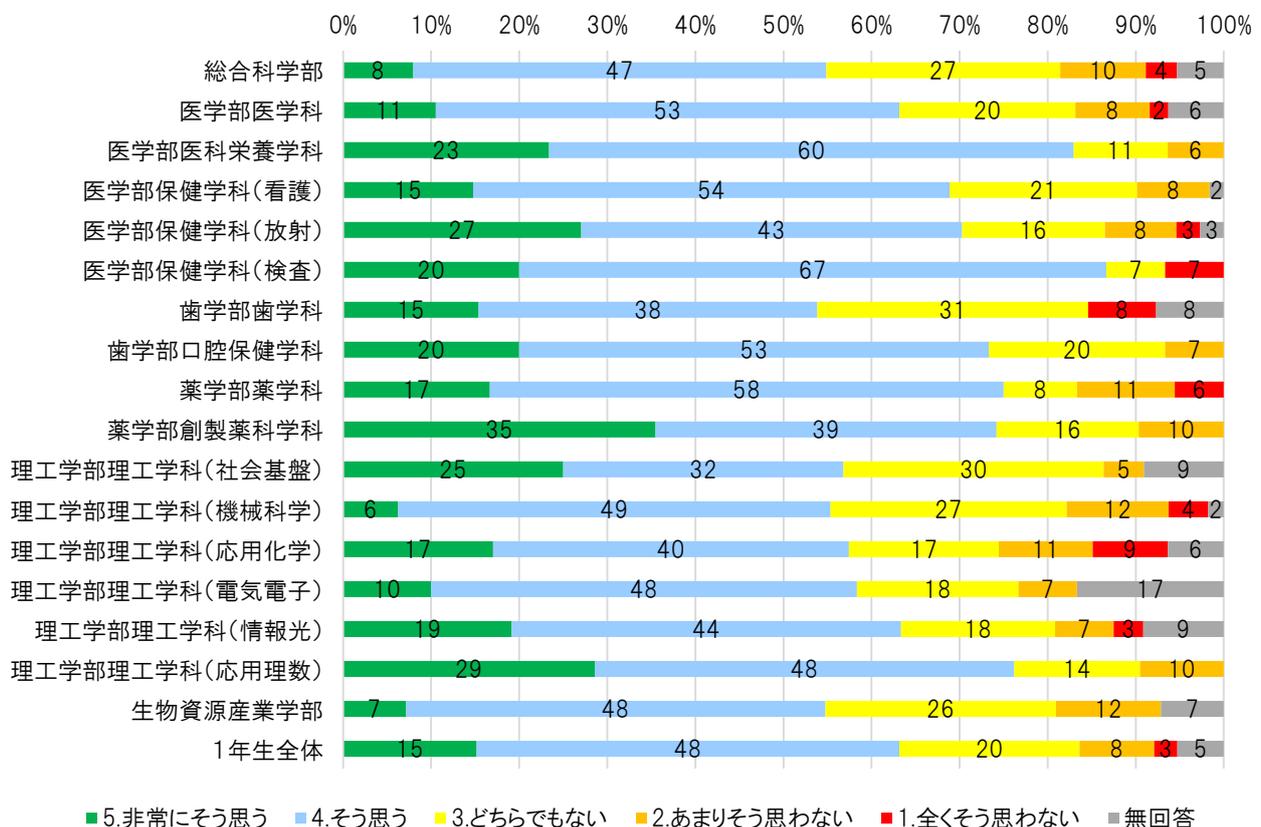


[83]他の学生との友情を深める

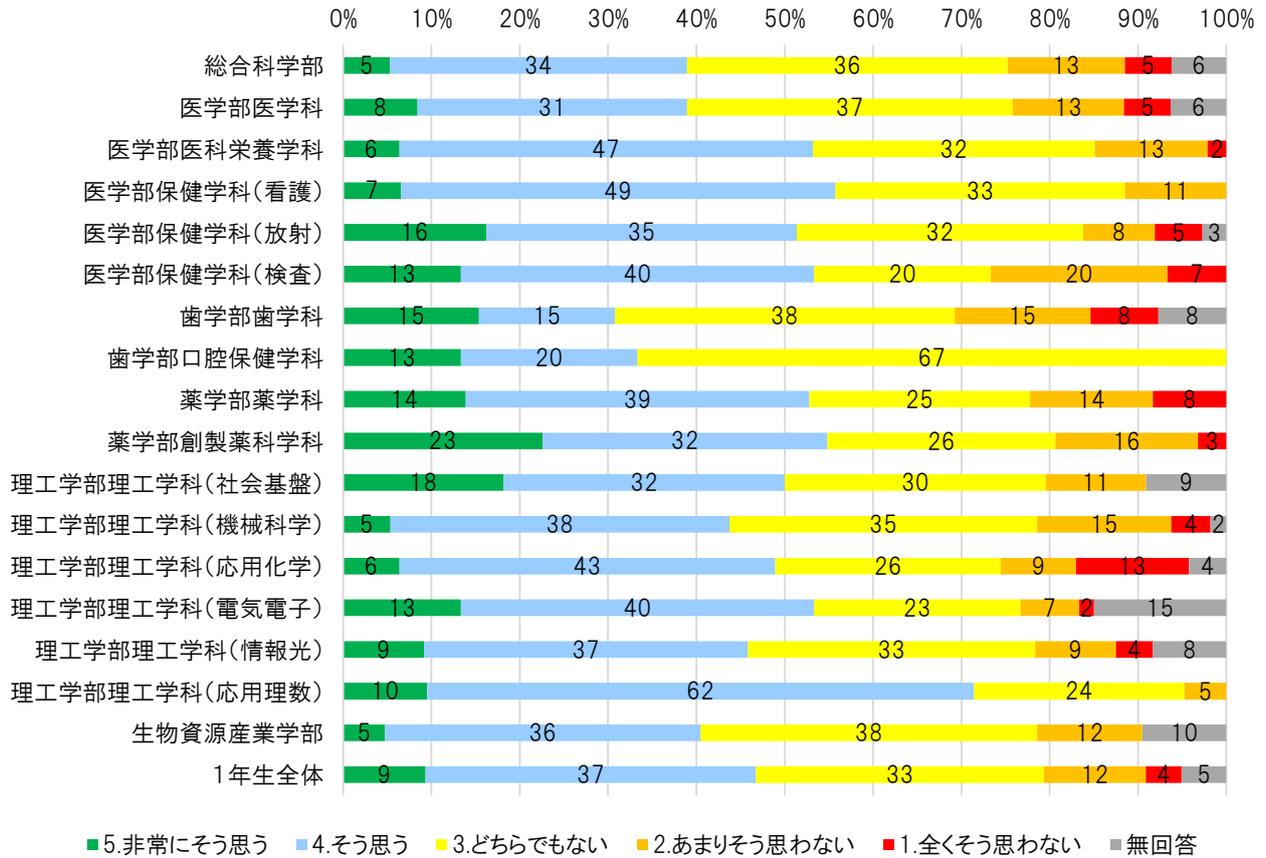


本学に入学してから、あなたにとって次のことがらはどれくらいあてはまりますか。

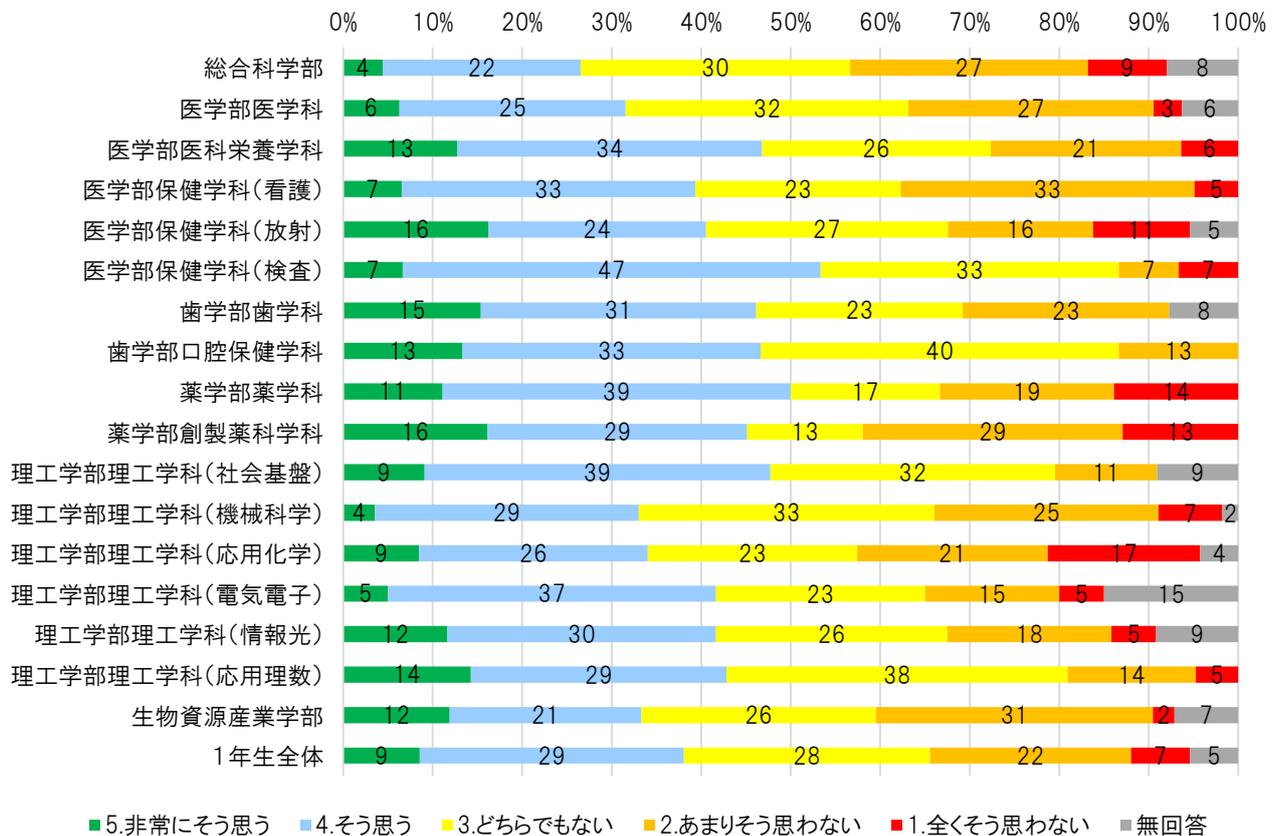
[84]自分の専門分野について興味関心を持ち、意欲的に取り組んでいる



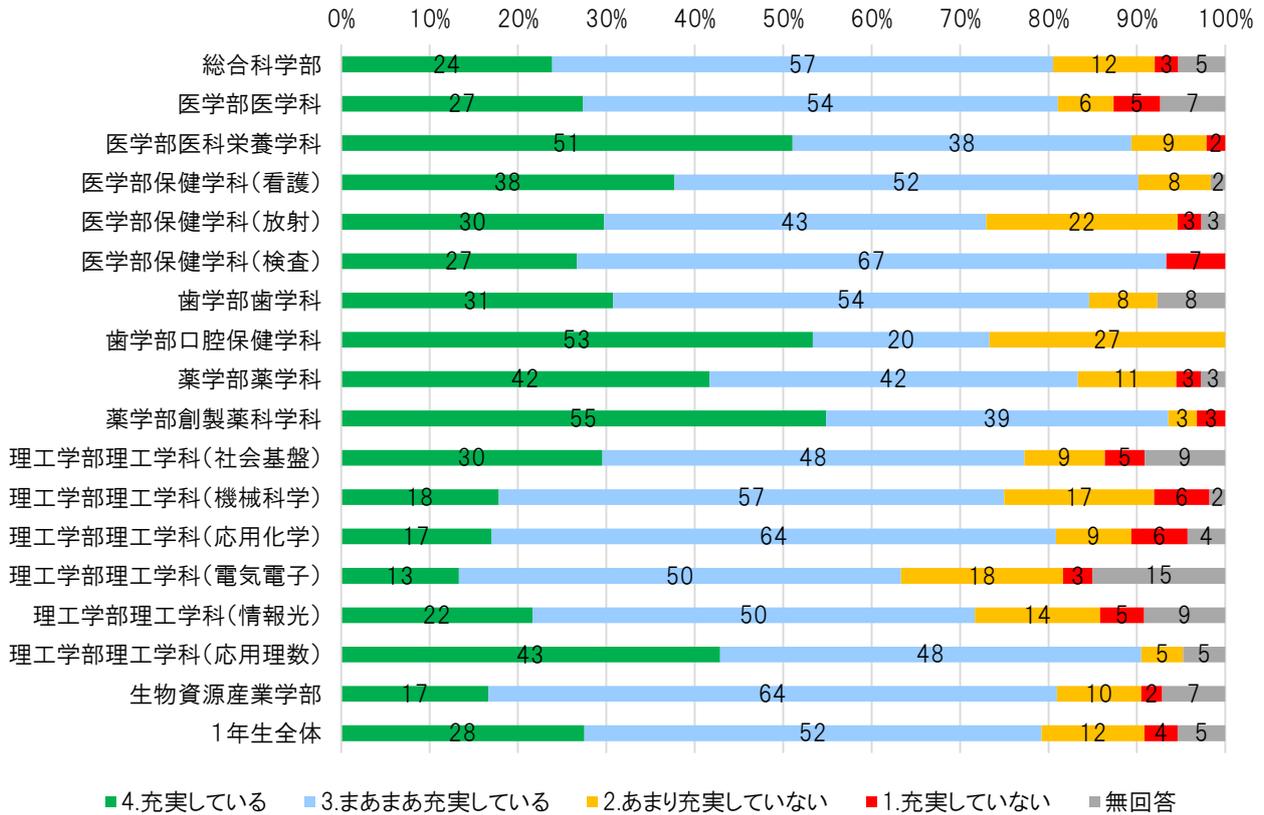
[85]日常的に自身の学修内容等を振り返り、改善点を見出し向上を図っている



[86]現在の自分の学修時間や学修態度に満足している

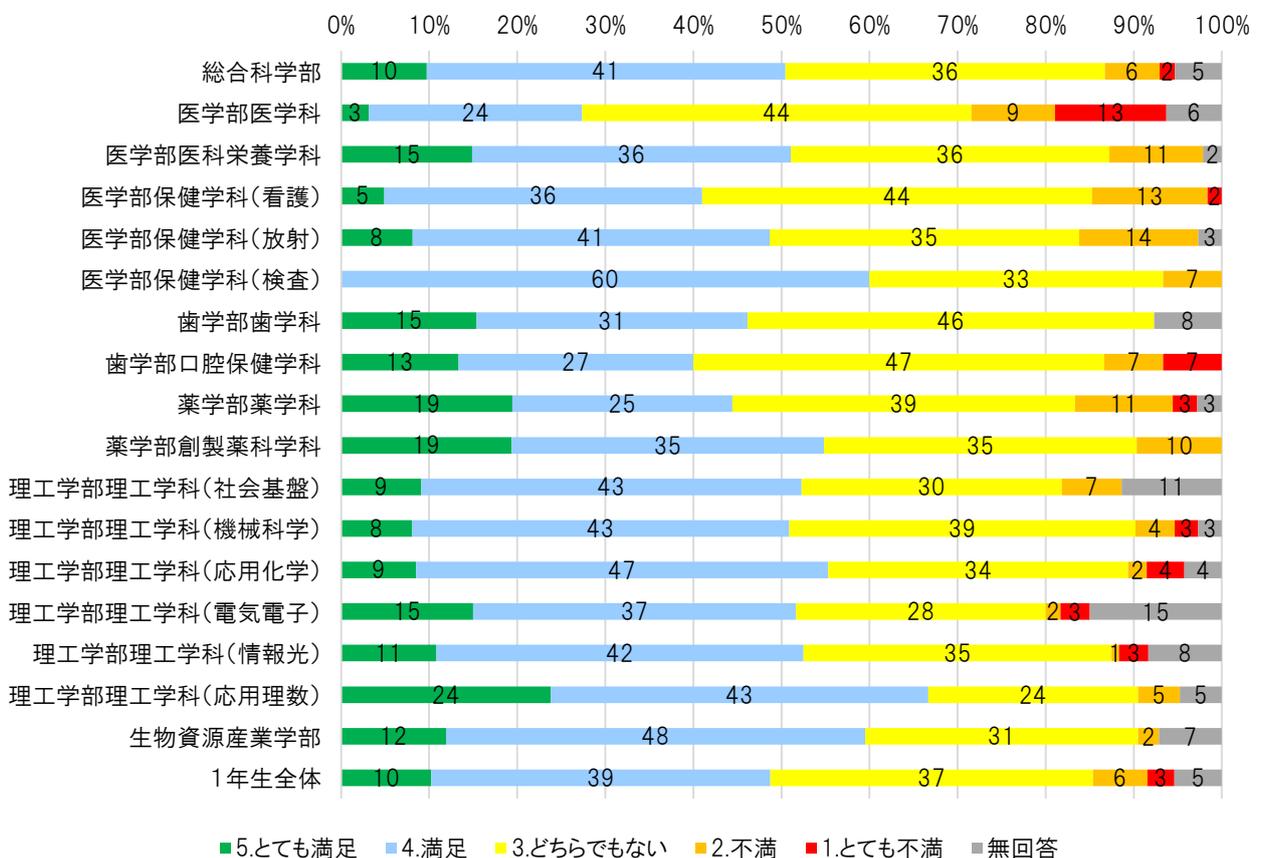


[87]あなたの学生生活は充実していますか。

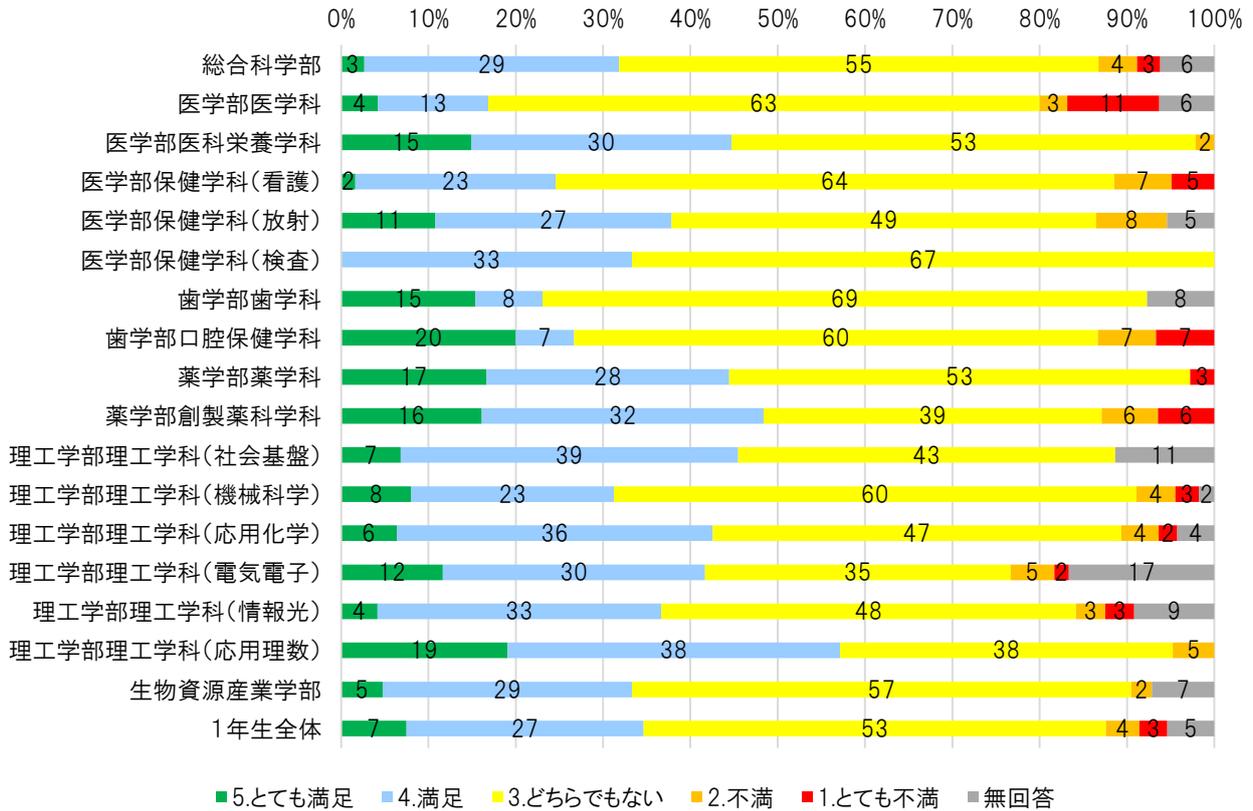


あなたは、本学の教育内容・環境にどれくらい満足していますか。

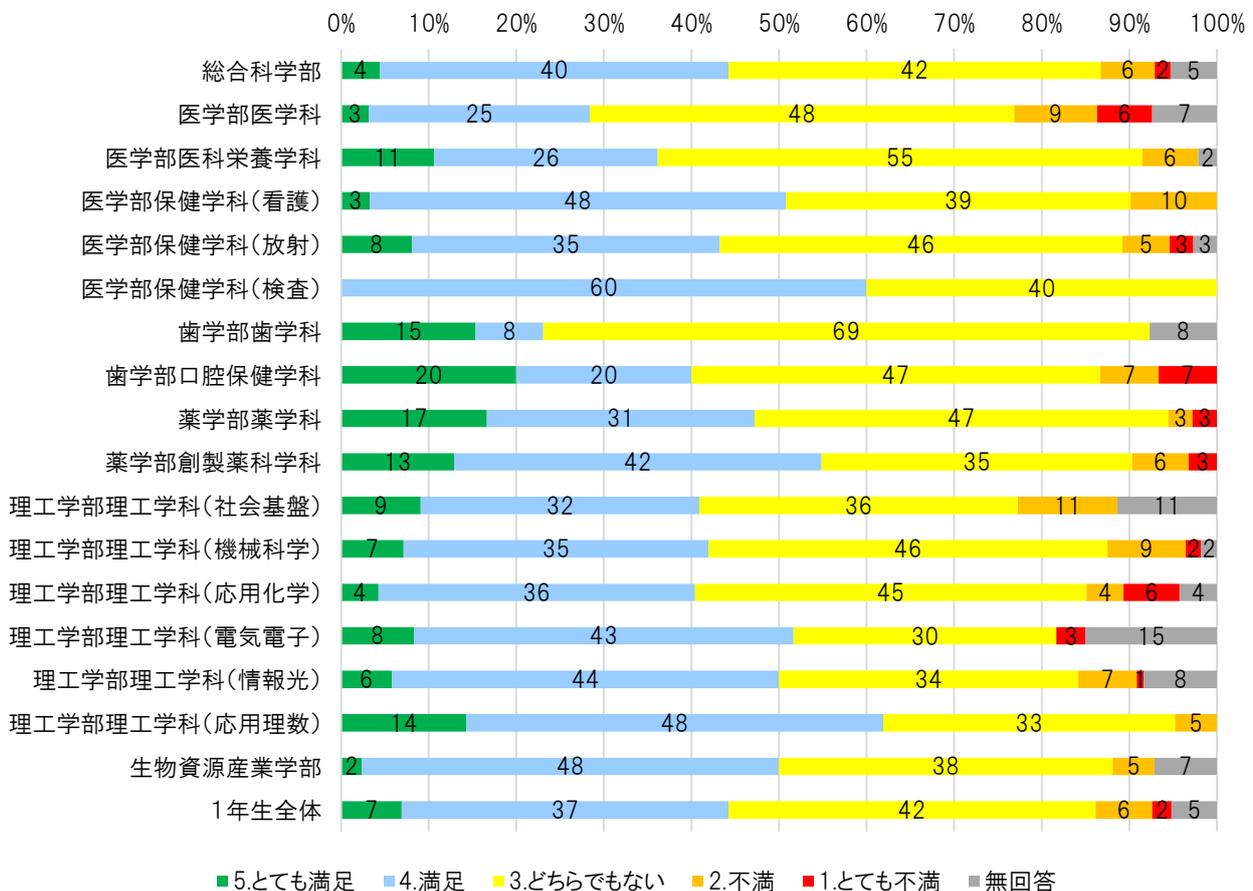
[88]共通教育あるいは教養教育の授業



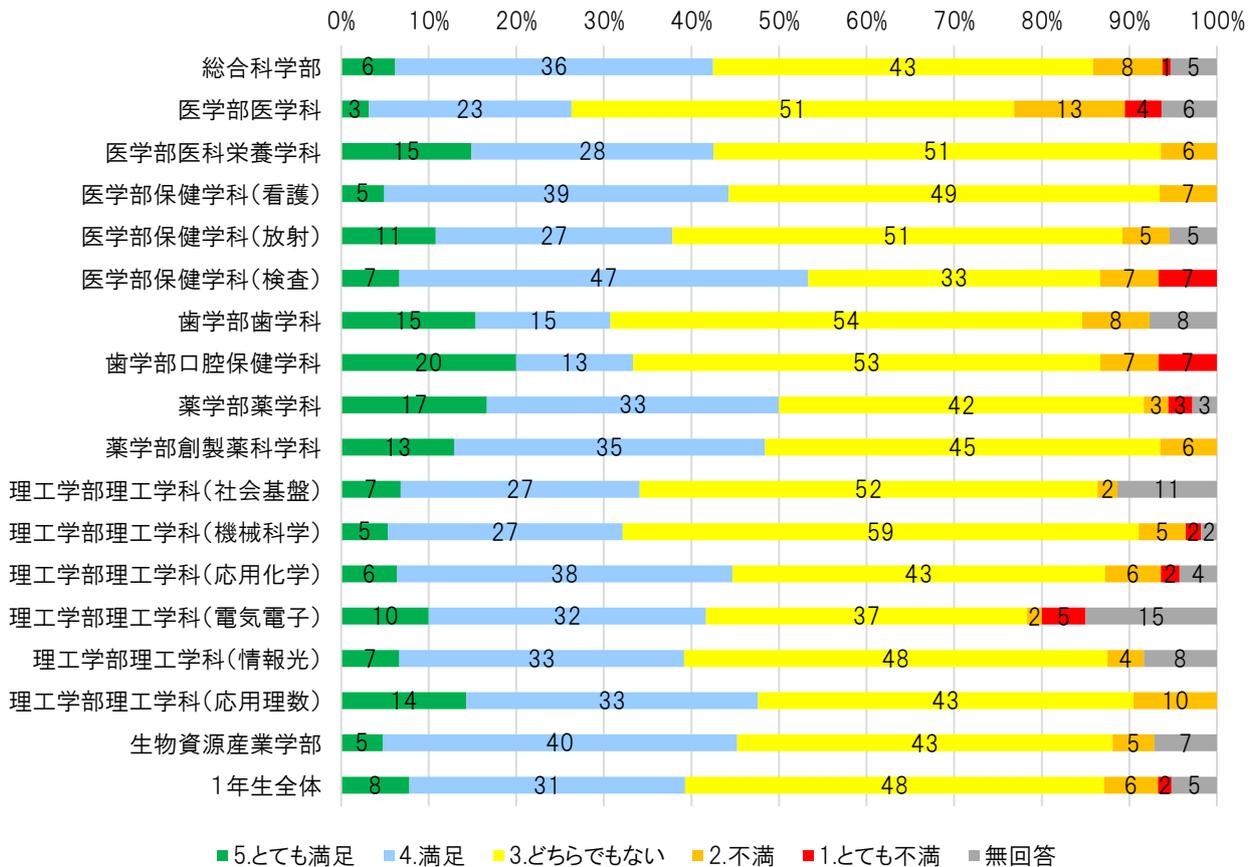
[89]初年次生を対象とした教育プログラム内容(フレッシュマンセミナー、基礎ゼミなど)



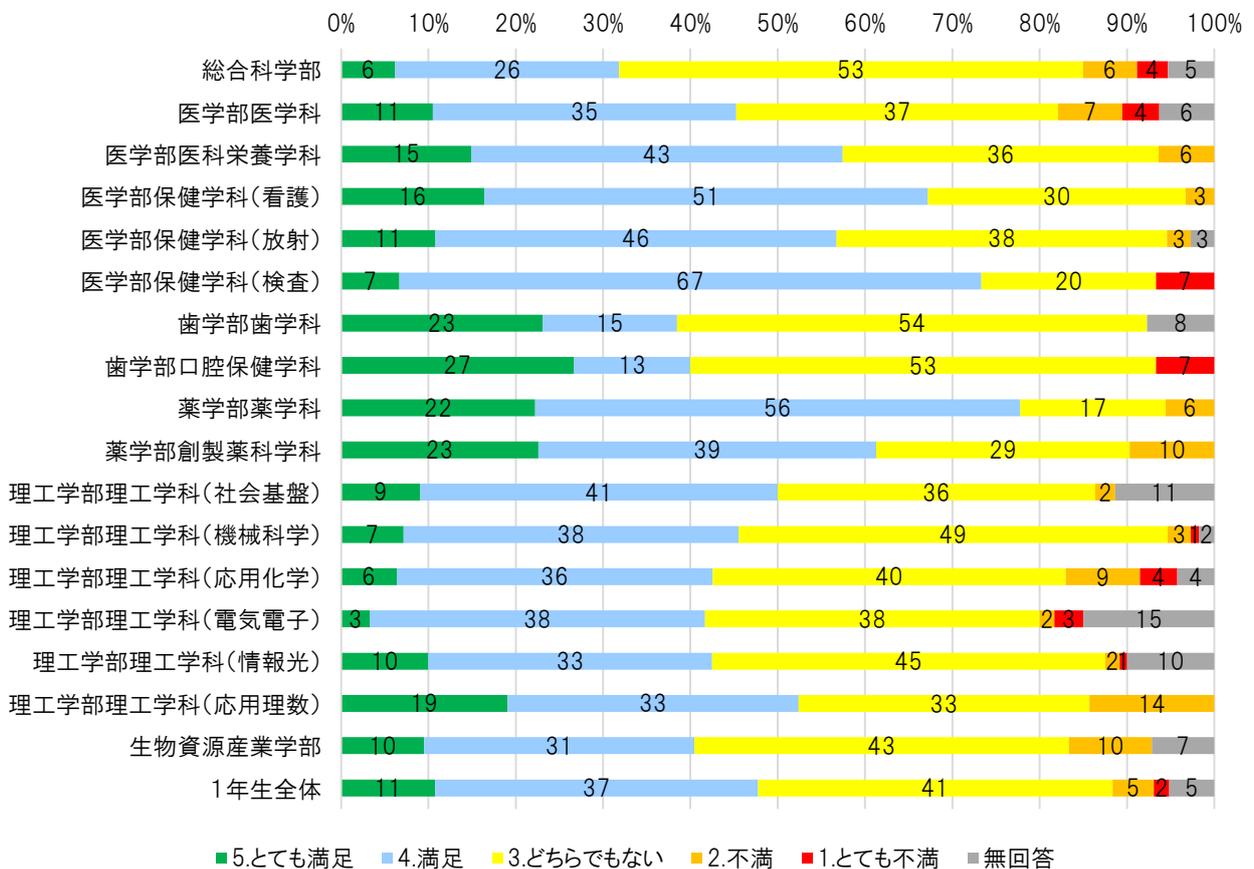
[90]授業の全体的な質



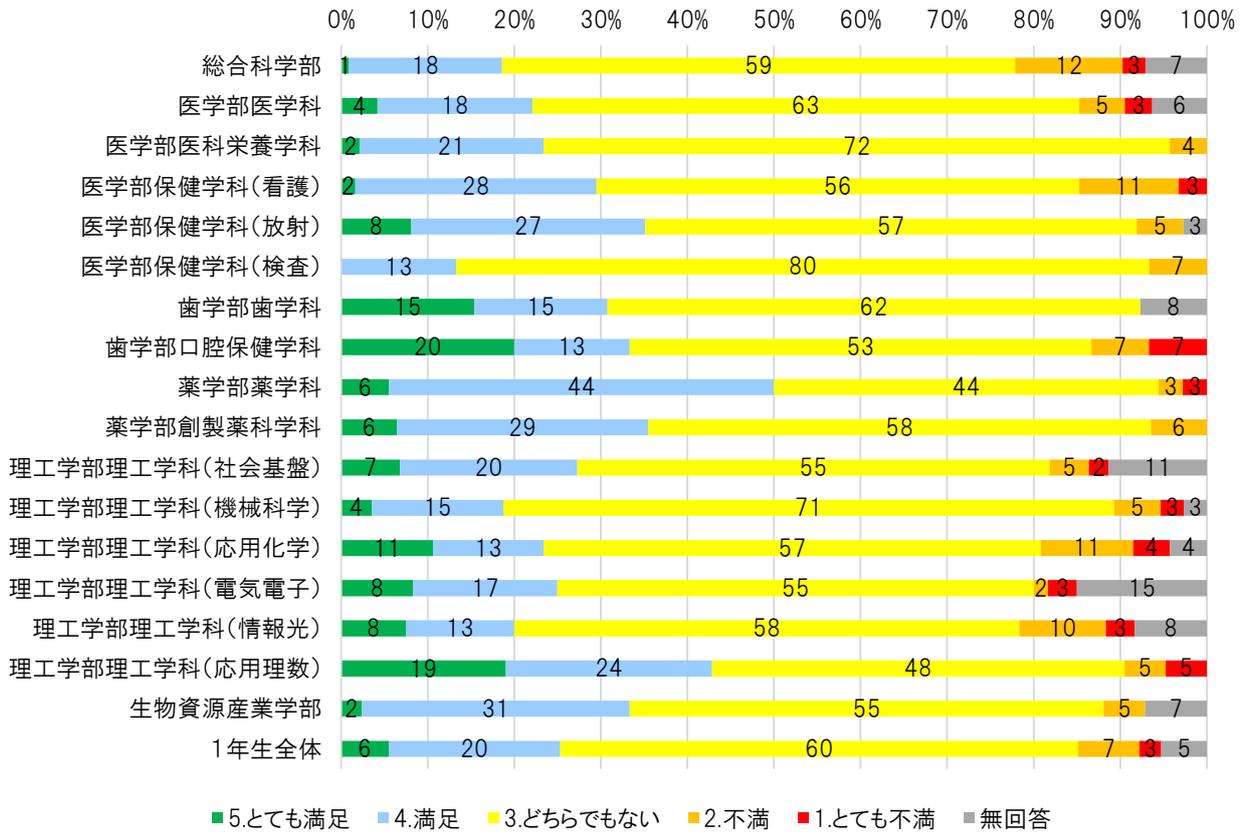
[91]日常生活と授業内容との関連



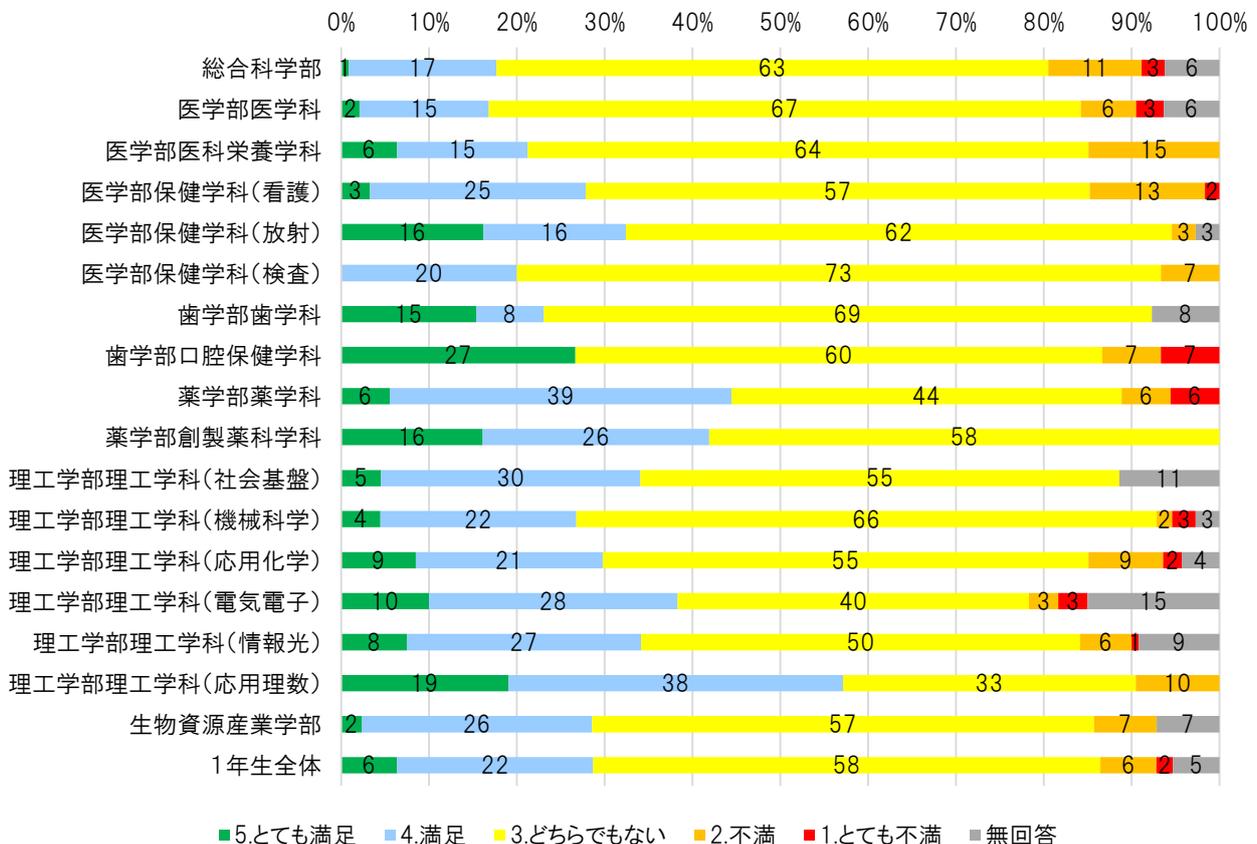
[92]将来の仕事と授業内容の結びつき



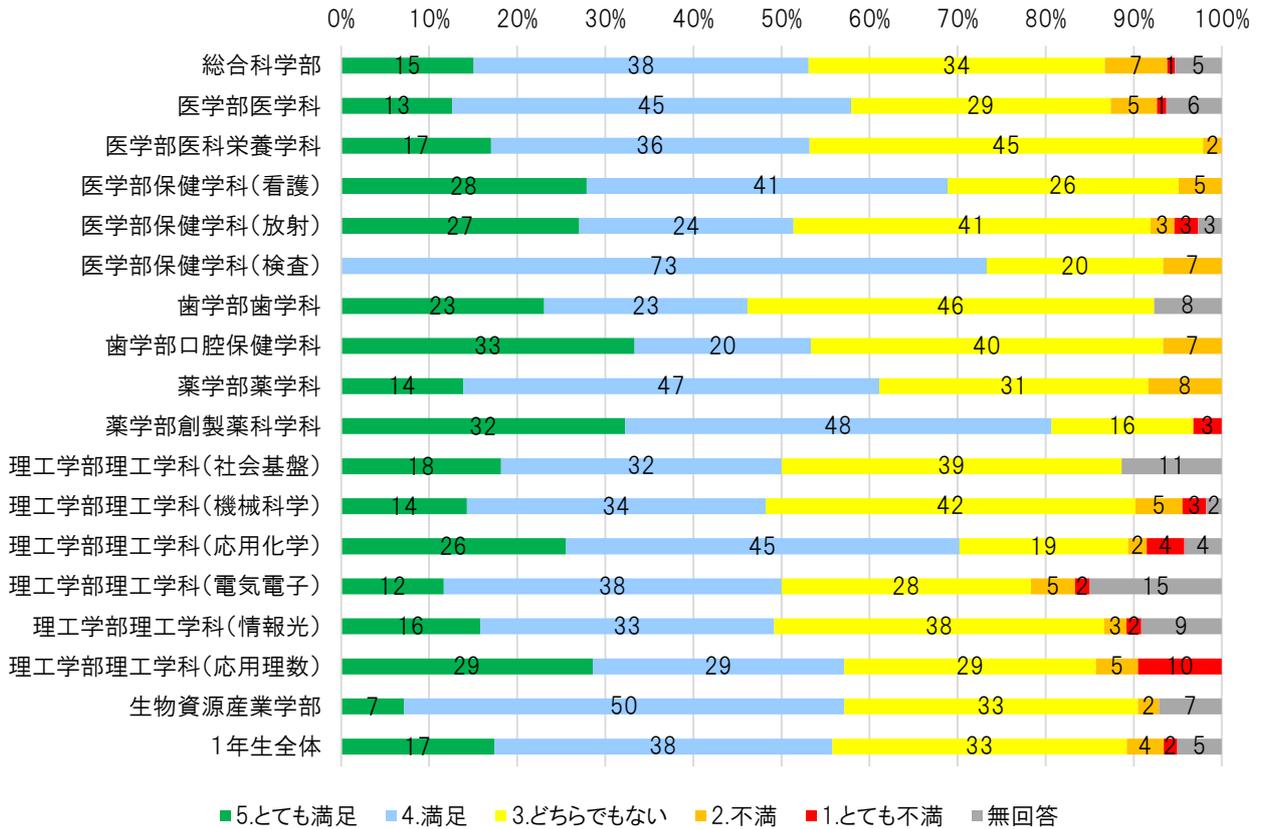
[93] 教員と話をする機会



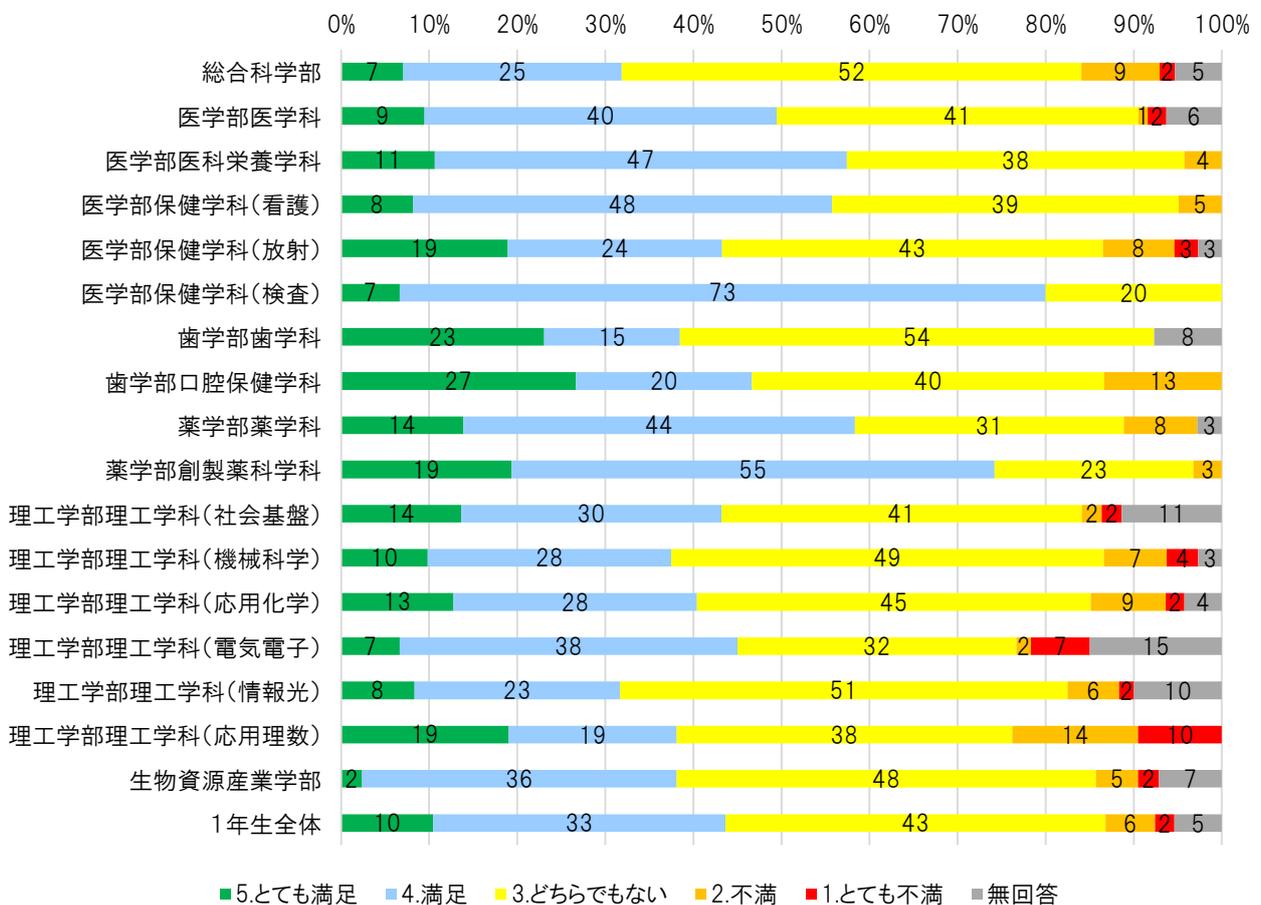
[94] 学習支援や個別の学習指導



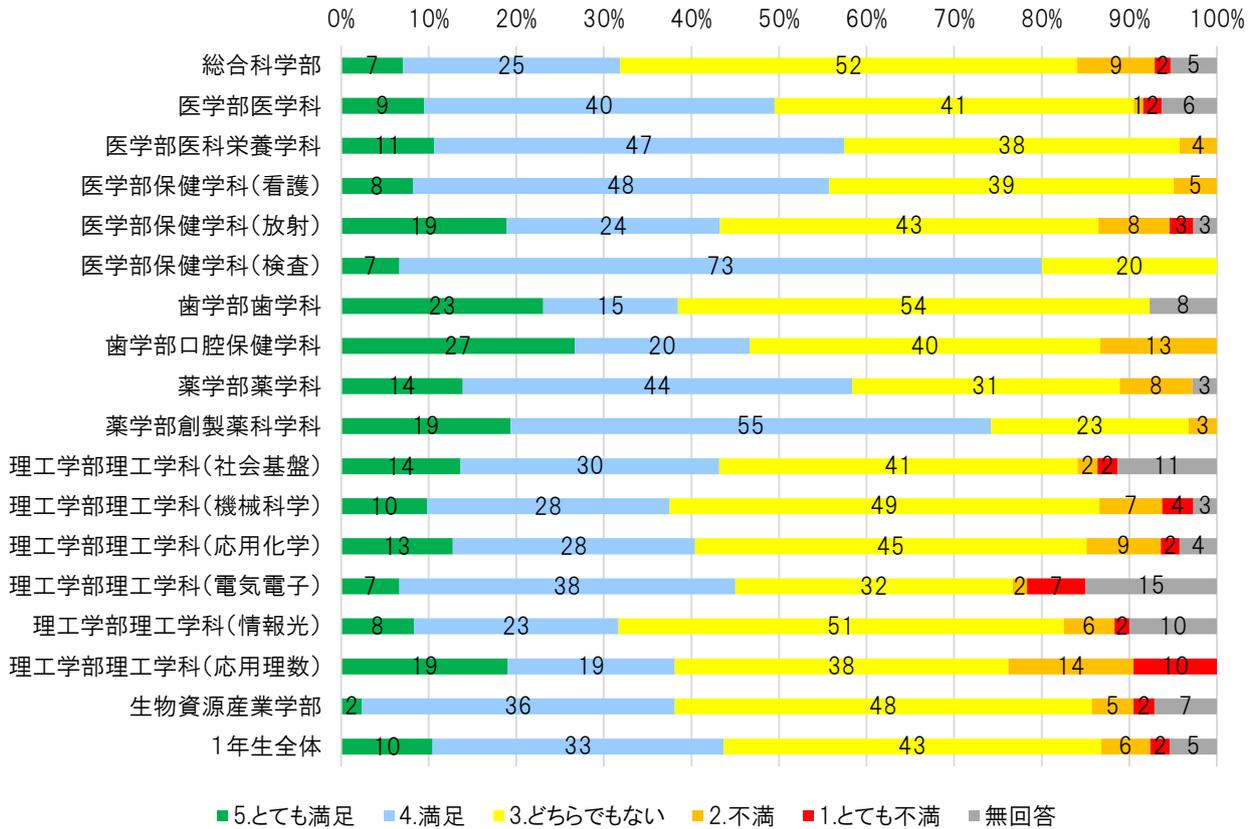
[95]他の学生と話をする機会



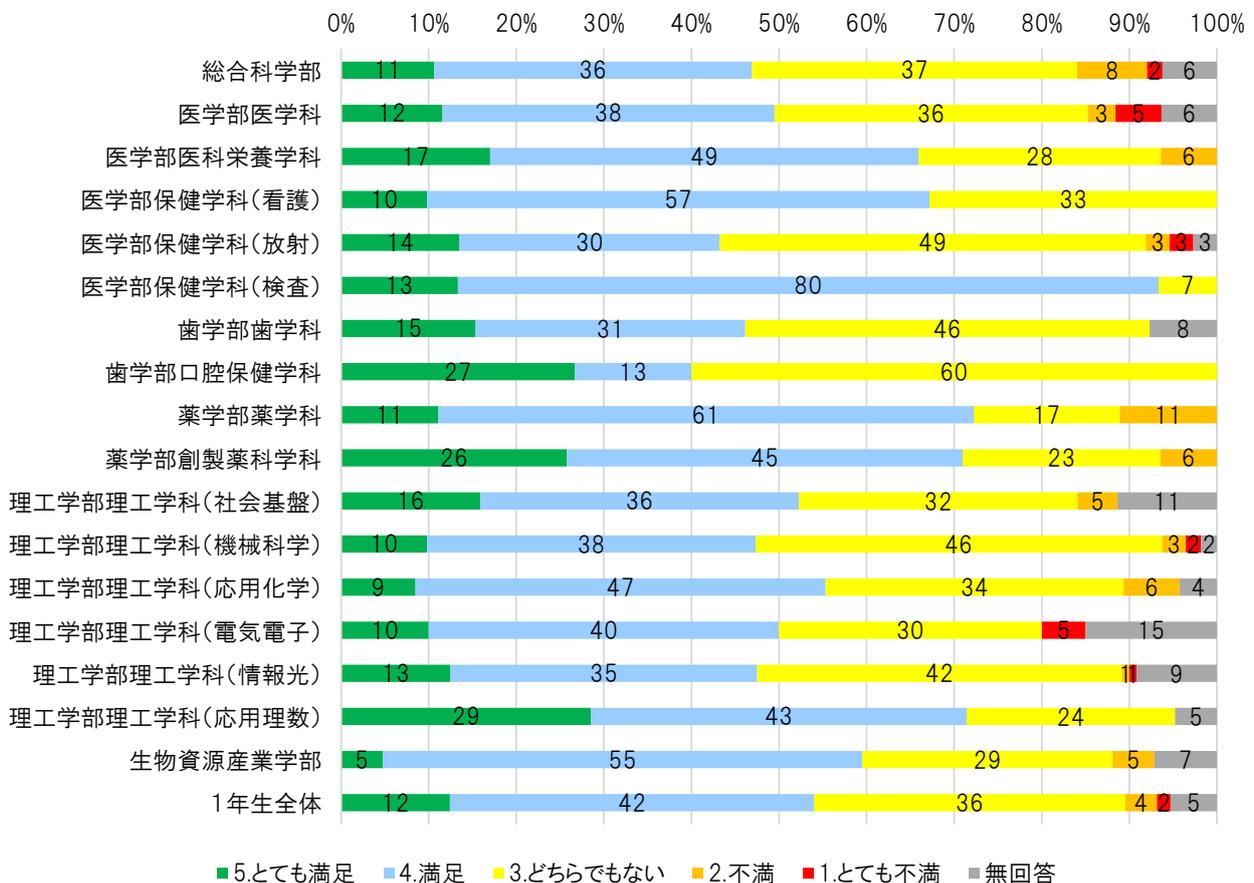
[96]大学のなかでの学生同士の一体感



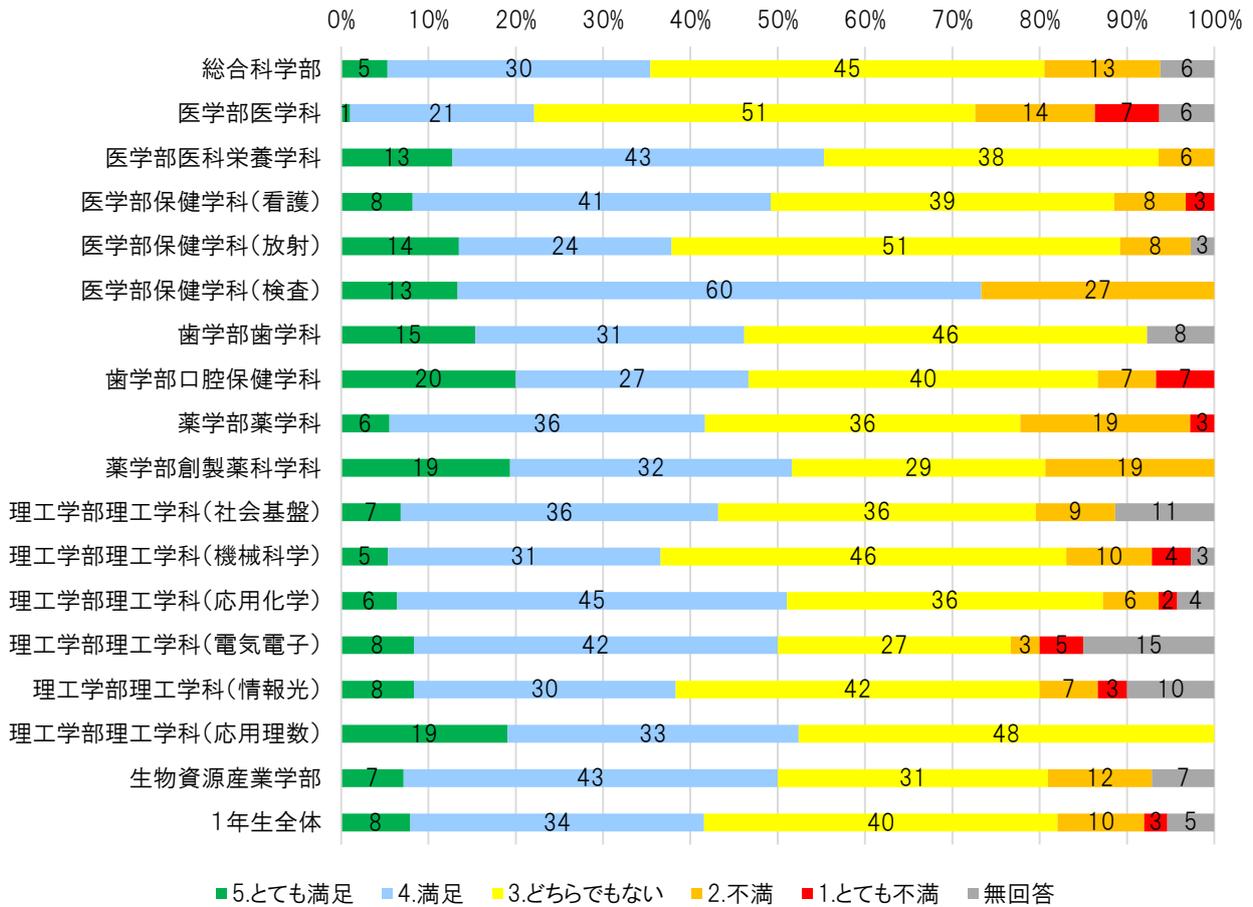
[97]多様な考え方を認め合う雰囲気



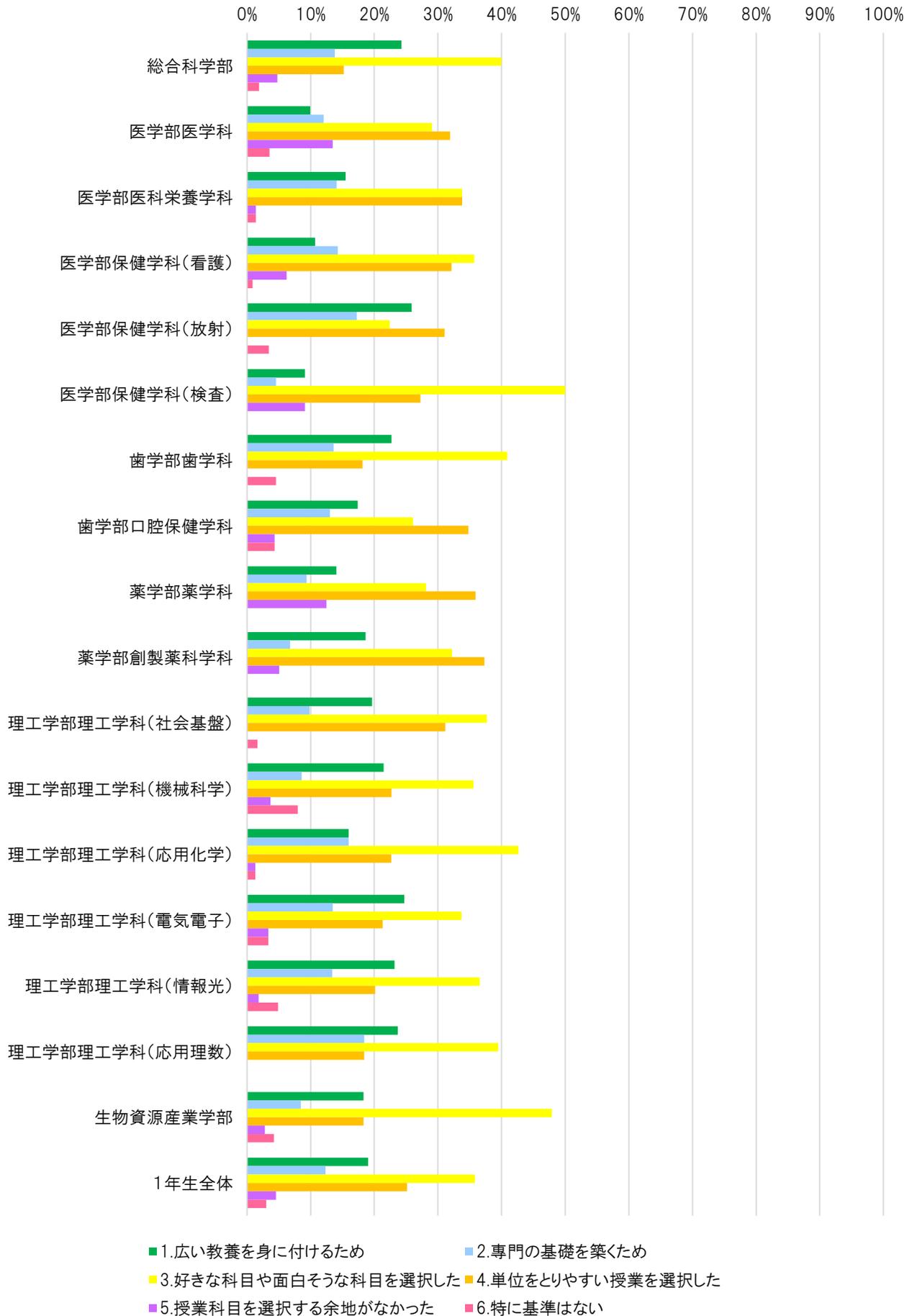
[98]大学での経験全般について



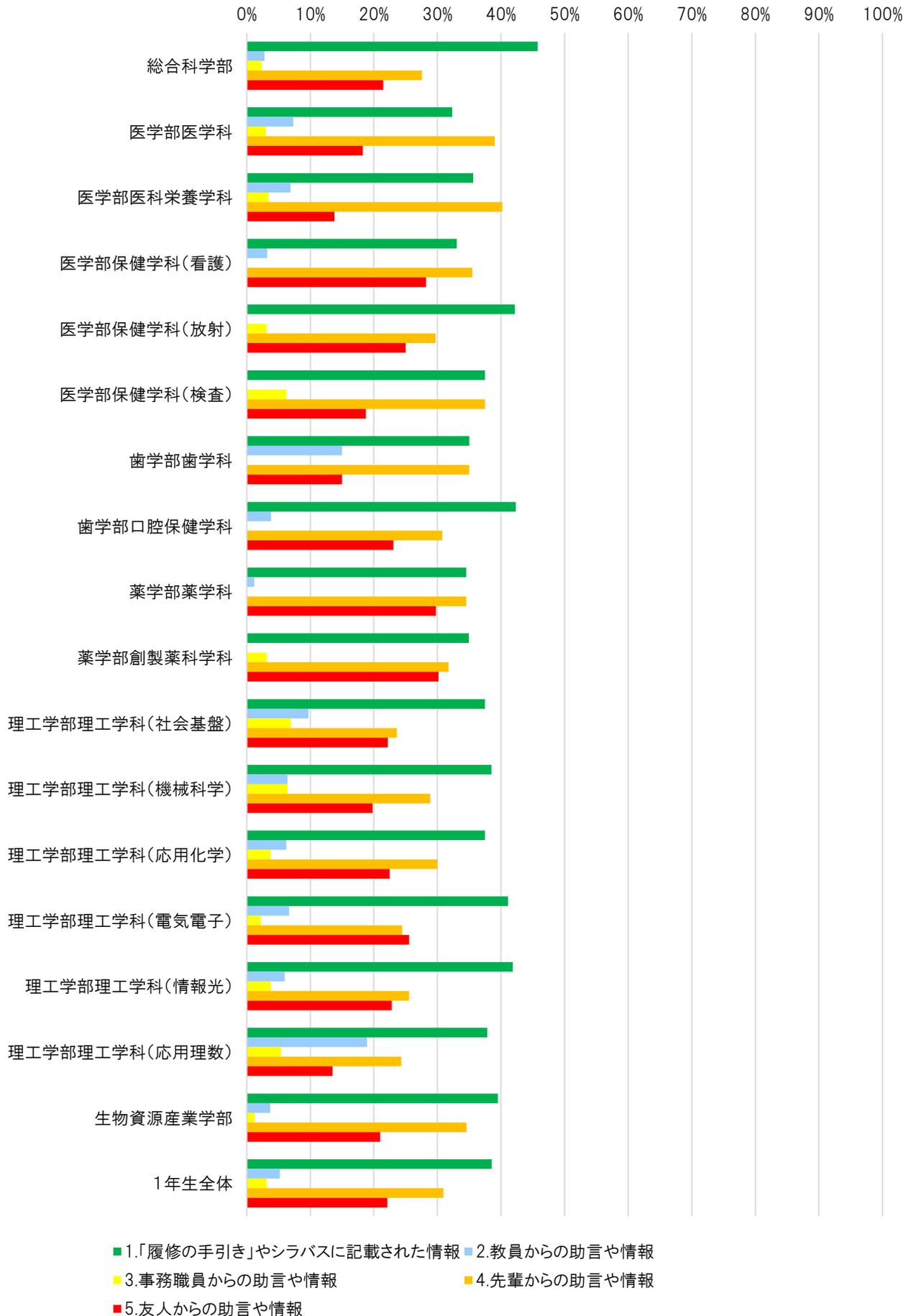
[99]1つの授業を履修する学生数



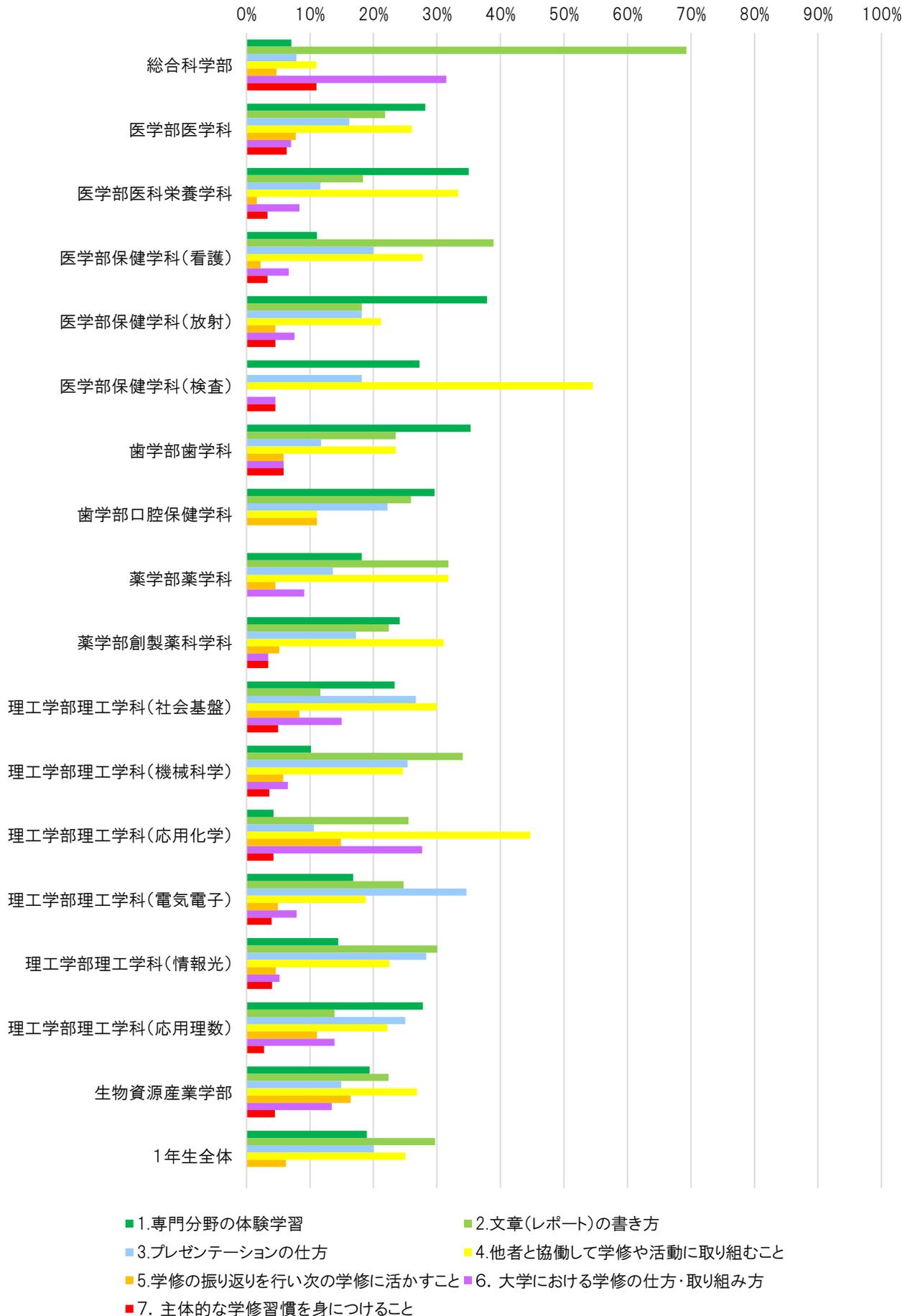
[100] 教養教育科目の選択はどのような基準で行いましたか。(複数回答可)



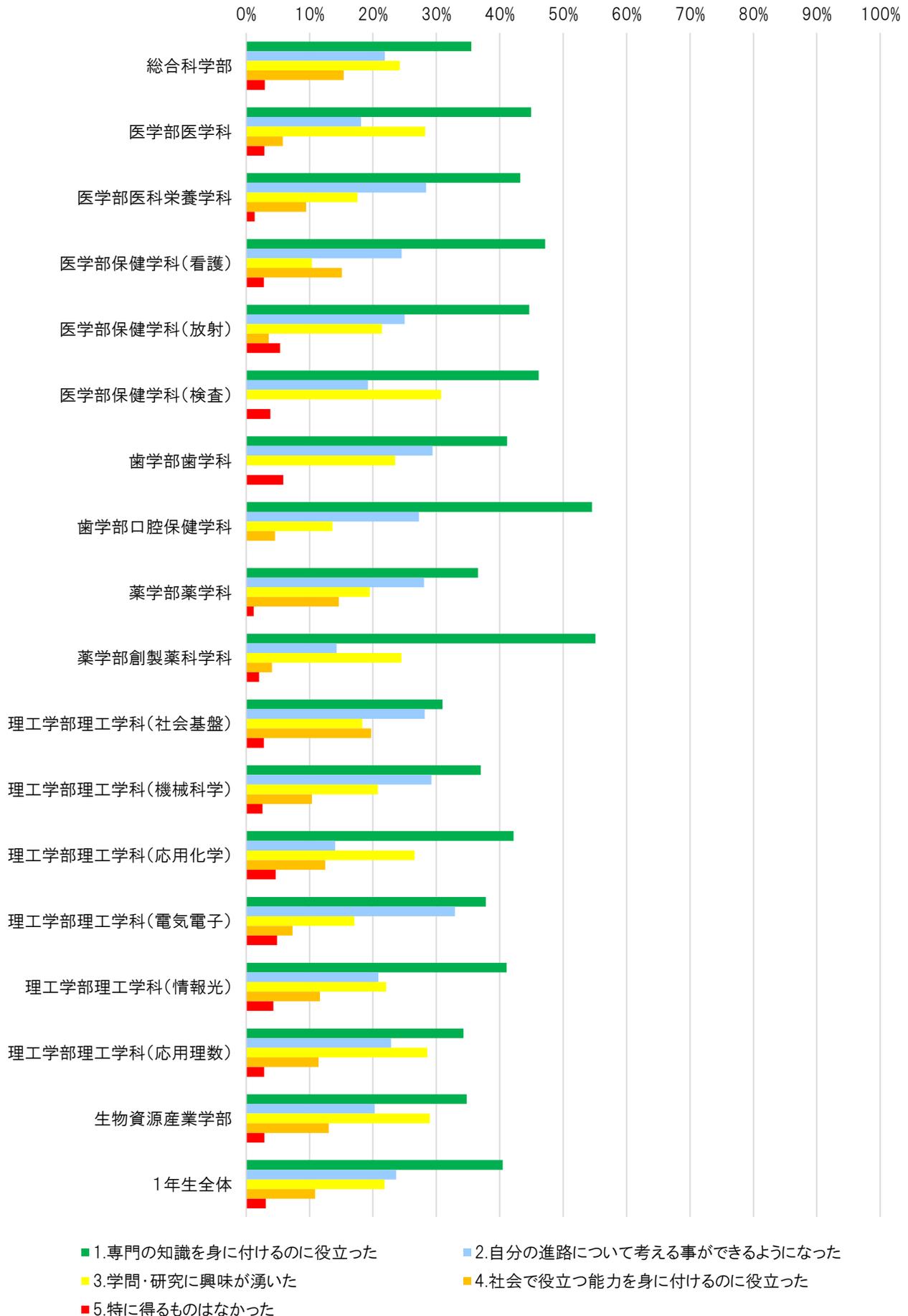
[101] 教養教育科目の選択にあたって重視した情報源はなんですか。(複数回答可)



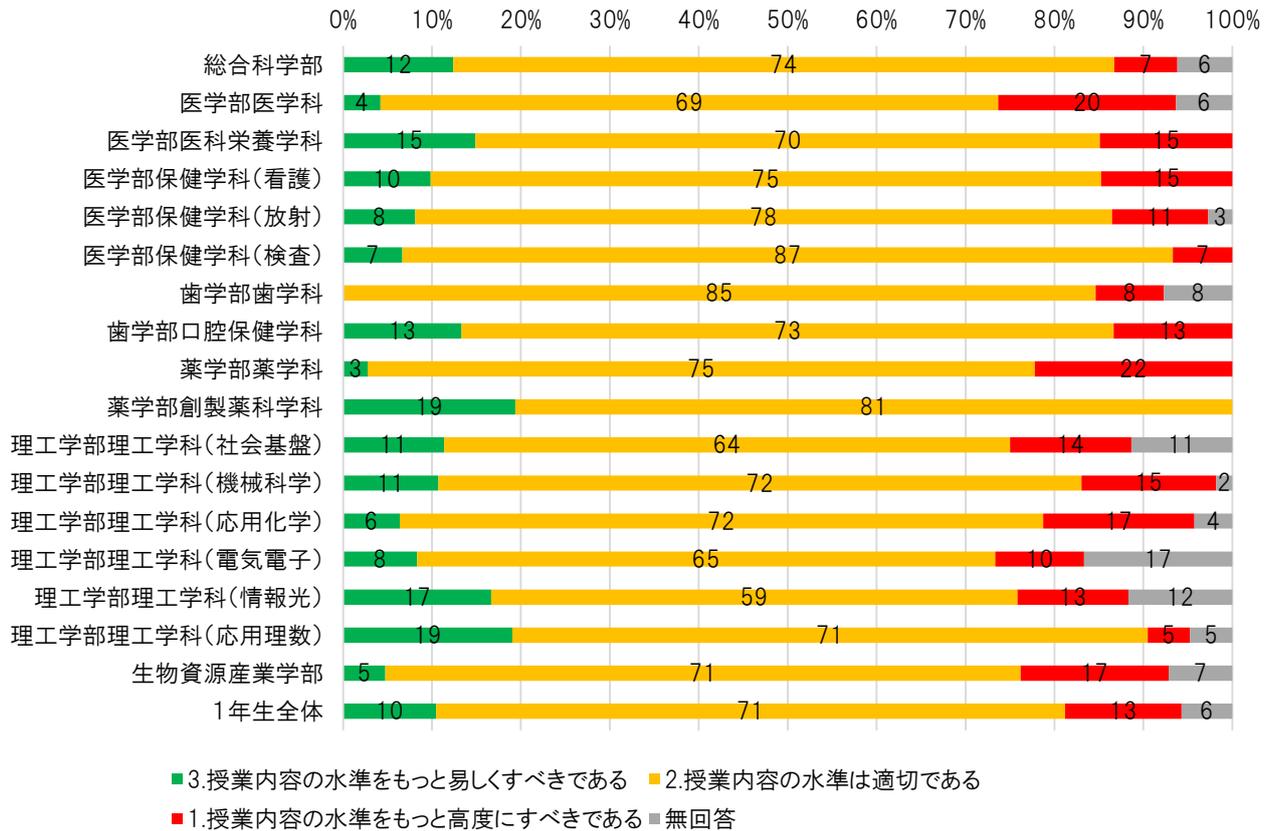
[102] 「SIH 道場」で学んだ内容のうち、役に立っている項目をすべて選択してください。(複数回答可)



[103] 専門教育科目の授業を受けて何を学ぶことができると感じますか。(複数回答可)

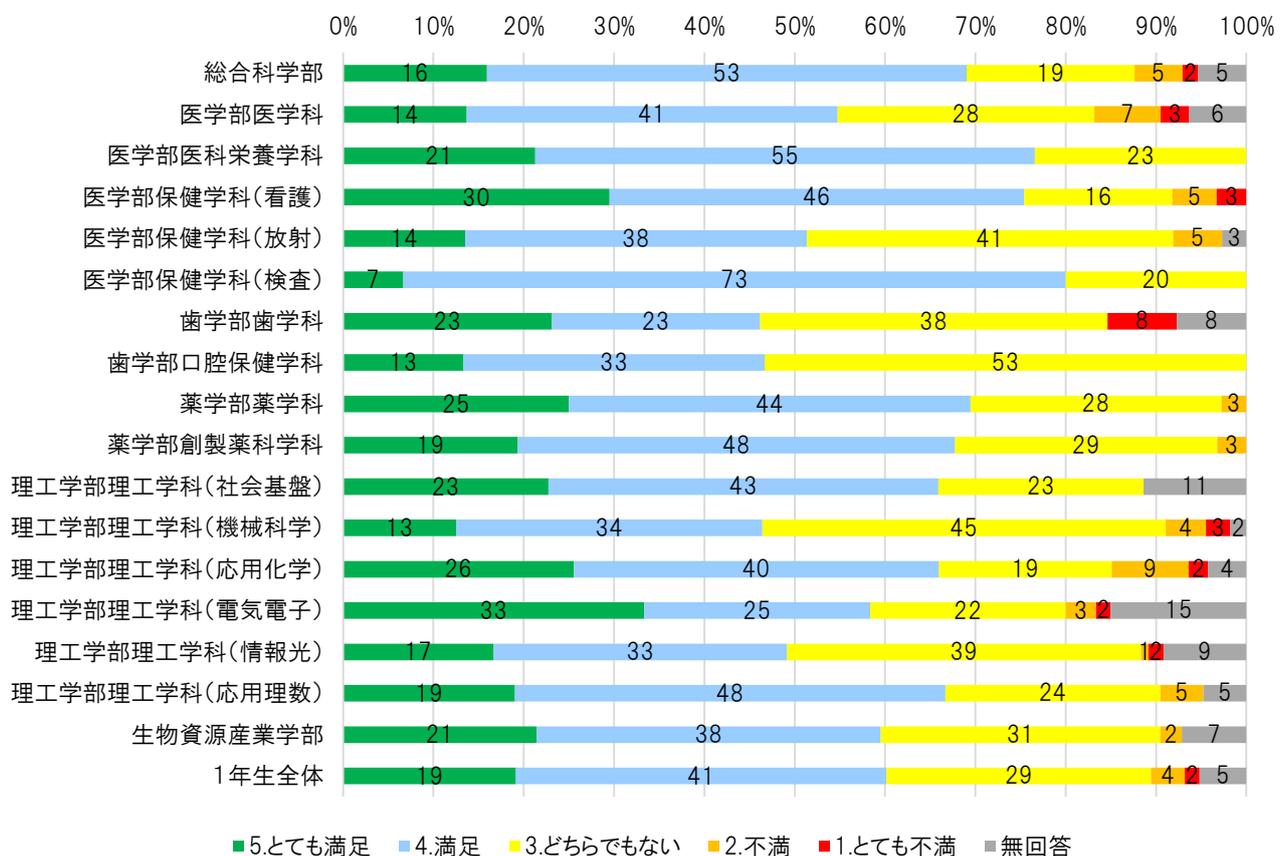


[104] 授業内容の難易度についてどう思いますか。

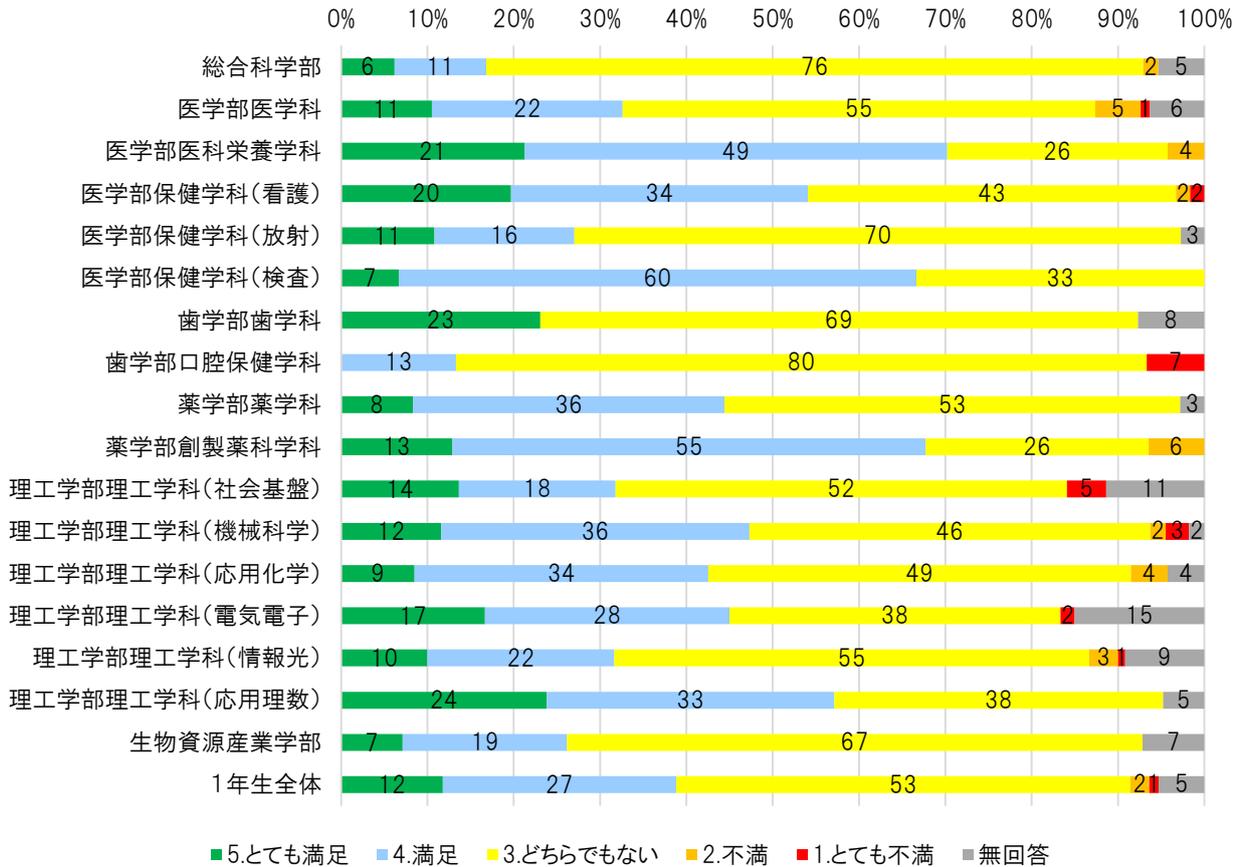


あなたは、本学の設備や学生支援制度にどの程度満足していますか。

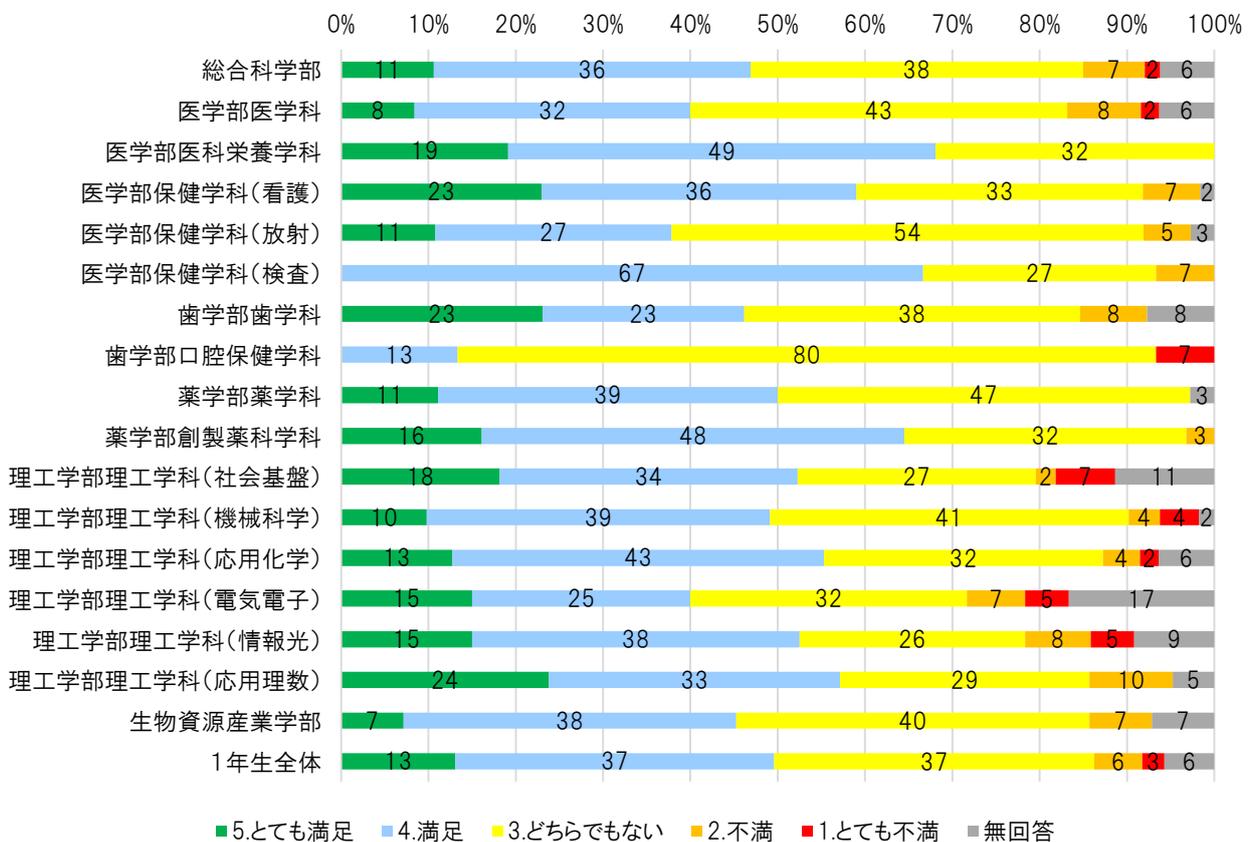
[105] 図書館の設備(蔵書やレファレンスサービス)



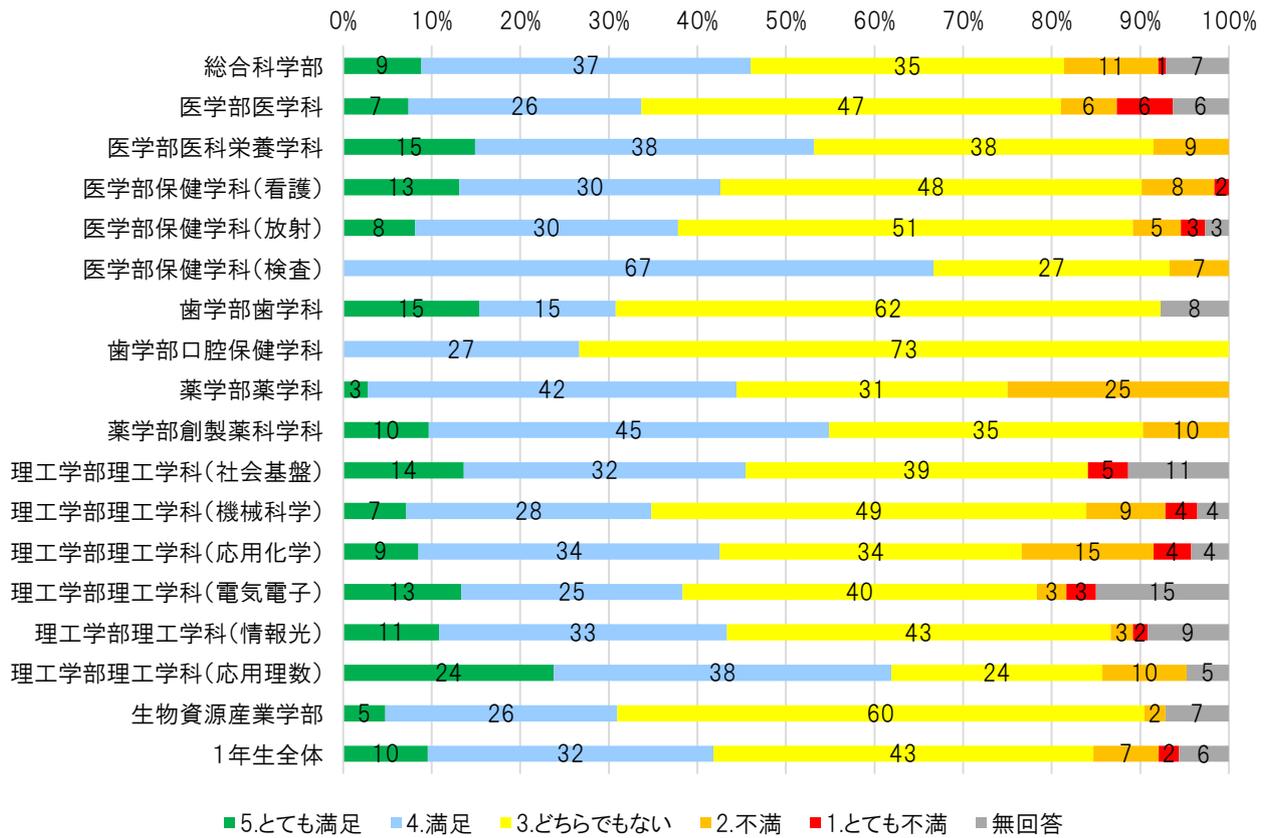
[106] 実験室の設備や器具



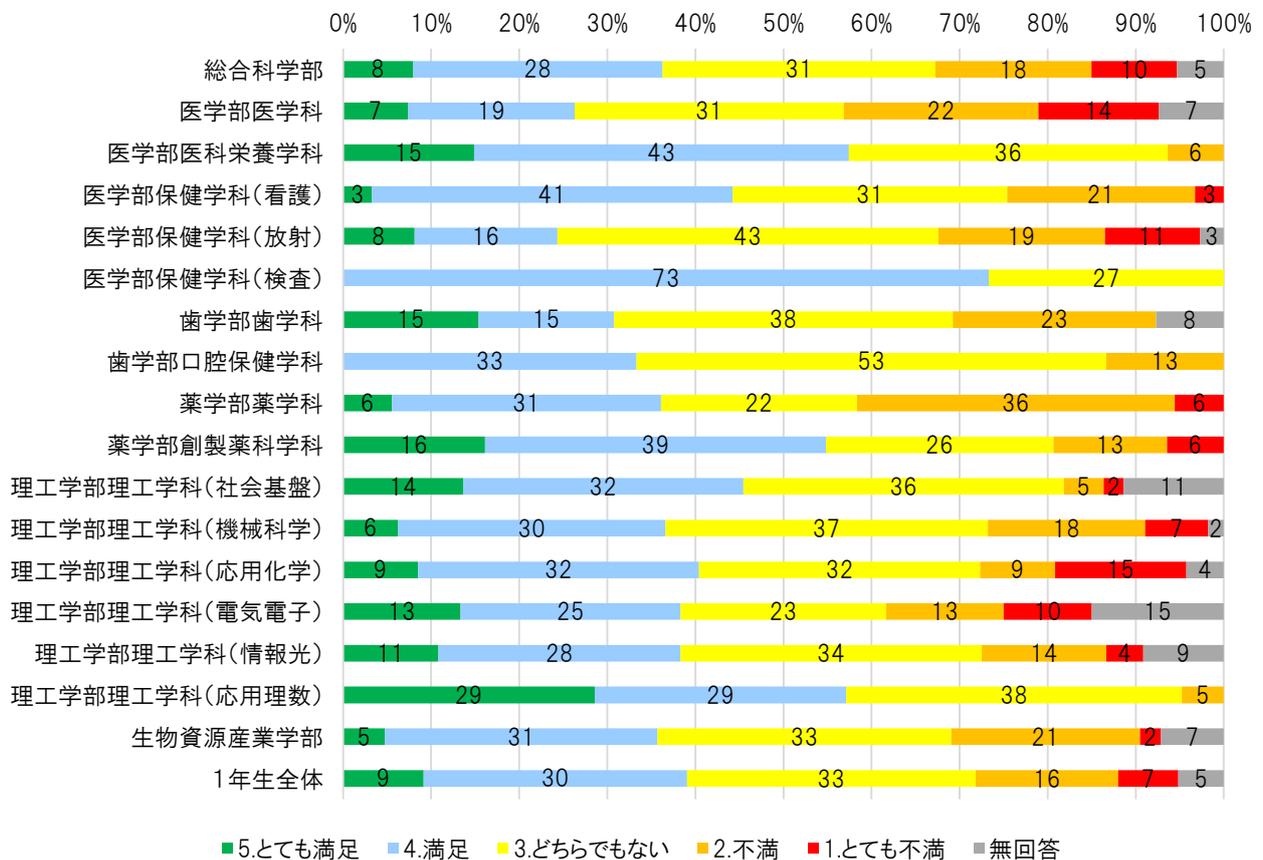
[107] コンピュータの施設や設備



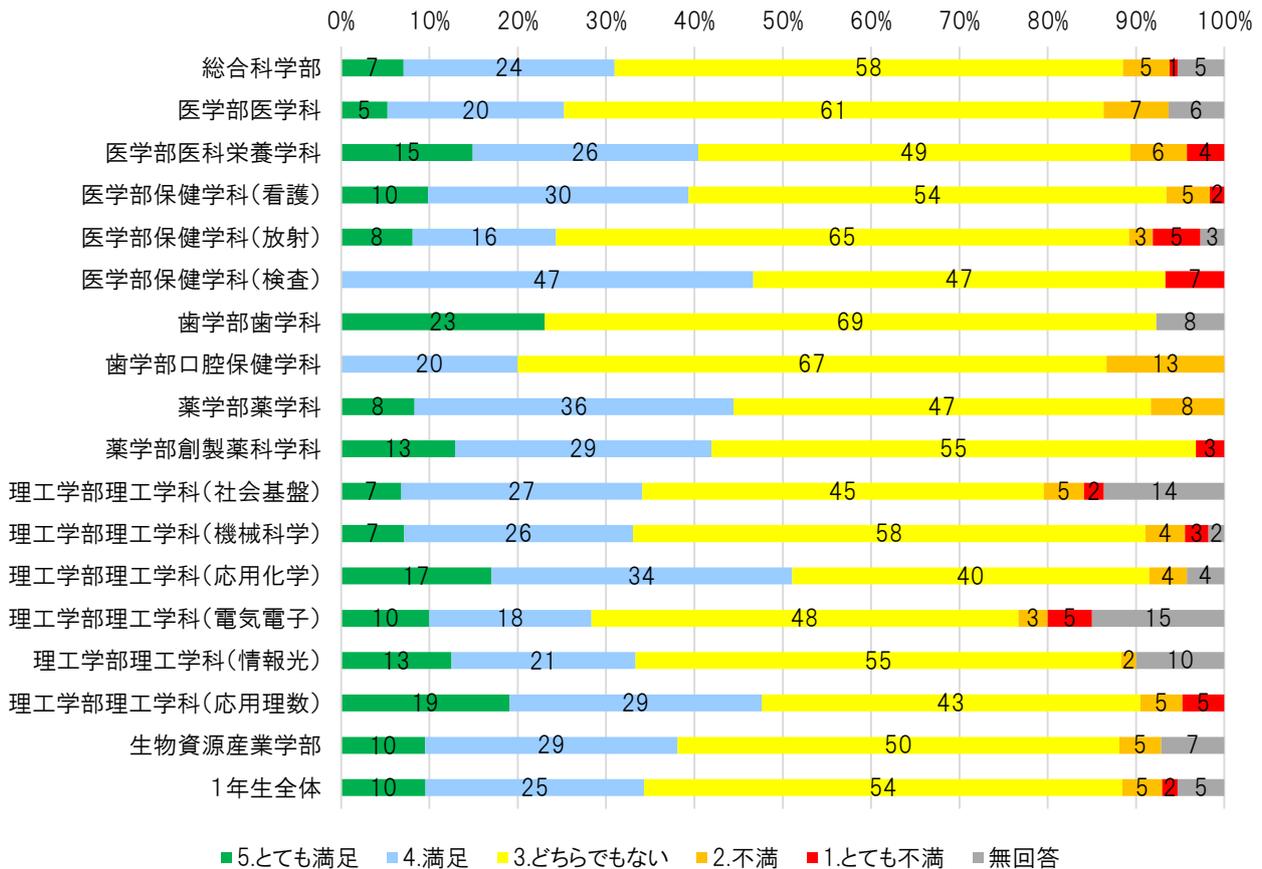
[108] コンピュータの訓練や援助



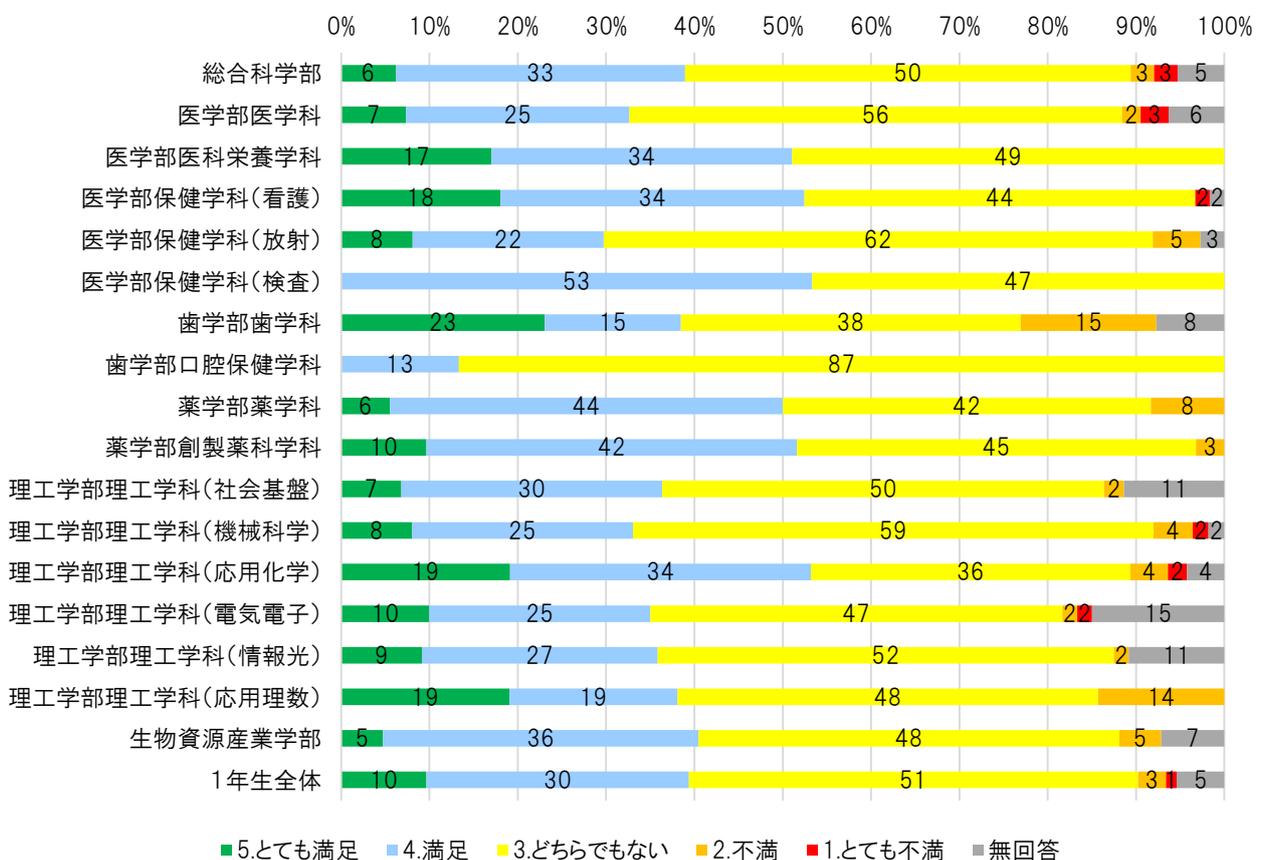
[109] インターネットの使いやすさ



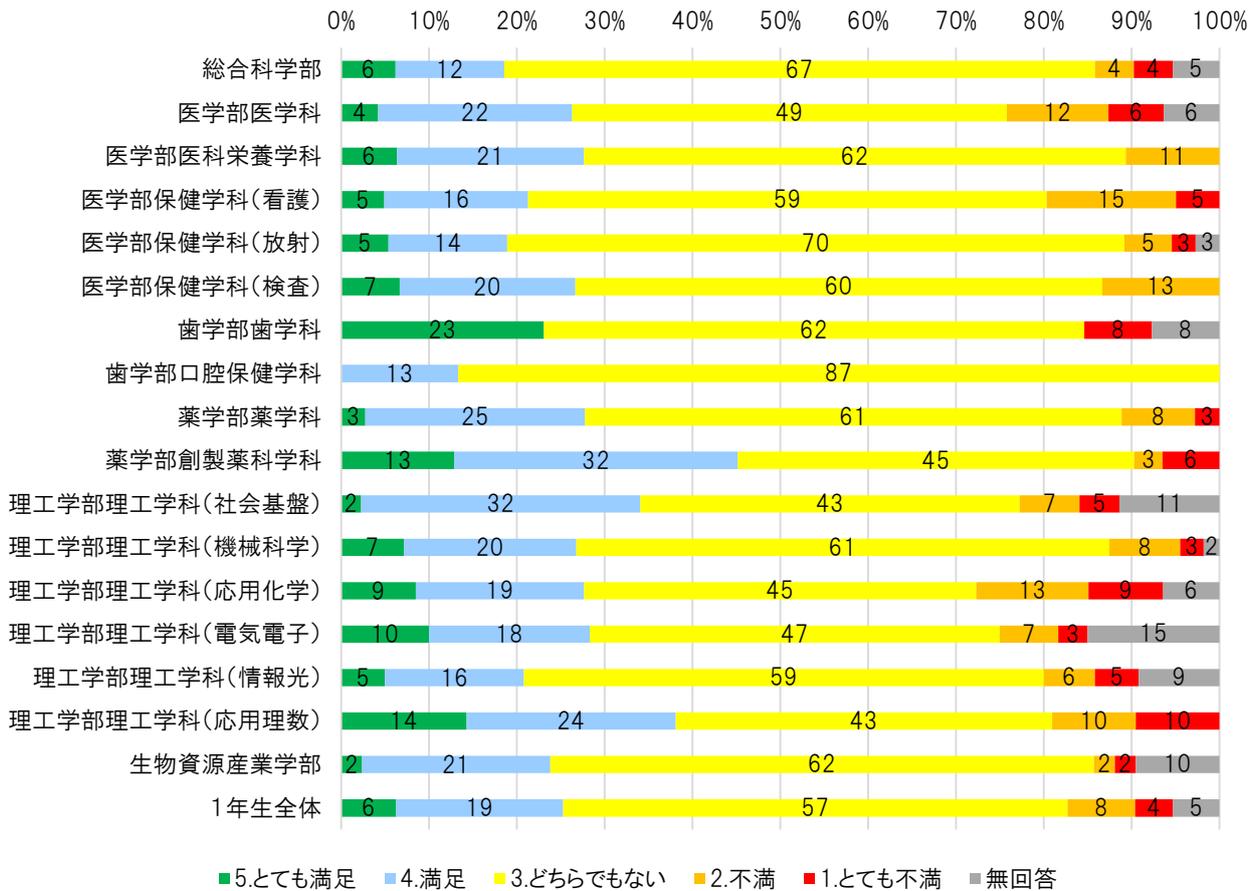
[110] 奨学金など学費援助の制度



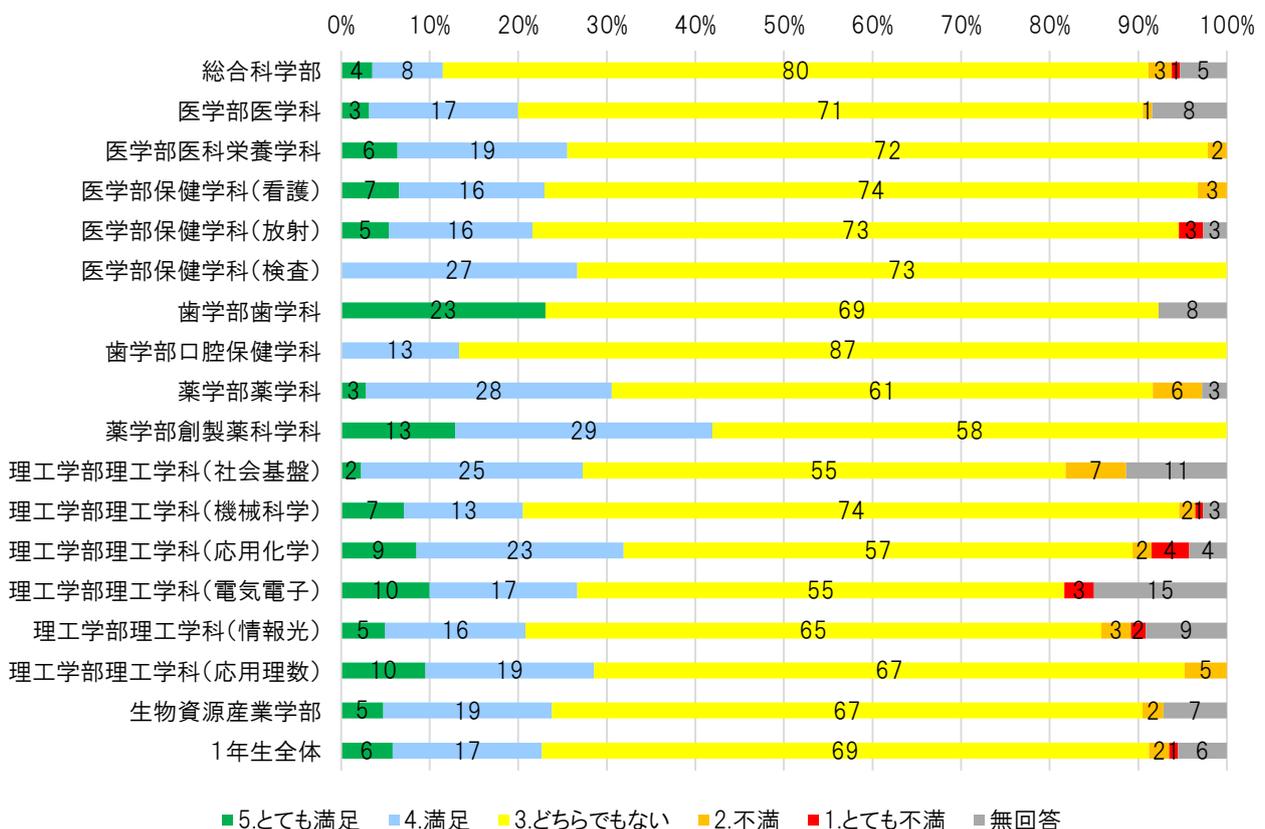
[111] 健康・保健サービス(心身の健康に関わる問題についての診療や相談)



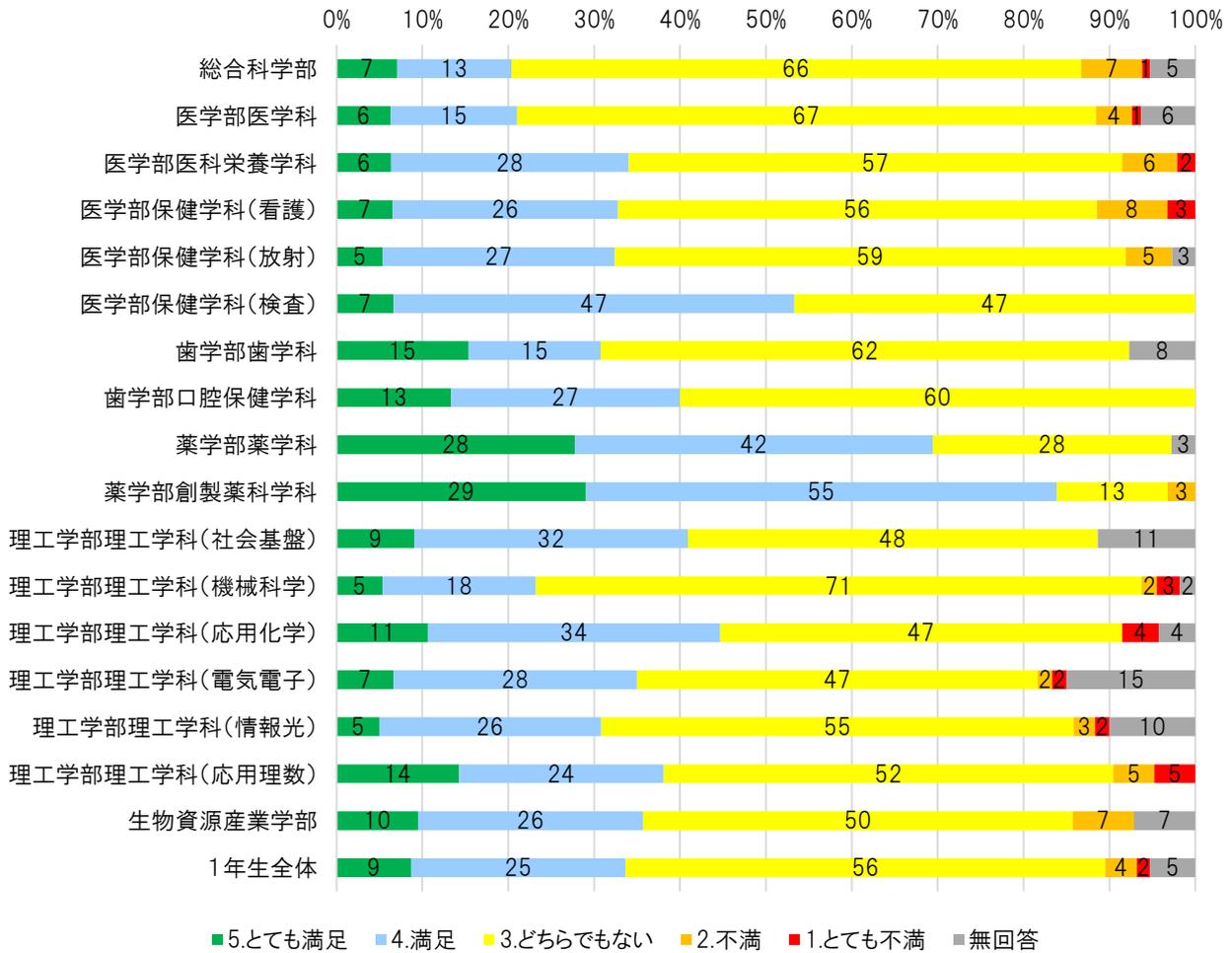
[112] レクリエーション施設(ジムの設備など)



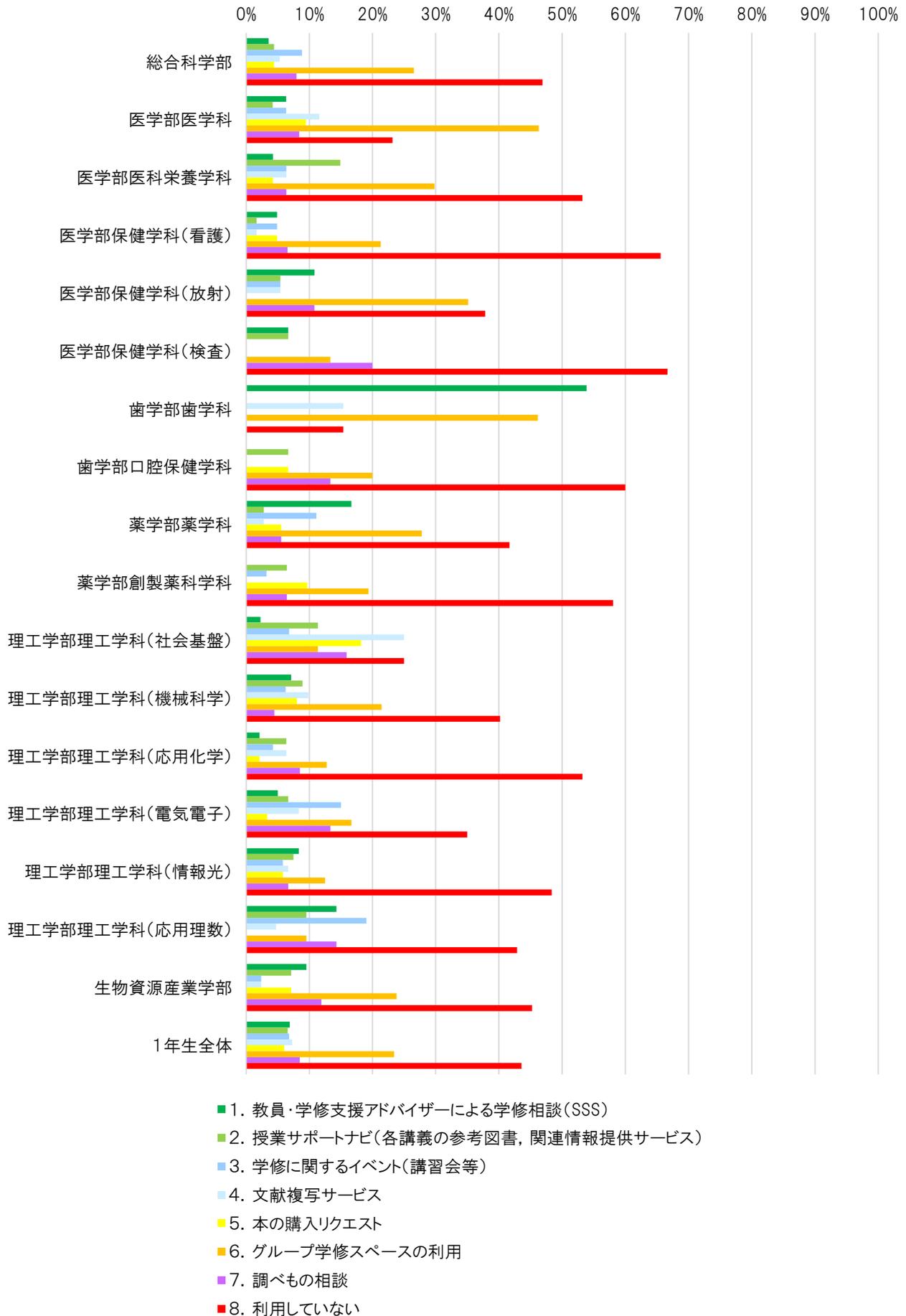
[113] キャリアカウンセリング(就職や進学に関する相談)



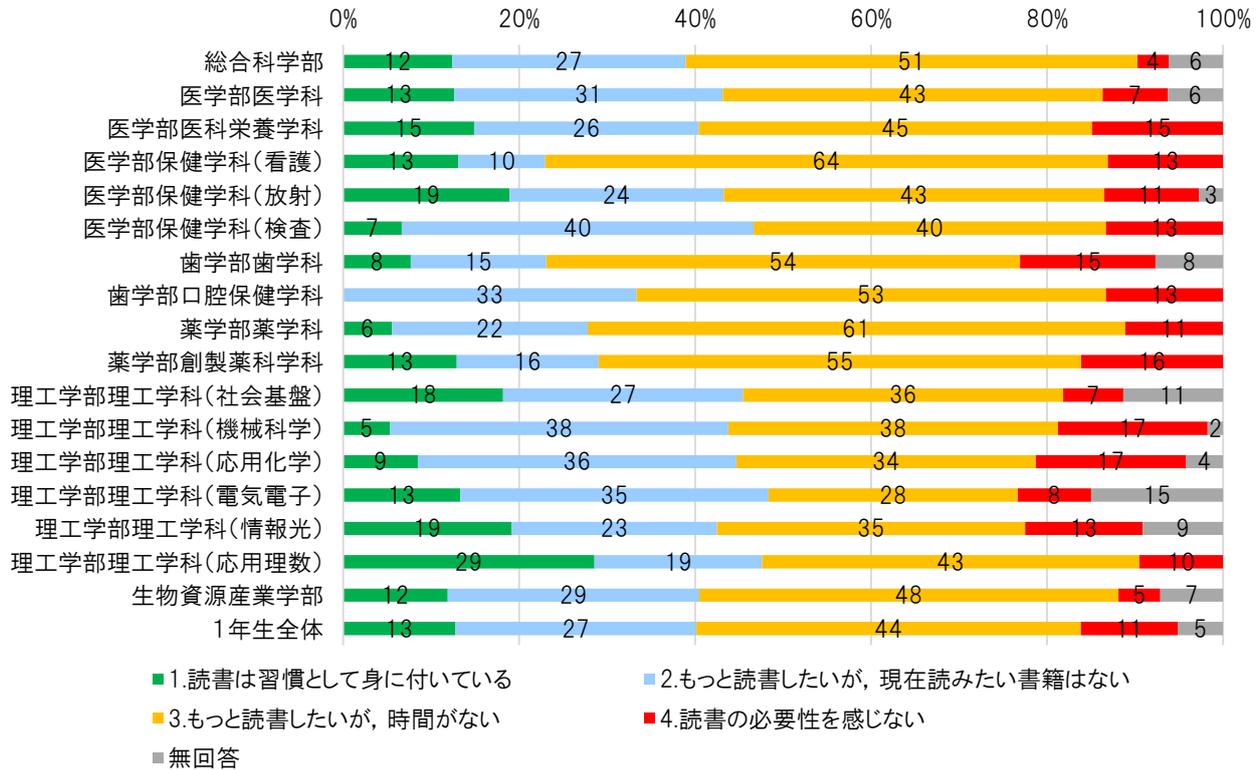
[114] クラス担任制度



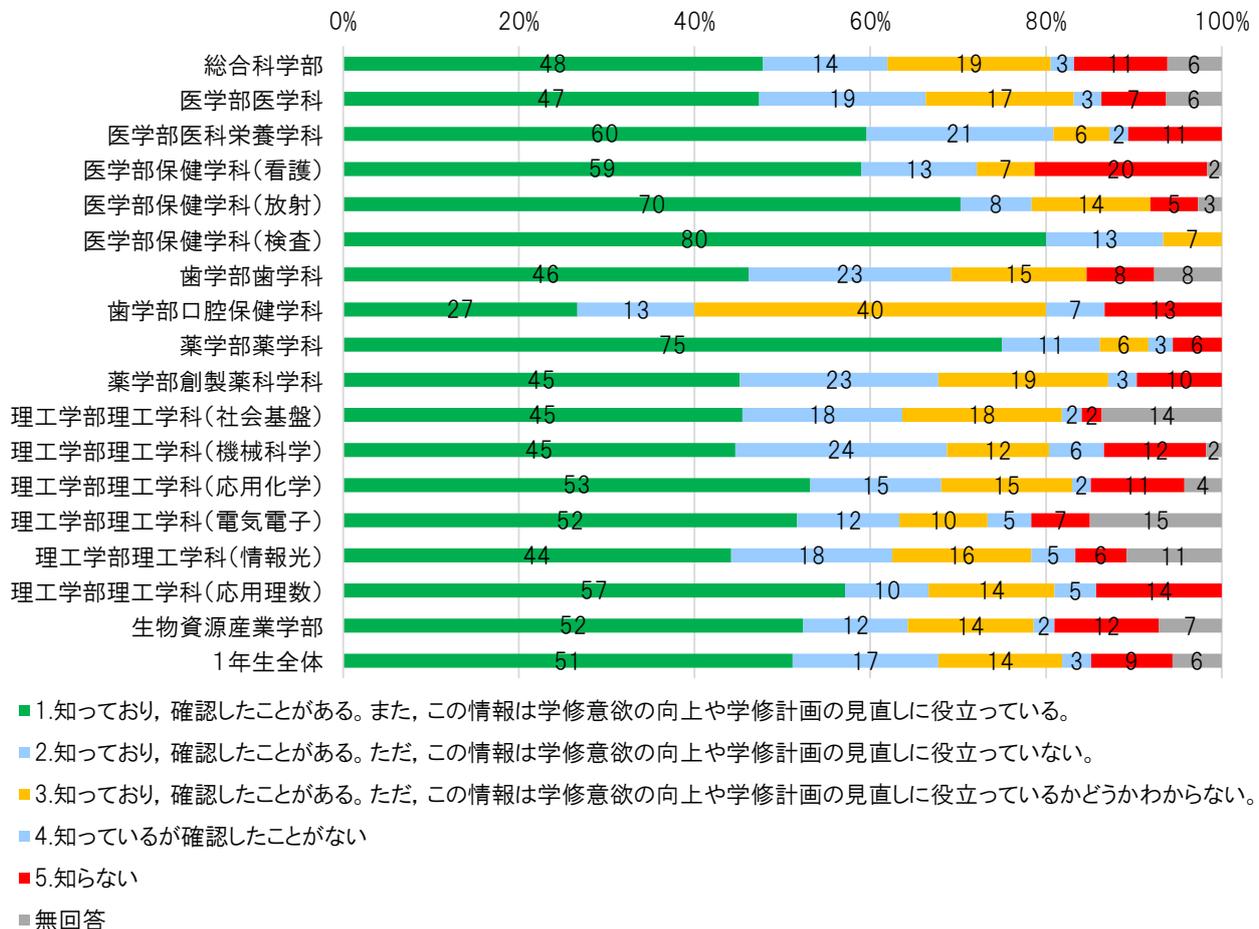
[115] 図書館のどんな学修支援サービスを利用していますか。(複数回答可)



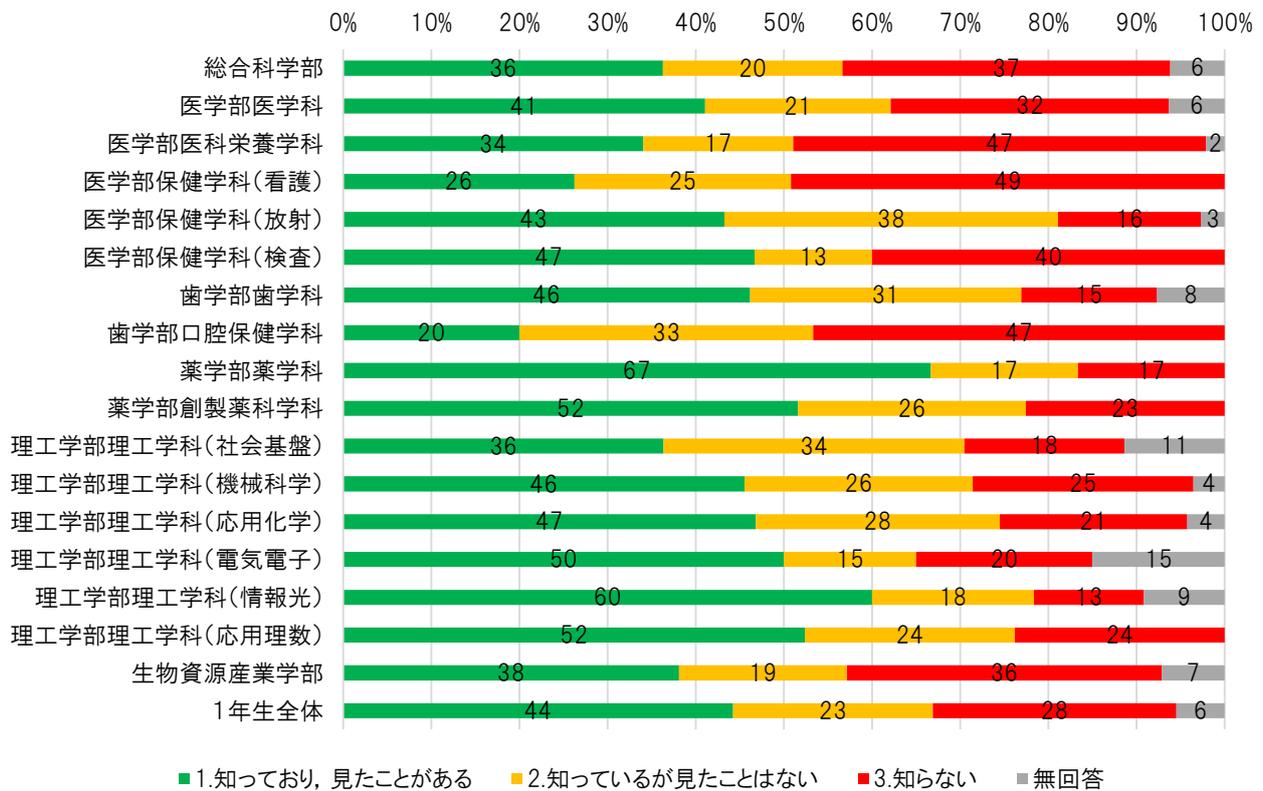
[116] あなたは、読書についてどのように考えていますか。



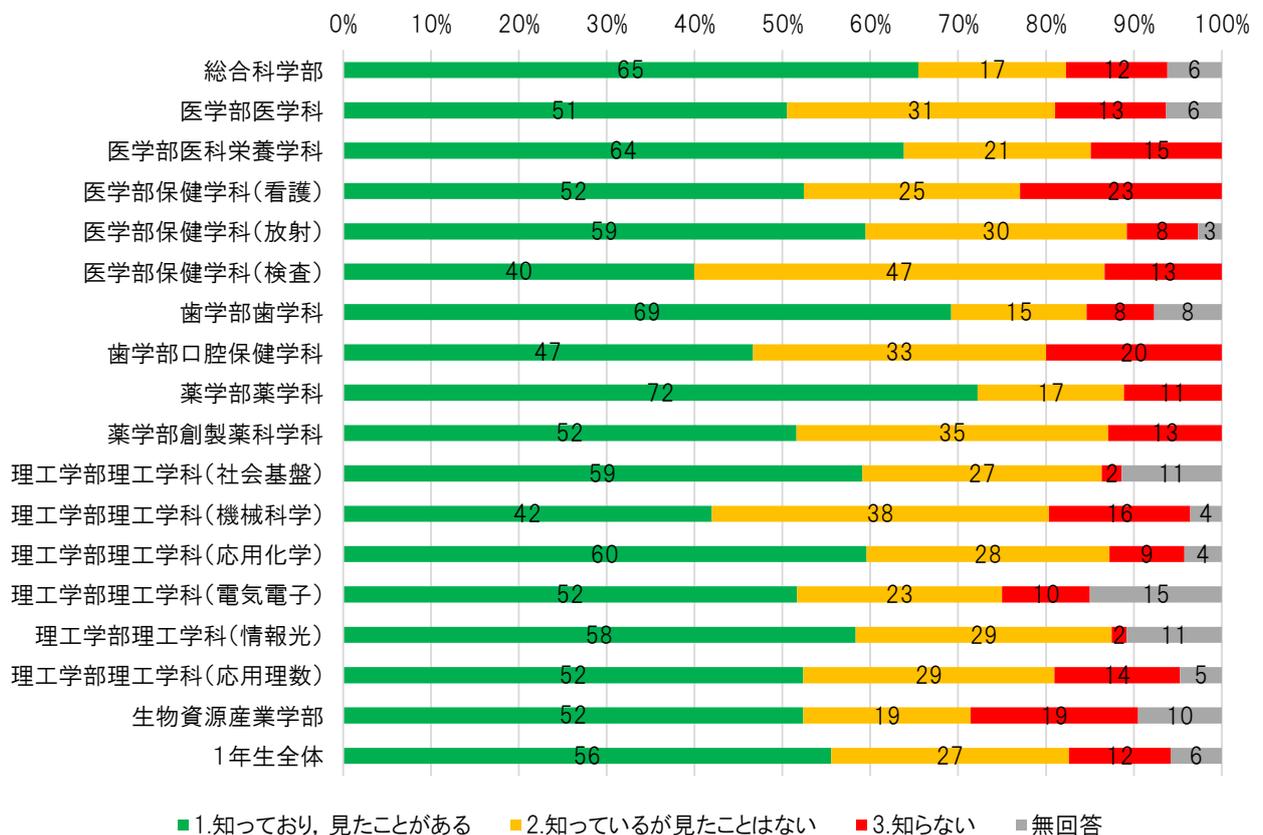
[117] 徳島大学では、履修者が11名以上の授業では、自分の成績や成績の分布が確認できるようになっていることを知っていますか。また、役立っていますか



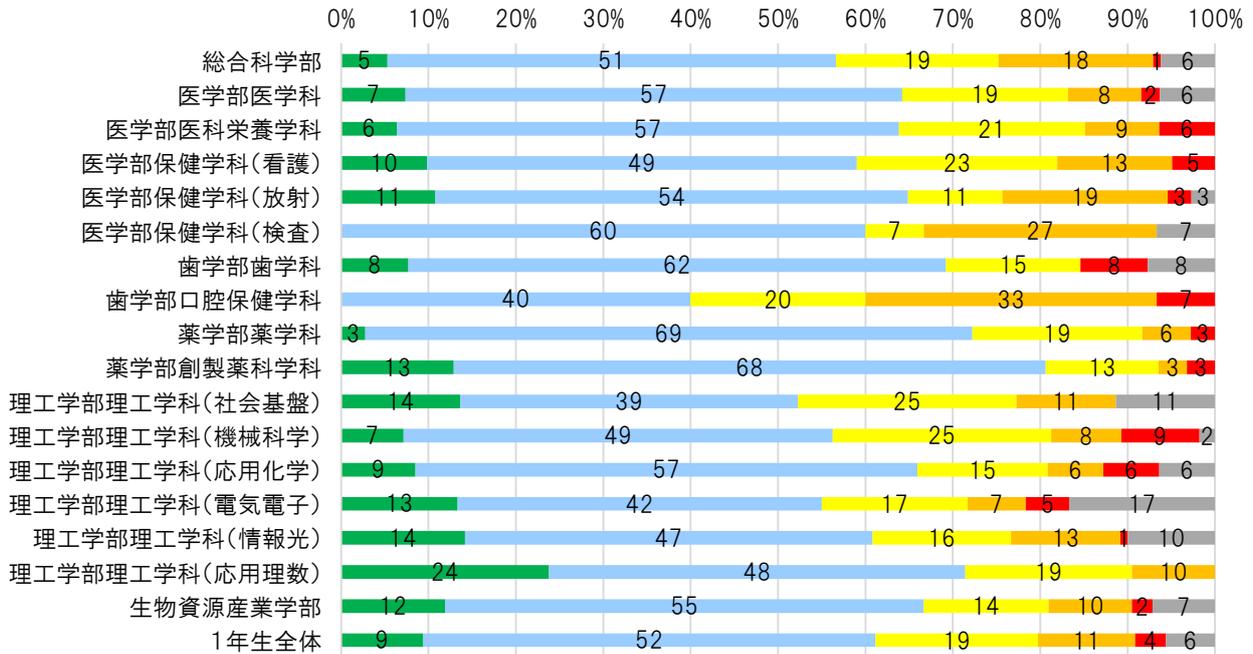
[118] 徳島大学では、卒業に必要な履修科目やそれらの科目を学修していく順序等を一覧できる「カリキュラムマップ」を公開していることを知っていますか。



[119] 徳島大学では、学部の授業科目のレベルに基づく学修の段階や順序を整理し適切な番号を付与した「科目ナンバリング」を公開していることを知っていますか。

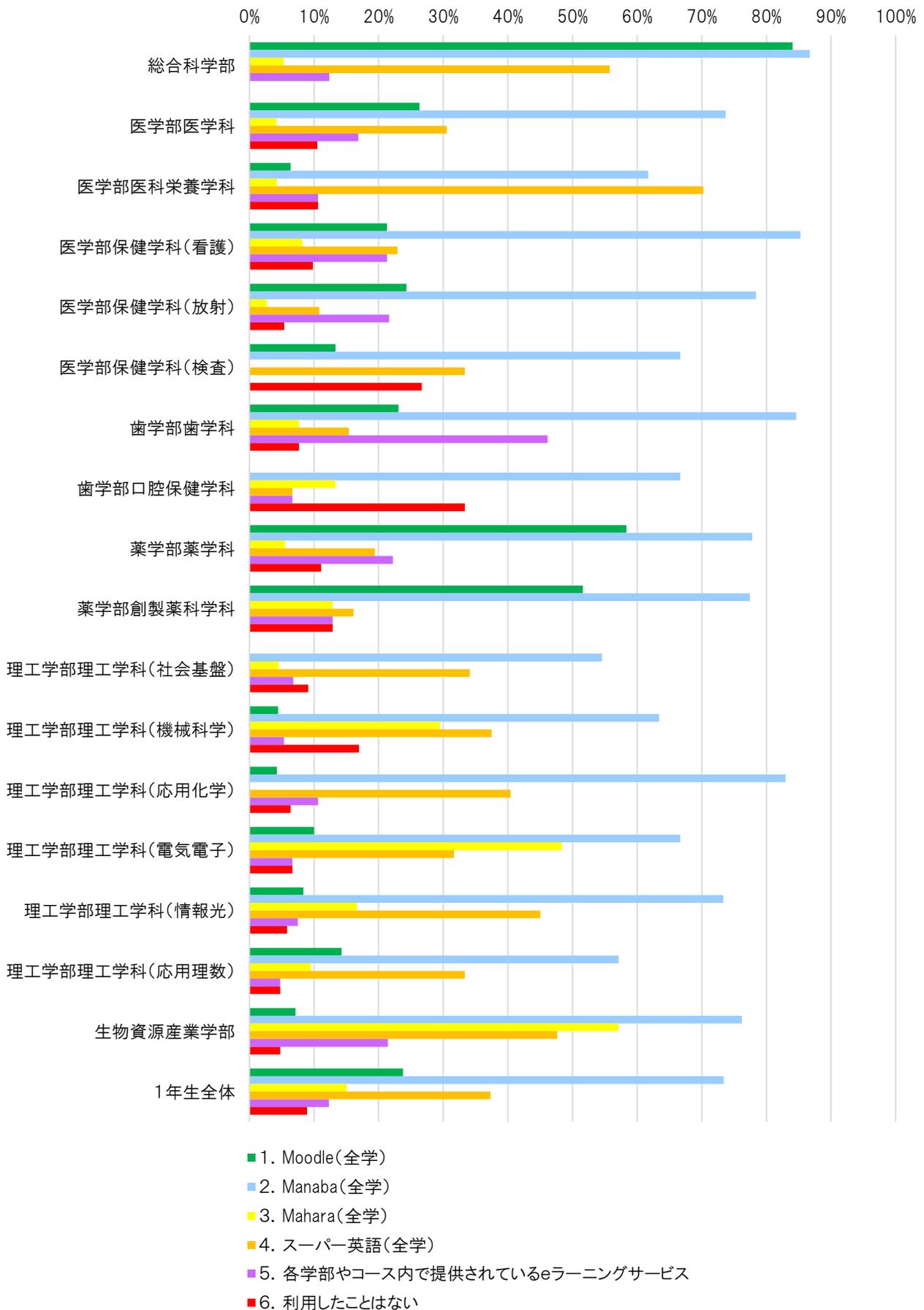


[120] シラバスはどのように利用していますか。



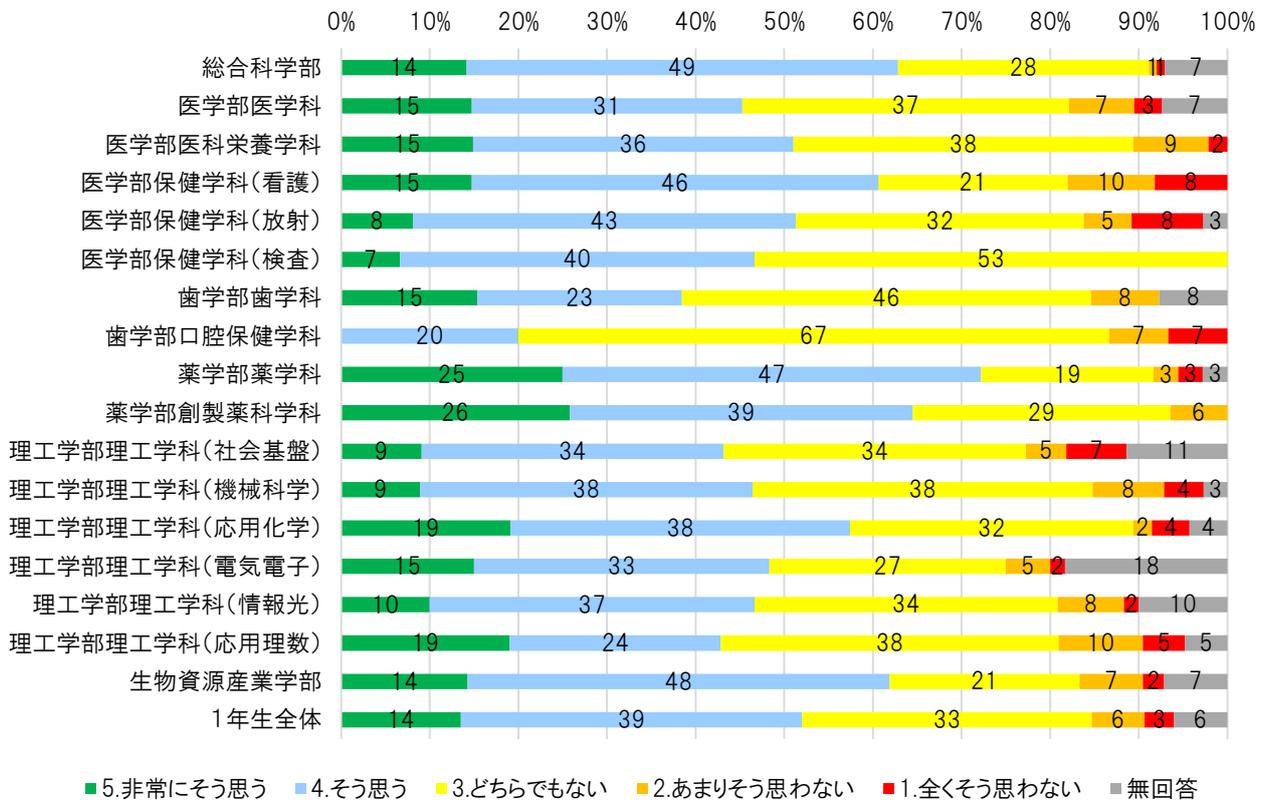
- 1. 毎週確認し、授業の予習・復習に役立てている
- 2. 気になった時に時々確認している
- 3. 初回の授業を受ける前に確認したが、その後はほとんど見ていない
- 4. 授業の選択を考える時に確認したが、その後はほとんど見ていない
- 5. 全く見ていない
- 無回答

[121] 徳島大学のeラーニングサービスを利用したことはありますか？利用したことのある人は以下の項目から利用したことのあるサービスを選んでください(複数選択可)

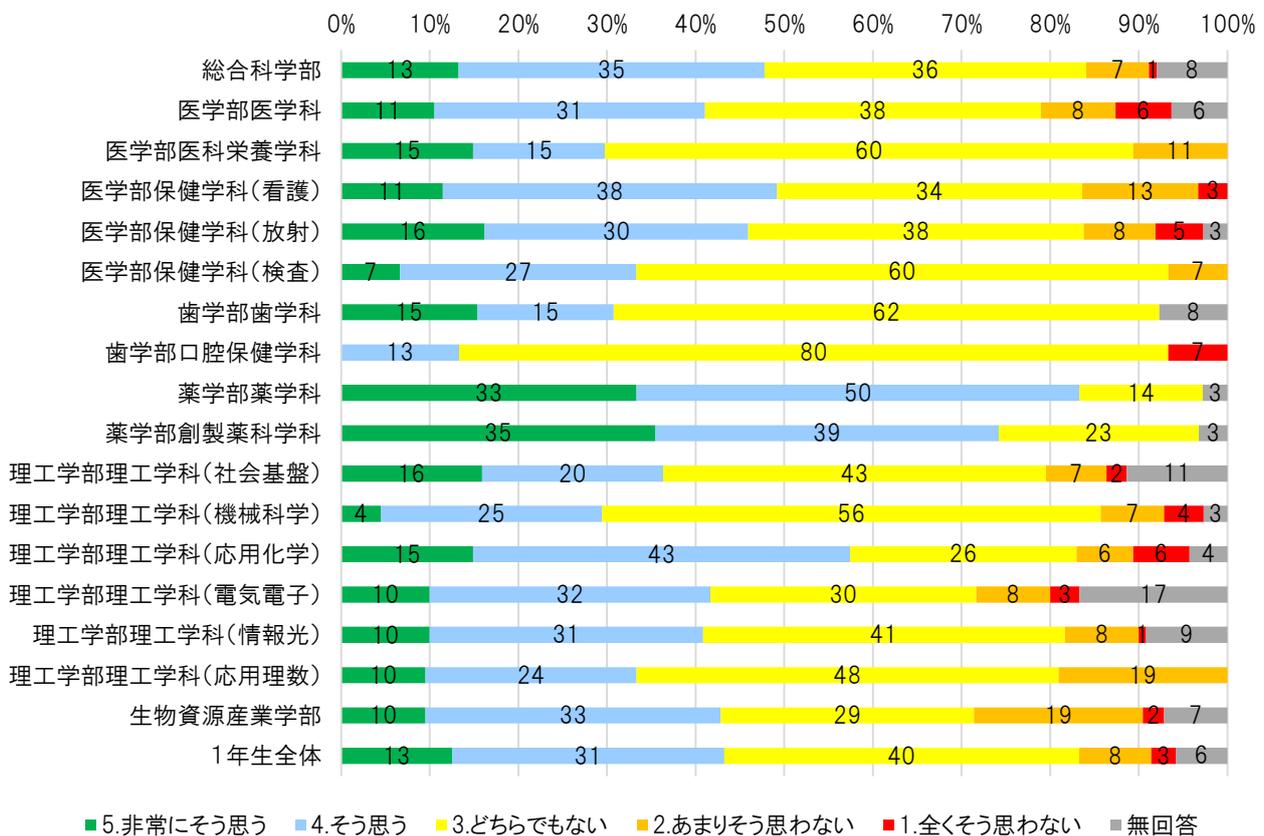


本学では、学生のみなさんに対して、上記のようなeラーニングサービスを提供しています。Eラーニングサービスに関して書かれている次の項目の内容は、あなたにどの程度当てはまりますか。

[122] 本学のeラーニングサービスは、学修に役立つ

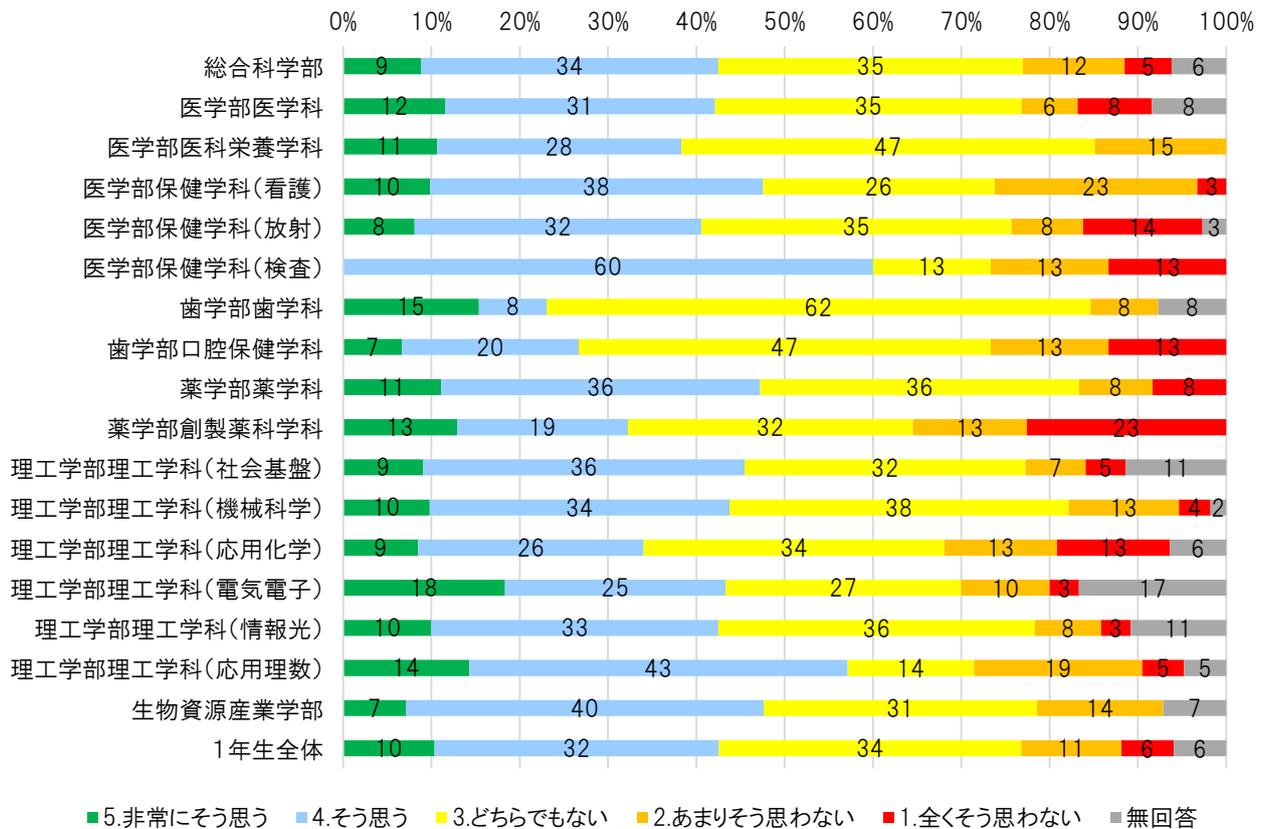


[123] 本学が提供しているようなオンライン学修科目を、今後も増やした方が良いと思うか

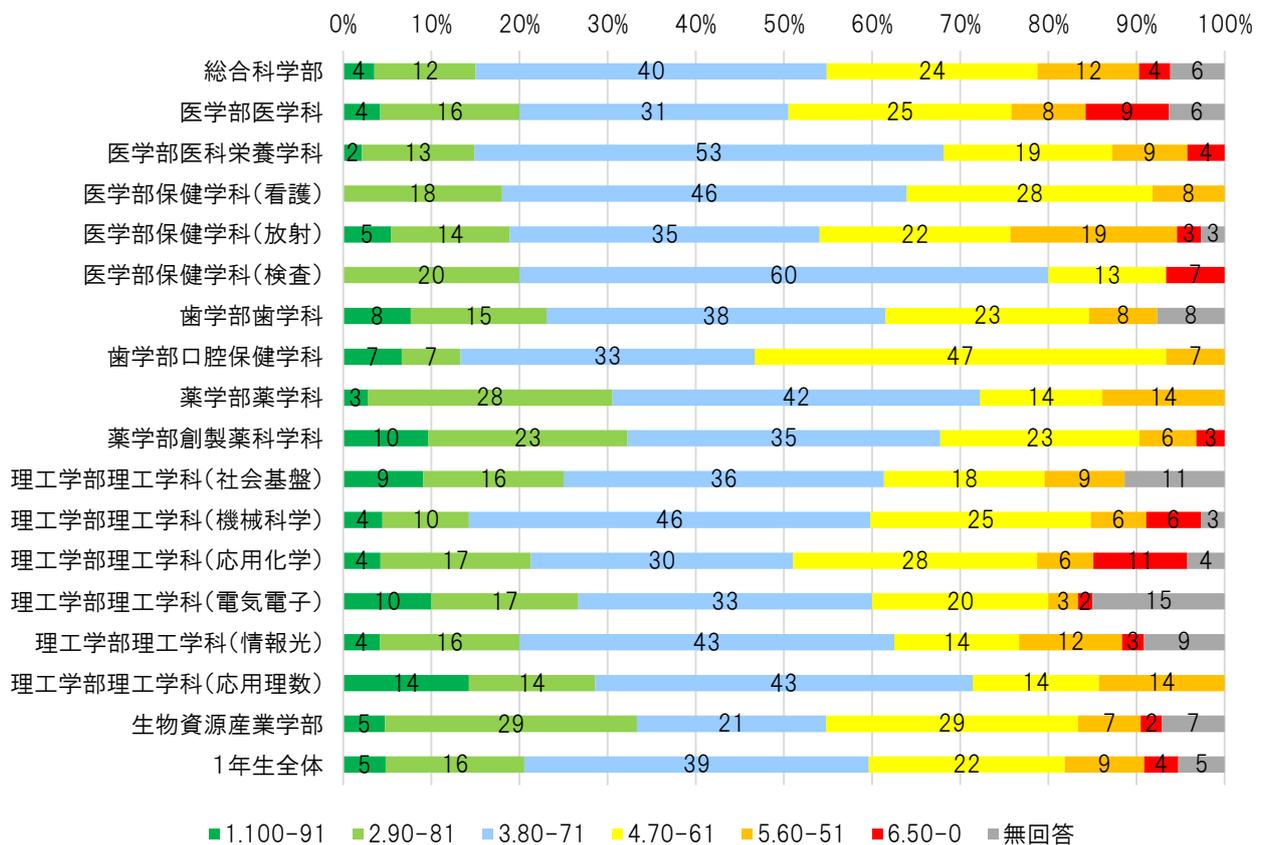


本学では、学生のみなさんに対して、授業の中間期および最後に「授業評価アンケート」をおこなっています。この「授業評価アンケート」に関して書かれている次の項目の内容は、あなたにどの程度当てはまりますか。

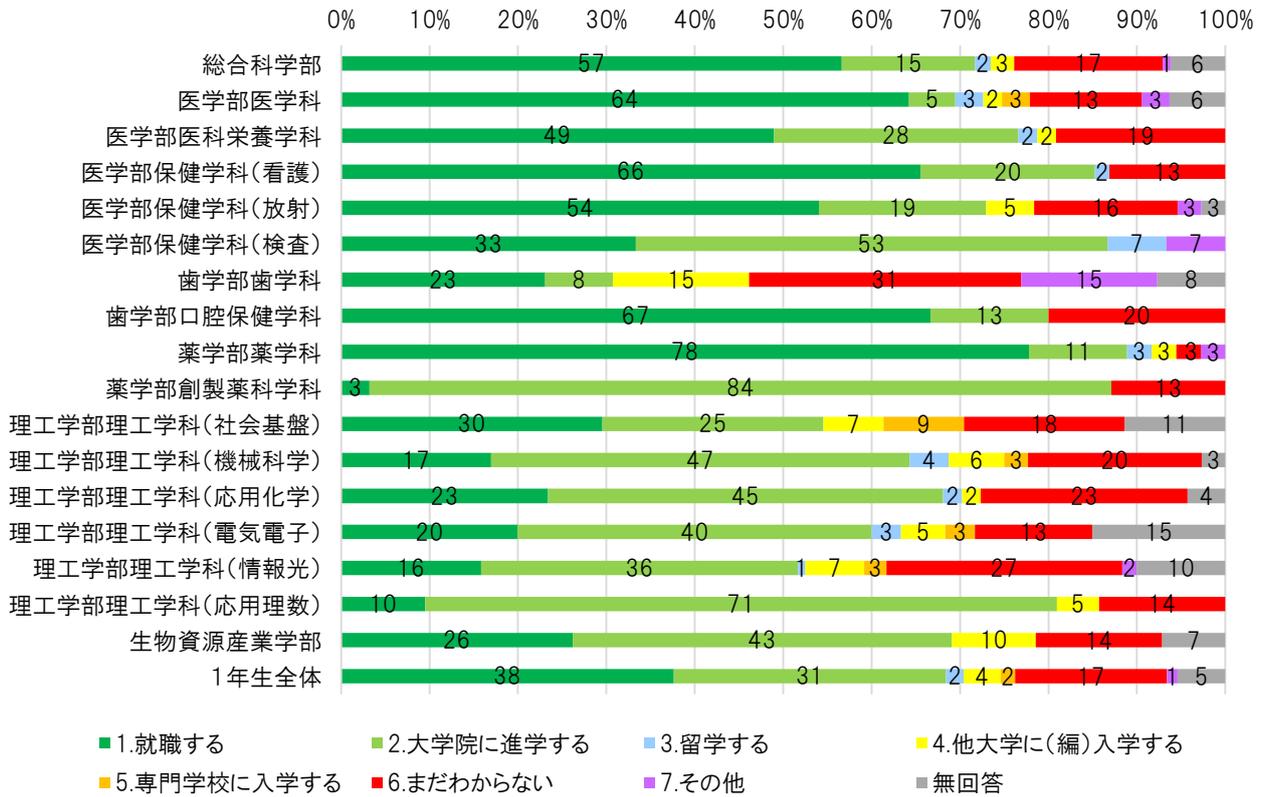
[124] 「授業評価アンケート」の設問は、授業改善に必要な内容である



[125] 大学教育全体の満足度は100点満点で何点ぐらいですか。



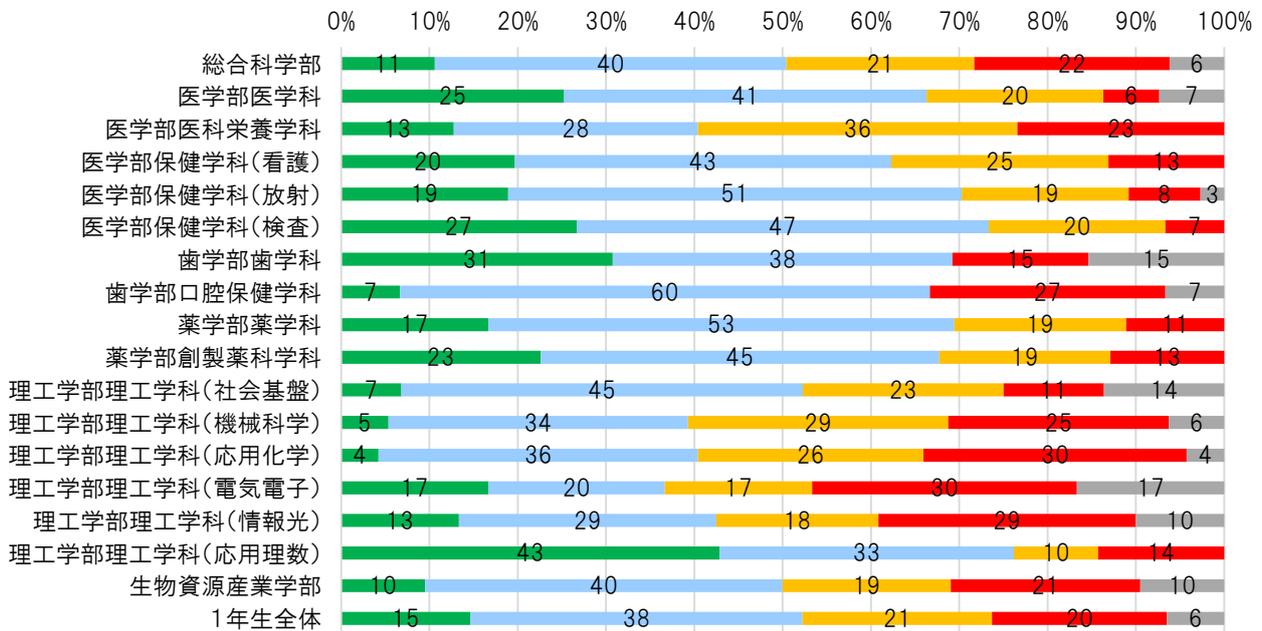
[126] あなたは学部卒業後、どのような進路を考えていますか。



[127] 将来の見通しに関する以下の2つの文章を読んで、あなたのいまの状態にもっとも近い番号を選んでください。

・あなたは、将来の見通し(将来こういう風でありたいという考え)を持っていますか。

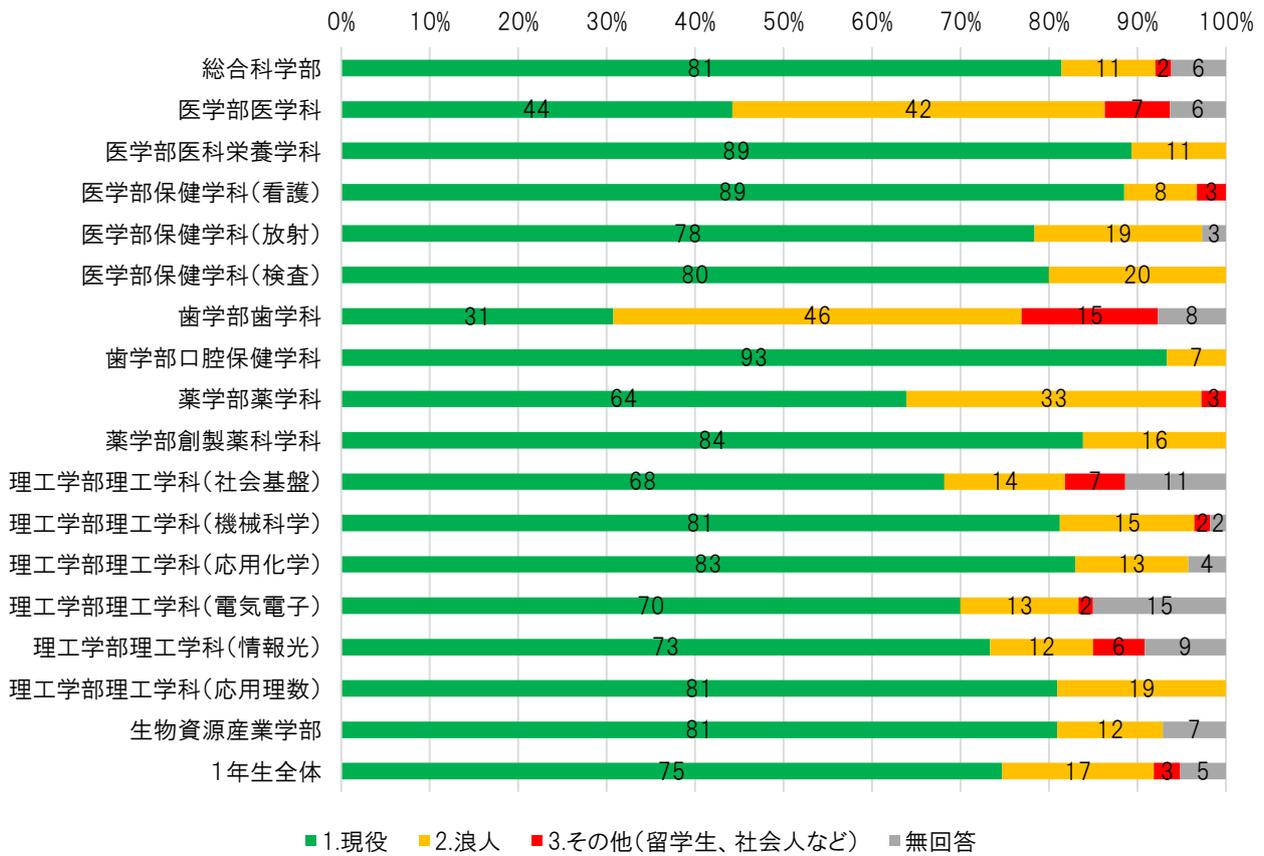
・その見通しのなかでもっとも重要なものを1つ思い浮かべてください。あなたは、その見通しの実現に向かって、自分が何をすべきなのかわかっていますか。また、それを実行していますか。



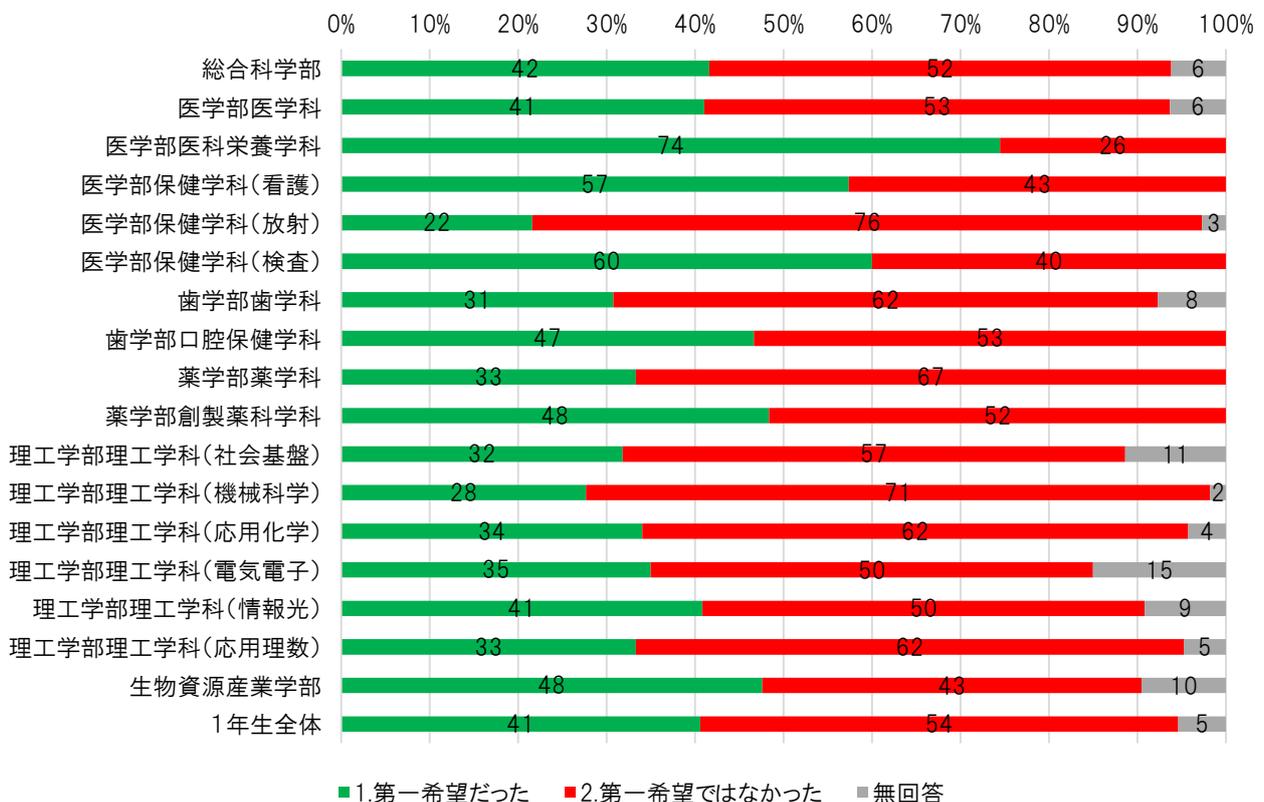
- 1. 将来の見通しを持っている+何をすべきかをわかっているし、実行もしている
- 2. 将来の見通しを持っている+何をすべきかをわかっているが、実行はできていない
- 3. 将来の見通しを持っている+何をすべきかわからない
- 4. 将来の見通しを持っていない
- 無回答

V. 最後に、大学に入学する前や高校時代のことについておうかがいします。

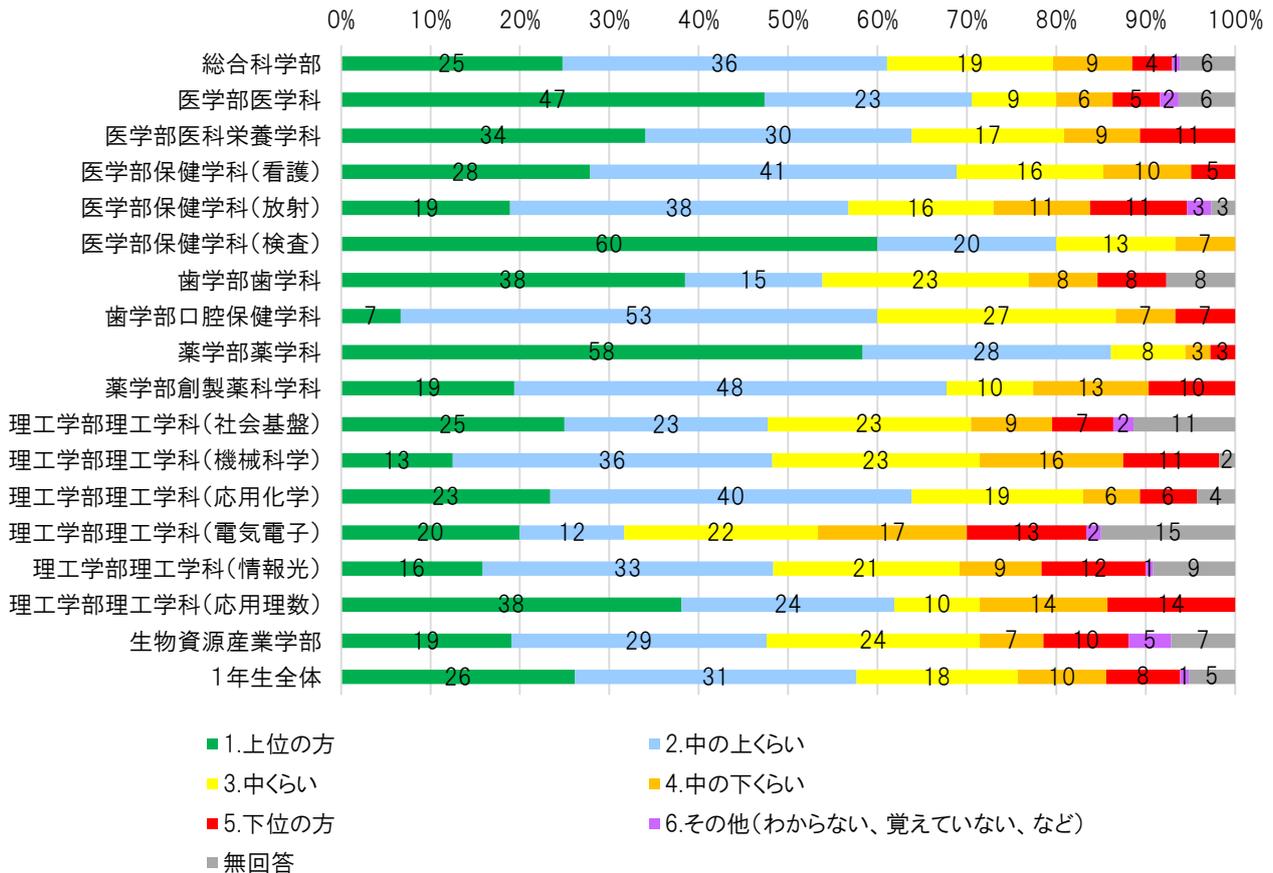
[128] あなたは現役で本学に入学しましたが、それとも浪人しましたか。



[129] あなたの志望大学の中で、本学は第1志望でしたか。

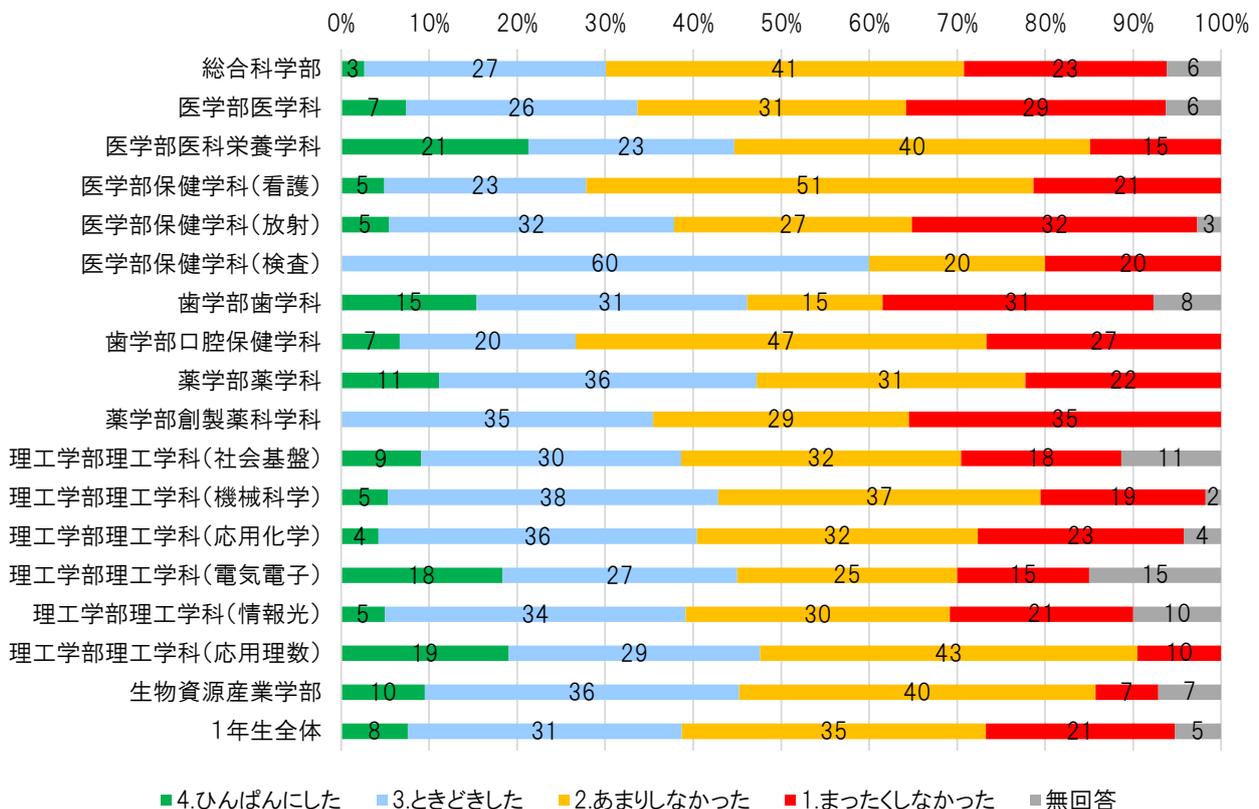


[130] あなたの高校での成績はどのあたりでしたか。

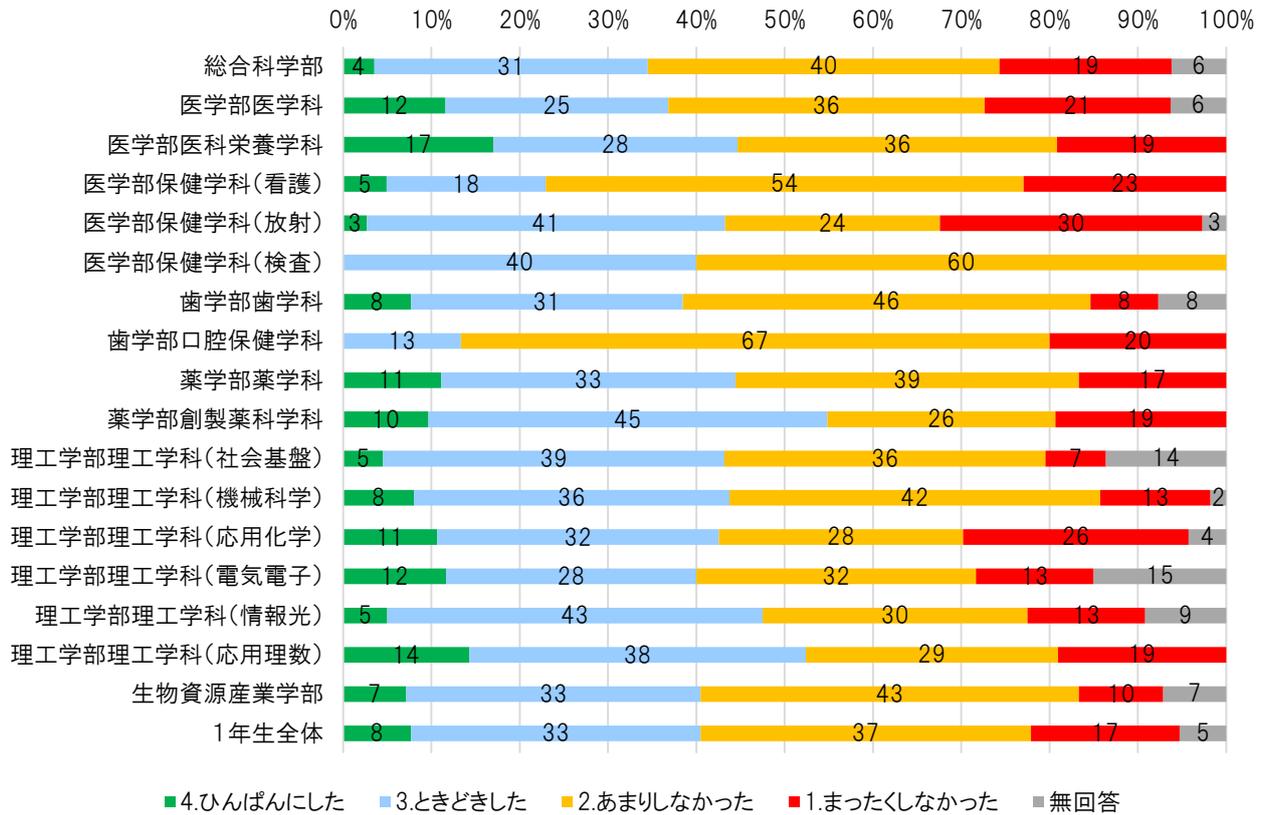


あなたが高校3年生だった時、次のことがらをどの程度しましたか。

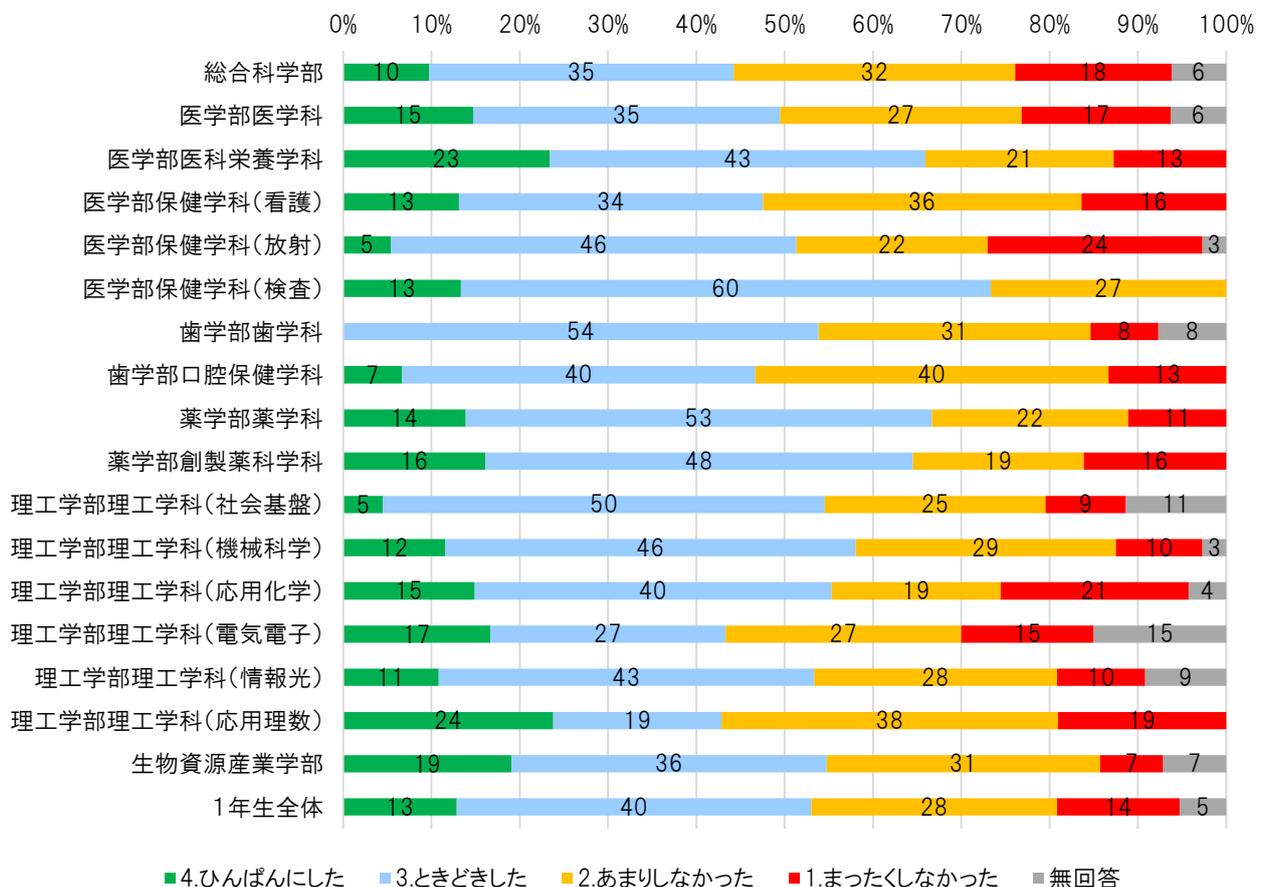
[131] 授業中に質問した



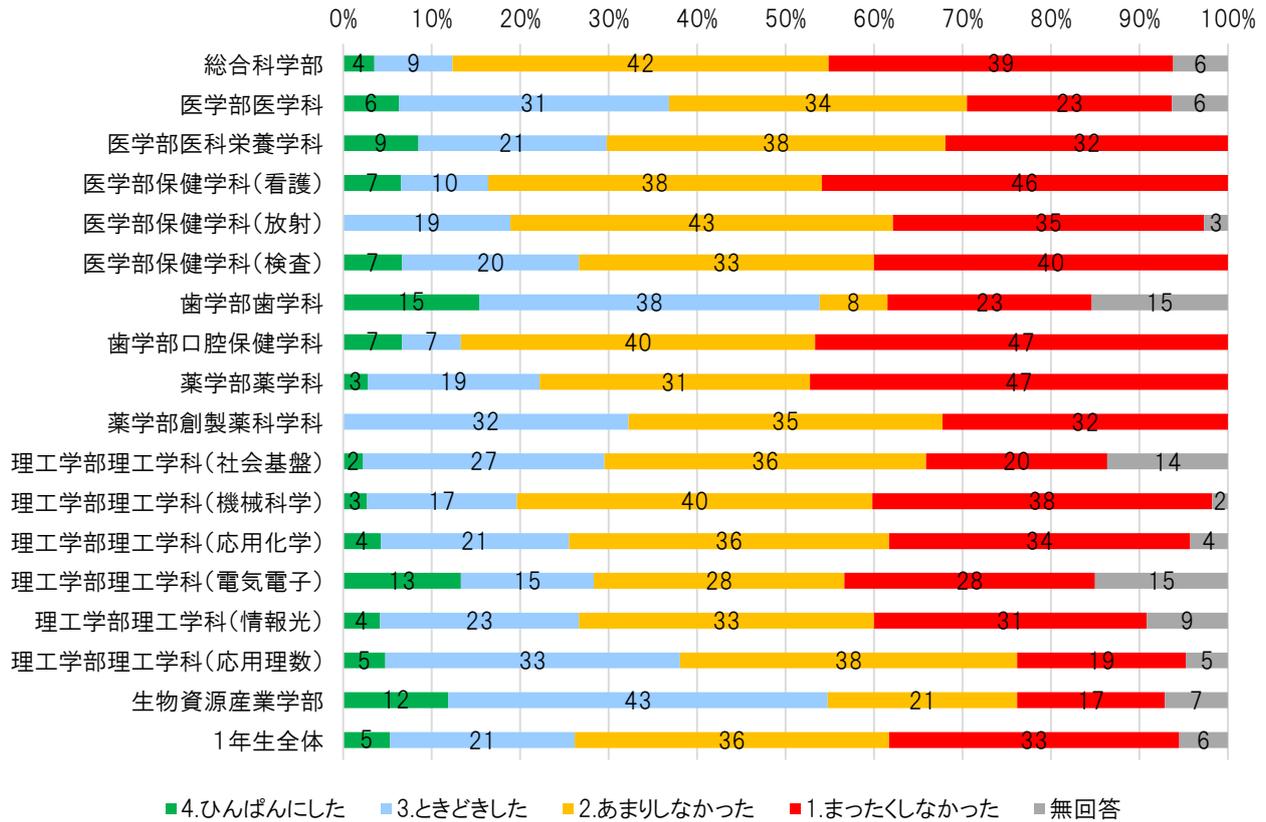
[132] 自分の意見を論理的に主張した



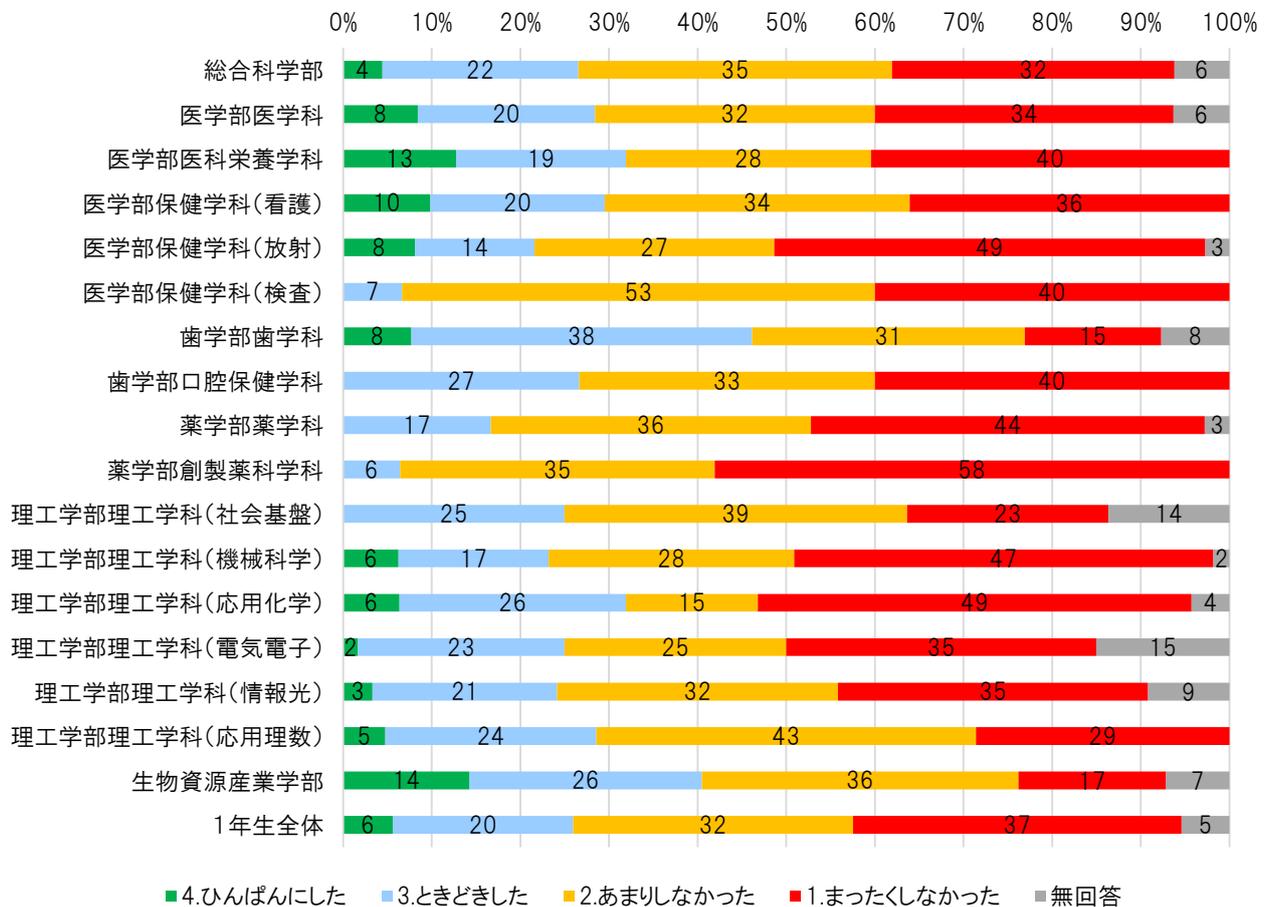
[133] 問題の解決方法を探し、それを他の人に説明した



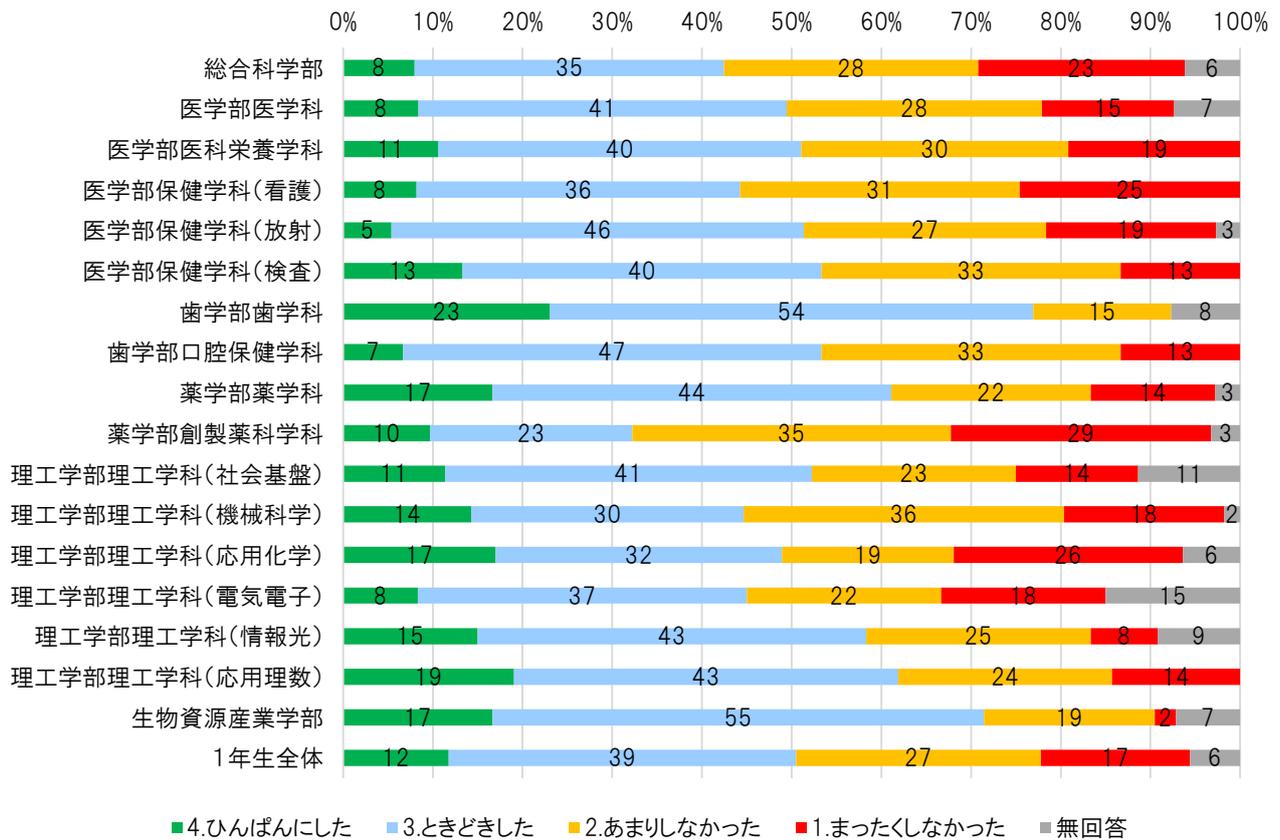
[134] 科学的研究の記事や論文を読んだ



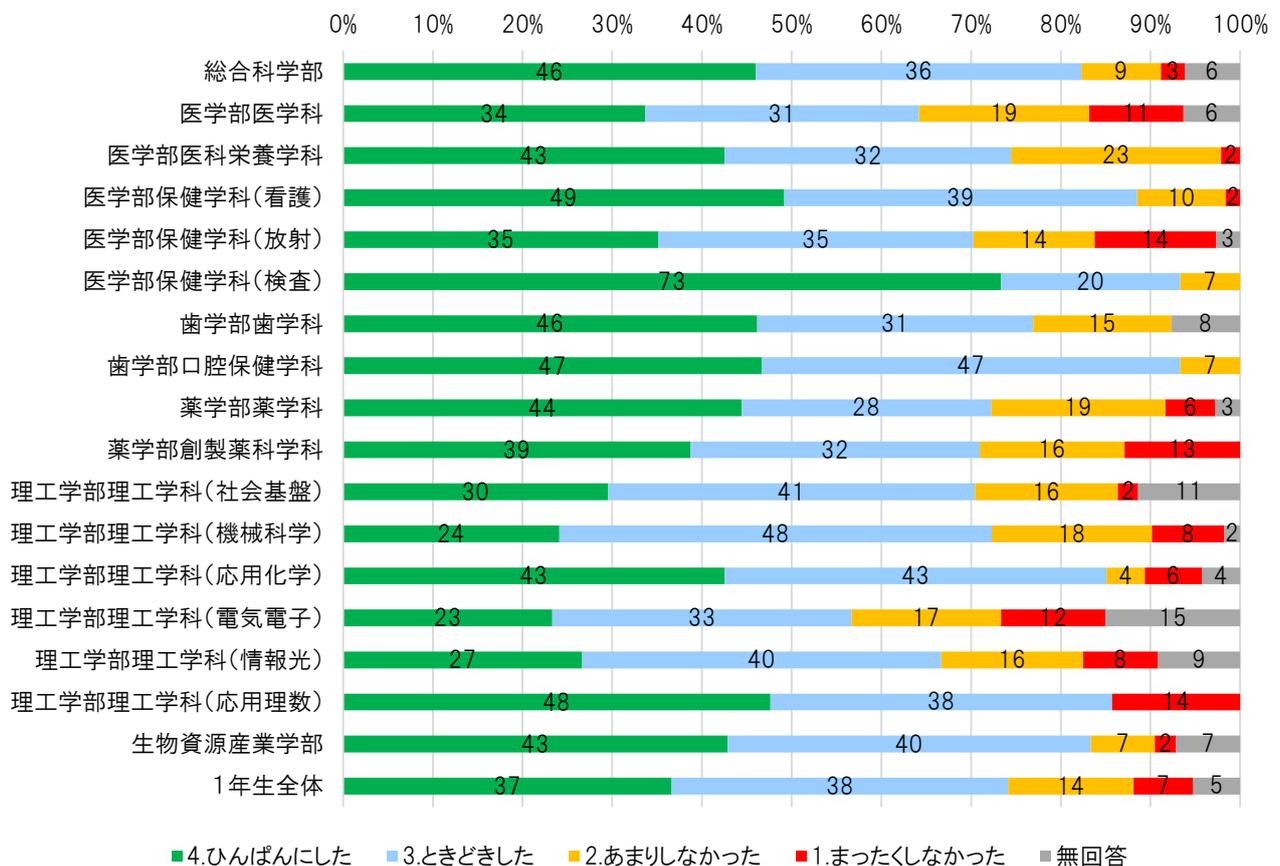
[135] 自発的に作文の練習をした



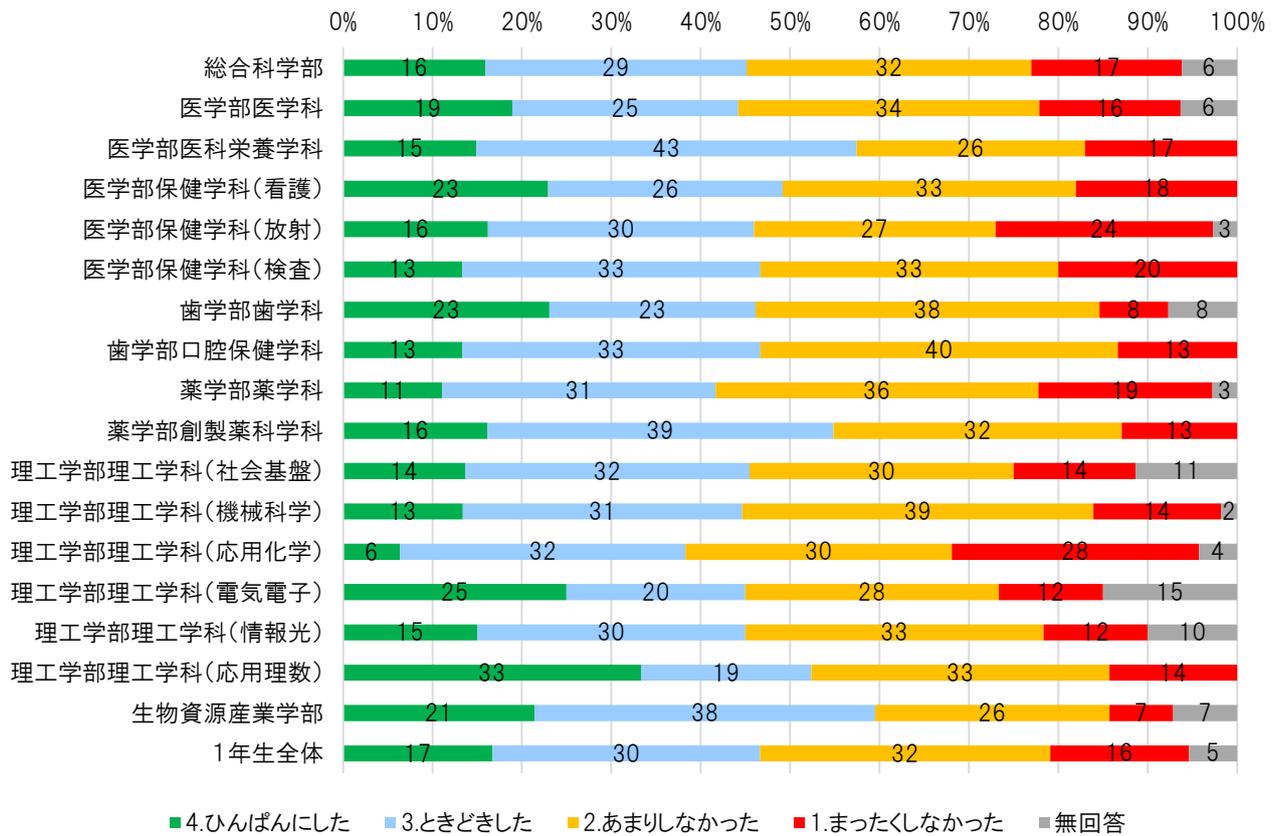
[136] インターネット上の情報が事実かどうか確認した



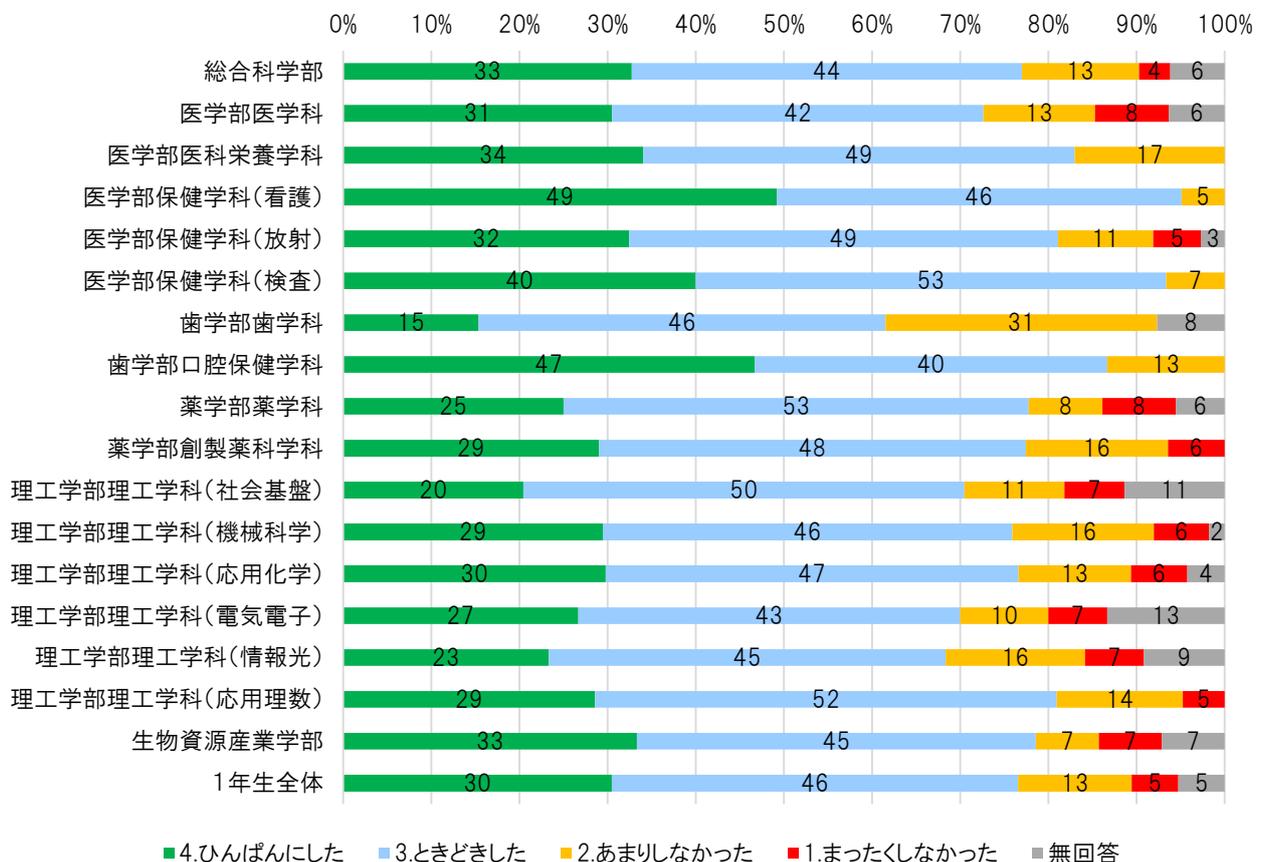
[137] 授業の予習や復習、宿題をした



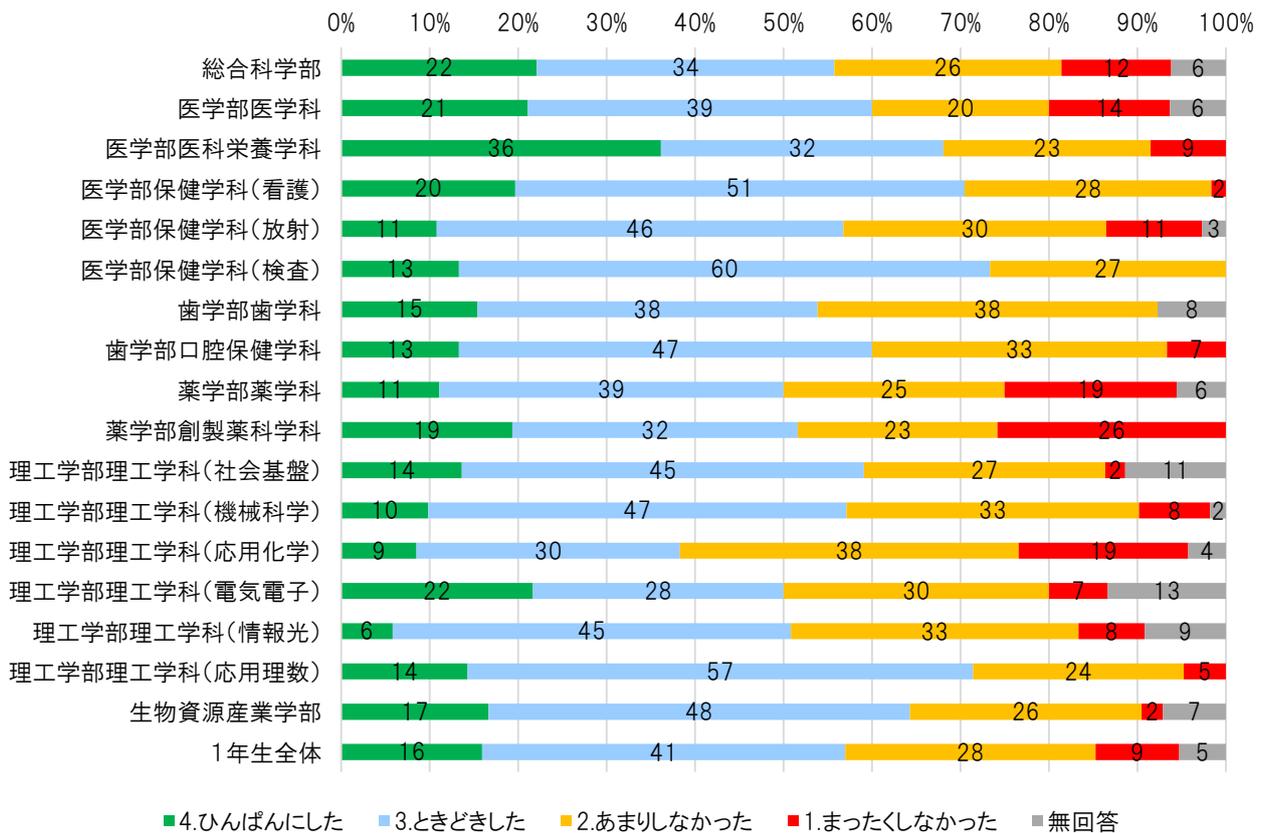
[138] 授業以外に興味のあることを自分で勉強した



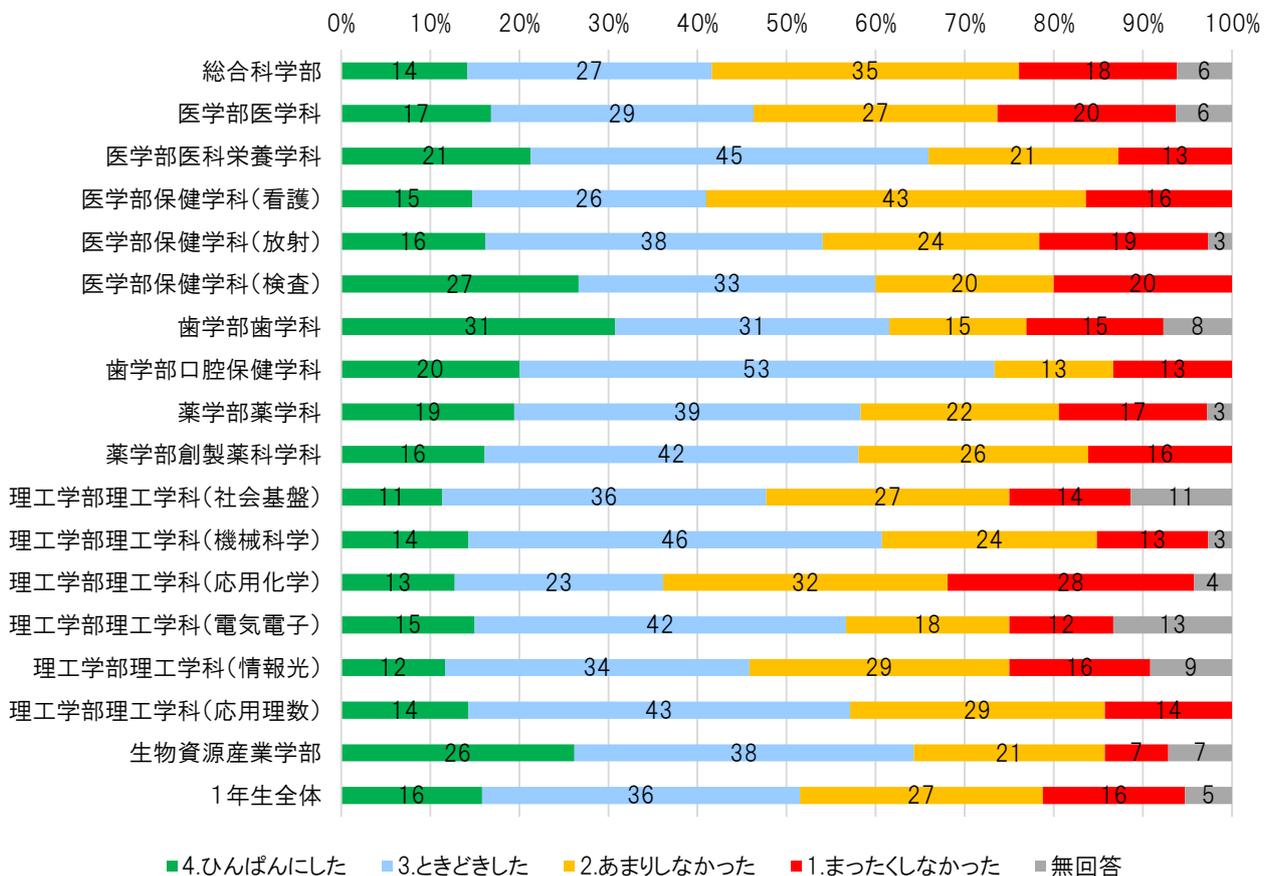
[139] 自分の失敗から学んだ



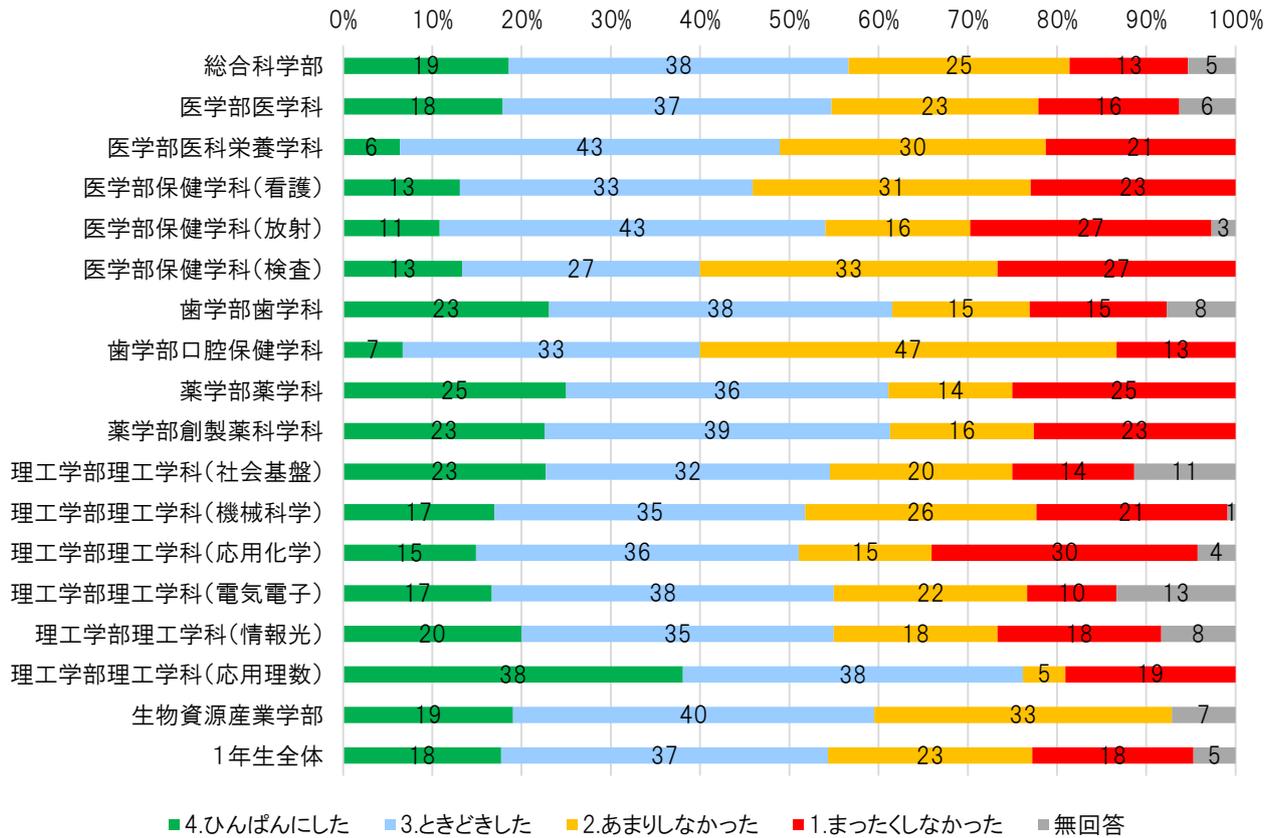
[140] 困難なことにあえて挑戦した



[141] 自分が取り組んだ課題について教師に意見を求めた



[142] 読書をした(マンガ・雑誌を除く)



3年生調査 設問

I. 最初にあなたご自身のことについておうかがいします。

〔1〕徳島大学学習に関する実態調査（大学 IR コンソーシアム調査）の主旨を確認し、データ利用について同意してください。

1. 同意する

※徳島大学学習に関する実態調査の主旨

「徳島大学学習に関する実態調査」は、学生の学習の実態を把握し、教育活動の効果を検証し、今後の改善に活かすために実施します。調査データは統計的に処理され、成績等のデータとともに分析を行うことがあります。個人を特定したり、成績に影響させることはありません。ただし、回答率が低い場合は、回答を促す連絡を個人にする場合があります。

また、複数の大学の状況と比較するために、調査データを本学が加盟している大学 IR コンソーシアムの学生調査にも使用し、他の加盟校（約 50 校）と集計結果を共有しますが、その場合も個人を特定したり、成績に影響させることはありません。

〔2〕あなたの片道の通学時間はどれくらいですか。

1. 30分未満
2. 30分以上－1時間未満
3. 1時間以上－1時間30分未満
4. 1時間30分以上－2時間未満
5. 2時間以上

〔3〕あなたの現在の居住形態は次のうちどれですか。

1. 家族または親戚と暮らしている
2. アパート・学生マンションでひとり暮らし
3. 大学寮や合宿所
4. その他

II. 現在のあなたの学習状況についておうかがいします。

あなたが受講した大学の授業で、次のようなことを経験する機会はどのくらいありましたか。

	ひんばん にあった	ときどき あった	あまり なかった	まったく なかった
〔4〕 実験、実習、フィールドワークなどを実施し、学生が体験的に学ぶ	4	3	2	1
〔5〕 仕事に役立つ知識やスキルを学ぶ	4	3	2	1
〔6〕 授業内容と社会や日常生活のかかわりについて、教員が説明する	4	3	2	1
〔7〕 授業の一環でボランティア活動をする	4	3	2	1
〔8〕 学生自身が文献や資料を調べる	4	3	2	1
〔9〕 定期的に小テストやレポートが課される	4	3	2	1

[10]	教員が提出物に添削やコメントをつけて返却する	4	3	2	1
[11]	学生が自分の考えや研究を発表する	4	3	2	1
[12]	授業中に学生同士が議論をする	4	3	2	1
[13]	授業で検討するテーマを学生が設定する	4	3	2	1
[14]	授業の進め方に学生の意見が取り入れられる	4	3	2	1
[15]	取りたい授業を履修登録できなかった	4	3	2	1
[16]	出席することが重視される	4	3	2	1
[17]	TA や SA などの授業補助者から補助を受ける	4	3	2	1

[18] 授業内容を理解できる科目の割合はどれくらいですか。

1. 80%以上 2. 70%以上 3. 60%以上 4. 60%未満

[19] あなたにとってどの方法が授業内容の理解の促進につながりましたか。(複数回答可)

1. 課題演習 2. 質疑応答 3. 振り返り※1 4. グループワーク
5. ディスカッション 6. 反転授業※2 7. ラーニング・ポートフォリオ※3

※1 学んだことについてまとめ、その内容を学生同士あるいは教員が確認しフィードバックを行う方法

※2 授業を受講する前に講義や説明の部分を事前に配付資料や動画で学修し、その内容に関する確認課題(簡単な復習テスト等)を行い、対面の授業時間内では講義以外の授業方法を取り入れて、学生の能動的な学修を促進する方法

※3 授業のある単元が終了した後で、学生が学修(実験、実習、演習等)に関する振り返りを行い、その内容を記述し、他者と共有できる形で蓄積し、フィードバックを受けることができるシステムまたは教材等を取り入れた方法

大学の授業や授業以外の学習に関して、あなたは次のようなことをどのくらい経験しましたか。

	ひんばんにした	ときどきした	あまりしなかった	まったくしなかった	
[20]	授業課題のために図書館の資料を利用した	4	3	2	1
[21]	授業課題のために Web 上の情報を利用した	4	3	2	1
[22]	インターネットを使って授業課題を受けたり、提出したりした	4	3	2	1
[23]	提出期限までに授業課題を完成できなかった	4	3	2	1
[24]	授業時間外に、他の学生と一緒に勉強したり、授業内容を話したりした	4	3	2	1
[25]	授業中、教員の考え方や意見に異議を唱えた	4	3	2	1
[26]	授業を欠席した	4	3	2	1

3年生調査

[27]	授業に遅刻した	4	3	2	1
[28]	授業をつまらなく感じた	4	3	2	1
[29]	授業中に居眠りをした	4	3	2	1
[30]	教職員に学習に関する相談をしたり、学内の学習支援室を利用したりした	4	3	2	1
[31]	単位とは関係のない教員あるいは学生による自主的な勉強会に参加した	4	3	2	1
[32]	大学の教職員に将来のキャリアの相談をした（卒業後の進路や職業選択など）	4	3	2	1
[33]	教員に親近感を感じた	4	3	2	1

今年度になってから、あなたは次の活動に1週間あたりどのくらいの時間を費やしましたか。

	全然ない	1時間未満	1 2時間	3 5時間	6 10時間	11 15時間	16 20時間	20時間以上	
[34]	授業や実験に出る	1	2	3	4	5	6	7	8
[35]	授業時間外に、授業課題や準備学習、復習をする	1	2	3	4	5	6	7	8
[36]	授業時間外に、授業に関連しない勉強をする	1	2	3	4	5	6	7	8
[37]	オフィスアワーなど、授業時間外に教員と面談する	1	2	3	4	5	6	7	8
[38]	部活動や同好会に参加する	1	2	3	4	5	6	7	8
[39]	大学外でアルバイトや仕事をする	1	2	3	4	5	6	7	8
[40]	読書をする（マンガ・雑誌を除く）	1	2	3	4	5	6	7	8
[41]	個人的な趣味活動をする（テレビやゲーム、映画鑑賞など）	1	2	3	4	5	6	7	8

入学した時点と比べて、あなたの能力や知識はどのように変化しましたか。

	大きく増えた	増えた	変化なし	減った	大きく減った	
[42]	一般的な教養	5	4	3	2	1
[43]	分析力や問題解決能力	5	4	3	2	1
[44]	専門分野や学科の知識	5	4	3	2	1
[45]	批判的に考える能力	5	4	3	2	1
[46]	異文化の人々に関する知識	5	4	3	2	1
[47]	リーダーシップの能力	5	4	3	2	1
[48]	人間関係を構築する能力	5	4	3	2	1
[49]	他の人と協力して物事を遂行する能力	5	4	3	2	1
[50]	異文化の人々と協力する能力	5	4	3	2	1

[51]	地域社会が直面する問題を理解する能力	5	4	3	2	1
[52]	国民が直面する問題を理解する能力	5	4	3	2	1
[53]	文章表現の能力	5	4	3	2	1
[54]	外国語の運用能力	5	4	3	2	1
[55]	コミュニケーションの能力	5	4	3	2	1
[56]	プレゼンテーションの能力	5	4	3	2	1
[57]	数理的な能力	5	4	3	2	1
[58]	コンピュータの操作能力	5	4	3	2	1
[59]	時間を効果的に利用する能力	5	4	3	2	1
[60]	グローバルな問題の理解	5	4	3	2	1
[61]	卒業後に就職するための準備の度合い	5	4	3	2	1

[62] 大学における教育に対して、何を期待しますか。(複数回答可)

1. 社会に出た時に役に立つ知識・技術・技能
2. 人生を支える幅広い教養
3. 資格取得に必要な知識あるいはその受験に必要な単位
4. 特に期待するものはない

[63] 大学の教育によって獲得が期待できる知識・能力を3つ選んでください。

- | | |
|----------------|------------------------|
| 1. 一般知識・教養 | 2. 専門的知識 |
| 3. 課題発見・解決力 | 4. チームで目標を達成するマネジメント能力 |
| 5. コミュニケーション能力 | 6. 討論する能力 |
| 7. 語学力 | 8. 情報機器を活用する力 |
| 9. 論理的な文章を書く能力 | |

[64] 徳島大学では「GPA（自分が履修したすべての授業科目の成績評価の平均値）」を成績表に記載しています。自身の「GPA」について確認していますか。

1. 確認している
2. 確認していない

[65] レポートや宿題で、調べものをするときの情報源は何ですか。(複数回答可)

1. 教科書・参考書・授業での配付資料
2. インターネット
3. 教員
4. 友人・先輩
5. 図書館の書籍・文献（電子版含む）
6. 講義ノート

[66] 教科書を購入していない場合の理由は何ですか。(複数回答可)

1. 必要な教科書は全て購入している
2. 教科書がなくても授業内容が理解できる
3. 教科書が高価である
4. 先輩、友人の本を使う
5. 図書館などの本を利用する
6. 購入しても、読まない。内容が理解できない
7. 講義資料・試験対策プリントで学修する

[67] 大学の授業以外に、自分自身のための学修として、実行や計画していることはありますか。(複数回答可)

1. 大学の授業以外で、実行や計画していることはない
2. 教養や社会問題の理解に役立つ読書
3. 語学など自分の将来を考えたスキルの修得
4. 数学や理科のような基礎的能力を強化するための学修
5. 自分の興味あるテーマの探究
6. 資格取得や受験に備えた学修
7. 卒業研究につながる実験・調査・研究レビュー等

[68] 高校で履修していない数学, 物理, 化学, 生物について, 大学入学後どのように勉強しましたか。(複数回答可)

1. 高校の教科書, 参考書を使い, 勉強した
2. 教養教育(全学共通教育)で開講されている高大接続科目や自然科学入門又はその他の科目を受講した
3. HP上の徳島大学LMS(リメディアル教材)を利用して勉強した
4. 勉強の必要性を感じたが, LMS(リメディアル教材)の存在を知らず何もしていない
5. 支障を感じないので何もしていない

III. 続けて、英語の学習状況についておうかがいします。

あなたの英語能力を聞く力、読む力、会話力、表現力、書く力の5つの観点から自己評価した場合に、現在、到達していると思うレベルを1つずつ答えてください。

レベル 低	[69] 聞く力	回答欄
		↓
A1	はっきりと、ゆっくり話してもらえれば、聞き慣れた語やごく基本的な表現を聞き取れる。	1
A2	最も頻繁に使われる語彙や表現を理解することができる。	2
B1	身近な話題について、明瞭で標準的な話し方の会話なら要点を理解することができる。	3
B2	テレビのニュースや時事問題、標準語の映画ならほとんど理解できる。	4
C1	特別な努力なしにテレビ番組や映画を理解できる。	5
C2	母語話者の速いスピードで話されても、どんな種類の話し言葉も難無く理解できる。	6



[70] 読む力

		回答欄
		↓
A1	掲示やポスター、カタログなどの中をよく知っている名前、単語、単純な文を理解できる。	1
A2	ごく短い簡単な文章や、簡単に短い個人的な手紙は理解できる。	2
B1	日常語や、自分の知っている分野の文章なら理解できる。簡単に個人的な手紙を理解できる。	3
B2	現代の問題についての記事や報告が読める。現代文学の散文は読める。	4
C1	複雑な文章を理解できる。自分の関連外の分野の専門の記事も理解できる。	5
C2	抽象的で複雑な文章など、あらゆる形式で書かれた言葉を容易に読むことができる。	6



[71] 会話力

		回答欄
		↓
A1.1	決まった言い回しを使って自己紹介をしたり、相手の趣味を尋ねたりできる。	1
A1.2	家族や身の回りのことについて、簡単な質問なら聞いたり答えたりできる。	2
A2.1	短い社交的なやり取りができる。ひとりで会話を続けにくいのが、相手の助け舟で、身近な話題について話し続けられる。	3
A2.2	準備をすれば、日常的でなじみのある話題について、簡単な言葉を使ってまとまりのある会話ができる。	4
B1	日常生活に直接関係のあることや個人的な関心について、準備なしで会話ができる。	5
B2	身近な話題の議論に積極的に参加し、自分の意見を説明できる。	6
C1	社会上、目的・場面に合った言葉遣いができ、自分の考えや意見を正確に表現できる。	7
C2	いかなる会話や議論でも努力しないで加わることができる。	8



[72] 表現力

		回答欄
		↓
A1	住んでいるところ、また、知っている人たちについて、簡単な語句や文を使って表現できる。	1
A2	家族、周囲の人々、居住条件を簡単な言葉で説明できる。	2
B1	簡単な方法で語句をつないで、自分の経験や出来事、夢や希望、目標を語ることができる。	3
B2	興味関心のある話題について、明瞭で詳細な説明ができる。	4
C1	複雑な話題を、一定の観点を展開しながら、適切な結論でまとめ上げることができる。	5
C2	論理的な会話で聞き手に重要点を把握させ、記憶にとどめさせることができる。	6



[73] 書く力

		回答欄
		↓
A1	お祝いのメッセージなど、短い簡単な葉書を書くことができる。	1
A2	簡単に短いメモやメッセージ、短い個人的な手紙なら書くことができる。	2
B1	身近で個人的に関心のある話題を書くことができる。個人的な手紙で経験や印象を書くことができる。	3
B2	興味関心のある話題について、明瞭で詳細な説明文を書くことができる。	4
C1	手紙やエッセイ、レポートで複雑な主題を扱うことができる。	5
C2	論理的に事情を説明し、複雑な内容の手紙、レポート、記事を書くことができる。	6

[74] どのように、英語の勉強を行っていますか。(複数回答可)

1. 毎日または定期的にテレビ、ラジオの英語教育番組を利用して勉強している
2. 英会話スクールに行ったことがある。または現在通っている
3. 図書館または大学の英語教材、施設を利用して定期的に英語を勉強している
4. TOEIC, TOEFLや英検などの参考書、問題集を購入して定期的に勉強している
5. TOEIC, TOEFLや英検などの英語能力試験を定期的に受験している
6. 授業で使用している教科書、英語論文をよく勉強している
7. 留学生と交流している

[75] アメリカ、カナダ、イギリス、オーストラリア、ニュージーランドやこれらの国以外（インド、シンガポール等）などへの渡航経験（期間）についておうかがいします。英語でコミュニケーションをすることを旨とした渡航経験があれば、その期間（複数回の経験がある場合は最長のもの）について1つ選んで回答してください。

1. 渡航したことはない
2. 10日未満
3. 10日以上1ヶ月未満
4. 1ヶ月以上6ヶ月未満
5. 6ヶ月以上

[76] 徳島大学における英語教育についてどう思いますか。(複数回答可)

1. 教養教育、専門教育で行われる英語教育で十分である
2. もっと授業数を増やしてほしい
3. もっと授業数を減らしてほしい
4. もっと少人数のクラスにしてほしい
5. ネイティブスピーカーの教員による授業を増やしてほしい
6. 専門英語の時間を増やしてほしい
7. 専門英語のライティング、会話に重点を置いた授業を増やしてほしい

IV. 次に、大学生活に対するあなたの考えや満足度についておうかがいします。

本学に入学してから、あなたにとって次のことがらほどれくらいうまくいきましたか。

	とても うまく いった	いくらか うまく いった	あまり うまくいか なかった	まったく うまくいか なかった
[77] 大学の学生向けサービスを上手に利用する	4	3	2	1
[78] 大学教員の学問的な期待を理解する	4	3	2	1
[79] 効果的に学習する技能を修得する	4	3	2	1
[80] 大学が求める水準に応じて学習する	4	3	2	1

[81]	時間を効果的に使う	4	3	2	1
[82]	大学教員と顔見知りになる	4	3	2	1
[83]	他の学生との友情を深める	4	3	2	1

本学に入学してから、あなたにとって次のことがらはどれくらいあてはまりますか。

		非常にそ う思う	そう思う	どちらで もない	あまりそ う思わな い	全くそ う思わな い
[84]	自分の専門分野について興味関心を持ち、意欲的に取り組んでいる	5	4	3	2	1
[85]	日常的に自身の学修内容等を振り返り、改善点を見出し向上を図っている	5	4	3	2	1
[86]	現在の自分の学修時間や学修態度に満足している	5	4	3	2	1

[87] あなたの学生生活は充実していますか。

- | | |
|---------------|---------------|
| 4. 充実している | 3. まあまあ充実している |
| 2. あまり充実していない | 1. 充実していない |

あなたは、本学の教育内容・環境にどれくらい満足していますか。

		とても 満足	満足	どちらで もない	不満	とても 不満
[88]	共通教育あるいは教養教育の授業	5	4	3	2	1
[89]	初年次生を対象とした教育プログラム内容（フレッシュマンセミナー、基礎ゼミなど）	5	4	3	2	1
[90]	授業の全体的な質	5	4	3	2	1
[91]	日常生活と授業内容との関連	5	4	3	2	1
[92]	将来の仕事と授業内容の結びつき	5	4	3	2	1
[93]	教員と話をする機会	5	4	3	2	1
[94]	学習支援や個別の学習指導	5	4	3	2	1
[95]	他の学生と話をする機会	5	4	3	2	1
[96]	大学のなかでの学生同士の一体感	5	4	3	2	1
[97]	多様な考え方を認め合う雰囲気	5	4	3	2	1
[98]	大学での経験全般について	5	4	3	2	1
[99]	1つの授業を履修する学生数	5	4	3	2	1

[100] 教養教育科目の選択はどういう基準で行いましたか。（複数回答可）

- | | |
|-----------------------|--------------------|
| 1. 広い教養を身に付けるため | 2. 専門の基礎を築くため |
| 3. 好きな科目や面白そうな科目を選択した | 4. 単位をとりやすい授業を選択した |
| 5. 授業科目を選択する余地がなかった | 6. 特に基準はない |

[101] 教養教育科目の選択にあたって重視した情報源はなんですか。(複数回答可)

1. 「履修の手引き」やシラバスに記載された情報
2. 教員からの助言や情報
3. 事務職員からの助言や情報
4. 先輩からの助言や情報
5. 友人からの助言や情報

[102] 「SIH 道場」で学んだ内容のうち、役に立っている項目をすべて選択してください。(複数回答可)

1. 専門分野の体験学習
2. 文章（レポート）の書き方
3. プレゼンテーションの仕方
4. 他者と協働して学修や活動に取り組むこと
5. 学修の振り返りを行い次の学修に活かすこと
6. 大学における学修の仕方・取り組み方
7. 主体的な学修習慣を身につけること

[103] 専門教育科目の授業を受けて何を学ぶことができると思いますか。(複数回答可)

1. 専門の知識を身に付けるのに役立った
2. 自分の進路について考えることができるようになった
3. 学問・研究に興味を湧いた
4. 社会で役立つ能力を身に付けるのに役立った
5. 特に得るものはなかった

[104] 授業内容の難易度についてどう思いますか。

1. 授業内容の水準をもっと高度にすべきである
2. 授業内容の水準は適切である
3. 授業内容の水準をもっと易しくすべきである

あなたは、本学の設備や学生支援制度にどの程度満足していますか。

	とても満足	満足	どちらでもない	不満	とても不満
[105] 図書館の設備（蔵書やレファレンスサービス）	5	4	3	2	1
[106] 実験室の設備や器具	5	4	3	2	1
[107] コンピュータの施設や設備	5	4	3	2	1
[108] コンピュータの訓練や援助	5	4	3	2	1
[109] インターネットの使いやすさ	5	4	3	2	1
[110] 奨学金など学費援助の制度	5	4	3	2	1
[111] 健康・保健サービス（心身の健康に関わる問題についての診療や相談）	5	4	3	2	1
[112] レクリエーション施設（ジムの設備など）	5	4	3	2	1
[113] キャリアカウンセリング（就職や進学に関する相談）	5	4	3	2	1
[114] クラス担任制度	5	4	3	2	1

[115] 図書館のどんな学修支援サービスを利用していますか。(複数回答可)

1. 教員・学修支援アドバイザーによる学修相談 (SSS)
2. 授業サポートナビ (各講義の参考図書, 関連情報提供サービス)
3. 学修に関するイベント (講習会等)
4. 文献複写サービス
5. 本の購入リクエスト
6. グループ学修スペースの利用
7. 調べもの相談
8. 利用していない

[116] あなたは、読書についてどのように考えていますか。

1. 読書は習慣として身に付いている
2. もっと読書したいが、現在読みたい書籍はない
3. もっと読書したいが、時間がない
4. 読書の必要性を感じない

[117] 徳島大学では、履修者が11名以上の授業では、自分の成績や成績の分布が確認できるようになっていることを知っていますか。また、役立っていますか。

1. 知っており、確認したことがある。また、この情報は学修意欲の向上や学修計画の見直しに役立っている。
2. 知っており、確認したことがある。ただ、この情報は学修意欲の向上や学修計画の見直しに役立っていない。
3. 知っており、確認したことがある。ただ、この情報は学修意欲の向上や学修計画の見直しに役立っているかどうかわからない。
4. 知っているが確認したことがない
5. 知らない

[118] 徳島大学では、卒業に必要な履修科目やそれらの科目を学修していく順序等を一覧できる「カリキュラムマップ」を公開していることを知っていますか。

1. 知っており、見たことがある
2. 知っているが見たことはない
3. 知らない

[119] 徳島大学では、学部の授業科目のレベルに基づく学修の段階や順序を整理し適切な番号を付与した「科目ナンバリング」を公開していることを知っていますか。

1. 知っており、見たことがある
2. 知っているが見たことはない
3. 知らない

[120] シラバスはどのように利用していますか。

1. 毎週確認し、授業の予習・復習に役立っている
2. 気になった時に時々確認している
3. 初回の授業を受ける前に確認したが、その後はほとんど見ていない
4. 授業の選択を考える時に確認したが、その後はほとんど見ていない
5. 全く見ていない

[121] 卒業研究，医学研究実習（医学科），看護研究（保健学科看護学専攻），研究基礎ゼミ（歯学科）の研究室をどういう基準で決めましたか。（複数回答可）

1. 関心の深い研究内容であったから
2. 将来のやりたい仕事や進路に必要と思ったから
3. 先輩や友人の勧めで
4. 教員の人柄に魅力を感じたから
5. 研究室の雰囲気
6. やむを得ず入った
7. どこでもよかった

[122] 卒業研究，医学研究実習（医学科），看護研究（保健学科看護学専攻），研究基礎ゼミ（歯学科）によって何が得られると思いますか。（複数回答可）

1. 専門的知識や技術
2. 進路を考えるための広い視野
3. 学問・研究への興味や知的好奇心
4. コミュニケーション能力や対人関係能力
5. 課題発見能力や問題解決能力
6. プレゼンテーション能力
7. 文章作成能力
8. 大学院への進学意欲の向上
9. 特に得るものがない

[123] 研究を進めるための設備，スペースは確保されていますか。

1. 設備，スペースともに十分である
2. 設備は十分であるが，スペースがせまい
3. スペースは十分であるが，設備が足りない
4. 設備，スペースともに足りない

[124] 徳島大学のeラーニングサービスを利用したことはありますか？利用したことのある人は以下の項目から利用したことのあるサービスを選んでください（複数選択可）。

1. Moodle（全学）
2. Manaba（全学）
3. Mahara（全学）
4. スーパー英語（全学）
5. 各学部やコース内で提供されているeラーニングサービス
6. 利用したことはない

本学では，学生のみなさんに対して，上記のようなeラーニングサービスを提供しています。Eラーニングサービスに関して書かれている次の項目の内容は，あなたにどの程度当てはまりますか。

		非常に そう 思う	そう 思う	どちら でも ない	あまり そう 思わ ない	全く そう 思わ ない
[125]	本学のeラーニングサービスは，学修に役立つ	5	4	3	2	1
[126]	本学が提供しているようなオンライン学修科目を，今後も増やした方が良く思うか	5	4	3	2	1

3年生調査

あなたが大学（学部）卒業後の進路の準備をしたり考えたりするために、次のようなことがらを大学在学中に経験したいと思いますか。

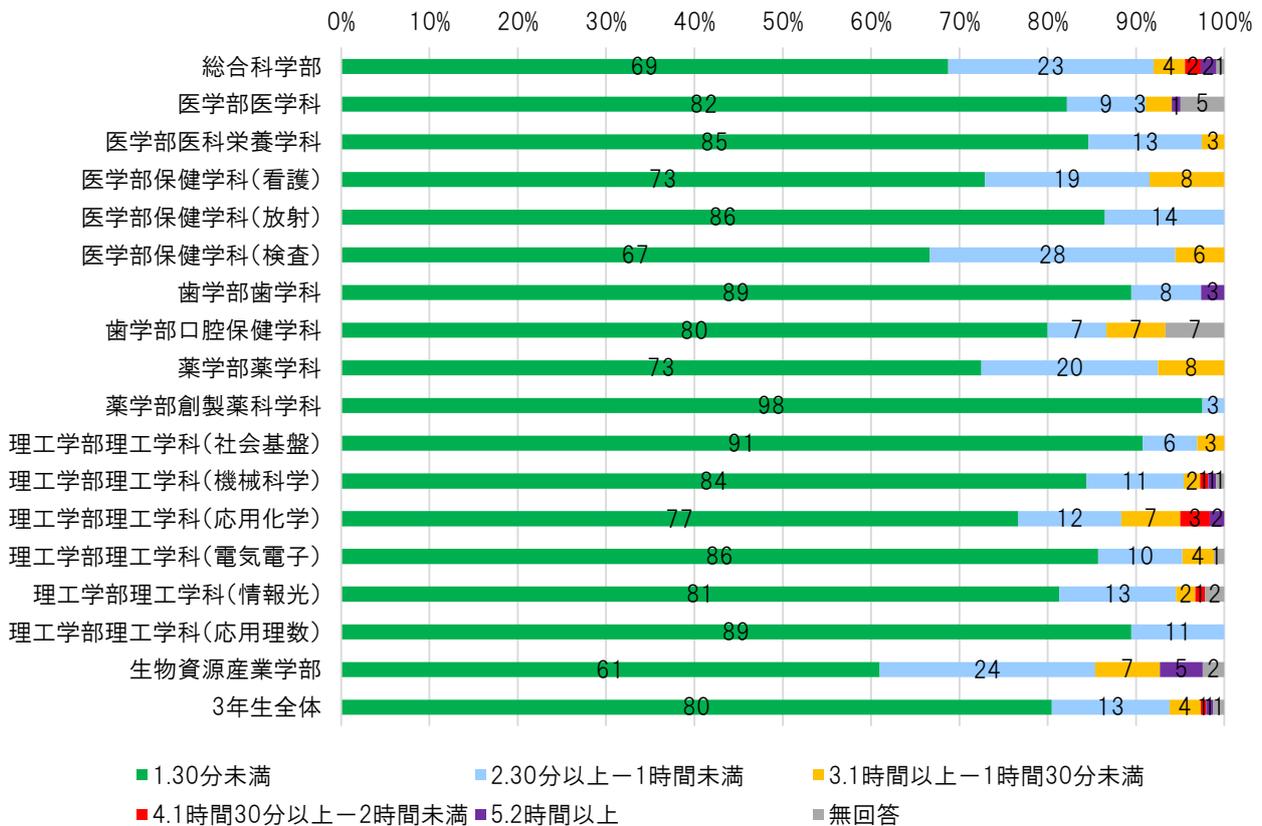
	そう思う	どちらかといえば思う	どちらかといえば思わない	そう思わない
[131] 専門分野をしっかり身につける	4	3	2	1
[132] 専門分野だけでなく、幅広い知識を身につけ視野を広げる	4	3	2	1
[133] 職業意識の形成につながる教育を受ける	4	3	2	1
[134] 企業での体験実習等を踏まえた上で、専門知識を学ぶ	4	3	2	1
[135] 教員が設定した特定の課題に対して、チームで取り組むプロジェクト型の授業を受ける	4	3	2	1
[136] 自分で課題を見つけ、自分で解決していくような訓練を受ける	4	3	2	1
[137] ディベートやプレゼンテーションの訓練を受ける	4	3	2	1
[138] 実践的で専門性のある資格を取得するためのプログラムを受ける	4	3	2	1
[139] レポートや論文指導により、文書作成能力を高める	4	3	2	1
[140] 卒業後の進路について、教職員に対して個別に相談する	4	3	2	1
[141] 卒業後の進路について、本学の卒業生や先輩と話をする	4	3	2	1
[142] 本学の教職員以外の大人と話をする	4	3	2	1

質問は以上です。ご協力どうもありがとうございました。

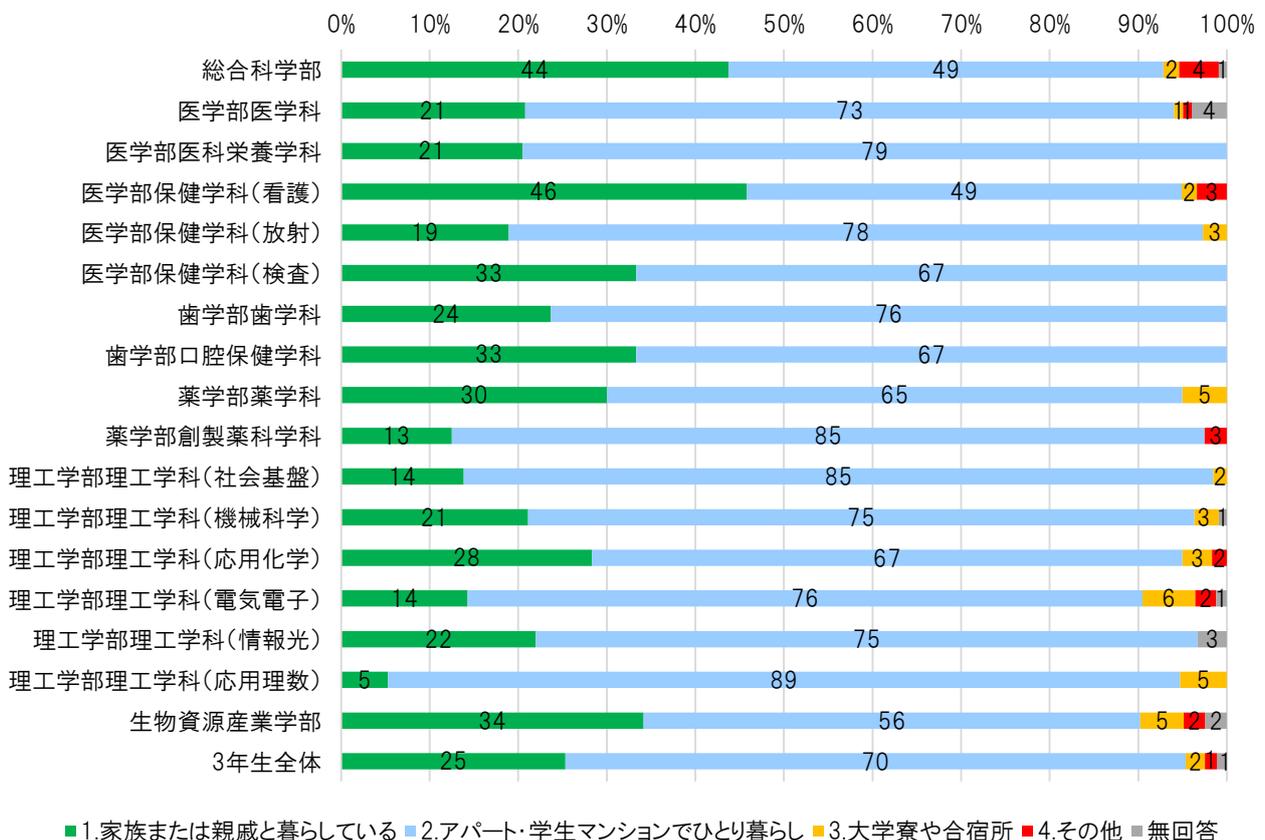
3年生調査結果

1. 最初にあなたご自身のことについておうかがいします。

〔2〕あなたの片道の通学時間はどれくらいですか。



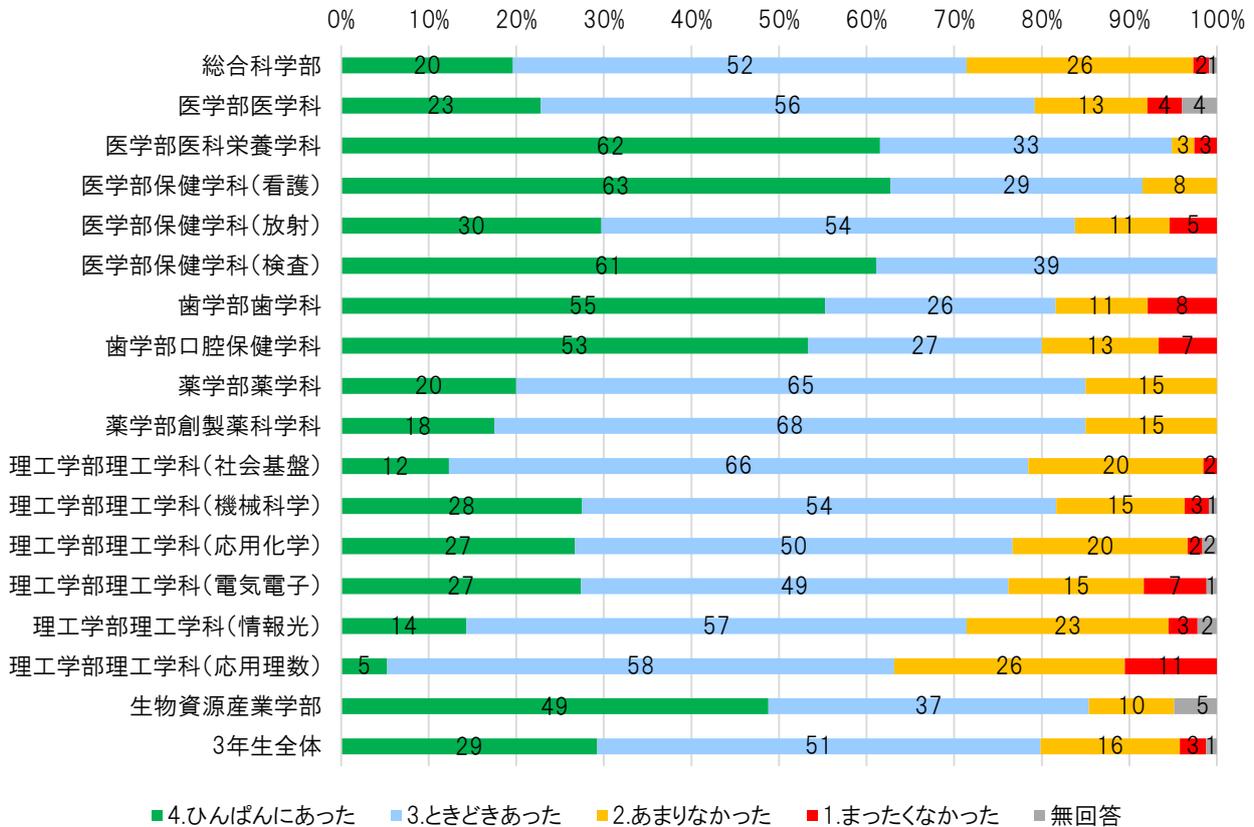
〔3〕あなたの現在の居住形態は次のうちどれですか。



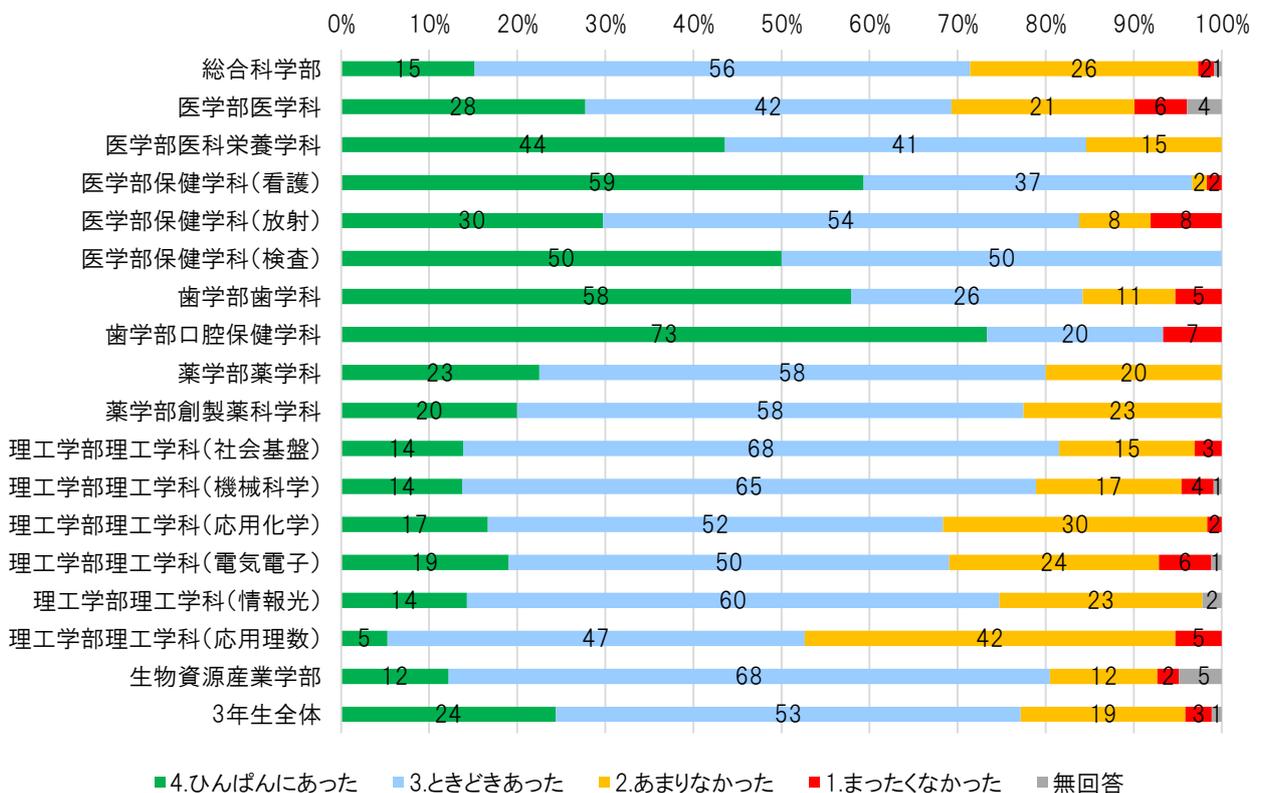
II. 現在のあなたの学習状況についておうかがいします。

あなたが受講した大学の授業で、次のようなことを経験する機会はどのくらいありましたか。

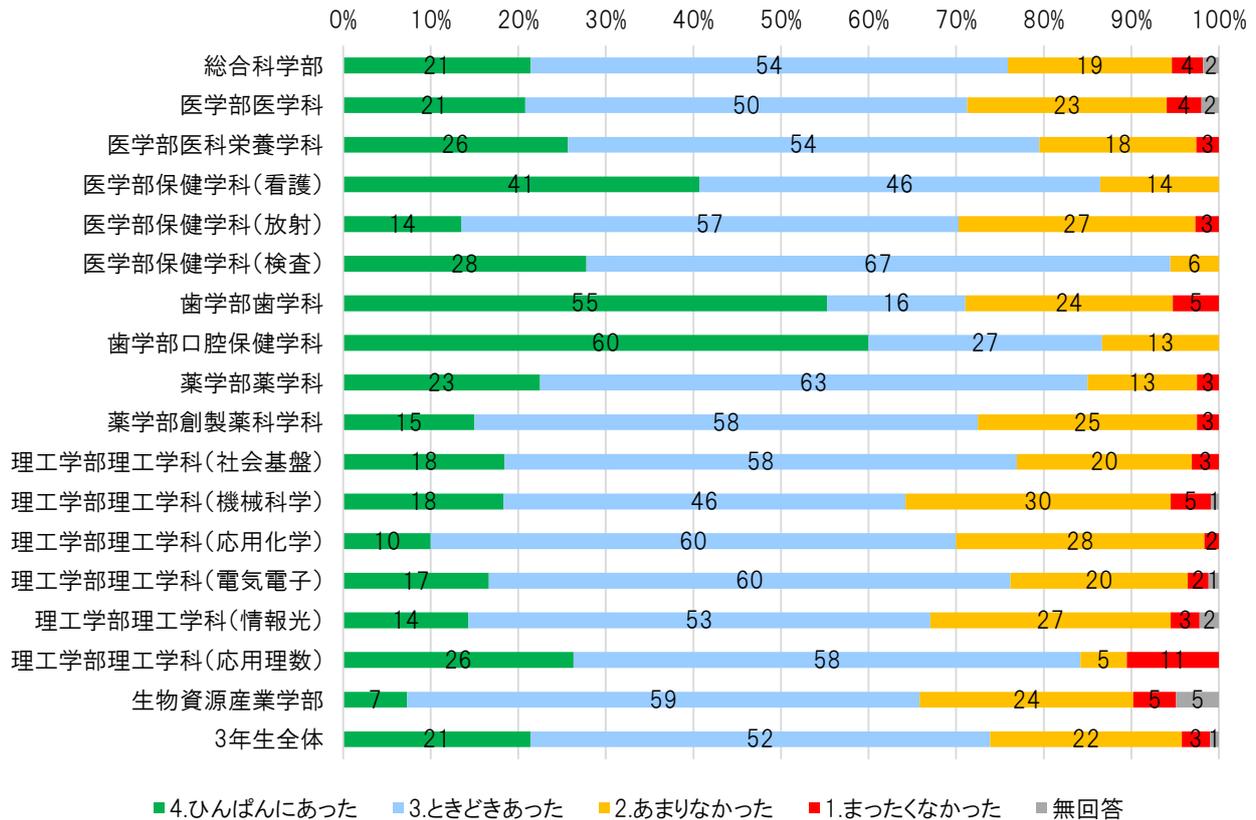
[4] 実験、実習、フィールドワークなどを実施し、学生が体験的に学ぶ



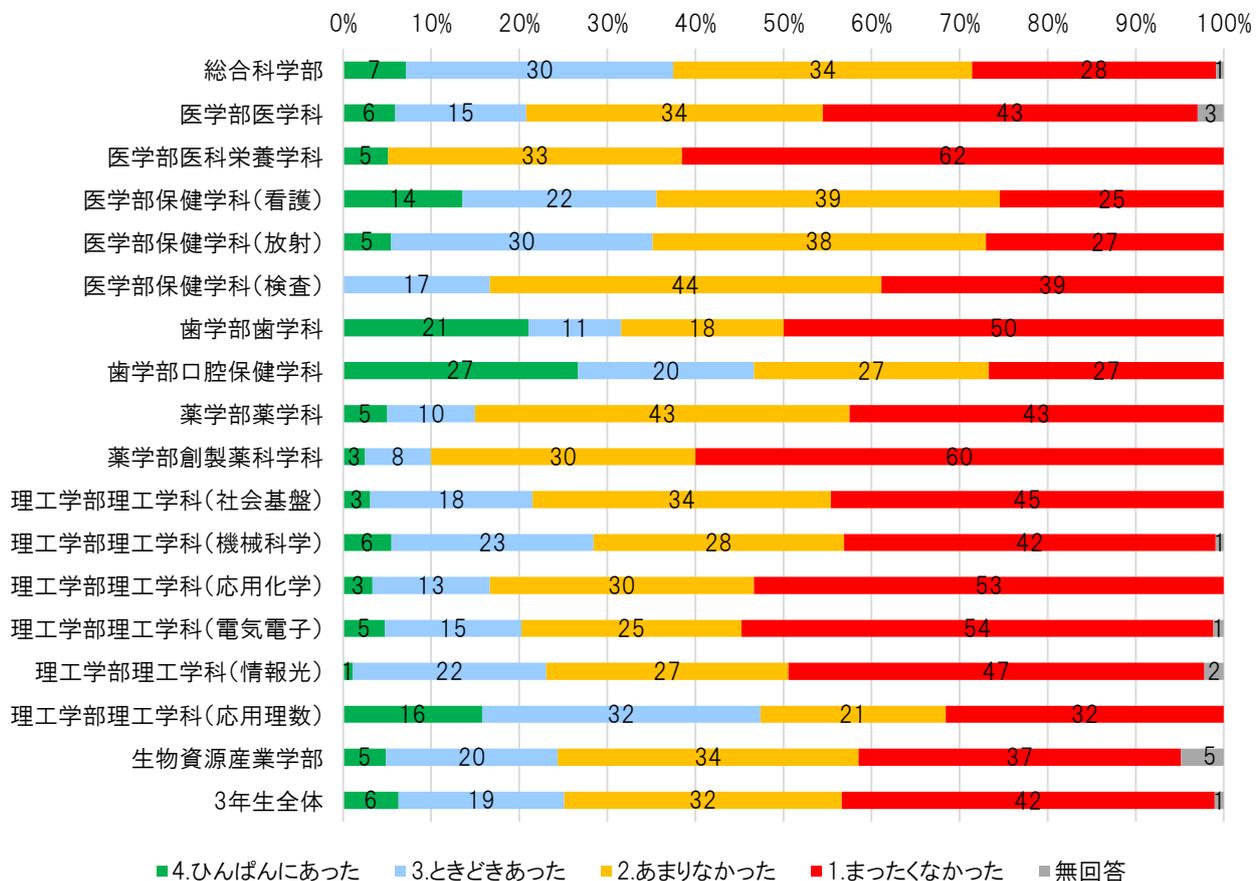
[5] 仕事に役立つ知識やスキルを学ぶ



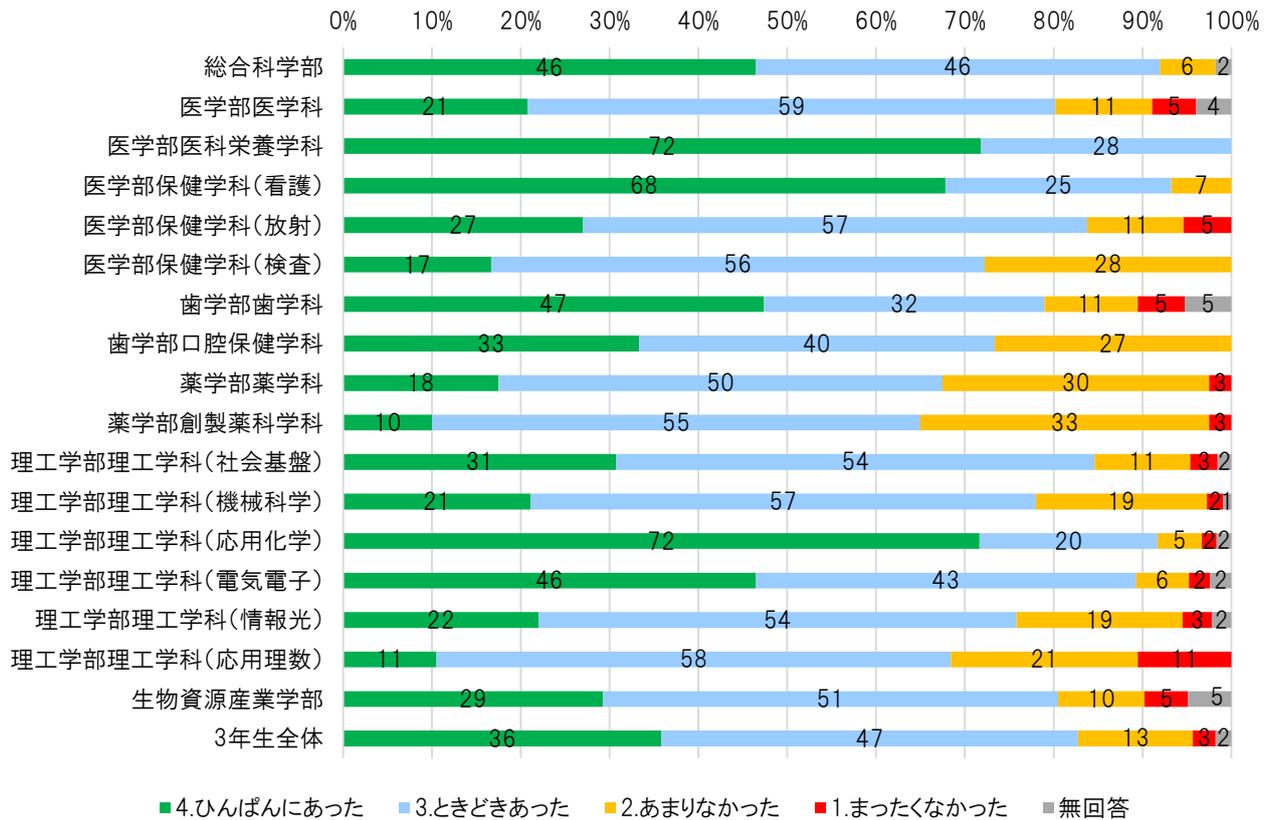
[6]授業内容と社会や日常生活のかかわりについて、教員が説明する



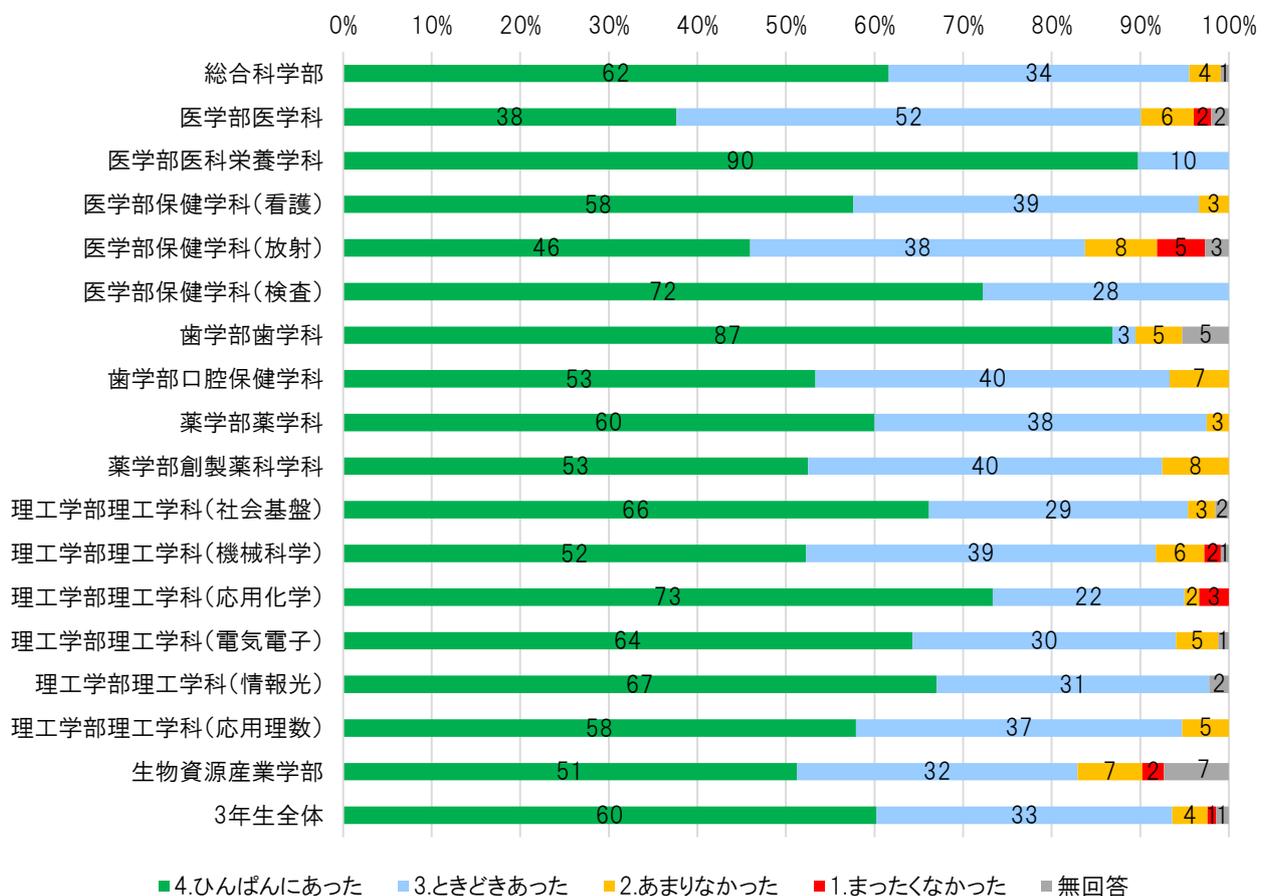
[7]授業の一環でボランティア活動をする



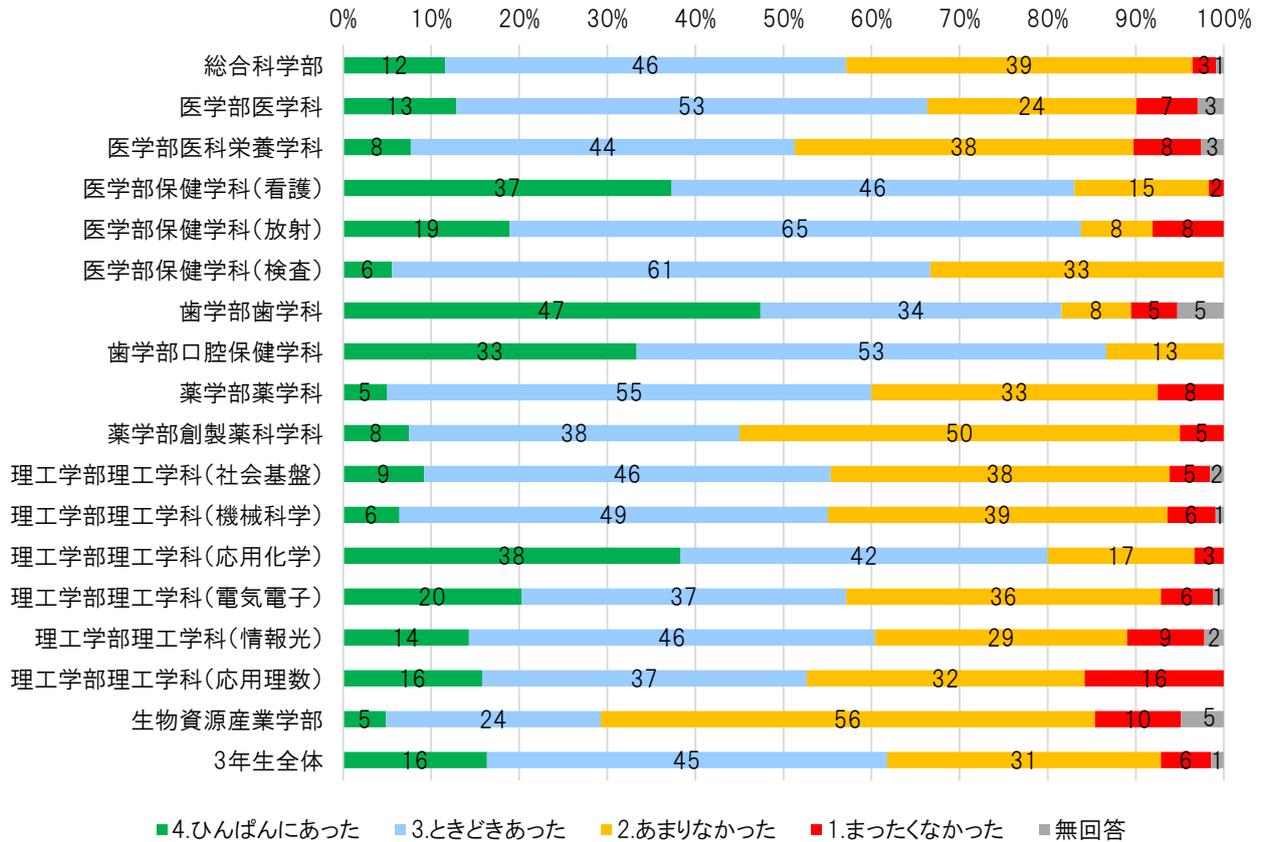
[8] 学生自身が文献や資料を調べる



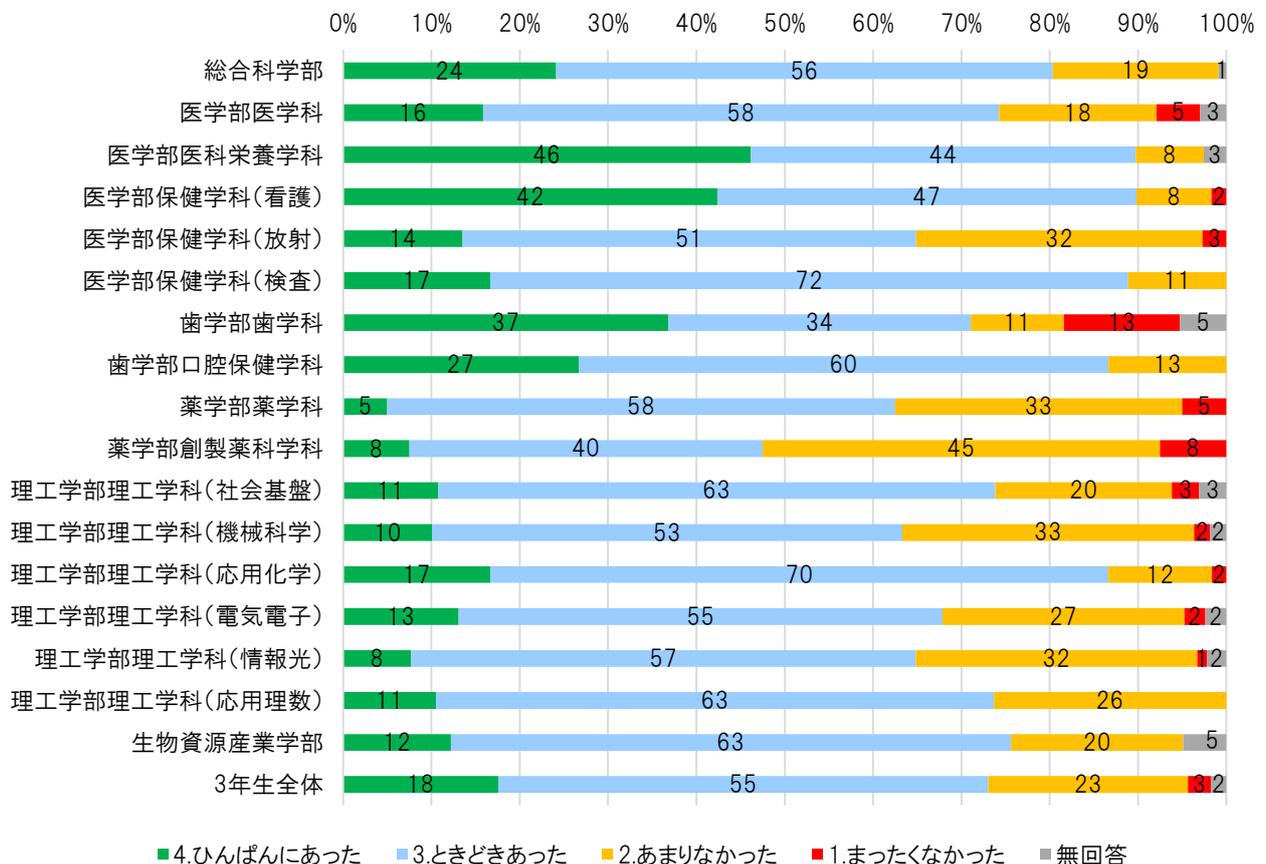
[9] 定期的に小テストやレポートが課される



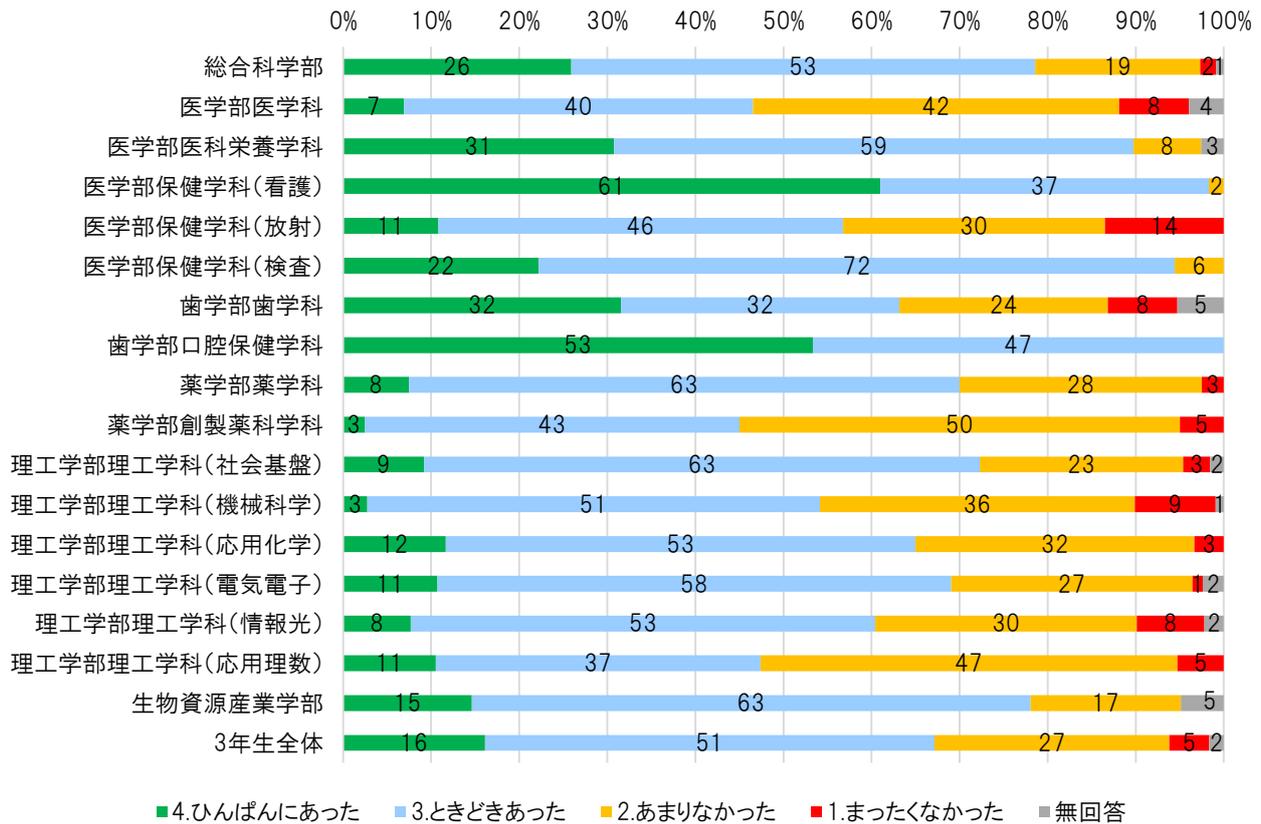
[10]教員が提出物に添削やコメントをつけて返却する



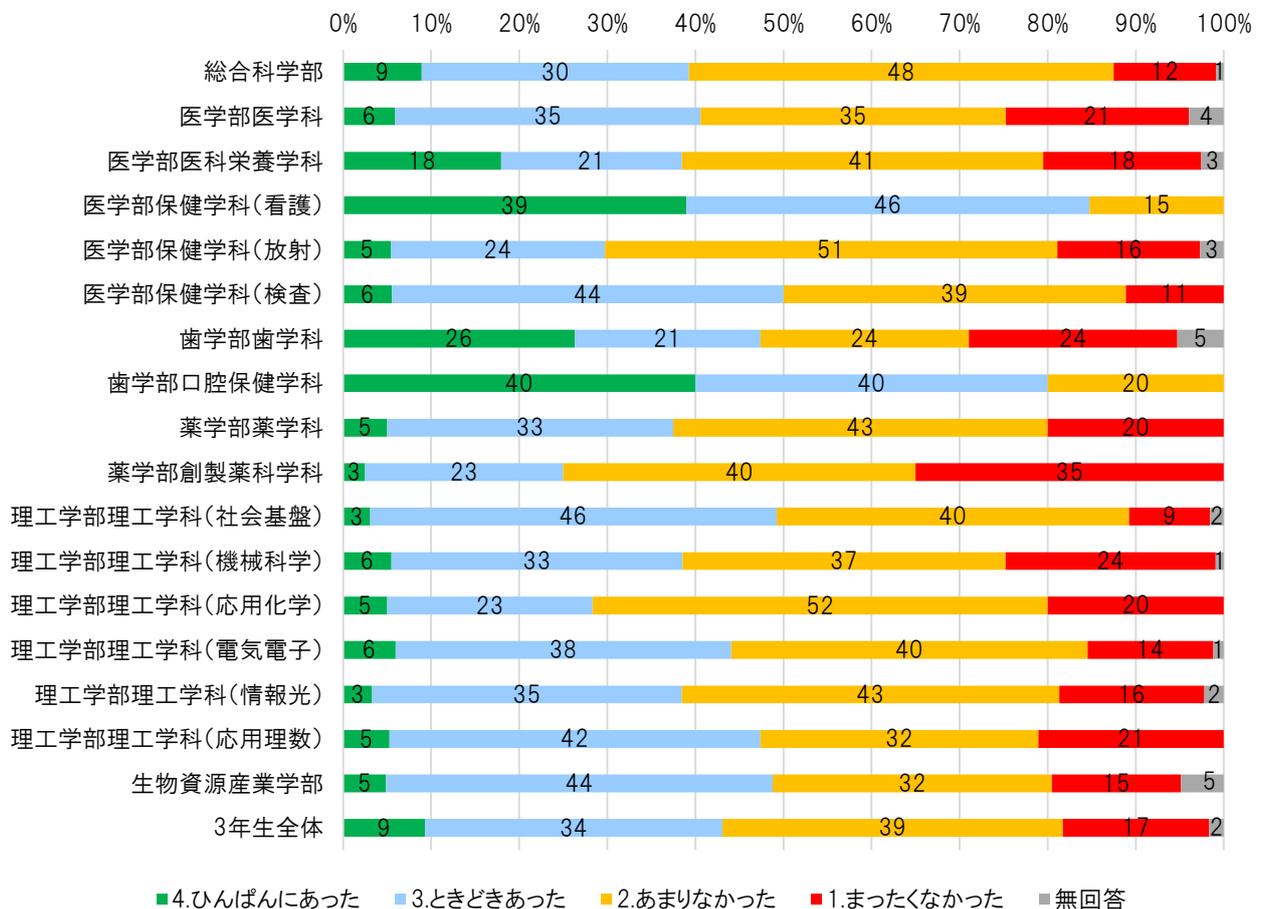
[11]学生が自分の考えや研究を発表する



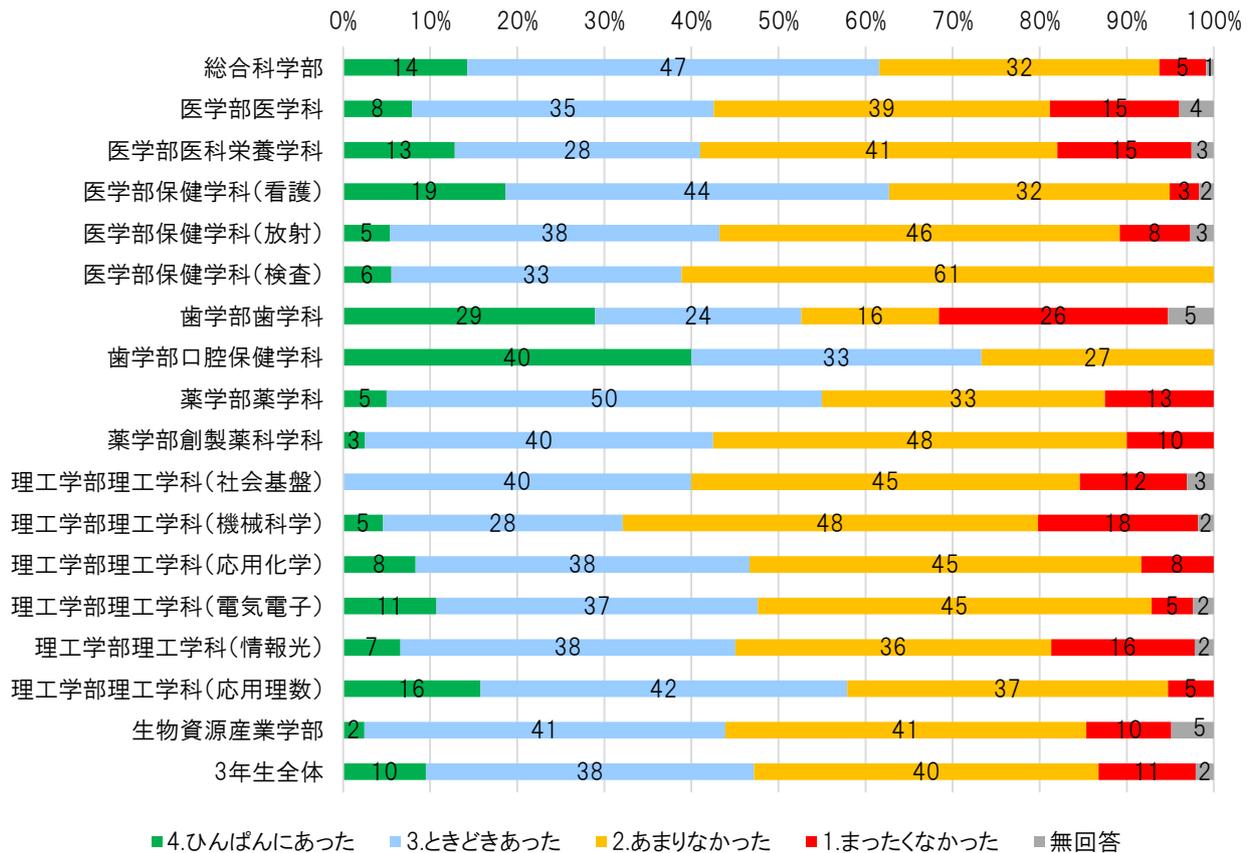
[12]授業中に学生同士が議論をする



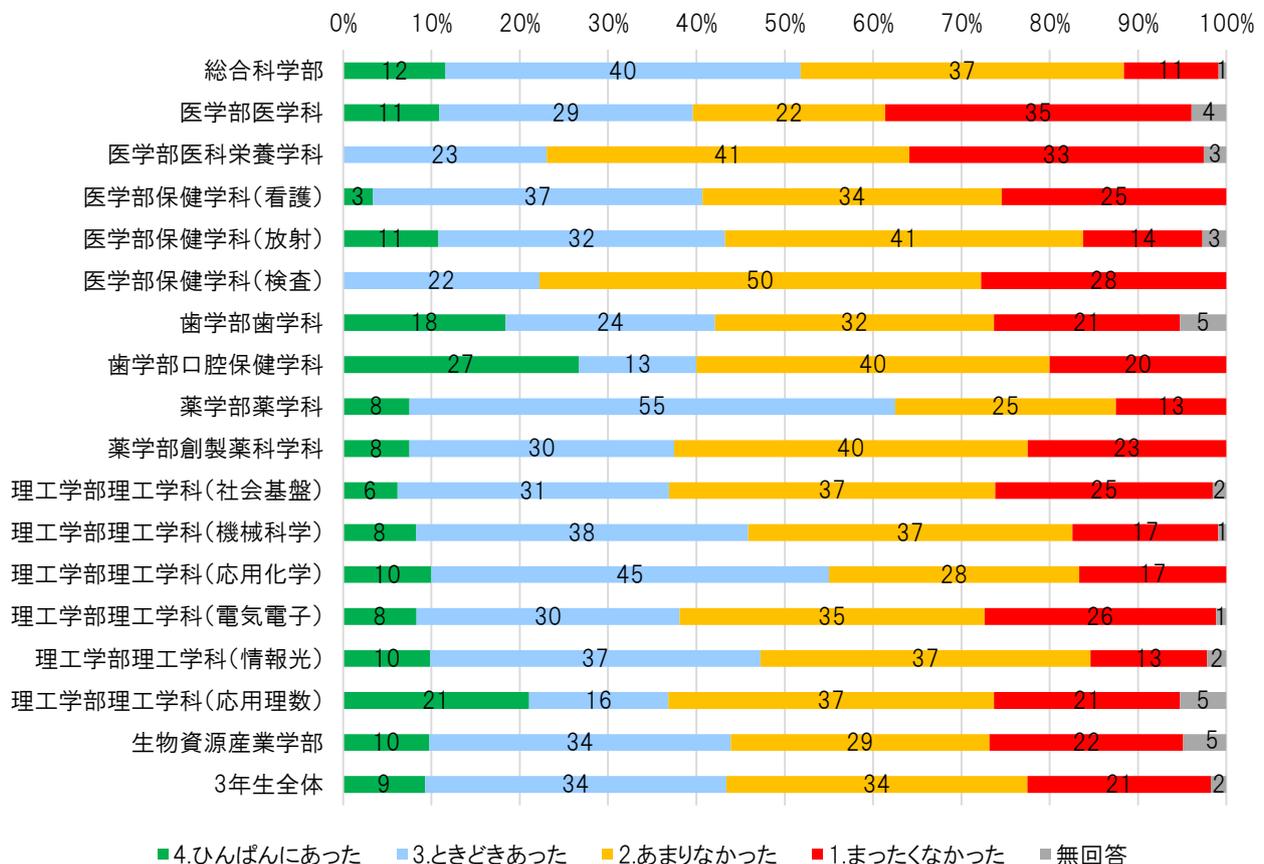
[13]授業で検討するテーマを学生が設定する



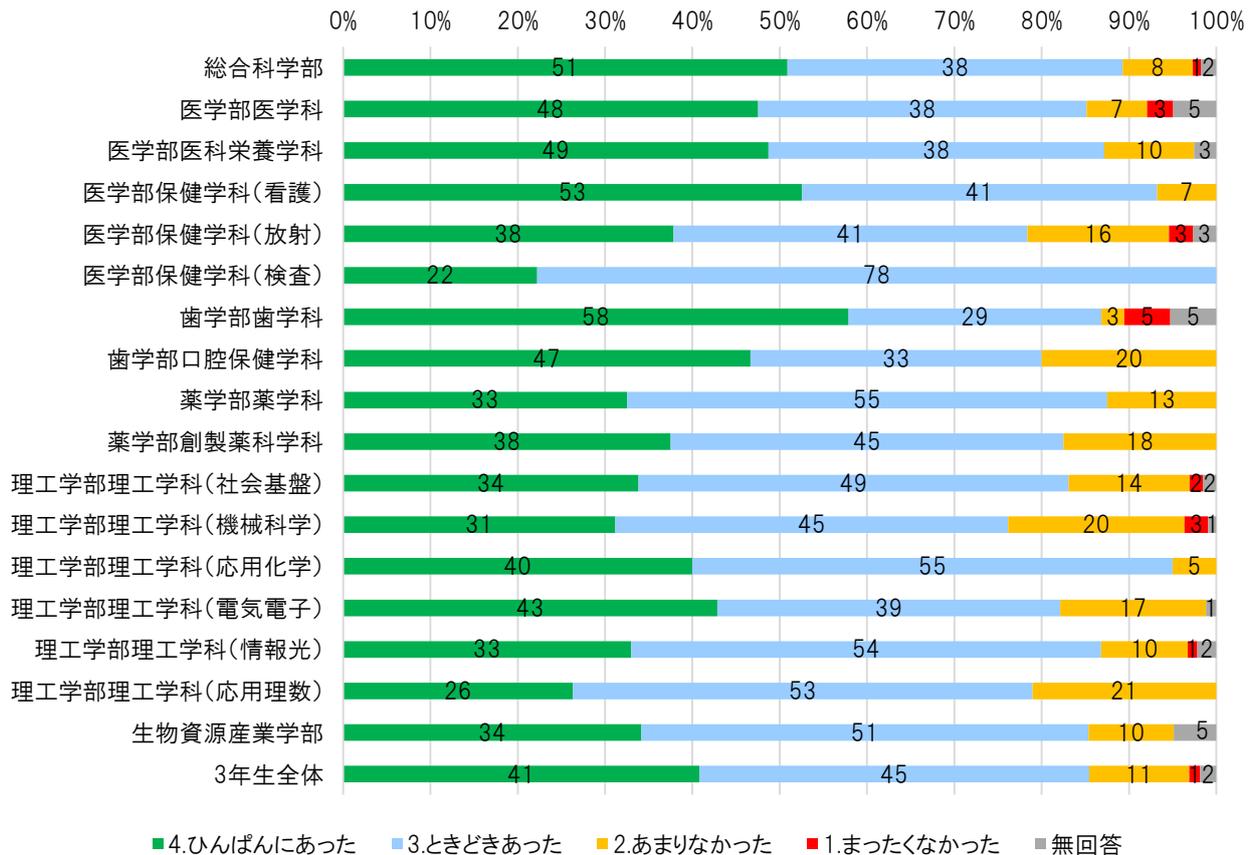
[14]授業の進め方に学生の意見が取り入れられる



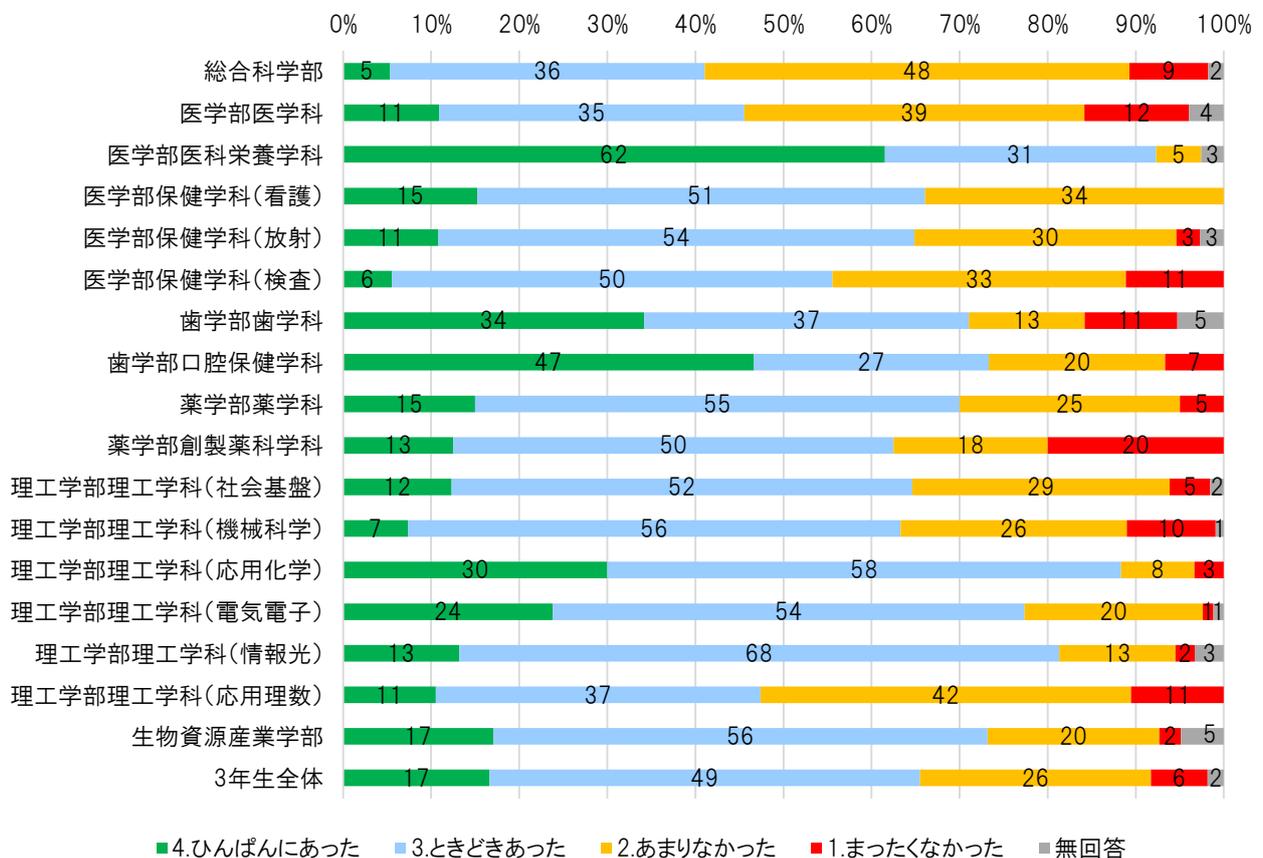
[15]取りたい授業を履修登録できなかった



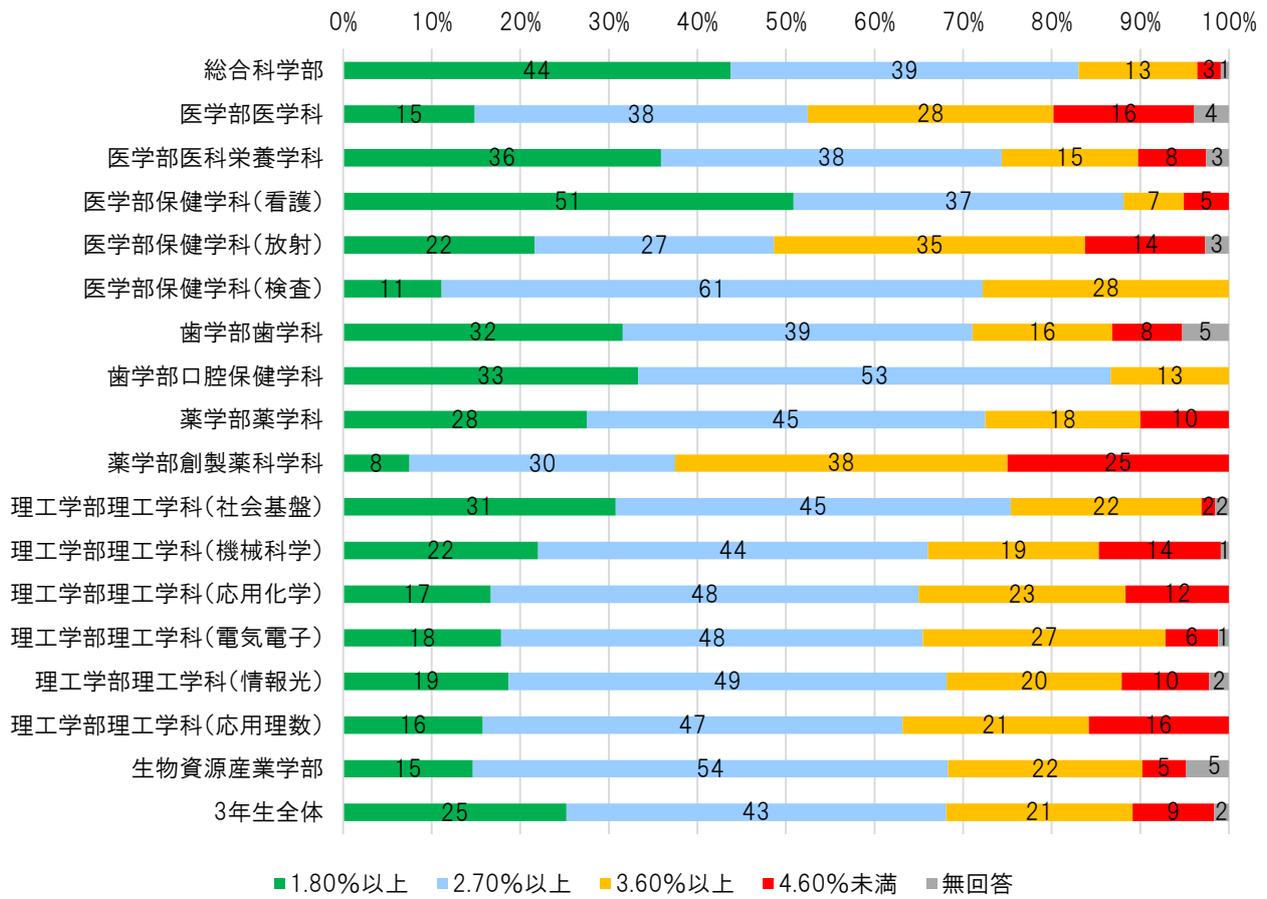
[16]出席することが重視される



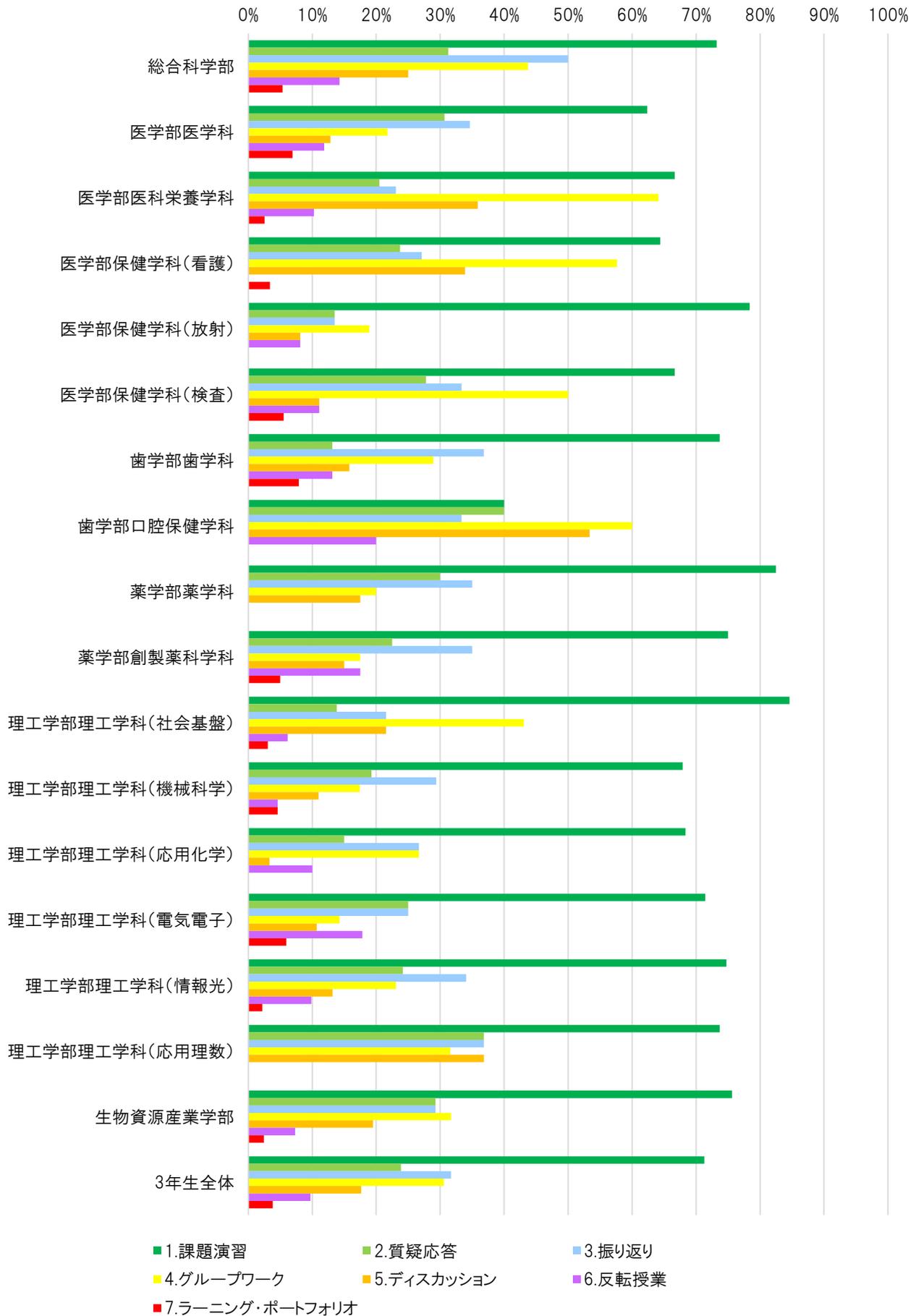
[17]TA や SA などの授業補助者から補助を受ける



[18]授業内容を理解できる科目の割合はどれくらいですか。

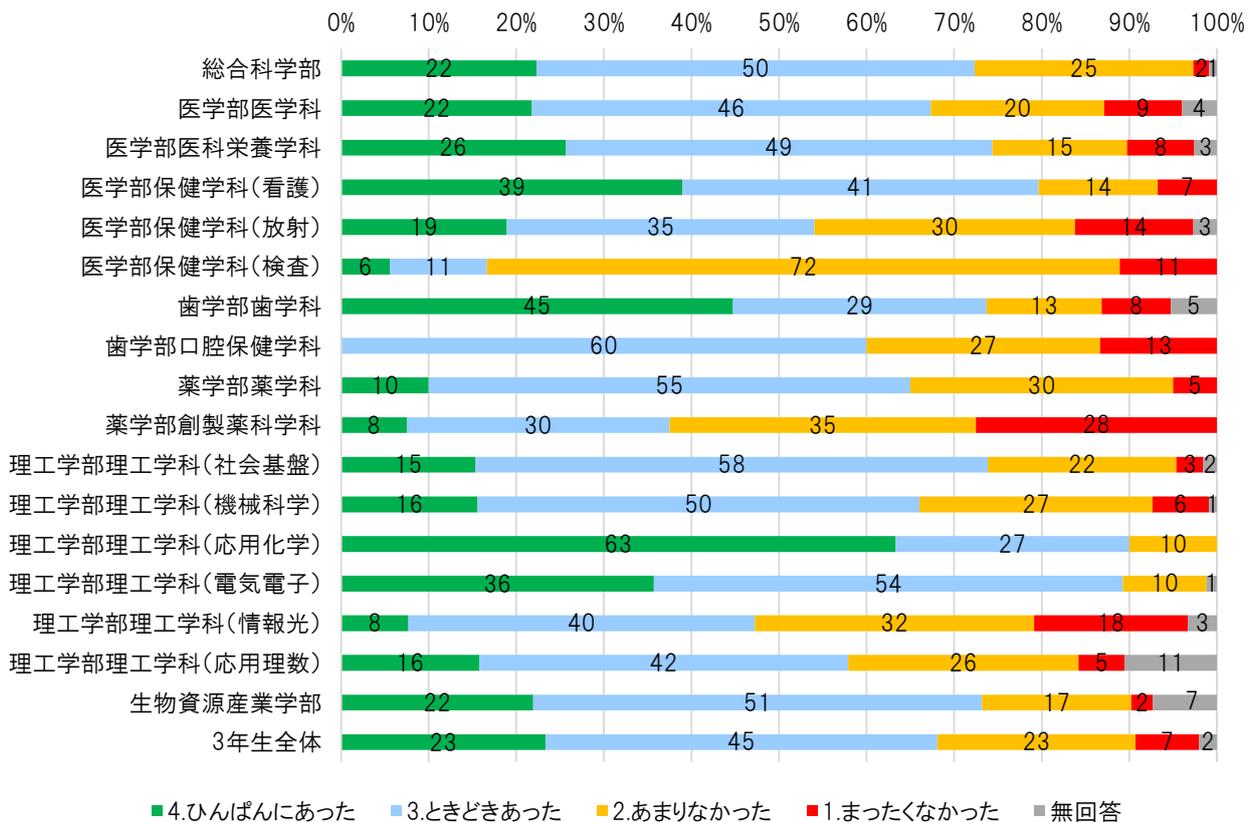


[19]あなたにとってどの方法が授業内容の理解の促進につながりましたか。(複数回答)

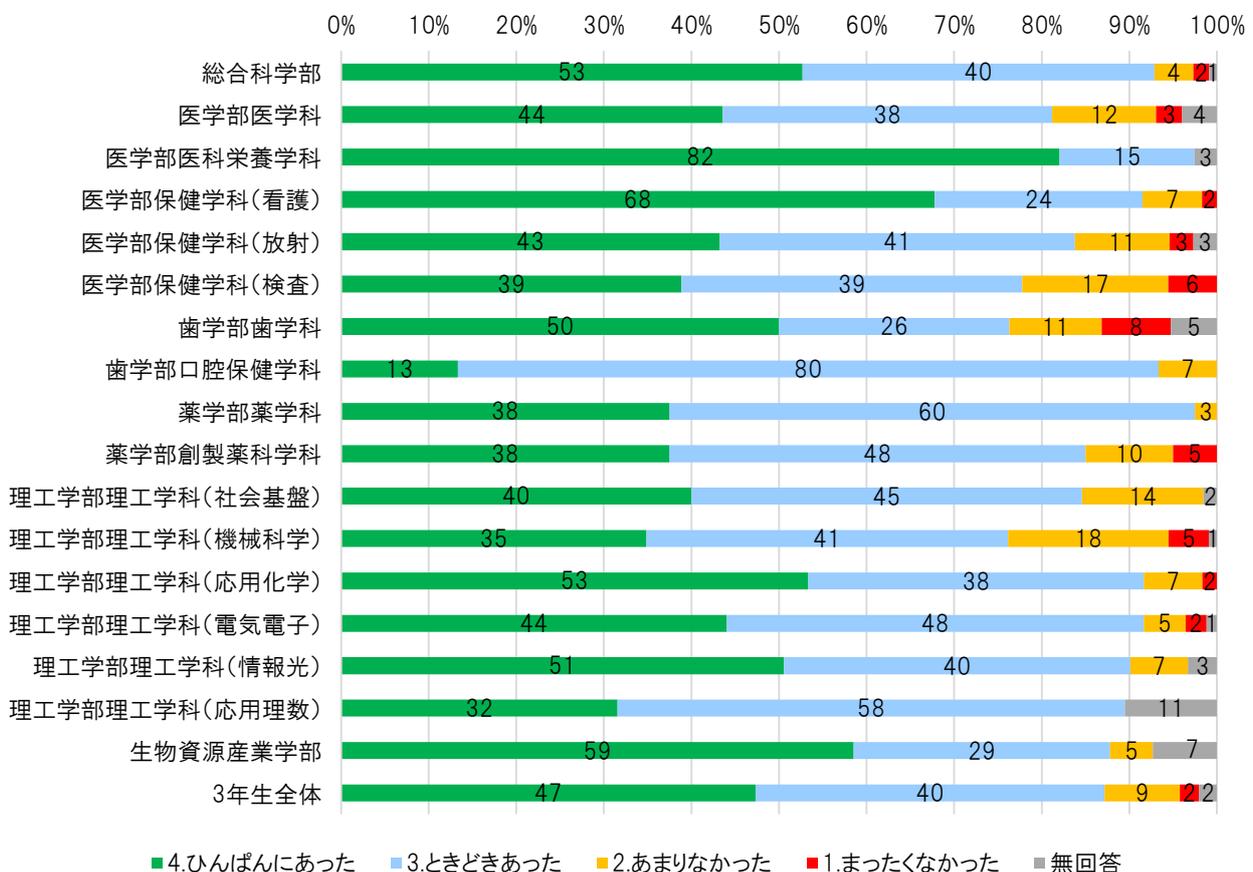


大学の授業や授業以外の学習に関して、あなたは次のようなことをどのくらい経験しましたか。

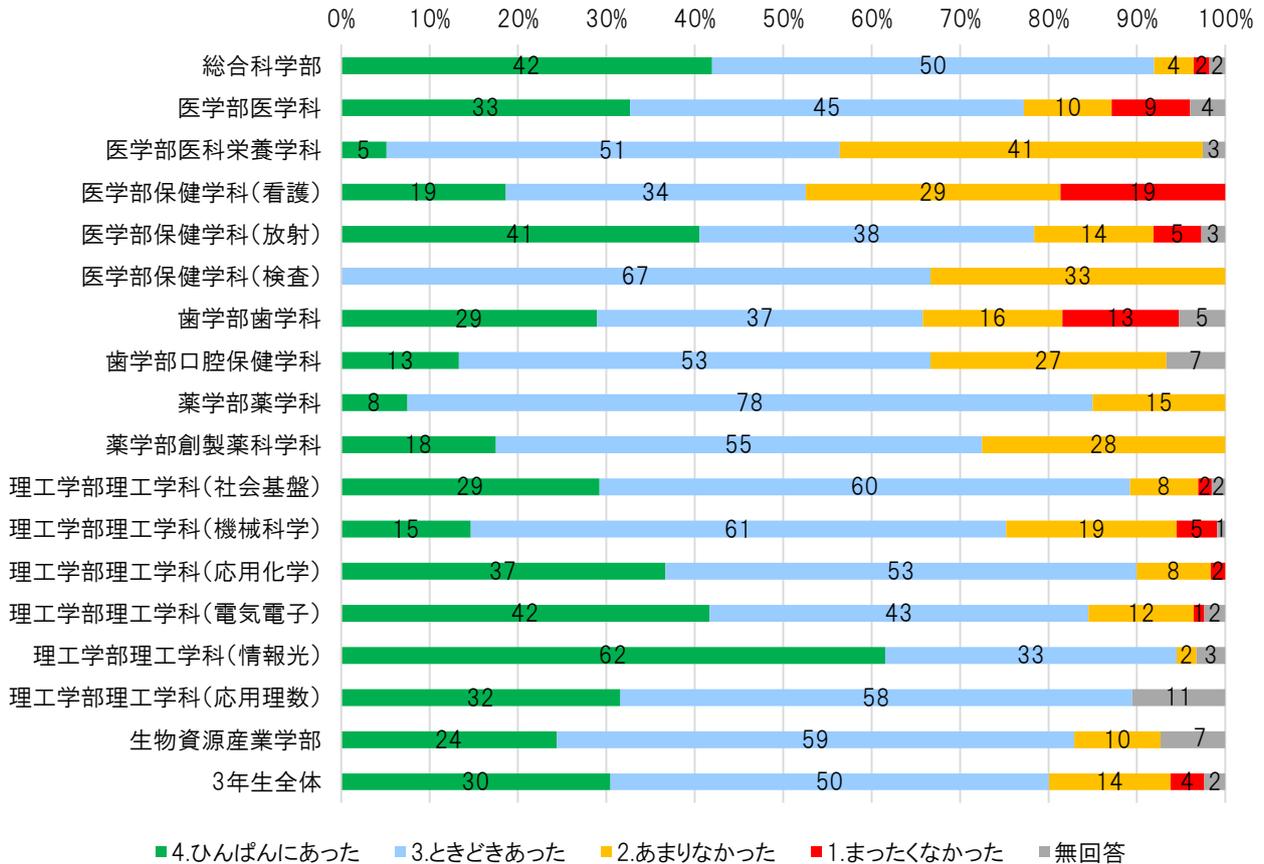
[20]授業課題のために図書館の資料を利用した



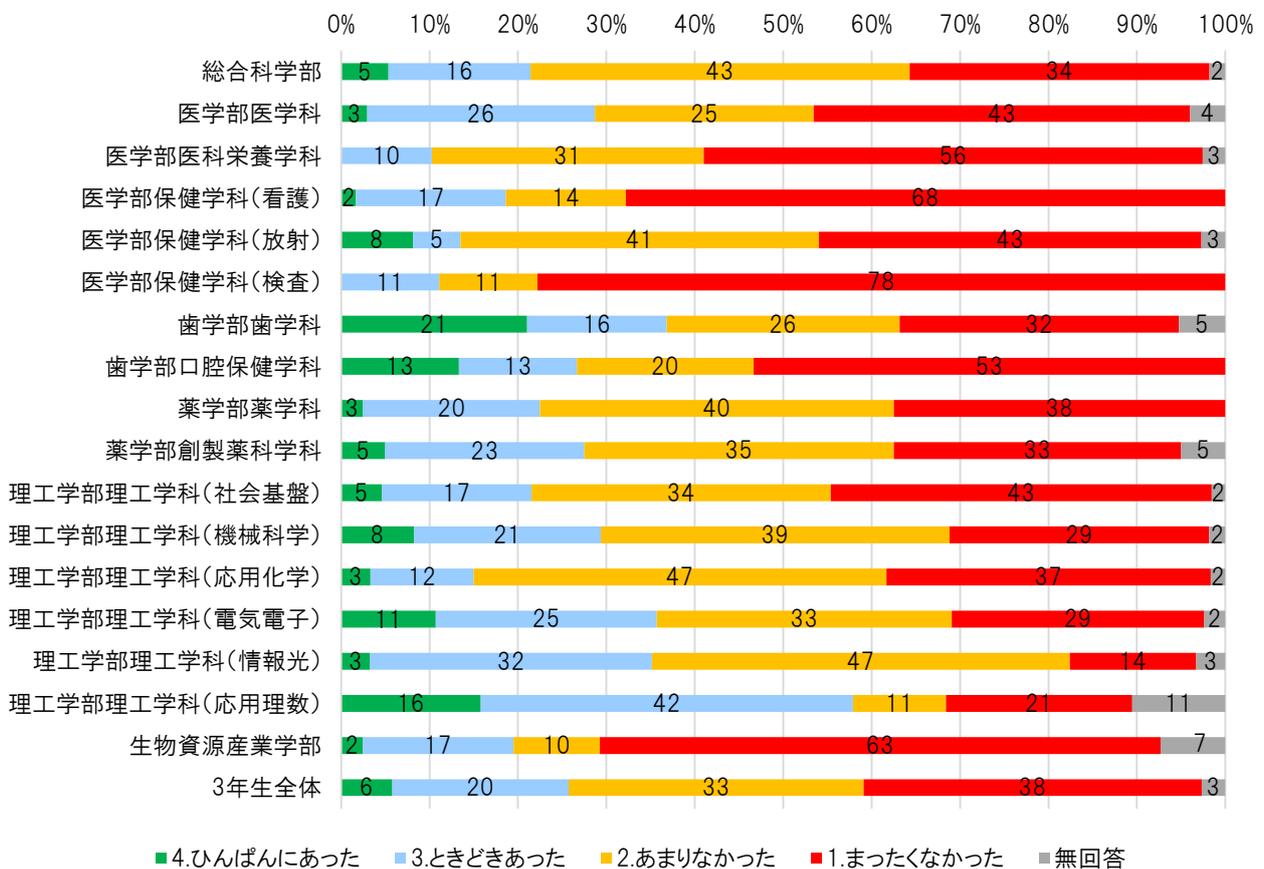
[21]授業課題のために Web 上の情報を利用した



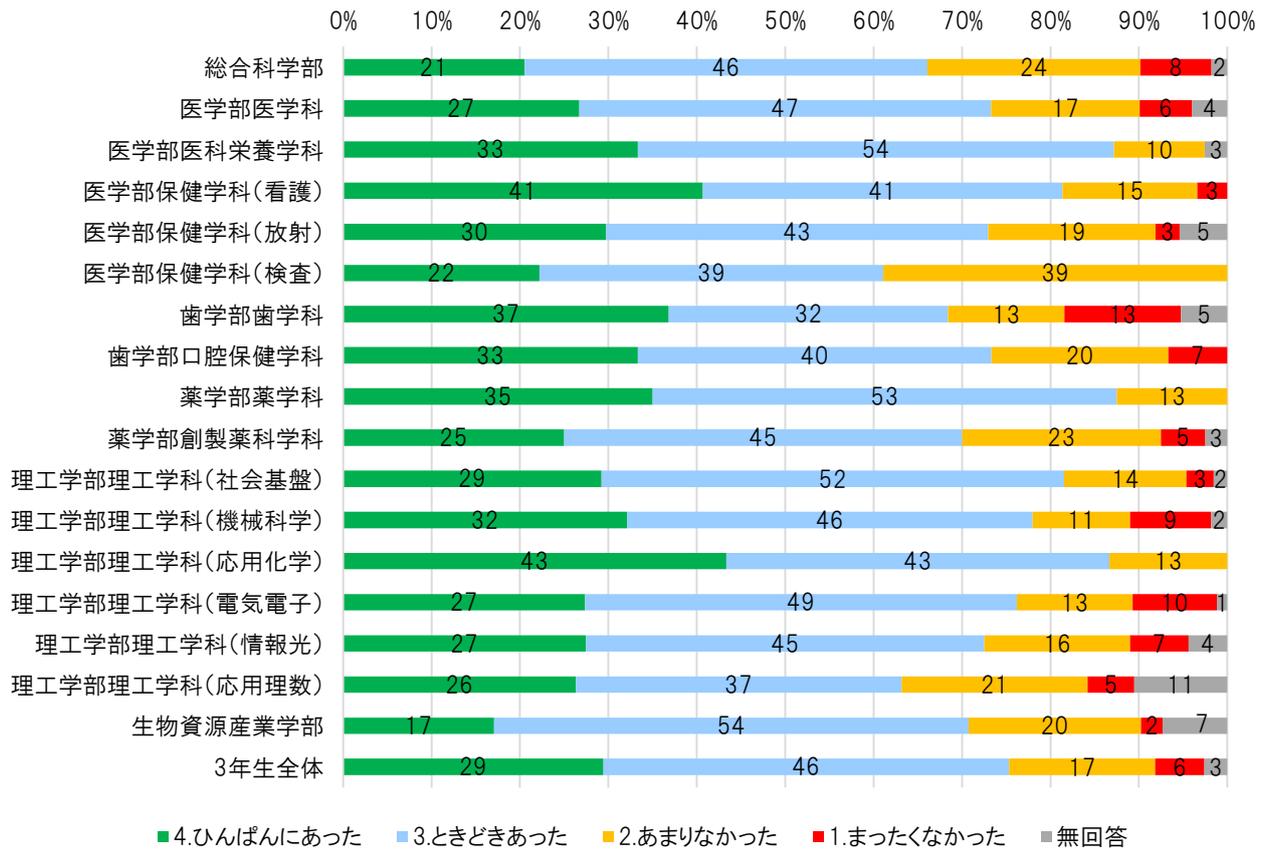
[22]インターネットを使って授業課題を受けたり、提出したりした



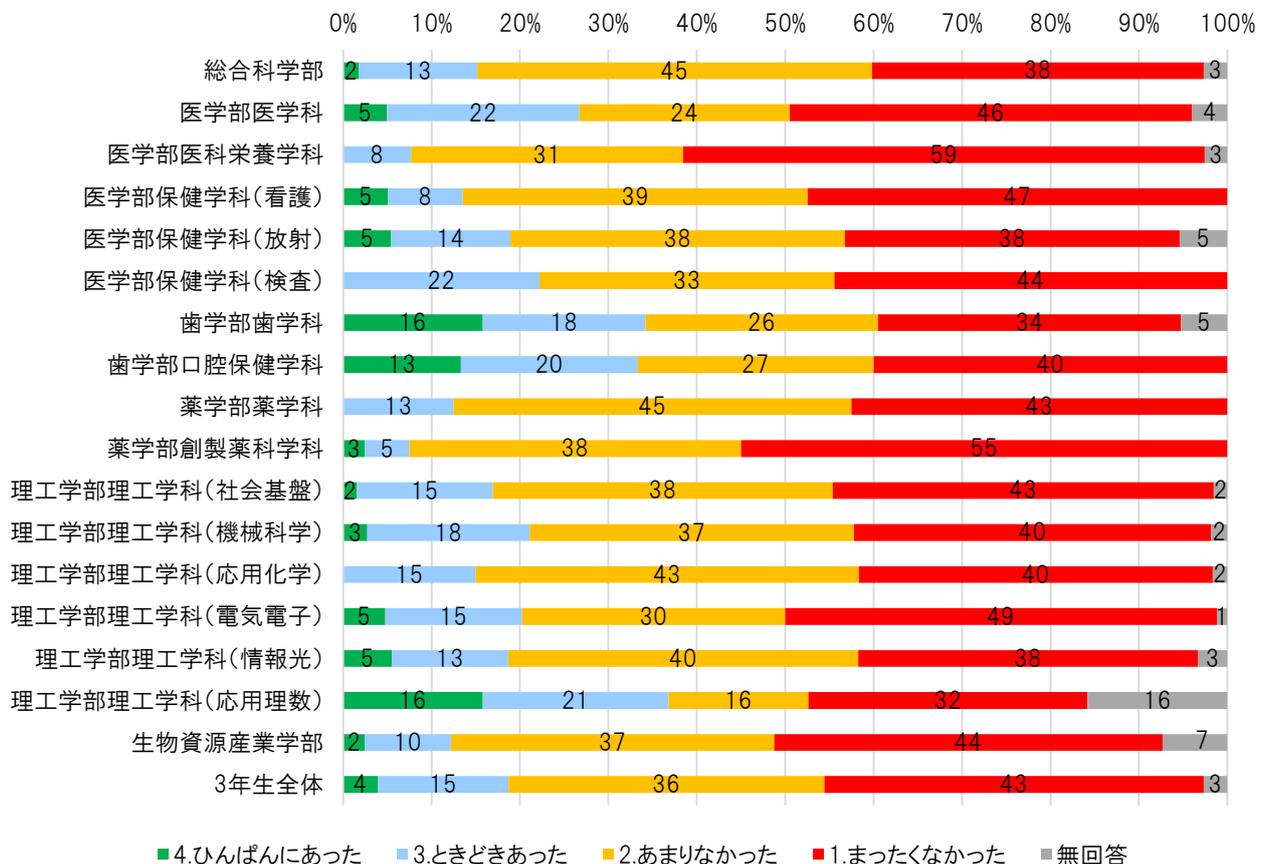
[23]提出期限までに授業課題を完成できなかった



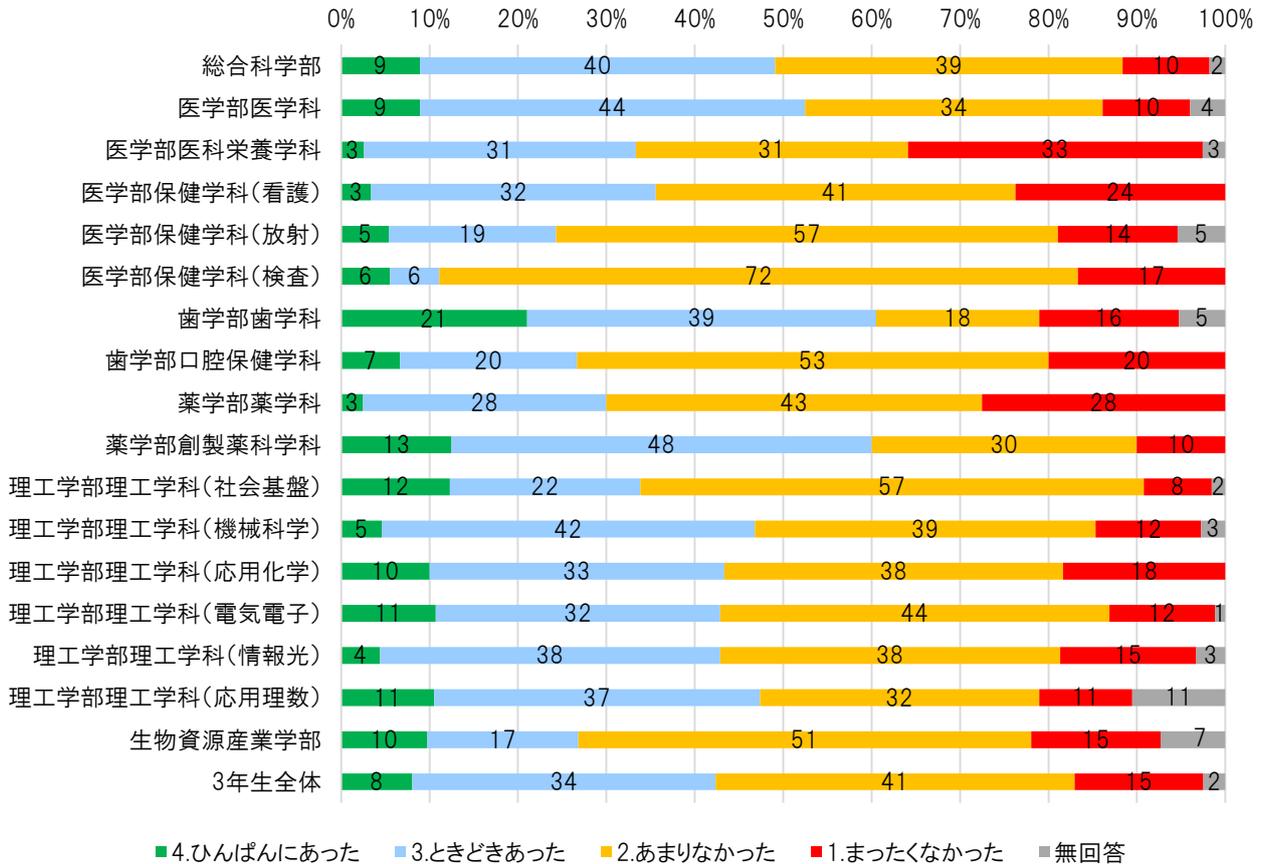
[24]授業時間外に、他の学生と一緒に勉強したり、授業内容を話したりした



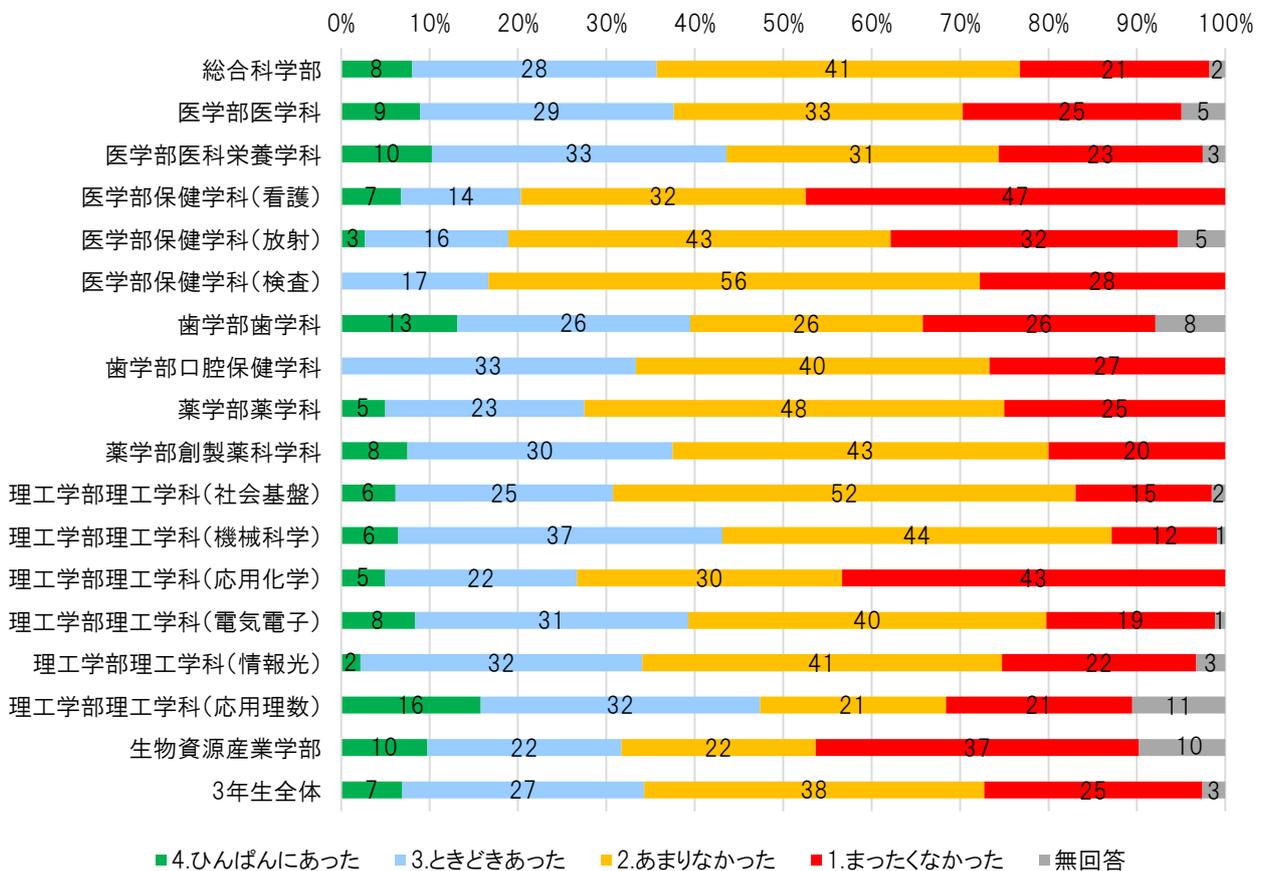
[25]授業中、教員の考え方や意見に異議を唱えた



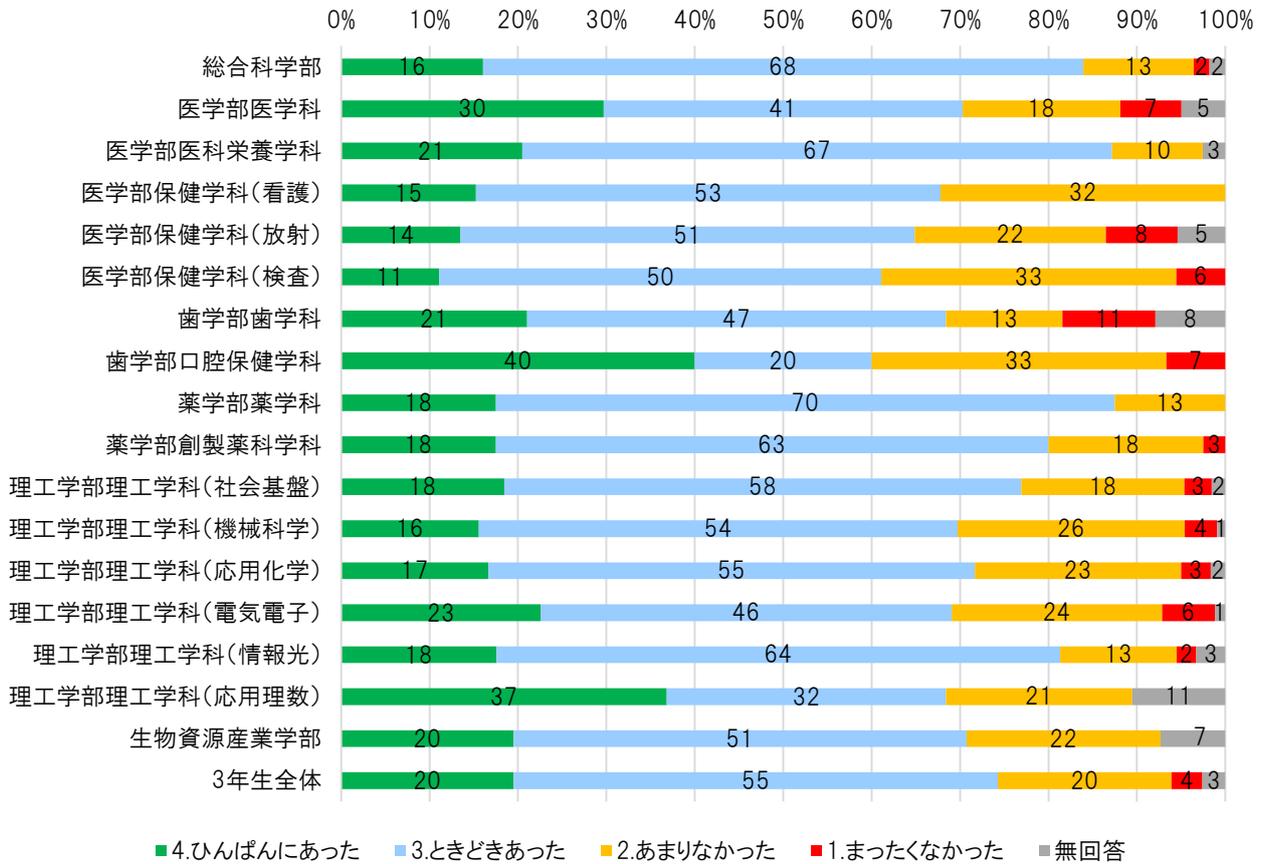
[26]授業を欠席した



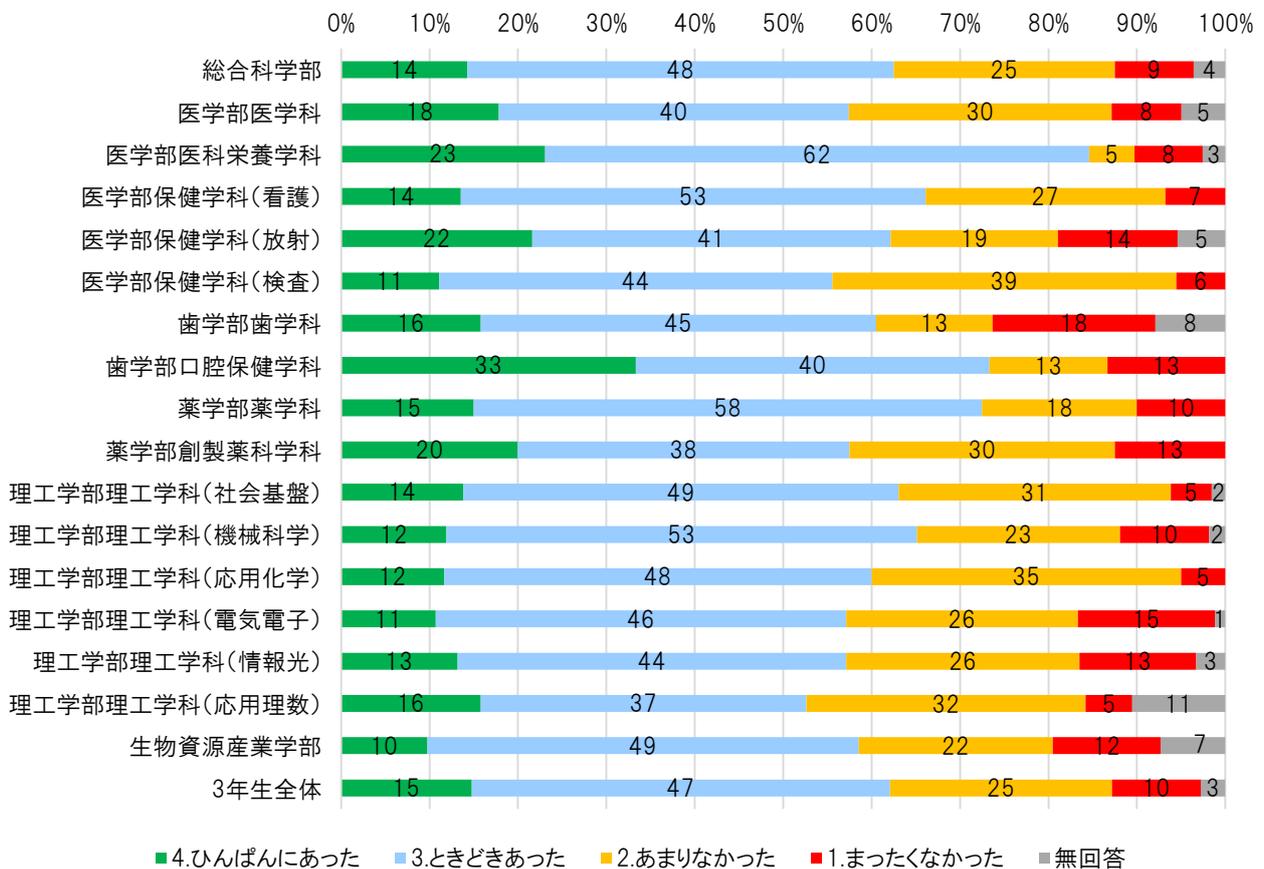
[27]授業に遅刻した



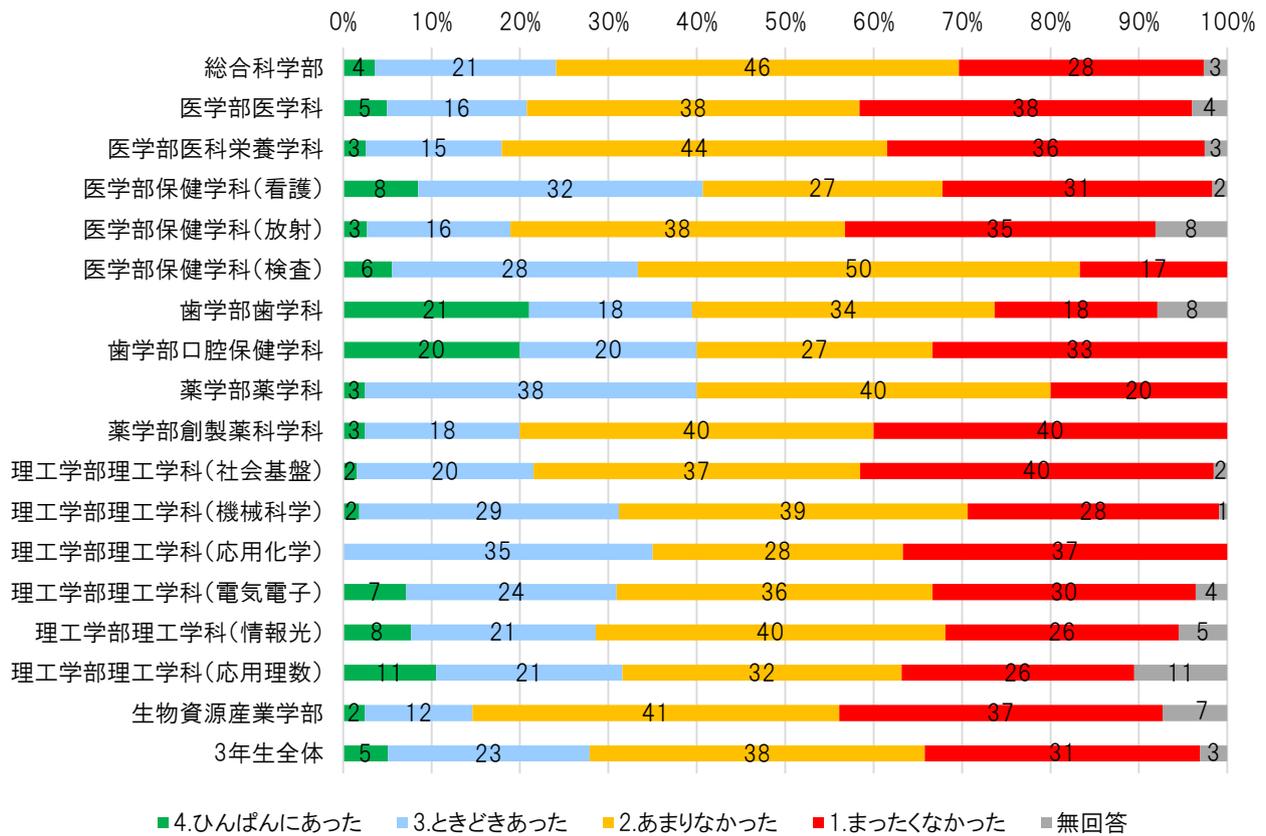
[28]授業をつまらなく感じた



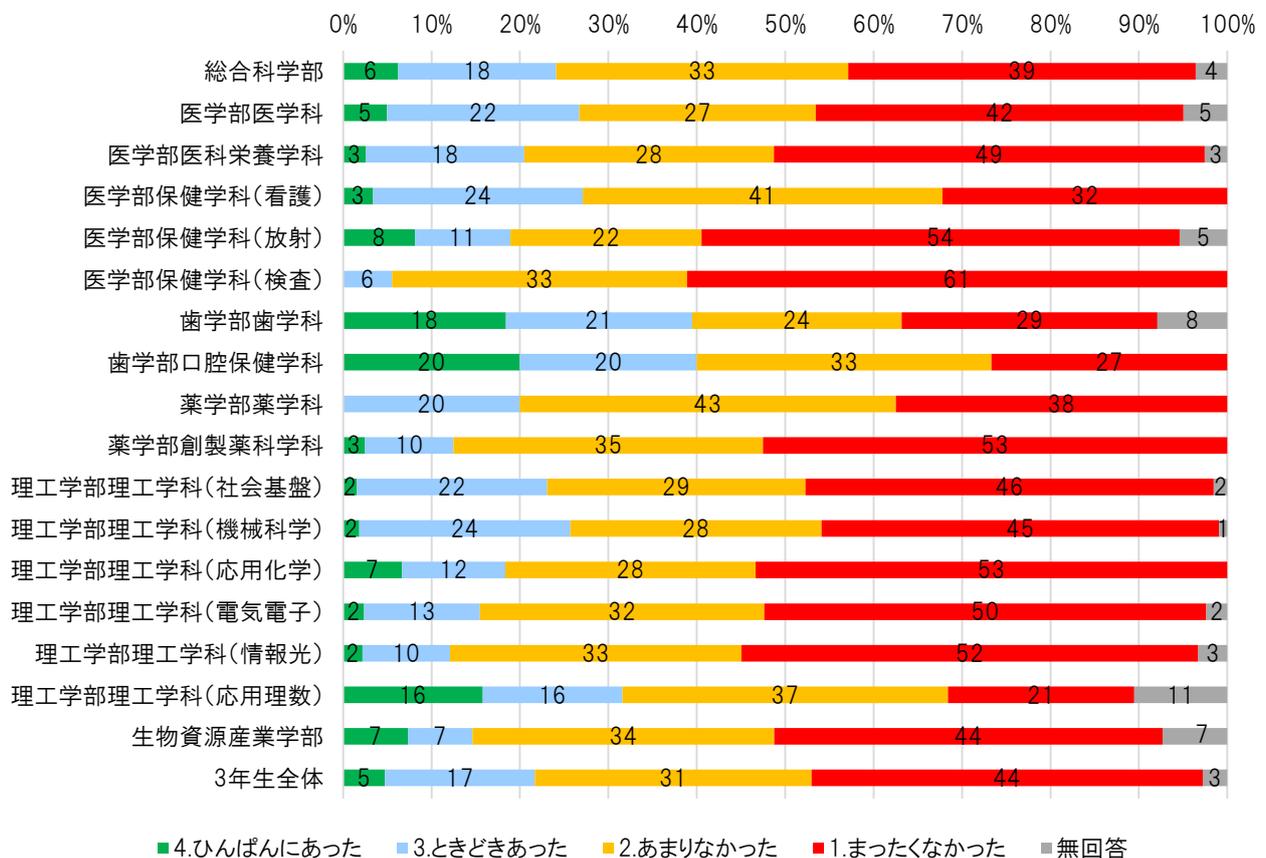
[29]授業中に居眠りをした



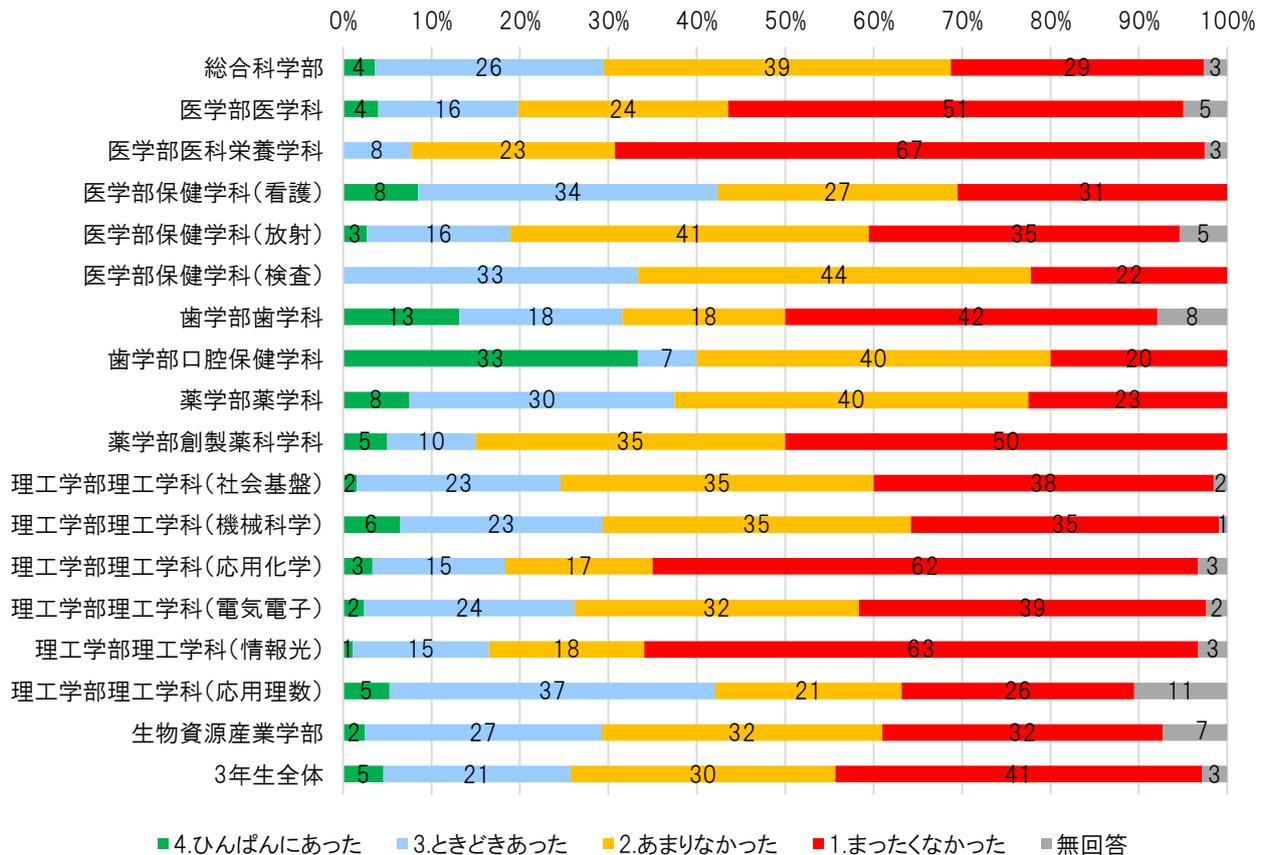
[30]教職員に学習に関する相談をしたり、学内の学習支援室を利用したりした



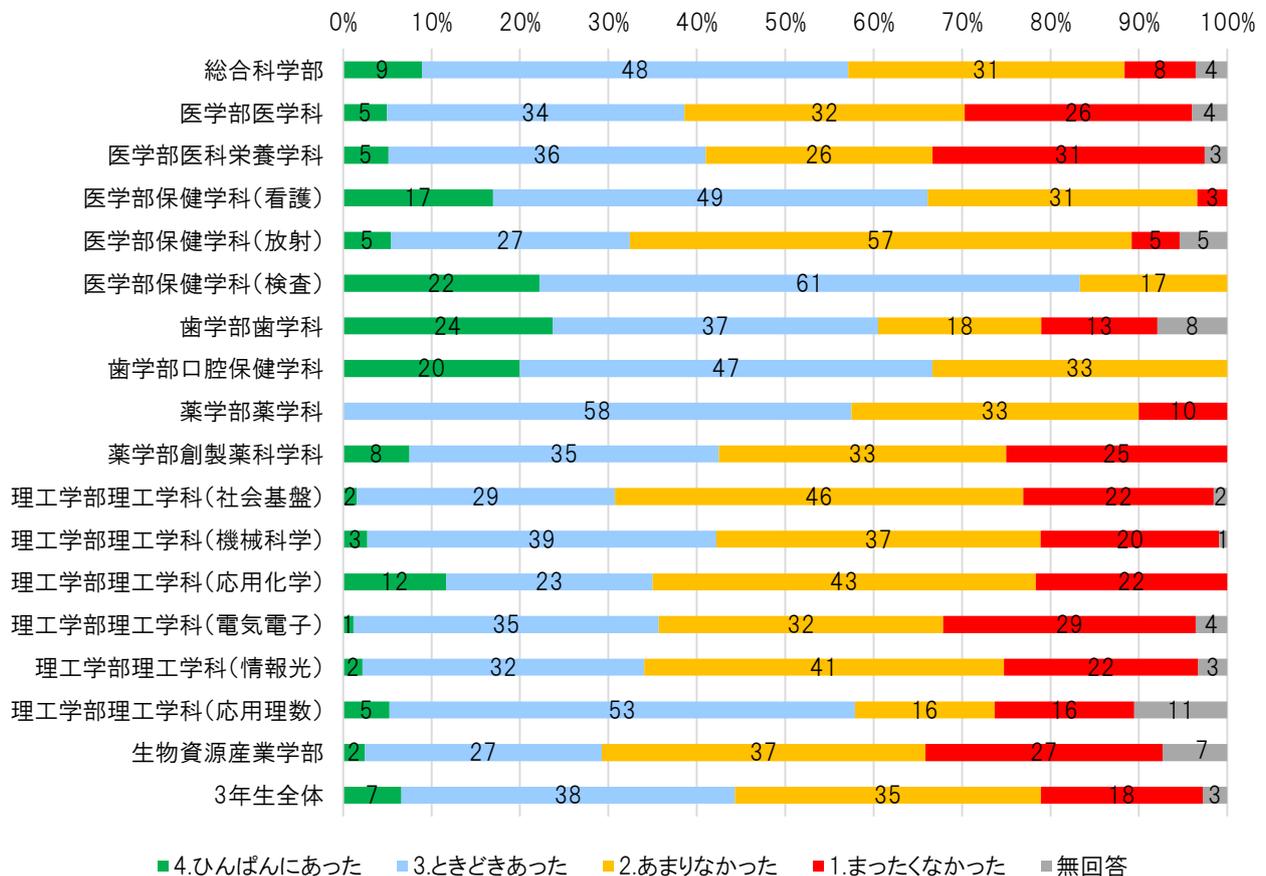
[31]単位とは関係のない教員あるいは学生による自主的な勉強会に参加した



[32]大学の教職員に将来のキャリアの相談をした(卒業後の進路や職業選択など)

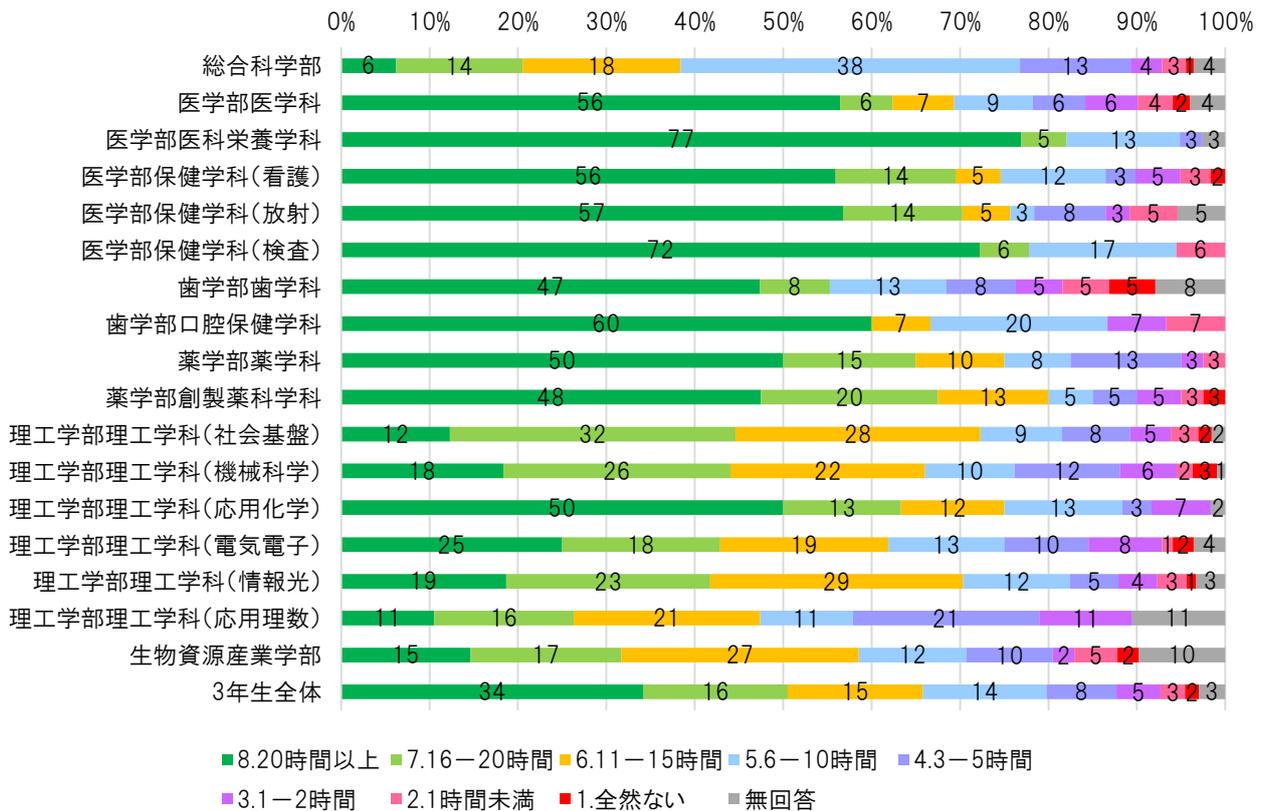


[33]教員に親近感を感じた

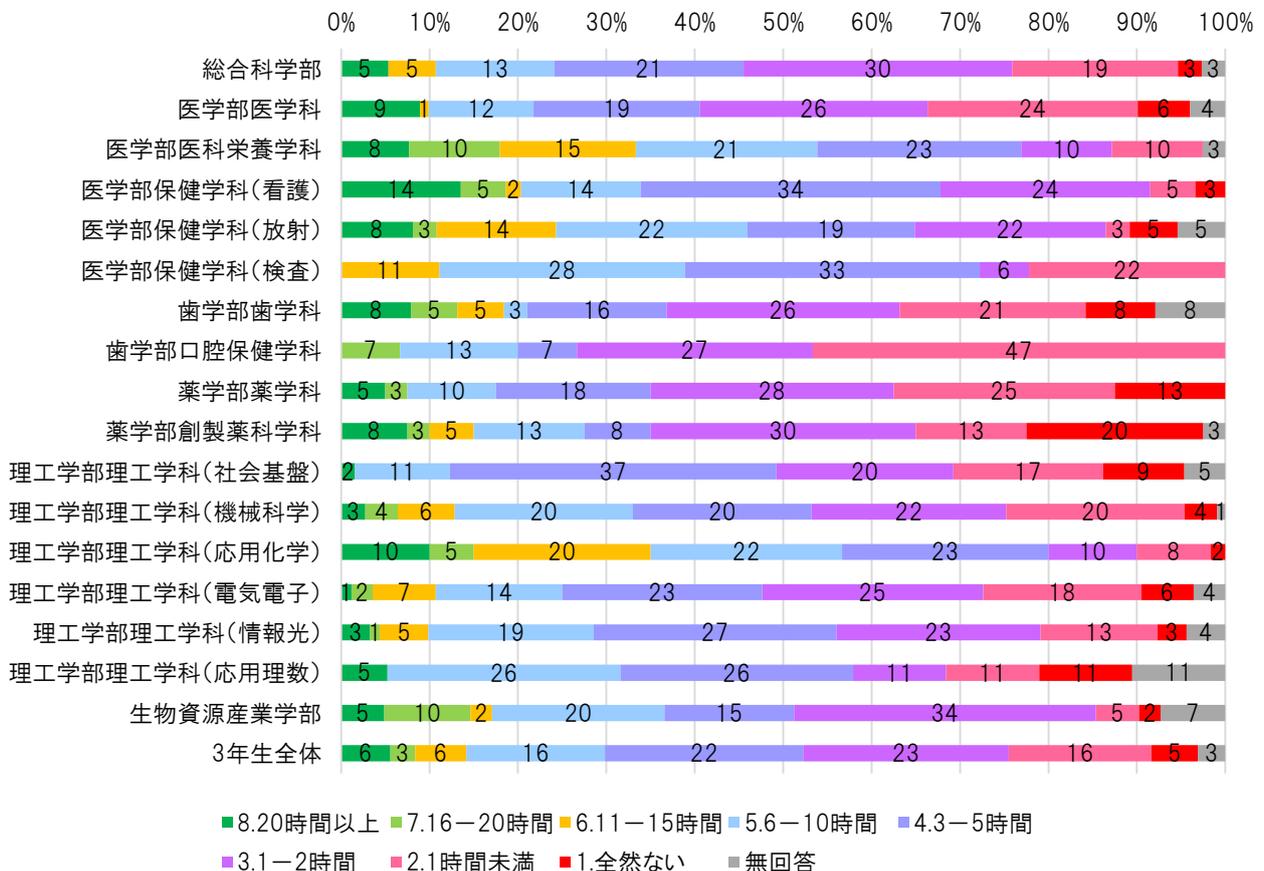


入学以来、あなたは次の活動に 1週間あたり どのくらいの時間を費やしましたか。

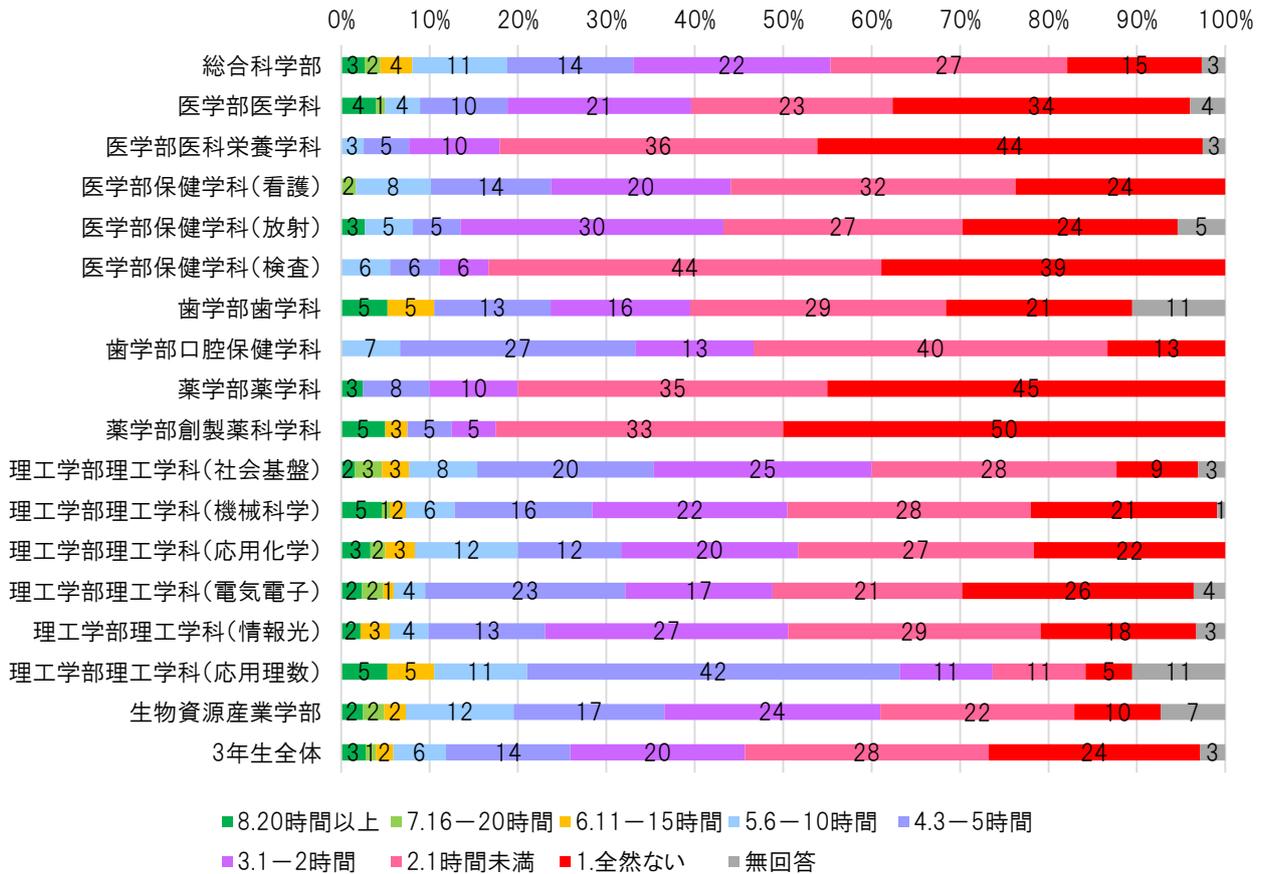
[34] 授業や実験に出る



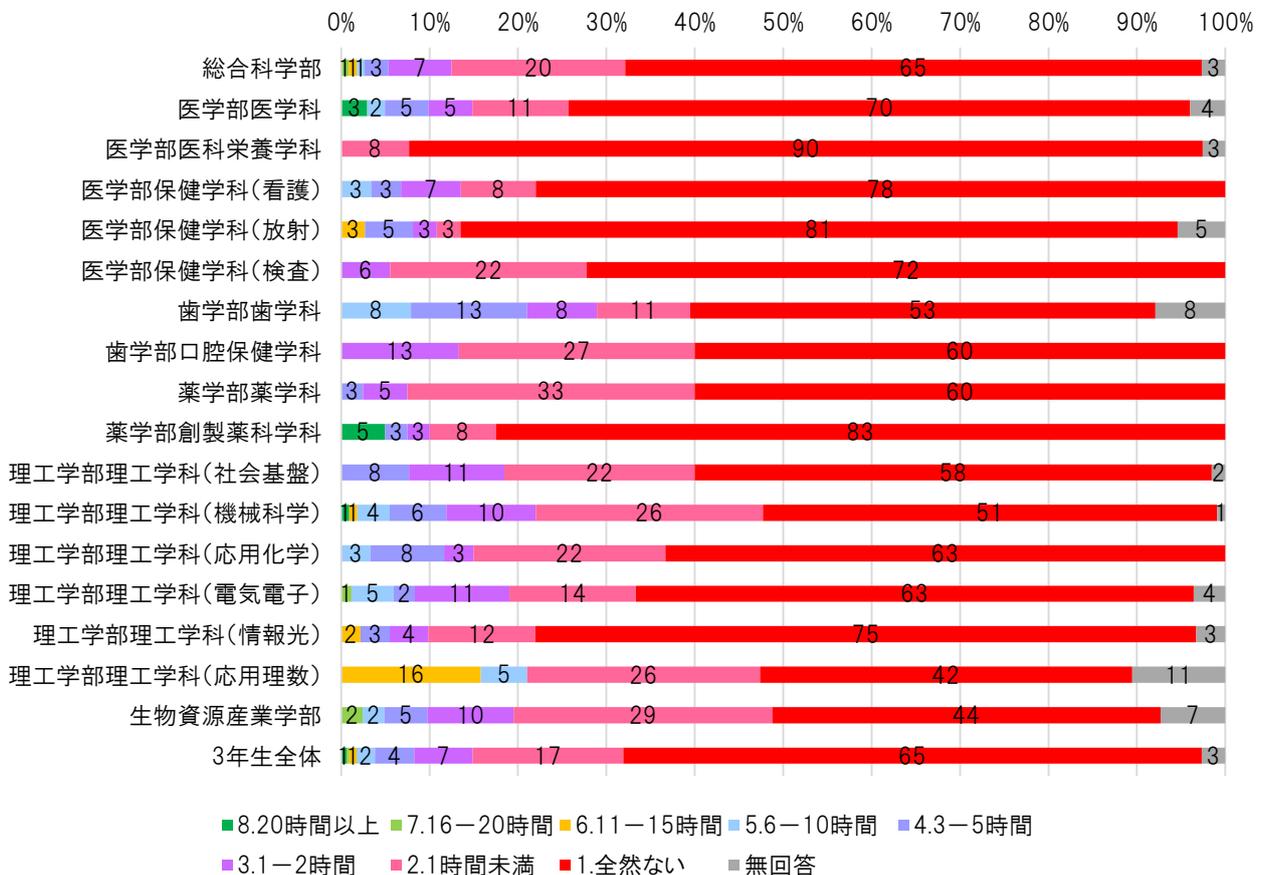
[35] 授業時間外に、授業課題や準備学習、復習をする



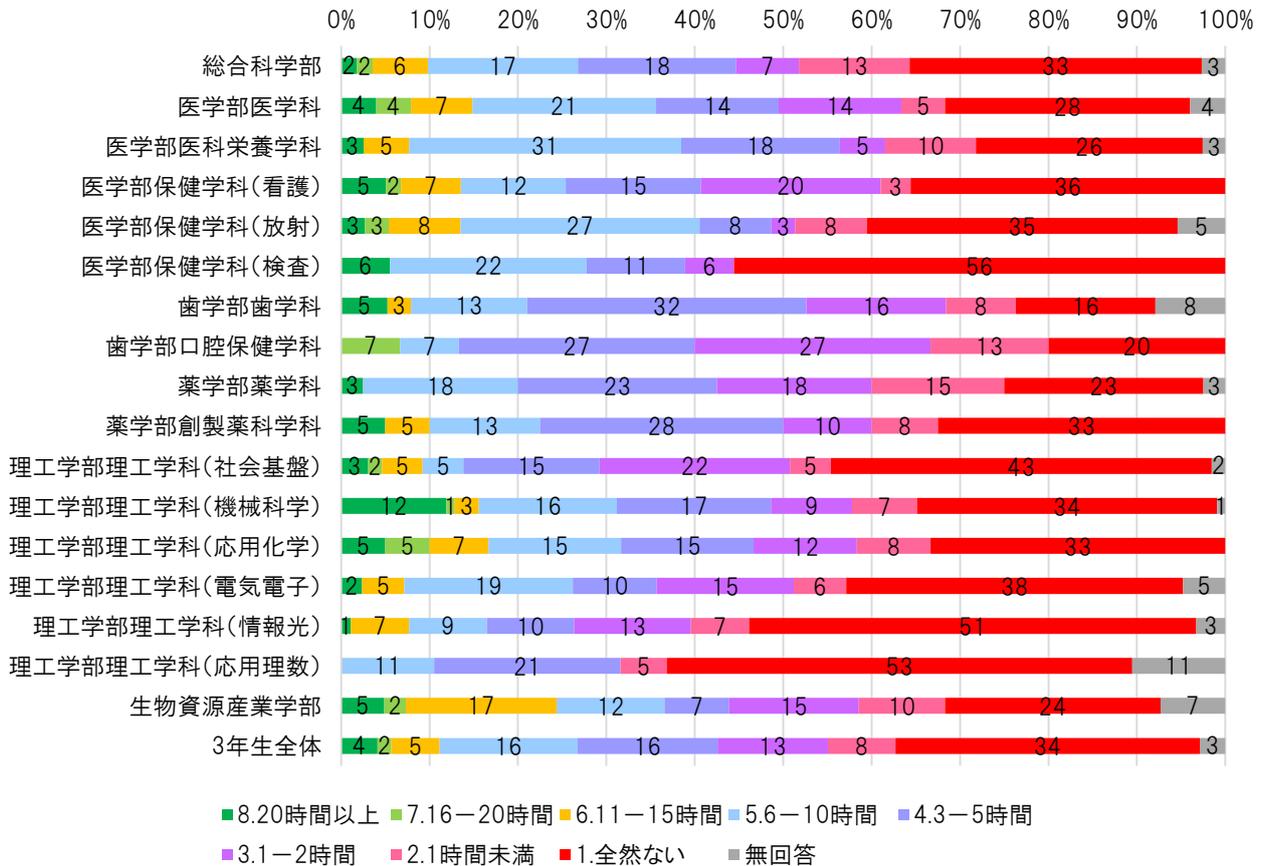
[36]授業時間外に、授業に関連しない勉強をする



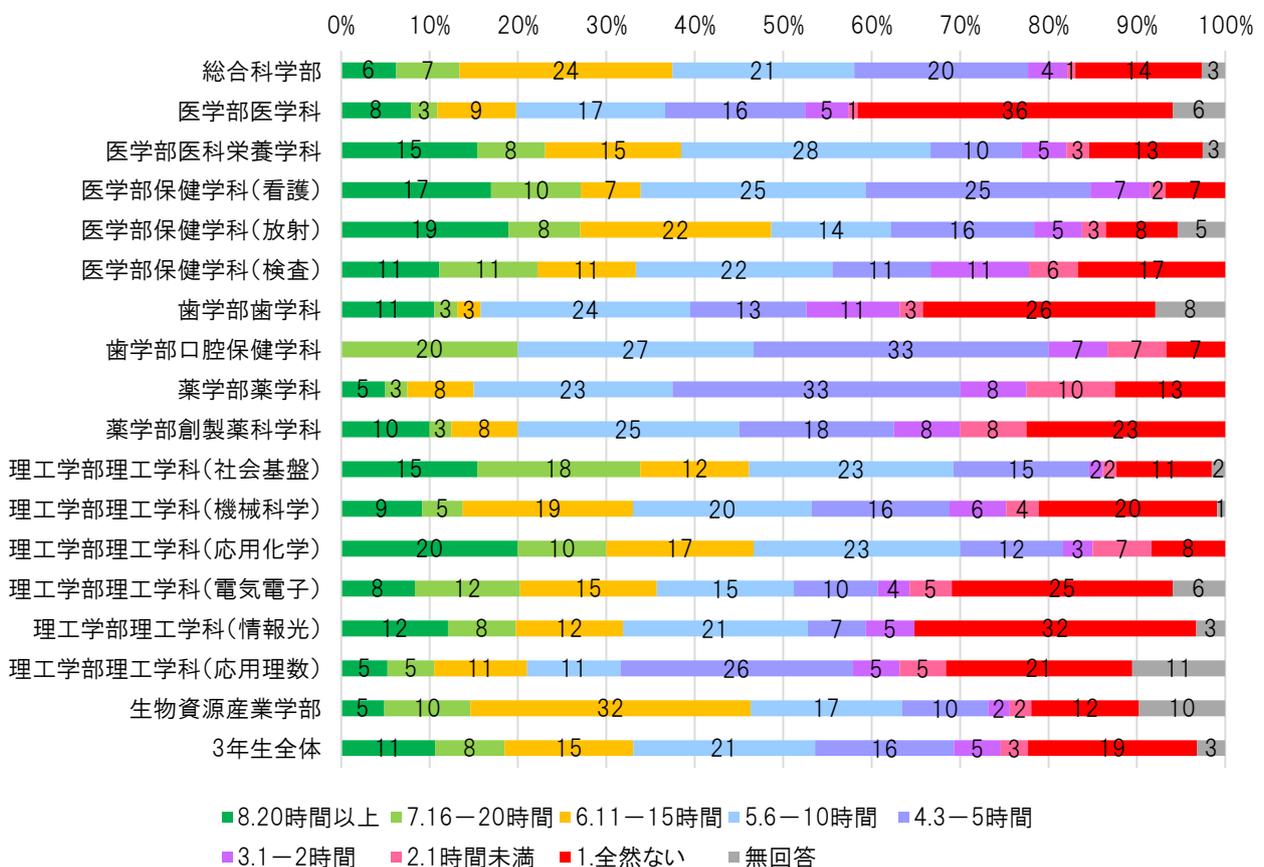
[37]オフィスアワーなど、授業時間外に教員と面談する



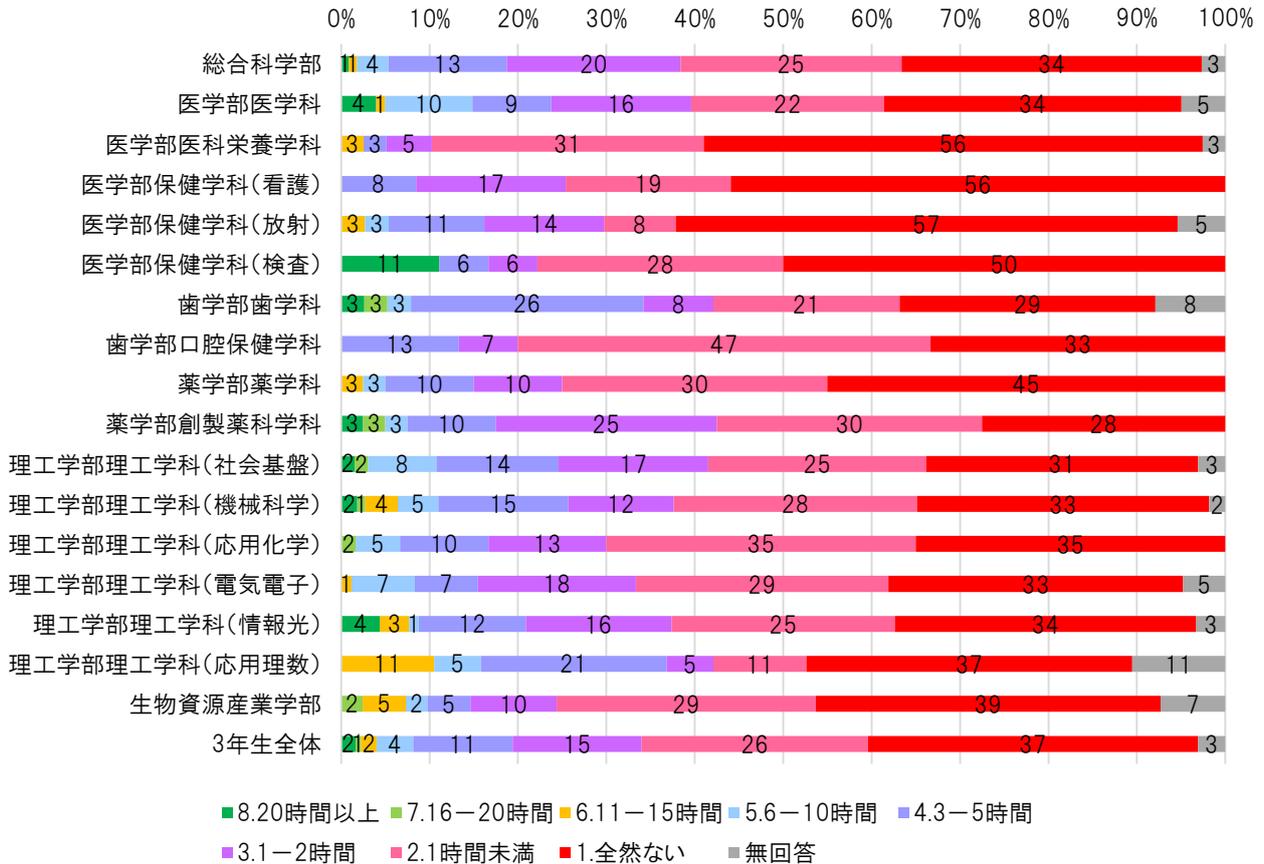
[38]部活動や同好会に参加する



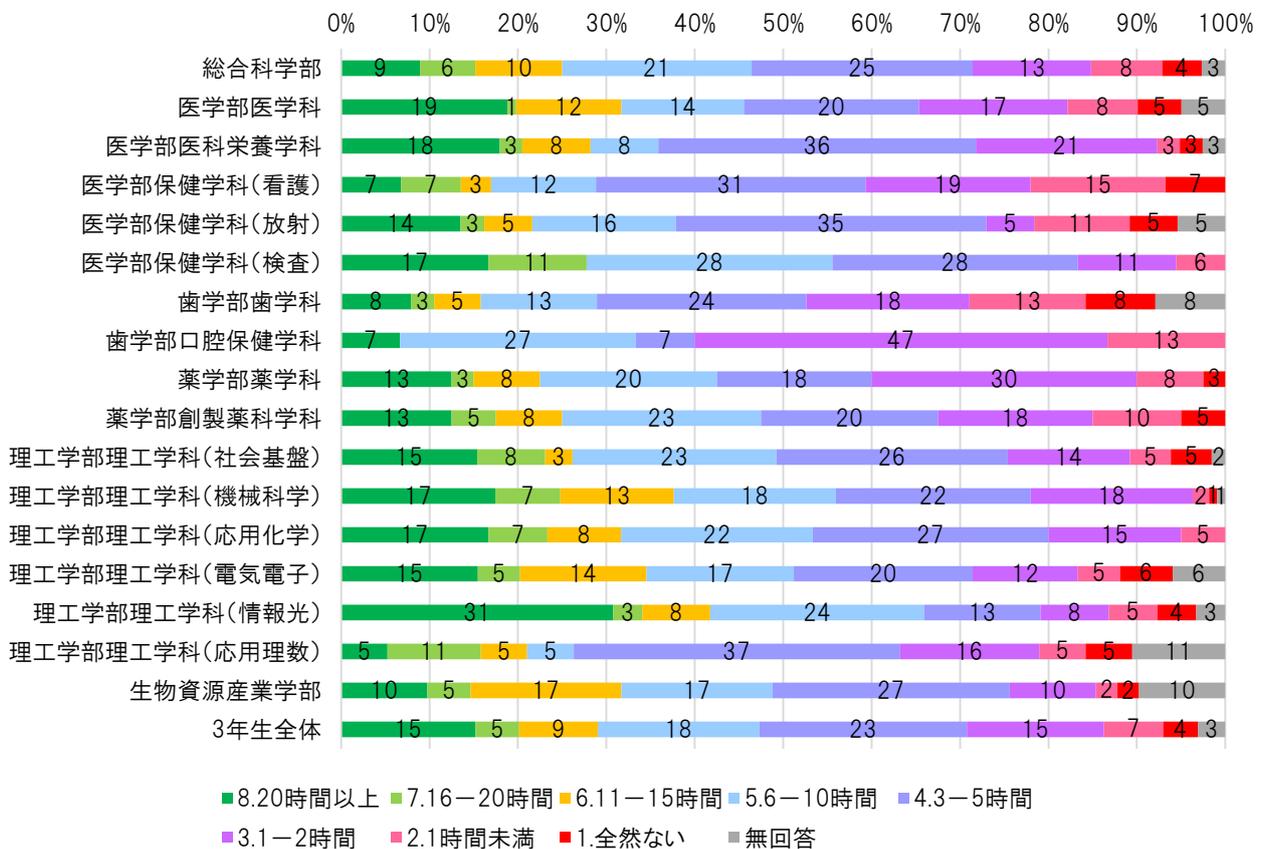
[39]大学外でアルバイトや仕事をする



[40]読書をする(マンガ・雑誌を除く)

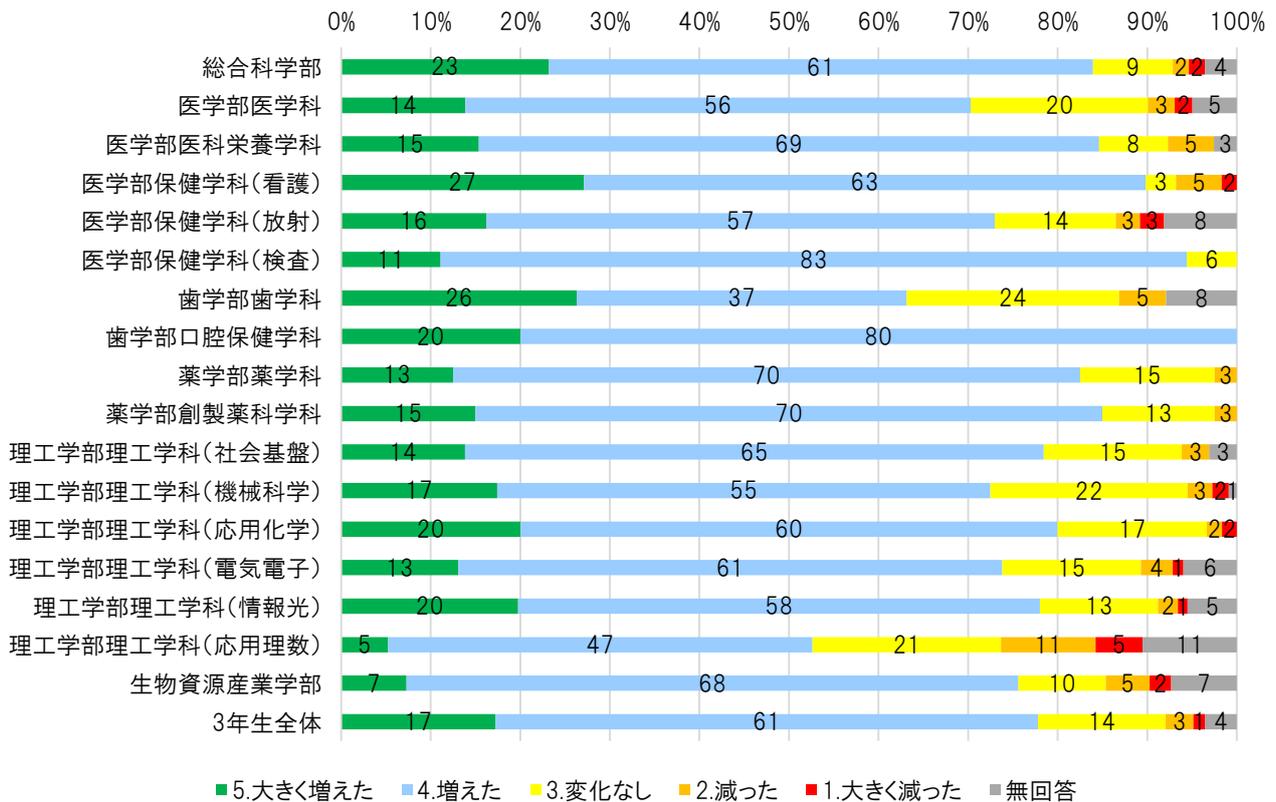


[41]個人的な趣味活動をする(テレビやゲーム、映画鑑賞など)

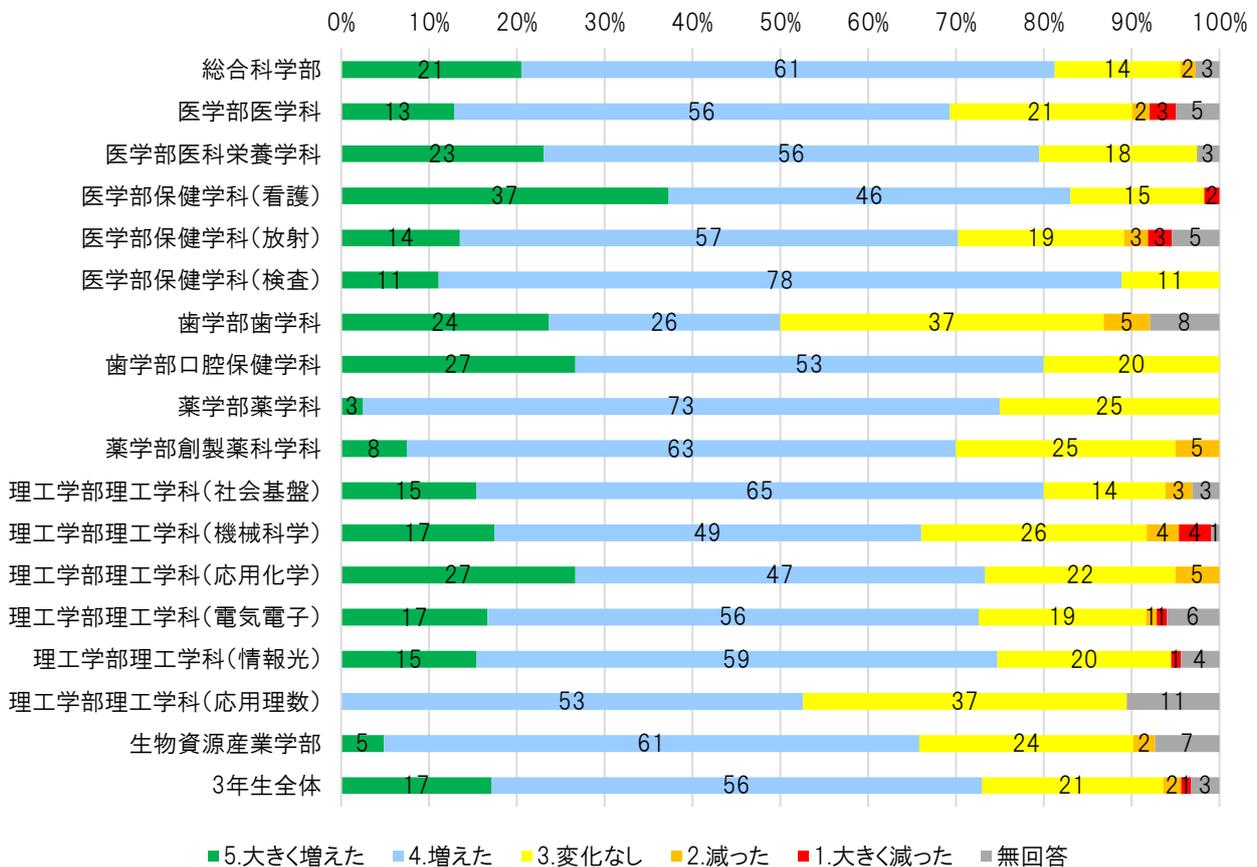


入学した時点と比べて、あなたの能力や知識はどのように変化しましたか。

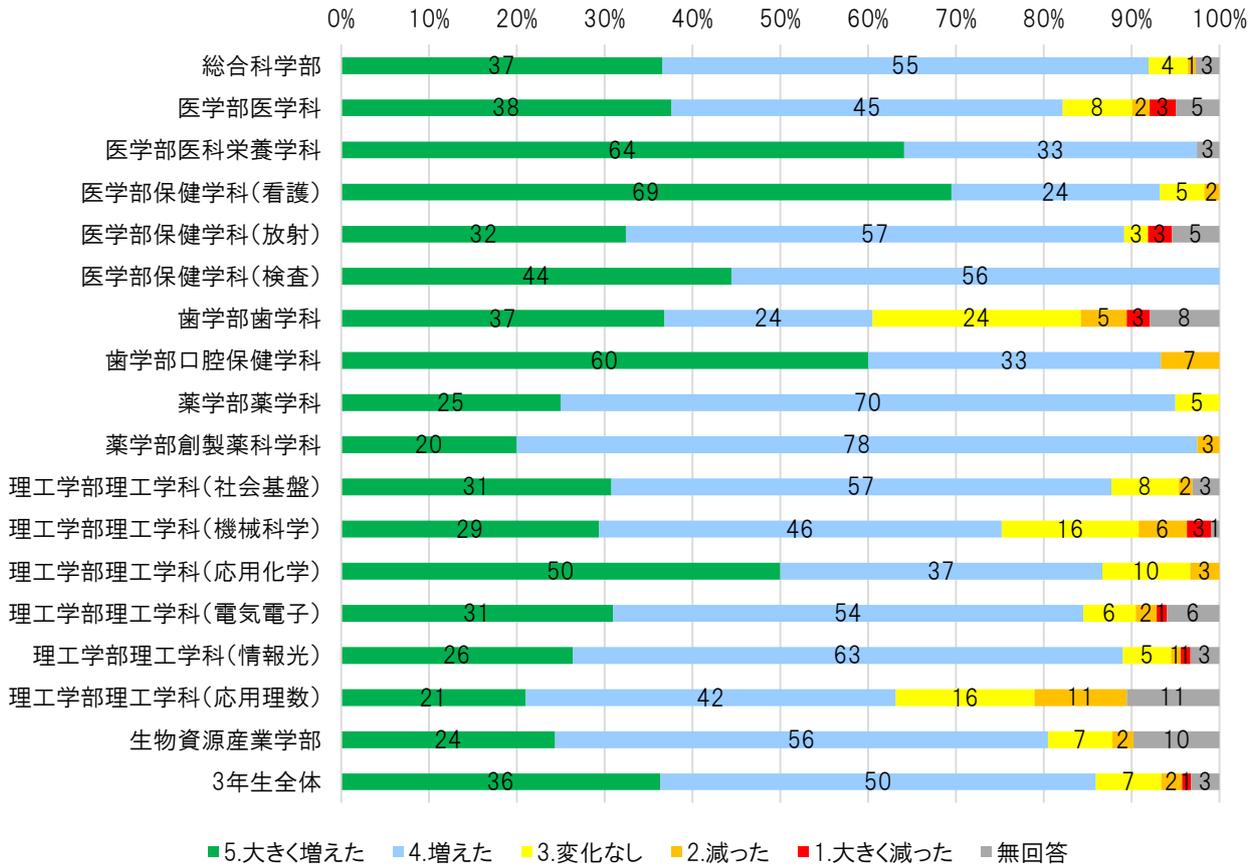
[42]一般的な教養



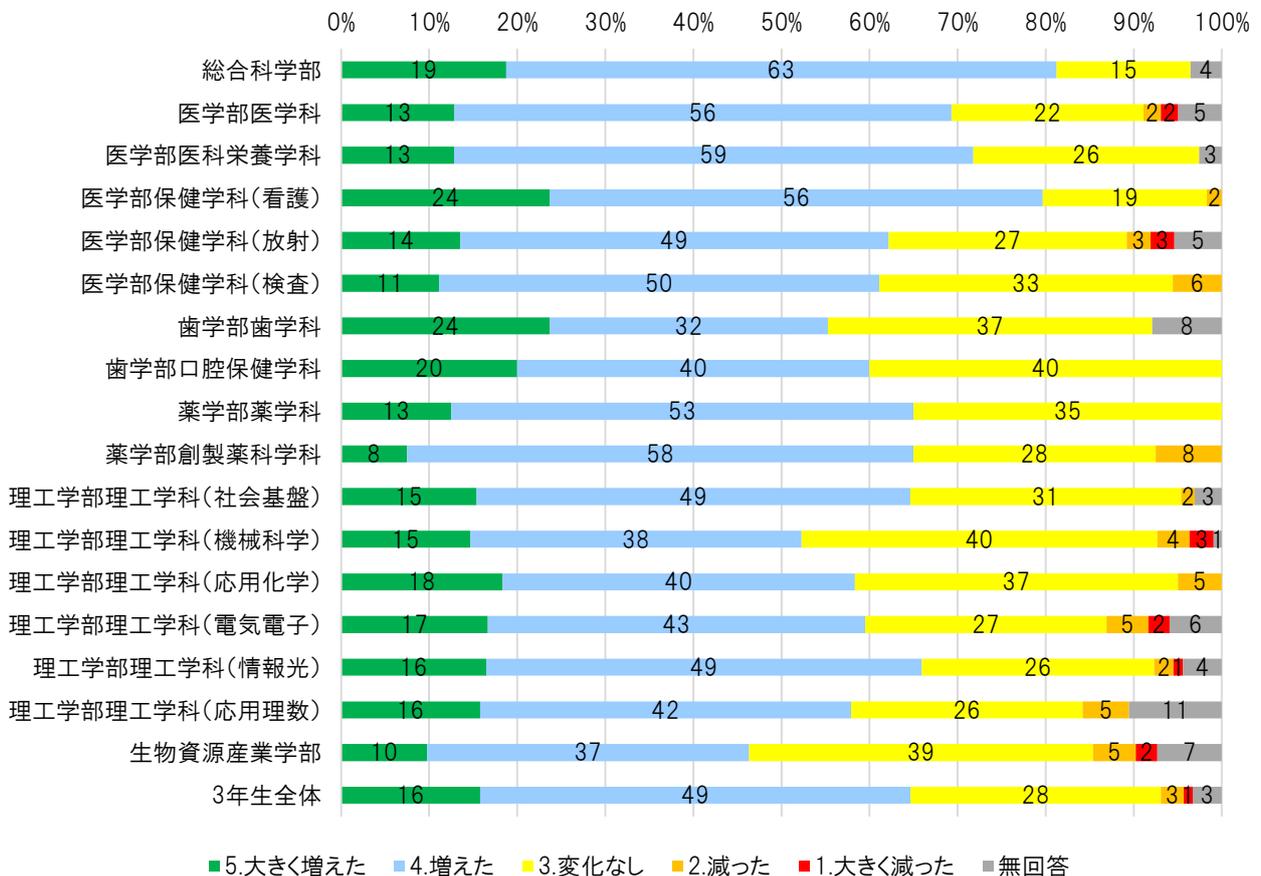
[43]分析力や問題解決能力



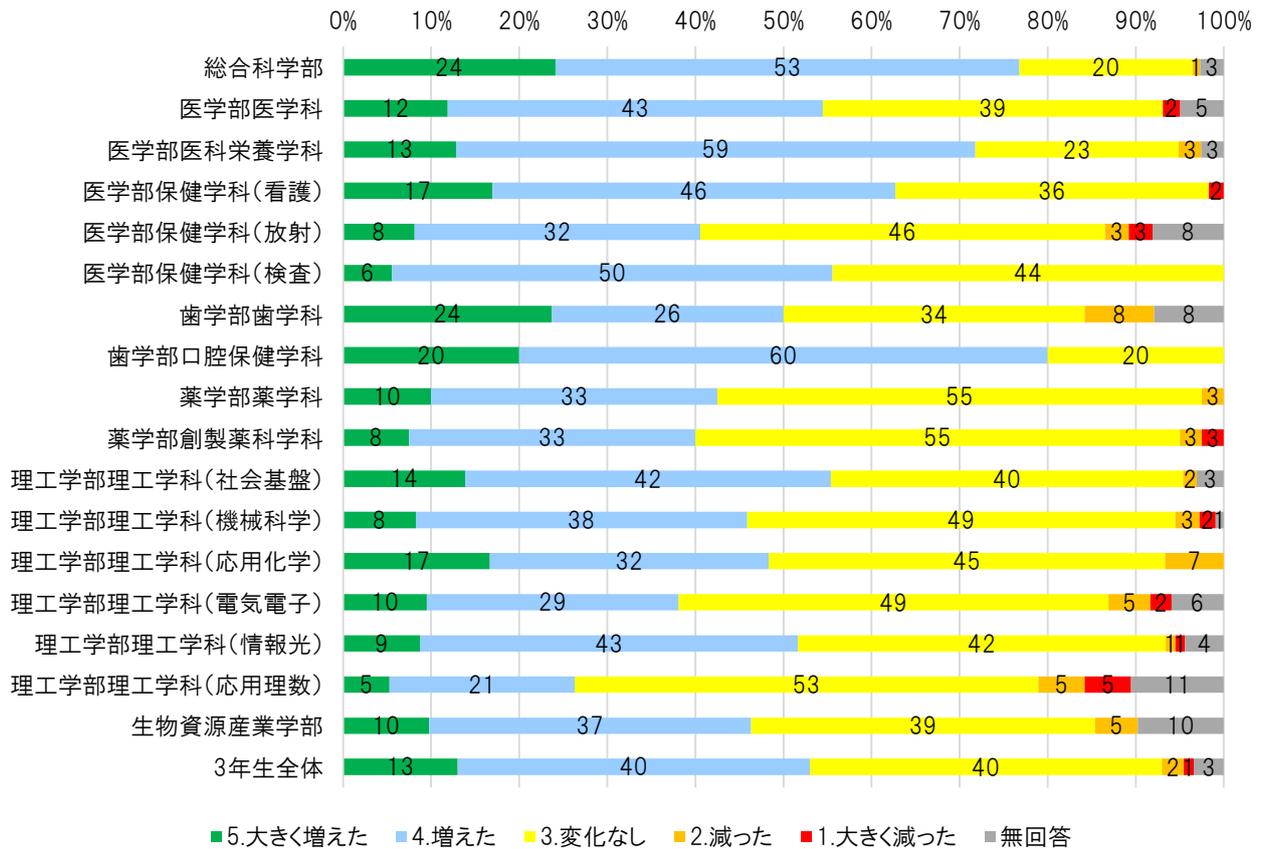
[44] 専門分野や学科の知識



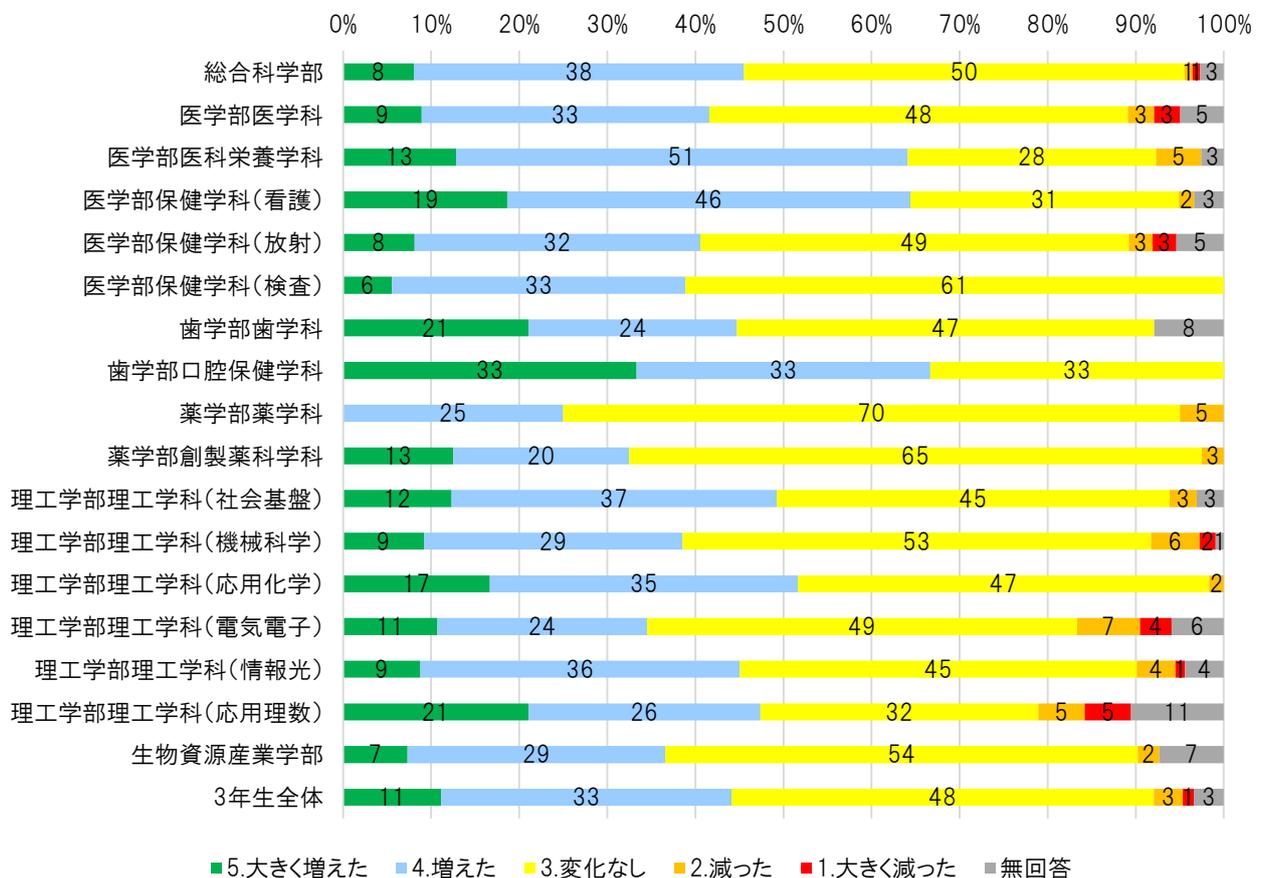
[45] 批判的に考える能力



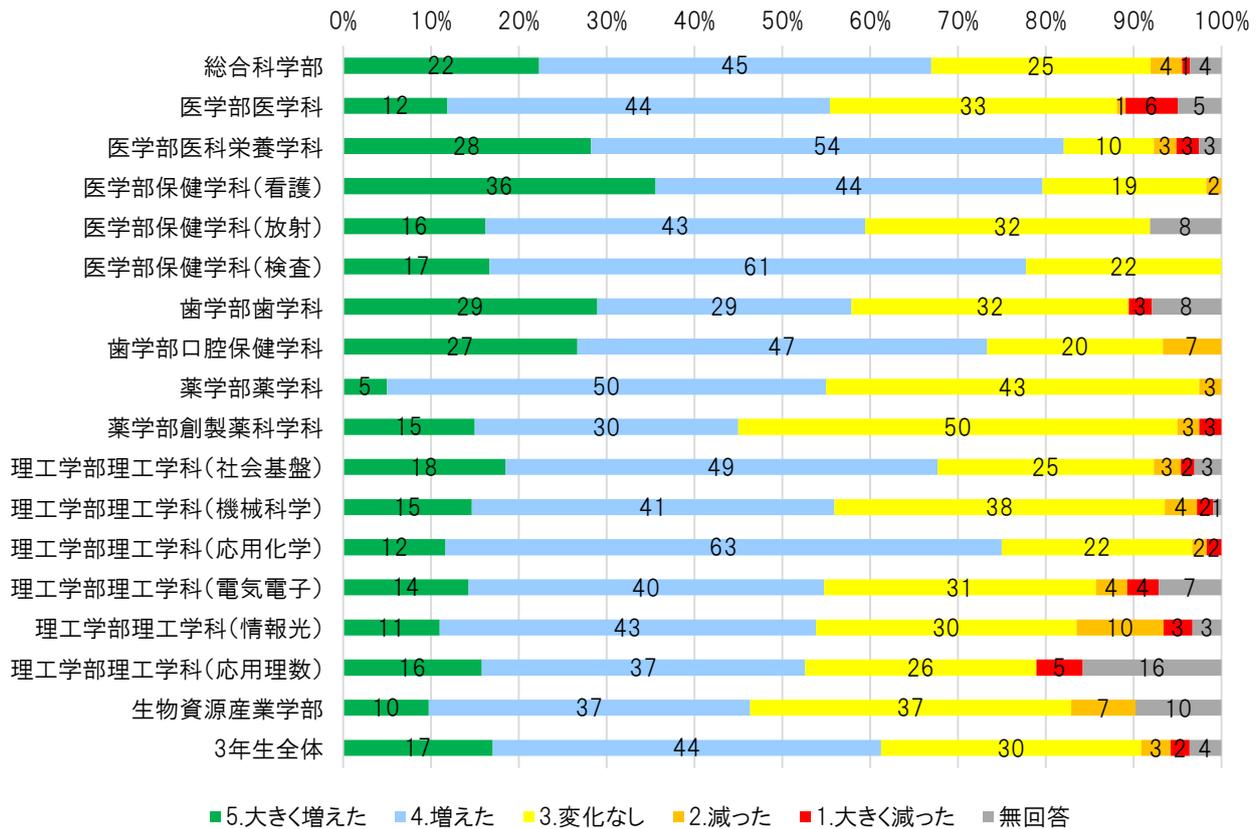
[46]異文化の人々に関する知識



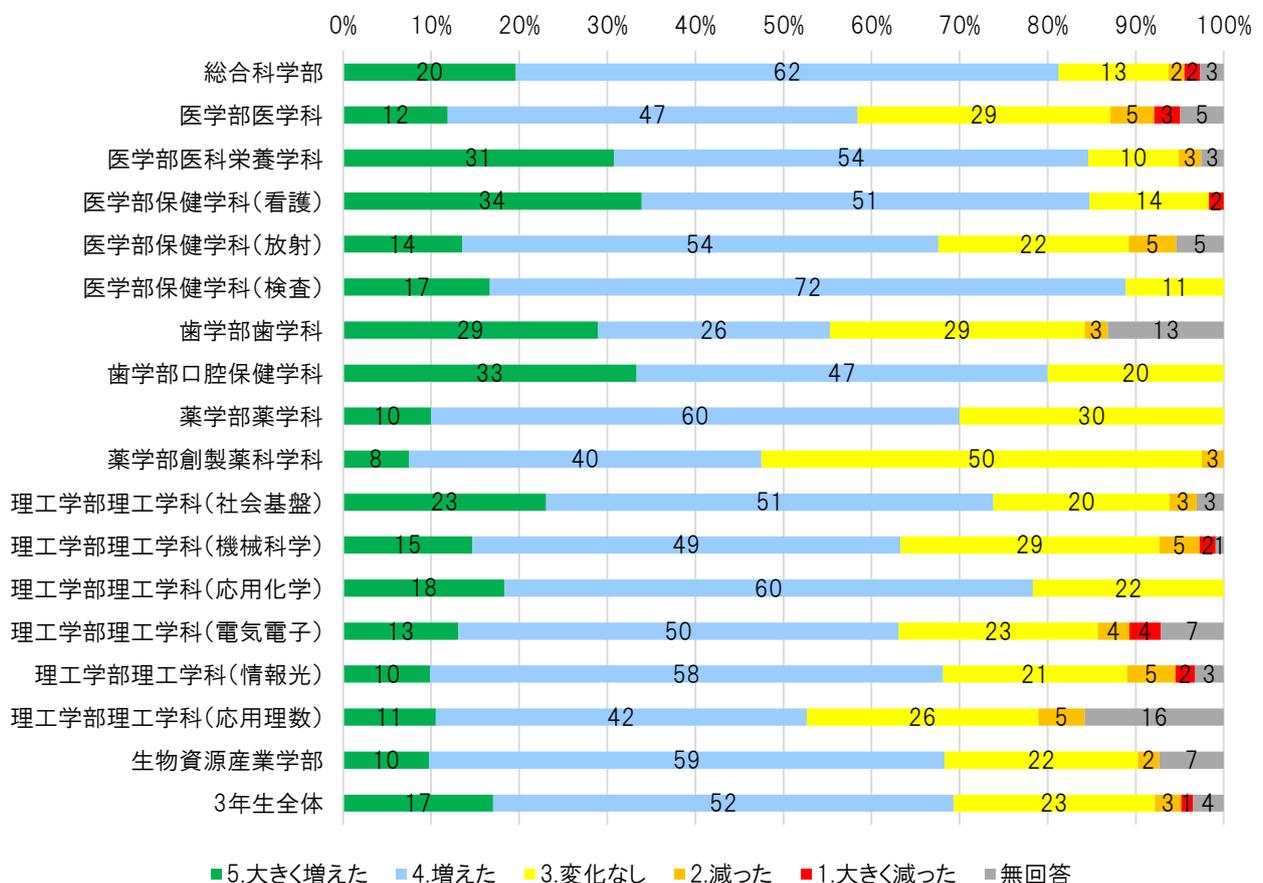
[47]リーダーシップの能力



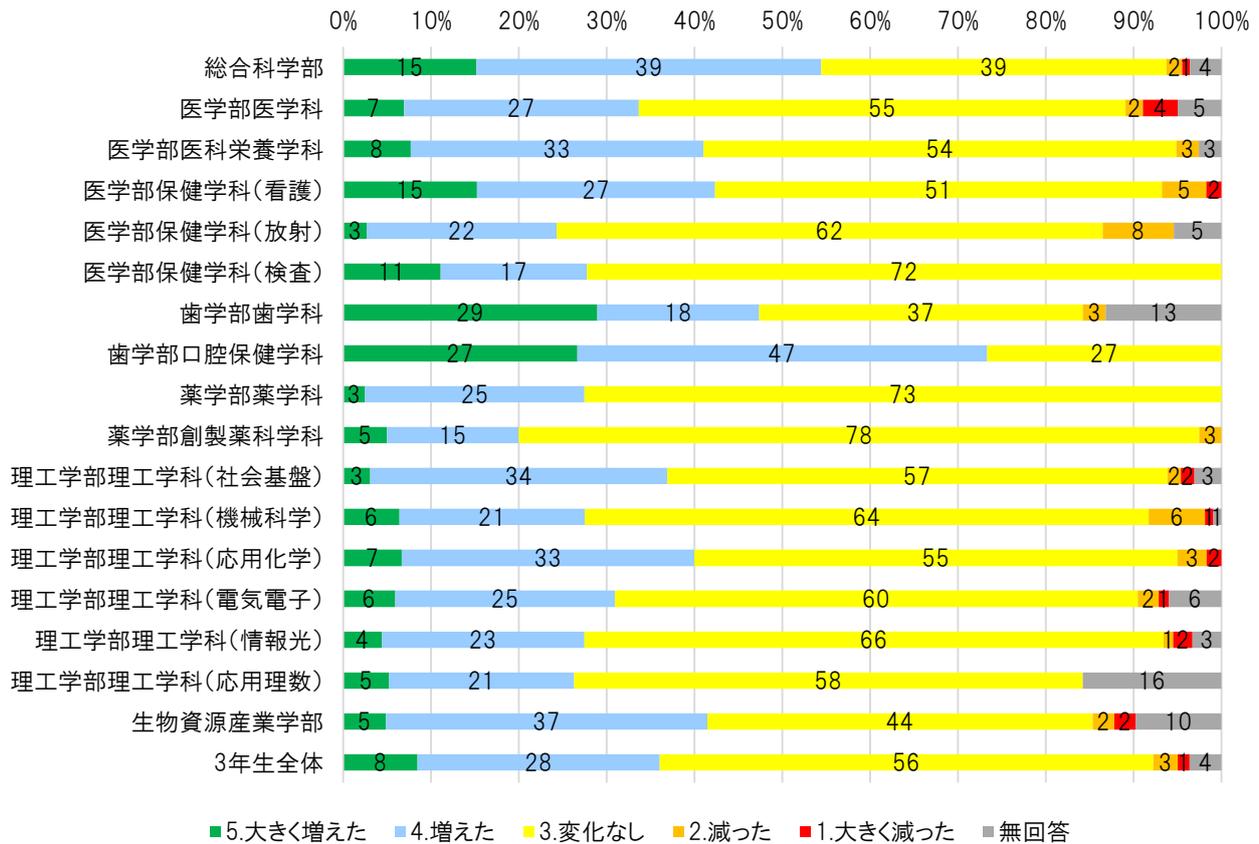
[48]人間関係を構築する能力



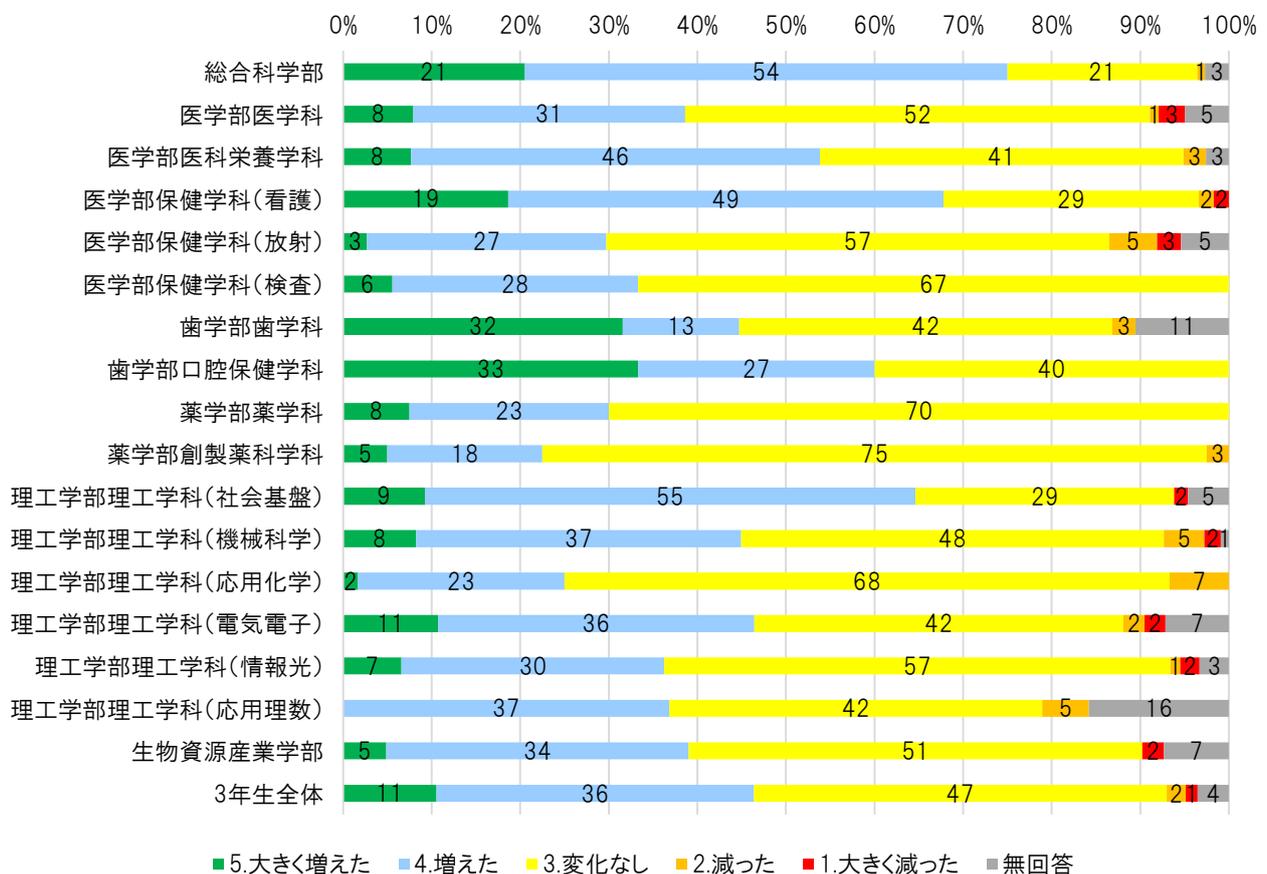
[49]他の人と協力して物事を遂行する能力



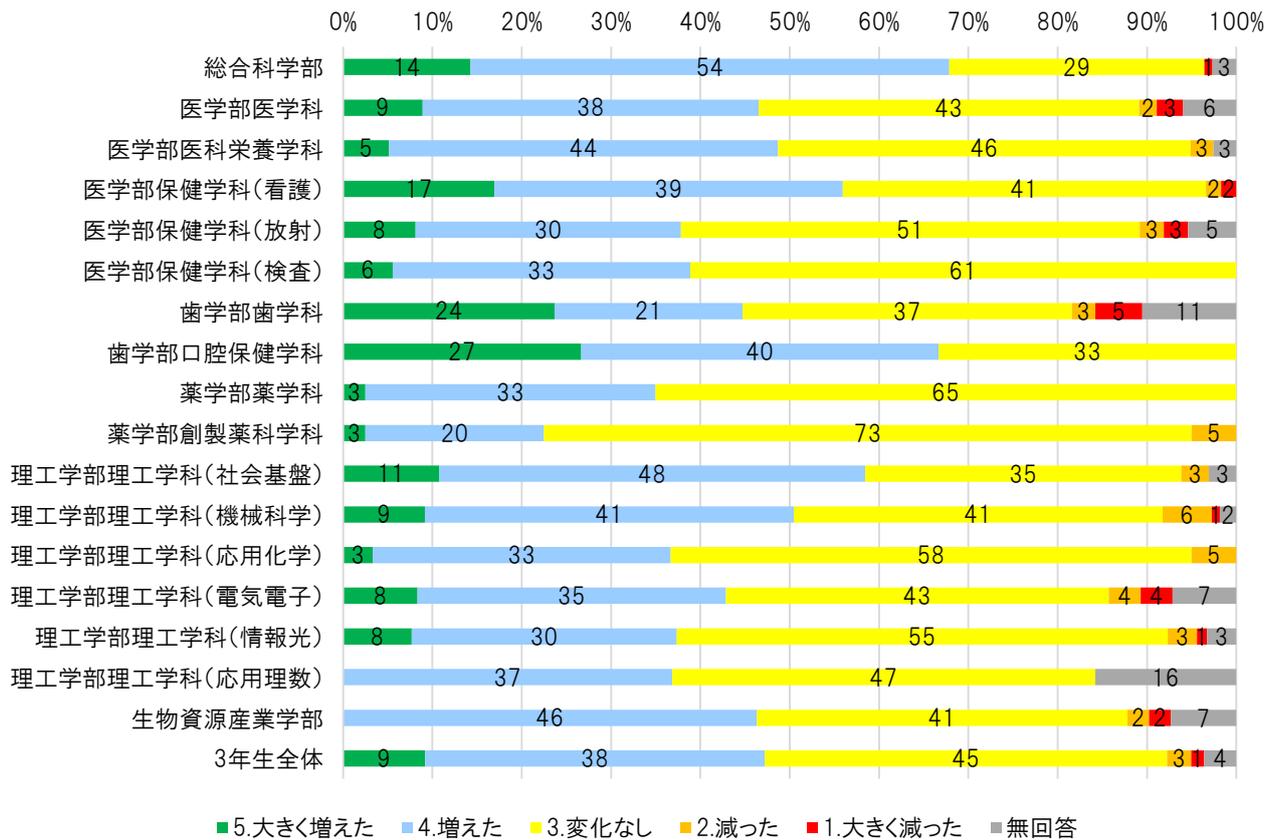
[50]異文化の人々と協力する能力



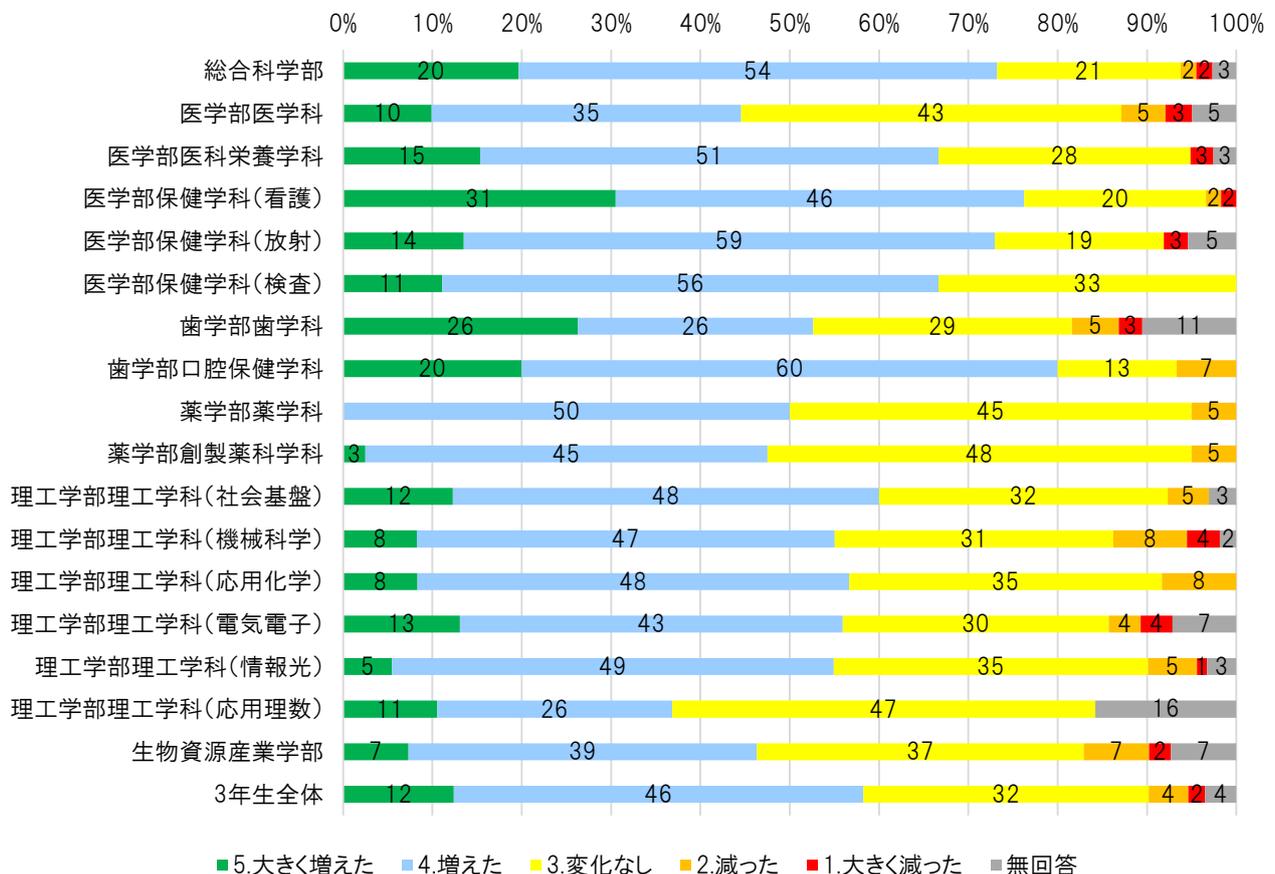
[51]地域社会が直面する問題を理解する能力



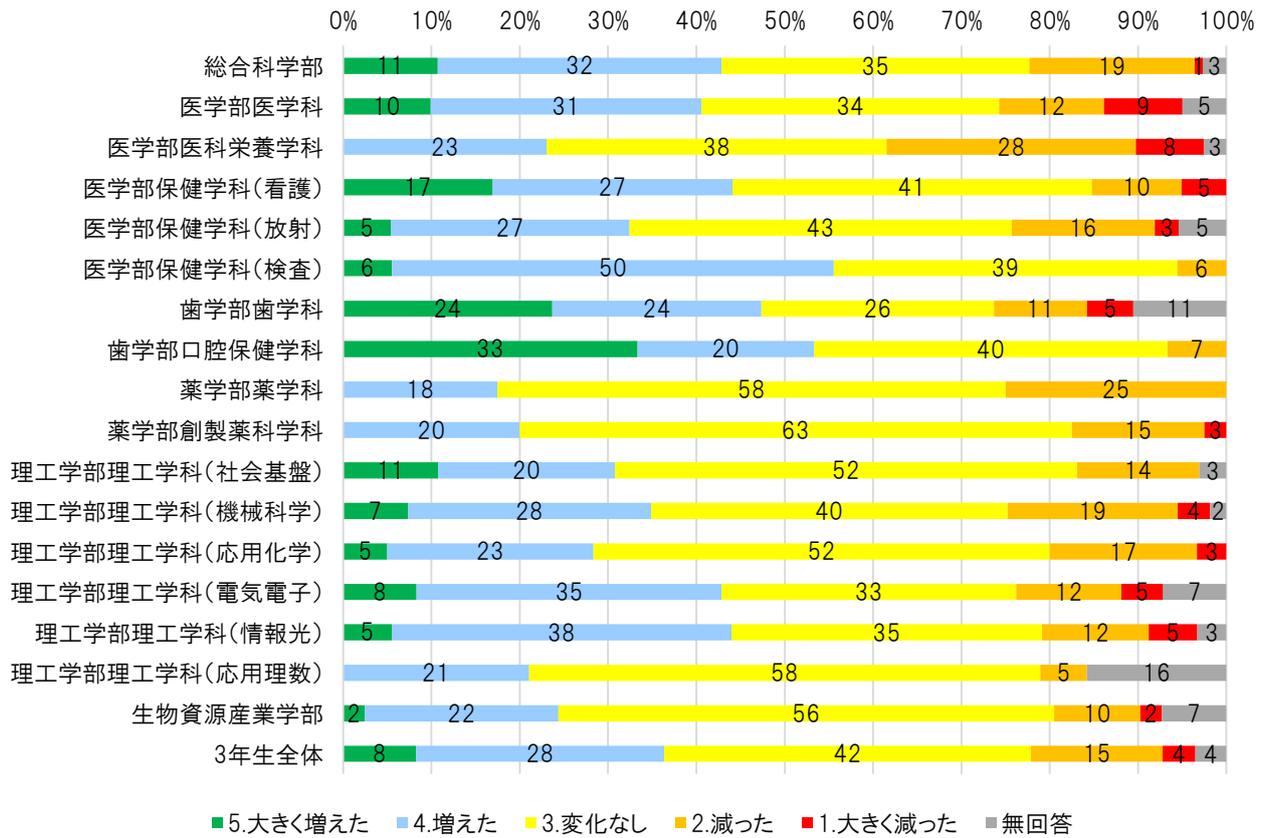
[52]国民が直面する問題を理解する能力



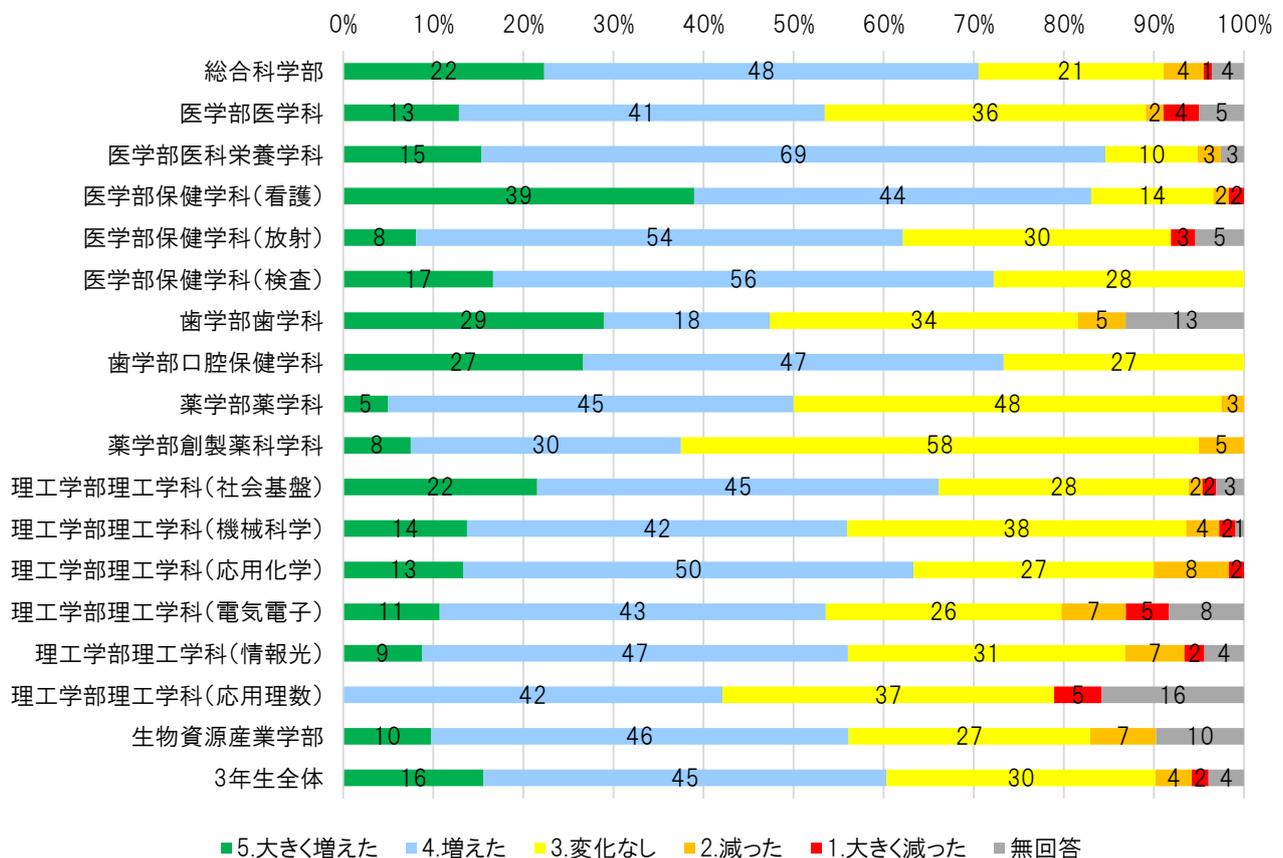
[53]文章表現の能力



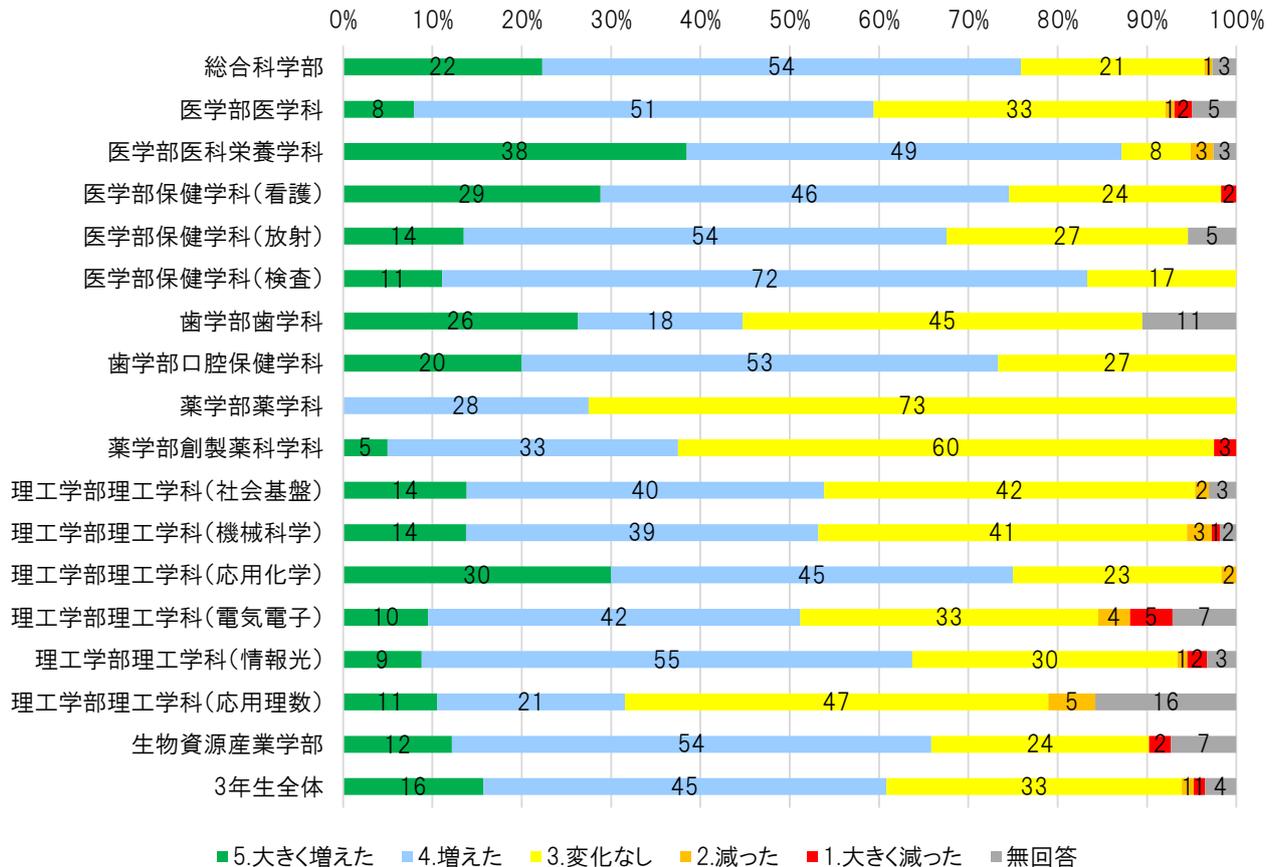
[54]外国語の運用能力



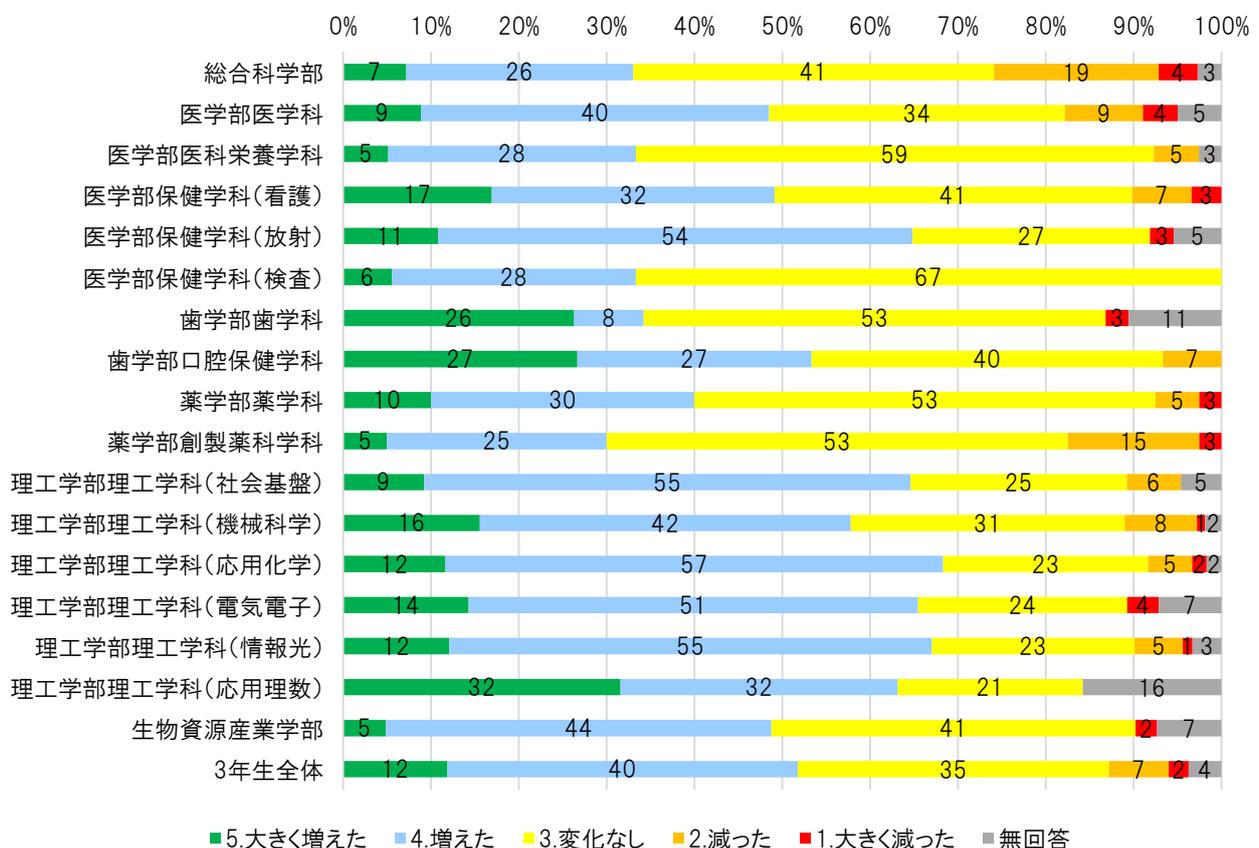
[55]コミュニケーションの能力



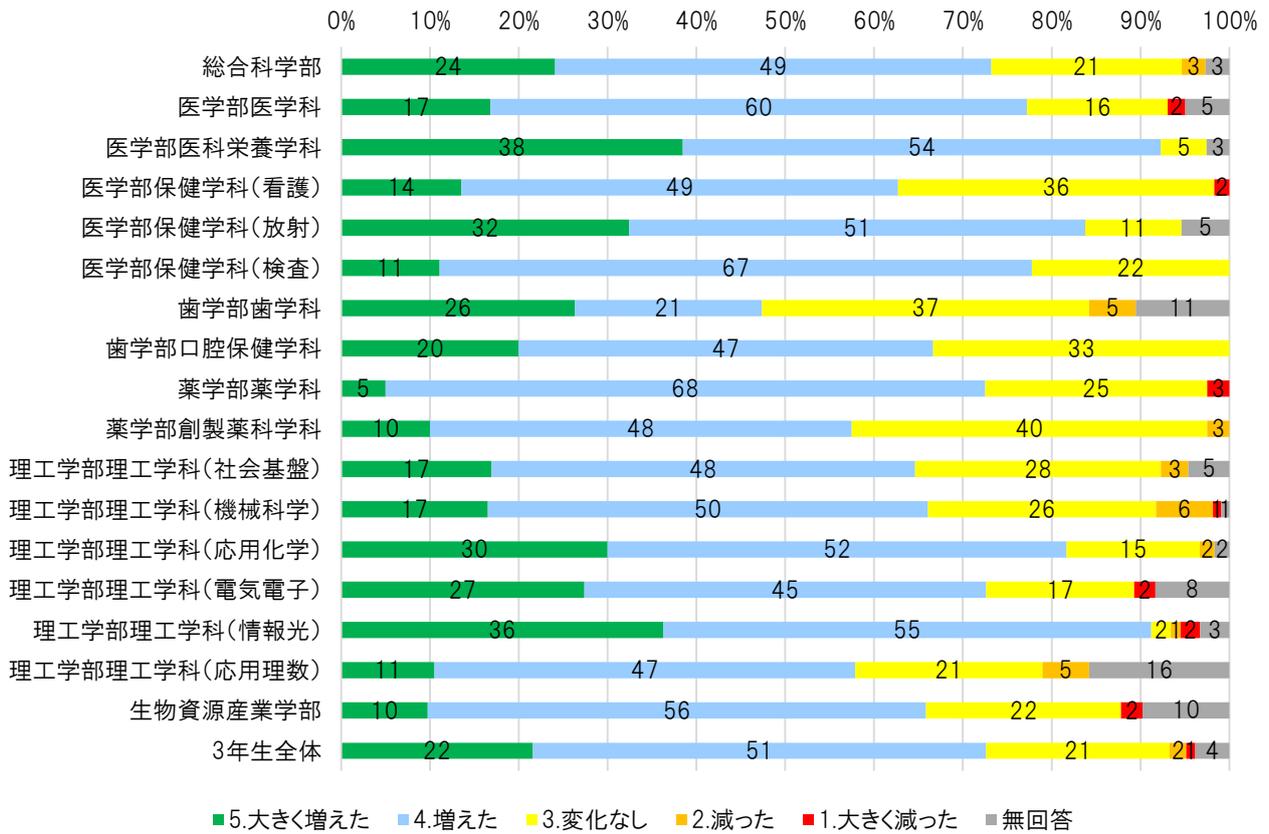
[56]プレゼンテーションの能力



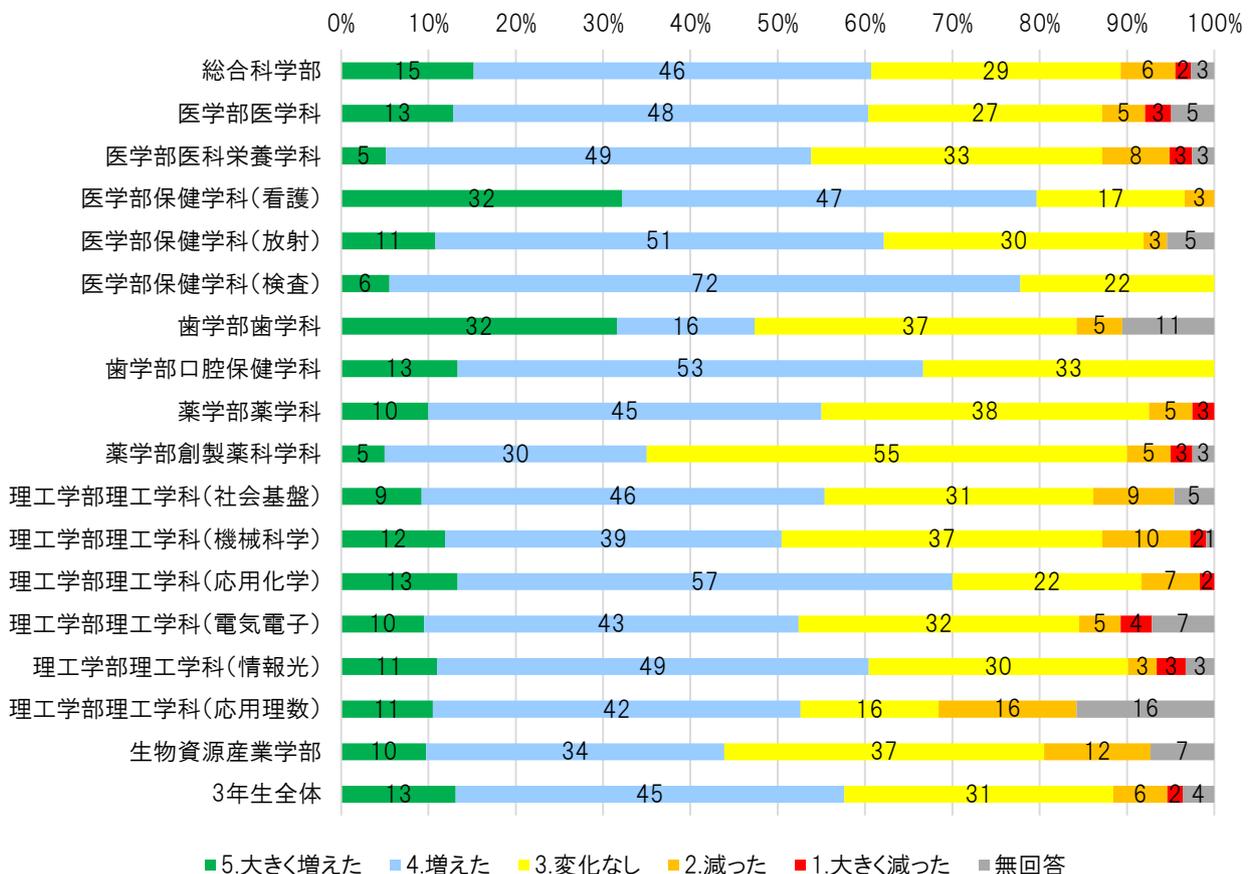
[57]数理的な能力



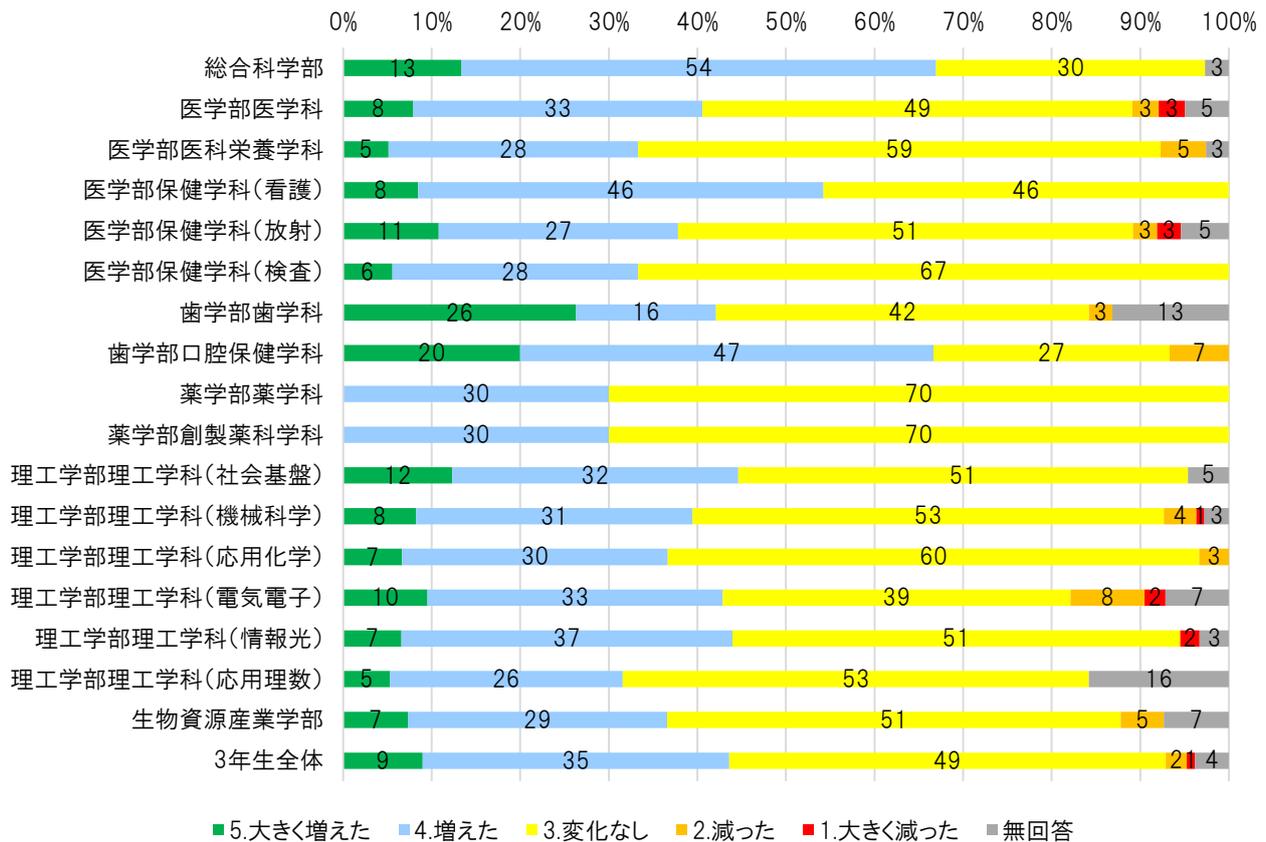
[58] コンピュータの操作能力



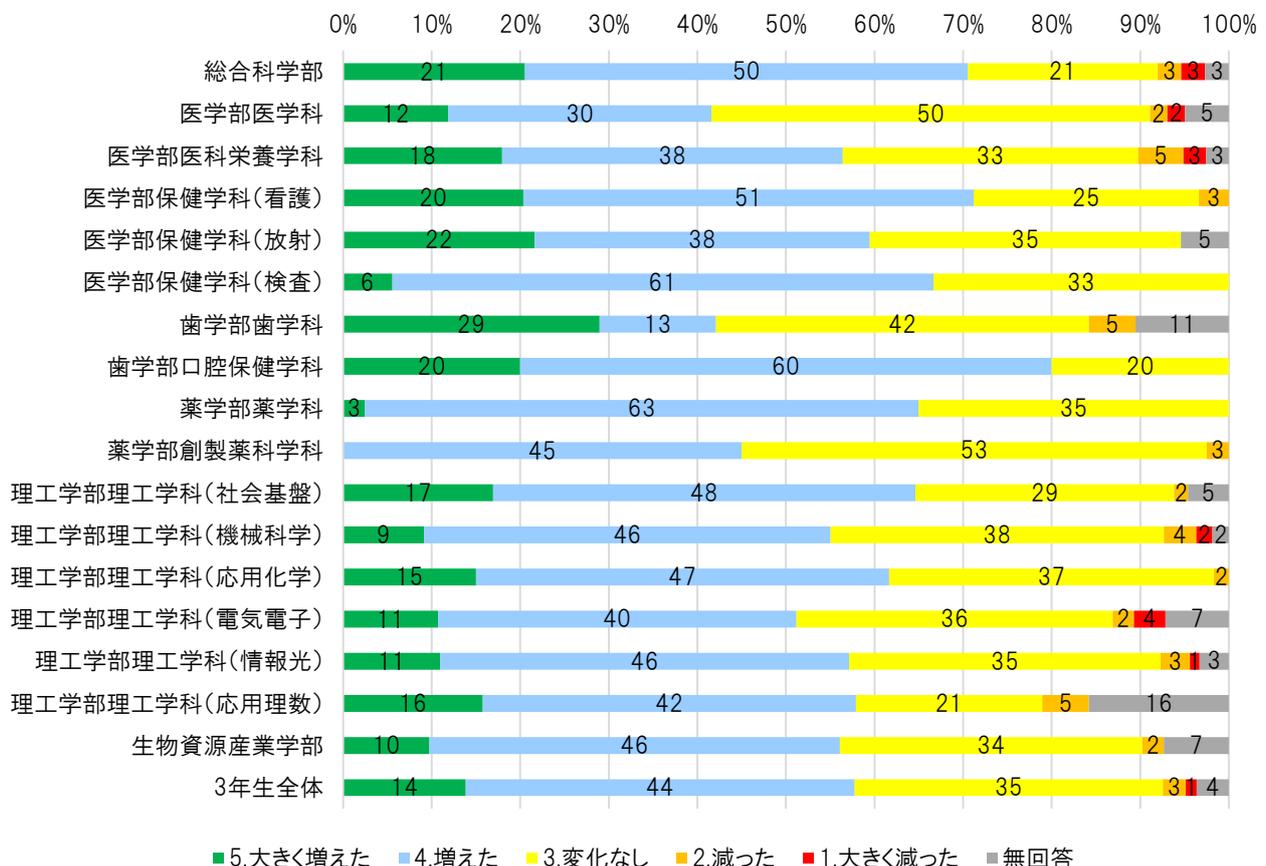
[59] 時間を効果的に利用する能力



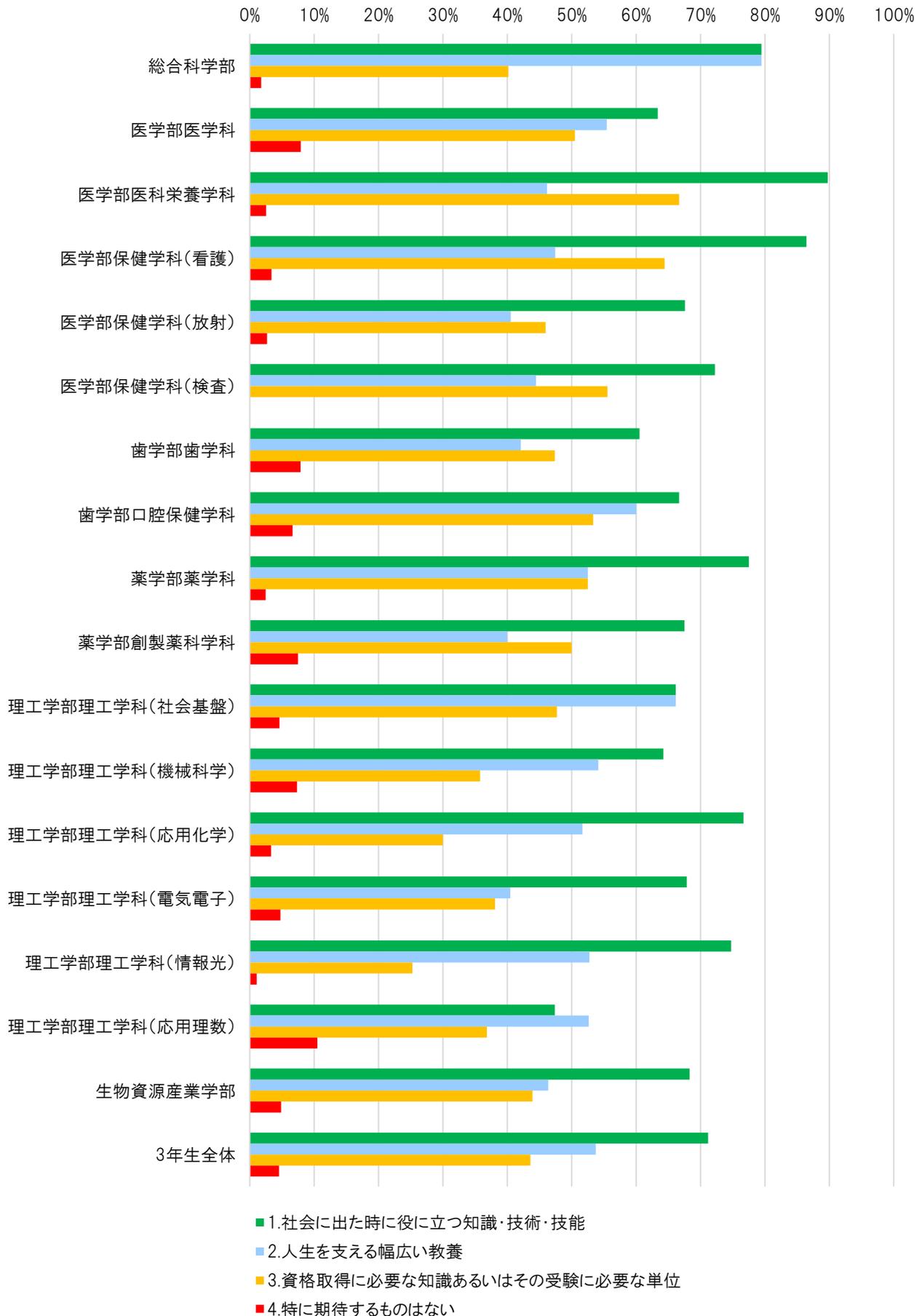
[60]グローバルな問題の理解



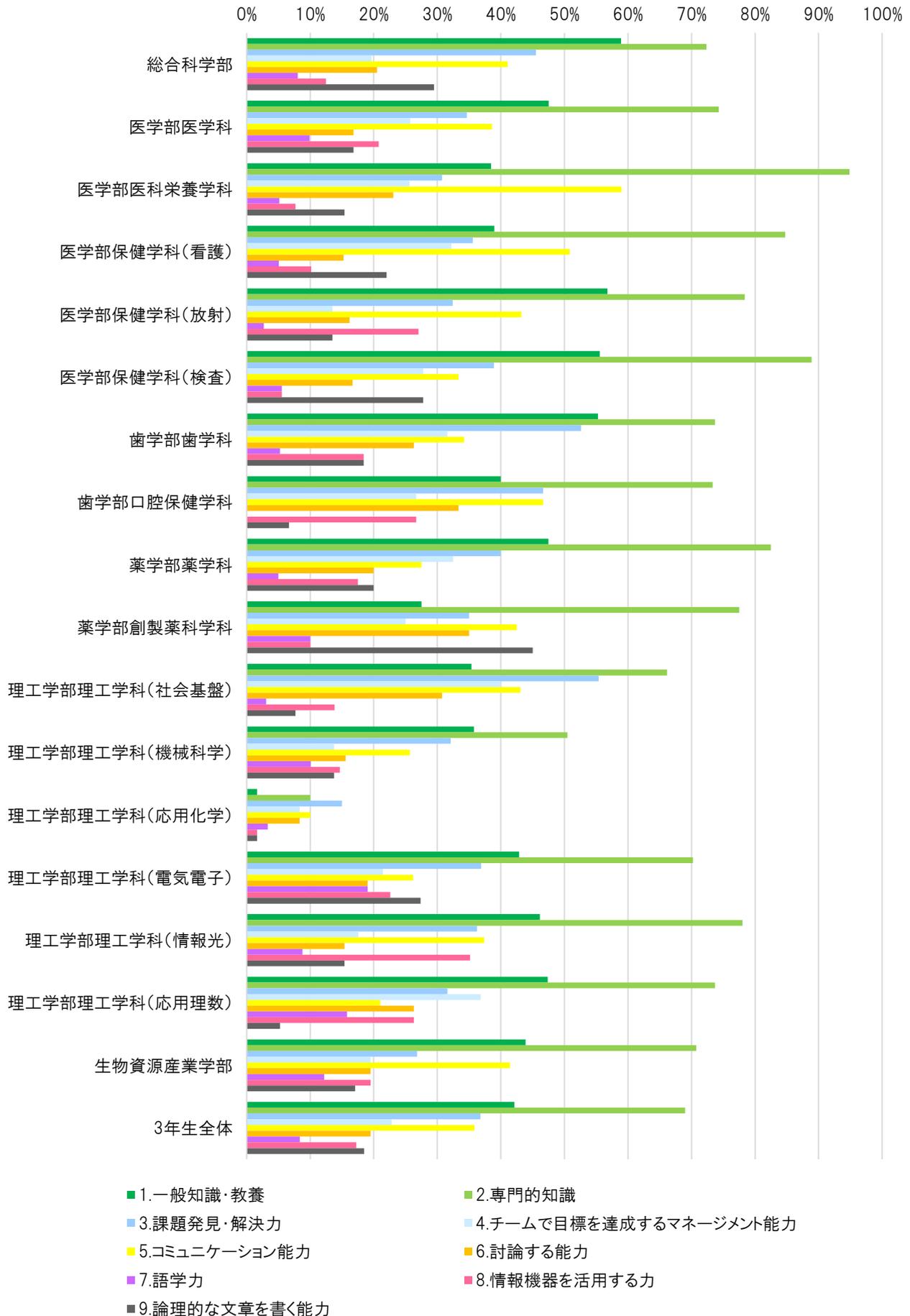
[61]卒業後に就職するための準備の度合い



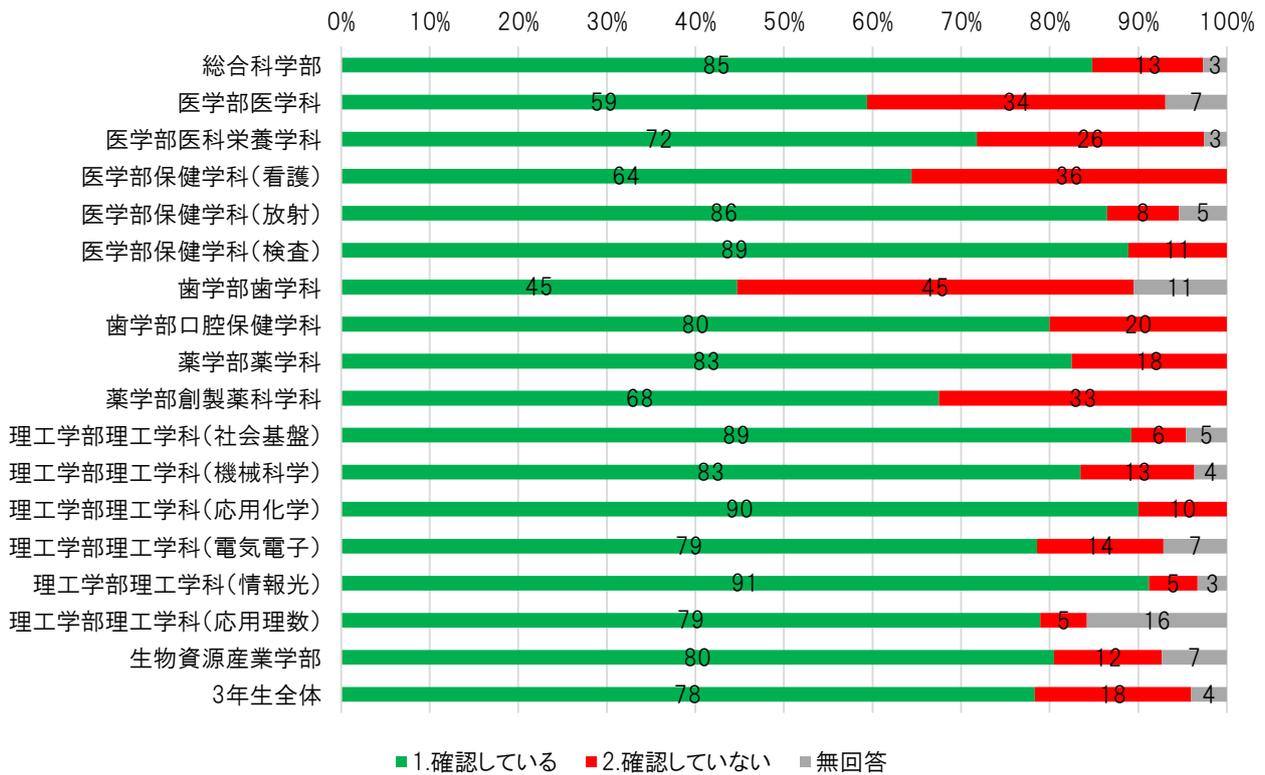
[62]大学における教育に対して、何を期待しますか。(複数回答可)



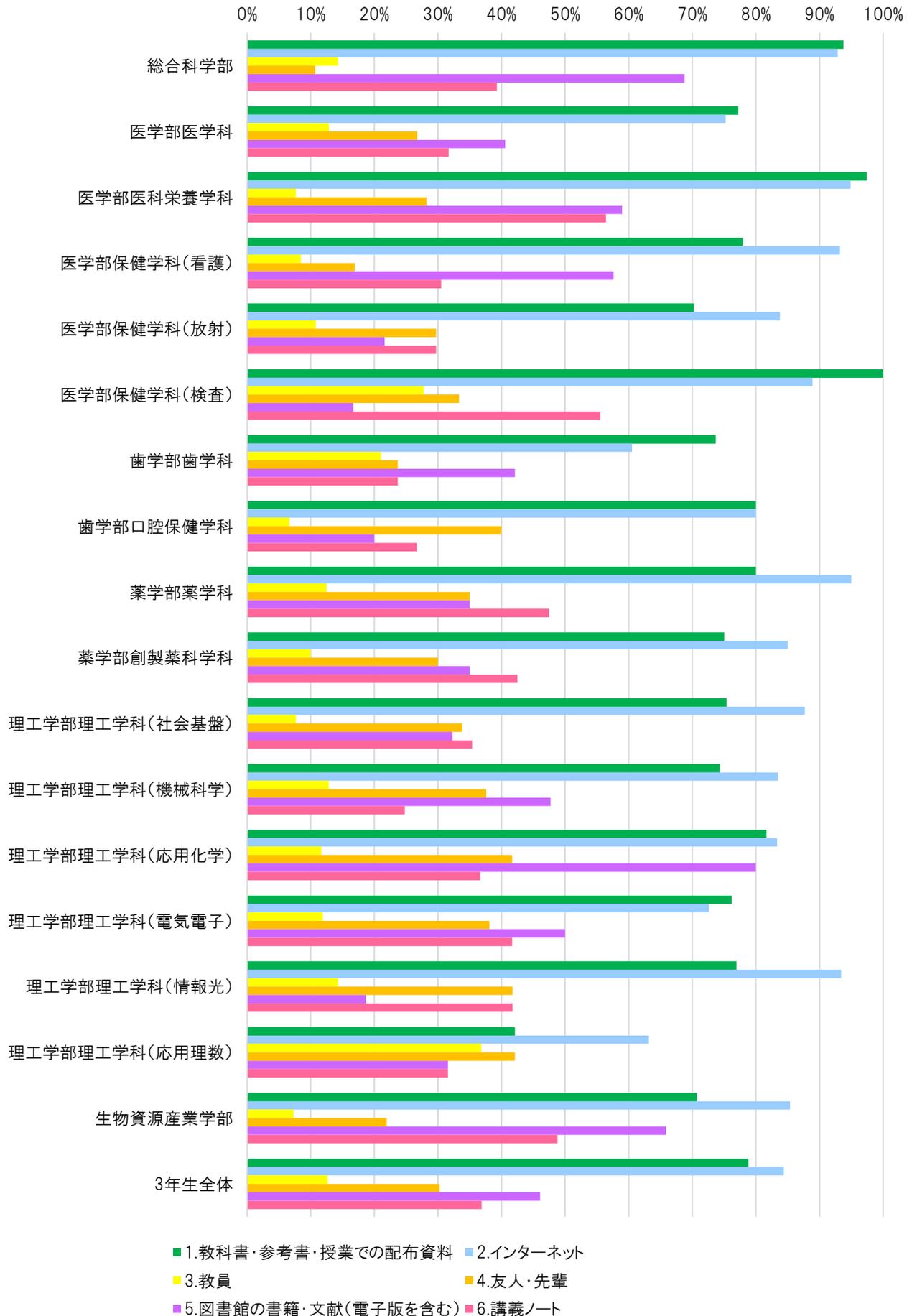
[63]大学の教育によって獲得が期待できる知識・能力を3つ選んでください。



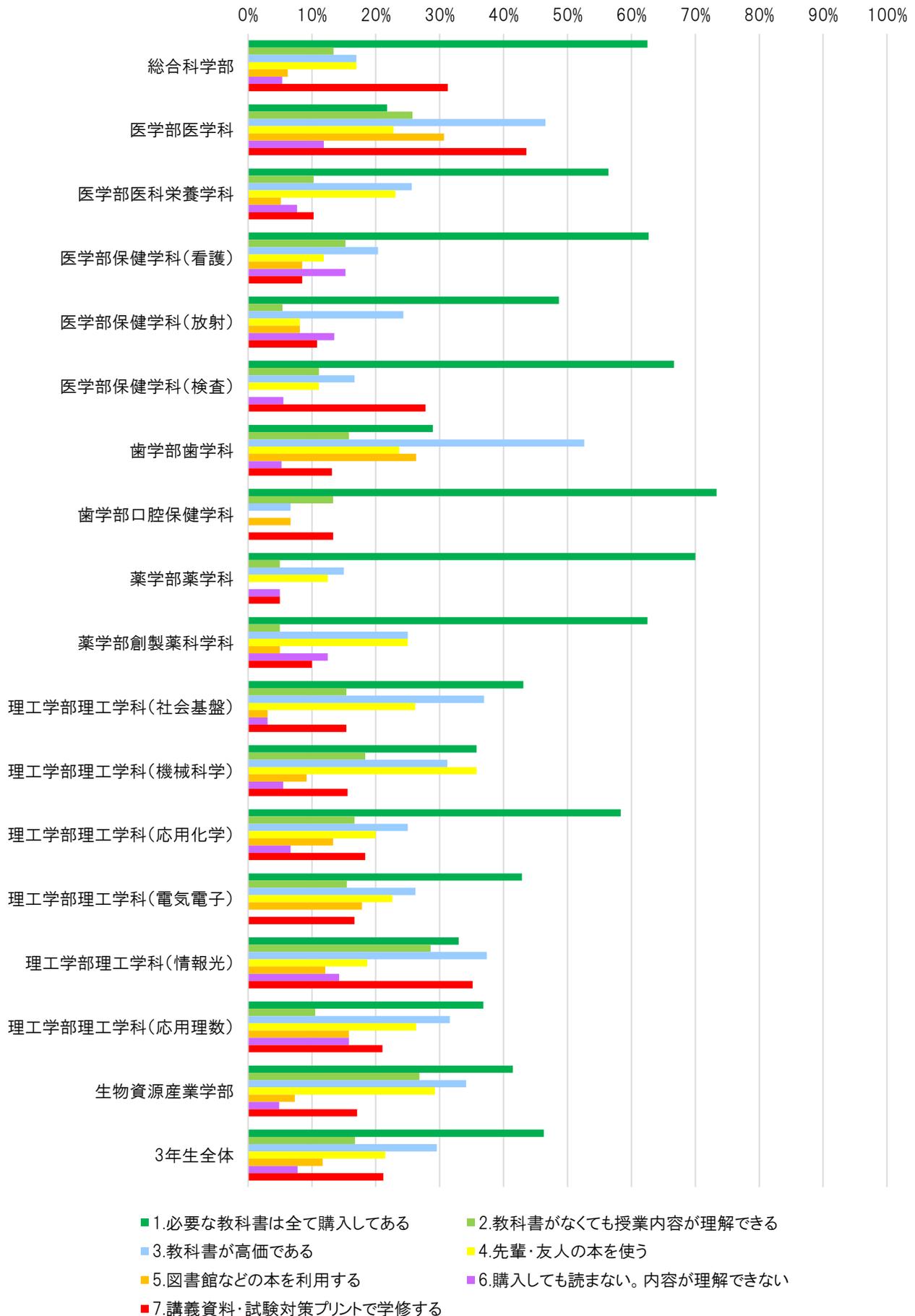
[64]徳島大学では「GPA(自分が履修したすべての授業科目の成績評価の平均値)」を成績表に記載していません。自身の「GPA」について確認していますか。



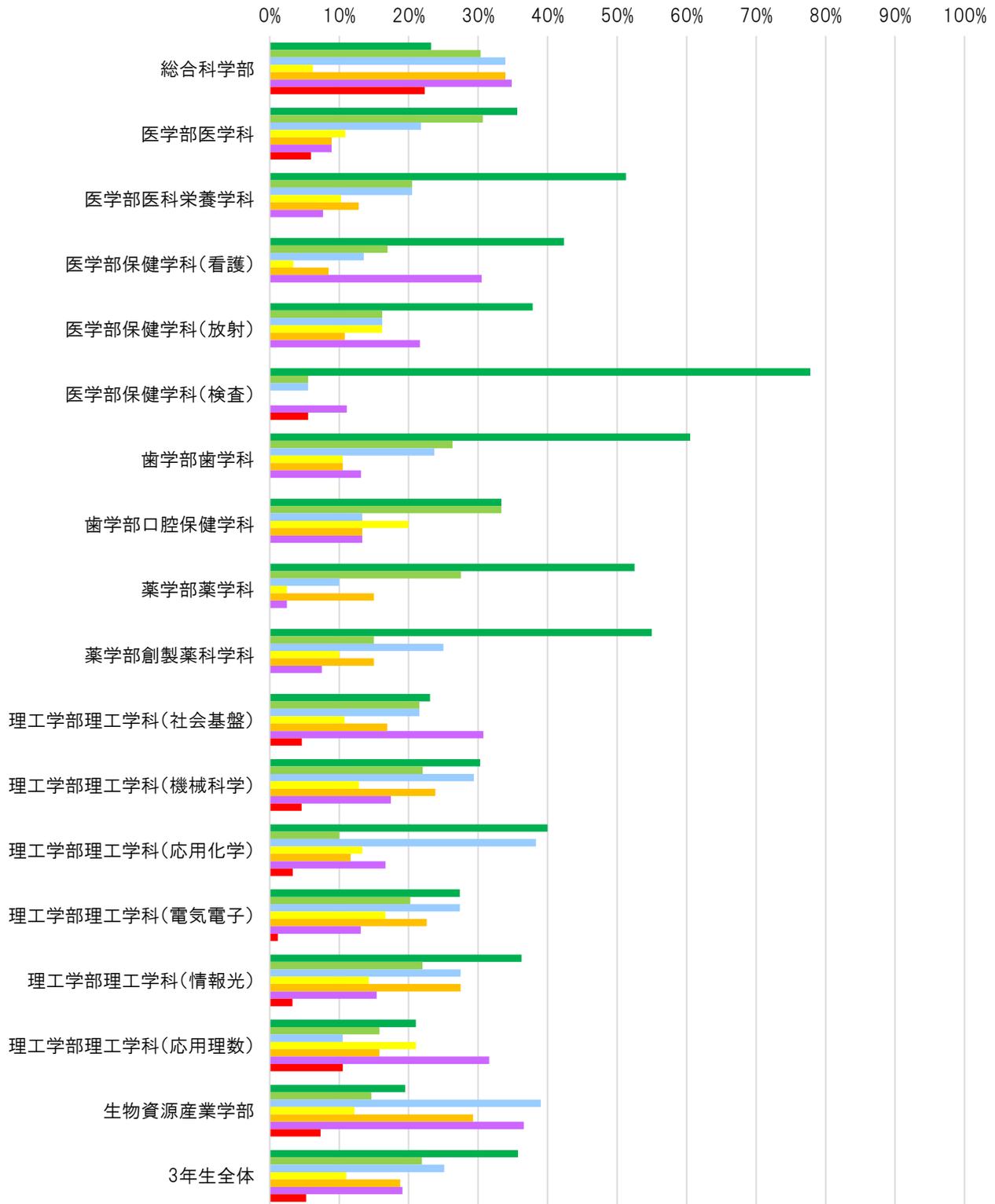
[65]レポートや宿題で、調べものをするときの情報源は何ですか。(複数回答可)



[66]教科書を購入していない場合の理由は何ですか。(複数回答可)

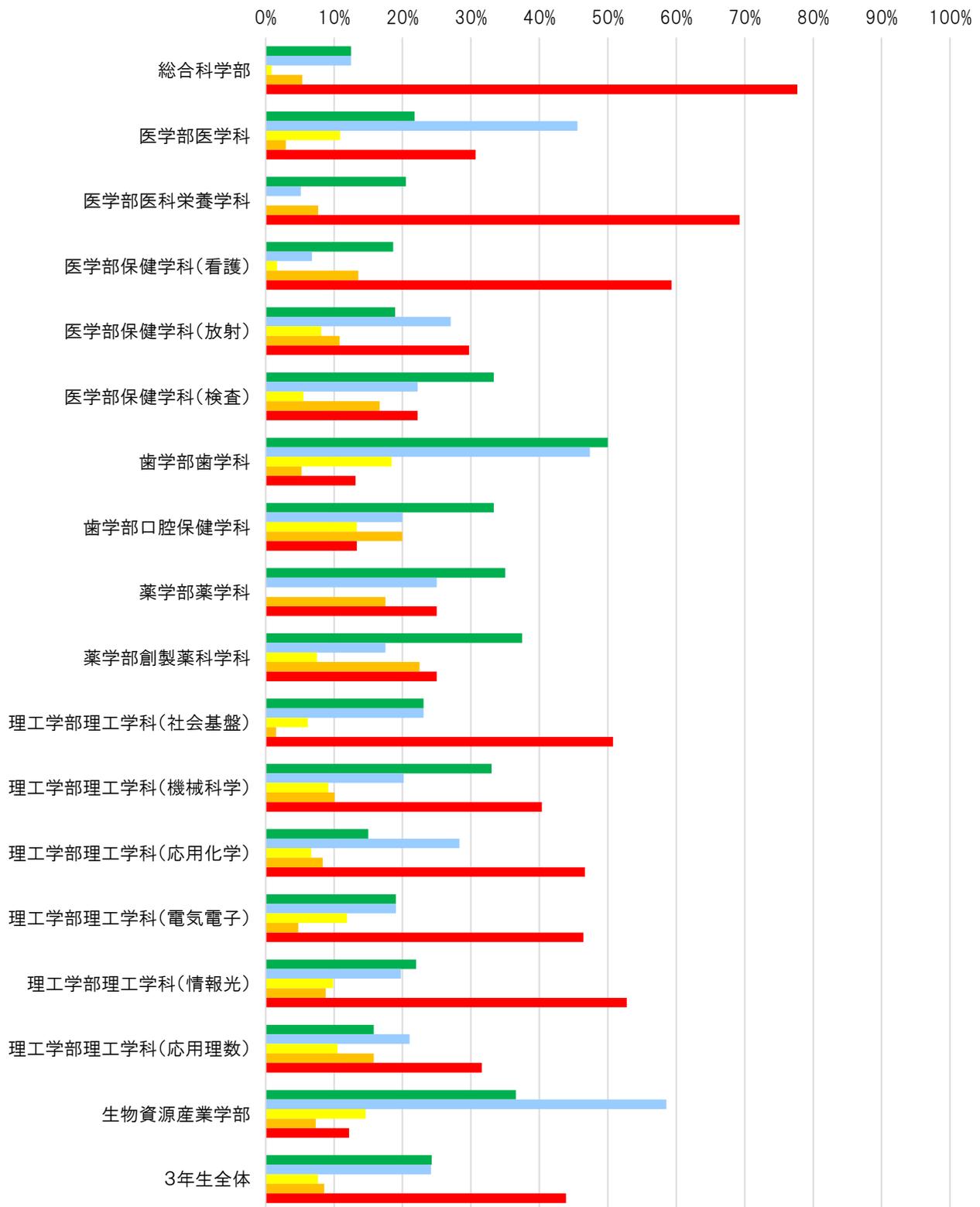


[67]大学の授業以外に、自分自身のための学修として、実行や計画していることはありますか。(複数回答可)



- 1.大学の授業以外で、実行や計画していることはない
- 2.教養や社会問題の理解に役立つ読書
- 3.語学など自分の将来を考えたスキルの修得
- 4.数学や理科のような基礎的能力を強化するための学修
- 5.自分の興味のあるテーマの研究
- 6.資格習得や受験に備えた学修
- 7.卒業研究につながる実験・調査・研究レビュー等

[68]高校で履修していない数学, 物理, 化学, 生物について, 大学入学後どのように勉強しましたか。(複数回答可)



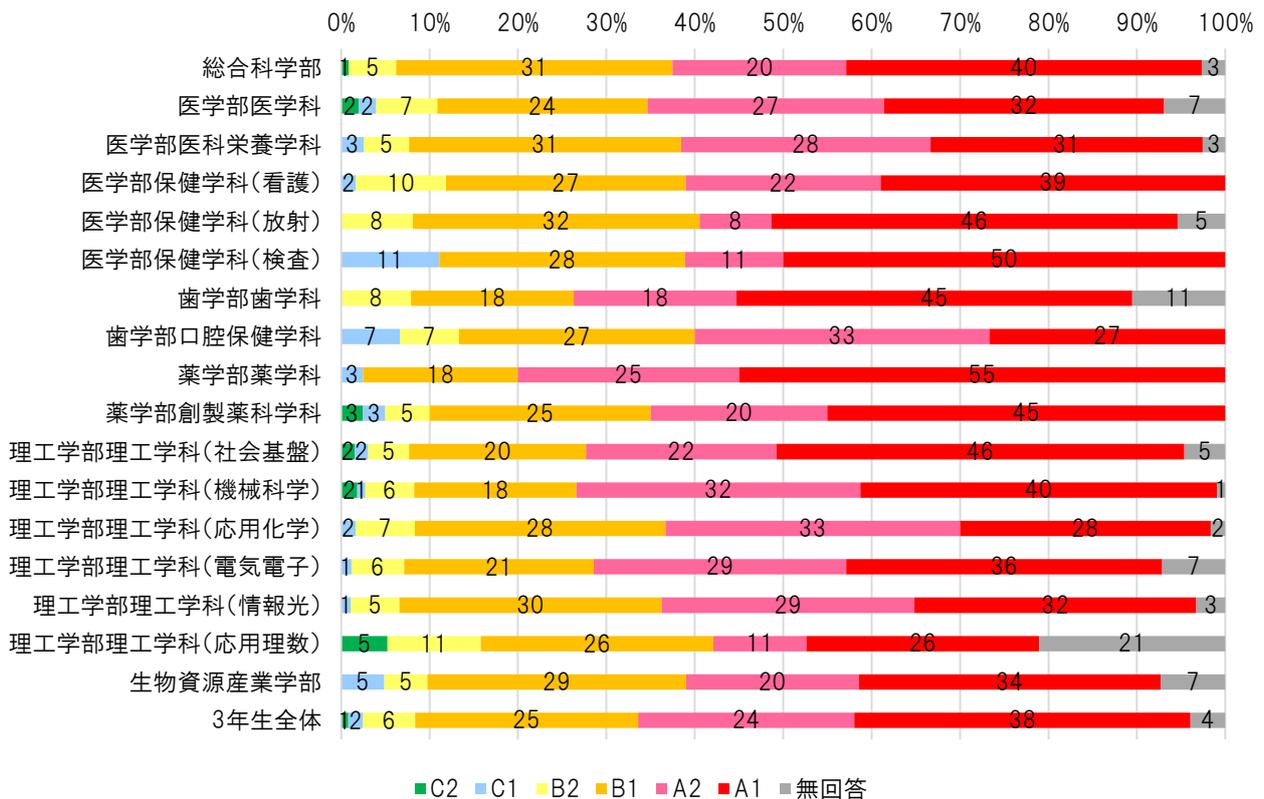
- 1.高校の教科書、参考書を使い、勉強した
- 2.教養教育で開講されている高大接続科目や自然科学入門又はその他の科目を受講した
- 3.HP上の徳島大学LMS(リメディアル教材)を利用して勉強した
- 4.勉強の必要性を感じたが、LMS(リメディアル教材)の存在を知らず何もしていない
- 5.支障を感じないので何もしていない

Ⅲ. 続けて、英語の学習状況についておうかがいします。

あなたの英語能力を聞く力、読む力、会話力、表現力、書く力の5つの観点から自己評価した場合に、現在、到達していると思うレベルを、1つ教えてください。

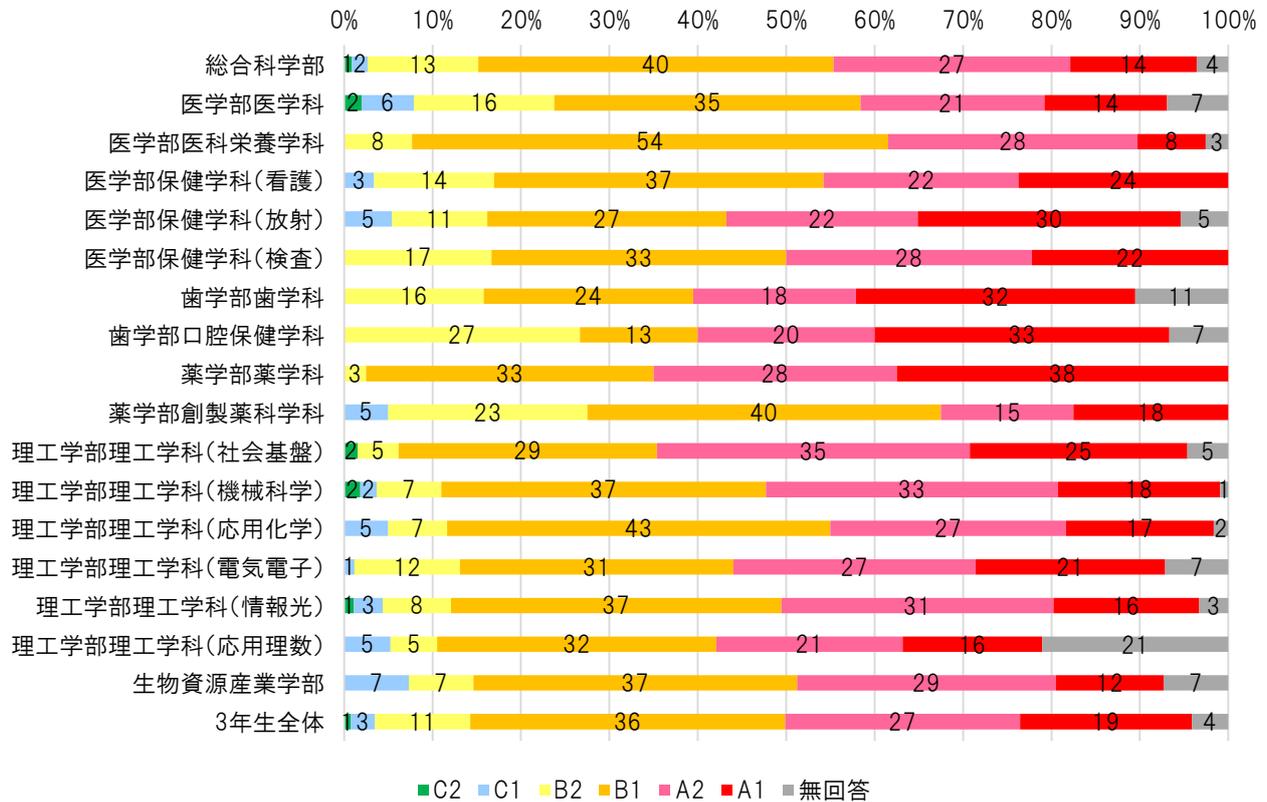
[69]聞く力

- A1 はっきりと、ゆっくり話してもらえれば、聞き慣れた語やごく基本的な表現を聞き取れる。
- A2 最も頻繁に使われる語彙や表現を理解することができる。
- B1 身近な話題について、明瞭で標準的な話し方の会話なら要点を理解することができる。
- B2 テレビのニュースや時事問題、標準語の映画ならほとんど理解できる。
- C1 特別な努力なしにテレビ番組や映画を理解できる。
- C2 母語話者の速いスピードで話されても、どんな種類の話し言葉も難無く理解できる。



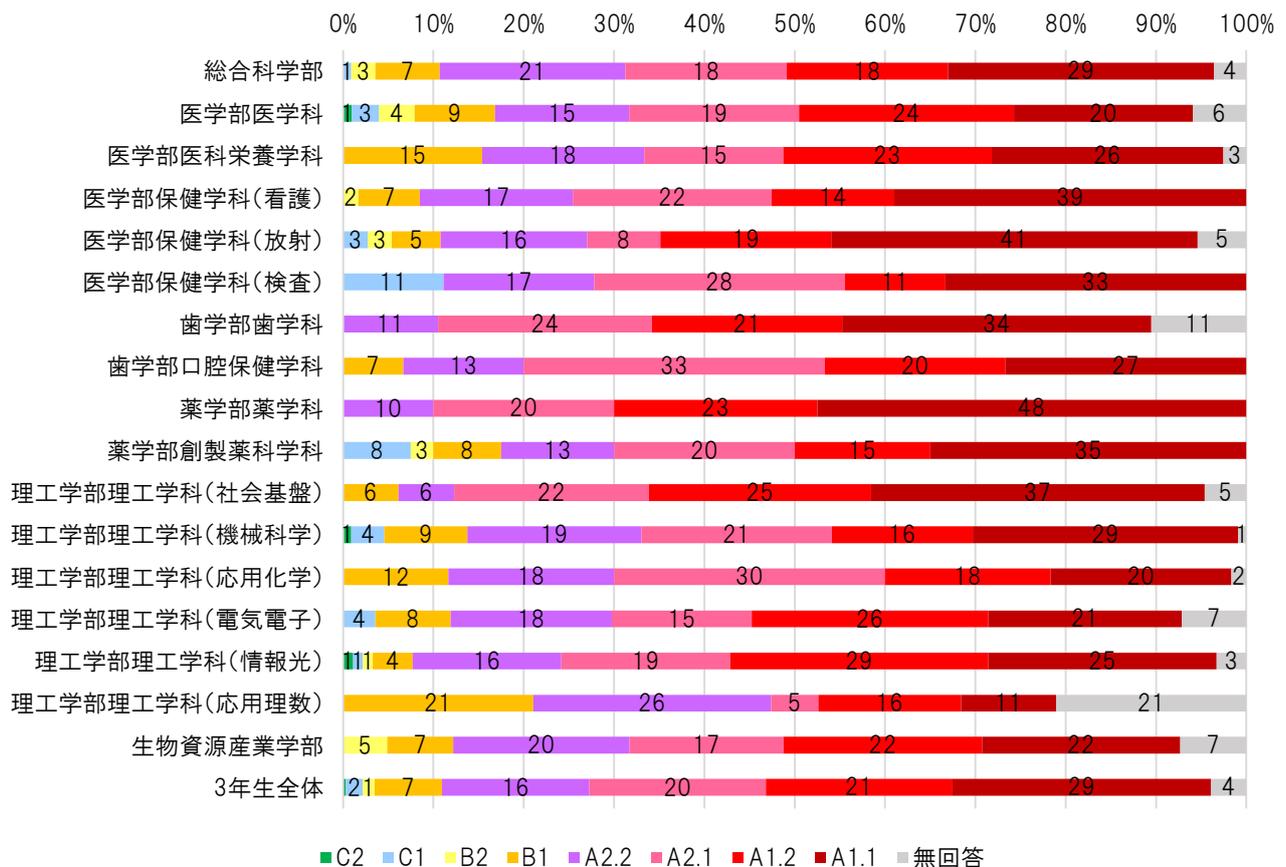
[70]読む力

- A1 掲示やポスター、カタログなどの中をよく知っている名前、単語、単純な文を理解できる。
- A2 ごく短い簡単な文章や、簡単に短い個人的な手紙は理解できる。
- B1 日常語や、自分の知っている分野の文章なら理解できる。簡単に個人的な手紙を理解できる。
- B2 現代の問題についての記事や報告が読める。現代文学の散文は読める。
- C1 複雑な文章を理解できる。自分の関連外の分野の専門的文章も理解できる。
- C2 抽象的で複雑な文章など、あらゆる形式で書かれた言葉を容易に読むことができる。



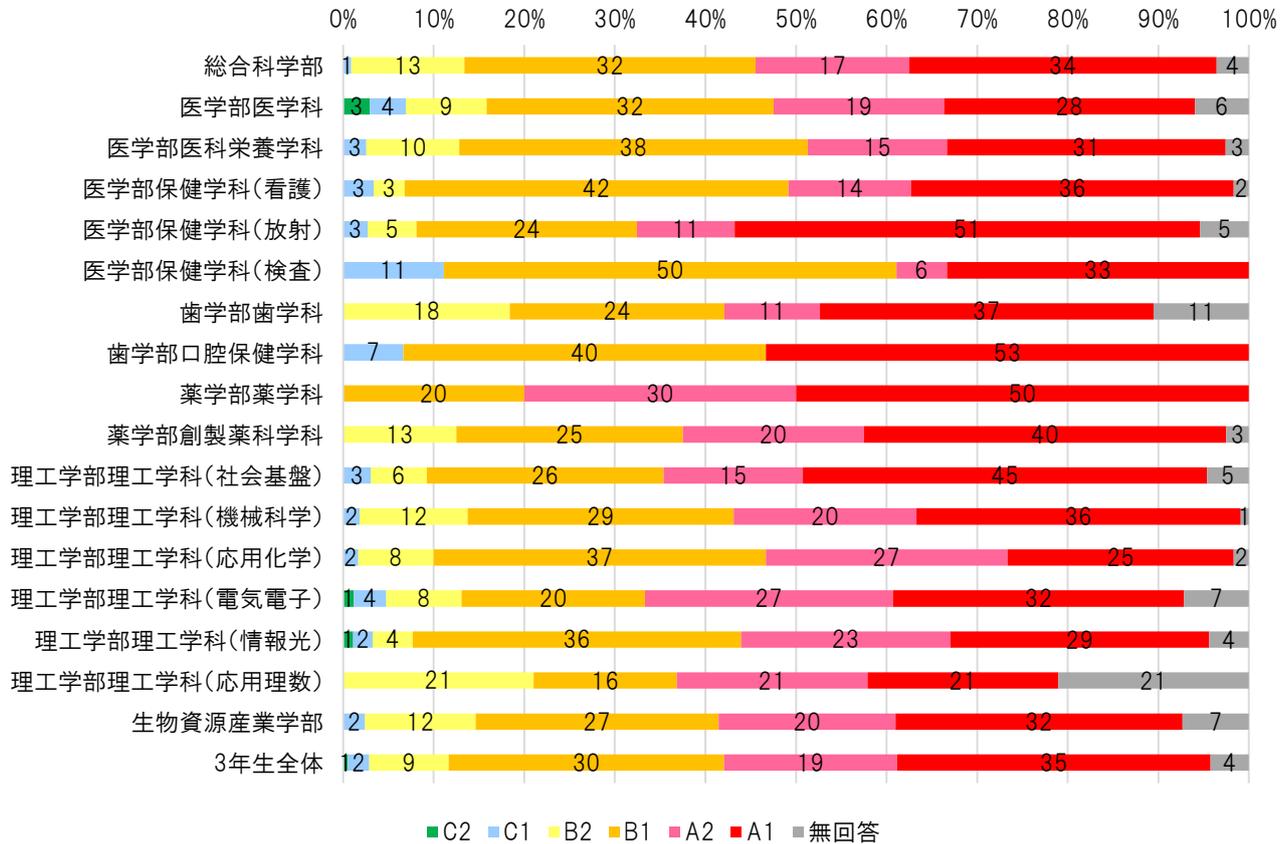
[71]会話力

- A1.1 決まった言い回しを使って自己紹介をしたり、相手の趣味を尋ねたりできる。
- A1.2 家族や身の回りのことについて、簡単な質問なら聞いたり答えたりできる。
- A2.1 短い社交的なやり取りができる。ひとりで会話を続けにくい、相手の助け舟で、身近な話題について話し続けられる。
- A2.2 準備をすれば、日常的でなじみのある話題について、簡単な言葉を使ってまとまりのある会話ができる。
- B1 日常生活に直接関係のあることや個人的な関心について、準備なしで会話ができる。
- B2 身近な話題の議論に積極的に参加し、自分の意見を説明できる。
- C1 社会上、目的・場面に合った言葉遣いができ、自分の考えや意見を正確に表現できる。
- C2 いかなる会話や議論でも努力しないで加わることができる。



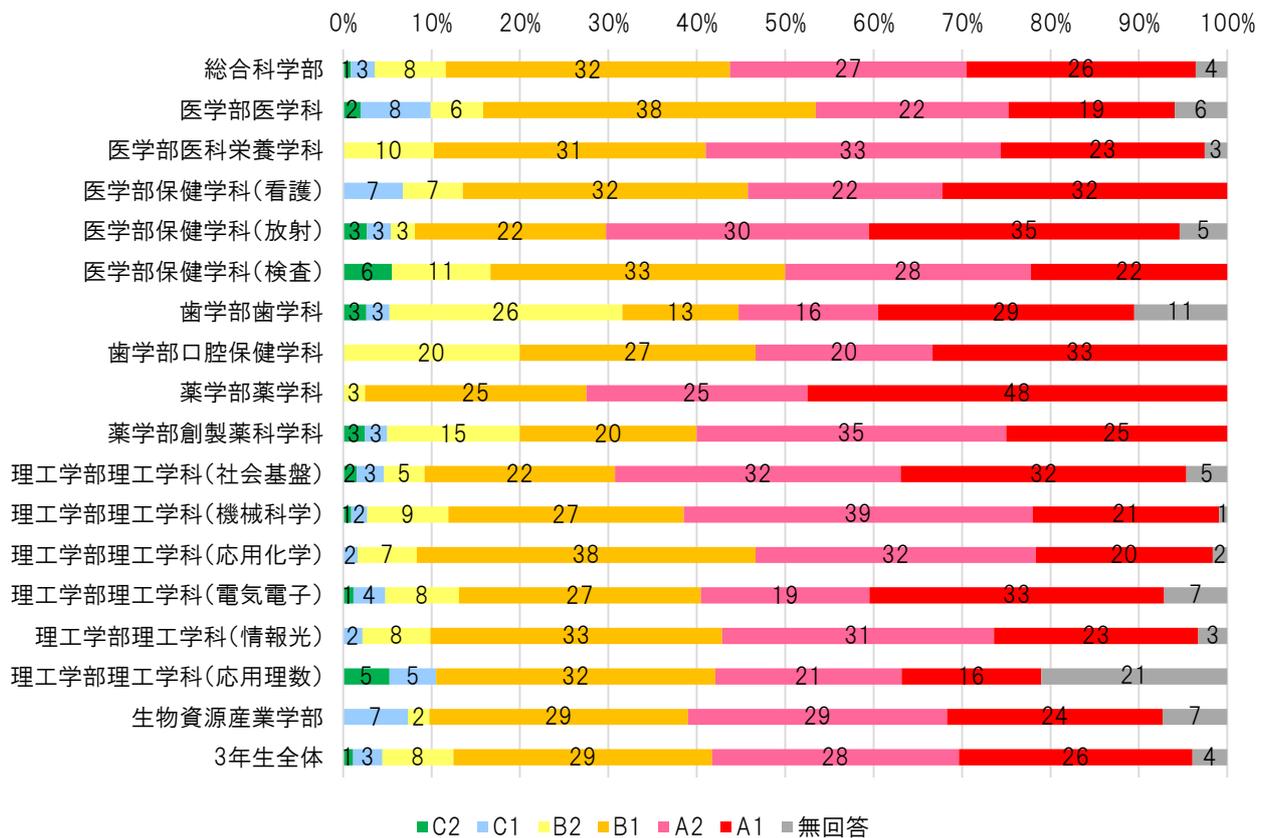
[72]表現力

- A1 住んでいるところ、また、知っている人たちについて、簡単な語句や文を使って表現できる。
- A2 家族、周囲の人々、居住条件を簡単な言葉で説明できる。
- B1 簡単な方法で語句をつないで、自分の経験や出来事、夢や希望、目標を語るができる。
- B2 興味関心のある話題について、明瞭で詳細な説明ができる。
- C1 複雑な話題を、一定の観点を展開しながら、適切な結論でまとめ上げることができる。
- C2 論理的な会話で聞き手に重要点を把握させ、記憶にとどめさせることができる。

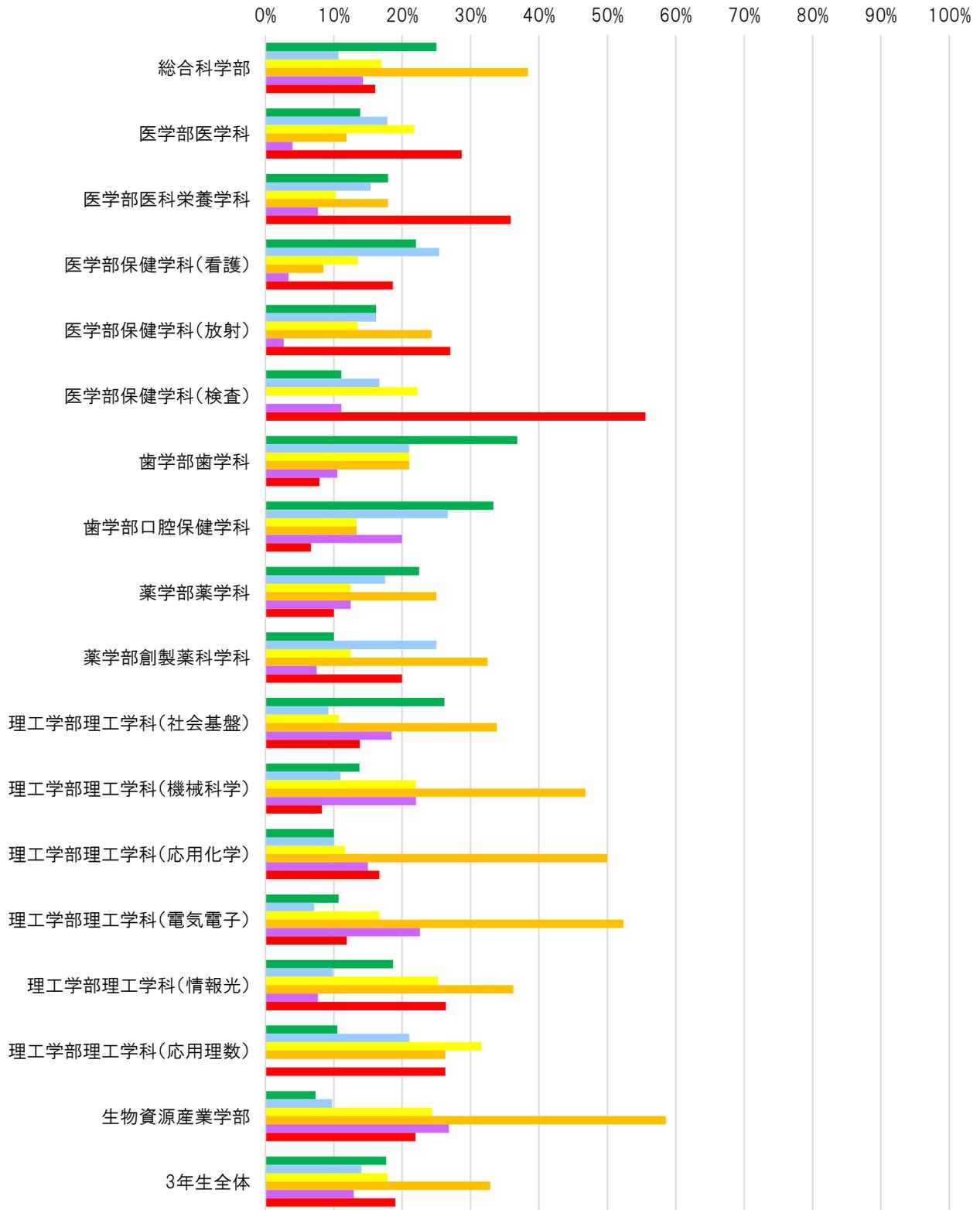


[73]書く力

- A1 お祝いのメッセージなど、短い簡単な葉書を書くことができる。
- A2 簡単に短いメモやメッセージ、短い個人的な手紙なら書くことができる。
- B1 身近で個人的に関心のある話題を書くことができる。個人的な手紙で経験や印象を書くことができる。
- B2 興味関心のある話題について、明瞭で詳細な説明文を書くことができる。
- C1 手紙やエッセイ、レポートで複雑な主題を扱うことができる。
- C2 論理的に事情を説明し、複雑な内容の手紙、レポート、記事を書くことができる。

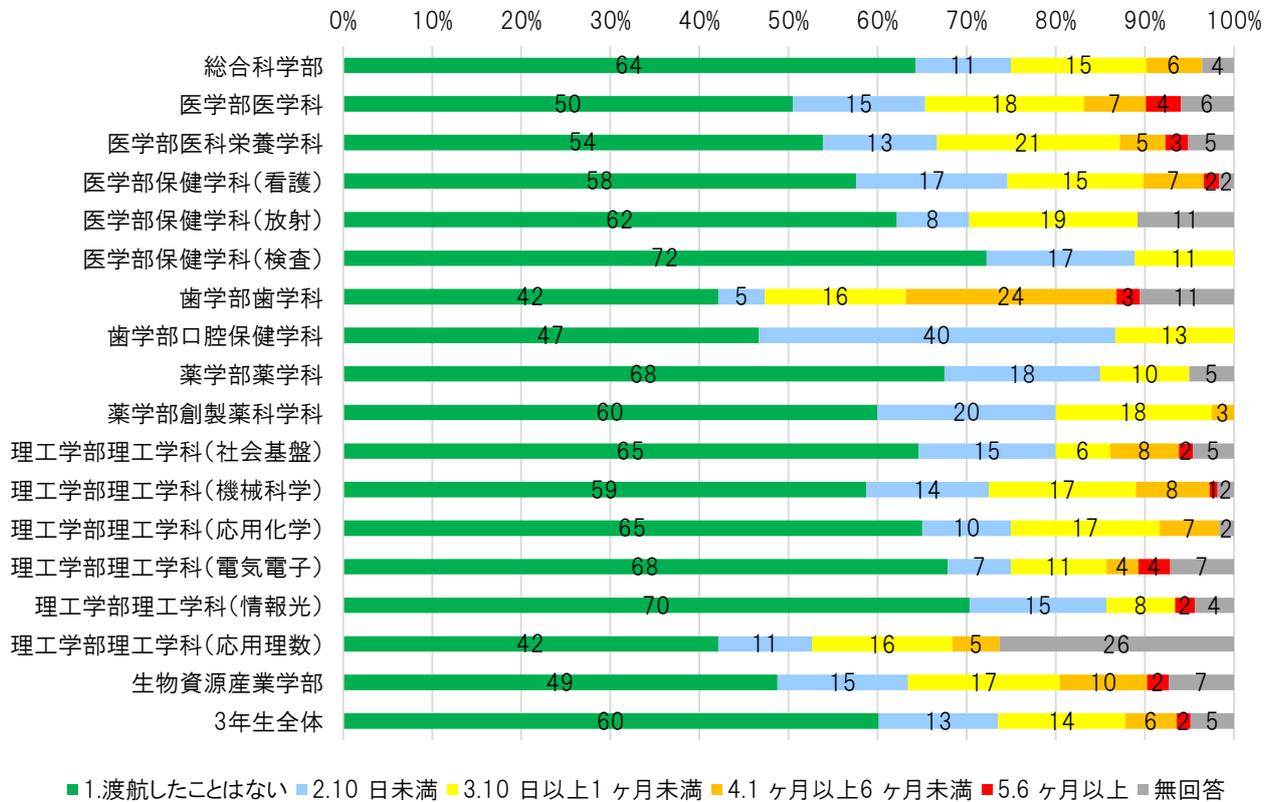


[74]どのように、英語の勉強を行っていますか。(複数回答可)

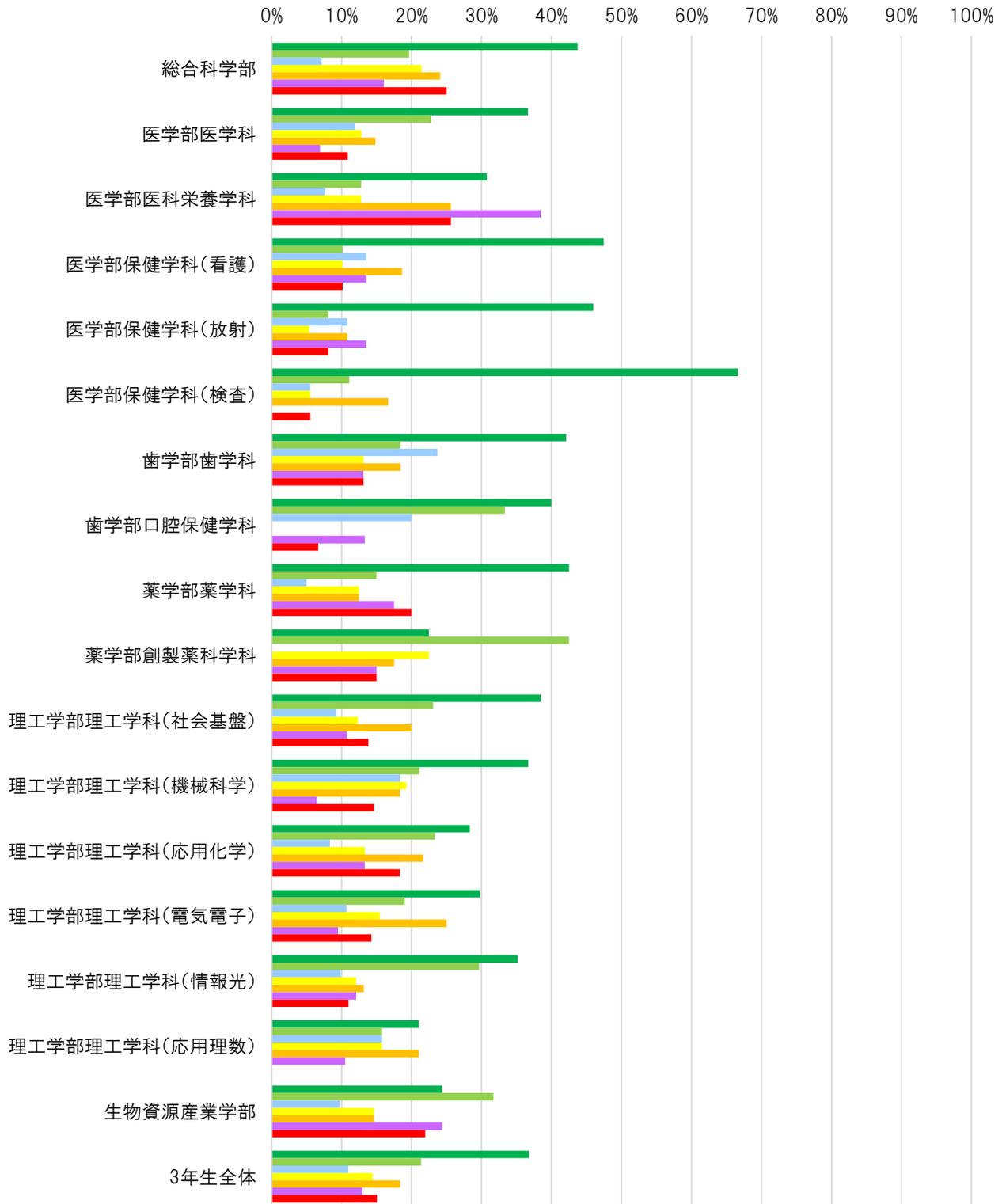


- 1.毎日または定期的にテレビ、ラジオの英語教育番組を利用して勉強している
- 2.英会話スクールに行ったことがある。または現在通っている
- 3.図書館または大学の英語教材、施設を利用して定期的に英語を勉強している
- 4.TOEICなどの参考書、問題集を購入して定期的に勉強している
- 5.TOEIC,TOEFLや英検などの英語能力試験を定期的に受験している
- 6.授業で使用している教科書、英語論文をよく勉強している

[75]アメリカ、カナダ、イギリス、オーストラリア、ニュージーランドやこれらの国以外(インド、シンガポール等)などへの渡航経験(期間)についておうかがいします。英語でコミュニケーションをすることを旨とした渡航経験があれば、その期間(複数回の経験がある場合は最長のもの)について1つ選んで回答してください。



[76]徳島大学における英語教育についてどう思いますか。(複数回答可)

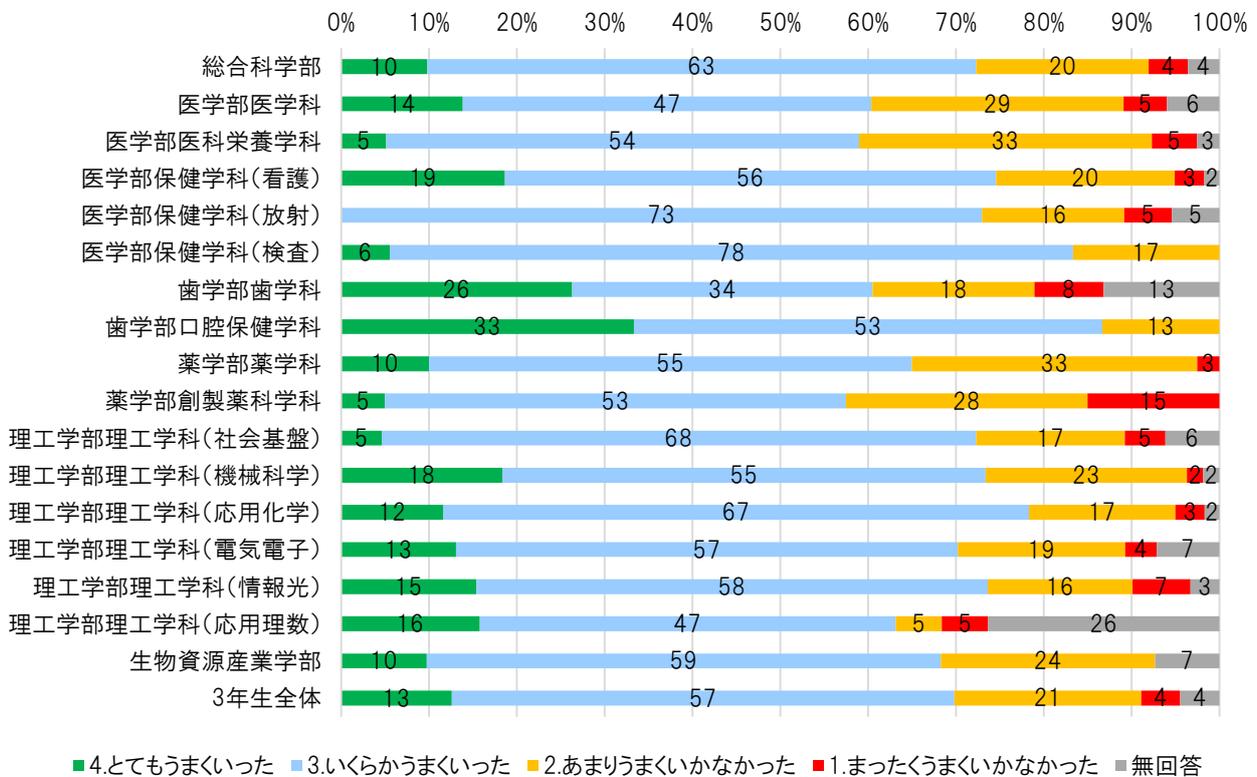


- 1. 教養教育、専門教育で行われる英語教育で十分である
- 2. もっと授業数を増やしてほしい
- 3. もっと授業数を減らしてほしい
- 4. もっと少人数のクラスにしてほしい
- 5. ネイティブスピーカーの教員による授業を増やしてほしい
- 6. 専門英語の時間を増やしてほしい
- 7. 専門英語のライティング、会話に重点を置いた授業を増やしてほしい

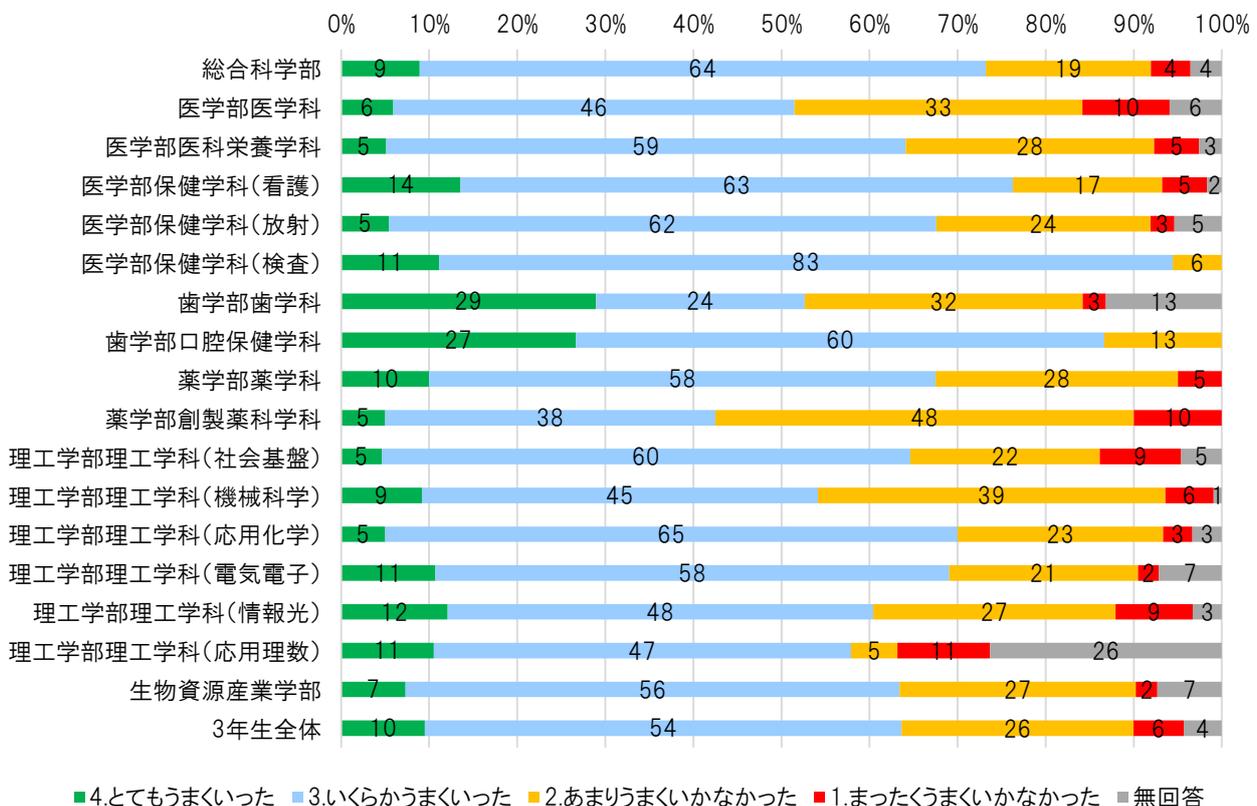
IV. 次に、大学生活に対するあなたの考えや満足度についておうかがいします。

本学に入学してから、あなたにとって次のことからはどれくらいうまくいきましたか

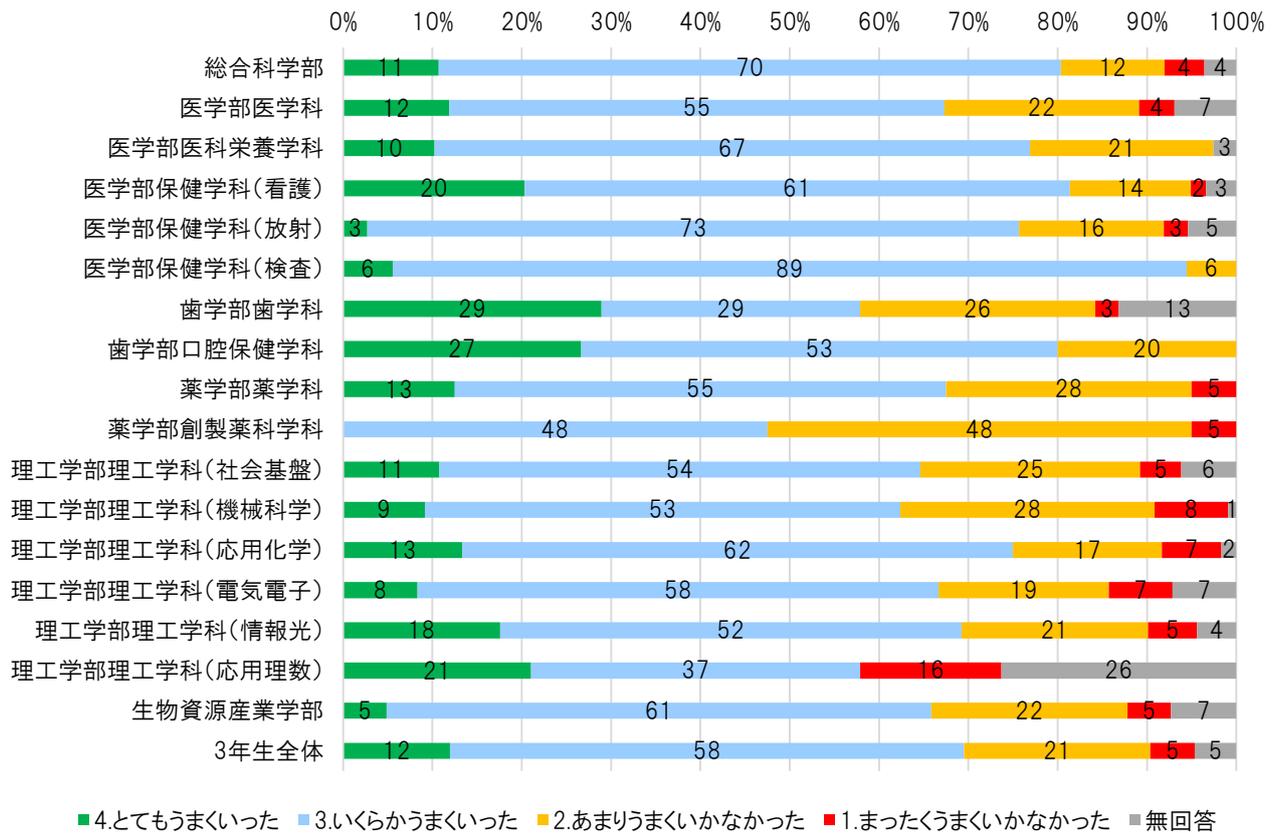
[77]大学の学生向けサービスを上手に利用する



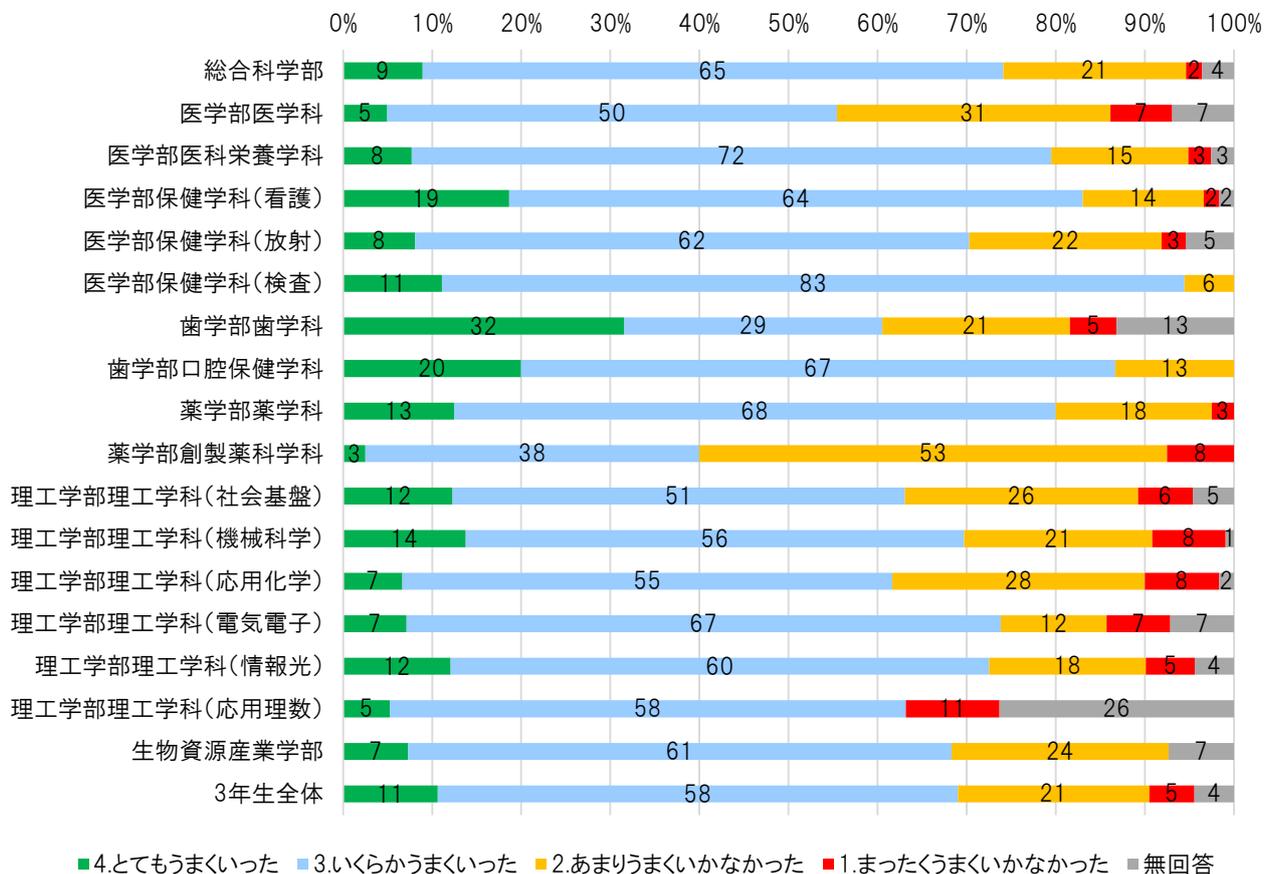
[78]大学教員の学問的な期待を理解する



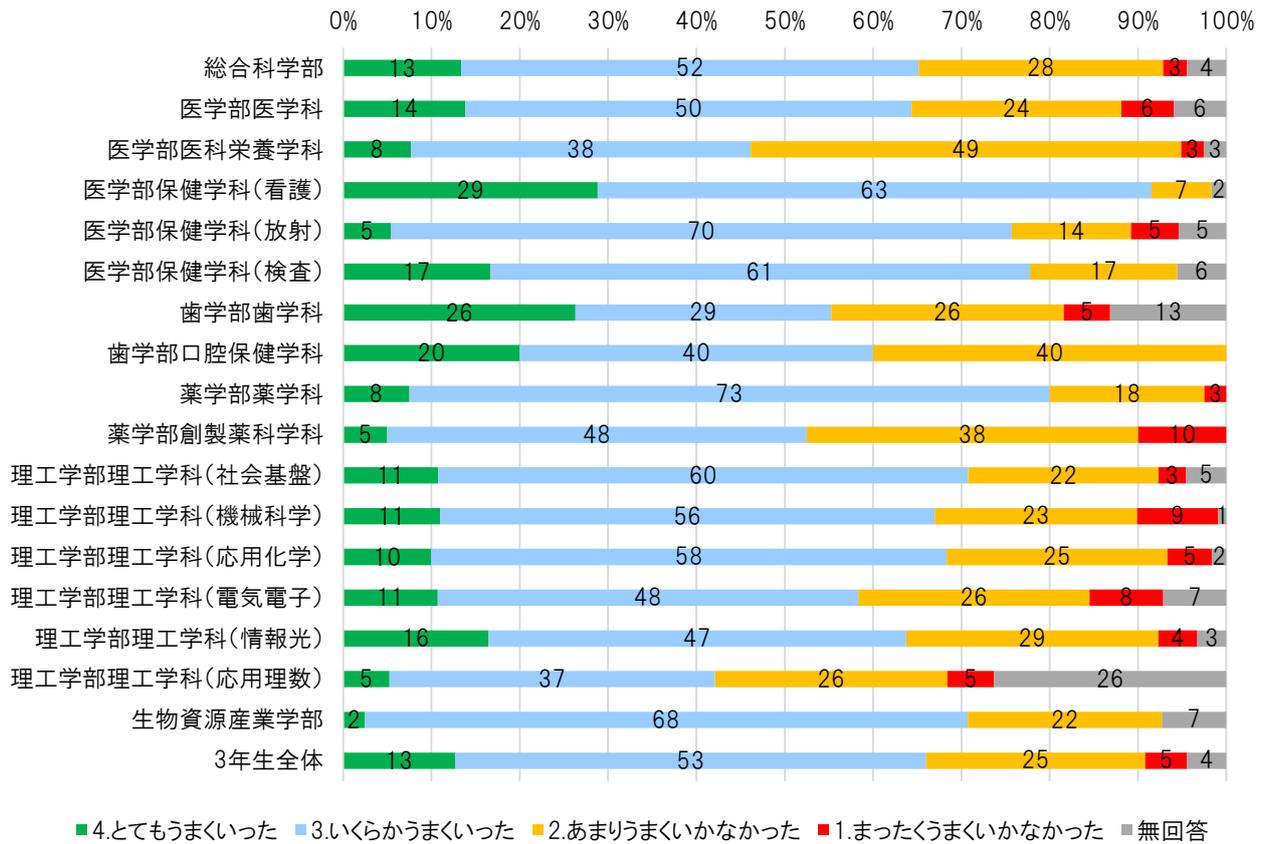
[79]効果的に学習する技能を修得する



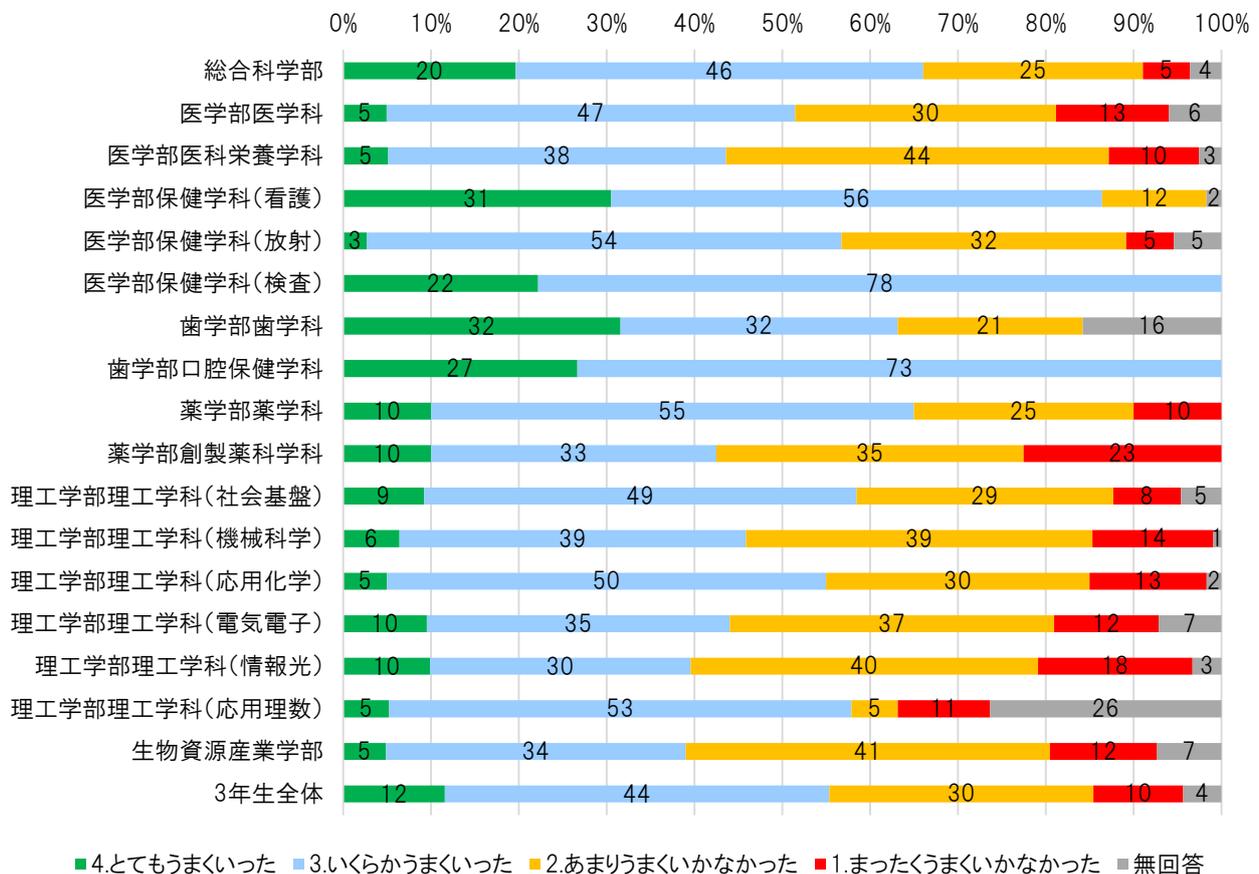
[80]大学が求める水準に応じて学習する



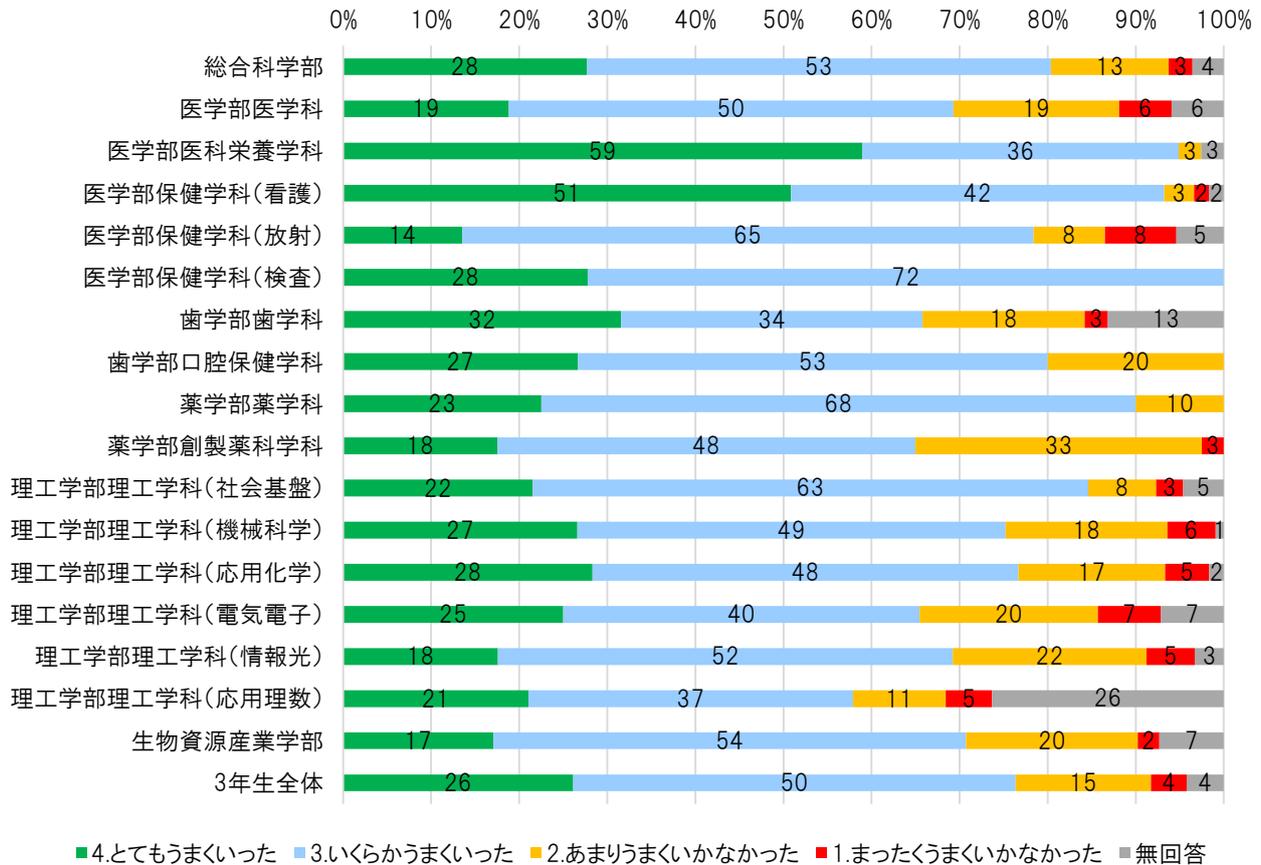
[81]時間を効果的に使う



[82]大学教員と顔見知りになる

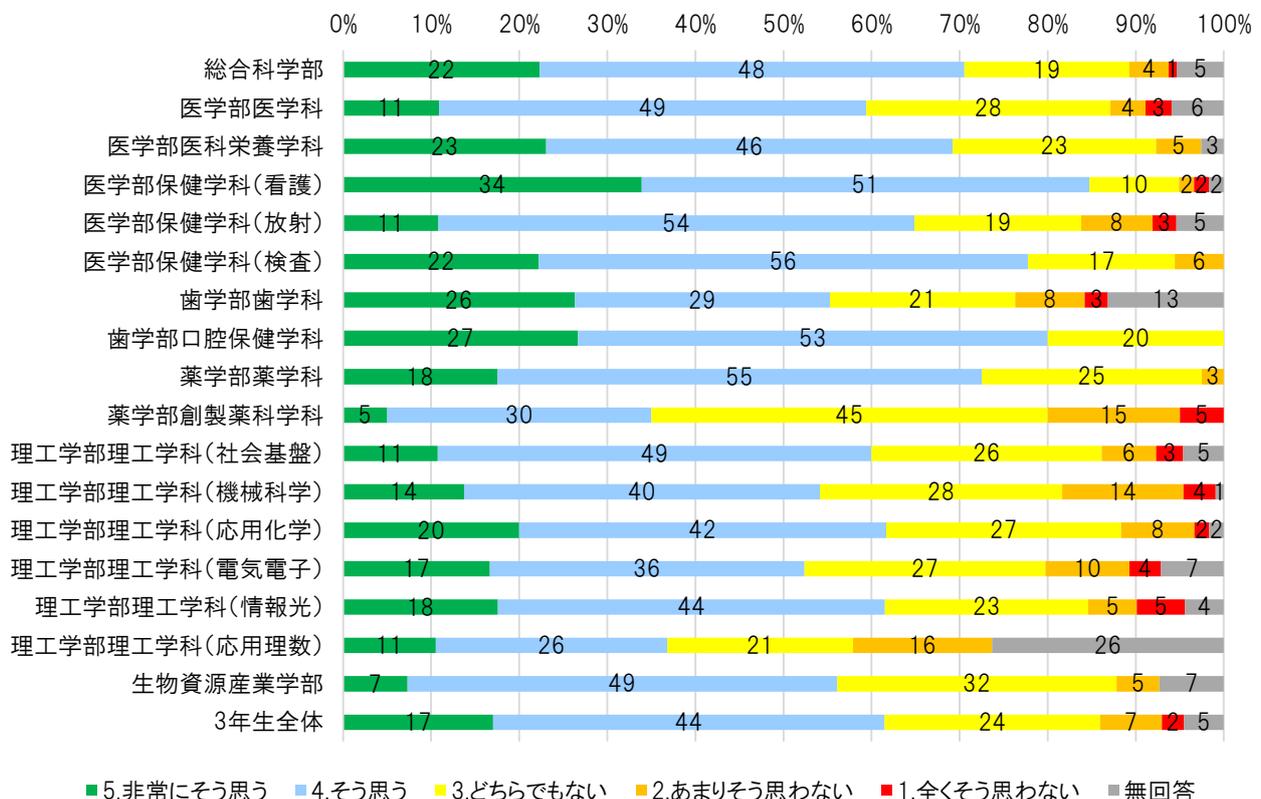


[83]他の学生との友情を深める

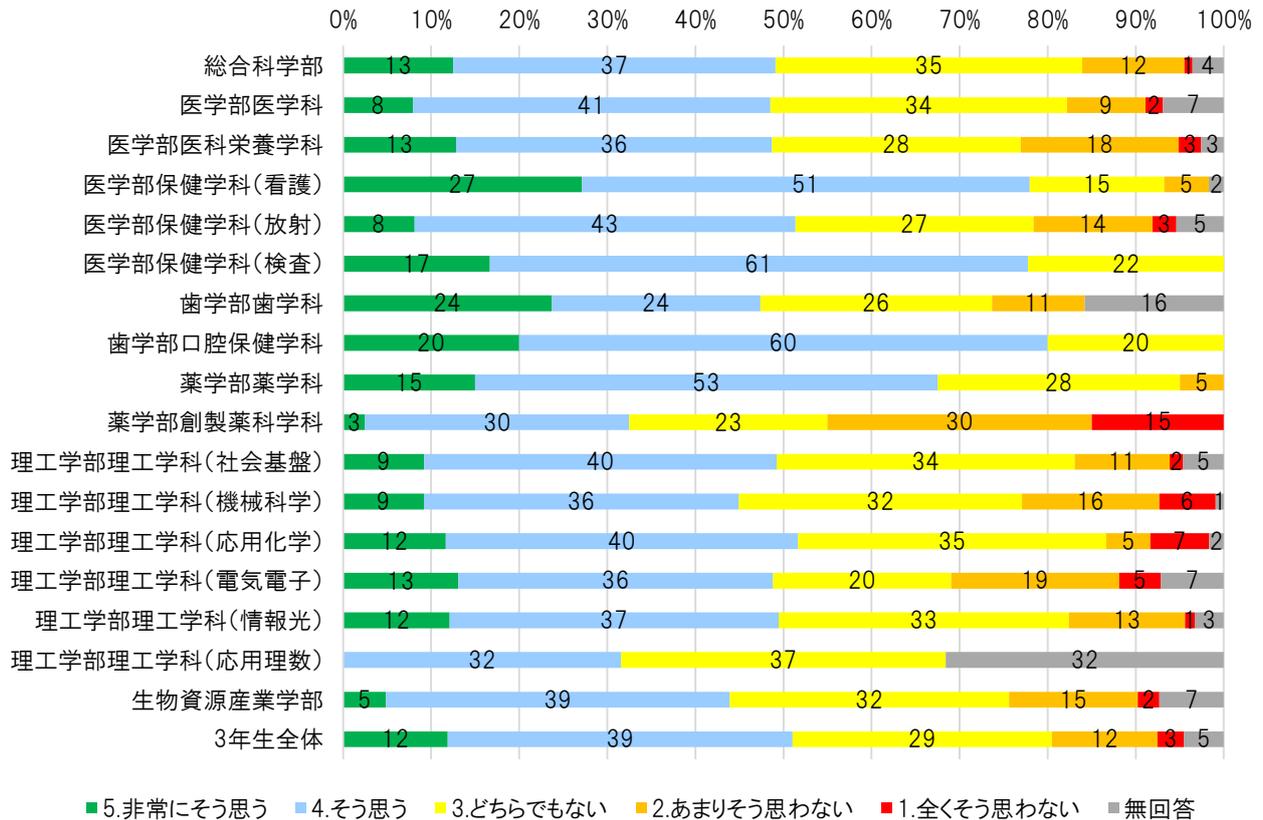


本学に入学してから、あなたにとって次のことがらはどれくらいあてはまりますか。

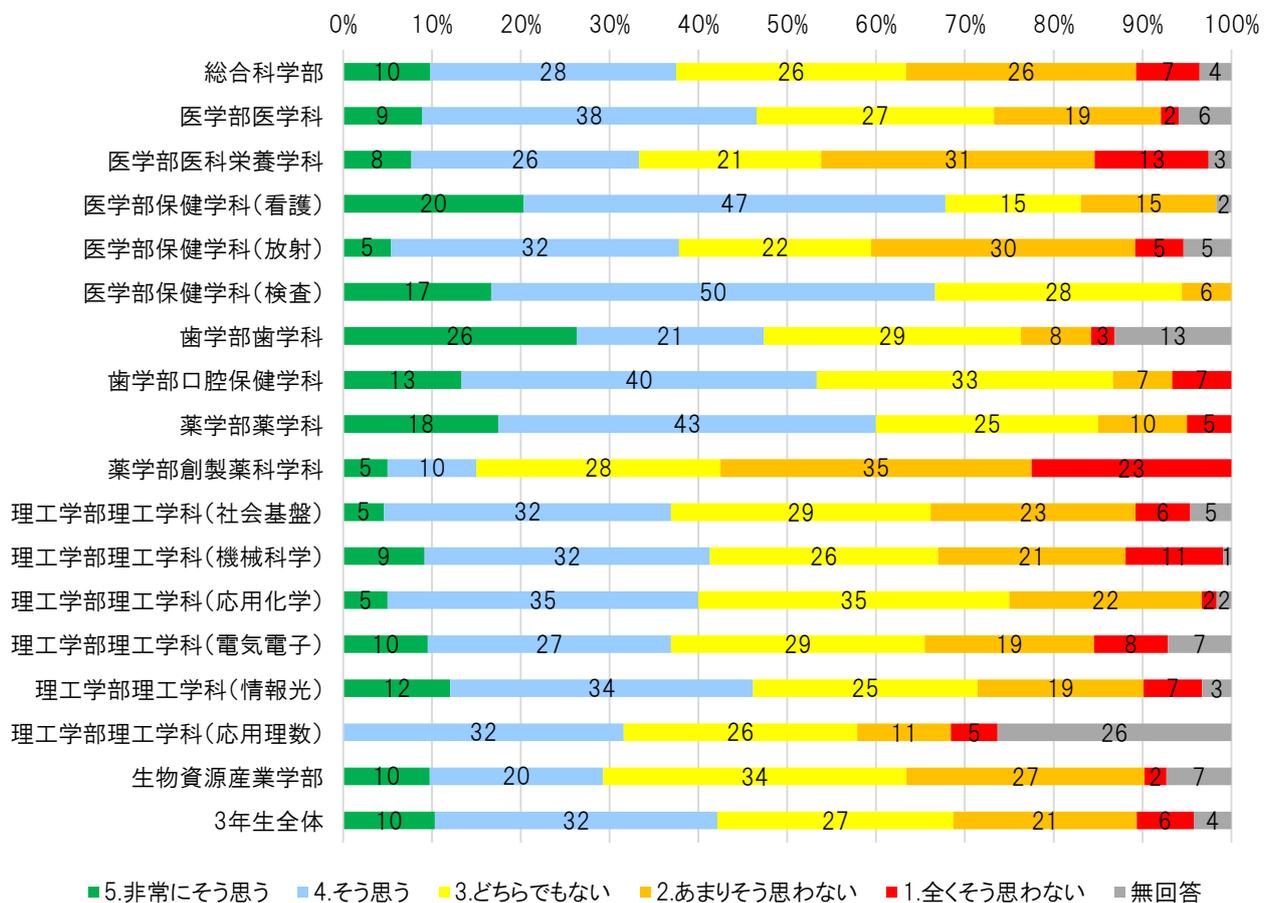
[84]自分の専門分野について興味関心を持ち、意欲的に取り組んでいる



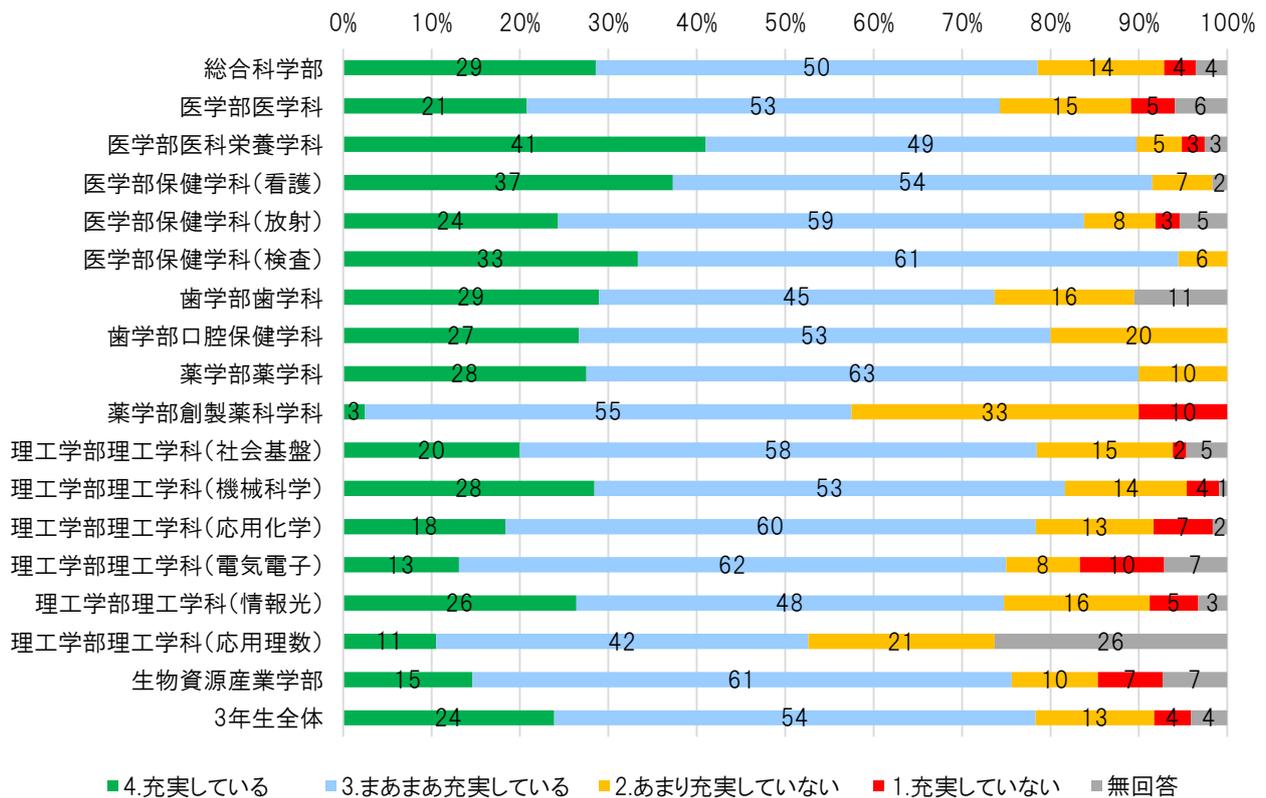
[85] 日常的に自身の学修内容等を振り返り、改善点を見出し向上を図っている



[86] 現在の自分の学修時間や学修態度に満足している

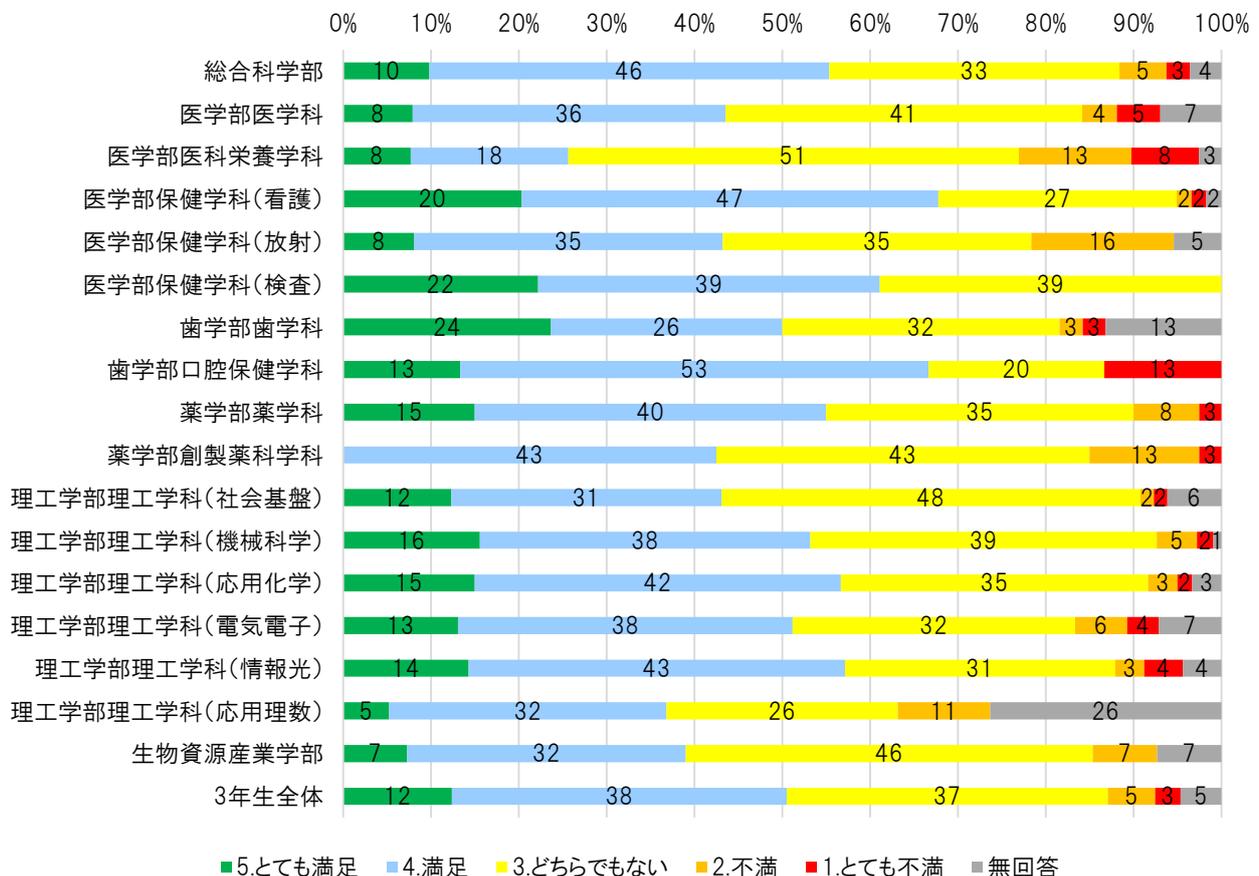


[87]あなたの学生生活は充実していますか。

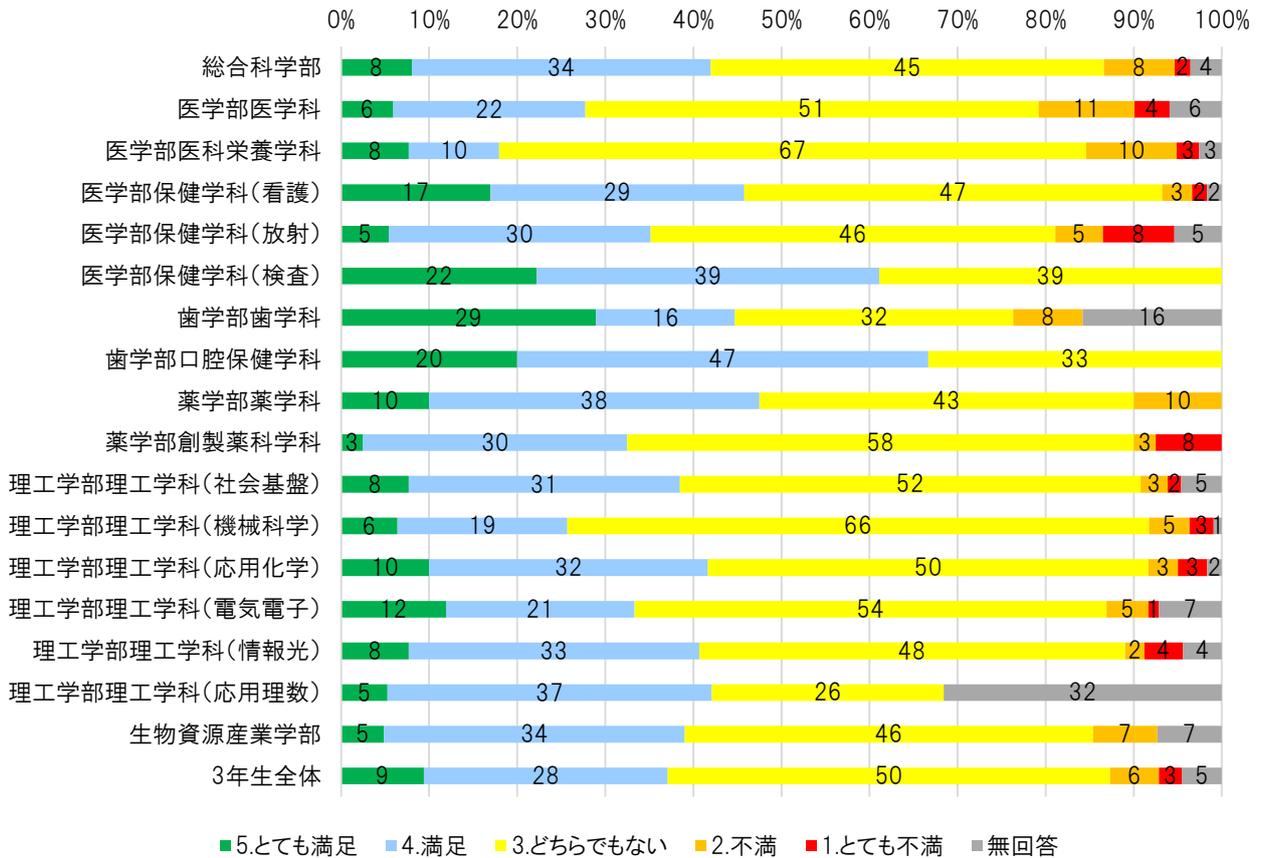


あなたは、本学の教育内容・環境にどれくらい満足していますか。

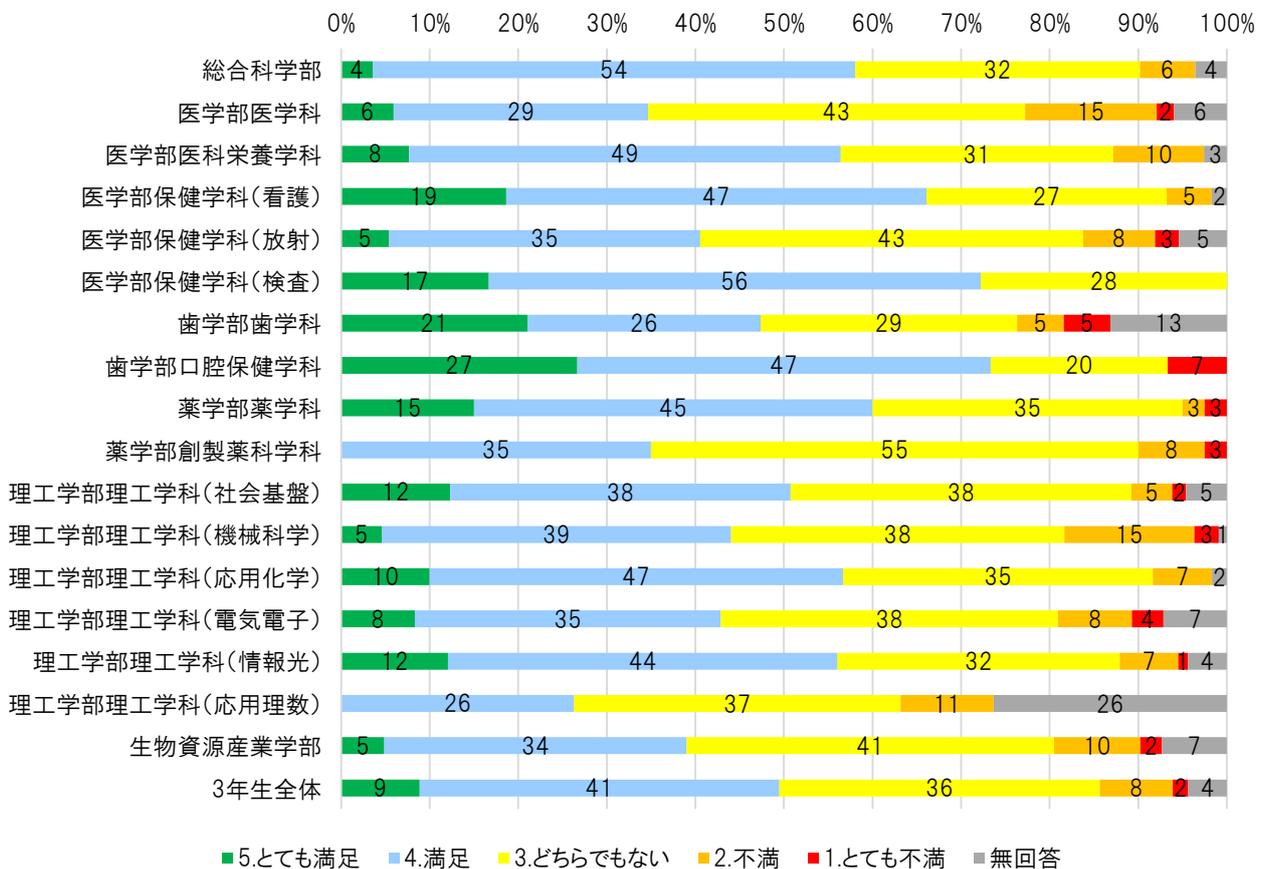
[88]共通教育あるいは教養教育の授業



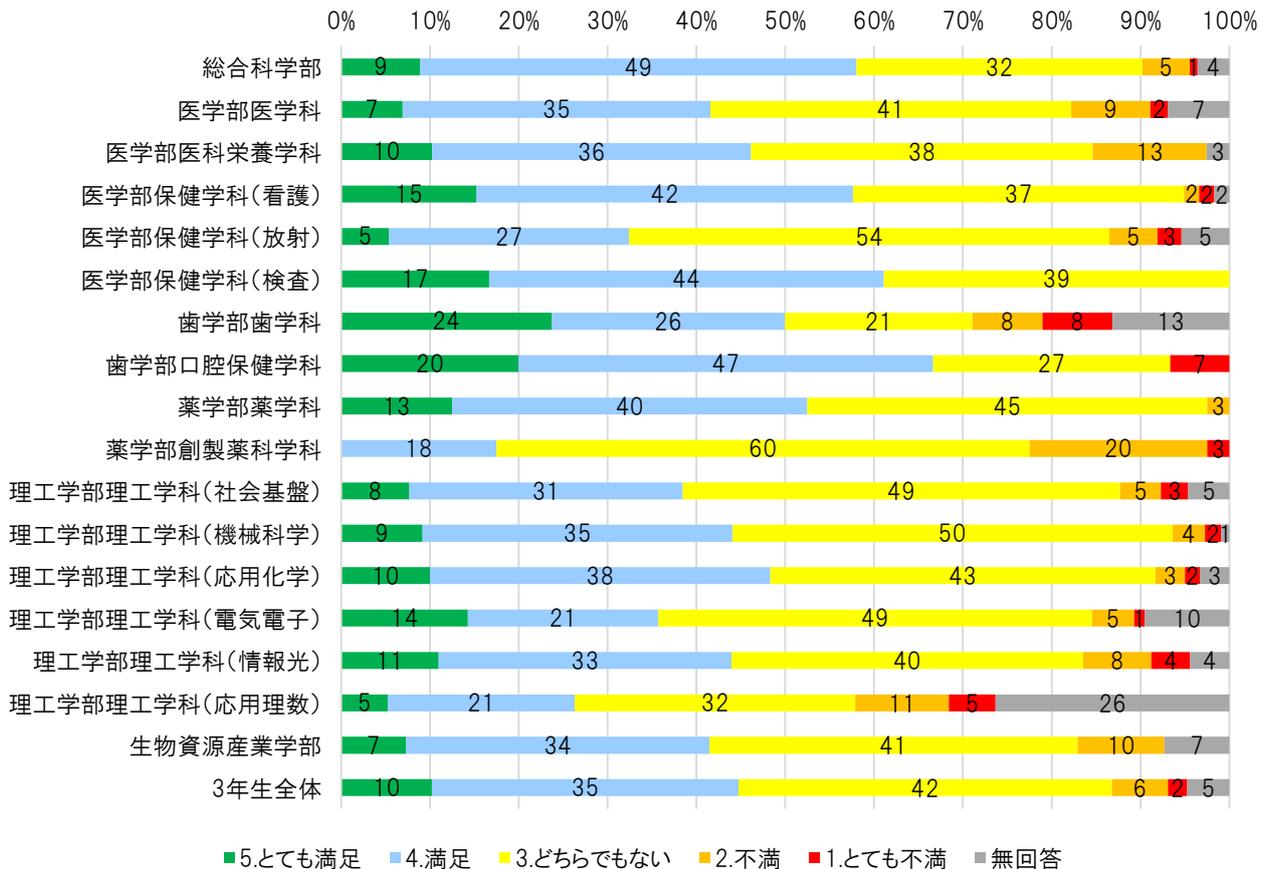
[89]初年次生を対象とした教育プログラム内容(フレッシュマンセミナー、基礎ゼミなど)



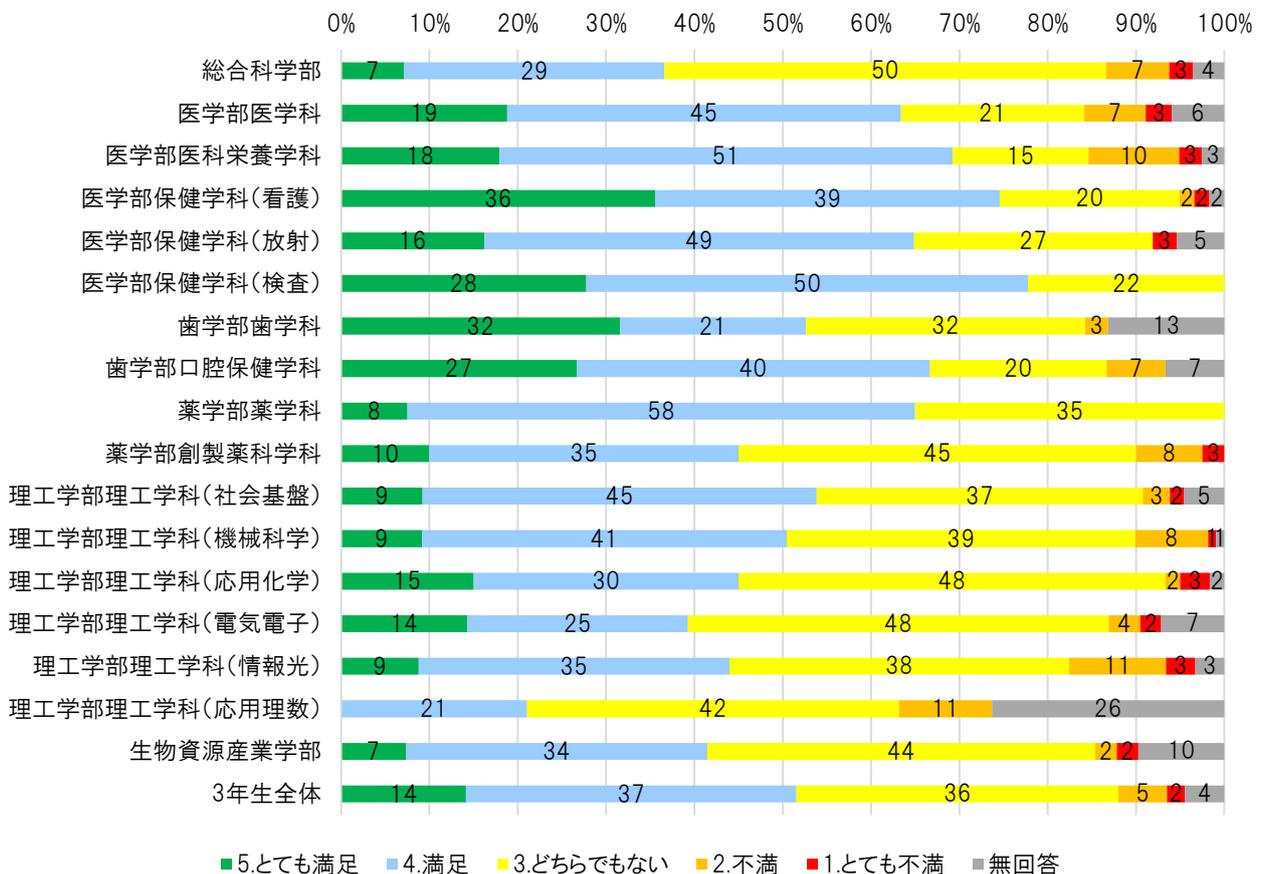
[90]授業の全体的な質



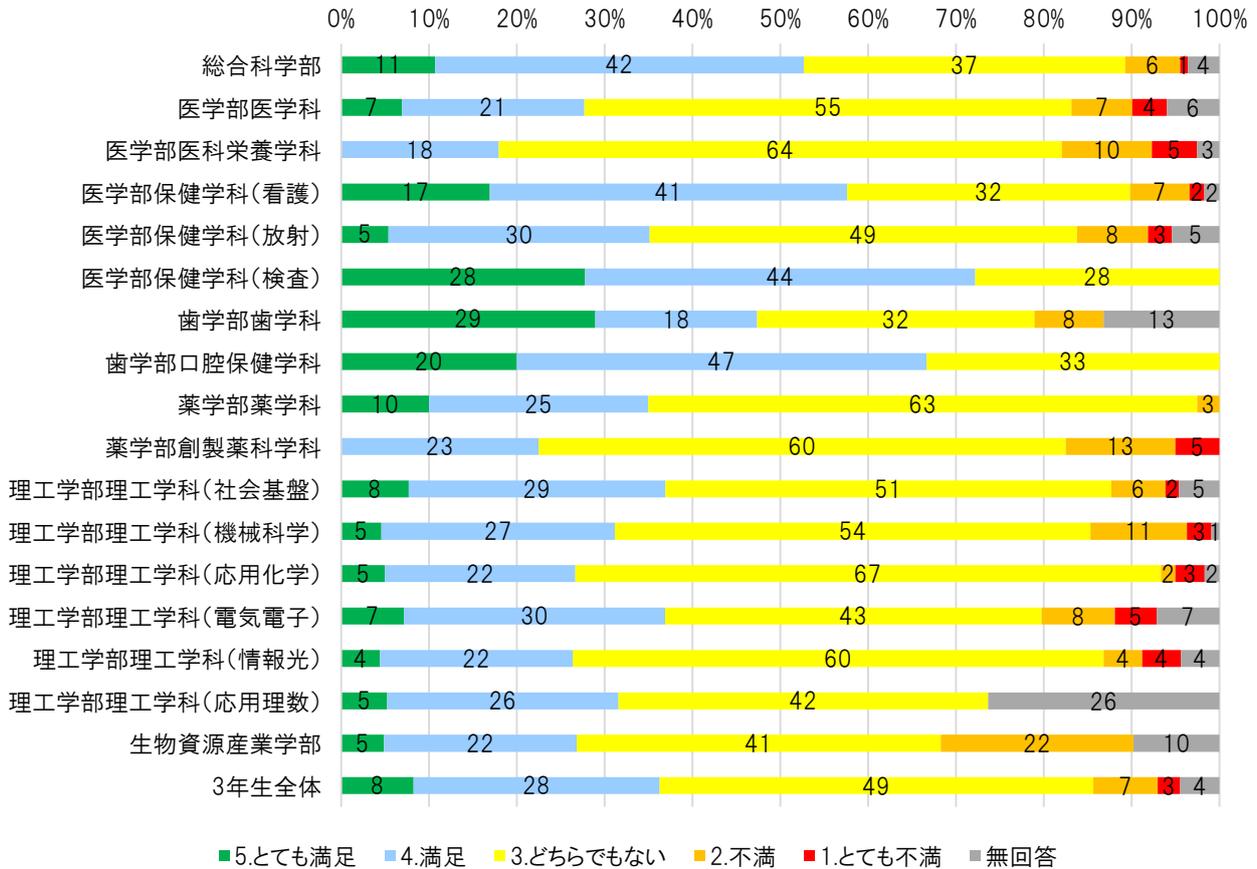
[91]生活と授業内容との関連



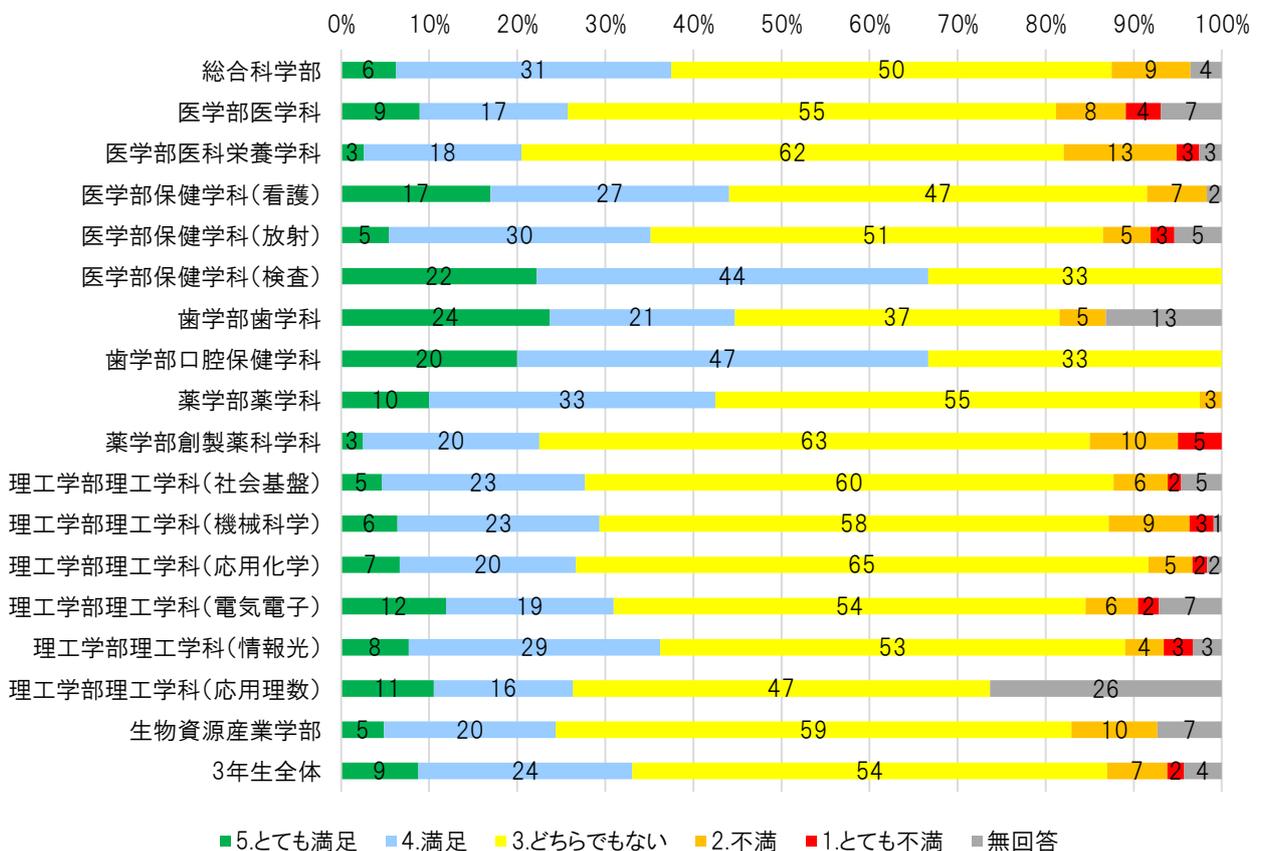
[92]将来の仕事と授業内容の結びつき



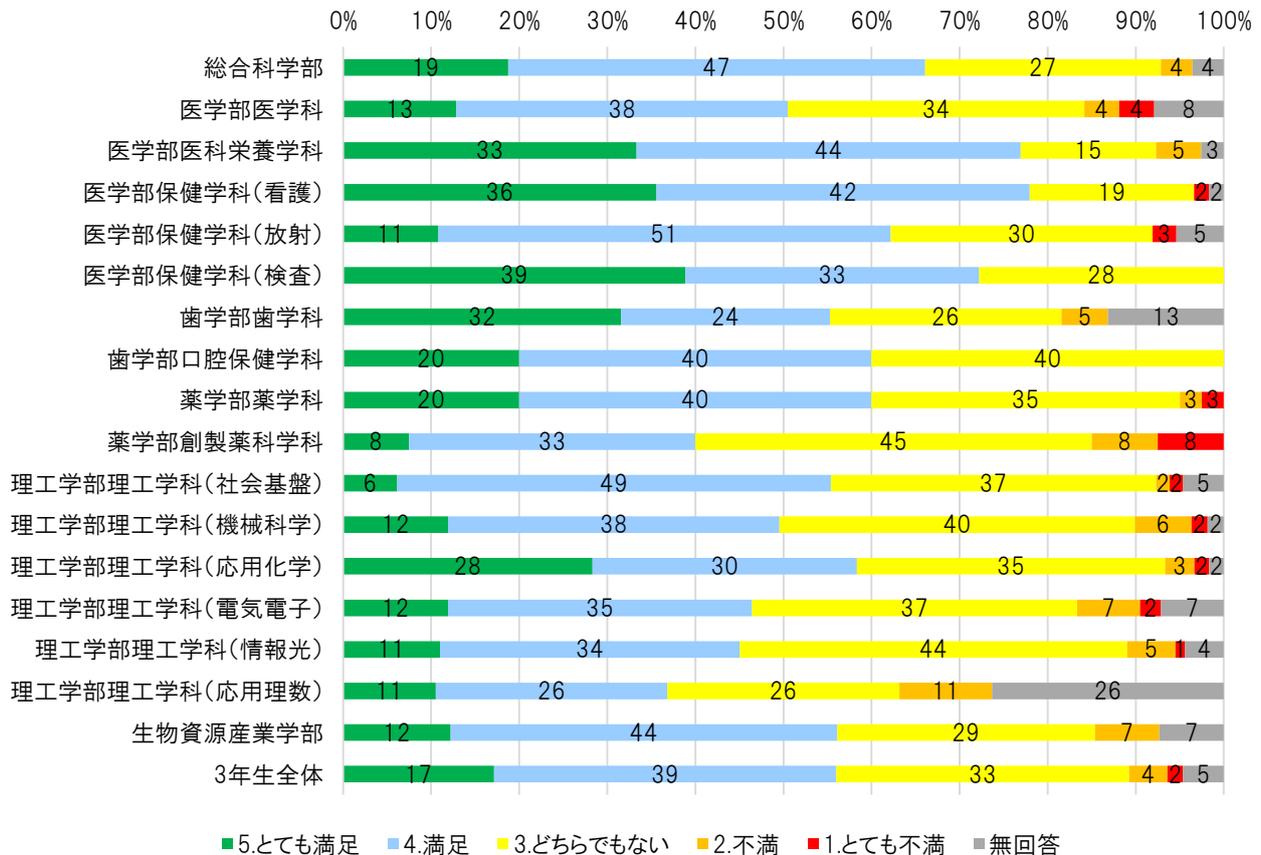
[93] 教員と話をする機会



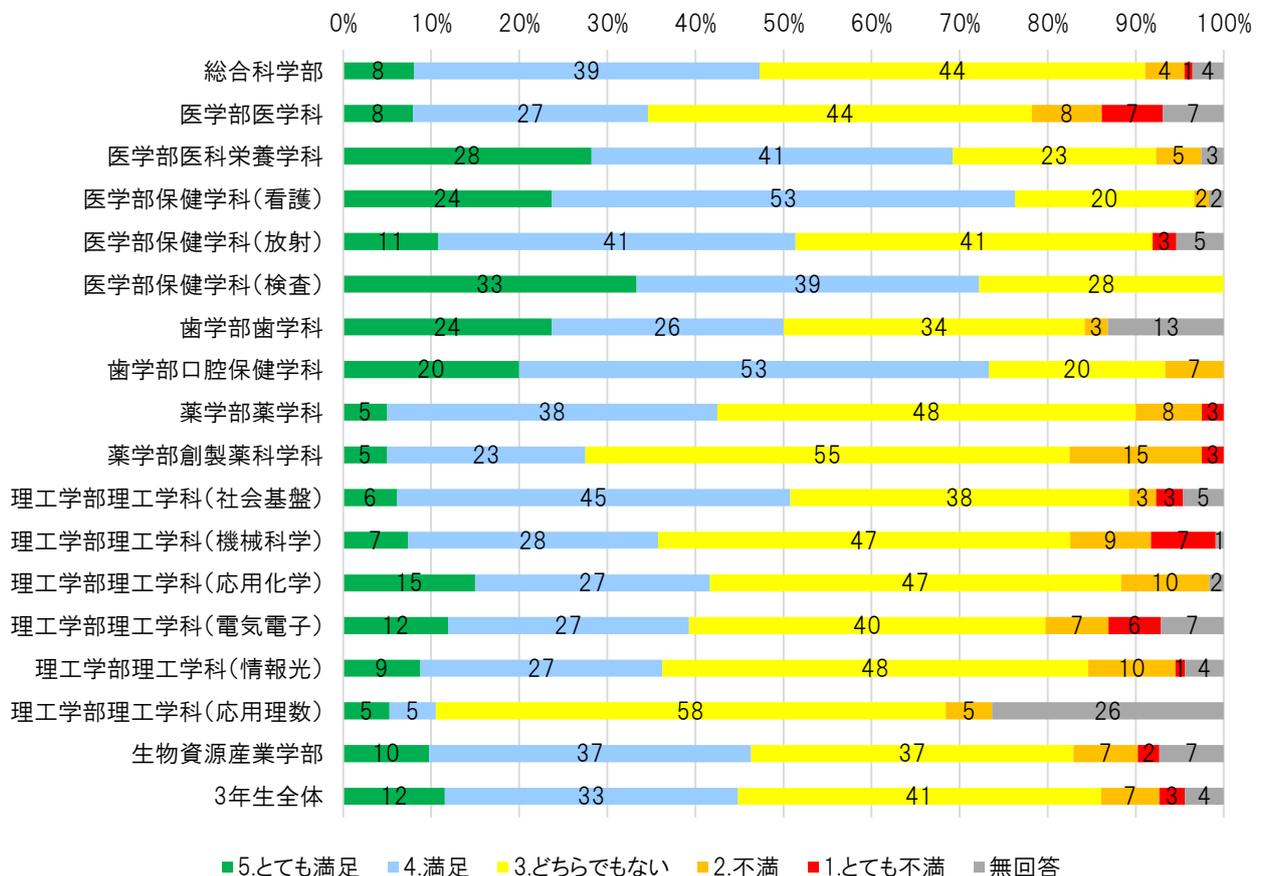
[94] 学習支援や個別の学習指導



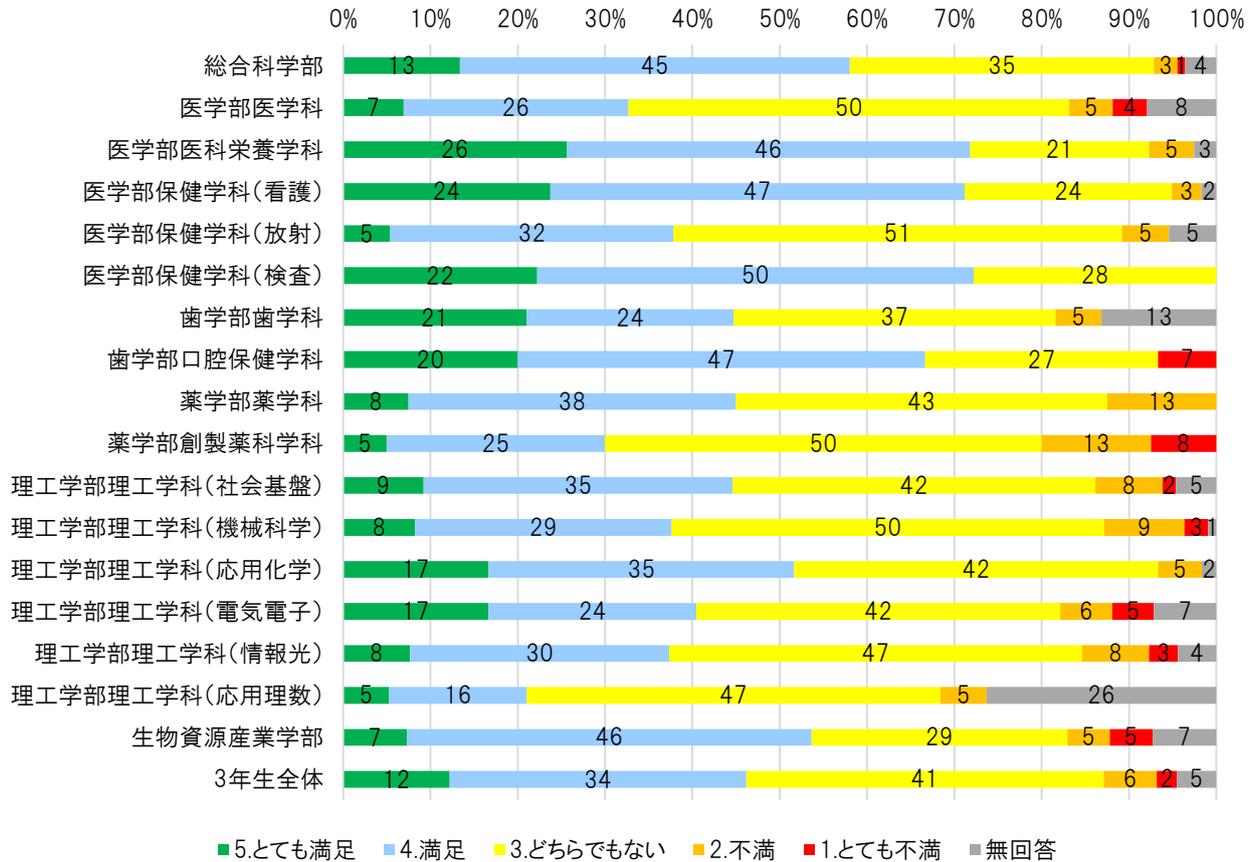
[95]他の学生と話をする機会



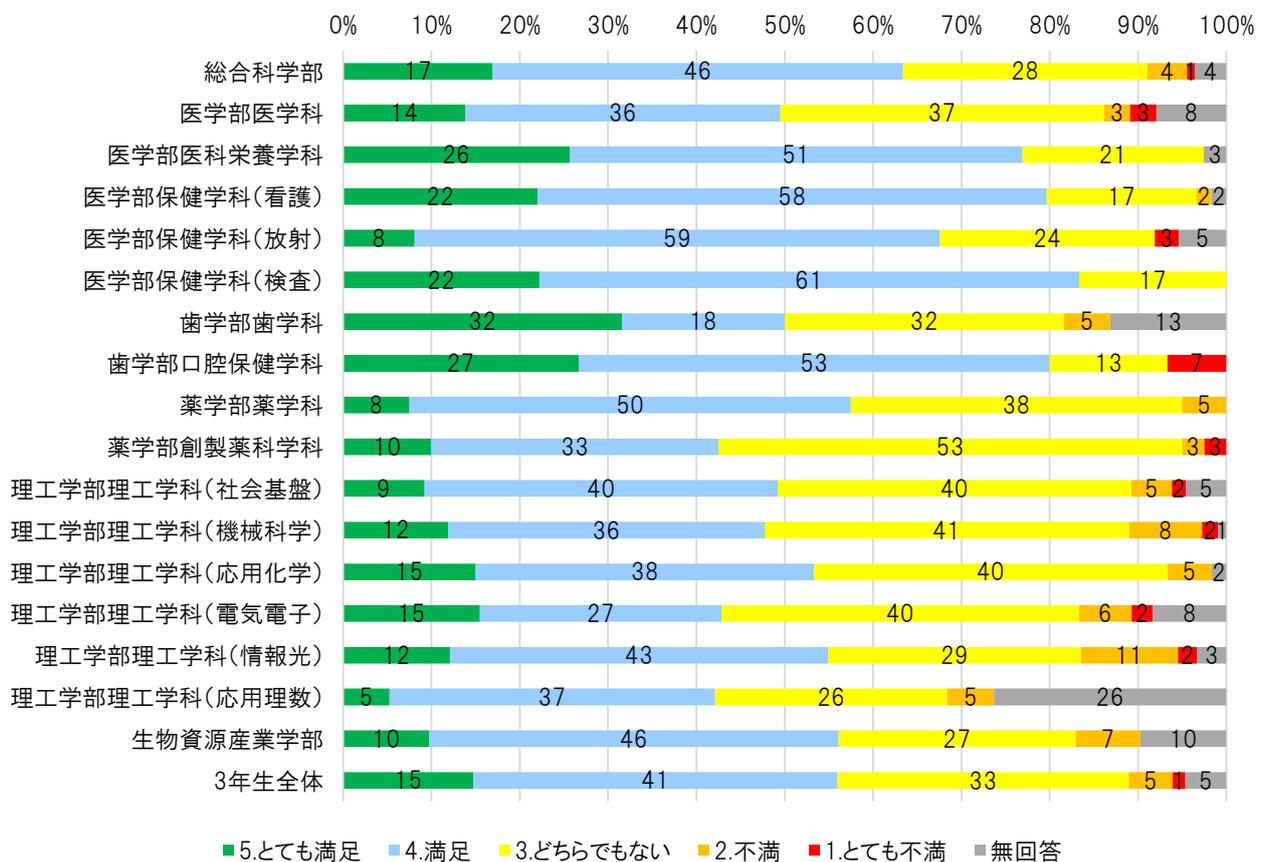
[96]大学のなかでの学生同士の一体感



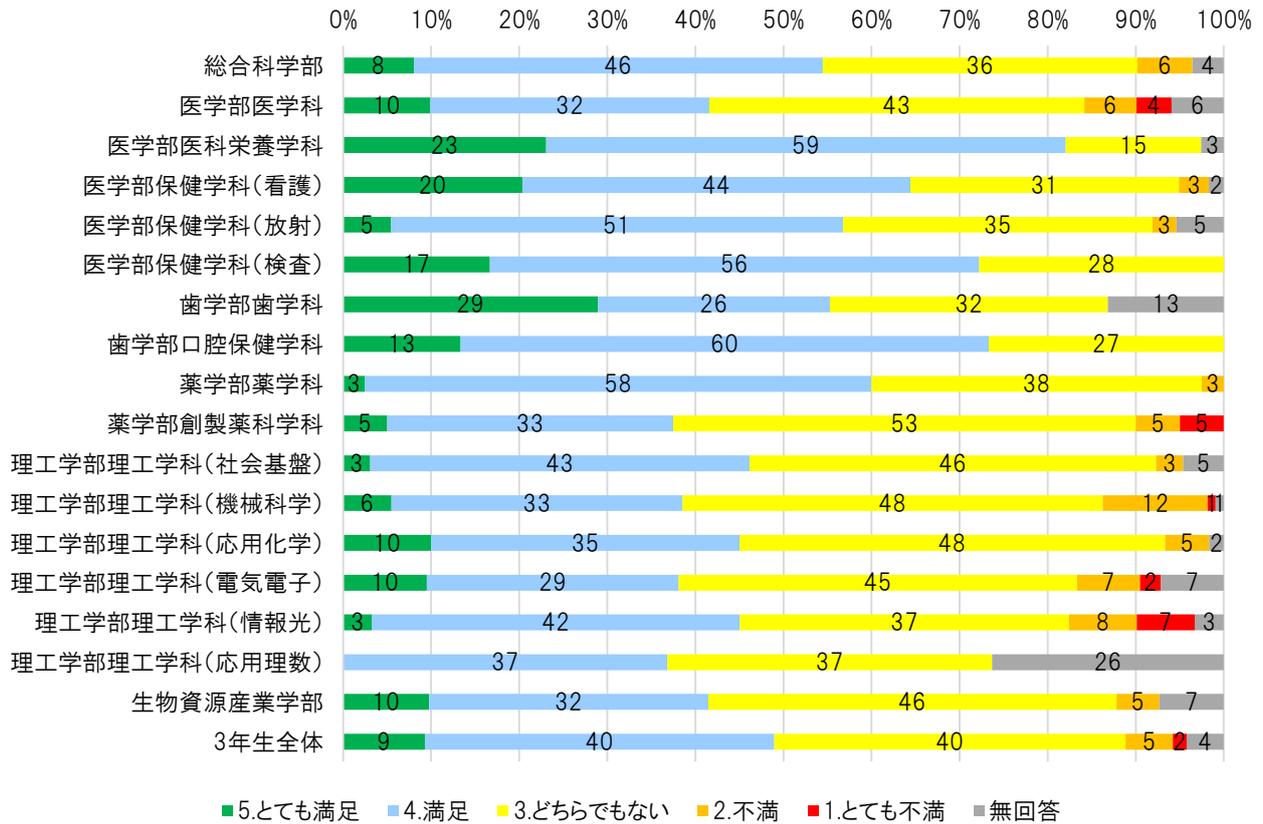
[97]多様な考え方を認め合う雰囲気



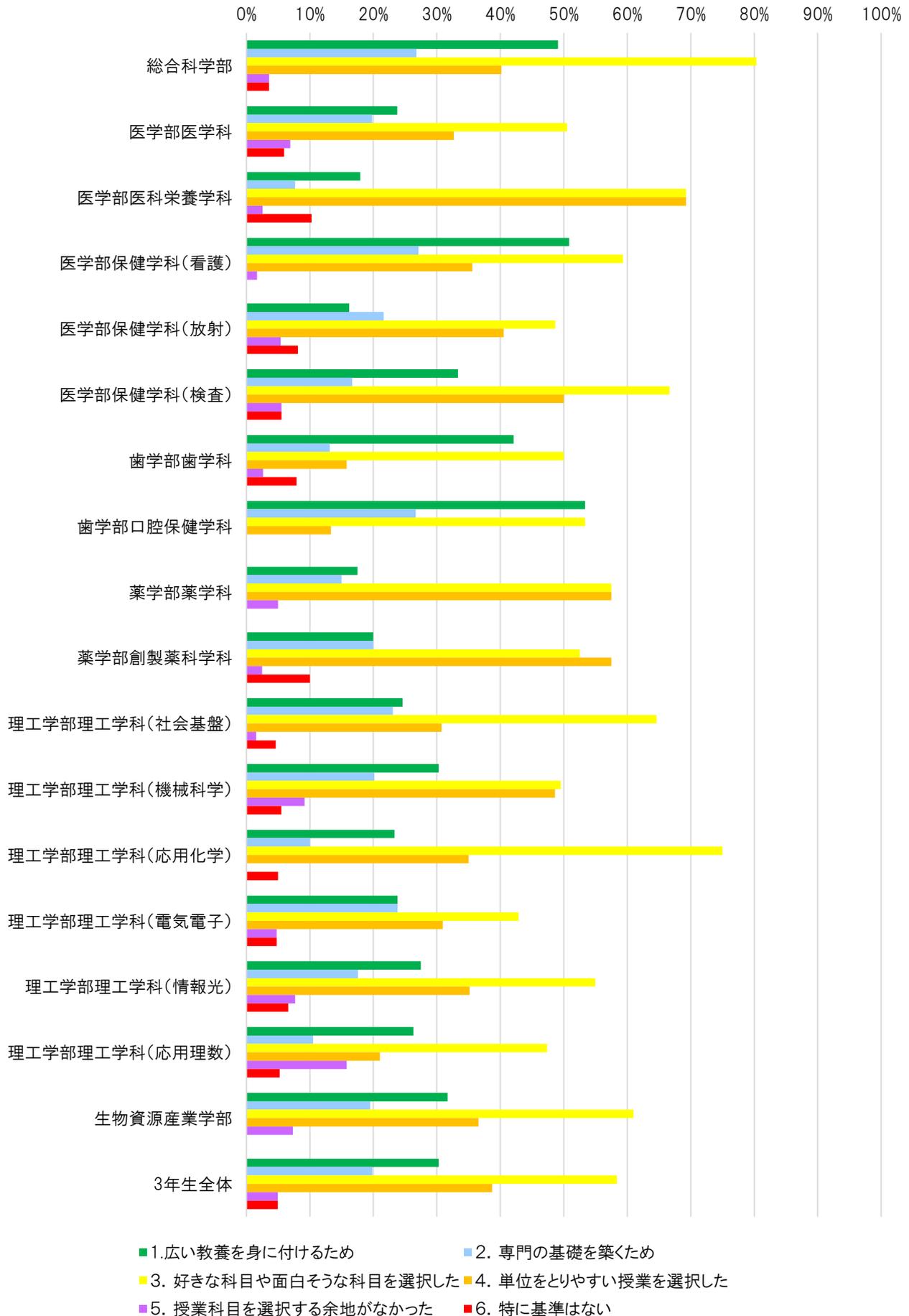
[98]大学での経験全般について



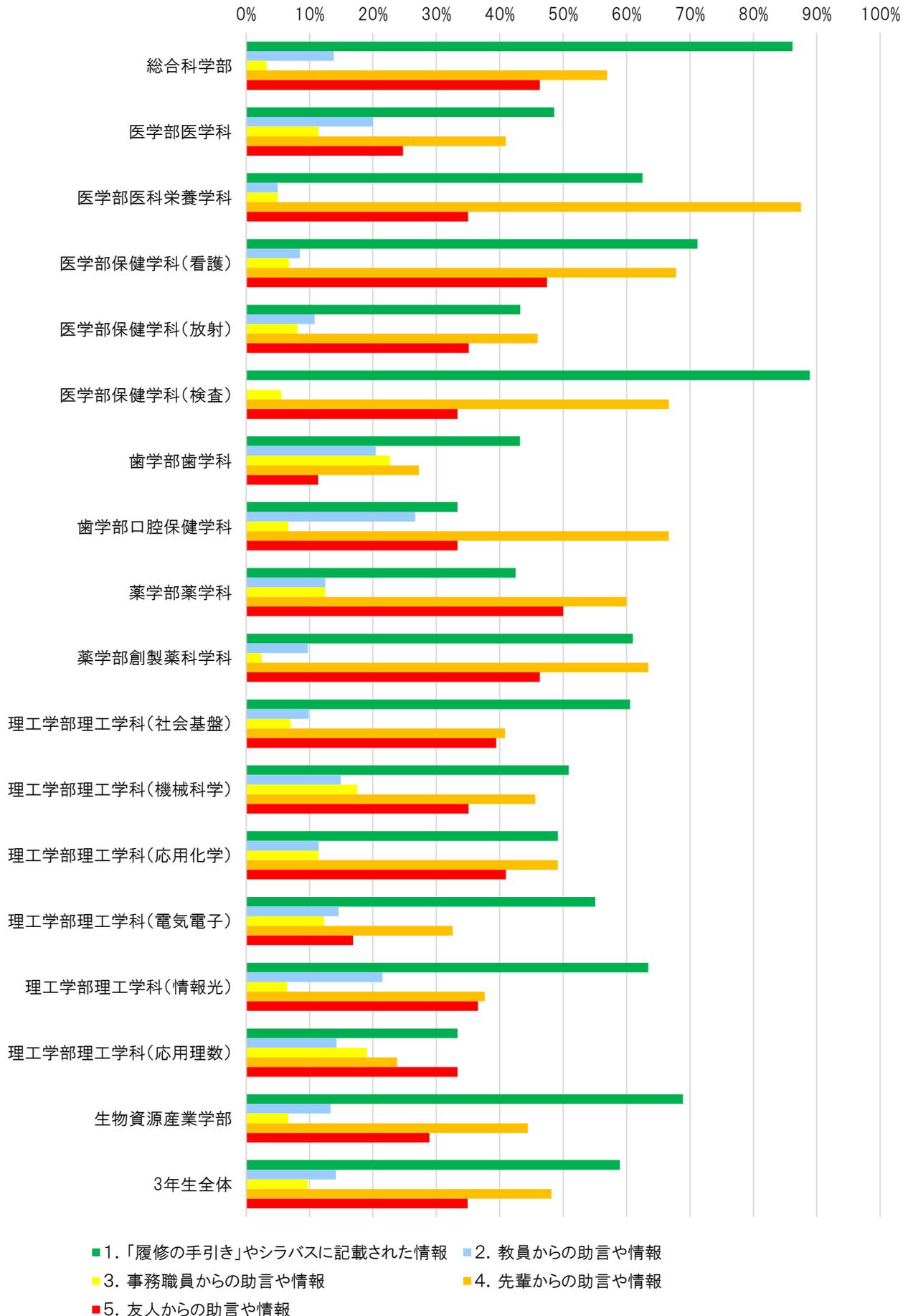
[99]1つの授業を履修する学生数



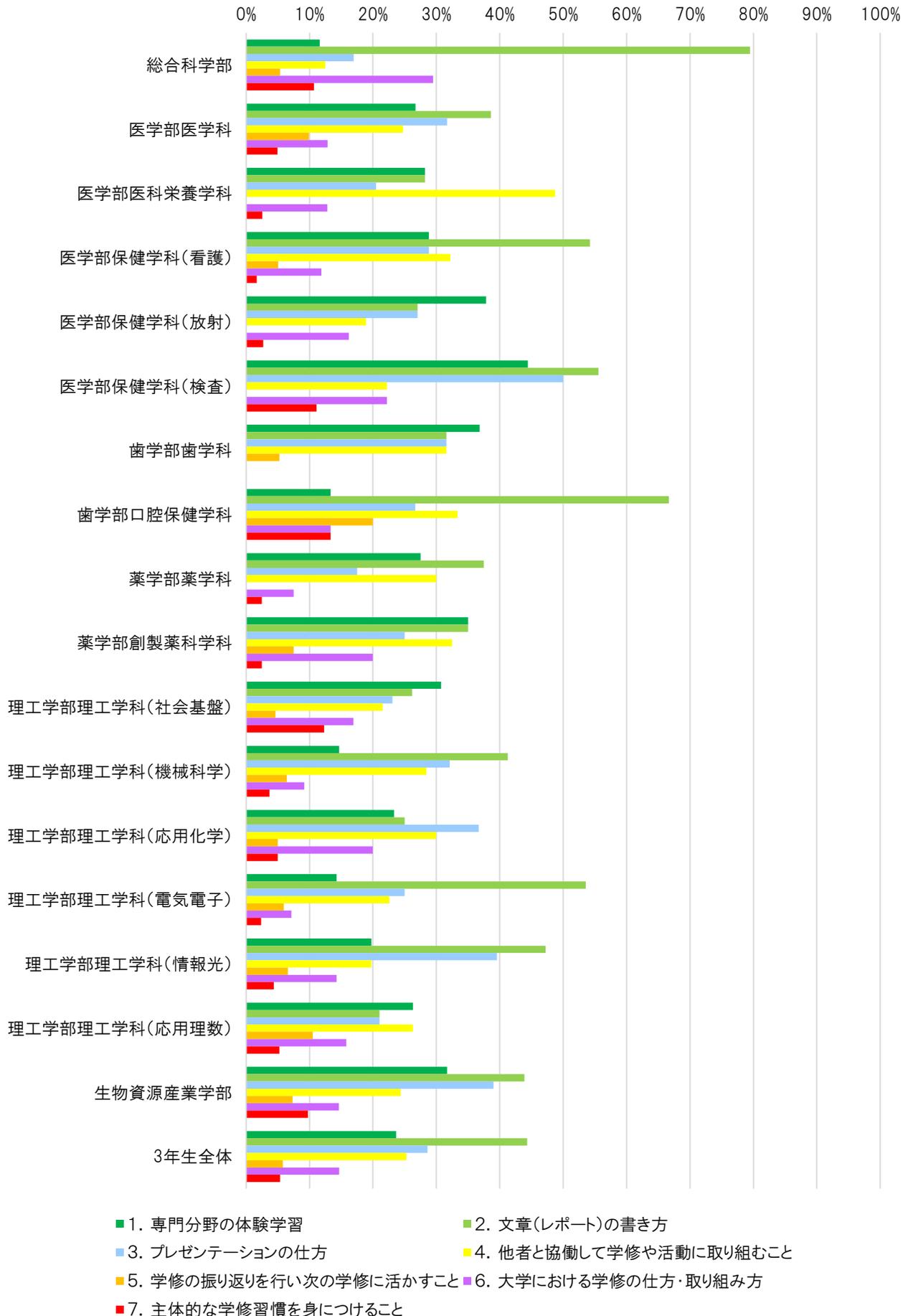
[100]教養教育科目の選択はどういう基準で行いましたか。(複数回答可)



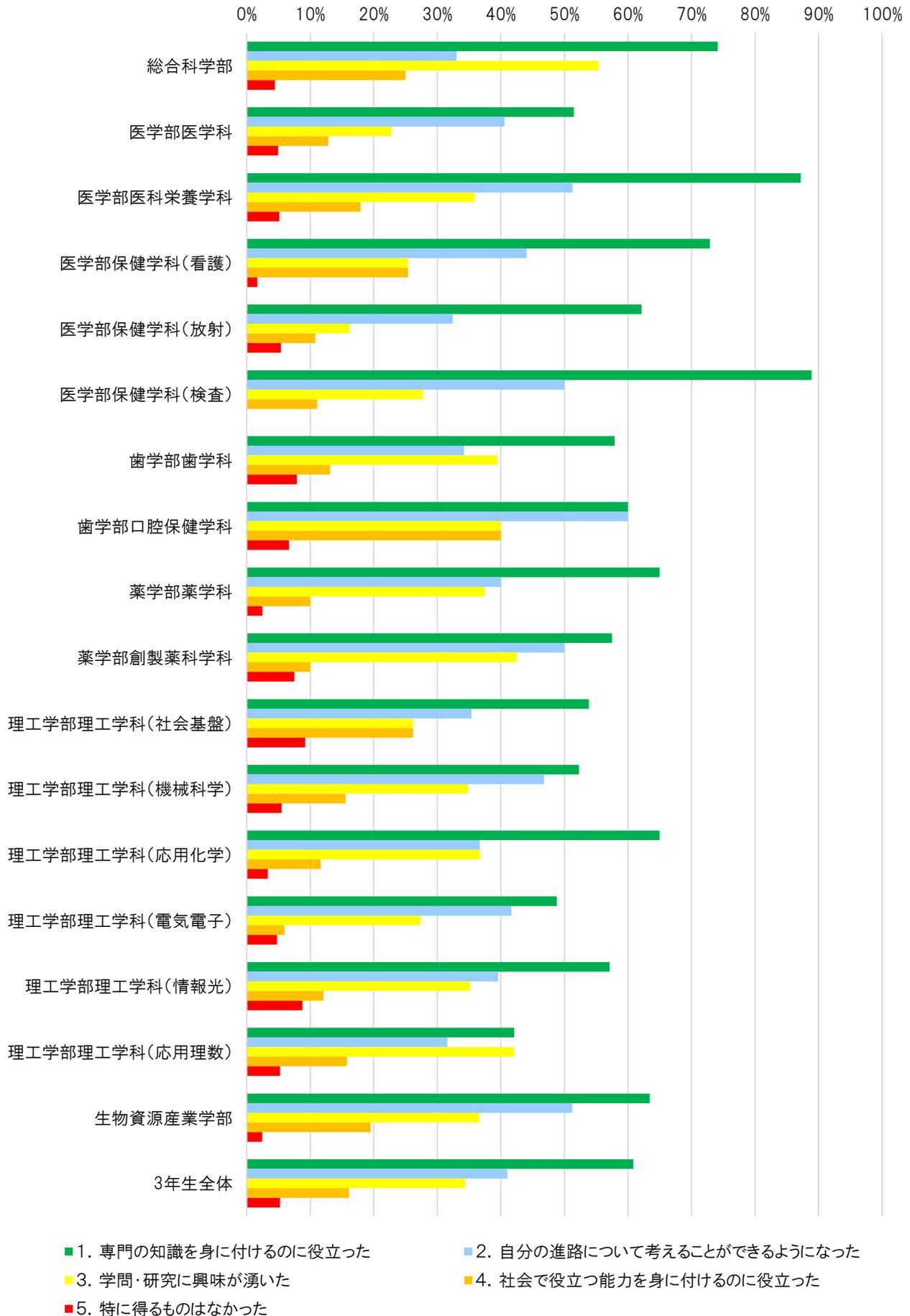
[101]教養教育科目の選択にあたって重視した情報源はなんですか。(複数回答可)



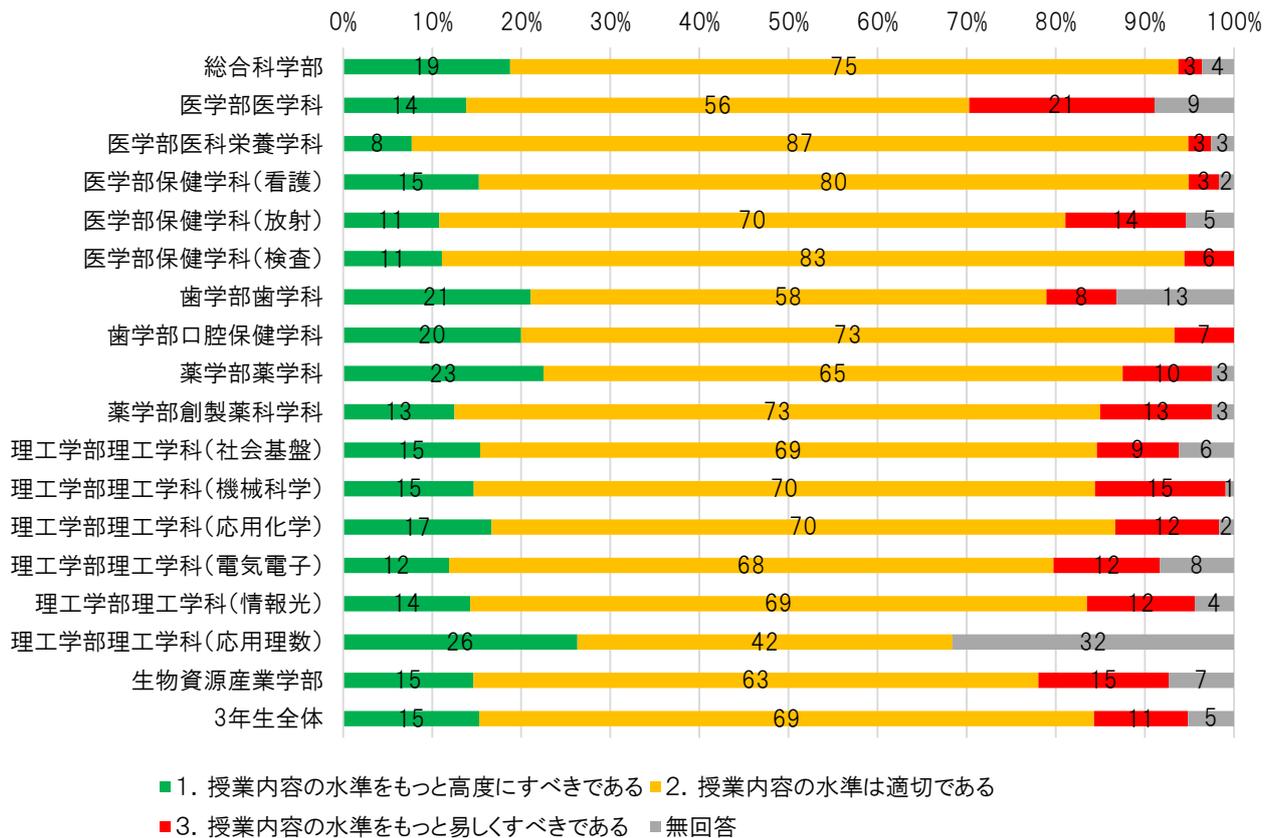
〔102〕「SIH 道場」で学んだ内容のうち、役に立っている項目をすべて選択してください。(複数回答可)



[103]専門教育科目の授業を受けて何を学ぶことができると感じますか。(複数回答可)

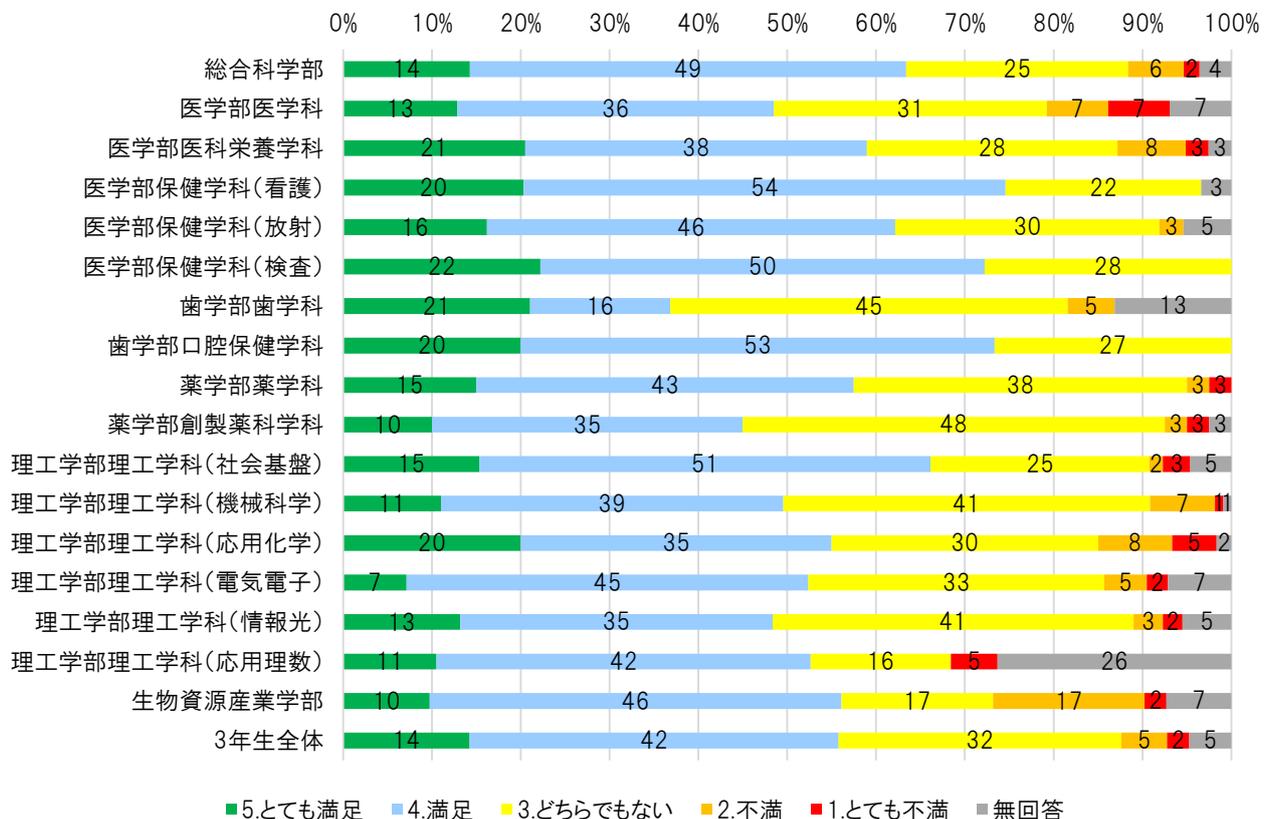


[104]授業内容の難易度についてどう思いますか。

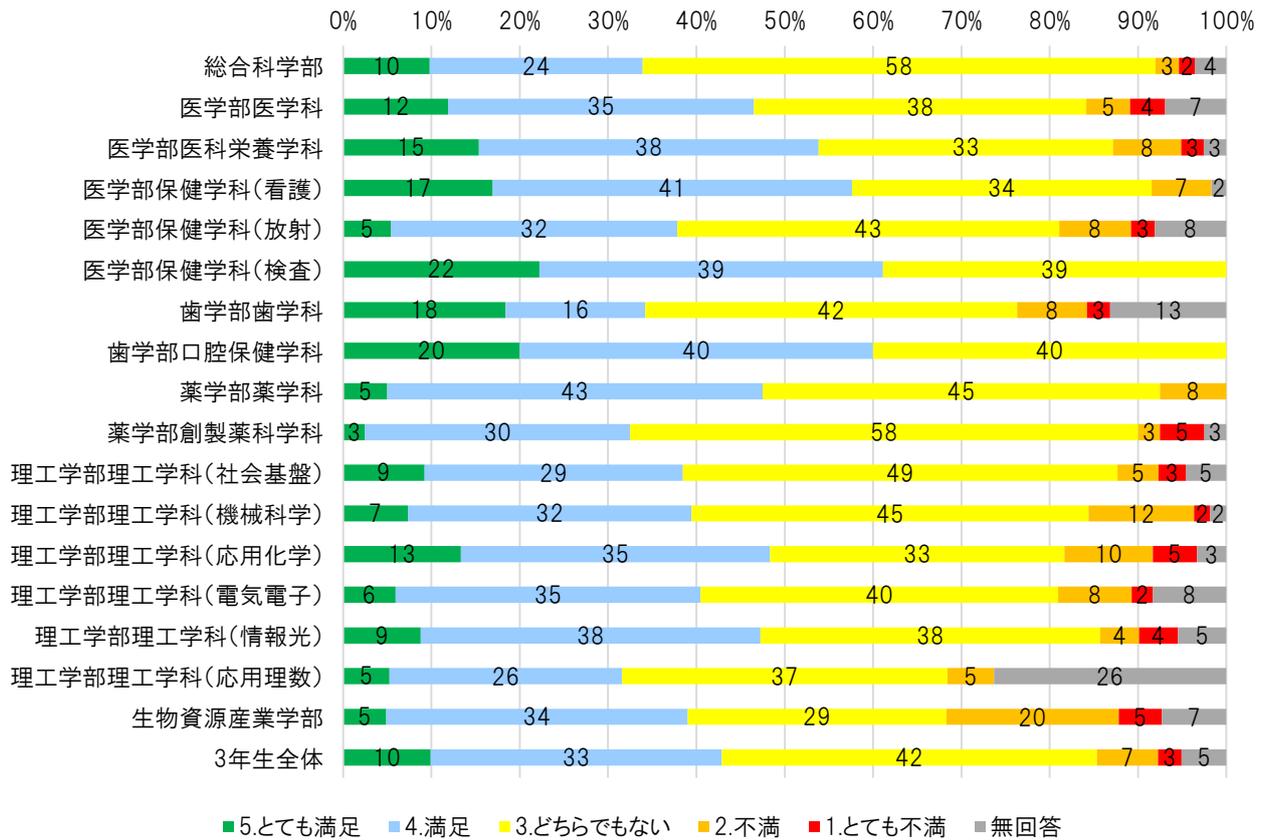


あなたは、本学の設備や学生支援制度にどの程度満足していますか。

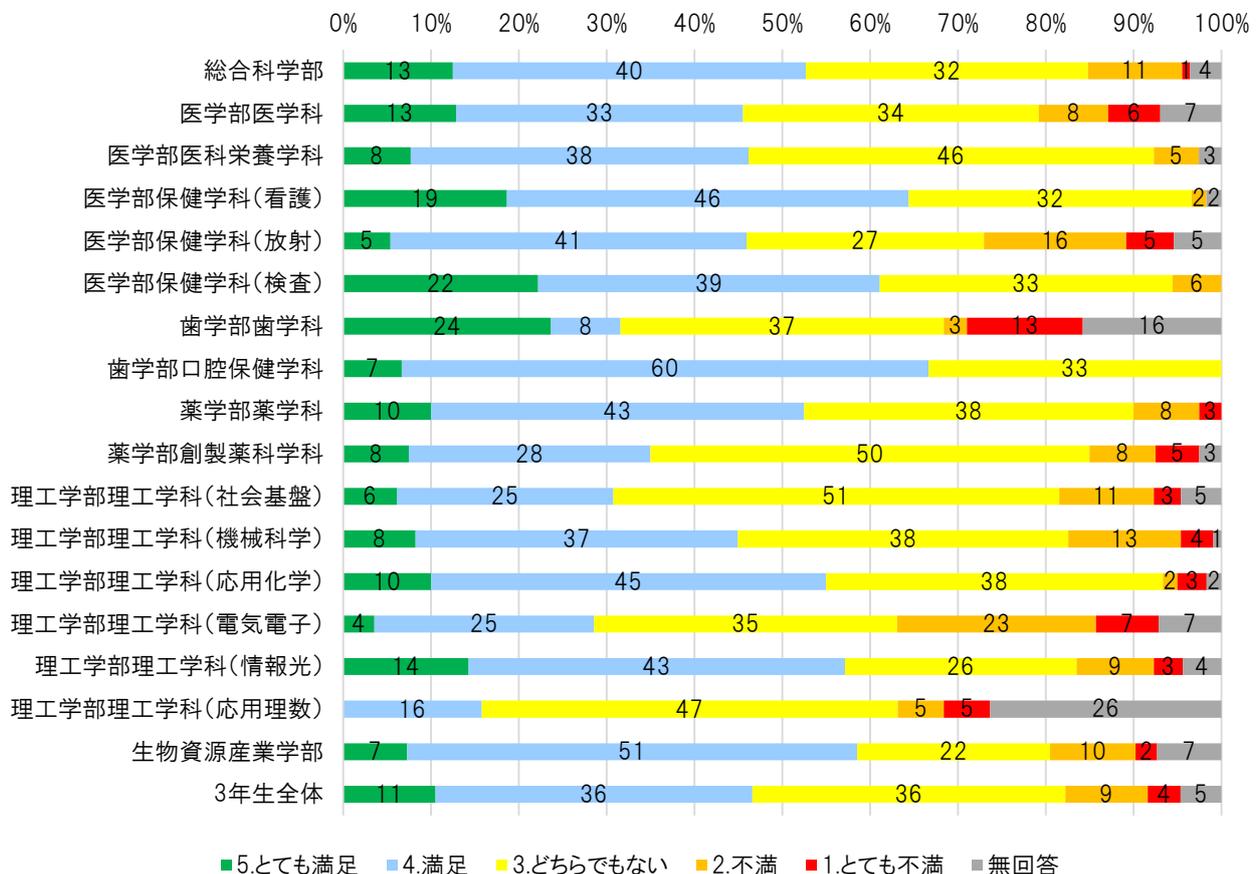
[105]図書館の設備(蔵書やレファレンスサービス)



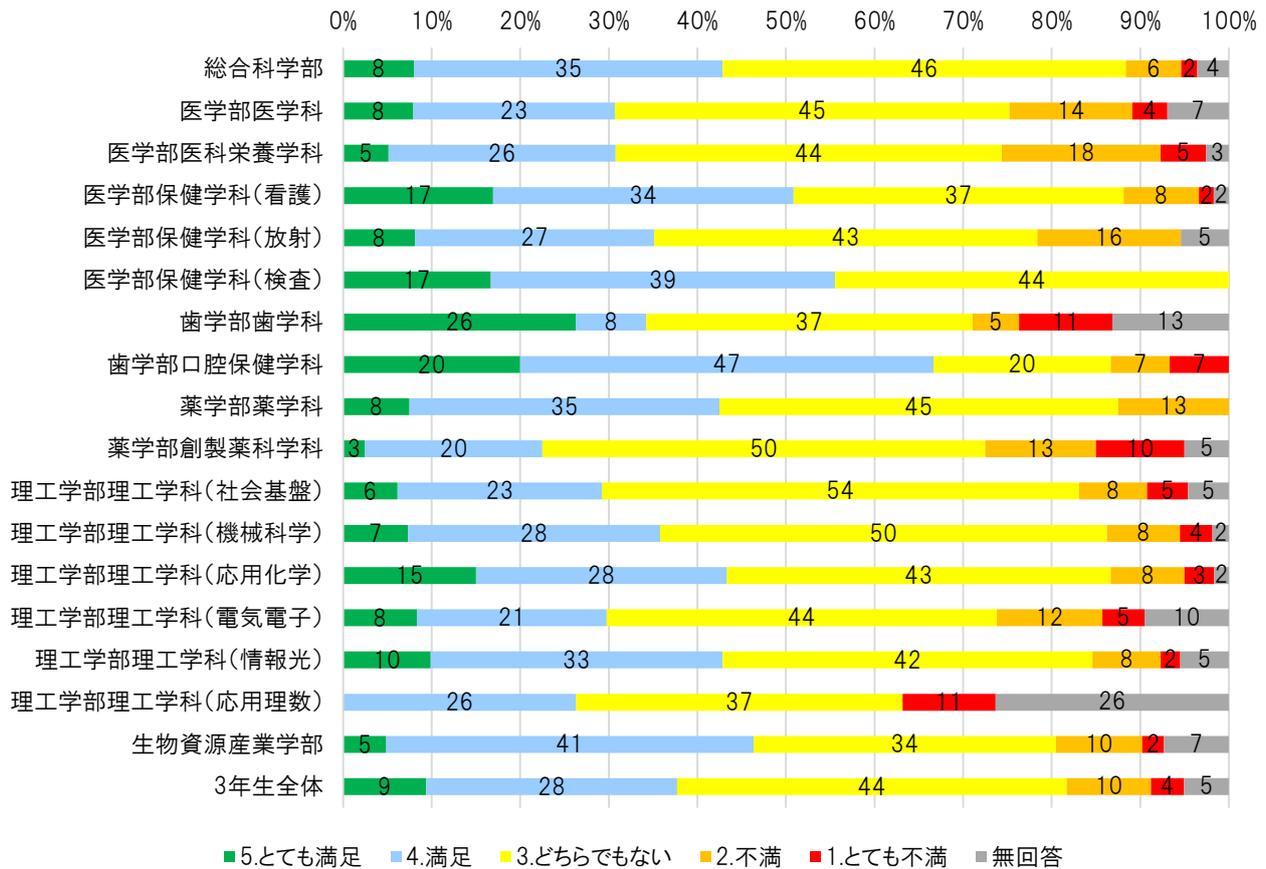
[106]実験室の設備や器具



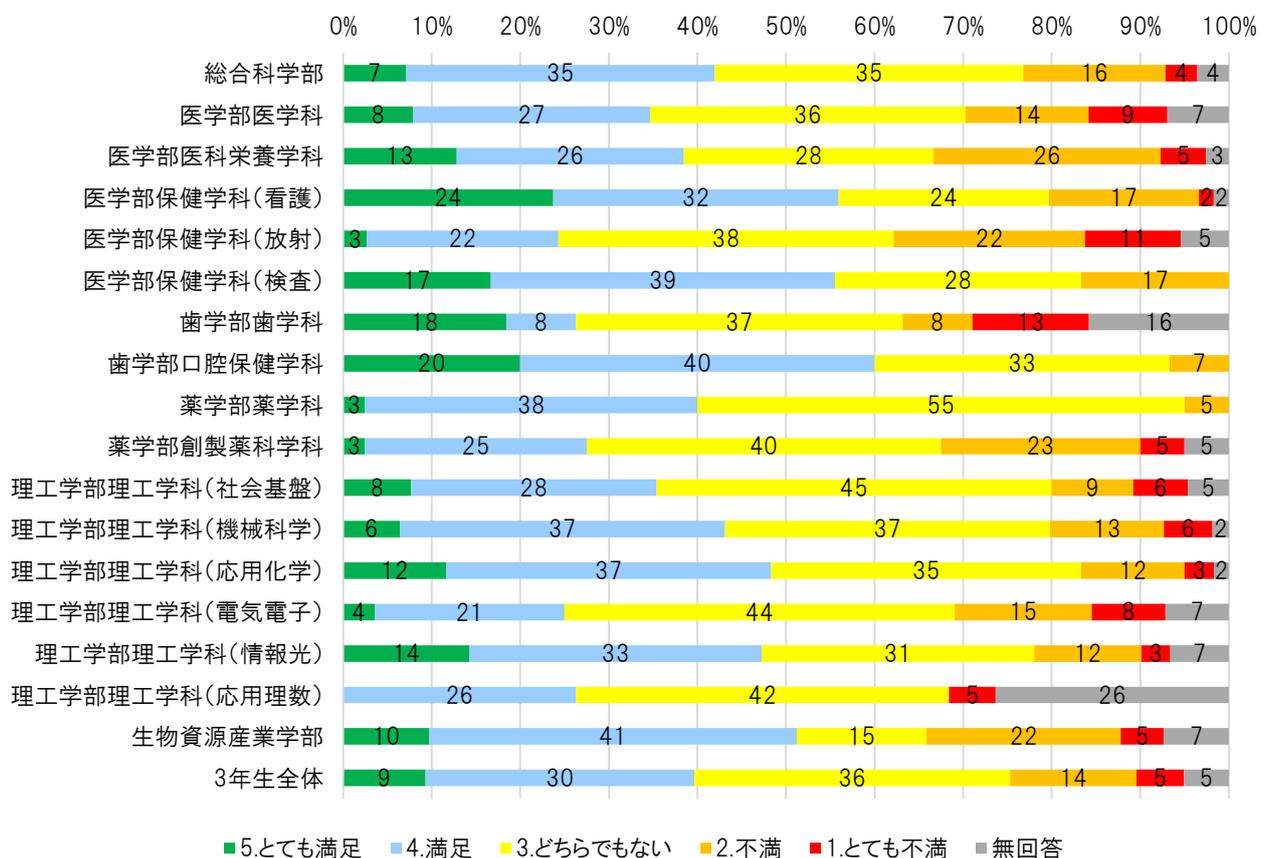
[107]コンピュータの施設や設備



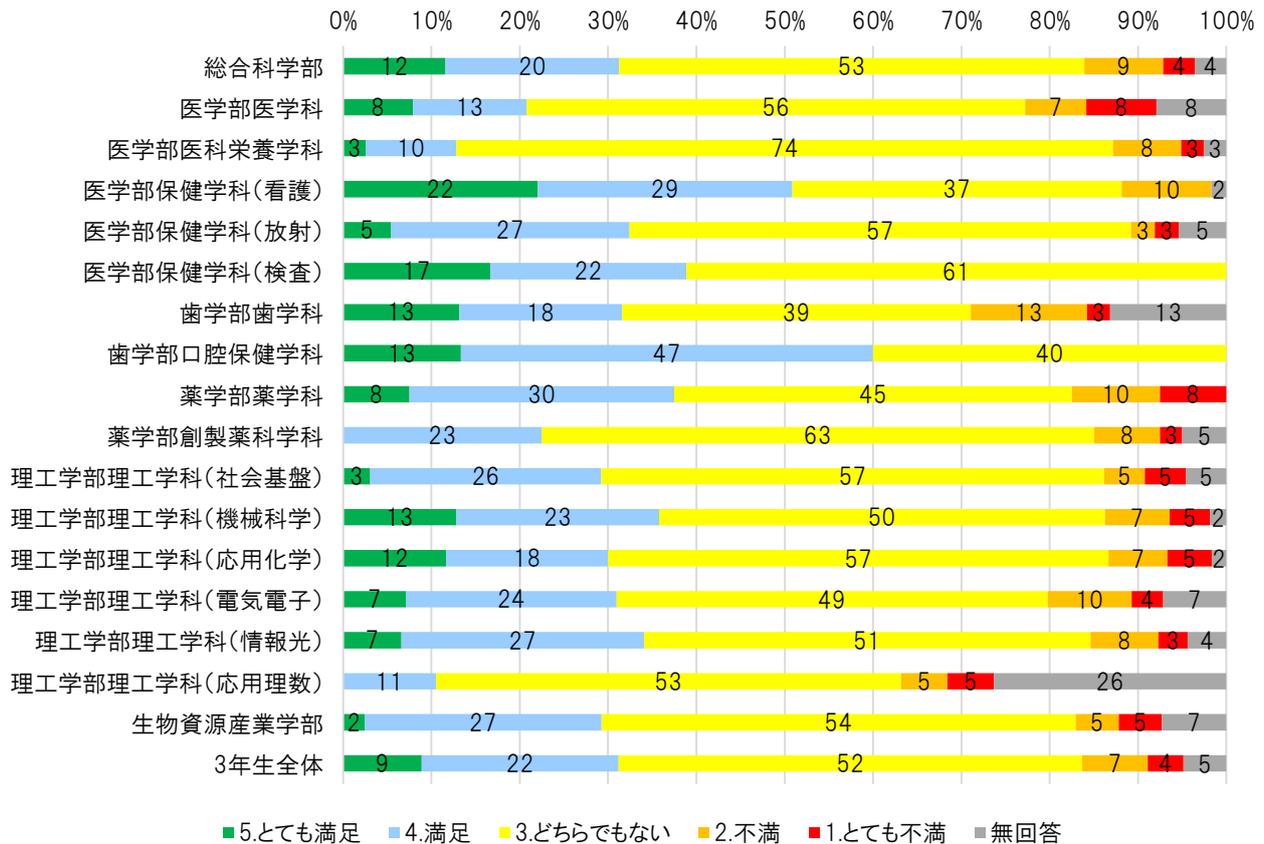
[108] コンピュータの訓練や援助



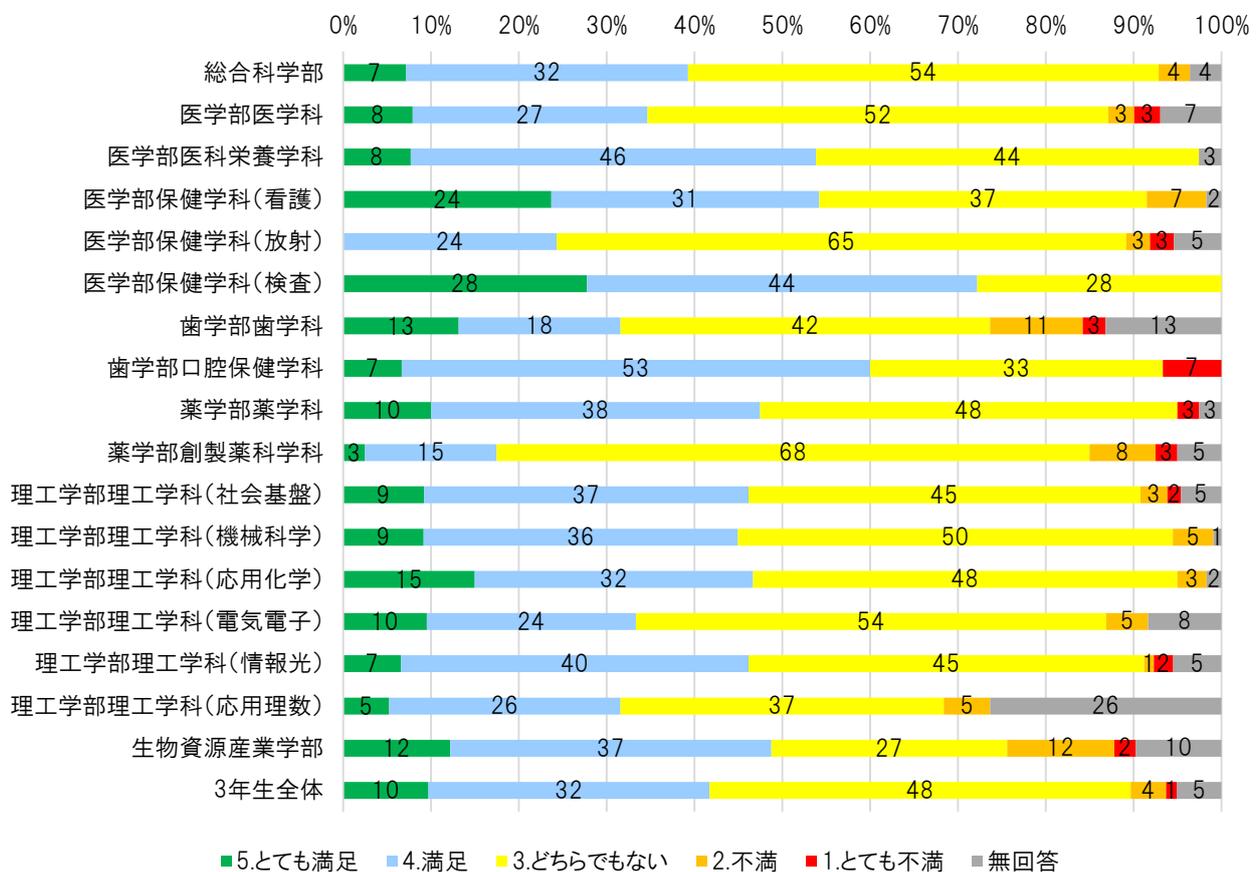
[109] インターネットの使いやすさ



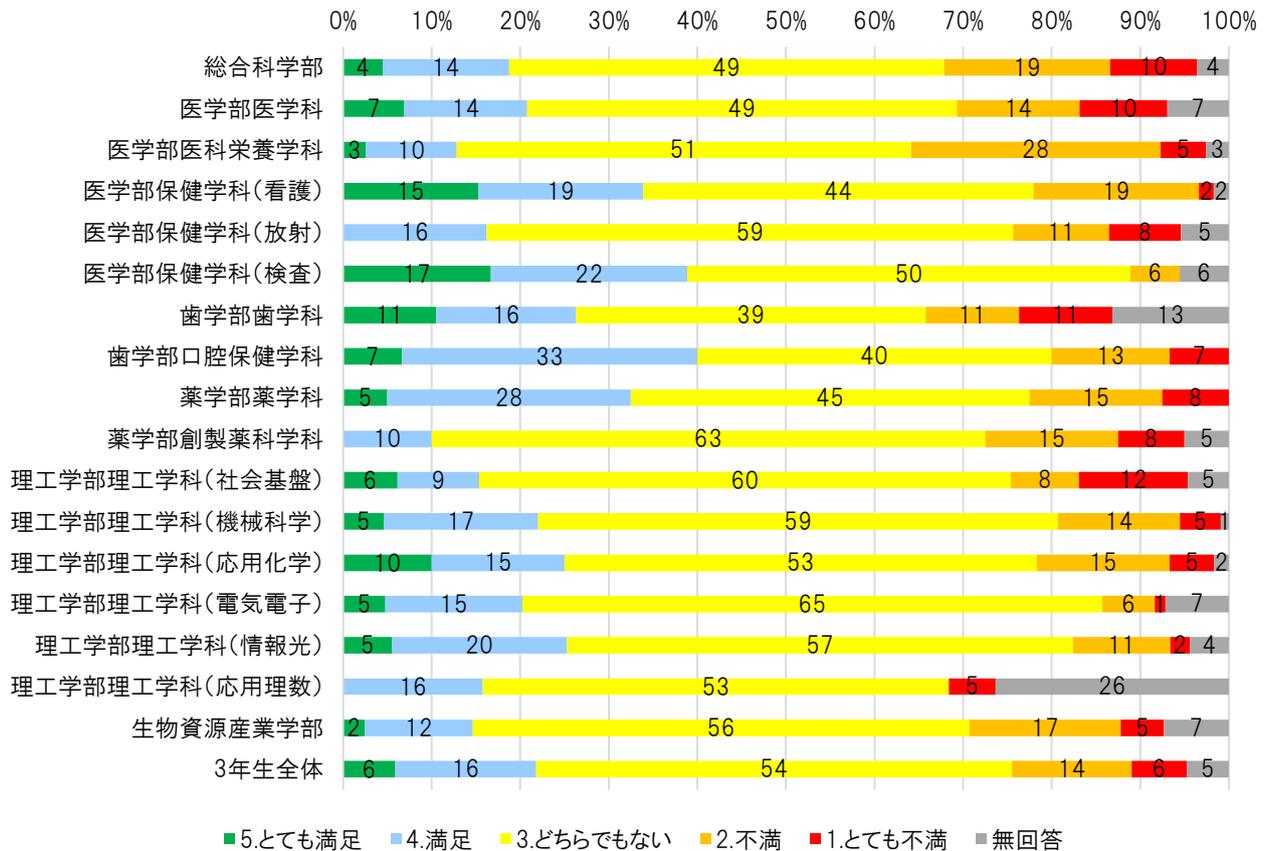
[110]奨学金など学費援助の制度



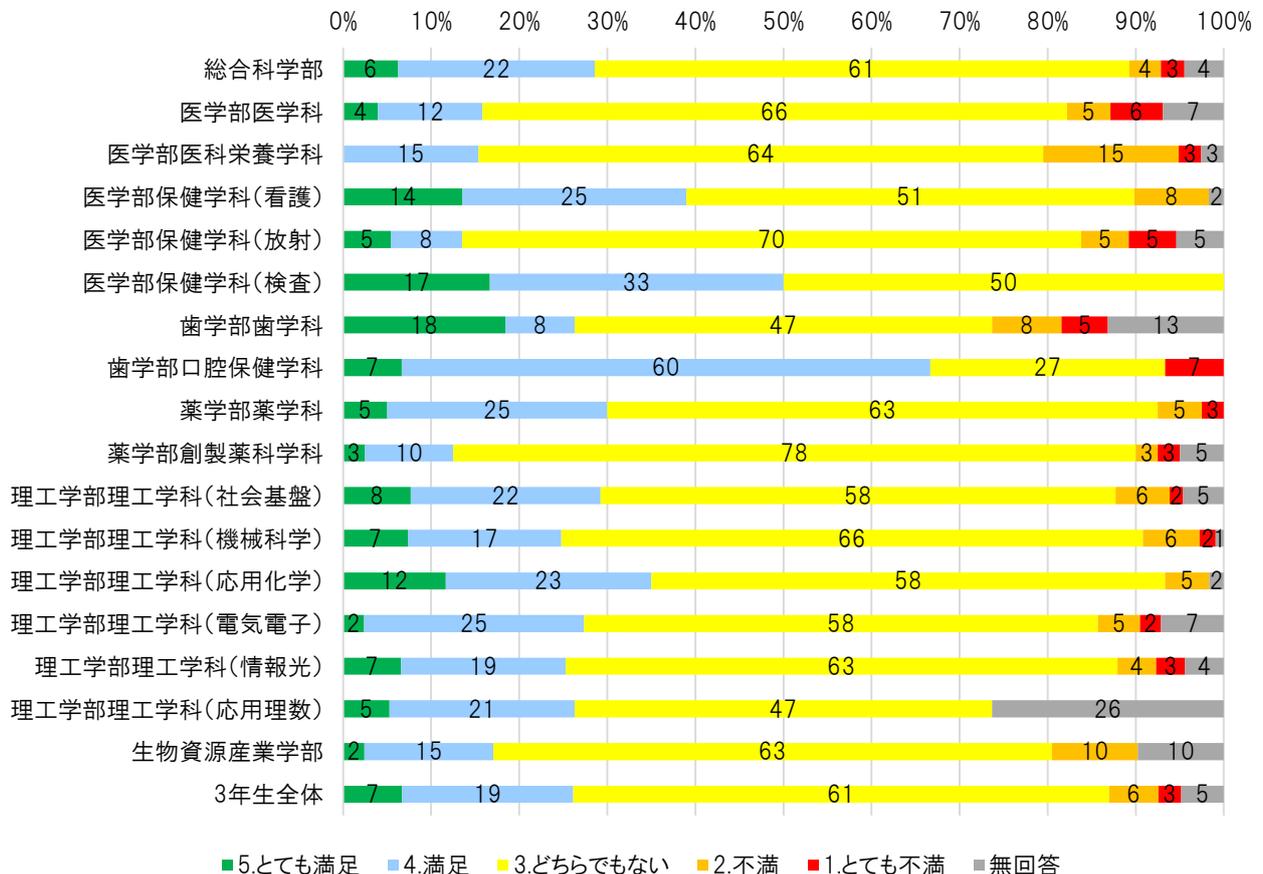
[111]健康・保健サービス(心身の健康に関わる問題についての診療や相談)



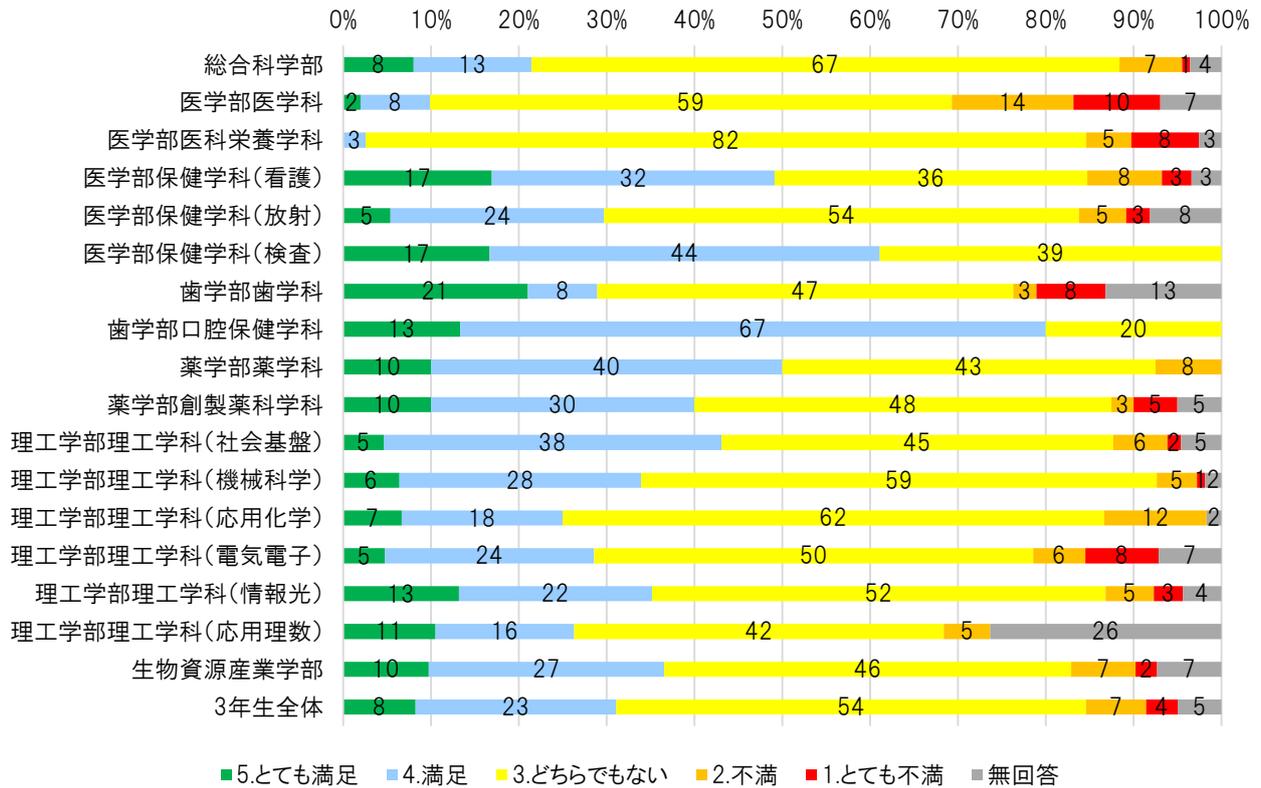
[112]レクリエーション施設(ジムの設備など)



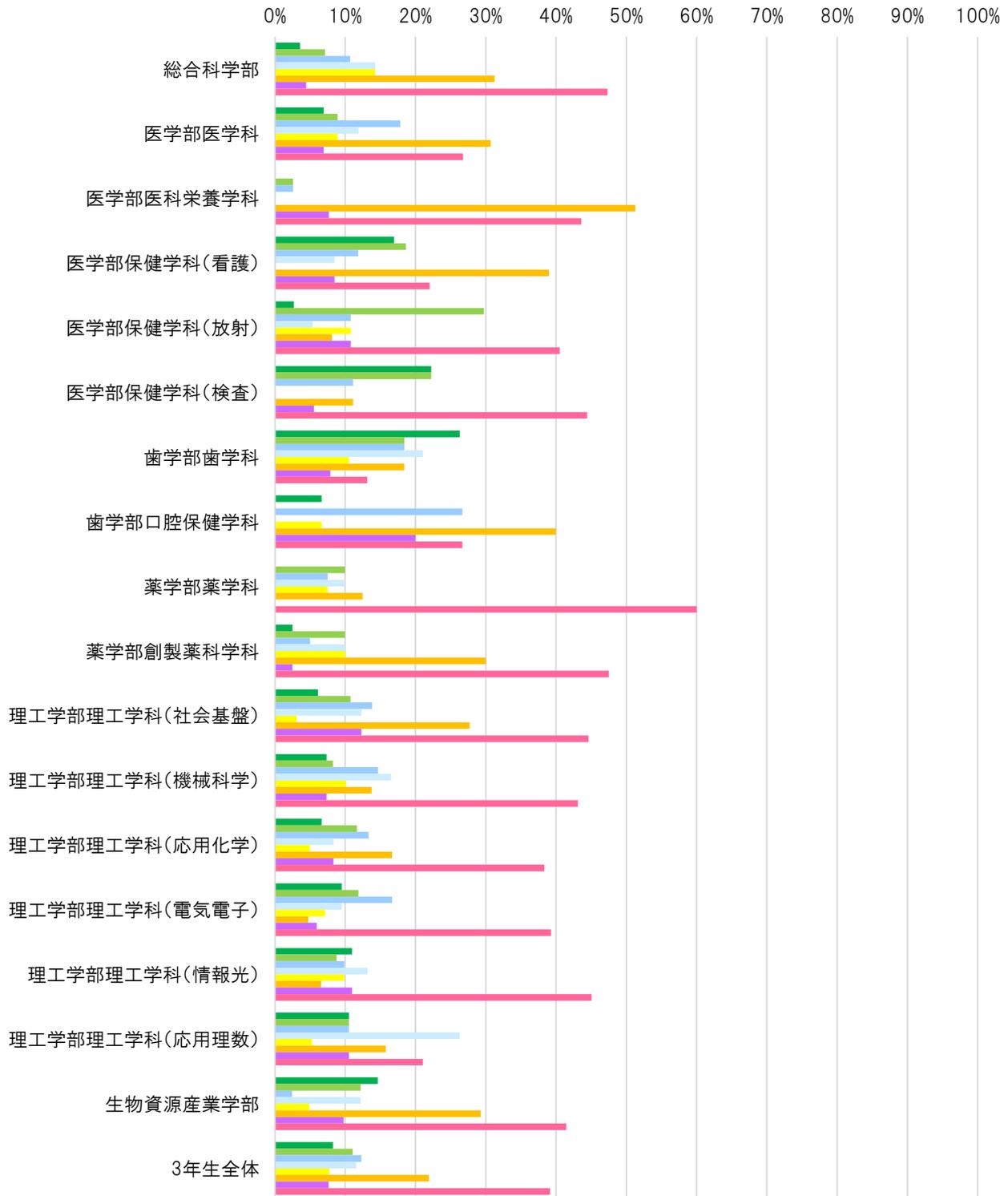
[113]キャリアカウンセリング(就職や進学に関する相談)



[114]クラス担任制度

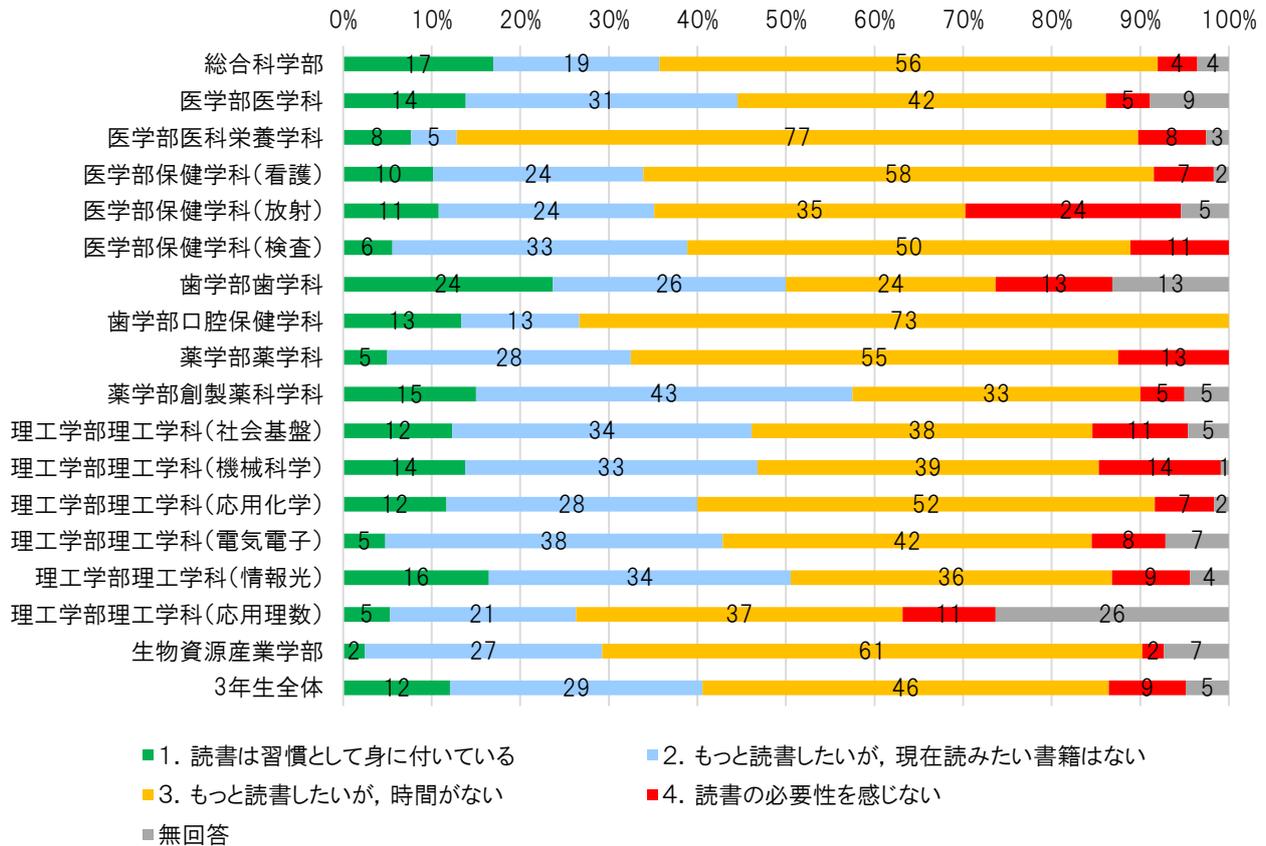


[115]図書館のどんな学修支援サービスを利用していますか。(複数回答可)

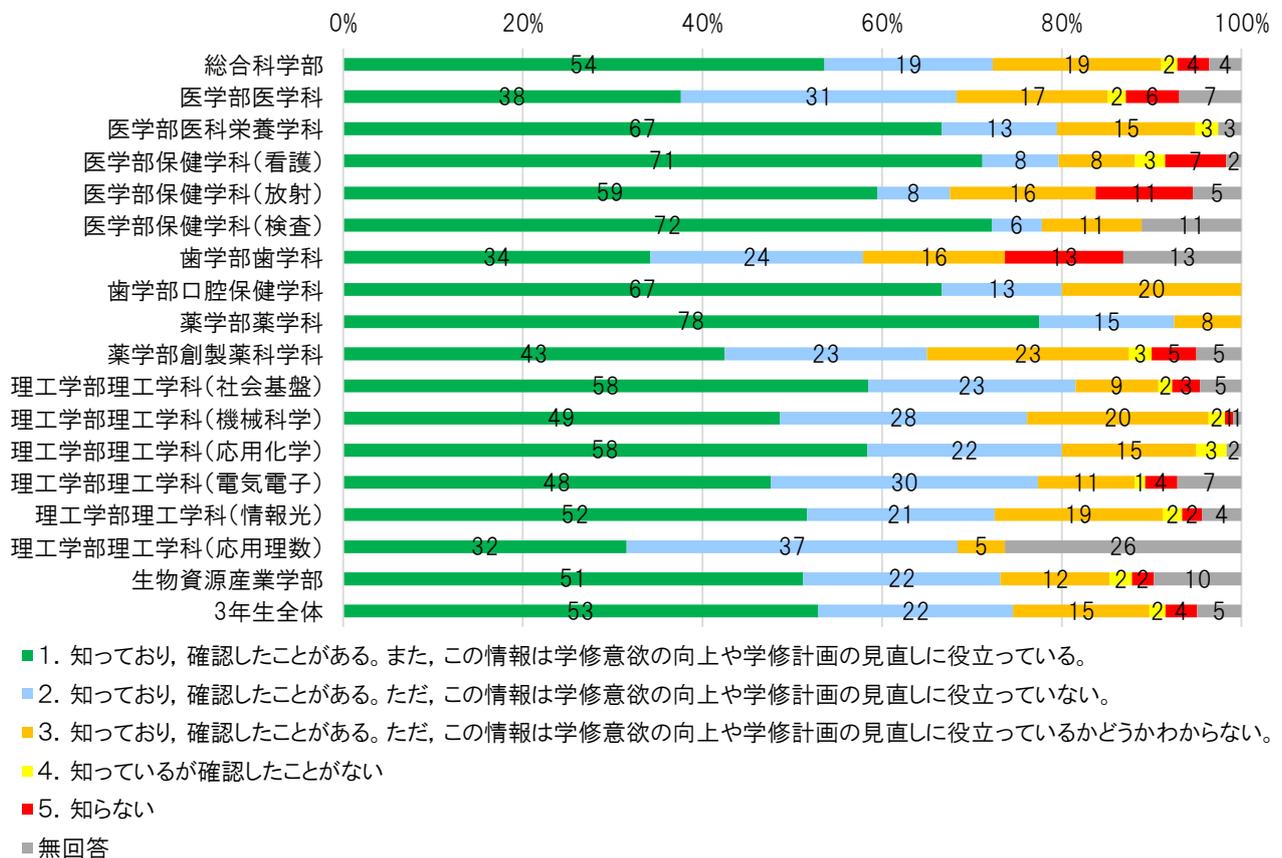


- 1. 教員・学修支援アドバイザーによる学修相談(SSS)
- 2. 授業サポートナビ(各講義の参考図書, 関連情報提供サービス)
- 3. 学修に関するイベント(講習会等)
- 4. 文献複写サービス
- 5. 本の購入リクエスト
- 6. グループ学修スペースの利用
- 7. 調べものの相談
- 8. 利用していない

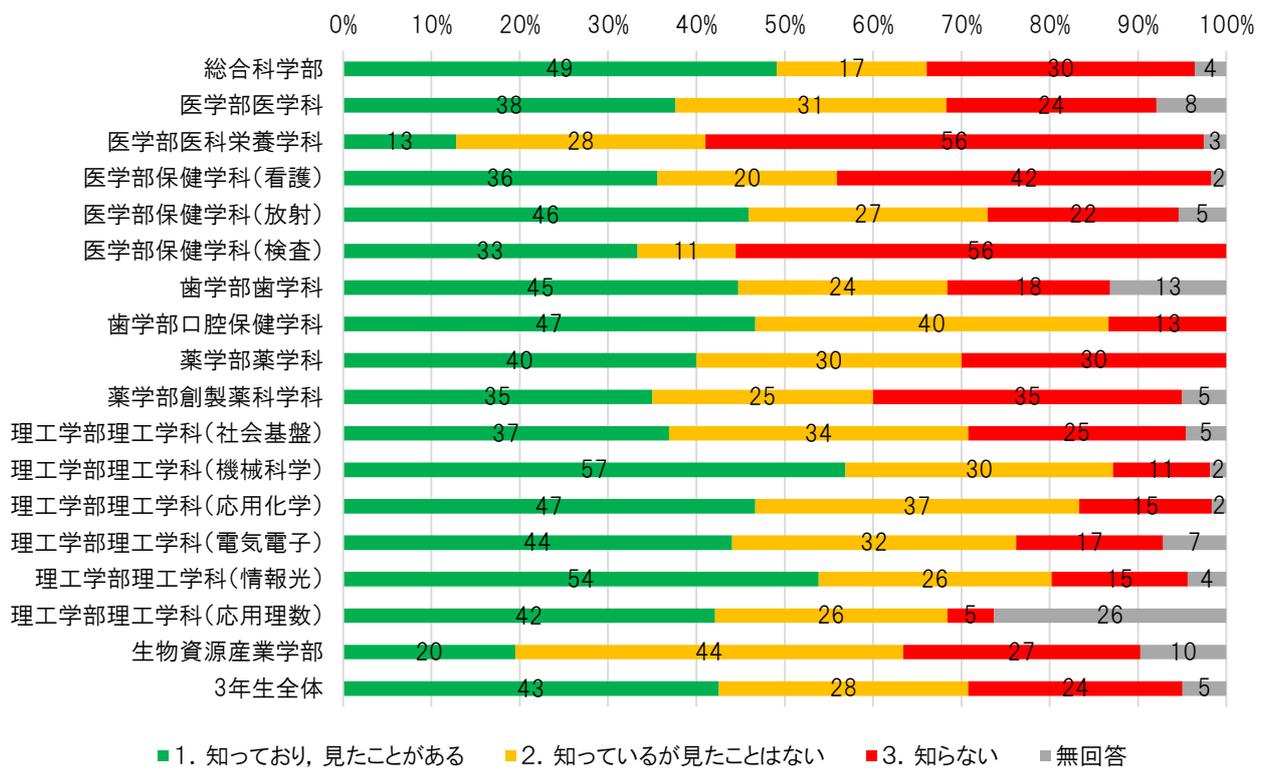
[116]あなたは、読書についてどのように考えていますか。



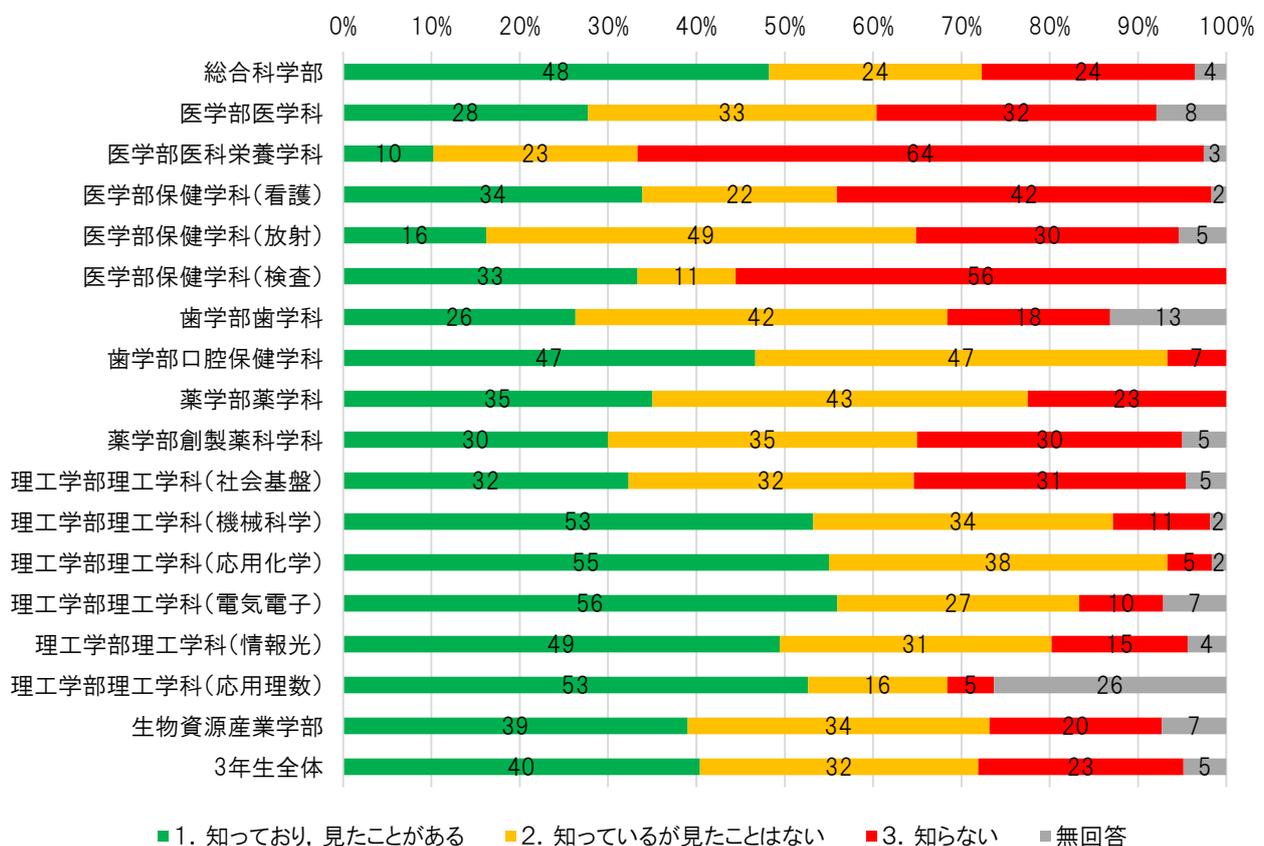
[117]徳島大学では、履修者が11名以上の授業では、自分の成績や成績の分布が確認できるようになっていることを知っていますか。また、役立っていますか。



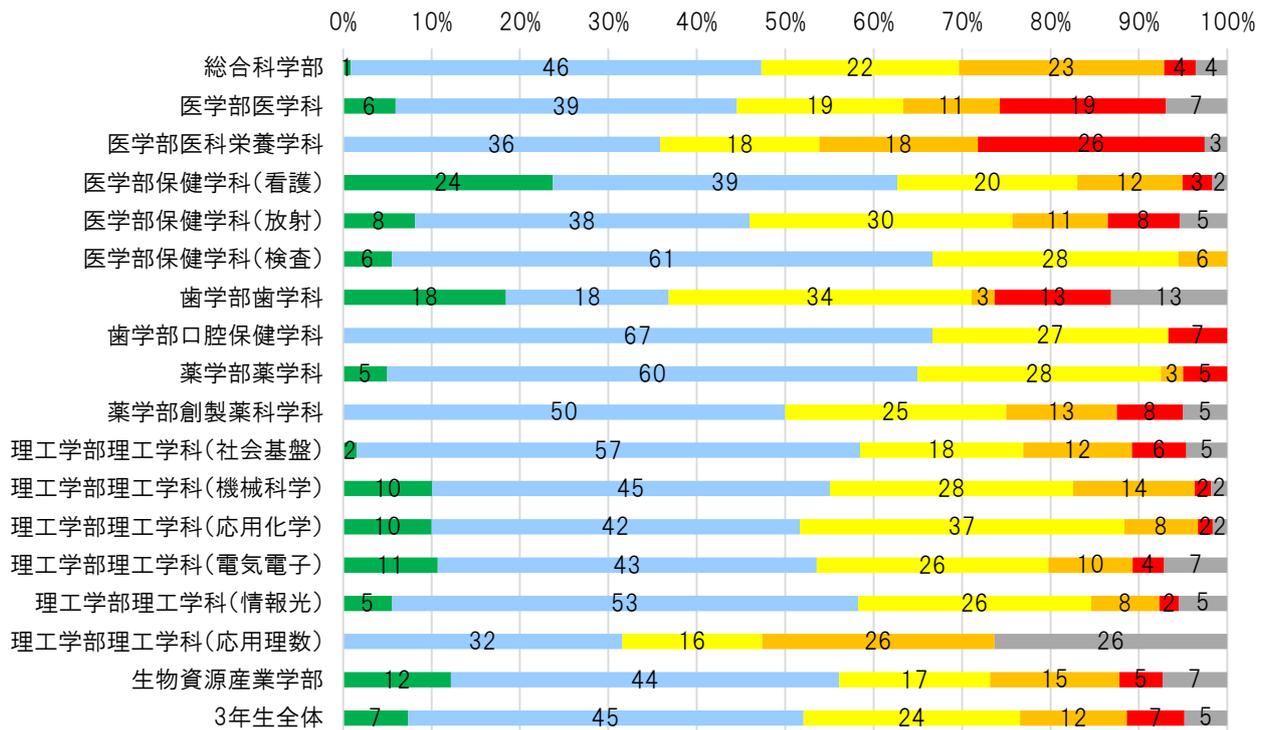
[118]徳島大学では、卒業に必要な履修科目やそれらの科目を学修していく順序等を一覧できる「カリキュラムマップ」を公開していることを知っていますか。



[119]徳島大学では、学部の授業科目のレベルに基づく学修の段階や順序を整理し適切な番号を付与した「科目ナンバリング」を公開していることを知っていますか。

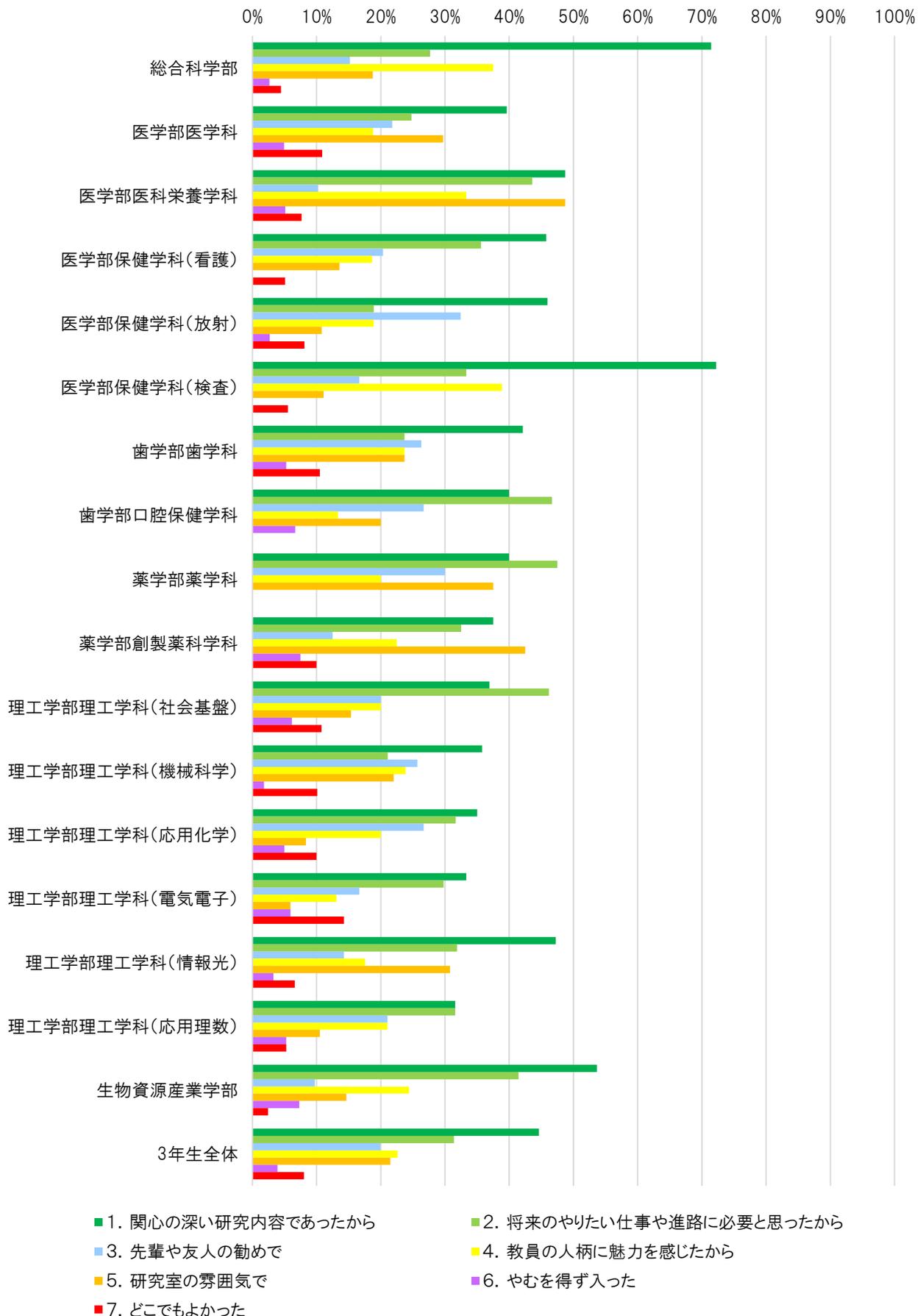


[120]シラバスはどのように利用していますか。

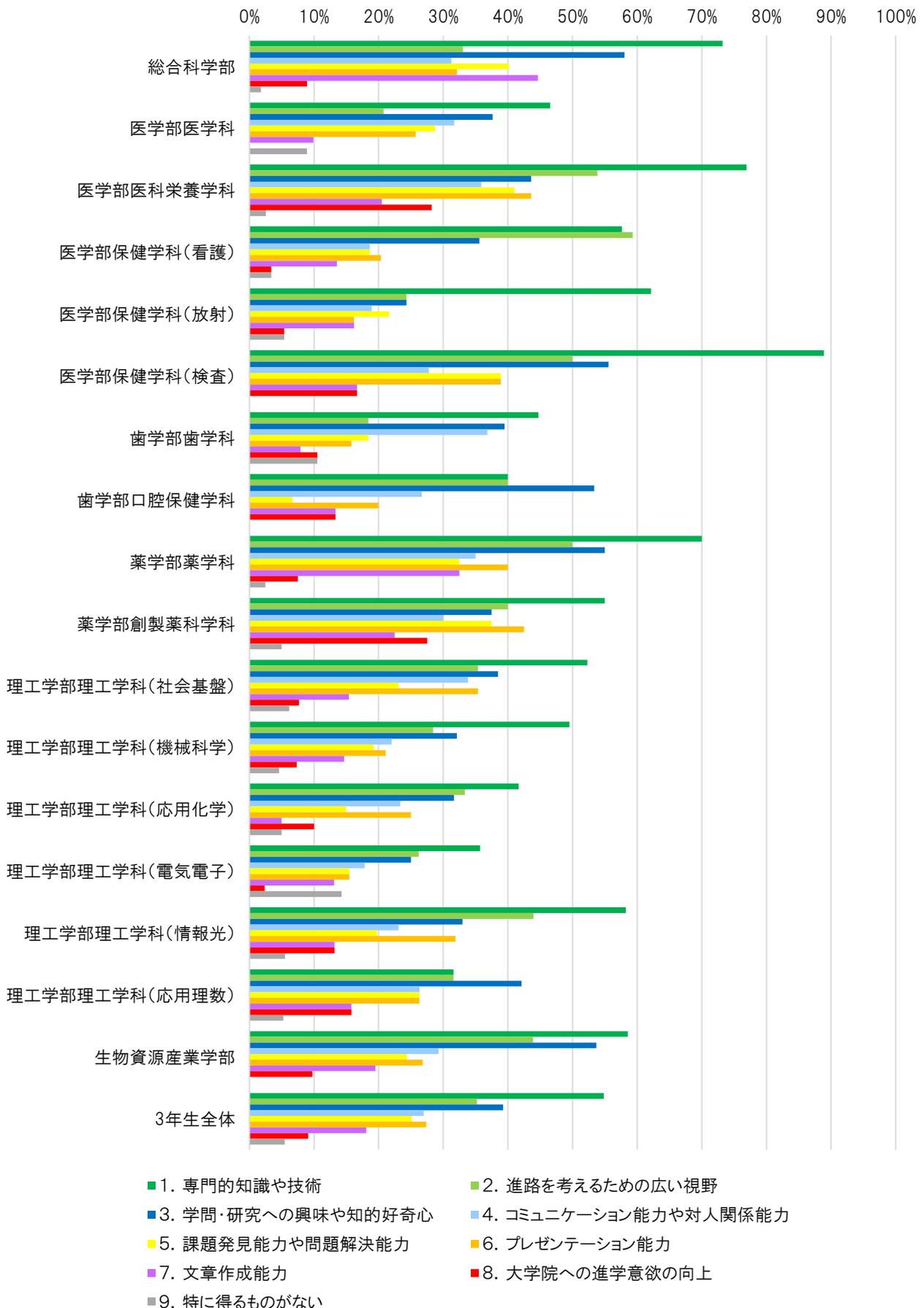


- 1. 毎週確認し、授業の予習・復習に役立てている
- 2. 気になった時に時々確認している
- 3. 初回の授業を受ける前に確認したが、その後はほとんど見ていない
- 4. 授業の選択を考える時に確認したが、その後はほとんど見ていない
- 5. 全く見ていない
- 無回答

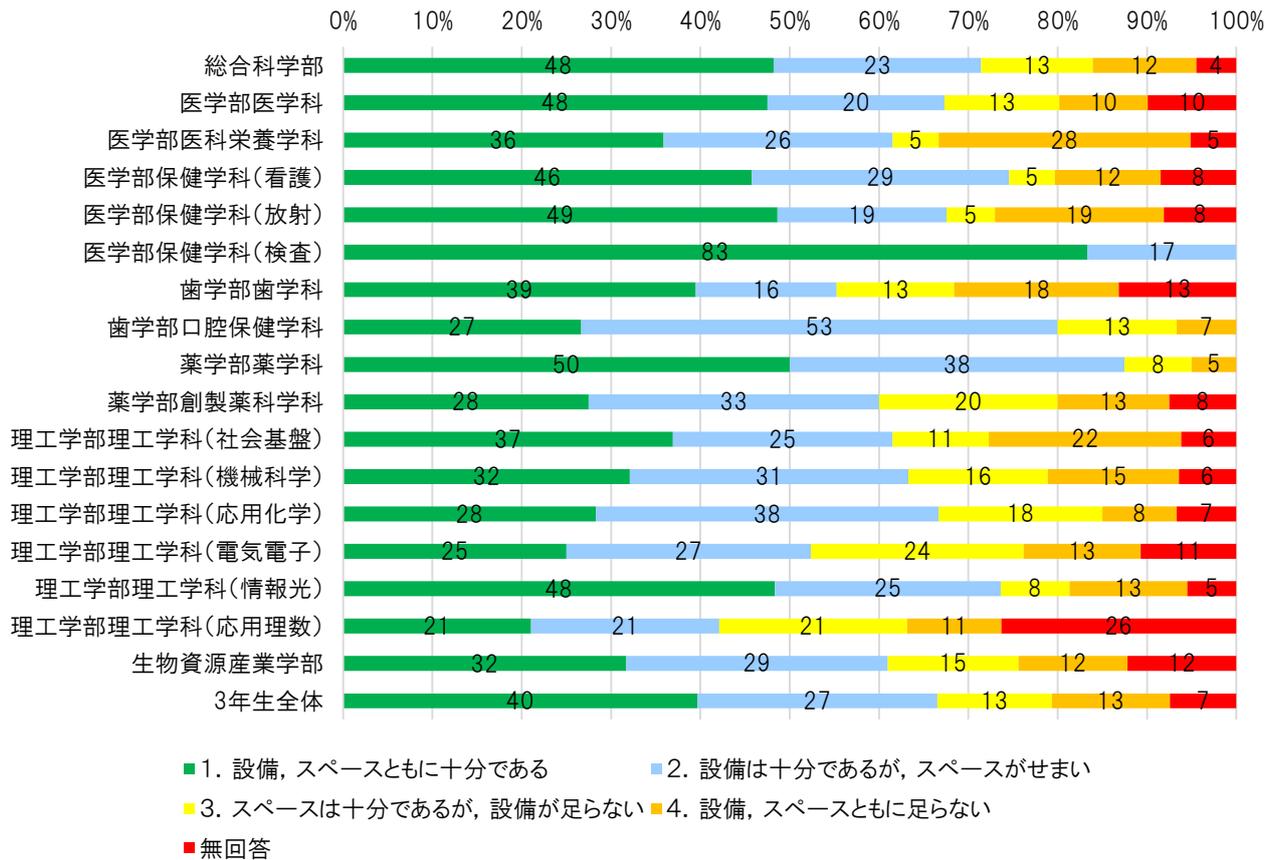
[121]卒業研究, 医学研究実習(医学科), 看護研究(保健学科看護学専攻), 研究基礎ゼミ(歯学科)の研究
室をどう基準で決めましたか。(複数回答可)



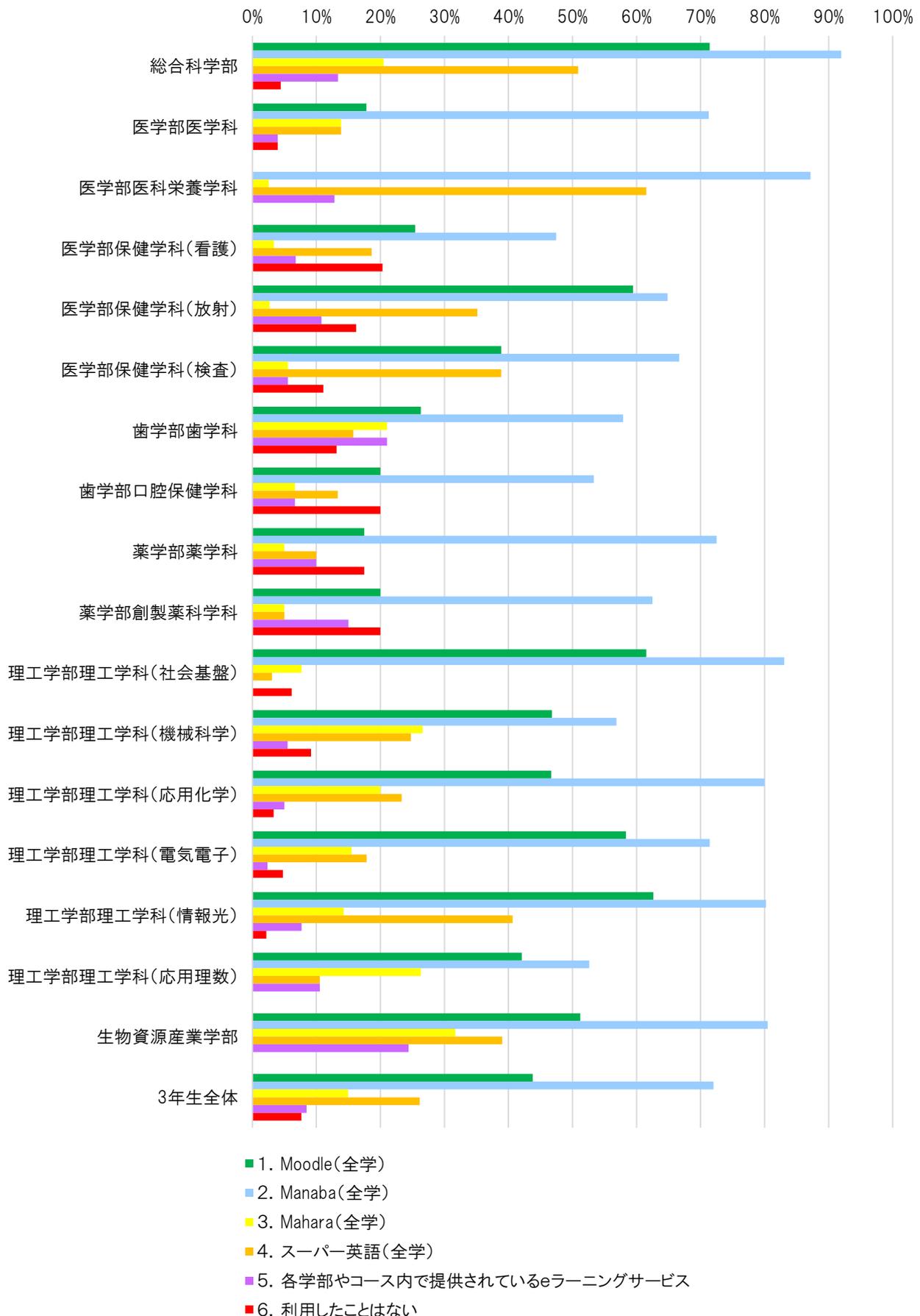
[122]卒業研究, 医学研究実習(医学科), 看護研究(保健学科看護学専攻), 研究基礎ゼミ(歯学科)によって何が得られると思いますか。(複数回答可)



[123] 研究を進めるための設備, スペースは確保されていますか。

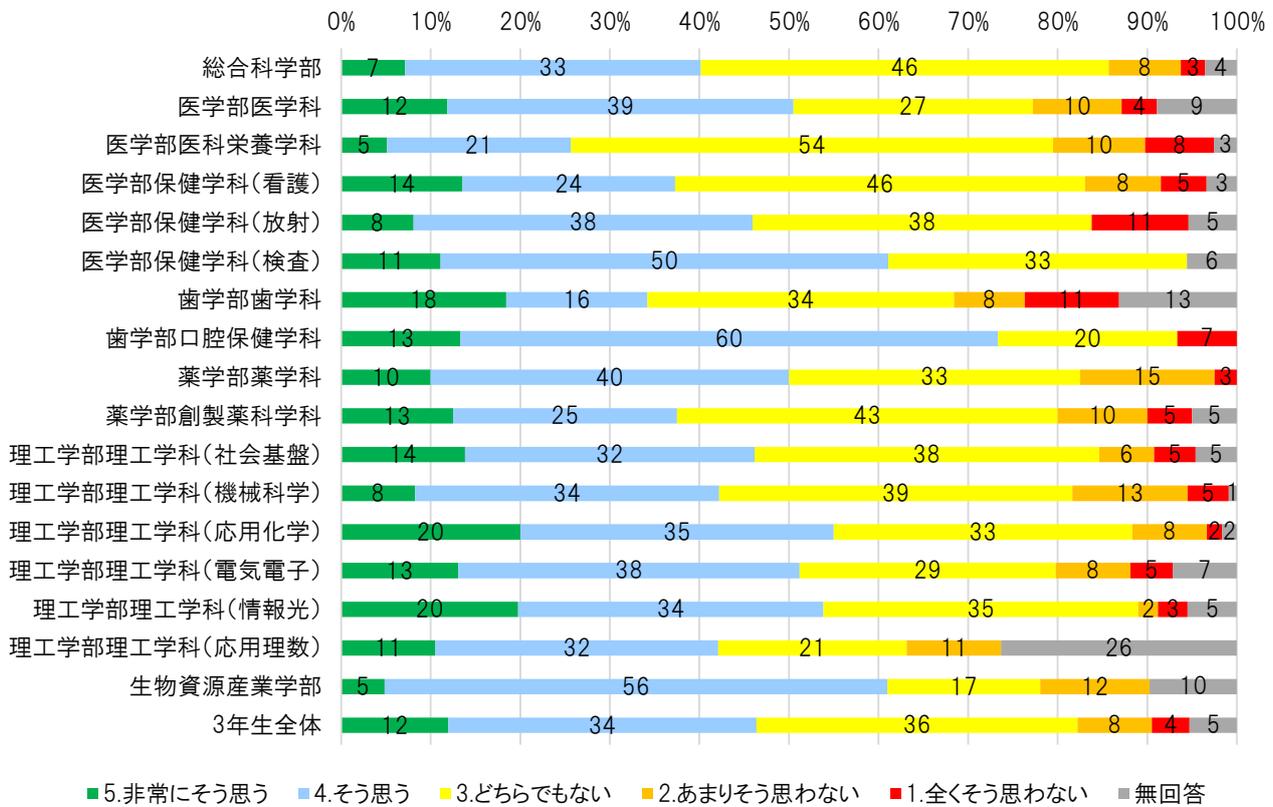


[124]徳島大学のeラーニングサービスを利用したことはありますか？利用したことのある人は以下の項目から利用したことのあるサービスを選んでください(複数選択可)。

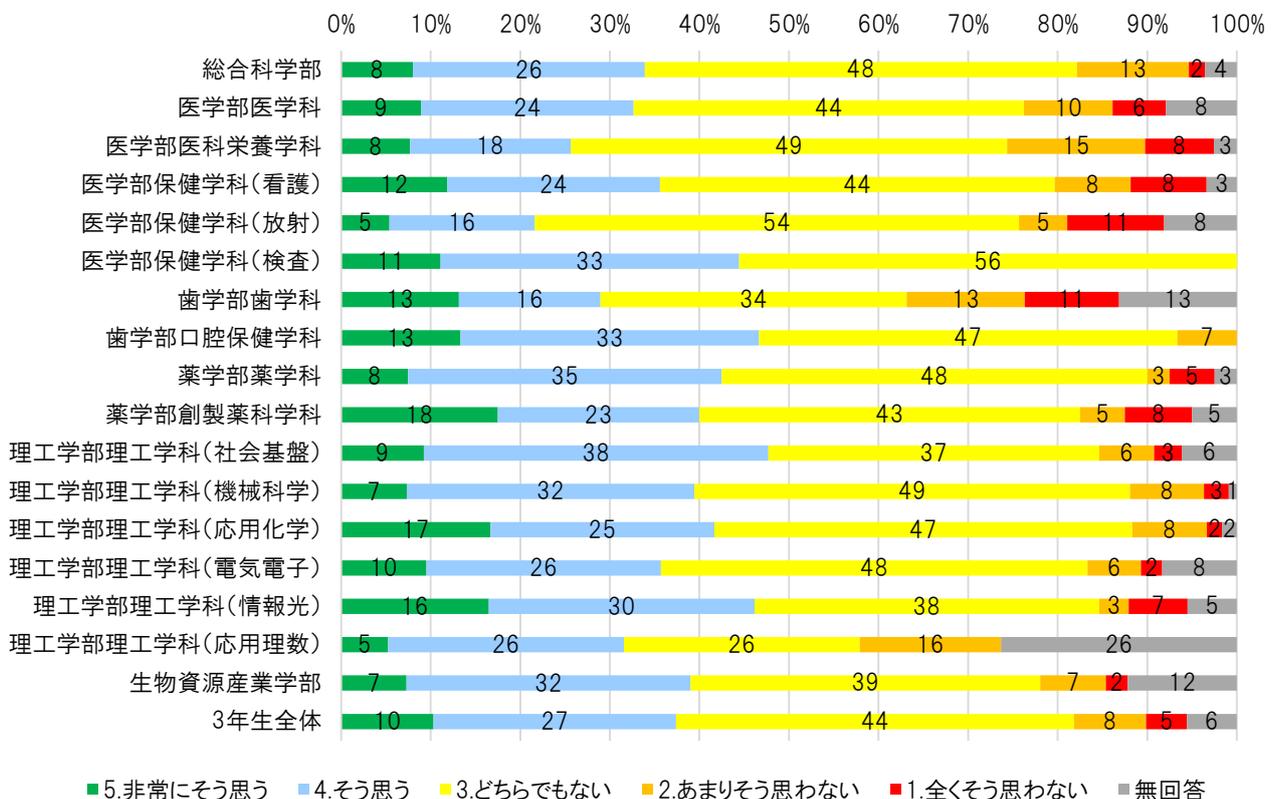


本学では、学生のみなさんに対して、上記のようなeラーニングサービスを提供しています。Eラーニングサービスに関して書かれている次の項目の内容は、あなたにどの程度当てはまりますか。

[125]本学のeラーニングサービスは、学修に役立つ

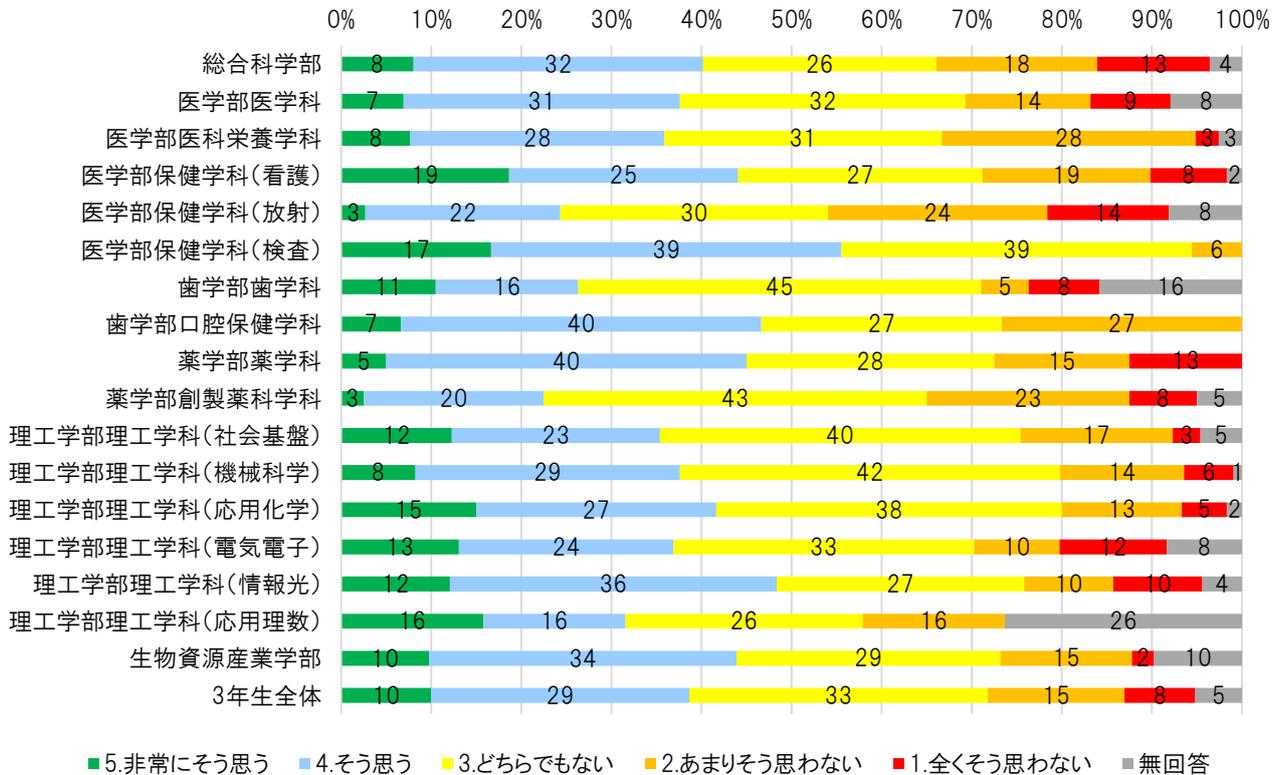


[126]本学が提供しているようなオンライン学修科目を、今後も増やした方が良いと思うか

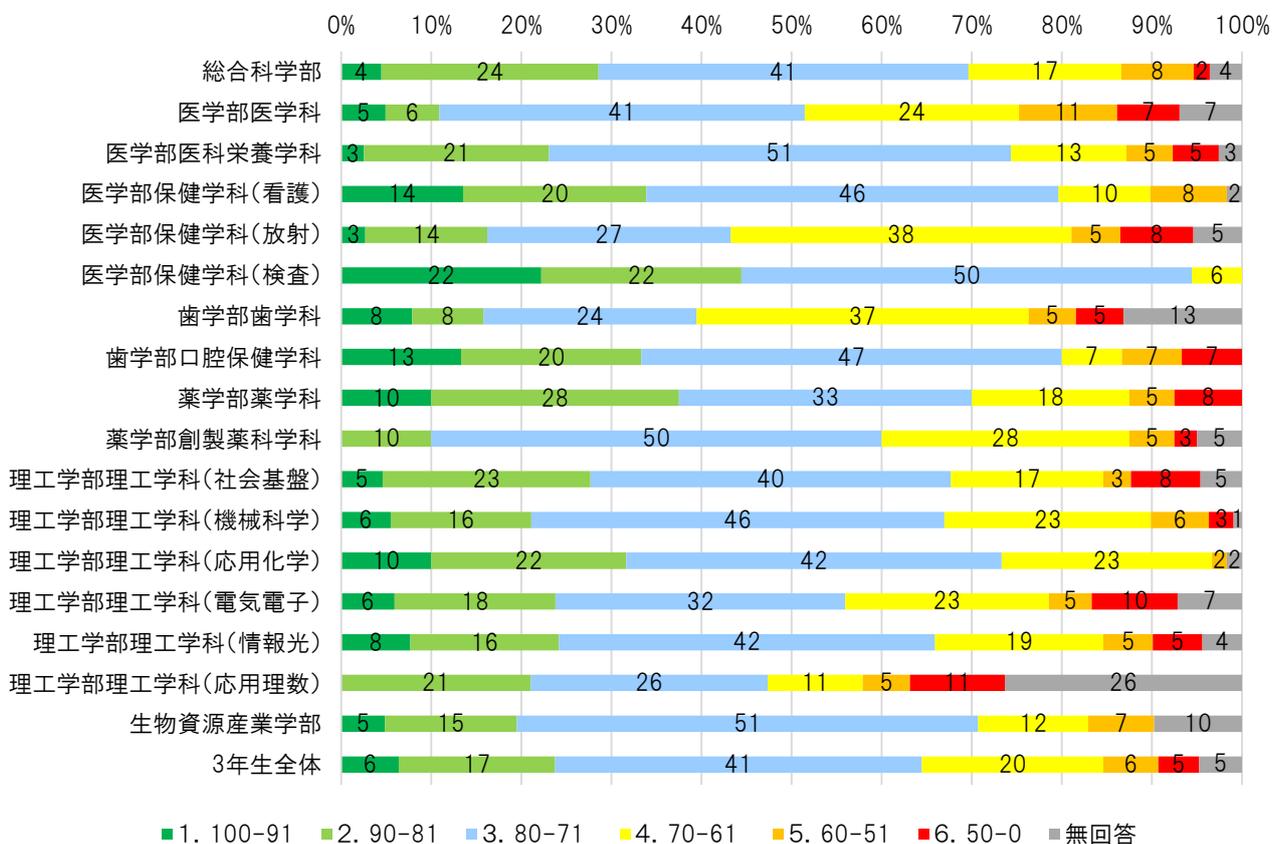


本学では、学生のみなさんに対して、授業の中間期および最後に「授業評価アンケート」をおこなっています。
この「授業評価アンケート」に関して書かれている次の項目の内容は、あなたにどの程度当てはまりますか。

[127]「授業評価アンケート」の設問は、授業改善に必要な内容である

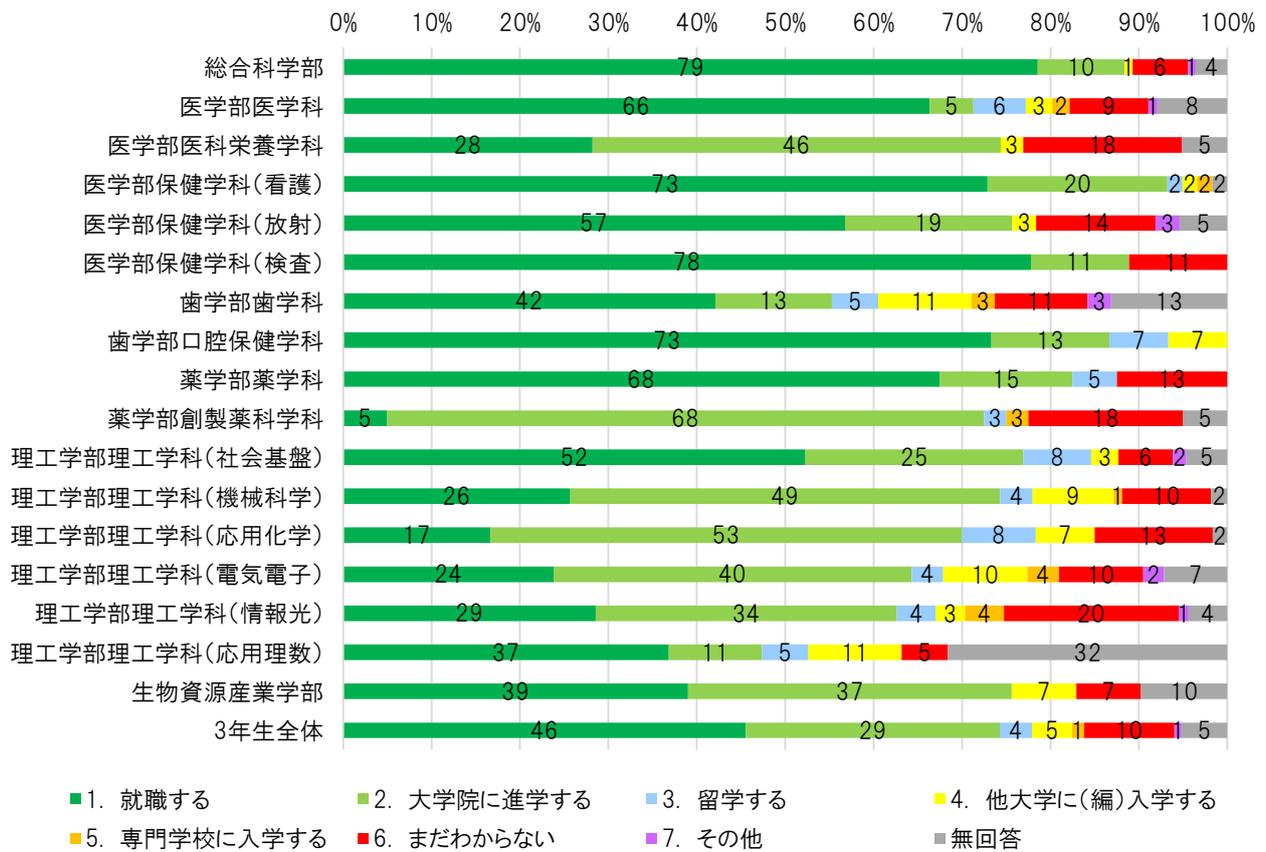


[128]大学教育全体の満足度は100点満点で何点ぐらいですか。



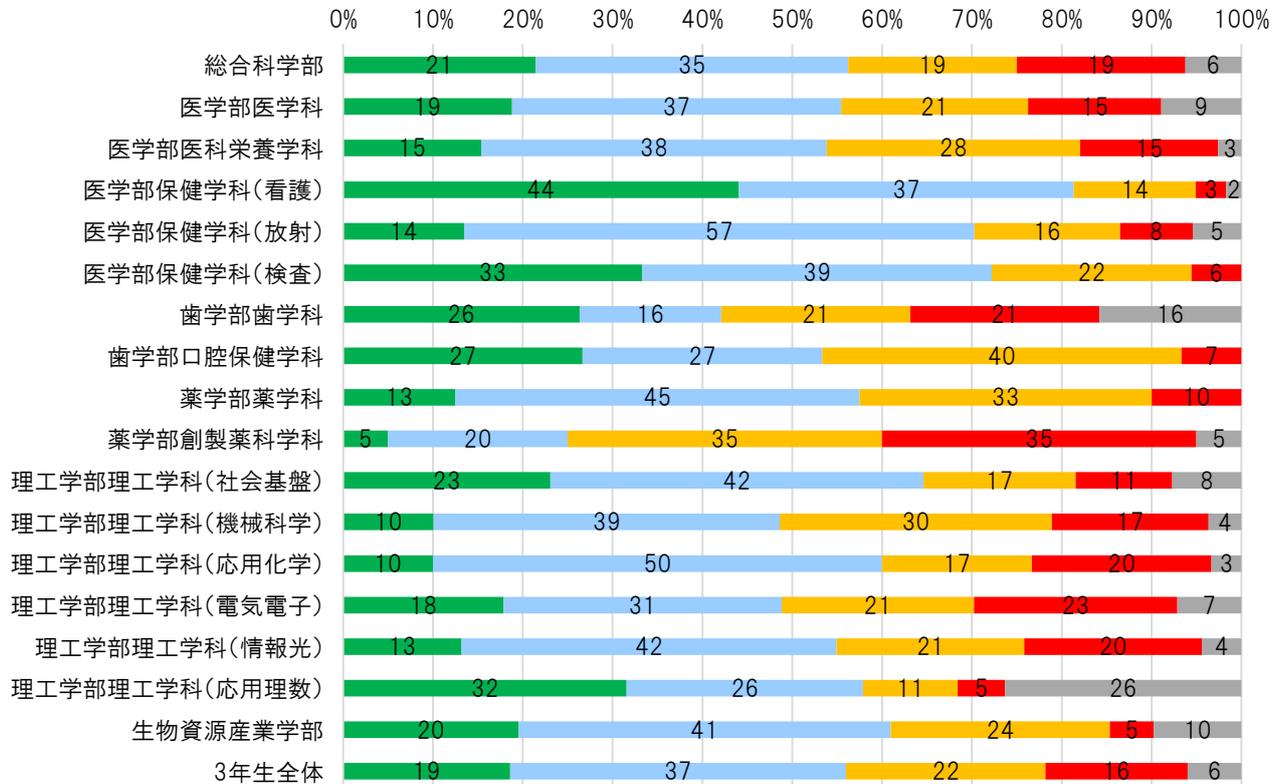
V. 最後に、将来のことについておうかがいします。

[129]あなたは学部卒業後、どのような進路を考えていますか。



[130] 将来の見通しに関する以下の2つの文章を読んで、あなたのいまの状態にもっとも近い番号を選んでください。

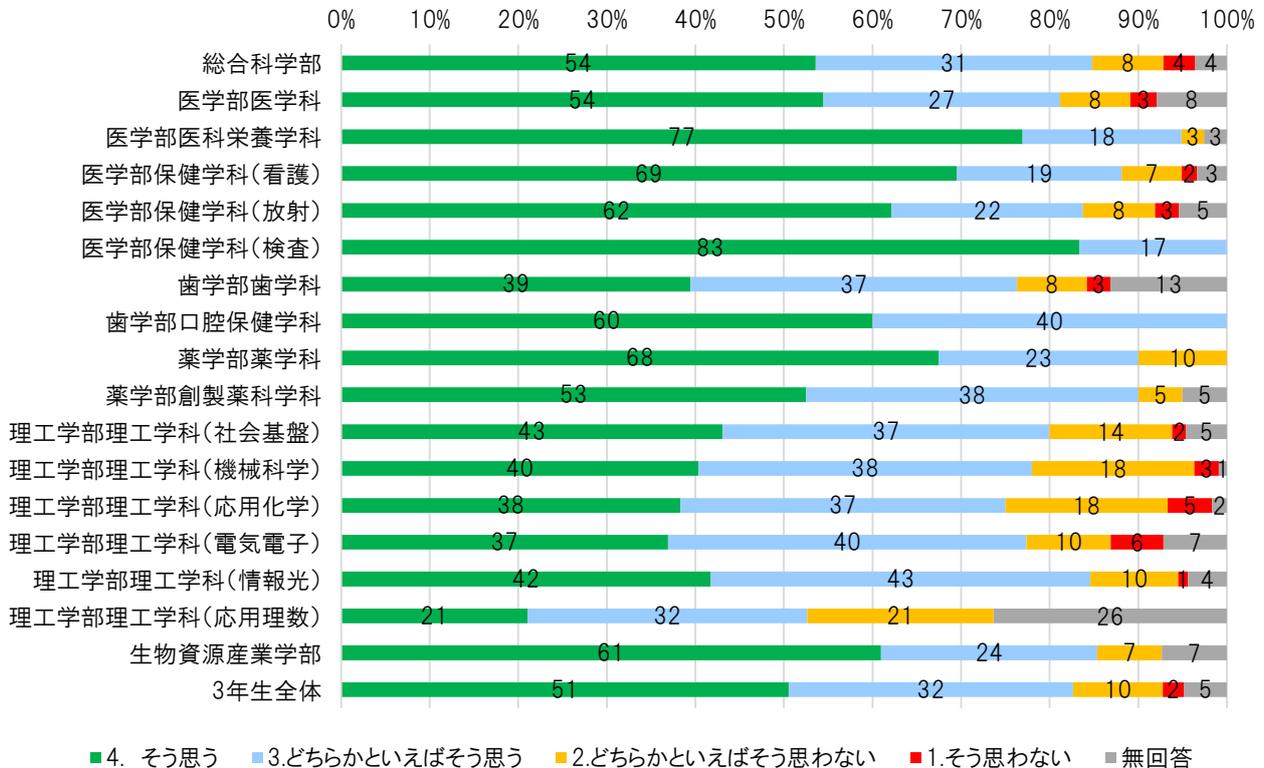
- ・あなたは、将来の見通し(将来こういう風でありたいという考え)を持っていますか。
- ・その見通しのなかでもっとも重要なものを1つ思い浮かべてください。あなたは、その見通しの実現に向かって、自分が何をすべきなのかわかっていますか。また、それを実行していますか。



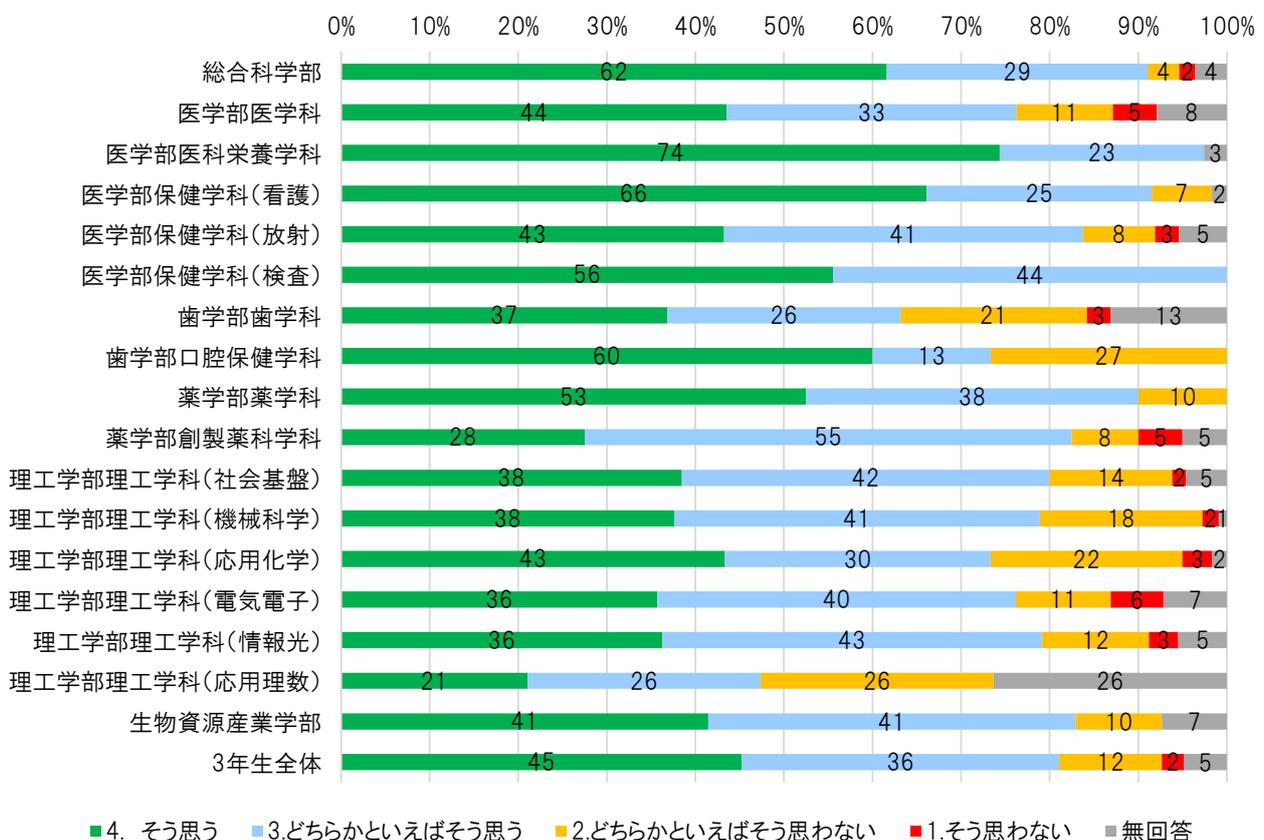
- 1. 将来の見通しを持っている+何をすべきかをわかっているし、実行もしている
- 2. 将来の見通しを持っている+何をすべきかをわかっているが、実行はできていない
- 3. 将来の見通しを持っている+何をすべきかわからない
- 4. 将来の見通しを持っていない
- 無回答

あなたが大学(学部)卒業後の進路の準備をしたり考えたりするために、次のようなことがらを大学在学中に経験したいと思いますか。

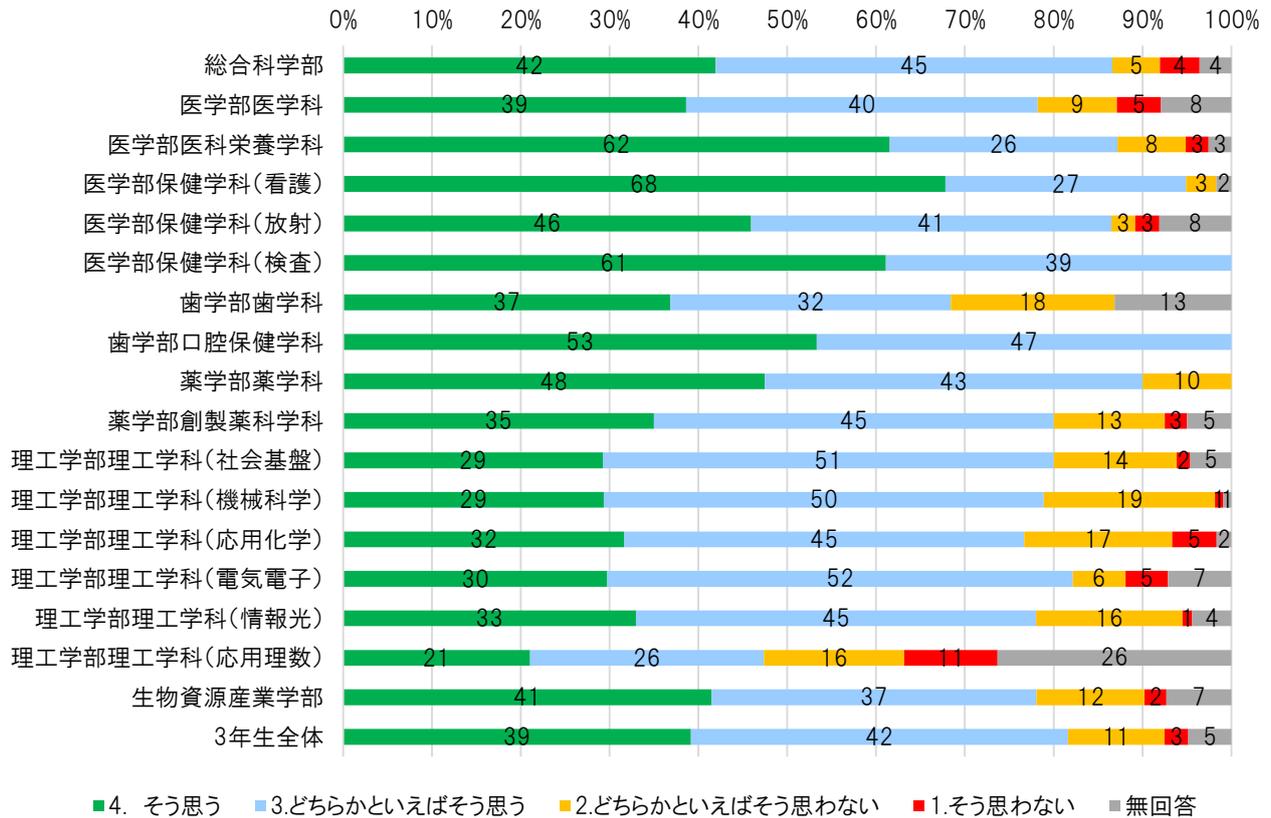
[131] 専門分野をしっかり身につける



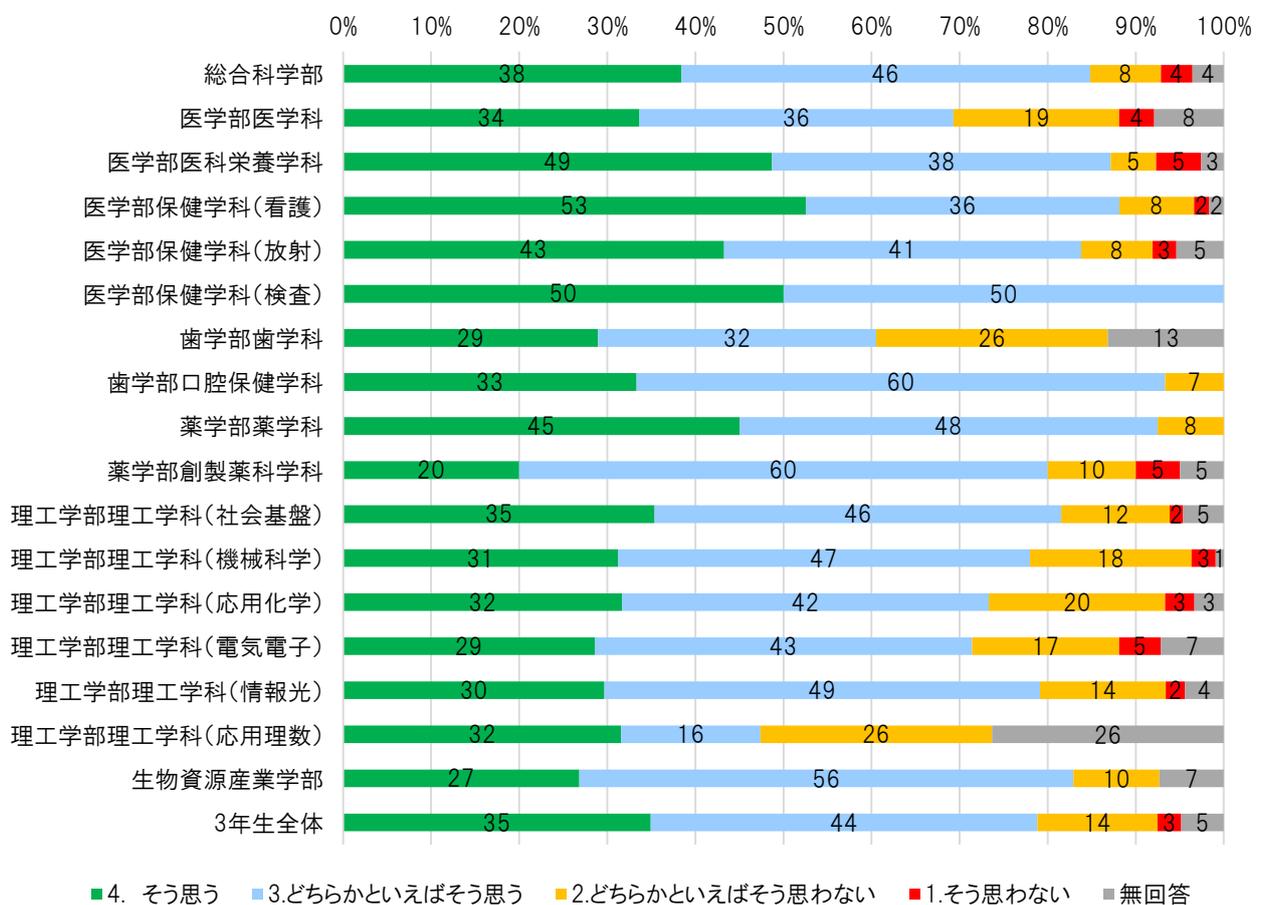
[132] 専門分野だけでなく、幅広い知識を身につけ視野を広げる



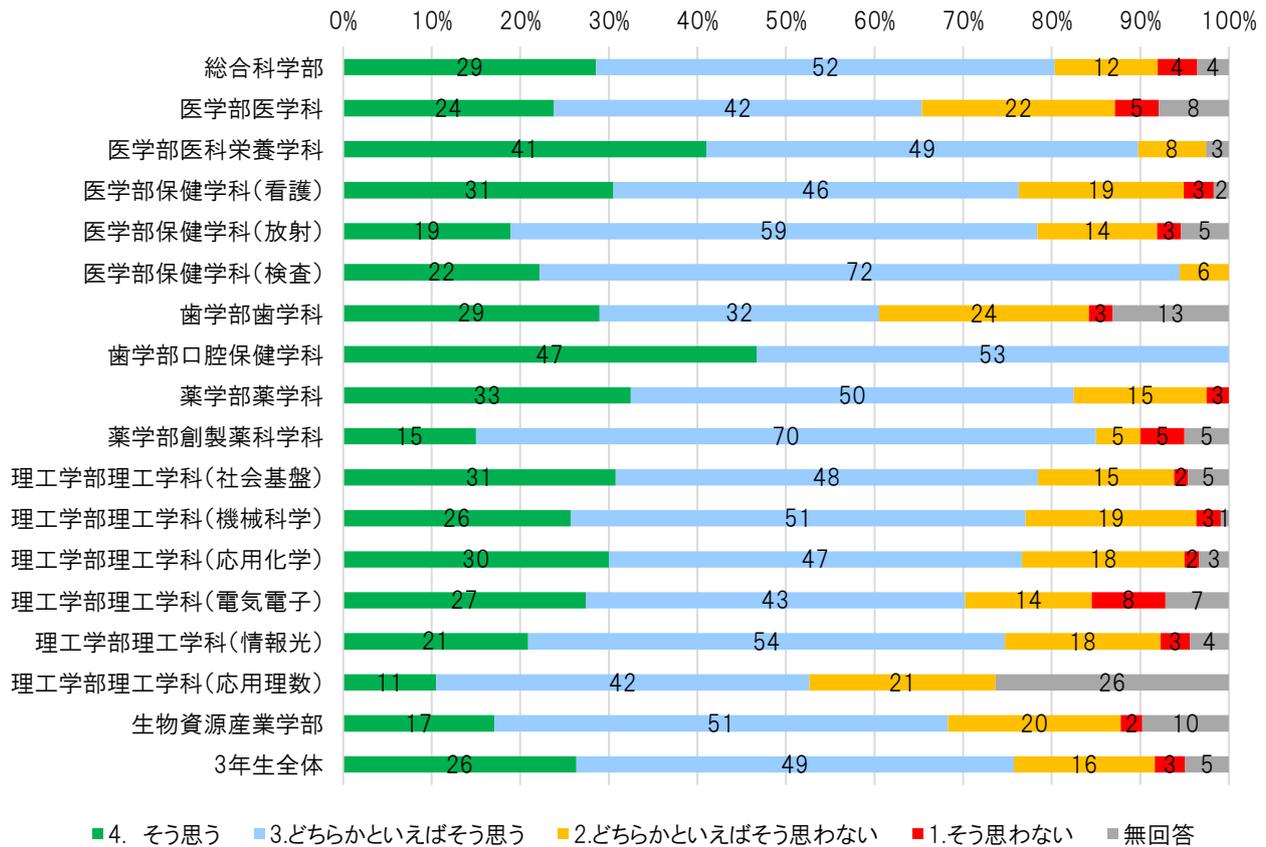
[133]就職意識の形成につながる教育を受ける



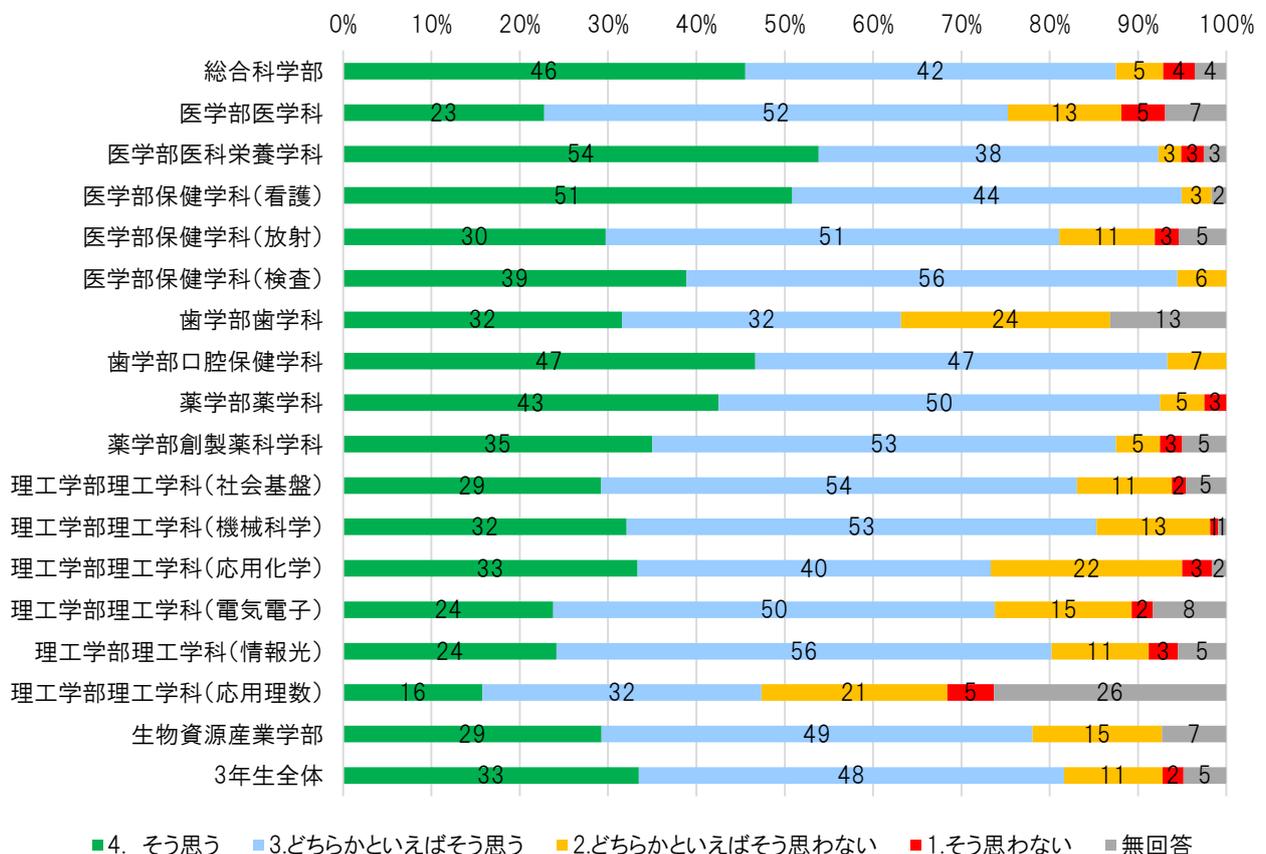
[134]企業での体験学習等を踏まえた上で、専門知識を学ぶ



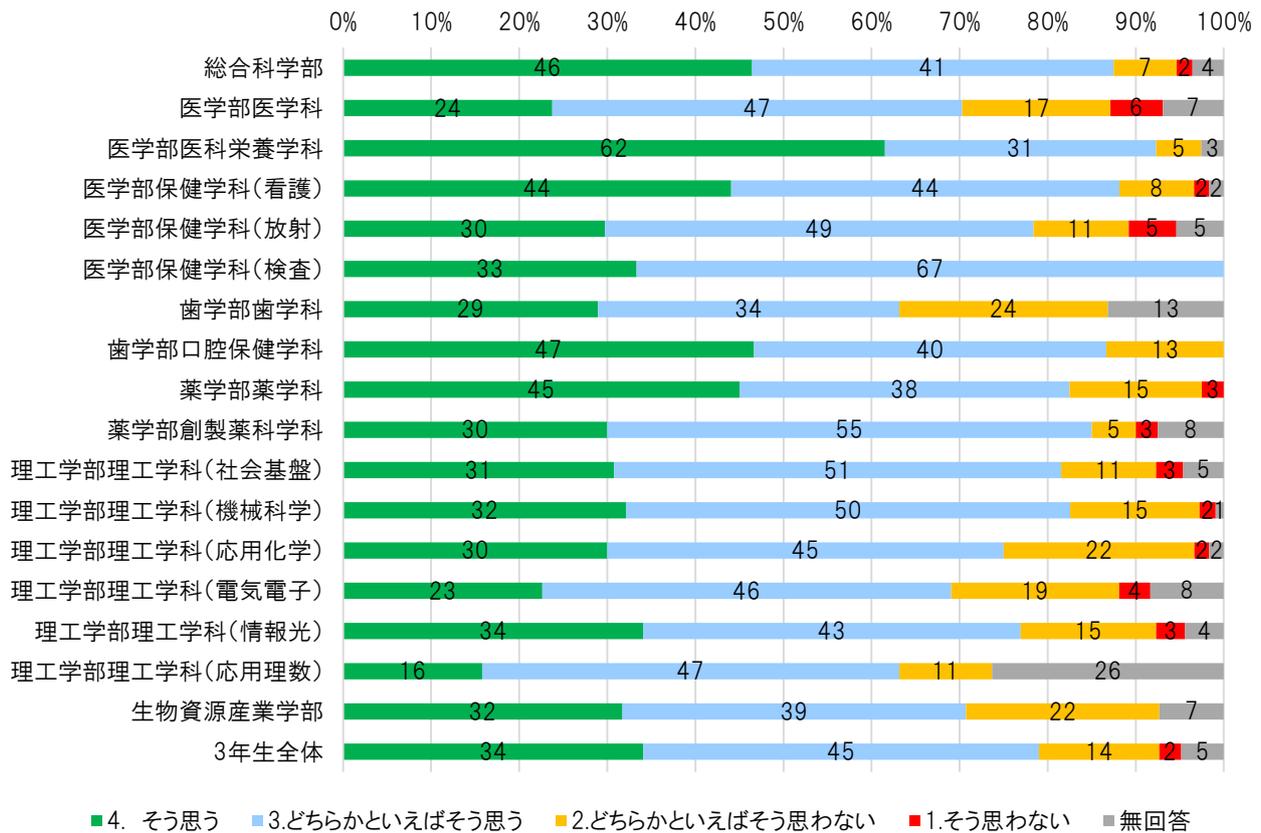
[135] 教員が設定した特定の課題に対して、チームで取り組むプロジェクト型の授業を受ける



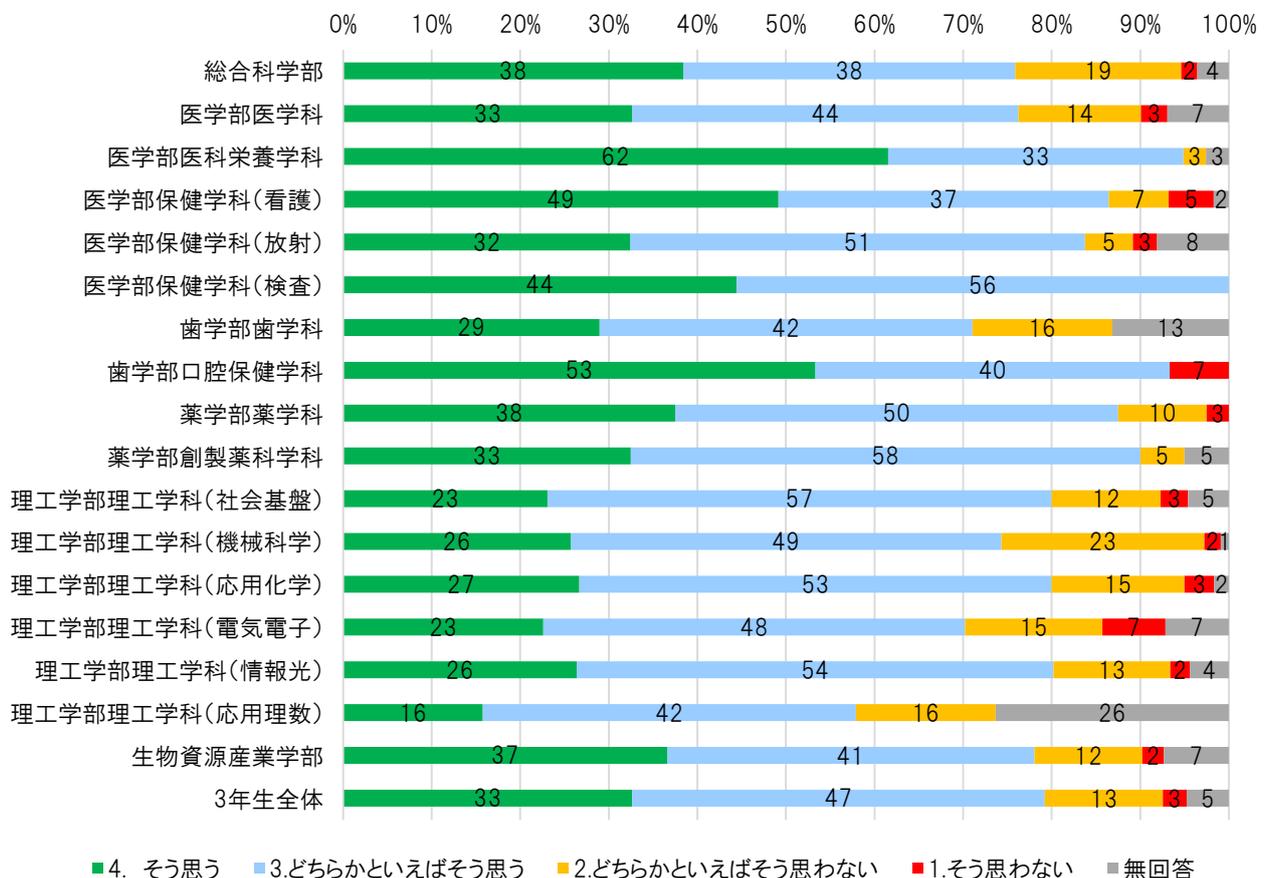
[136] 自分で課題を見つけ、自分で解決していくような訓練を受ける



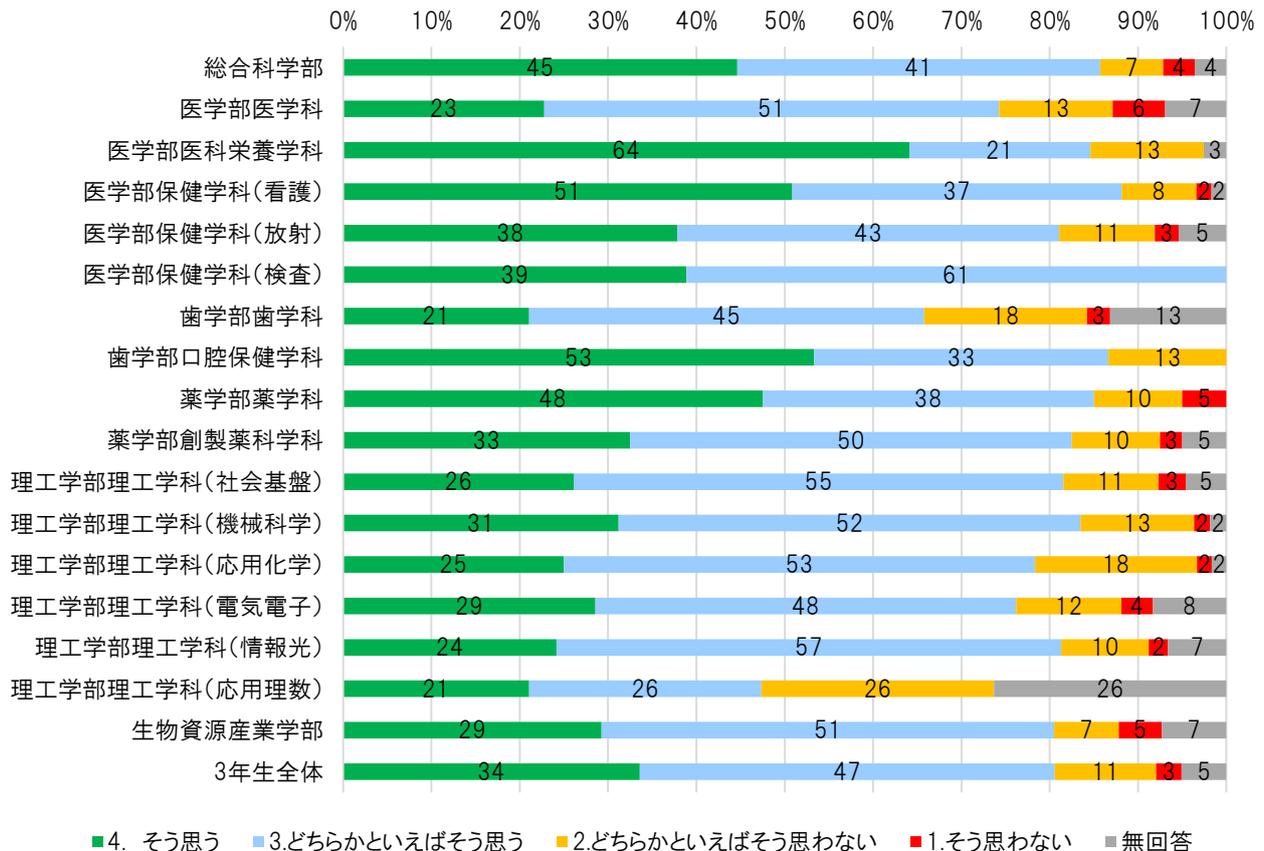
[137]ディベートやプレゼンテーションの訓練を受ける



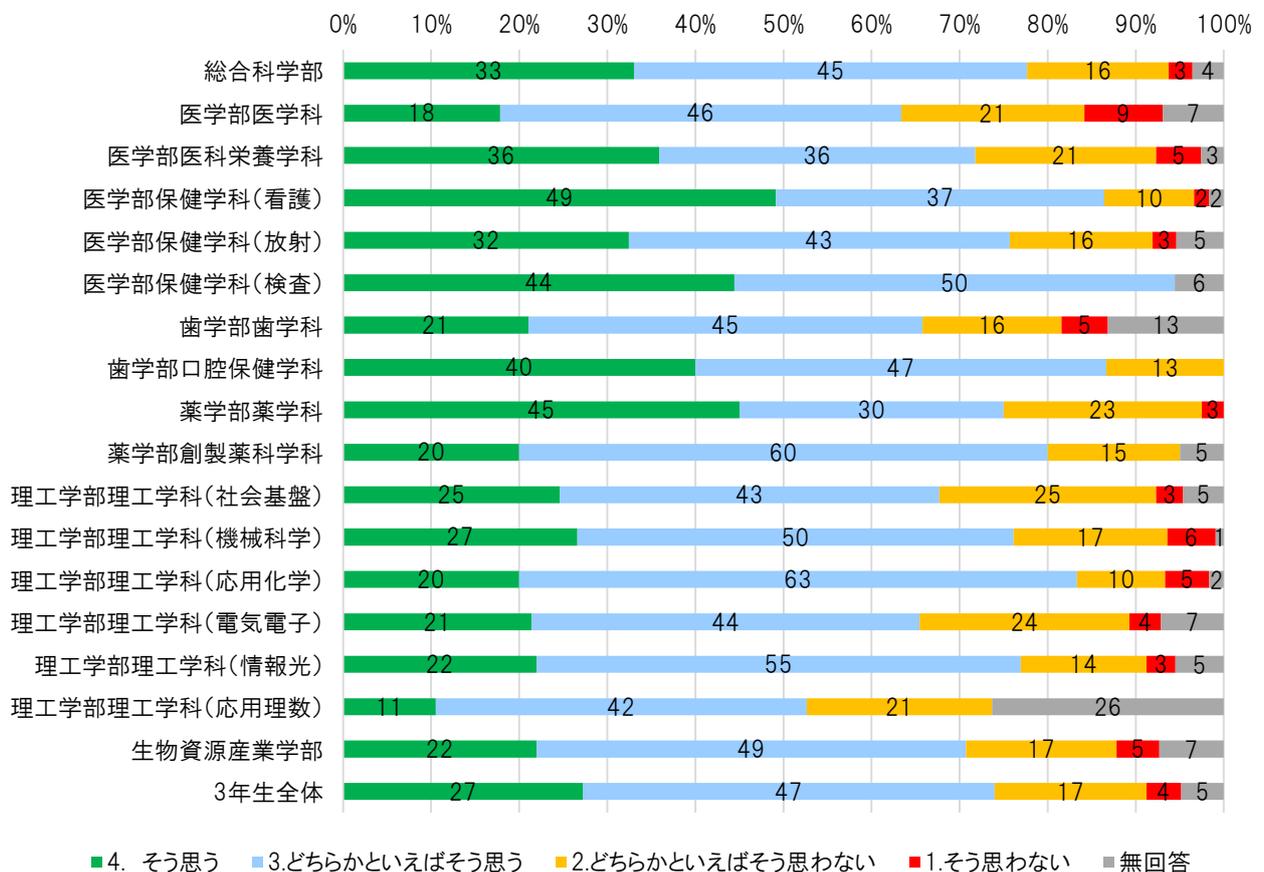
[138]実践的で専門性のある資格を取得するためのプログラムを受ける



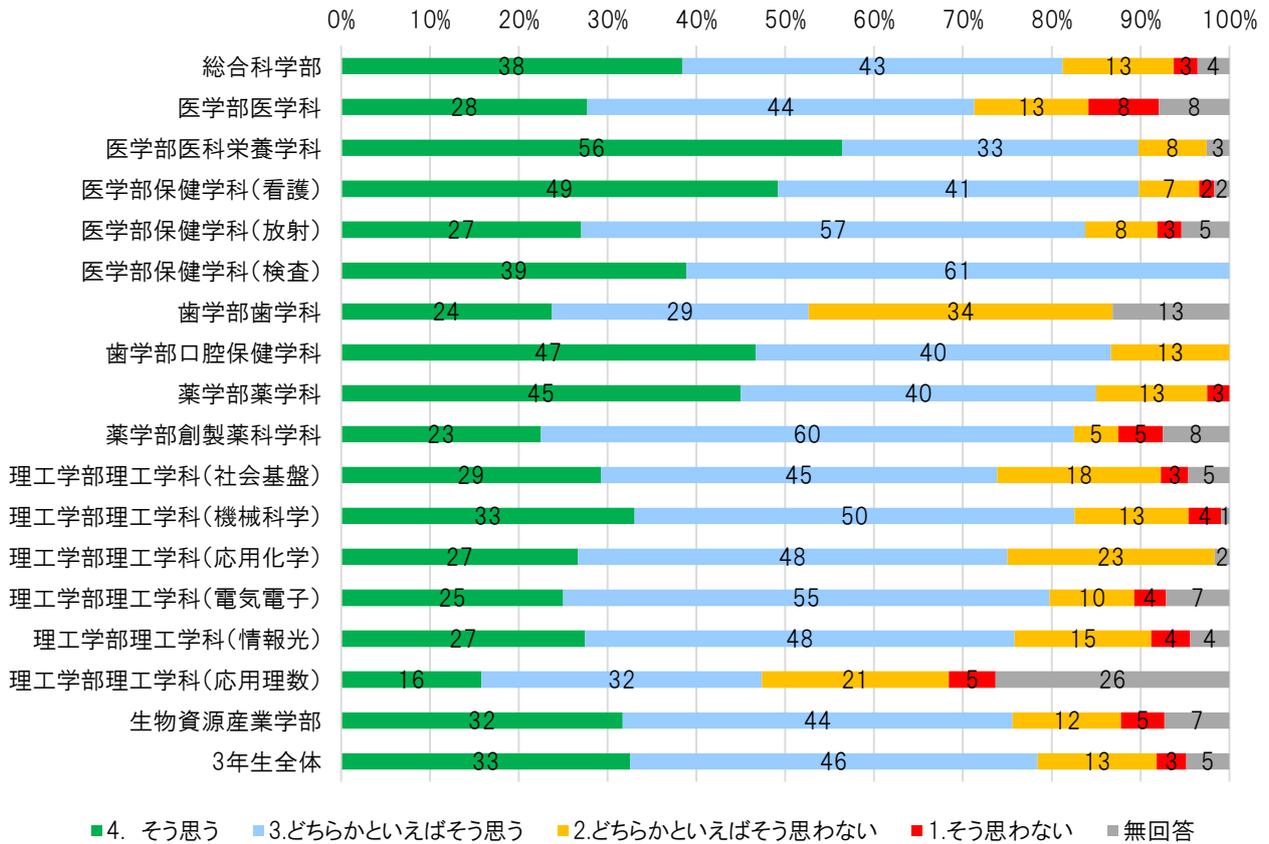
[139]レポートや論文指導により、文章作成能力を高める



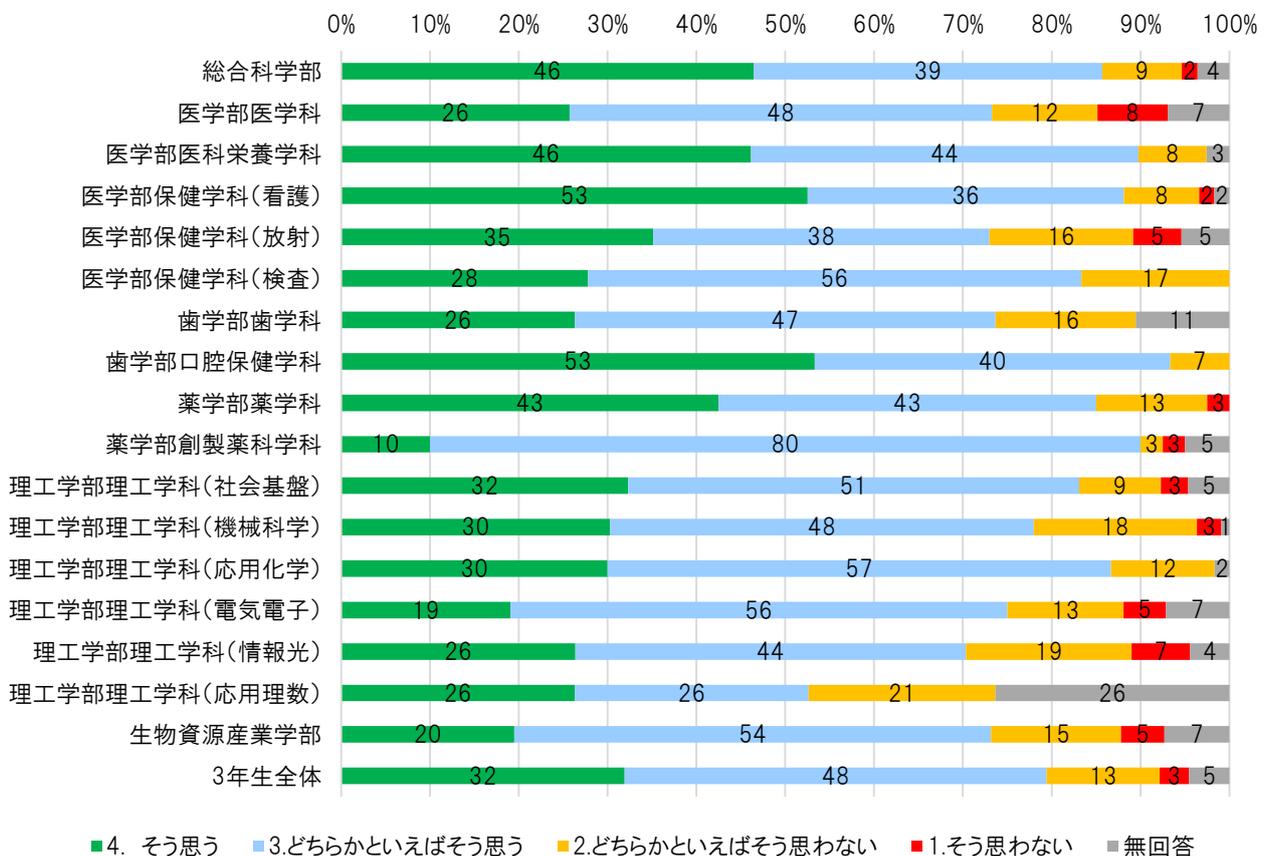
[140]卒業後の進路について、教職員に対して個別に相談する



[141]卒業後の進路について、本学の卒業生や先輩と話をする



[142]本学の教職員以外の大人と話をする



第2章 学部等の現状と課題

1 総合科学部

今回から1, 3年生を対象に調査を実施しており、総合科学部の学修に関する現状と課題をまとめるにあたり、特に学年間の相違に焦点をあて、学年毎での状況を踏まえ考察を行った。

体験的な学び(問4)や授業の一環でボランティア(問7)、自分の考えや研究を発表する(問11)等、の項目に関して、1年生から3年生にかけて、「ひんぱんにあった」+「ときどきあった」との回答割合が増加しており(38%→72%, 15%→37%, 70%→80%)、総合科学の改組後、完成年度を迎え、学年を経るごとにより実践的な学びを実施するカリキュラムが展開されていることがこの結果から伺える。また「授業中に学生同士で議論する」(問12)に対する「ひんぱんにあった」+「ときどきあった」の回答も69%→79%へと割合が伸びており、アクティブ・ラーニングの導入が専門科目においても実施されているあることが示唆される。その上で、より専門の授業が多くなる3年生と、幅広く学ぶ1年生で授業難易度は前者の方が高いと想定されるにも関わらず、70%以上の授業科目理解度(問18)を示す学生は、3年生83%、1年生77%であり、より理解を促す専門教育が展開されていると考えられる。さらに、授業内容の理解の促進に関わる要因(問19)として、3年生では1年生に比べて振り返りの項目が大きく増加しており、振り返りを促す学修の修得が浸透しつつあると考えられる。学びにおいて、1年生と3年生で差が大きい項目として、授業時間外に他の学生と一緒に勉強したり授業内容を話したかどうか(問24)に関して、1年生は「ひんぱんにあった」、「ときどきあった」の回答が16%であったのに対し、3年生では67%であり、ゼミ等の始まりに起因する授業形式の違いとともに、グループワークの浸透が伺える。ただ、授業をつまらなく感じる学生(問28)は一定数存在し、全体的な授業の質向上が今後の課題の一つである。

授業時間外学修について(問34)、1年生では週1時間～5時間が70%を占め、3年生になると、週1時間未満の学修時間を含めて70%を占めるようになっており、授業時間外学修が学年を経るごとに少なくなっていく結果となっており、1年生の段階から授業外学修時間を促す学修指導が重要である。

学修により身に付けた能力に関して、本学部では1年生を対象に開講しているSIH道場にて、「文書力」、「プレゼン力」、「協働力」等を必須項目として構成しており、それらの修得についてみていく。「協働力」に関して、入学時と比べて、「他の人と協力して物事を遂行する能力」(問49)が増えたあるいは大きく増えたと回答した1年生は61%、3年生では82%であり、1年生でのSIH道場である程度の礎を築き、3年生でさらに伸びていることが伺える。同様の傾向が「プレゼン力」(問56)(50%→76%)においてもみられる。「文書力」に関連する「文章表現の能力」(問53)に関しては、1年生から3年生にかけて74%と変化がないが(増えた、大きく増えたの内訳は変わっており後者が12%→20%に増加しているが)、これは文書力の向上に関して1年生のSIHで力を注いでおり、ある程度の完成度をもって学修がなされているためと考えられる。このことは問102における「SIHで役立っている項目」において、両学年とも「文章(レポート)の書き方」が他の項目と比較して群を抜いて高いことから裏付けられる。一方、他の項目に関してはより一層の学修を促す教育が望まれる。

大学における教育に対する期待(問62)や、大学の教育によって獲得が期待できる知識や能力(問63)に関して、「社会で役立つ知識、教養」が1年生では目立つものの、3年生では、「課題発見・解決力」や「コミュニケーション能力」が上昇してくる。3年生では、将来の就職を見据えた学びに移行しつつあるため、このような項目の上昇が出現すると想定され、社会に出た後で有効な技術や知識を身に付ける授業も有用であろう。

改組により総合科学部で重要視された学修の一つが外国語学修・留学等である。問69-75に英語能力の向上に関する設問がある。聞く、読む、話す、書く技能の到達レベルが問われているが、入学後から1年生の現在までは、いずれの項目も概ね上昇するものの、3年生では到達レベルが下がったような値となる傾向が示されている。また、興味深いことに、英語の勉強法に関して1年生では授業で使用している教科書・英語論文での学修が最も多いのに対して、

3年生では、英語能力試験の受験による勉強が多くなる。従って、入学後に英語の授業等で能力の向上が図られるが、それ以降は、特にコースで英語を学ばなくなる場合には、英語に触れる機会がなくなり、到達レベルの向上が感じられなくなっていると考えられる。国際教養コースでは、語学関連の授業や高いレベルでの語学による進級要件が課せられることもあり学修が進んでいると考えられるものの、学部全体では3年生あたりから語学の学修、能力傾向が分化している可能性がある。学部全体で上級生においても継続的に語学学習を進めることも今後の検討課題であろう。

総合科学部では本年度で完成年度を迎え、学修カリキュラムや学生の身に着いたものの検証を実施する段階に入りつつある。今回の調査は毎年継続されるため、学修に関するデータが毎年蓄積されることとなる。このデータを活用し今後の学修の質につながることを期待される。

2 医学部医学科

医学科全体の回収率は79.7%、1年生は76.6%、3年生は82.8%と学年による差は、大きくはなかったが、もう少し回収率を上げる必要があると考えられた。

回収率の低さと関連するのは、学生が納得するフィードバックが成されているかという課題がある。アンケートの実施が目的となり、徳島大学の教育改善のきっかけになるPDCAサイクルの一環足り得る内容であるかの検討も、学生を交えて行う必要があると考えられる。

将来の希望（1年生問126、3年生問129）では1年生は64%、3年生は66%が専門職を希望していた。研究職や海外での活動を考えているものも少数ながら居た。また、（1年生問127、3年生問130）その見通しを持っているおり、何をすべきかわかっている者が1年生66%、3年生56%に対して、何をすべきかわかっていない者が1年生、3年生ともに20%程度見られた。また将来の見通しを持っていない者は、1年生6%に対して3年生15%であった。専門教育に進むにつれ、意識変化があるのかもしれない。

大学院への進学希望（1年生問126、3年生問129）は1年生、3年生ともに5%と少なく、専門医の資格を取れば学位が無くても活動は出来ることから関心が低いと考えられるが、MD-PhDコースに進学する者も居るので、研究の重要性が十分に浸透していないのではないかと考えられた。

大学における教育に何を期待しますか（問62）に関しては、3年生では、社会に出たときに役立つ知識、技術、技術と資格取得に必要な知識、幅広い教養のいずれも50%以上であったが、1年生では幅広い教養だけが50%を割っていたが、45%以上であり、比較的重視されているようである。

専門教育科目の授業を受けて何を学ぶことができますか（問103）は、専門知識が最も高く、次いで1年生では、自分の進路について考えることができるようになったで、学問・研究に興味を湧いたが続き、3年生では、2位と3位が逆転していた。

大学の授業で経験した内容を尋ねる項目では、以下の如き結果が得られた。

実験、実習、フィールドワークなどを実施し、学生が体験的に学ぶ（問4）では、1年生62%、3年生79%、仕事に役立つ知識やスキルを学ぶ（問5）では、1年生69%、3年生70%、授業内容と社会や日常生活のかかわりについて教員が説明する（問6）では、1年生68%、3年生71%、授業の一環でボランティア活動をする（問7）では、1年生26%、3年生21%、学生自身が文献や資料を調べる（問8）では、1年生78%、3年生80%、定期的に小テストやレポートが課せられる（問9）では、1年生97%、3年生90%、教員が提出物に添削やコメントをつけて返却する（問10）では、1年生49%、3年生66%、学生自身が自分の考えや研究を発表する（問11）では、1年生77%、3年生74%、授業中に学生同士が議論をする（問12）では、1年生70%、3年生47%、授業で検討するテーマを学生が設定する（問13）では、1年生36%、3年生41%、出席することが重視される（問16）では、1年生84%、3年生86%、授業内容を理解できる科目の割合はどれくらいですか（問18）では、1年生74%、3年生53%であった。授業をつまらなく感じた（問28）では、

1年生は83%があったと答え、3年生は71%であった。学年が上がるにつれて、実験、実習、フィールドワークなどのアクティブ・ラーニングが増え、添削やコメントなどのフィードバックが増える印象である。一方、学生同士の議論は、減少している印象である。また、専門科目でも半数近くの学生が理解できない科目があるのは、専門科目ばかりになってもつまらなく感じる学生が多いこととともに、教育を提供する側に何らかの問題があるのかもしれない。垂直連携や水平連携などで、現在の学修がこれからの学修にどのように関連するのかを、教員が積極的に学生に示すことが重要ではないかと考えられる。

入学した時点と比べ、あなたの能力や知識はどのように変化したかを尋ねる項目では、以下の如き結果が得られた。

一般的な教養（問42）では、1年生57%、3年生70%、分析力や問題解決能力（問43）では、1年生44%、3年生69%、専門分野や学科の知識（問44）では、1年生78%、3年生83%、批判的に考える能力（問45）では、1年生39%、3年生69%、異文化の人々に関する知識（問46）では、1年生42%、3年生55%、リーダーシップの能力（問47）、1年生28%、3年生42%、人間関係を構築する能力（問48）では、1年生53%、3年生56%、他の人と協力して物事を遂行する能力（問49）では、1年生54%、3年生59%、異文化の人々と協力する能力（問50）では、1年生32%、3年生34%、地域社会が直面する問題を理解する能力（問51）では、1年生31%、3年生39%、国民が直面する問題を理解する能力（問52）では、1年生27%、3年生47%、文章表現の能力（問53）では、1年生40%、3年生45%、外国語の運用能力（問54）では、1年生35%、3年生41%、コミュニケーションの能力（問55）では、1年生39%、3年生54%、プレゼンテーションの能力（問56）では、1年生39%、3年生59%、数理的な能力（57）では、1年生36%、3年生49%、コンピュータの操作能力（問58）では、1年生63%、3年生77%、時間を効果的に利用する能力（問59）では、1年生63%、3年生61%、グローバルな問題の理解（問60）では、1年生31%、3年生41%、卒業後に就職するための準備の度合い（問61）では、1年生32%、3年生42%、と多くの項目で1年生より3年生で上昇していた。しかしながら、スキル・知識の学年進行による伸びと人間関係を構築する能力、他の人と協力して物事を遂行する能力、異文化の人々と協力する能力、文章表現の能力、時間を効果的に利用する能力、などは、必ずしも学年進行と並行するわけではないようである。

教職員に学習に関する相談をしたり、学内の学習支援室を利用したりした（問30）では、1年生27%、3年生21%、大学の教職員に将来のキャリアの相談をした（問32）では、全然ないが、1年生63%、3年生51%、教員に親近感を感じた（問33）では、1年生22%、3年生39%、オフィスアワーなど、授業時間外に教員と面談する（問37）では、全然ないが、1年生75%、3年生70%、など、教員を大学教育の担い手以外の人生や職業の先輩としては、認識していない様子である。

大学教育全体の満足度として、61点以上、71点以上と答えた1年生（問125）は、それぞれ、76%、52%、3年生（問128）は、それぞれ、76%、52%であり、学生は、教育に対して手放しで満足している訳ではないと考えられるが、授業をつまらなく感じた（問28）学生が多かったことや授業中に居眠りをした（問29）学生が、1年生55%、3年生58%と過半数を占めることに顕れているようである。前述の教育を提供する側に何らかの問題があるのかもしれないと認識し、教育・評価の方法の改善を進める必要があると思われる。

13-3 医学部医科栄養学科

医学部栄養学科は、平成26年度より医科栄養学科へと改組し、今回の調査では、すべての学年が医科栄養学科の学生となった。改組後のカリキュラムでは、医学を基盤とした栄養学の教育をより重点化した内容となっているが、管理栄養士の養成を第一に考えたものである点に変わりはない。医科栄養学科学生の学修に関する現状と課題は、以下の通りである。

学習状況については、「実験、実習、フィールドワークなどを実施し、学生が体験的に学ぶ」、「学生自身が文献や資料を調べる」、「定期的小テストやレポートが課される」、「TA や SA などの授業補助者から補助を受ける」といった

項目に対してひんばんにあったとの回答が多く、一方で、「授業の一環でボランティア活動をする」、「教員が提出物に添削やコメントをつけて返却する」、「授業で検討するテーマを学生が設定する」といったことの実施は少ないと考えているようである。授業内容を理解できる科目の割合は約9割の学生が60%以上との回答であった。

教員との関係性については、「教職員に学習に関する相談をしたり、学内の学習支援室を利用したりした」、「単位とは関係のない教員あるいは学生による自主的な勉強会に参加した」、「大学の教職員に将来のキャリアの相談をした」といった項目に対する頻度が少なく、「教員と話をする機会」、「学習支援や個別の学習指導」、「クラス担任制度」といった項目で満足度が低かった。昨今、教員数は減少の一途をたどっており、特にもともと絶対数の少ない医科栄養学科の場合、さまざまな面で余裕がなくなっているといったことも要因かもしれない。

入学後に変化した能力や知識に関しては、「一般的な教養」、「分析力や問題解決能力」、「専門分野や学科の知識」、「批判的に考える能力」、「人間関係を構築する能力」、「他の人と協力して物事を遂行する能力」、「プレゼンテーションの能力」、「コミュニケーションの能力」、「コンピュータの操作能力」といった項目で8割程度の学生が増えたと回答している一方で、「異文化の人々と協力する能力」、「数理的な能力」、「外国語の運用能力」といった項目については増えたと回答した学生が過半数に満たなかった。

大学生活に対する考えや満足度に関しては、おおむねうまくいっているとの回答が多かった。しかしながら、「現在の自分の学修時間や学修態度に満足している」、「初年次生を対象とした教育プログラム内容」、「授業の全体的な質」、「共通教育あるいは教養教育の授業」といった項目で満足度が低いのは今後の課題と思われる。

本学の施設や学生支援制度に関しては、「コンピュータの訓練や援助」、「インターネットの使いやすさ」、「コンピュータの施設や設備」、「奨学金など学費援助の制度」、「レクリエーション施設」、「キャリアカウンセリング」といった項目で満足度が大きく過半数を割っていた。

大学教育全体の満足度としては、約9割の学生が60点以上をつけていた。

学部卒業後の進路については、1年生の調査では約5割の学生が就職する、約3割の学生が大学院に進学すると回答しているが、3年生の調査では逆に約5割の学生が大学院に進学する、約3割の学生が就職すると回答している。医科栄養学科では、約半数が大学院に進学している状況と合致しているとともに、学部内での教育によりさらなる探求心が醸成されているものと思われる。また、大学在学中に経験したいこととしては、「専門分野をしっかりと身につける」、「専門分野だけでなく、幅広い知識を身につけ視野を広げる」、「就職意識の形成につながる教育を受ける」、「ディベートやプレゼンテーションの訓練を受ける」、「実践的で専門性のある資格を取得するためのプログラムを受ける」といった項目が多くあげられている。

現在、令和3年度以降のカリキュラムの見直しを検討している段階であり、これらの意見についても考慮したい。

2-4 医学部保健学科

保健学科学生の学修に関する現状と課題は次の通りである。

将来の仕事と授業内容の結びつきに対して「とても満足」「満足」と答えた各専攻学生の割合は、1年生で約6~7割、3年生で7割前後と全学平均の5割と比べて比較的高いことがわかる(設問92)。大学教育に対して、学生の多くは「社会に出たときに役立つ知識・技術・技能」や「資格取得に必要な知識」が得られることに期待し(設問62)、大学で獲得を期待する知識・能力は、第一に「専門的知識」を挙げ、次に「コミュニケーション能力」「一般知識・教養」「課題発見・解決力」の割合が高い(設問63)。専門的学問だけでなく、汎用的技能の修得に期待していることがわかる。実際、入学した時点と比べて大きく増えたと自己評価している能力や知識を3年生の回答でみる(設問42~61)と、特徴的に、看護学専攻では「分析力や問題解決能力」「人間関係を構築する能力」「他の人と協力して物事を遂行する能力」「文章表現の能力」「外国語の運用能力」「コミュニケーションの能力」など、放射線技術科学専攻では「コ

ンピュータの操作能力」が全学の平均より高い割合を示している。

授業内容の難易度が適切と答えた3年次学生は、看護学専攻80%、放射線技術科学専攻70%、検査技術科学専攻83%であり、看護学専攻と検査技術科学専攻は全学の69%より高い傾向にある（設問104）。前回調査と同様の結果であり、難易度に関して特に問題は無いと考えられる。放射線技術科学専攻においては、授業内容の水準をもっと高度にすべき、易しくすべき、と答えた学生は、それぞれ、11%、14%と同程度の割合があり、学生間で授業内容の難易度に対して受け止め方が異なっていることがわかる。個別の面談等を通して状況を把握する必要がある。放射線技術科学専攻で授業内容を易しくすべきと答えた14%の割合は、授業内容が理解できる科目の割合が60%未満と回答した学生数と同じ（設問18）であり、理解を補強する基盤科目の充実など、教育プログラム改善の検討を要す。授業内容を理解できる科目の割合が80%以上の学生は1年次の各専攻で約20%であるが、3年次では看護学専攻は2倍以上、放射線技術科学専攻は変わらず、検査技術科学専攻は半分である。自己評価に依らない詳細な分析が求められる。授業内容の理解促進につながった授業方法として「課題演習」を挙げた学生が最も多い（設問19）。次いで、各専攻に共通に「グループワーク」「振り返り」「質疑応答」、看護学専攻では特徴的に「ディスカッション」が高い割合になっている。アクティブ型授業を導入することで理解度を高める効果があることを明確に示している。

「将来の見通しを持ち、何をすべきかわかっている」と答えた3年次学生は7～8割で、他の学部・学科が65%以下であるのと比べて割合が高い特徴を持つ（設問130）。幅広い学修の促進を目的として、専門性を志向した学修方法を入学直後に提示し、将来像をイメージした「学修設計」の立案を指導している。学修計画に沿った学修ができるよう継続的に指導と支援を行っており、取り組みの浸透結果が現れている。

授業時間外において、授業課題や準備学習・復習を6時間以上実施したのは、1年生では7～19%、3年生では35～47%（設問35）、授業に関連しない勉強を1時間以上行ったのは、1年生では13～17%、3年生では18～44%（設問36）に留まっている。大学生としての必要な学習時間の確保が不十分である。一方で、現在の自分の学修時間や学修態度に満足していない学生の割合は、1年生で14～38%、3年生で6～35%（設問86）あり、学修意欲を高める適切な指導により自発的な学修が可能ともとれる。シラバスを毎週または気になったときに確認している学生は5～6割のみであり、ほとんどまたは全く見ていない学生が多い（設問120）。毎回の授業の予習・復習や自学自習の指示などをシラバスに明示して、教育改善に活用する工夫が求められる。

「SIH道場」で学んだ内容のうち、在学中の学修に役立っている項目は、看護学専攻では「文章の書き方」、放射線技術科学専攻では「専門分野の体験学習」、検査技術科学専攻では「専門分野の体験学習」「文章の書き方」「プレゼンテーションの仕方」が最も多く役立ったと回答している（設問102）。期待通りの項目が挙げられている。SIH道場で実施している取り組みについては在学中だけではなく卒業後調査を通じた効果の検証も必要であろう。

英語の勉強には、授業で使用している教科書や英語論文を活用している1年次学生の割合が全学と比較してやや高く（設問74）、大学で実施している英語教育で十分であると考えている学生が多い傾向にある（設問76）。語学マイレージプログラムの導入による効果もあり、英語学習を習慣付けたり（設問74）、以前と比べて留学を体験または予定している学生が増加しているのは好ましい。ただし、スーパー英語などのeラーニングサービスを利用している学生は多くない（設問121）ことから、英語学習方法の周知や学習相談を促す対応が必要であろう。

卒業研究配属の選定に関し、「関心の深い研究内容」や「将来のやりたい仕事・進路」を基準に配属研究室を決めた学生がほとんどで、「やむを得ず入った」「どこでもよかった」を理由に挙げた学生は少数である（設問121）。自分の興味や将来の希望に繋がる研究室配属が概ね実現できているとみられる。卒業研究は、「専門知識や技術」「進路を考えるための広い視野」または「学問・研究への興味や知的好奇心」が得られると答えた学生が多い（設問122）。「特に得るものがない」と答えた学生は、検査技術科学専攻では0であるが、看護学専攻と放射線技術科学専攻においては若干の人数がみられる。全ての研究室において、魅力的かつ達成感のある研究課題を学生に与えられるよう組織的な検討と対応が必要である。

大学教育全体の満足度として、61点以上、71点以上と答えた3年生は、それぞれ、89%、70%であり、学生は教育に概ね満足していると考えられる（設問 128）が、上述の個別の課題を解決させるなど、更なる学修活動の充実と教育課程・方法の改善を進める必要がある。

2-5 歯学部

はじめに：

今回の実態調査において、歯学部の結果を読み取る過程では、以下のような点に注意を要する。

まず歯学部は歯学科40名（2年後期から編入3名）、口腔保健学科15名であり、それぞれ1名のもつ割合が2.5%、6.6%前後になるため、他学部との傾向の比較は慎重に行う必要がある。そして、少人数であるがために、個々の構成員が互いに影響を与えやすいと考えられる。実際に今回のデータを読む中で、アンケート該当学年の全てにおいて、講義を担当したことのある筆者からみると、アンケート結果には、それぞれのグループのもつ個性が強烈に反映されているようであり、学年や学科といった普遍性をベースとした差はあまりないように感じられた。また歯学部の学生にとっては、歯科医師、歯科衛生士、社会福祉士の国家資格を得ることが一つの目的であるために、専門課程教育への学生の比重のかけ方が大きくなるのは致し方ないところである。さらにその教育課程を考えると、歯学科は2年前期までが教養課程であり、3年前期までが基礎医学教育、5年前期までが臨床医学教育と基礎実習、そしてこれらが修了した時点で共用試験を受験し、5年後期から臨床実習、卒前に国家試験という流れである。したがって本アンケートの時点ではまだ基礎医学教育が終わった段階で、将来的な展望がまだ見えにくい段階にいることになる。一方、口腔保健学科は1年次に教養教育を終えるが、すでに基礎医学教育も後期からは始まっており、2年次からは臨床教育や基礎実習も本格的に始まり、3年後期には臨床実習に出ている。この両学科の課程の差は、今回のアンケートでも大きく影響していると感じられた。

以上を踏まえて、アンケート結果より全学の学生と比較して、歯学部の特徴のあるものを中心にデータを抽出し、解釈を加え、一部には現状で可能な対応方法を述べていきたい。

学習状況：

「10. 教員が提出物に添削やコメントをつけて返却する」において、[1年次：歯学科69%・口腔保健学科67%、3年次：歯学科81%・口腔保健学科86%]と、ともに高い値を示したが、これは定員が少ないことが有利に表れている例である。もちろん、引き続きこれを維持していきたい。また関連した事象として「14. 授業の進め方に学生の意見が取り入れられる」においても、[1年次：歯学科69%・口腔保健学科47%、3年次：歯学科53% 口腔保健学科73%]と比較的高い値を示している。そして、「18. 授業内容を理解できる科目の割合はどれくらいですか」については、その閾値を60%とすれば、[1年次：歯学科100%・口腔保健学科94%、3年次：歯学科71%・口腔保健学科86%]と全学平均に比しても、平均あるいは高い値を示している。尚、3年次の割合が若干低いが、今後ともこの集団は授業アンケート等でモニターし対応が必要であるかと考える。「19. あなたにとってどの方法が授業内容の理解の促進につながりましたか。」において歯学科は[1年次：77%、3年次：73%]とともに最初に“課題演習”を上げており、口腔保健学科では[1年次：53%、3年次：60%]と“グループワーク”を上げているのは、両学科の教育プログラム上の特性であるかもしれない。

大学の授業や授業外での経験：

授業課題のための図書館利用、Web上の情報の利用については際立った特徴がない。「22. インターネットを使って授業課題を受けたり、提出したりした」に関して、[1年次：歯学科92%・口腔保健学科94%、3年次：歯学科66%・口

口腔保健学科 66%) と 3 年次が低い傾向がみられるが、これも前述のように小規模のため直接紙媒体などを通して、添削等のやり取りがあるためであると考えられる。また「25. 授業中、教員の考え方や意見に異議を唱えた」に対しては〔1 年次：歯学科 15%・口腔保健学科 7%、3 年次：歯学科 34%・口腔保健学科 33%〕と 3 年生で高い傾向にあり、教員と学生の距離の近さが感じられる。これは、「30. 教職員に学習に関する相談をしたり、学内の学習支援室を利用したりした」においても〔1 年次：歯学科 46%・口腔保健学科 7% (これは低い)、3 年次：歯学科 39%・口腔保健学科 40%〕と全学の中では高い値を示している。これは「31. 単位とは関係のない教員あるいは学生による自主的な勉強会に参加した」において〔3 年次：歯学科 39%・口腔保健学科 40%〕、「32. 大学の教職員に将来のキャリアの相談をした」でも〔3 年次：歯学科 31%・口腔保健学科 40%〕、「33. 教員に親近感を感じた」についても〔3 年次：歯学科 61%・口腔保健学科 67%〕と、歯学部教育プログラムは少人数であることを背景にうまく回っていることを示唆するものである。

そのような中で「28. 授業をつまらなく感じた」では〔1 年次：歯学科 77%・口腔保健学科 80%、3 年次：歯学科 68%・口腔保健学科 60%〕と専門課程においては学生のモチベーションが上がりやすいことを踏まえても、3 年次ではよい方向に向いていると思われる。

1 週間に費やす活動時間：

「35. 授業時間外に、授業課題や準備学習、復習をする」に関しては 6 時間以上とした場合で、〔1 年次：歯学科 8%・口腔保健学科 7%、3 年次：歯学科 21%・口腔保健学科 20%〕、3 時間以上にした場合で、〔1 年次：歯学科 46%・口腔保健学科 47%、3 年次：歯学科 37%・口腔保健学科 27%〕と、いずれにせよ低い値を示しており、1 日 30 分が確保できていないことが明らかになっている。特に専門課程に至って 1 年次と比べて低いことは、学生に直接提示し、改善を促すほかない。これは後述の「86. 現在の自分の学修時間や学修態度に満足している」において〔1 年次：歯学科 46%・口腔保健学科 46%、3 年次：歯学科 47%・口腔保健学科 53%〕に反映されている。

「38. 部活動や同好会に参加する」は、3 時間以上とすると〔1 年次：歯学科 47%・口腔保健学科 80%、3 年次：歯学科 53%・口腔保健学科 41%〕となっているが、1 年次歯学科は男子学生が少ないことが反映されており、3 年次口腔保健学科は、講義・実習が密になることの影響だと考えられる。アルバイト、読書や趣味の活動に関しては際立った特徴は認められない。

能力・知識の変化：

「42. 一般的な教養」について増えたと答えたのは〔1 年次：歯学科 69%・口腔保健学科 80%、3 年次：歯学科 63%・口腔保健学科 100%〕、「44. 専門分野や学科の知識」についても増えたと答えたのは〔1 年次：歯学科 69%・口腔保健学科 87%、3 年次：歯学科 61%・口腔保健学科 93%〕となっており、いずれも高い口腔保健学科に対して、歯学科は全学的に低い値を示しており、前項の学習時間と一致した結果となっている。「43. 分析力や問題解決能力」が増えたと答えた学生は、〔1 年次：歯学科 53%・口腔保健学科 74%、3 年次：歯学科 50%・口腔保健学科 80%〕と歯学科が低く口腔保健学科は高い値が出ており、口腔保健学科が臨床実習に向けて着々と準備ができていくことがわかる。歯学科においては 4 年次から 5 年次にかけて問題解決型の教育プログラムが組まれており、この時点では致し方ないが、その後ある程度教育の機会を用意されていると考える。また「45. 批判的に考える能力」が増えたという学生は〔1 年次：歯学科 38%・口腔保健学科 54%、3 年次：歯学科 56%・口腔保健学科 60%〕と両学科とも低い傾向にあり、対応が必要であると感じる。

「47. リーダーシップの能力」が増えたのは〔1 年次：歯学科 39%・口腔保健学科 40%、3 年次：歯学科 45%・口腔保健学科 66%〕で歯学科は平均的で 3 年次口腔保健学科では高い値を示しており、教育プログラムがチーム医療として働くためにも良い方向に働いていることが示唆されている。「48. 人間関係を構築する能力」でも〔1 年次：歯学科 61%・口腔保健学科 60%、3 年次：歯学科 58%・口腔保健学科 74%〕と同様に 3 年次口腔保健学科で高い値を示し、「49. 他の

人と協力して物事を遂行する能力」は〔1年次：歯学科 54%・口腔保健学科 73%、3年次：歯学科 55%・口腔保健学科 80%〕と口腔保健学科で高い傾向を示している。

これらの傾向は「50. 異文化の人々と協力する能力」〔1年次：歯学科 46%・口腔保健学科 67%、3年次：歯学科 47%・口腔保健学科 74%〕、「51. 地域社会が直面する問題を理解する能力」〔1年次：歯学科 46%・口腔保健学科 54%、3年次：歯学科 45%・口腔保健学科 60%〕、「52. 国民が直面する問題を理解する能力」〔1年次：歯学科 53%・口腔保健学科 34%、3年次：歯学科 45%・口腔保健学科 67%〕と口腔保健学科で同様に認められる。

「53. 文章表現の能力」、「54. 外国語の運用能力」、「55. コミュニケーションの能力」、「56. プレゼンテーションの能力」においても、増えたと答えた学生の割合は、歯学科は平均か低め、口腔保健学科は高めから高く、特に口腔保健学科3年生に顕著であった。但し「57. 数理的な能力」に関しては、〔1年次：歯学科 46%・口腔保健学科 27%、3年次：歯学科 34%・口腔保健学科 54%〕が増えたとするのみであり、このあたりの能力については、今後対策を講じる必要があると感じる。「61. 卒業後に就職するための準備の度合い」に関しては〔3年次：歯学科 42%・口腔保健学科 80%〕となっており、前述のように教育プログラム中での学生の置かれた、卒業や就職までの残り時間の差が如実に反映されている。

「62. 大学における教育に対して、何を期待しますか」「63. 大学の教育によって獲得が期待できる知識・能力」に関しては、いずれにおいても、〔社会に出た時に役に立つ知識・技術・技能〕と〔専門的知識〕であり、本学部において、学生たちは職能および資格獲得を目指していることが反映されている。これは「67. 大学の授業以外に、自分自身のための学修として、実行や計画していることはありますか。」に対して、全てグループで〔大学の授業以外で、実行や計画していることはない〕と答えていることと無関係ではあるまい。

英語の学習状況：

英語能力に関しては、聞く力、読む力、会話力、表現力、書く力のいずれにおいても、ある一定の力（設問でB1以上：留学などが困難でない程度かと考えるレベル）を有する学生の割合は低く、また入学後に顕著に変化する傾向はない。但し、3年次の専門課程になっても「74. どのように、英語の勉強を行っていますか」に対して、〔毎日または定期的にテレビ、ラジオの英語教育番組を利用して勉強している：歯学科 37%・口腔保健学科 33%〕を筆頭に学習している学生がいることは心強い。一方、75. の設問にある渡航経験では〔1年次：歯学科 62%・口腔保健学科 73%、3年次：歯学科 42%・口腔保健学科 47%〕に経験がなく、これは語学能力と密接に関連している。そのためか、「76. 徳島大学における英語教育についてどう思いますか」の答えの筆頭には、〔教養教育、専門教育で行われる英語教育で十分である：1年次：歯学科 64%・口腔保健学科 42%、3年次：歯学科 45%・口腔保健学科 40%〕が来ている。後述するが、これは後のアンケート項目である卒後の進路ともリンクしているものと考えられる。このような状況に対しては、卒後に大学院進学から海外への進出などの、歯学部教員の事例を示すなど、留学や海外赴任などキャリアパスの多様さを提示することも必要であると考えられる。

大学生活に対するあなたの考えや満足度：

「77. 大学の学生向けサービスを上手に利用する」「78. 大学教員の学問的な期待を理解する」「79. 効果的に学習する技能を修得する」「80. 大学が求める水準に応じて学習する」においては、3年次口腔保健学科の学生については、総じて高い割合でうまくいったと答えているのに対し、他では全学的に低め～平均的な数値を示している。但し「81. 時間を効果的に使う」に関しては、総じてうまくできているという学生は全学平均より少ない。前述のとおり、歯学部の少人数のおかげもあり、「82. 大学教員と顔見知りになる」は〔3年次：歯学科 64%・口腔保健学科 100%〕と高い値を示している。

大学に入学してから：

「86. 現在の自分の学修時間や学修態度に満足している」において〔1年次：歯学科46%・口腔保健学科46%、3年次：歯学科47%・口腔保健学科53%〕は、全学的には歯学科が低く、口腔保健学科ではやや高い。もちろんこれは前述の学修時間そのものとリンクしたものである。このためか、「84. 自分の専門分野について興味関心を持ち、意欲的に取り組んでいる」でも〔1年次：歯学科53%・口腔保健学科73%、3年次：歯学科55%・口腔保健学科80%〕となっている。但し、「87. あなたの学生生活は充実していますか」に対しては、〔1年次：歯学科85%・口腔保健学科73%、3年次：歯学科74%・口腔保健学科80%〕と比較的高い値を示している。

本学の教育内容・環境への満足度：

「88. 共通教育あるいは教養教育の授業」に対しては満足と答えたものが、〔1年次：歯学科46%・口腔保健学科40%、3年次：歯学科50%・口腔保健学科66%〕と直近の1年次において低い。また「89. 初年次生を対象とした教育プログラム内容」に関しての満足度においても、〔1年次：歯学科23%・口腔保健学科27%、3年次：歯学科45%・口腔保健学科67%〕と直近の1年次において低い。初年次教育は、2年前とはそれほど差がないと思われるが、在学生の傾向そのものが変わってきているのであれば、なんらかの対応が必要である。「90. 授業の全体的な質」〔1年次：歯学科23%・口腔保健学科40%、3年次：歯学科47%・口腔保健学科74%〕、「94. 学習支援や個別の学習指導」〔1年次：歯学科23%・口腔保健学科27%、3年次：歯学科45%・口腔保健学科67%〕と専門課程では比較的高くなっており、専門課程教育では一定の成果を得ているものと考えられる。

本年度で予算付けの終了した、SIH道場であるが、「102. 「SIH道場」で学んだ内容のうち、役に立っている項目」であるが、両学科各学年において〔専門分野の体験学習〕、「文章（レポート）の書き方」が目立っている。一方「103. 専門教育科目の授業を受けて何を学ぶことができると感じますか」にはやはり〔専門の知識を身に付けるのに役立った〕が筆頭にきている。

「104. 授業内容の難易度についてどう感じますか」では適切と答えたものが、〔1年次：歯学科85%・口腔保健学科73%、3年次：歯学科58%・口腔保健学科73%〕となっており、3年次では、2割程度の学生がより高度なものを求めている。

本学の設備や学生支援制度への満足度：

「105. 図書館の設備（蔵書やレファレンスサービス）」に対しては〔1年次：歯学科46%・口腔保健学科46%、3年次：歯学科37%・口腔保健学科73%〕と歯学部3年次に満足度の低さが認められた。これは蔵本地区で最も図書館を利用しやすい位置に校舎が位置し利用が増えていることも反映していると思われる。すなわち、利用者が多いため要望があるのではと予測する。

「106. 実験室の設備や器具」においては〔1年次：歯学科23%・口腔保健学科13%、3年次：歯学科34%・口腔保健学科60%〕となっており、3年次歯学科では11%に不満も認められたが、現在行われている改修で改善されると思われる。

「111. 健康・保健サービス（心身の健康に関わる問題についての診療や相談）」において歯学科1年次においては15%の学生が不満に思っている点は原因の究明が必要かもしれない。尚、「114. クラス担任制度」においては3年次歯学科の満足度は29%でありふまんを持つ学生も11%を数え、対応が必要だと感じる。「120. シラバス」については、おおよそ個々の必要に応じて活用されていることが伺えた。「3年次の基礎ゼミ（歯学科）、卒業研究（口腔保健学科）」については、各学生が〔関心の深い研究内容であった〕、〔将来のやりたい仕事や進路に必要と思った〕といった理由で進路を選択しており、〔専門的知識や技術〕、〔学問・研究への興味や知的好奇心〕を得ることができると考えている。

授業評価アンケート・卒後進路：

「授業評価アンケート」の設問は、授業改善に必要な内容である」に対して、思わないと答えたのは、〔1年次：歯学科8%・口腔保健学科26%、3年次：歯学科13%・口腔保健学科27%〕であり、否定的ではないことが伺われた。尚「大学教育全体の満足度に評点を付けた場合60点以上」とした割合は、〔1年次：歯学科86%・口腔保健学科93%、3年次：歯学科82%・口腔保健学科93%〕とまずまずであると感じる。

卒後の進路として、「就職する」が〔3年次：歯学科42%・口腔保健学科73%〕であり、「大学院に進学する」は〔3年次：歯学科13%・口腔保健学科13%〕、「留学する」は〔3年次：歯学科5%・口腔保健学科7%〕となっており、将来の研究者になるような進路を目指すものは少ない。そのため在学中に望む教育としては、「専門分野をしっかりと身につける」、「就職意識の形成につながる教育を受ける」といったところの割合が特に口腔保健学科で多い。またこの結果は前述の英語教育へのモチベーションの低さと関連するものと思われる。当学部でも、将来大学に残り、教育・研究を進めていく人間を育てることをもさらに検討する必要がある。尚、「135. 教員が設定した特定の課題に対して、チームで取り組むプロジェクト型の授業を受ける」に対して〔3年次：歯学科61%・口腔保健学科100%〕と口腔保健学科に強い意志が感じられるのは、チーム医療教育を進めてきた成果だと思われる。

緒言にも記したが、3年次での歯学科と口腔保健学科の意識の違いは、歯学科では6年中の3年目、口腔保健学科は4年中の3年目ということが大きく反映されている。

最後に：

今回の結果からは、各グループの個性を感じる面が強く、1年次と3年次の比較結果を、時間的変化としてとらえることは不適當であると感じた。今後、1年次が3年次になった際に検討する必要がある。

6 薬学部

薬学部生の学修に関する現状と課題は以下のとおりである。

1) 対象学生

薬学部では、平成30年度より学科別募集となり、今回の調査対象である1年次生は学科別入学の第2期生となる。3年次生は一括募集入学の最終年度の学生であり、3年前期終了後に薬学科（6年制）と創製薬科学科（4年制）に配属後の学生である。

2) 大学入学後の学修状況

1年次生において、「授業内容と社会や日常生活のかかわりについて、教員が説明する」機会が頻繁にあったと答えた学生は、薬学科（以下、薬という）28%、創製薬科学科（以下、創製という）29%であり、全学の18%より高い傾向にある〔問6〕。また、「定期的に小テストやレポートが課される」〔問9 薬64%、創製65%〕機会が頻繁にあったと回答している学生の割合も高い。学科別にみると、「授業中に学生同士が議論する」〔問12 薬42%、創製29%〕、「授業で検討するテーマを学生が設定する」〔問13 薬6%、創製13%〕機会が頻繁との回答率が高く、これは、学科別入学となって、各学科の特色ある授業として、『薬学体験実習』、『薬剤師体験演習』、『研究体験演習Ⅰ』、『学術論文作成法』を1年次に開講している結果を反映していると推察できる。一方、3年次において、入試形態及びカリキュラムが異なるため、1年次との比較はできないが、ほぼ全ての質問項目への回答から、上記機会が少なくなっている。研究室配属後は卒業研究を中心に、専門に特化した内容の授業が多くなったことに伴い、上記内容の機会が減少したといえる。初年次教育のみに上記機会が偏らず、卒業までのカリキュラムを体系的に学べるシステム構築が必要である。

履修登録について、両学科1年次において、「取りたい授業を履修登録できなかった」と回答した学生が非常に多かった〔問15 薬39%、創製42%〕。専門科目においては、時間割の重複や履修人数の制限はないことから、教養教育

科目を示している。令和元年11月に実施した、「学生になったつもりで科目選択しよう」(教養教育院FD企画)において、薬学部教員が実際に学部1, 2年次生として、履修登録をした際に、時間割枠の見直しが必要であることを痛感した。

授業内容の理解促進には、両学科1年次, 3年次ともに課題演習を挙げているが、次に多かったのが(創製)1年次のみグループワークが挙げられているのが特徴的である[問19]。それ以外は全て振り返りであった。これは、前述の創製独自のカリキュラムの反映の結果であると推察できる。

授業以外の学修については、学年・学科を問わず、1週間あたりの授業時間外の学修時間が5時間以下の割合が6割以上となっている。研究室配属後の3年次ではさらに学修時間が少ない比率が高くなっている[問35]。一方、「授業や実験に出る」では、1週間あたり16時間以上の回答が1年次においては、8割を越えているので、学修時間の少なさは、薬学部の過密なカリキュラムが影響している可能性がある。また、学生が自主的に行う学修もあるが、教員からの授業課題や反転授業のための準備学習の提示の状況についても分析が必要である。授業に関連しない学修時間になると、さらに学修時間が少なく、1週間あたりの授業時間外の学修時間が5時間以下の割合が9割以上となる。平成28年度に実施した調査報告では、研究室配属後の創製において、8割以上の学生が、自分の興味のある探究や卒業研究につながる実験・調査等のための時間を1日平均4時間以上実施していると回答していた。自分自身のための学修時間を確保できるようなカリキュラム構成が必要である。

高校で履修していない科目(薬学部に関係するのは物理)に係る入学後の勉強方法について、両学科ともに約2割の学生が、勉強の必要性を感じながらも、LMS(リメディアル教材)の存在を知らず何もしていなかった[問68]。引き続き、入学時のオリエンテーションにおけるLMS(リメディアル教材)の周知、復習テストの結果に応じて、自然科学入門の受講を勧める等の個別対応が必要である。

3) 入学後に身に付けた能力や知識

1年次生において、入学後に大きく増えたと回答している項目で、特徴的なものとして、(薬)は「文章表現の能力」[問53 28%]、(創製)は「専門分野や学科の知識」[問44 35%]が挙げられる。3年次生では、ほとんどの項目において、能力や知識が大きく増えたと回答する学生の割合が低くなっている。1年次生は、高校とは全く異なる大学のカリキュラムに触れて、自分自身の能力や知識が大きく変化したと強く感じたことが推察できる。3年次生は、客観的に見て、厳しい評価をしているように見受けられるが、その中でも、1年次から3年次になって、少しではあるが、向上している項目として、「数理的な能力」[問57 薬3%→10%]、「リーダーシップの能力」[問47 創製10%→13%]が挙げられる。今後、授業科目ごとに到達度を作成の上、学生に提示することにより、学生が当該授業科目を履修することで身に付けた能力や知識を可視化できるようにする必要がある。

4) 英語の学習状況

語学マイレージ導入後の1年次生と3年次生では、大学入試センター試験の英語の配点が異なることから、比較はできないが、総じて、レベルは、学年があがるにつれて低くなるのが推察できる。継続的な英語の学習は、本人のモチベーションの維持のほか、大学からの働きかけも必要である。少人数での英語教育やネイティブスピーカーの教員による授業は実施しているが、さらに効果的な方法での実施が望まれる。また、両学科1年次生において、「教養教育、専門教育で行われる英語教育で十分である」[問76]との回答する学生が最も多いが、中には「ネイティブスピーカーの教員による授業を増やしてほしい」や「専門英語の時間を増やしてほしい」と回答する学生が1割以上はいることから、そういったニーズに応えうるカリキュラム内容を検討する必要がある。

5) 大学生活に対する考えや満足度

1年次生では、効果的に学習する技能を修得すること[問79]、大学が求める水準に応じて学習すること[問80]が「とてもうまくいった」、又は「いくらかうまくいった」と回答した学生が一部を除いて7割を越えており(問79 薬75%, 創製68%, 問80 薬75%, 創製71%)、自分の学習状況について満足している学生が多かった。3年次生で

は、学科別にかかなりの差異が見られた。特に大学が求める水準に応じて学習すること〔問 80〕において、(薬) 81%の学生が「とてもうまくいった」、又は「いっくらうまくいった」と回答していることに対して、(創製) では、41%となっている。現在の自分の学修時間や学修態度に満足している〔問 86〕に「非常にそう思う」、又は「そう思う」と回答した1年次生は、両学科ともに5割程度で、全学の平均よりは少し高い比率だった(問 86 薬 50%, 創製 45%)。3年次では、上記と同様に、肯定的な回答をした学生が、(薬) 61%に対して、(創製) では、15%であった。(創製) 3年次生は、学生生活は充実しているか〔問 87〕に「充実している」と回答した学生が3%で、これは、全学の3年次生の中で最も低い率となっている。後述の(創製) 1年次と比較して、全く相反する結果となっている。学科配属後に実施した調査において、志望学科に入れなかった学生の満足度が低くなっていることが推察される。学習に対する満足度の低下は、その後の大学生活へのモチベーションの低下にもつながる可能性があり、指導教員を中心とした、該当学生への対応が必要である。

(創製) 1年次において、自分の専門分野について興味関心を持ち、意欲的に取り組んでいる〔問 84〕に「非常にそう思う」と回答した学生が35%で、学生生活は充実しているか〔問 87〕に「充実している」と回答した学生が55%で、これらの数値は、全学の1年次生の中で、最も高い結果であった。入学時から明確な目標を持ち、前述の1年次から研究につながる「研究体験演習Ⅰ」や「学術論文作成法」といったカリキュラムが深く関係していると推察できる。今後、このモチベーションを卒業時まで維持するための更なるカリキュラムの充実が必要である。

1、2年次に履修する教養教育の授業の満足度については、約半数の学生が満足しているとの回答であった(問 88 1年次; 薬 44%, 創製 54%, 3年次; 薬 55%, 創製 43%)。1年次生の教養教育科目の選択は、両学科ともに「単位の取りやすい授業を選択した」と回答した率が最も高く、「好きな科目や面白そうな科目を選択した」としながらも、「授業科目を選択する余地がなかった」とする回答が全学平均よりもかなり高い率での回答となった。また、教養教育科目の選択にあたり重視した情報源について、1年次では両学科ともに、「履修の手引きやシラバスに記載された情報」とほぼ同じ割合で、「先輩からの助言や情報」が重視されていた。教員・事務職員からの助言や情報がほとんど重視されていない状況は、新入生オリエンテーションでの説明内容・方法やクラス担任による履修指導等を見直す必要があるとともに、履修の手引きやシラバスの充実を図ることも必須である。

SIH道場で学んだ内容のうち、「他者と協働して学修や活動に取り組むこと」が役に立ったと感じている学生の比率が高かった(問 102)。これは、前回調査時と同様の結果となった。学科別には、(薬) では、「文章(レポート)の書き方」、(創製) では、「専門分野の体験学習」が役立っているとの回答が多かった。今後もSIH道場の成果・効果を検証しながら、取組を継続していく必要がある。

授業内容の難易度が適切と答えた学生は、1年次; 薬 78% 創製 100%, 3年次; 薬 88% 創製 86%であり、(薬) 1年次を除いては、全学平均の1年次 81%, 3年次 84%より高い傾向にある(問 104)。上記結果から、授業改善の必要はないと考えられるが、薬学科1年次生において、「授業内容の水準をもっと易しくすべき」と答えた学生が22%で、これは全学部の中で最も高い比率(全学平均 13%)となっている。関係委員会において、成績評価の分布状況の確認・検証、学生の成績評価結果の状況を学期ごとに分析している。その中で、成績下位の学生に対して、上級学年の学生による補習を実施する等の試みを行った。今後も関係委員会を中心に学生の学修改善につながる対応を検討・実施していく必要がある。

大学教育全体に対する満足度については、70点以上とする学生が60%以上であり、前回の調査時(両学科ともに50%未満)と比較して、かなりの改善が見られる〔問 125 1年次; 薬 73% 創製 68%, 3年次; 薬 71% 創製 60%〕。薬学部では、令和3年度入学者から、新6年制教育課程が開始される。上述の課題等を踏まえうえて、教養教育の単位数の見直し、学生実習の効率化などにより学生自身の学習時間を確保し、学修改善に繋げたい。また単年度終了ではなく複数年度にまたがる複合的・階層的な、薬学部独自の新しいカリキュラムを構築するなど、学生の教育に対する満足度を高め、学習意欲の向上を図りたい。

7 理工学部

理工学部は、工学部および総合科学部の改組によって1学科6コース（社会基盤デザイン、機械科学、応用化学システム、電気電子システム、情報光システム、応用理数）の体制で、2016年度にスタートした。アンケート実施時点で、理工学部の第1期生が4年生であり、アンケート対象となった3年生は第2期生、1年生は第4期生となる。理工学部全体のアンケート回答率は、3年生が63%、1年生が65%であった。旧工学部の学生もアンケートには含まれているが、それぞれ対応する理工学部のコースに算入されている。以下では、主な結果について述べる。なお[]内の数字はアンケートの質問項目の番号を示す。

<項目 I・通学時間>1年生について30分未満が7割程度、居住形態は実家から通学が30%程度、残りが一人暮らしまたは寮であった。一方3年生では一人暮らしの割合がやや多くなり、学年が上がり勉強がより大変になるために下宿生の割合が増えている可能性がある。

<項目 II・学習状況>内容を理解できる科目の割合[18]は、80%以上と70%以上と答えた学生の合計が、どのコースもおおよそ65%となっている。これは1年生、3年生ともほぼ同じで、2/3程度の学生が、7割かそれ以上の科目を理解できると感じていることが分かる。また「理解の助けになった方法」[19]については、7割の学生が演習を挙げており、理科系であるから当然のことだが、やはり演習を通じた理解の促進が重要である事を示している。これも1、3年生で大差は無い。授業時間外の学習について、1、3年生で大きな差が現れた項目として、「授業時間外に他の学生と一緒に勉強した」[24]が挙げられる。1年生では「頻繁」と「時々」を合わせて25%程度だが、3年生では70%程度になっている。また1、3年生とも、インターネットを通じた情報収集は80%程度の学生が行っており、図書館の利用率は1年生で60%程度、3年生で70%程度であった。講義時間外の1週間あたり学習時間[35]については、11時間以上の合計が1年生で7~8%、3年生でも応用化学が35%だがそれ以外のコースは10%程度未満となっており、講義時間外の学習時間が十分でない事を示している。一方、大学外でアルバイトに費やす1週間あたりの時間[39]については、11時間以上と答えた学生の割合が、1年生で10%程度、3年生で30~40%程度となっている。特に3年生は勉強よりアルバイトにより多くの時間を割いている実情が見える。自分のGPAを確認している学生の割合[64]については、理工学部1年生が85~90%となっており、全学の平均よりかなり高い。これは理工学部では2年生でのコース配属基準にGPAが含まれる事を反映していると考えられる。3年生でも80%以上の学生がGPAを確認している。以上の結果は、成績に対するGPAという尺度が理工学部の学生にもよく認識されていることを示している。

<項目 III・英語の学習状況> 授業の英語科目以外で積極的に英語を学習している学生の割合[74]は、コースによって差はあるが、全体の5-10%程度に留まっている。

<項目 VI・大学生活に対する満足度> 大学生活に対する充実度[87]について、「充実している」と「まあまあ充実している」を合わせた割合は、1年生、3年生ともほとんどのコースで75%程度となっており、大部分の学生は満足していると考えられる。他部局との大きな差も認められない。本学の設備や学生にどの程度満足しているかという質問に対して、[105]-[114]の各項目で、とても満足と満足を合わせた割合が概ね30-40%程度であり、1年生と3年生で大差は無い。3年生の項目「大学教育全体の満足度」[128]では、70%以上の合計が60-70%となっている。卒業後の進路の予定[129]については、コースによって大きな違いがある。就職希望は応用化学の16%が最も低く、社会基盤の52%が最も高い。これは各コースの専門分野の違いを反映している。

8 生物資源産業学部

平成28年度に新入生を迎えた生物資源産業学部は、工学部生物工学科、総合科学部社会創生学科環境共生コース、

医学部 栄養学科、歯学部、薬学部、の各教員を集結して新たに設置された新学部であり、一次産業、食料、生命科学に関する幅広い知識と、生物資源の製品化、産業化に応用できる知識と技術を有し、国際的視野に立って、生物資源を活用した新たな産業の創出に貢献できる人材を育成することを基本理念としている。令和元年度で完成年度を迎えた。

1年生の調査では、インターネットを利用して課題提出を期限内に提出している者が多く（問 22, 23）、図書館も適度に利用していると考え（問 20）。一方で、他の学生と課題を解決することは少なく（問 24）、授業をつまらなく感じる者は多い（問 28）。そして、分析力や問題解決能力、そして批判的に考える能力が大きく増えたと感じる者が少ない（問 43, 45）。これらからは、授業とその課題に追われ、深く考え他者と討論する時間が持てない様子が見てとれる。また、リーダーシップ、コミュニケーション、プレゼンテーションの能力が増えたと感じる学生が少ないことから（問 47, 55, 56）、グループワークで課題を解決して発表するような参加体験型の学習機会を増やすことが必要と思える。学生同士の一体感が低いことや（問 96）、実験室の設備や器具への満足度が低い（問 106）等は、学部専用棟が無いために、実験室が分散しており、学内での学生の居所が小さく分散していることの影響も強いと考える。将来の見通しについては定まっていない者も多いが（問 127）、これは2年進級時にコース選択をすることや、理系の科目だけでなく起業や経営に係る授業などが必修となっている当学部の特徴から、将来の選択肢が多岐に渡ることとも関係していると考え。

3年生の調査では、学生自身による文献などの調査や学生が自分の考えを発表する機会が増えており（問 8, 11）、授業中の学生間の議論も多い（問 12）。また、授業内容の理解も進んでいることが判る（問 18）。一方で、教員に対して、授業へ異議をとなえたり学習相談をすることは少なく（問 25, 30）、また親近感も低い（問 33）。この結果は、学年が上がるに連れて、学生の自立が進み、仲間内でのコミュニケーションがとれて、その中である程度の問題が解決されていることが影響していると考えが、いわゆる詰め込み過ぎの授業が多いのかもしれない。留学などの語学研修を通して、異文化の人々と協力をする能力は高くなっており（問 50）、グローバルな視点も養われているが、地域社会や国民が直面する問題の理解力は十分に伸びてはおらず（問 51）、これらについては4年生になって卒論研究や学会参加などを経験することを通して培われることに期待したい。e-learning への満足度は高い（問 125）。また、大学教育全体への満足度が高いものとなっているのは（問 128）、コース選択がうまく行われている結果だと思われる。卒業後の進路については卒業生や先輩との対話を望む声も多いので（問 141）、次年度には学部初の卒業生たちと、在学生が対話できる機会を積極的に設けるべきであろう。今後は、各方面に就職した卒業生から、教育内容の改善について意見を求めて行くことが必要となる。

令和2年度に予定しているカリキュラムの見直しについては、これらの情報を参考にして取り組んで行く。

9 教養教育

大学における教育の期待を尋ねた問 6 2（複数回答）において、専門教育に関わる選択肢の「社会に出たときに役に立つ知識・技術・技能」が1年生全体で70%、3年生全体が72%と高い値を示している。この値は3年前の調査でも74%で、この間に変化はないようである。一方、教養教育に関わる選択肢「人生を支える幅広い教養」を選んだものは1年生全体で47%、3年生全体で54%であり、専門教育に関わる選択肢と比べて20%程度低い。しかし3年前の調査では35%、6年前の調査では37%であったことから、10%~20%程度上昇した。平成28年度に教養教育の責任部局が設置された効果である可能性が示唆される。教養教育の満足度についての問 8 8において「とても満足」と「満足」を合わせると、1年全体で49%、3年全体で50%程度と問 6 2の教養教育に関わる選択肢を選んだ割合とほぼ同じことから、ほぼ半数の学生が教養教育の意義を認め、また満足しているようである。教養教育院としてはこの2つの項目がより高くなるように努力をすることが求められる。

教養教育においては、一般教養科目群、グローバル教育科目群、イノベーション教育科目群、地域教育科目群等においては授業を選択して受講する機会が多い。これは幅広い選択肢の中からキャリア形成に必要な選択肢を探し出してもらうことを意図している。教養教育科目の選択基準を尋ねた問100（複数回答）において、意図に合致する選択肢としての「好きな科目や面白そうな科目を選択した」が1年生全体で36%、3年生全体で58%、「広い教養を身につけるため」が1年生全体で19%、3年生全体で30%となった。一方で意図とは異なる選択肢の「単位を取りやすい授業」が1年生全体で25%、3年生全体で39%となっている。また、教養教育科目の選択にあたって重視した情報源を尋ねた問101（複数回答）において最多は、「履修の手引きやシラバスに記載された情報」が1年全体で39%、3年生全体で59%であった。「先輩からの助言や情報」が1年生全体で31%、3年生全体で48%。「友人からの助言や情報」は1年生全体で23%、3年生全体で35%であったことから、後者の合計は履修の手引き・シラバスの値を超える。FD等を通じてこの原因を明らかにし、適正な授業選択が行われるように、授業の配置・学生への授業の提示を行っていくことが教養教育に求められる。

教養教育では高等学校での学習から専門教育への橋渡しとして数学・物理学・化学・生物学からなる基礎基盤教育科目を設けている。高等学校では学習しなかった科目であっても、専門教育では必要になる場合がある。問68では高校で履修していない数学・物理・化学・生物について大学入学後にどのように勉強したかを尋ねた。「支障を感じないので何もしない」が1年生全体で41%、3年生全体で44%と最多であった。「高校の教科書、参考書を使い、勉強した」が1年生全体で26%、3年生全体で25%、「教養教育で開講されている高大接続科目や自然科学入門またはその他の科目を受講した」が1年生全体で18%、3年生全体で24%となっていて、多くの学生は各自の方法で対応している。その一方で「必要性を感じたが何もしていない」という回答が1年全体で9%、3年全体で8%あることから、こうした学生には適切な働きかけが必要かどうかを検討していく必要がある。

教養教育院では外国語として、英語は基盤英語・主題別英語・発信型英語を、初修外国語はドイツ語・フランス語・中国語を提供している。入学時と現時点を比較した問54の外国語（英語）の運用能力においては「大きく増えた」と「増えた」の合計が1年生全体で38%、3年生全体で36%であるのに対し、「変化なし」が1年生全体で45%、3年生全体で42%となっている。1年生においては初修外国語も含めると週あたり4コマ程度の外国語の授業があるにも関わらず、変化なしの学生の割合が4割程度存在することになる。問69の英語の聞く能力の入学時と現在の比較において、基本レベルのA1を選択したものは、1年全体では入学時の43%から、現在の31%へと12%減少し、より高度な選択肢が増加している。しかし3年全体では38%となっている。この自己評価の変化は、授業により聞く能力が向上したが、授業終了とともに低下したと自覚しているものと思われる。問70～73の英語を読む力、会話力、書く力では10%を超える変化がないことから、外国語の運用能力の向上を目指した授業設計が望まれる。英語の勉強方法についての問74では、「授業で使用している教科書・英語論文をよく勉強している」が1年全体で33%に対し、3年全体では19%に減少した。「TOEICなどの参考書、問題集を購入して定期的に勉強している」が1年全体で21%から3年全体の33%へ増加した。「図書館または大学の英語教材、施設を利用して定期的に英語を勉強している」が1年全体で20%、3年全体で18%であった。語学力の向上のために導入された語学マイレージの更なる充実が求められる。

10 FD (Faculty Development) の観点から

本年度の学生の学修に関する実態調査の結果を踏まえ、FDの観点から望まれることとして、以下の諸点が指摘できる。

第一に、学部学科間でみられるそれぞれの所属学生の違いをとらえた上で、授業内容を再考し、授業方法の改善につなげていくことである。問126の学部卒業後の進路に関する質問への回答結果によれば、1年次の学生の場合、就

職を考えているのは38%、何らかの進学を考えているのが39%であり、まだわからないと回答した学生は、17%であった。一方、3年次の学生では、就職46%、進学39%、まだわからない10%であった。同じ学生の経年変化ではないので一概には言えないが、学年が進むことで、まだわからないとする学生は減少し、就職を考えている学生が増えている。徳島大学の学生は、主に医院・病院・薬局等で専門職として働くことを目指す医歯薬系の学生と、主に民間企業・行政機関・教育機関等で働くことを目指すか、あるいは目標がまだ明確に定まっていない総合科学部・工学部・理工学部・生物資源産業学部の学生という二つのタイプに大別できるが、多様な将来像を持つ学生を対象に授業を行うには、同一のテーマを扱うにも、それぞれの方向性に適したアプローチが求められ、個々の学生の興味・関心、専門分野との関連や理想とする将来像、価値観等の傾向を踏まえた配慮が教員側に求められる。

このような学生間の多様性は、学生が大学の教育に期待するものを尋ねた問（問62～63）からもうかがえる。一般に蔵本キャンパスの学生は、社会に出た時に役に立つ知識・技術・技能が最も割合が高く、次いで資格取得に必要な知識あるいはその受験に必要な単位となっているのにたいして、常三島キャンパスの学生は、人生を支える幅広い教養が2番目に高くなっている。学生の様々な期待に的確に応える教育内容を提供するために、教員が個々に興味・関心の異なる学生一人ひとりに向き合えるようオフィスアワー等の利用を推奨することが求められる。問37のオフィスアワーなど、授業時間外に教員と面談する時間は、1年次の学生の場合、1週間に20分程度、3年次学生の場合は約45分と増加しているがとても少ない。事実、問65の結果にみられるように、学生がレポートや宿題で、調べものをするときの情報源として教員を選択した学生の割合は約10%と6つの選択肢の中で最も低く、最も高かったのはインターネットの85%であった。次いで、教科書・参考書・授業での配付資料（約80%）、図書館の書籍・文献（電子版含む）と続いており、1年次では約35%であったが、3年次には約45%に図書館の書籍・文献の利用が増加している。友人・先輩を情報源とする割合は、1年次、3年次とも約30%であった。教員が授業に関連した教科書や参考図書を選定の際、自己学習に適した内容・構成になっているものを学生に提示しておくことで、学生による授業外学修がより効果的に行われるようになる。また、学生への補助資料を作成し配付する際、同時にスタディガイドを配付するなどの工夫が求められる。

第二に、授業時間外の学生の学修時間についてであるが、大学の授業に関して全学の平均は、1年次の学生が、1週間あたり約3時間30分、3年次学生が約4時間30分と前回の調査に比べて少なくなっている。これは、前回（2016）の調査では、1日あたりの平均学修時間を尋ねたのにたいして、今回は1週間あたりの時間を尋ねているために学生にとって意味合いが異なったためか単純に5～7倍することで比較できるということではなさそうである。問67の大学の授業以外に、自分自身のための学修として、実行や計画していることがあるかとの問に対して、1年次学生では約38%、3年次学生では約35%が計画していないと回答している。これは、前回の自分自身のための学修を実行・計画していないものが45%存在していたことから、やや少なくなっているが、学習時間の増加にはつながらない結果となっている。本学では、2019年12月に学生の自学自修時間を伸ばすために「授業時間外学修の増加と自学自修を促すための授業ガイドライン」を、授業のチェック及び振り返りを促すためのシートを加えた12ページからなる冊子体として刊行した。今後、学内でその冊子を活用したワークショップ・FD研修会などの開催を通じて、冊子の内容の周知を図り、学生の自学自修時間の増加につなげていくことが求められる。

第三に、学生の学びの促進につなげる授業方法について確認しておく。2019年度は、本学において文部科学省による補助金事業である大学教育再生加速プログラム（AP）テーマ1「アクティブ・ラーニング」を初年次教育に導入した「SIH道場～アクティブ・ラーニング入門」の取組の最終年度にあたるため、これまでの6年間の総括的な評価を行い、2020年度以降へのスムーズな移行を行うための準備を行ってきた。SIH道場では、反転授業、グループワーク、学修ポートフォリオ、専門領域の早期体験等による振り返りを基盤としたアクティブ・ラーニングの体験を重ねてきた。これらの方法と通常の課題演習や質疑応答のどの方法が授業内容の理解の促進につながったか尋ねた問19の結果から、学部・学科によって若干の順序の入れ替わりがあるものの学年全体としてみると1年次生と3年次生の結

果が、課題演習（1年次生71%、3年次生71%）、質疑応答（1年次生24%、3年次生24%）、振り返り（1年次生36%、3年次生32%）、グループディスカッション（1年次生31%、3年次生31%）、ディスカッション（1年次生18%、3年次生18%）、反転授業（1年次生10%、3年次生10%）、ラーニング・ポートフォリオ（1年次生7%、3年次生4%）と非常によく似ていた。課題演習が歯学部口腔保健学科を除くすべての学部・学科において最も理解の促進につながった方法として捉えられていた。口腔保健学科では、グループワーク（1年次生、3年次生）、ディスカッション（3年次生）の選択された割合が課題演習よりも高い結果となった。一方で、反転授業とラーニング・ポートフォリオは、どの学部・学科においても20%以下の割合に留まっていた。これらの手法は、学生に与える負担感が大きいいためか、それらの手法が持つ学びへの効果が正しく認識されていないのではないかと考えられる。教員としては、学生に対して過度な徒労感・負担感を与えることなく能動的な学びを継続させることができる方法を活用しながら授業を行っていくことができそうである。

第四としては、学部や学科のカリキュラム、また履修システムのレベル（ミドルレベル）の教学インフラとしてカリキュラムマップの整備、科目ナンバリングシステムが導入され、その普及が図られている段階であるが、それらの最近のミドルレベルでの本学の取組について、今回の学生の学修に関する実態調査で学生側の認知度を尋ねた質問（問118、問119）についても、ここで考察しておくことが必要であろう。問118において、学内のウェブサイトで公開している全学の学科・コース・専攻のカリキュラムマップについて尋ねたところ、「知っており、見たことがある」1年次生44%、3年次生43%（前回：17%）、「知っているが見たことがない」1年次生23%、3年次生28%（前回：15%）、「知らない」1年次生28%、3年次生24%（前回：67%）であった。知らないと答えた割合が前回の調査と比較して大きく減少していることがわかる。また、問119においては、科目ナンバリングについて尋ねているが、「知っており、見たことがある」が1年次生56%、3年次生40%（前回：6%）、「知っているが見たことがない」1年次生27%、3年次生32%（前回：12%）、「知らない」1年次生12%、3年次生23%（前回：80%）であった。カリキュラムマップの認知度よりも高くなっていった。今後学生に履修指導を行う際、その活用法について学生に分かりやすく周知していくことが求められる。現在は、教務システムを使ってシラバス検索を行うときに、シラバス検索の様々な段階で科目名とその科目ナンバリングを表示することができるようになっていくことがその認知度アップに貢献していると考えられる。現在、公開されている最新のカリキュラムマップには、それぞれの科目ナンバリングも併記されており、各科目がそれぞれのカリキュラム内での位置づけを容易に理解できるようになっている。今後、それぞれの科目ナンバリングを説明会などで日常的に使った会話を行うことでその活用をより推進することができるであろう。

以上、FDの観点から今後に望まれることを述べたが、いずれにおいても、教員が学生と向き合い、彼らにとって最適な教育を提供するには何が求められるのかを真剣に考え実践することで多くの課題は克服できると思われる。以下の提言は、前回の調査時と同様になるが、そのためにどのような理念を持って学生と向き合えばいいのか、どのような態度で授業改善に取り組むことが望まれているのか改めて一人ひとりの教員に問われることになるので、大学が提供する組織的なFDだけでなく、個人としても絶えず授業改善につながる道を模索する態度とその労苦を厭わない真摯な省察と実践の蓄積が教員に更に求められていると言える。

11 eラーニング

本学において、ICTを活用した学修が学生にどの程度定着し、実質化しているのかについて、eラーニングの活用という点から、本学における実体をアンケートの結果から概観し、併せて今後の課題についても考える。

eラーニングと本学の学修の俯瞰について、eラーニング利用の実態、eラーニングの受け止め方、eラーニングの利用環境といった観点から見ていく。結果を見る前に、今回の調査は1年生と3年生を対象におこなわれている。1年生の結果からは、主に、共通教育の学修の実態が浮かび上がり、3年生の結果からは専門教育の学習の実態が浮か

び上がるのではないかと考えられる。また、1年生の結果には2019年度より本学で導入されたBYODによる学修への影響が、反映されている可能性がある。なお、一部の学科・コースにおいて回答率が低いものがあり、eラーニングと学修についての概観は、全体の傾向を中心にすることにする。特徴的な点がある場合は、個別の事例について触れる。

まず、本学のeラーニングの利用がどの程度普及し、学修へ影響を及ぼしているか見てみる。問い124は、本学が提供するeラーニングサービスの利用について質問している。1年生と3年生の間に傾向の違いはみられない。本学が提供する全学LMSサービスであるmanabaの利用は、1年生、3年生とも7割を超えて利用していると答えている。スーパー英語の利用は、1年生(30%程度)の方が3年生(20%程度)にくらべてやや多い。まず、eラーニングのインフラとしてのLMSの利用は学内全体に普及していることが分かる。eラーニングの活用が一般的に行われていることもわかる。なお、eポートフォリオ(mahara)の利用は、1年生と3年生とも10%程度みられることから、学内の一部にeポートフォリオの利用が定着していることがうかがえる。eラーニングの利用の様子を質問した問い21および問い22では、1年生と3年生とも同じような傾向を示しており、資料の配付、課題の提出や授業の調べ物にWebが活用されていることが分かる。調べ物として1年生、3年生どちらも9割近くの学生がWebを利用しており、資料の配付や課題の提出にも、1年生、3年生とも8割近くの学生が利用していると答えている。さらに、問い65による学修の際の情報源について、1年生と3年生で違いはみられず、8割以上の学生がインターネットを情報源としていることが分かる。インターネットは、教科書(参考書、授業中配布の資料)よりも、重要視されており、学修の主な情報源として活用されていることが分かる。間接的な情報として問い58のコンピュータの操作能力についても見ておく。この項目も1年生と3年生で差は見られず、7割程度の学生は操作能力が増えたと答えている。大学に入って、日常的に情報機器を操作するようになったことが、大半の学生が操作能力の向上を意識していることが分かる。以上のようなことから、本学のeラーニングの活用は、LMSの利用を中心に、普段の授業で利用されていることが分かる。日常の修学にeラーニングは位置づけられており、授業の調べもの、資料の配付、課題の提出に広く活用されていることが分かる。

次に、学生はeラーニングを用いた学習をどのように捉えているかを見てみる。問い122のeラーニングが学修に役立つと答えた学生は、1年生と3年生で傾向に変化はなく、半数近くの学生が役立つと肯定的に捉えていることが分かる。問い123の今後eラーニングを増やした方が良いかどうかの質問については、1年生と3年生に大きな差はなく、4割程度の学生が増やした方が良いと答えている。また、問い63の大学での教育において獲得を期待する能力として、情報機器を活用する力を挙げる学生がいる。問い63の結果は、1年生と3年生で傾向に差は見られず、十数%程度の学生が獲得すべき能力として挙げている。教養や専門知識、コミュニケーション能力や問題解決能力と並んで、情報活用能力の必要性を意識していることが分かる。本学の学生がeラーニングの利用をどのように感じているか、1年生と3年生に大きな違いは見られず、eラーニングのサービスに満足と期待していることが分かる。また、情報活用能力の必要性を理解し、修学に臨んでいることも分かる。

さらに、本学の提供するeラーニングを環境的な面から、学生がどのように受け止めているのかを見てみる。問い107の本学コンピュータ施設や設備の満足について、1年生と3年生で傾向の違いは見られず、半数の学生が満足と答えている。また、問い109のインターネットの使いやすさについても、1年生と3年生で違いは見られず、4割の学生が満足と答えている。そして、問い108のコンピュータ利用の支援について、1年生と3年生に違いは見られず、4割の学生が満足と答えている。本学の情報機器の環境整備や支援体制に対して、4割から半数の学生が肯定的に答えていることから、多くの学生はおおむね現状に満足していることが分かる。なお、問い107、108、109の範囲において、1年生と3年生の間に大きな差は見られず、BYODの影響は明らかにはならなかった。

今回の調査から、eラーニングの活用という点からではあるが、ICTを活用した学修が日常的に行われていることが分かる。本学においてeラーニングは特別なものではなく、当たり前の学修活動の一部であり、学生は現状に対し

一定の満足を示している。1年生と3年生に大きな差は見られず、共通教育や専門教育に差はなく、eラーニングの利用が進んでいることが分かる。部局において、特別な差が見られることはなく、全体の傾向を同じ傾向を示していることから、この点からも全体的に活用が進んでいることが分かる。

eラーニングの活用において、今回の結果からその普及を認めることができる。ただし、学修の質という点から、必ずしも実態が明らかになったとは言えない。多くの学生は日常的にeラーニングを利用しているものの、一部、有用性について明確な実感を持ってない（どちらでもない、あまりそう思わない、全くそう思わないと回答した）学生がいることも事実である。情報機器の活用全般について、使いこなしている学生と、なじめない学生が二分化している可能性はある。活用能力に不安を感じる学生へのサポートの充実が必要になってくるものと思われる。なお、eラーニングの活用は、情報通信技術の進化を背景に、今後もますます活発になる。情報通信技術は、IoTの普及や、5Gの導入と技術革新は続くことから、本学においても学修の情報環境の整備に今後も努めなければならない。

12 附属図書館

読書傾向を見ると1週間に1時間以上読書をする学生が、1年生29%に対し、3年生では34%に上昇している（問40）。読書の必要性を感じている学生も、1年生84%に対し、3年生では87%に増加している（問116）。学年が上がるにつれ、読書の重要性が徐々に浸透していると考えられる。

図書館の資料の利用（問20）についても、1年生59%が授業課題のために図書館の資料を利用したことが「ひんばんにあった」「ときどきあった」と回答しているのに対し、3年生では68%に上昇している。調べ物をするときの情報源（問65）として図書館の書籍・文献をあげている学生の割合も、1年生では40%未満だが、3年生では40%半ばまで上昇している。学年が進むにつれ、インターネットだけでなく信頼性の高い図書や文献データベース等を利用する傾向が伺える。

一方、附属図書館の設備（蔵書やレファレンスサービス）への満足度（問105）を見ると、1年生60%が「とても満足」もしくは「満足」と回答しているのに対し、3年生では56%である。共に高い水準であるものの、学年が進み、読書への意識の高まりや学修での図書館資料、文献データベース等の利用が拡大するにつれ、図書館に対する評価も厳しくなっていると考えられる。今後は高学年や、満足度の低い学部学科を意識した設備の充実が求められる。

学修支援サービスの利用（問115）については、グループ学修スペースの利用が最も多いが、どのサービスも利用していないという学生が40%前後いる。本設問には自学自習などを目的とした利用は含まれず、図書館の利用動向全体を示すものではないため注意が必要であるが、どの学部の学生にも必要な支援が行き届くよう、さらなるニーズの把握、支援体制の強化、広報の充実が課題となる。

第3章 まとめと提言

本調査は、平成19、22、25、28年度に実施された過去4回の「学生の学習に関する実態調査」に引き続いて実施された第5回目のものである。ただし、今年度の調査は、昨年度実施された大学IRコンソーシアム調査の活用とともに、これまでの実態調査の項目から厳選された項目を選択し、IRコンソーシアム調査とこれまでの実態調査の項目を加えた新たな調査項目（142項目）による徳島大学独自の設問による調査を1年生、及び、3年生に実施した。この調査項目の使用により、今後、他大学との比較や経年変化を追うことが可能となる。アンケート回収率は1年生66.8%及び3年生69.1%であり、過去4回（63.2%、63.3%、68.1%）とほぼ同様の値である。この章では、前回の「まとめと提言」で対象とされたトピックに焦点を絞って今回の結果に関するまとめと提言を記す。なお、項目番号を“（問xx）”と示しているが、その後に「1年生」「3年生」と記して、当該学年の設問番号を表している。特に記載のない場合は両学年で共通して同じ設問番号であったことを示す。

1. 将来、及び、将来と関係する教育について

学生の将来の希望について（問126:1年生、問129:3年生）は、「就職する」「大学院に進学する」と明確に回答している割合は、いずれの学部学科においても1年生の段階で、60%~90%近くとなっており、早い時期からある程度の進路の見定めが出来ているようである。また、進路について「まだわからない」と答えたものの割合が、1年生では10%~30%となる学部学科がほとんどであるが、3年生になると、どの学部学科も進路について「まだわからない」と答えたものの割合は20%以下となり、進路が定まりつつあることが示唆される。ただし、3年生の後半に係る時期に進路が未定の学生が一定数存在し、また将来の見通しを持っていない3年生も少なからず存在することから（問130:3年生）、前回の提言にもあった通り、キャリア教育の充実が引き続き重要であると考えられる。なお、大学教育の内容で進路と関連し重要と考えられているものとして、「専門分野の知識」、「幅広い知識」、「就職意識の形成」、「体験学習」、「ディベートやプレゼンテーション」、「資格取得のためのプログラム」、「文章作成能力」が挙げられており（問131-139）、今一度これらの内容を吟味し、将来を見据えた教育に置いて重要であることを認識し教授する必要がある。その他、将来・進路決定において他者との相談が重要であるとの回答結果があり（問140-142:3年生）、今後、就職・進路相談を実施する機会の更なる増加を検討する必要がある。

2. 大学教育について

「大学における教育に対して何を期待するか」との問（問62）に対しては、1年生では「社会に出た時に役に立つ知識・技術・技能」が最も多く、「資格取得に必要な知識あるいはその受験に必要な単位」も医歯薬では多くを占め、3年生では全体的に従前の調査と同様に、「社会に出た時に役に立つ知識・技術・技能」が最も多い。また、大学在学中に獲得が期待できる知識・能力（問63）は「専門的知識」が最多であるとの結果が前回と同様にみられた。前回も提言があったが、専門的知識だけではなく、社会においては基礎的・汎用的能力も必要と考えられ、その意識を持たせる必要がある。また、獲得が期待できる能力としてコミュニケーション能力が挙げられている学部学科が複数あり、双方向教育を施すアクティブラーニング等の導入も影響している可能性がある。

3. 学生の学びについて

「体験的な学び」（問4）や「学生同士の議論」（問12）が盛り込まれた授業が多いと回答する学生が多くを占め、アクティブラーニングの効果であると推察される。一方、授業内容の理解の促進につながる方法（問19）については、1、3年生ともに課題演習が多くを占めるが、グループワークや振り返りと答える学生も一定数おり、これらの手法を

授業に取り入れることで、より学生の授業内容の理解につながると期待される。また、授業をつまらないと感じた(問28)ことが、「ときどきあった」「ひんぱんにあった」と答えた割合が60-70%を超えており、魅力ある授業作りも必要であろう。

身についた能力や知識について(問42~60)、教養や専門分野の知識はもちろん、分析力や問題解決能力、批判的思考、人間関係構築能力、協働力、文章表現力、プレゼンテーション能力が高い割合で回答されている。一方、これらの能力について、以前と変化なしと回答する学生も3割から5割近く存在する項目もあり、教育により能力が伸びる学生とそうでない学生の存在が示唆される。伸びがみられない学生に関してもともと有している能力が高いのであればクラス分け等の必要性が考えられるし、教育方法が一部の学生には効果的でないことも考えられるので、教育方法の多様化を考慮する必要があるかもしれない。

予習・復習に関して(問35)、1週間において全くしないと答えた学生の割合は、おおよそ10%以下であるが、1日当たり1時間程度以下と答えた割合は多い学部学科で9割を超え、少ない学部学科においても60%を超える。自主学習の不足については、全国的にも単位の実質化の問題と相まって話題となることが多いが、本学においてもその傾向が浮き彫りとなった。この問題に関しては学生への自主学修の促しは必要であるが、教員側においても自修学修を促す取り組みが必要であると考えられる。この問題に鑑み、今年度に教育の質に関する専門委員会にて授業外学修時間を増加させるガイドラインを作成したことから、このガイドラインを用いたFDや教員への周知を図り、授業外学修時間が増加することが期待される。なお、レポートや宿題で、調べ物をするときの情報源(問65)は、「教科書・参考書・授業での配布資料」とともに、「インターネット」が高く、ほとんどの学部学科では最も回答割合が高くなっている。インターネットにおける情報については注意が必要であることを含む情報リテラシーの教育が、BYOD化の導入もあり重要であろう。

近年の当大学の教育的取り組みとして、シラバスの充実やカリキュラムマップ、科目ナンバリングの整備、担任制の導入が挙げられる。クラス担任制度に関して(問114)、満足でも不満足でもないと回答する学生がおおよそ5割前後いるものの、「満足」「とても満足」と答える学生が、3-4割いることから制度の充実を図ることでさらなる満足度を得られ、教育により良い効果もたらされることが期待される。シラバスの活用(問120)については、予習・復習に役立てて使用している学生はごく僅かであり、自主学習の促進のためにもシラバスに予習・復習のポイントを示すことを徹底する必要もあろう。カリキュラムマップ(問118)、科目ナンバリング(問119)については、5割程度が「知っており、見たことがある」ようであるが、知らないと答える学生も平均3割程度は存在し、学修計画や履修に有益な情報をもたらせてくれることを周知しそれらを活用するよう働きかける必要がある。

4. 教養教育の授業について

受講する科目の選択基準(問100)は、「好きな科目・面白そうな科目」という回答が多く、次いで「単位をとりやすい授業を選択した」という回答が多かった。一方、「広い教養を身に付けるため」、「専門の基礎を築く」、といった回答が比較的少なくなっているが、これには、教養科目の選択にあたって重要視した情報源に関して(問101)、「教員」が少ないことと関連している可能性がある。教員側からの教養教育の意義と目的について周知する機会を増加させることで、教養教育科目の選択の幅が広がる可能性がある。

5. 専門教育の授業、研究室配属(卒業研究、医学研究実習、看護研究、研究基礎ゼミ)について

問103にある専門教育科目の授業を受けで学べることにに対する回答として、「専門の知識を身につけるのに役立つ」を選択する学生が多く、また、1年生から3年生にかけて各学部学科でその割合は増加しており、数十%増加している場合もあった。このことから、3年生において具体的に専門の知識を扱う専門教育科目での学びが専門知識の獲得に寄与していることが伺える。また、授業内容の難易度について、適切と答えた割合が、1年生では60-90%近くあ

り、より専門を学ぶ3年生においても、一部50%を切る学部もあるが、適切との回答が1年生の回答とほぼ同様の割合であった。一方、「高度にすべき」や「易くすべき」との回答も10-20%程度あり、より意欲をもって学修を進めたい者や授業についていくのが困難な学生もいるようであり、例えば語学等、能力によるクラス分けが可能な場合、それを実施したうえでの授業展開の検討も今後必要であると考えられる。

研究室配属（問121:3年生）に関しては、前回の調査と同様に、自分の関心や将来の仕事や進路に鑑みての選択となっており、「やむを得ず入った」や「どこでもよかった」を選ぶ学生は少なかった。それと関連して、卒業研究やゼミにおいて得られるものとして（問122:3年生）、「専門的知識や技術」や「学問・研究への興味や知的好奇心」との回答が多く、自分の専門分野の深い学修がなされていることが示唆される。研究を進めるための環境（問123:3年生）に関して、十分であると答えた学生の割合は、学部学科で開きが大きく、20~80数%であるが概ね3割から5割弱であり、設備ないしスペースが十分でないとの回答は半数以上になる学部学科がほとんどである。予算やスペースに限りがあるのも事実であるが、十分な研究環境の整備は学生の学修においても必須であるため、改善されることが望まれる。

6. 英語学修・教育と海外留学について

英語に関して、今回の調査から、聞く力、読む力、会話力、表現力、書く力、を問うている（問69-73）。1年生には入学時と現在の到達レベルを尋ねており、入学時→1年生→3年生とサンプルが異なるが経時的変化を見ることができる。ただし、これらの能力の自己評価に関して、学年の進行とともに能力の明確な上昇は見られなかった。サンプルが異なるため判断基準が異なることも要因としてあると考えられるが、今後、毎年のデータが蓄積されるため、経年変化を追い、英語能力の伸びを確認する必要がある。現在、語学マイレージポイント制が導入されたところであり、また、学部によっては留学に力を入れているところもあり、これらの取り組みが英語能力の伸びに結びつくことを期待したい。大学での英語教育に関して（問76）、「教養教育、専門教育で行われる英語教育で十分である」との回答が最も多いが、より積極的な語学教育を望む声が多く上がって欲しいところである。

7. eラーニングについて

学修において、eラーニングサービスの利用率は年々上昇していると考えられるが、eラーニングサービスが「学習に役立つか」（問125）に対して、「非常にそう思う」「そう思う」との回答は50%弱であった。ただし、オンライン学修科目も含めて、eラーニングを用いた学びは今後益々増加すると考えられ、関連する項目への回答傾向も変化をすると予想される。今後の経緯を見て、よりよい学修に結びつくeラーニングシステムの構築がなされることを期待する。

8. 授業評価アンケートについて

「授業評価アンケートの設問は授業改善に必要な内容であると思う」との問いに（問124:1年生、問127:3年生）対して、「非常にそう思う」「そう思う」と答えた割合は、全体で4割程度である。この解釈は難しいが、アンケートの結果が授業改善につながっていると実感された場合には、先の設問に「非常にそう思う」「そう思う」と回答することから、授業評価アンケート結果が授業改善に結びつく取り組みがもう少し必要であろう。そうした取り組みにより、アンケートの実施が学生の声を反映した教育改革につながる有意義なものであるとの認識が広がることを期待したい。

9. 大学教育全体の満足度

大学教育全体の満足度（問125:1年生、問128:3年生）は、1,3年生ともに、81点以上が2割程度、71点から80

点が4割程度であった。この数値についても解釈が難しいところであるが、今後の満足度の経緯を観察し、特に減少した場合には、その原因を探り大学教育の改善に役立てることが必要であろうと考えられる。

最後に、この調査における、調査項目の選定、調査の実施及び報告書の発行に際して、ご支援、ご協力いただきました高石副学長、大学教育委員会の方々、企画、執筆、編集にご尽力いただいた「教育の質に関する専門委員会」の先生方に深く感謝いたします。また、アンケートの集計、編集にご尽力いただいた教育支援課の方々、ならびにアンケートにご協力いただいた学生、関係する学務関係の職員の方々に厚く御礼を申し上げます。今回の調査から、これまでのラーニングライフとは異なり、経年変化を見ることや他大学との比較が可能となることから、本学あるいは大学教育の質の改革にこの調査の結果が寄与することが期待されますので、調査結果をご活用頂ければ幸いです。

教育の質に関する専門委員会 委員長
佐藤 裕